

八ツ場ダム発掘調査集成
(2)

八ツ場ダム発掘調査集成(2)

八ツ場ダム建設工事に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書 第73集



八ツ場ダム建設工事に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書 第73集

二〇二一

国 土 交 通 省
公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

2021

国 土 交 通 省
公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

八ツ場ダム発掘調査集成(2)

八ツ場ダム建設工事に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書第73集

2021

国 土 交 通 省
公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

序

八ッ場ダムは、治水・利水・発電を行う多目的ダムとして計画され、吾妻郡長野原町を中心工事が進められてきました。八ッ場ダムの建設に伴う埋蔵文化財発掘調査は、当事業団が平成6年度から実施し、四半世紀となります。

この報告書は、尾坂遺跡、町遺跡、東原Ⅱ遺跡、横壁中村遺跡、川原湯勝沼遺跡、下湯原遺跡、西宮遺跡、西久保Ⅳ遺跡、上原Ⅱ遺跡、合わせて9遺跡の調査成果をまとめました。

尾坂遺跡は、平成11年度より発掘調査が行われ、すでに3冊の発掘調査報告書が作成されています。今回の発掘調査により、これまでの調査範囲の北東端に位置する場所から石積遺構が現れ、遺跡の範囲が更に北東側に広がることが確認されました。町遺跡においては、すでに平成23年度から平成25年度にかけての発掘調査の成果が刊行されております。今回は宿場が確認された前回調査区の南端に接する地点で行われた発掘調査の報告であり、前回の調査で確認された畠の延長部分が確認されました。東原Ⅱ遺跡は、平成20年度の発掘調査成果が報告されております。今回の調査は前回調査範囲の東に隣接する地域が対象となります。建物こそ検出されなかったものの、前回と同程度の遺構が確認されております。横壁中村遺跡は、平成8年度より発掘調査が行われ、すでに14冊の発掘調査報告書が刊行されております。今回は最終年となりました平成30年度の調査成果について報告することとなりました。これまでの調査範囲の南東に位置する場所から掘立柱建物が出土し、遺跡の範囲が台地の南東端まで広がることが確認されました。川原湯勝沼遺跡は、平成9年度より発掘調査が行われ、これまでに3冊の報告書が刊行されております。今回の調査ではこれまでの調査範囲に接した南東部から、近隣集落を結ぶと考えられる道が確認されました。下湯原遺跡は、平成27年度から平成30年度にかけての発掘調査の成果が既に刊行されております。今回はこれまで未調査であった現有道路部分での発掘調査が行われ、一連の畠地としての姿が確認されました。西宮遺跡は、平成20年度から平成30年度にかけての発掘調査の成果が公刊されています。最後の調査となった今回の発掘では、天明泥流下の遺構の更に下から近世の水田が確認されています。西久保Ⅳ遺跡は、平成21年から平成23年にかけての調査成果が刊行されています。今回の発掘調査では土坑から弥生時代の土器片が出土しております。

これらの調査成果は、長野原町を中心とした地域、ひいては群馬県における古代から近世に至る歴史を考えるうえでも重要な資料となるものと考えております。

発掘調査から報告書の刊行に至るまで、国土交通省八ッ場ダム工事事務所、群馬県教育委員会および長野原町教育委員会をはじめとする関係機関や地元関係者の皆様には、多大なるご尽力を賜りました。本報告書を上梓するにあたり、衷心より感謝申し上げます。

令和3年3月

公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
理 事 長 向 田 忠 正

例　　言

1. 本書は、八ッ場ダム建設工事に伴い発掘調査された、尾坂遺跡、町遺跡、東原Ⅱ遺跡、横壁中村遺跡、川原湯勝沼遺跡、下湯原遺跡、西宮遺跡、西久保Ⅳ遺跡、上原Ⅱ遺跡の発掘調査報告書である。

尾坂遺跡は平成24年度以来すでに3冊の発掘調査報告書が公刊されているため、章題の遺跡名に(4)を付した。町遺跡は平成26年度に発掘調査の成果が刊行されているため、章題の遺跡名に(2)を付した。東原Ⅱ遺跡は平成22年度に発掘調査の成果が刊行されているため、章題の遺跡名に(2)を付した。平成8年度に発掘調査が着手された横壁中村遺跡は、これまでに14冊の発掘調査報告書が刊行されているため、章題の遺跡名に(15)を付した。平成9年度に発掘調査が着手された川原湯勝沼遺跡は、すでに3冊の発掘調査報告書が刊行されているため、章題の遺跡名に(4)を付した。平成27年度より発掘調査が行われた下湯原遺跡はすでに2冊の発掘調査報告書が刊行されているため、章題の遺跡名に(3)を付した。平成26年度より発掘調査が行われた西宮遺跡はすでに2冊の発掘調査報告書が刊行されているため、章題の遺跡名に(3)を付した。平成21年度より発掘調査が行われた西久保Ⅳ遺跡は平成24年度に発掘調査報告書が刊行されているため、章題の遺跡名に(2)を付した。平成16年度に発掘調査が行われた上原Ⅱ遺跡は平成27年度に発掘調査報告書が刊行されているため、章題の遺跡名に(2)を付した。

2. 各遺跡の所在

尾坂遺跡	吾妻郡長野原町大字長野原字尾坂地内
町遺跡	吾妻郡長野原町大字長野原字町217-5他
東原Ⅱ遺跡	吾妻郡長野原町大字林字東原1454-1他
横壁中村遺跡	吾妻郡長野原町大字横壁字上野606-1他
川原湯勝沼遺跡	吾妻郡長野原町大字川原湯字勝沼28-2他
下湯原遺跡	吾妻郡長野原町大字川原湯字下湯原362-1他
西宮遺跡	吾妻郡長野原町大字川原煙字西宮11-1他
西久保Ⅳ遺跡	吾妻郡長野原町大字横壁字西久保28-7他
上原Ⅱ遺跡	吾妻郡長野原町大字林地内

3. 事業主体

国土交通省関東地方整備局

4. 調査主体

公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

5. 各遺跡の発掘調査の期間と体制

尾坂遺跡

調査期間　平成26年9月21日～10月2日、平成30年11月1日～12月31日

平成26年度

調査担当	齊藤利明
遺跡掘削工事請負	株式会社歴史の杜
地上測量委託	株式会社測研

平成30年度

調査担当	閔俊明、梅村唯斗
遺跡掘削工事請負	シン技術・毛野・山下吾妻地区埋蔵文化財遺跡掘削工事経営共同企業体
地上測量委託	株式会社測研

町遺跡

調査期間	平成30年9月1日～10月31日
調査担当	閔 俊明、梅村唯斗
遺跡掘削工事請負	シン技術・毛野・山下吾妻地区埋蔵文化財遺跡掘削工事経常共同企業体
地上測量委託	株式会社 測研

東原Ⅱ遺跡

調査期間	平成30年7月1日～8月31日
調査担当	閔俊明、梅村唯斗
遺跡掘削工事請負	シン技術・毛野・山下吾妻地区埋蔵文化財遺跡掘削工事経常共同企業体
地上測量委託	株式会社 測研

横壁中村遺跡

調査期間	平成30年11月1日～11月30日
調査担当	閔 俊明、梅村唯斗
遺跡掘削工事請負	シン技術・毛野・山下吾妻地区埋蔵文化財遺跡掘削工事経常共同企業体
地上測量委託	株式会社 測研

川原湯勝沼遺跡

調査期間	令和元年8月1日～9月30日
調査担当	閔 明愛、間庭 稔
遺跡掘削工事請負	株式会社測研、技研コンサル株式会社、瑞穂建設株式会社・吾妻地区埋蔵文化財遺跡掘削工事経常共同企業体
地上測量委託	株式会社 測研

下湯原遺跡

調査期間	平成31年4月1日～令和元年7月31日
調査担当	閔 明愛、間庭 稔
遺跡掘削工事請負	株式会社測研、技研コンサル株式会社、瑞穂建設株式会社・吾妻地区埋蔵文化財遺跡掘削工事経常共同企業体
地上測量委託	株式会社 測研

西宮遺跡

調査期間	平成31年4月1日～令和元年7月12日
調査担当	閔 俊明、梅村唯斗
遺跡掘削工事請負	歴史の杜・吉澤建設・南波建設吾妻地区埋蔵文化財遺跡掘削工事経常共同企業体
地上測量委託	株式会社 測研

西久保IV遺跡

調査期間	令和元年7月16日～9月30日
調査担当	梅村唯斗
遺跡掘削工事請負	7月1日～7月31日
	歴史の杜・吉澤建設・南波建設吾妻地区埋蔵文化財遺跡掘削工事経常共同企業体
	8月1日～9月30日
	株式会社測研、技研コンサル株式会社、瑞穂建設株式会社・吾妻地区埋蔵文化財遺跡掘削工事経常共同企業体

地上測量委託	株式会社 測研
上原Ⅱ遺跡	
調査期間	平成16年7月26日～7月28日
調査担当	柏木一男、瀧川伸男
遺跡掘削工事請負	株式会社 歴史の杜
地上測量委託	株式会社 測研

6. 各遺跡の調査面積

尾坂遺跡	470m ² (平成26年度)、398m ² (平成30年度)
町遺跡	607m ²
東原Ⅱ遺跡	1,581m ²
横壁中村遺跡	1,786m ²
川原湯勝沼遺跡	2,644m ²
下湯原遺跡	9,483m ²
西宮遺跡	8,280m ²
西久保Ⅳ遺跡	1,887m ²
上原Ⅱ遺跡	311m ²

7. 整理作業履行期間と各遺跡の整理期間

整理作業履行期間	令和元年9月1日～令和3年3月31日
整理期間 尾坂遺跡	令和元年10月1日～令和元年12月31日
町遺跡	令和元年10月1日～令和元年12月31日
東原Ⅱ遺跡	令和2年1月1日～令和2年1月31日
横壁中村遺跡	令和2年2月1日～令和2年3月31日
下湯原遺跡	令和2年4月1日～令和2年6月30日
西宮遺跡	令和2年7月1日～令和2年8月31日
川原湯勝沼遺跡	令和2年8月1日～令和2年9月30日
西久保Ⅳ遺跡	令和2年9月1日～令和2年9月30日
上原Ⅱ遺跡	令和2年9月1日～令和2年9月30日

8. 本書の作成成分担

編集	橋本 淳(川原湯勝沼遺跡)、佐藤元彦
デジタル編集	齊田智彦
遺物観察	石製品：津島秀章(R1)、松村和男 木製品・金属製品：板垣泰之
	縄文時代遺物：山口逸弘(R1)、橋本 淳 弥生時代遺物：大木紳一郎
	中世遺物：矢口裕之 古代遺物：神谷佳明
遺物写真撮影	石製品：松村和男 木製品・金属製品：板垣泰之 弥生時代遺物：大木紳一郎
	中世遺物：矢口裕之 縄文時代遺物：山口逸弘(R1) その他：佐藤元彦

9. 発掘調査および報告書作成には、国土交通省関東地方整備局八ッ場ダム工事事務所、群馬県教育委員会、長野原町教育委員会をはじめ、関係機関ならびに関係各位に多くのご協力、ご指導を賜った。

10. 出土遺物及び写真・図面等記録類の保管場所は、群馬県埋蔵文化財調査センターである。

凡　例

1. 本報告書(以下本書)に用いた遺構名称は、混乱を避けるため発掘調査時の名称を踏襲した。ただし、編集に際し変更の生じたものを末尾に掲示した。

なお、当事業団では平成30年度より、文化庁文化財部記念物課編(2013)『発掘調査の手引き』に準拠して、從来の「豎穴住居」を「豎穴建物」と表記している。本書においては、これ以前に刊行された報告書記載の遺構名は、混乱を避けるため報告時の表記を踏襲している。

2. 本書に用いた座標・方位はすべて旧来の日本測地系、平面直角座標系第IX系による。遺跡周辺における座標北と真北との偏差は+0度41分13.55秒(北緯36度32分16.38秒、東経138度40分45.62秒)である。なお、世界測地系による各遺跡の所在を以下に付す。

尾坂遺跡	北緯36度32分46秒、東経138度39分16秒。
町遺跡	北緯36度32分58秒、東経138度38分39秒。
東原Ⅱ遺跡	北緯36度36分40秒、東経138度40分49秒。
横壁中村遺跡	北緯36度32分19秒、東経138度10分46秒。
川原湯勝沼遺跡	北緯36度32分40秒、東経138度41分17秒。
下湯原遺跡	北緯36度33分10秒、東経138度42分25秒。
西宮遺跡	北緯36度32分58秒、東経138度41分56秒。
西久保IV遺跡	北緯36度32分38秒、東経138度39分26秒。
上原Ⅱ遺跡	北緯36度32分53秒、東経138度40分32秒。

また、遺構図中の十字記号は「ハッ場ダム関連埋蔵文化財発掘調査方法」に基づく小グリッドの基準点を示す。区名および小グリッド名を付記した。ただしグリッド座標に相応しない地点を特定するために、補助記号として日本測地系平面直角座標系第IX系の座標値の整数部末尾3桁を用いている。

3. 遺構の主軸方位は座標北を基準とした。豎穴建物にあってはカマドのある壁と直交する軸を主軸とし、その傾きを度で示した。また豎穴建物以外の遺構で形状の確認できる遺構においては長軸を主軸とし、その傾きを度で示し、形状の不明なものについては計測不能のため不明とした。

4. 遺構の標高は、原則として造構断面図中に「L=○. ○m」と表記した。計測値は主軸方位を縦とし、縦：横：面積の順に記した。主軸方位の不明な遺構については長：短：面積の順での記載を原則とした。

5. 全容が確認できない遺構については、検出部分の計測値を()付きで表記した。

6. 遺構面積の算出に際しては、発掘調査時点での計測の他、縮尺1：40の平面図を用いて計測を行った。

7. 本書の遺構図版縮尺は以下を基本とする。

豎穴建物・豎穴状遺構、1：60。カマド、1：30。土坑・ピット・焼土遺構・炉、1：40。

掘立柱建物・礎石建物・柵・烟、1：80。

8. 本書の遺物図版縮尺は以下を原則とする。

土器、1：3。石製品、1：2。金属製品、1：2。

9. 本書で使用したトーンは以下のとおりである。



10. 本書における遺構略称は以下のとおりである。

竪穴建物：竪（近世）掘立柱建物・礎石建物：建物 土坑：土 ピット：P 燃土遺構：焼

11. 本書における土層注記及び遺物観察表記載に用いた色彩表現は、農林水産省水産技術事務局監修・財團法人日本色彩研究所色票監修1996「新版標準土色帳」に基づく。

12. 本書で使用した地形図・地勢図は以下のとおりである。

国土地理院地形図 1 : 50,000 「草津」平成21年4月1日発行

国土地理院地形図 1 : 25,000 「長野原」平成11年11月1日発行

長野原町「長野原都市計画図12、15、16、20、21、22、23 1 : 2500」平成19年1月、平成13年9月作成

13. 同一遺跡の発掘調査報告書として、下記の報告書が刊行されている。

尾坂遺跡

群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書第546集『社会資本整備総合交付金事業（活力創出基盤整備）長野原草津口駅舎整備に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書、尾坂遺跡』公益財團法人群馬県埋蔵文化財調査事業団（2012年9月19日発行）

群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書第618集『八ツ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書第48集、尾坂遺跡（2）』公益財團法人群馬県埋蔵文化財調査事業団（2016年3月11日発行）

群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書第638集『八ツ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書第56集、尾坂遺跡（3）』公益財團法人群馬県埋蔵文化財調査事業団（2018年3月15日発行）

町遺跡

群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書第593集『八ツ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書第45集、町遺跡』公益財團法人群馬県埋蔵文化財調査事業団（2015年2月6日発行）

東原Ⅱ遺跡

群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告第502集『八ツ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書第35集、東原Ⅰ遺跡・東原Ⅱ遺跡・東原Ⅲ遺跡』財團法人群馬県埋蔵文化財調査事業団（2010年10月26日発行）

横壁中村遺跡

群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告第319集『八ツ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書第3集、久々戸遺跡・中棚Ⅱ遺跡・下原遺跡・横壁中村遺跡』財團法人群馬県埋蔵文化財調査事業団（2003年8月5日発行）

群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告第355集『八ツ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書第5集、横壁中村遺跡（2）』財團法人群馬県埋蔵文化財調査事業団（2005年3月31日発行）

群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告第368集『八ツ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書第7集、横壁中村遺跡（3）』財團法人群馬県埋蔵文化財調査事業団（2006年2月28日発行）

群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告第381集『八ツ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書第10集、横壁中村遺跡（4）』財團法人群馬県埋蔵文化財調査事業団（2006年8月31日発行）

群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告第406集『八ツ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書第14集、横壁中村遺跡（5）』財團法人群馬県埋蔵文化財調査事業団（2007年3月23日発行）

群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告第436集『八ツ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書第20集、横壁中村遺跡（6）』財團法人群馬県埋蔵文化財調査事業団（2008年3月25日発行）

群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告第439集『八ツ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書第22集、横壁中村遺跡（7）』財團法人群馬県埋蔵文化財調査事業団（2008年3月25日発行）

群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告第462集『八ツ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書第29集、横壁中村遺跡（8）』財團法人群馬県埋蔵文化財調査事業団（2009年3月25日発行）

群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告第466集『八ツ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書第30集、横壁中

村遺跡(9)』財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団(2009年3月25日発行)

群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告第488集『八ッ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書第33集、横壁中村遺跡(10)』財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団(2010年3月25日発行)

群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告第492集『八ッ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書第34集、横壁中村遺跡(11)』財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団(2010年3月19日発行)

群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告第526集『八ッ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書第37集、横壁中村遺跡(12)』公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団(2012年2月29日発行)

群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告第559集『八ッ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書第41集、横壁中村遺跡(13)』公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団(2013年3月22日発行)

群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告第587集『八ッ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書第44集、横壁中村遺跡(14)』公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団(2014年3月18日発行)

川原湯勝沼遺跡

群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告第303集『八ッ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書第2集、八ッ場ダム発掘調査集成(1)』財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団(2002年12月25日発行)

群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告第356集『八ッ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書第6集、川原湯勝沼遺跡(2)』財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団(2005年10月1日発行)

群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告第658集『八ッ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書第66集、川原湯勝沼遺跡(3)』公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団(2019年8月30日発行)

下湯原遺跡

公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書第641集『八ッ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書第59集、下湯原遺跡(1)』公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団(2018年3月23日発行)

公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書第666集『八ッ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書第69集、下湯原遺跡(2)』公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団(2020年3月10日発行)

西宮遺跡

公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書第634集『八ッ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書第54集、西宮遺跡(1)・西宮岩陰』公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団(2018年3月15日発行)

公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書第670集『八ッ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書第71集、西宮遺跡(2)』公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団(2020年10月10日発行)

西久保IV遺跡

公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書第549集『八ッ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書第39集、榆木I遺跡・上原IV遺跡(2)・西久保IV遺跡』公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団(2012年12月7日発行)

上原II遺跡

長野原町埋蔵文化財調査報告第30集『林地区遺跡群』長野原町教育委員会(2015年4月13日発行)

調査時名称	掲載名稱	調査時名称	掲載名稱
横壁中村遺跡 8区1号構造	→ 8区1号構造	下陶原遺跡	H-2K35号ビット → H2-2号構P3
下陶原遺跡 A-4区1号溝	→ A1-1号溝	H-2区36号ビット	H2-2号構P2
A-4区15号ビット	→ A-2号掘立柱建物P6	H-2K53号ビット	H2-2号構P1
A-4区17号ビット	→ A-4号掘立柱建物P4	H-2K22号ビット	H3-1号掘立柱建物P5
A-4区18号ビット	→ A-4号掘立柱建物P4	H-2K24号ビット	H2-6号掘立柱建物P8
A-4区26号ビット	→ A-2号掘立柱建物P2	H-2K25号ビット	H2-6号掘立柱建物P7
A-4区27号ビット	→ A-4号掘立柱建物P2	H-2K27号ビット	H3-1号掘立柱建物P7
A-4区37号ビット	→ A-2号掘立柱建物P3	H-2K29号ビット	H3-1号掘立柱建物P8
A-4区38号ビット	→ A-4号掘立柱建物P3	H-2K30号ビット	H3-1号掘立柱建物P6
A-4区43号ビット	→ A-3号掘立柱建物P5	H-2K32号ビット	H2-8号掘立柱建物P5
A-4区44号ビット	→ A-4号掘立柱建物P5	H-2K33号ビット	H2-6号掘立柱建物P1
A-4区45号ビット	→ A-5号掘立柱建物P5	H-2K44号ビット	H2-8号掘立柱建物P4
A-4区49号ビット	→ A-5号掘立柱建物P4	H-2K45号ビット	H2-6号掘立柱建物P2
A-4区52号ビット	→ A-5号掘立柱建物P3	H-2K48号ビット	H2-8号掘立柱建物P2
A-4区56号ビット	→ A-4号掘立柱建物P4	H-2区51号ビット	H2-6号掘立柱建物P3
A-4区57号ビット	→ A-3号掘立柱建物P4	H-2K52号ビット	H2-6号掘立柱建物P4
A-4区59号ビット	→ A-5号掘立柱建物P6	H-2K56号ビット	H2-7号掘立柱建物P1
A-4区63号ビット	→ A-5号掘立柱建物P2	H-2K60号ビット	H2-7号掘立柱建物P7
A-4区64号ビット	→ A-3号掘立柱建物P2	H-2K64号ビット	H2-7号掘立柱建物P3
A-4区66号ビット	→ A-5号掘立柱建物P7	H-2K65号ビット	H2-7号掘立柱建物P6
A-4区68号ビット	→ A-5号掘立柱建物P1	H-2K67号ビット	H2-7号掘立柱建物P4
A-4区69号ビット	→ A-4号掘立柱建物P3	H-2K91号ビット	H2-7号掘立柱建物P5
A-4区70号ビット	→ A-3号掘立柱建物P3	H-2K105号ビット	H2-6号掘立柱建物P5
A-4区73号ビット	→ A-3号掘立柱建物P1	H-2区111号ビット	H2-5号掘立柱建物P4
A-4区73号ビット	→ A-4号掘立柱建物P1	H-2K112号ビット	H2-5号掘立柱建物P3
A-4区75号ビット	→ A-4号掘立柱建物P2	H-2K113号ビット	H2-5号掘立柱建物P2
A-4区80号ビット	→ A-1号掘立柱建物P5	H-2K114号ビット	H2-5号掘立柱建物P1
A-4区81号ビット	→ A-2号掘立柱建物P5	H-2K115号ビット	H2-5号掘立柱建物P8
A-4区86号ビット	→ A-4号掘立柱建物P6	H-2K116号ビット	H2-5号掘立柱建物P7
A-4区89号ビット	→ A-4号掘立柱建物P1	H-2K117号ビット	H2-5号掘立柱建物P6
A-4区95号ビット	→ A-2号掘立柱建物P1	H-2K118号ビット	H2-5号掘立柱建物P5
C-4区1号道	→ 7号道	H-2K119号ビット	H2-4号掘立柱建物P1
C-4区3号平坦面	→ CK37号平坦面	H-2区120号ビット	H2-4号掘立柱建物P8
H-1区1号溝	→ 4号道下位の溝	H-2K121号ビット	H2-4号掘立柱建物P7
H-1区1号道	→ 4号道	H-2K122号ビット	H2-4号掘立柱建物P6
H-1区1号道2面	→ 4号道下位の道	H-2K123号ビット	H2-4号掘立柱建物P5
H-1区1号ビット	→ H1-1号掘立柱建物P1	H-2区124号ビット	H2-4号掘立柱建物P4
H-1区2号ビット	→ H1-1号掘立柱建物P2	H-2K125号ビット	H2-4号掘立柱建物P3
H-1区3号ビット	→ H1-1号掘立柱建物P3	H-2K126号ビット	H2-4号掘立柱建物P2
H-1区4号ビット	→ H1-1号掘立柱建物P4	H-2K127号ビット	H2-4号掘立柱建物P9
H-1区5号ビット	→ H1-1号掘立柱建物P5	H-2K128号ビット	H2-3号掘立柱建物P5
H-1区6号ビット	→ H1-1号掘立柱建物P6	H-2K129号ビット	H2-3号掘立柱建物P4
H-1区7号ビット	→ H1-1号掘立柱建物P7	H-2K130号ビット	H2-3号掘立柱建物P3
H-1区8号ビット	→ H1-1号掘立柱建物P8	H-2K131号ビット	H2-3号掘立柱建物P1
H-1区9号ビット	→ H1-1号掘立柱建物P9	H-2K132号ビット	H2-2号掘立柱建物P1
H-1区21号ビット	→ H1-2号掘立柱建物P4	H-2区133号ビット	H2-2号掘立柱建物P6
H-1区23号ビット	→ H1-2号掘立柱建物P5	H-2K134号ビット	H2-2号掘立柱建物P5
H-1区27号ビット	→ H1-3号掘立柱建物P6	H-2K135号ビット	H2-2号掘立柱建物P4
H-1区28号ビット	→ H1-3号掘立柱建物P5	H-2K136号ビット	H2-2号掘立柱建物P3
H-1区29号ビット	→ H1-3号掘立柱建物P4	H-2K137号ビット	H2-2号掘立柱建物P2
H-1区30号ビット	→ H1-2号掘立柱建物P3	H-2区138号ビット	H2-1号掘立柱建物P4
H-1区31号ビット	→ H1-2号掘立柱建物P2	H-2K139号ビット	H2-1号掘立柱建物P3
H-1区32号ビット	→ H1-2号掘立柱建物P1	H-2K140号ビット	H2-1号掘立柱建物P2
H-1区33号ビット	→ H1-2号掘立柱建物P6	H-2K141号ビット	H2-1号掘立柱建物P1
H-1区39号ビット	→ H1-5号掘立柱建物P1	H-2K142号ビット	H2-1号掘立柱建物P8
H-1区46号ビット	→ H1-5号掘立柱建物P2	H-2K143号ビット	H2-1号掘立柱建物P7
H-1区49号ビット	→ H1-5号掘立柱建物P7	H-2K144号ビット	H2-1号掘立柱建物P6
H-1区55号ビット	→ H1-5号掘立柱建物P5	H-2K145号ビット	H2-1号掘立柱建物P5
H-1区59号ビット	→ H1-4号掘立柱建物P5	H-2区147号ビット	H2-6号掘立柱建物P6
H-1区60号ビット	→ H1-4号掘立柱建物P4	H-2K150号ビット	H2-2号構P9
H-1区61号ビット	→ H1-4号掘立柱建物P3	H-2K154号ビット	H2-7号掘立柱建物P2
H-1区62号ビット	→ H1-4号掘立柱建物P2	H-2K157号ビット	H3-1号掘立柱建物P3
H-1区63号ビット	→ H1-4号掘立柱建物P1	H-3K12号ビット	H3-3号掘立柱建物P1
H-1区64号ビット	→ H1-4号掘立柱建物P11	H-3区14号ビット	H3-1号掘立柱建物P2
H-1区65号ビット	→ H1-4号掘立柱建物P10	H-3K15号ビット	H3-1号掘立柱建物P9
H-1区66号ビット	→ H1-4号掘立柱建物P9	H-3K18号ビット	H3-2号掘立柱建物P1
H-1区67号ビット	→ H1-4号掘立柱建物P8	H-3K19号ビット	H3-2号掘立柱建物P2
H-1区68号ビット	→ H1-4号掘立柱建物P7	H-3区20号ビット	H3-2号掘立柱建物P3
H-1区69号ビット	→ H1-4号掘立柱建物P6	H-3区21号ビット	H3-2号掘立柱建物P4

(下高原道路)	H-1区109号ビット H-1区103号ビット H-1区104号ビット H-1区107号ビット H-1区10号ビット H-1区111号ビット H-1区112号ビット H-1区115号ビット H-1区116号ビット H-1区117号ビット H-1区123号ビット H-1区124号ビット H-1区125号ビット H-2区1号溝 H-2区1号柵列 H-2区2号柵列 H-2区1号ビット H-2区2号ビット H-2区3号ビット H-2区4号ビット H-2区5号ビット H-2区6号ビット H-2区12号ビット H-2区14号ビット H-2区15号ビット H-2区16号ビット H-2区17号ビット H-2区18号ビット H-2区19号ビット H-2区20号ビット H-2区21号ビット H-2区34号ビット	→ A2-1号掘立柱建物P5 → H1-2号掘立柱建物P7 → H1-2号掘立柱建物P8 → H1-2号掘立柱建物P9 → H1-1号掘立柱建物P10 → A2-1号掘立柱建物P3 → A2-1号掘立柱建物P4 → H1-3号掘立柱建物P1 → H1-3号掘立柱建物P2 → H1-3号掘立柱建物P3 → H1-5号掘立柱建物P3 → H1-5号掘立柱建物P4 → H1-5号掘立柱建物P6 → 2号溝 → H2-1号柵 → H2-2号柵 → H2-2号柵P8 → H2-2号柵P7 → H2-2号柵P6 → H2-2号柵P6 → H2-8号掘立柱建物P6 → H3-1号掘立柱建物P4 → H2-1号柵P7 → H2-8号掘立柱建物P1 → H2-2号柵P5 → H2-1号柵P1 → H2-1号柵P2 → H2-1号柵P3 → H2-8号掘立柱建物P3 → H2-1号柵P4 → H2-1号柵P5 → H2-1号柵P6 → H2-2号柵P4	(下高原道路)	H-3区22号ビット H-3区23号ビット H-3区27号ビット H-3区28号ビット H-3区29号ビット H-3区30号ビット H-3区31号ビット H-3区33号ビット	→ H3-2号掘立柱建物P5 → H3-1号掘立柱建物P12 → H3-1号掘立柱建物P13 → H3-1号掘立柱建物P1 → H3-3号掘立柱建物P2 → H3-3号掘立柱建物P3 → H3-3号掘立柱建物P4 → H3-1号掘立柱建物P11
西宮道路	19号石垣 21号道 120号溝 12区東10号烟 361号ビット 362号ビット 363号ビット 364号ビット 365号ビット 366号ビット	→ 10号石垣 → 7号道 → 20号道側溝 → 12-10-2号烟, 12-10-3号烟 → 11-2号掘立柱建物P23 → 11-2号掘立柱建物P22 → 11-2号掘立柱建物P21 → 11-2号掘立柱建物P20 → 11-2号掘立柱建物P19 → 11-2号掘立柱建物P18			
西久保IV 道路	9号ビット 10号ビット 11号ビット 15号ビット 16号ビット 21号ビット 22号ビット 23号ビット 24号ビット 25号ビット 26号ビット 27号ビット 28号ビット 29号ビット	→ 1号掘立柱建物P8 → 1号掘立柱建物P1 → 1号掘立柱建物P5 → 1号掘立柱建物P12 → 1号掘立柱建物P10 → 1号掘立柱建物P3 → 1号掘立柱建物P4 → 1号掘立柱建物P9 → 1号掘立柱建物P2 → 1号掘立柱建物P14 → 1号掘立柱建物P13 → 1号掘立柱建物P7 → 1号掘立柱建物P6			

目 次

序	第2項 基本土層	20
例言	第3節 検出された遺構と遺物	20
凡例	第1項 調査の概要	20
目次	第2項 遺構と遺物	20
挿図目次	1 12号烟	20
表目次		
写真目次		
	第4章 東原II遺跡（2）	
	第1節 調査に至る経緯と経過	23
	第1項 調査に至る経緯	23
	第2項 調査の経過	23
第1章 ハッ場ダム発掘調査の経緯・方法と周辺の環境	第2節 遺跡の立地と基本土層	24
第1節 ハッ場ダム発掘調査の経緯	第1項 遺跡の立地	24
第2節 調査の方法	第2項 基本土層	24
第1項 調査区の設定	第3節 検出された遺構と遺物	24
第2項 発掘調査の方法	第1項 調査の概要	24
第3節 周辺の環境	第2項 遺構と遺物	25
第1項 地理的環境	1 土坑	25
第2項 歴史的環境	2 ピット	35
	3 焼土遺構	35
第2章 尾坂遺跡（4）	第5章 横壁中村遺跡（15）	
第1節 調査に至る経緯と経過	第1節 調査に至る経緯と経過	41
第1項 調査に至る経緯	第1項 調査に至る経緯	41
第2項 調査の経過	第2項 調査の経過	41
第2節 遺跡の立地と基本土層	第2節 遺跡の立地と基本土層	41
第1項 遺跡の立地	第1項 遺跡の立地	41
第2項 基本土層	第2項 基本土層	42
第3節 検出された遺構と遺物	第3節 検出された遺構と遺物	43
第1項 調査の概要	第1項 調査の概要	43
第2項 遺構と遺物	第2項 遺構と遺物	43
1 6号烟	1 掘立柱建物	43
2 1号石積遺構	2 土坑	46
	3 樵およびピット	47
第3章 町遺跡（2）	4 その他	48
第1節 調査に至る経緯と経過	5 出土遺物	49
第1項 調査に至る経緯		
第2項 調査の経過		
第2節 遺跡の立地と基本土層		
第1項 遺跡の立地		

第6章 川原湯勝沼遺跡（4）	
第1節 調査に至る経緯と経過	51
第1項 調査に至る経緯	51
第2項 調査の経過	51
第2節 遺跡の立地と基本土層	52
第1項 遺跡の立地	52
第2項 基本土層	52
第3節 E区の遺構と遺物	52
第1項 調査の概要	52
第2項 遺構と遺物	52
1 道	52
2 煙	56
3 ヤックラ	65
4 土坑	71
5 ピット	76
6 出土遺物	76
第4節 A.C.D区2面の遺構と遺物	79
第1項 調査の概要	79
第2項 遺構と遺物	79
1 土坑	79
2 ピット	96
3 その他	96
4 出土遺物	100
第7章 下湯原遺跡（3）	
第1節 調査に至る経緯と経過	105
第1項 調査に至る経緯	105
第2項 調査の経過	105
第2節 遺跡の立地と基本土層	105
第1項 遺跡の立地	106
第2項 基本土層	106
第3節 検出された遺構と遺物	106
第1項 調査の概要	106
第2項 1面の遺構	106
1 1面の概要	106
2 磐石建物	113
3 道	113
4 溝	116
5 煙	118
第3項 2面の遺構	139
第8章 西宮遺跡（3）	
第1節 調査に至る経緯と経過	220
第1項 調査に至る経緯	220
第2項 調査の経過	220
第2節 遺跡の立地と基本土層	221
第1項 遺跡の立地	221
第2項 基本土層	221
第3節 検出された遺構と遺物	221
第1項 調査の概要	221
第2項 1面の遺構	221
1 1面の概要	221
2 4号屋敷	226
3 道	233
4 煙	240
5 114号溝	251
第3項 2面の遺構	252
1 2面の概要	252
2 22号建物	252
3 道	252
4 煙	253
5 その他	257
第4項 3面の遺構	258
1 3面の概要	258
2 11-2号掘立柱建物	258
3 田畠	258
4 溝	261
5 土坑	263
6 ピット	268
第5項 出土遺物	272

第9章 西久保Ⅳ遺跡（2）			
第1節 調査に至る経緯と経過	279	2 摺立柱建物	285
第1項 調査に至る経緯	279	3 溝	286
第2項 調査の経過	279	4 土坑	289
第2節 遺跡の立地と基本土層	280	5 ピット	293
第1項 遺跡の立地	280	第4項 出土遺物	295
第2項 基本土層	280		
第3節 検出された遺構と遺物	281		
第1項 調査の概要	281	第10章 上原Ⅱ遺跡（2）	
第2項 1面の遺構	281	1 調査に至る経緯と経過	299
1 1面の概要	281	2 遺跡の概要	299
2 道	284	3 調査の経過と成果	299
3 煙	284		
第3項 2面の遺構	285	写真図版	
1 2面の概要	285	抄録	
		奥付	
		付図	

挿図目次

第1- 1図 遺跡位置図	1	第5- 5図 8区1号摺立柱建物	45
第1- 2図 調査グリッドの設定	3	第5- 6図 土坑	46
第1- 3図 長野原町段丘面の分布	4	第5- 7図 8区1号櫛	47
第1- 4図 周辺の道路	7	第5- 8図 ピット1	48
尾坂道路		第5- 9図 ピット2、出土遺物	49
第2- 1図 遺跡位置図	12	第5- 10図 8区1号櫛集中	50
第2- 2図 調査区位置図	13	川原湯勝沼遺跡	
第2- 3図 平成26年度調査区	15	第6- 1図 遺跡位置図	51
第2- 4図 平成26年度調査区全体図	16	第6- 2図 調査区位置図	53
第2- 5図 基本土層	17	第6- 3図 E区全体図	54
第2- 6図 1号石積造構	18	第6- 4図 基本土層	55
町道路		第6- 5図 道1	57
第3- 1図 遺跡位置図	19	第6- 6図 道2	58
第3- 2図 基本土層	20	第6- 7図 道3	59
第3- 3図 調査区位置図	21	第6- 8図 煙1	62
第3- 4図 全体図	22	第6- 9図 煙2	63
東原Ⅱ道路		第6- 10図 煙3	64
第4- 1図 遺跡位置図	23	第6- 11図 煙4	66
第4- 2図 調査区位置図	24	第6- 12図 煙5	67
第4- 3図 基本土層	25	第6- 13図 平坦面	68
第4- 4図 調査区全体図	26	第6- 14図 ヤックラ1	69
第4- 5図 2面トレンチ位置図	27	第6- 15図 ヤックラ2	70
第4- 6図 トレンチ1	28	第6- 16図 ヤックラ3、土坑1	71
第4- 7図 トレンチ2	29	第6- 17図 土坑2	72
第4- 8図 トレンチ3	30	第6- 18図 土坑3	73
第4- 9図 土坑1	32	第6- 19図 土坑4	77
第4- 10図 土坑2	33	第6- 20図 土坑5	75
第4- 11図 土坑3	34	第6- 21図 土坑6	76
第4- 12図 土坑4	36	第6- 22図 ピット1	77
第4- 13図 ピット1	37	第6- 23図 出土遺物1	78
第4- 14図 ピット2	38	第6- 24図 A.C.D.K 2面全体図	80
第4- 15図 ピット3	39	第6- 25図 A区3面全体図	81
第4- 16図 ピット4、1号焼土遺構	40	第6- 26図 土坑7	82
横堀中村道路		第6- 27図 土坑8	84
第5- 1図 遺跡位置図	41	第6- 28図 土坑9	86
第5- 2図 調査区位置図	42	第6- 29図 土坑10	88
第5- 3図 基本土層	43	第6- 30図 土坑11	90
第5- 4図 調査区全体図	44	第6- 31図 土坑12	92

第6-32図	土坑13	94	第7-58図	土坑4	181
第6-33図	ピット2	96	第7-59図	土坑5	183
第6-34図	ピット3	97	第7-60図	土坑6	185
第6-35図	ピット4、D1号坑上遺構	98	第7-61図	土坑7	187
第6-36図	D遺物集中	99	第7-62図	土坑8	189
第6-37図	出土遺物2	100	第7-63図	土坑9	191
第6-38図	出土遺物3	101	第7-64図	土坑10	193
第6-39図	出土遺物4	102	第7-65図	土坑11	195
下隅原遺跡					
第7-1図	遺跡位置図	105	第7-66図	土坑12	197
第7-2図	下隅原遺跡基本上層模式図	106	第7-67図	土坑13	199
第7-3図	下隅原遺跡調査区位置図	107	第7-68図	土坑14	201
第7-4図	令和元年度西側調査区	108	第7-69図	ピット1	204
第7-5図	令和元年度東側調査区北部	109	第7-70図	ピット2	205
第7-6図	令和元年度西側調査区(除北部)1面	110	第7-71図	ピット3	206
第7-7図	令和元年度西側調査区(除北部)2面	111	第7-72図	ピット4	207
第7-8図	令和元年度調査区基本土層	112	第7-73図	ピット5	208
第7-9図	H2-1号建物	113	第7-74図	出土遺物1	214
第7-10図	4号道1	114	第7-75図	出土遺物2	215
第7-11図	4号道2	115	第7-76図	出土遺物3	216
第7-12図	7号道	117	西宮遺跡		
第7-13図	2号溝1	119	第8-1図	遺跡位置図	220
第7-14図	2号溝2	120	第8-2図	基本土層	222
第7-15図	H2-2号溝	121	第8-3図	1面全体図	223
第7-16図	烟1	122	第8-4図	2面全体図	224
第7-17図	烟2	124	第8-5図	3面全体図	225
第7-18図	烟3	125	第8-6図	調査区位置図	226
第7-19図	烟4	127	第8-7図	4号屋敷1	227
第7-20図	烟5	130	第8-8図	4号屋敷2	228
第7-21図	烟6	131	第8-9図	20号建物1	230
第7-22図	平坦面1	133	第8-10図	20号建物2	231
第7-23図	平坦面2	134	第8-11図	7号道1	235
第7-24図	平坦面3	135	第8-12図	7号道2	236
第7-25図	平坦面4	136	第8-13図	10号道	237
第7-26図	平坦面5、煙計測位置1	137	第8-14図	16・18号道1	238
第7-27図	煙計測位置2	138	第8-15図	16・18号道2、22号道	239
第7-28図	A2-1号堅穴建物	140	第8-16図	20号道	241
第7-29図	A4-1号堅穴建物	141	第8-17図	調査区北部烟	243
第7-30図	H1-1号堅穴建物	142	第8-18図	調査区中部烟	244
第7-31図	A2-1号掘立柱建物	144	第8-19図	調査区南部烟	245
第7-32図	A4-1・2号掘立柱建物	145	第8-20図	1面煙計測位置	247
第7-33図	A4-3～5号掘立柱建物	147	第8-21図	平坦面1	248
第7-34図	H1-1号掘立柱建物	149	第8-22図	平坦面2	249
第7-35図	H1-2号掘立柱建物	150	第8-23図	平坦面3	250
第7-36図	H1-3号掘立柱建物	151	第8-24図	11号溝	251
第7-37図	H1-4号掘立柱建物	152	第8-25図	22号建物	253
第7-38図	H1-5号掘立柱建物	153	第8-26図	2面道	254
第7-39図	H2-1～4号掘立柱建物1	154	第8-27図	2面烟1	255
第7-40図	H2-1～4号掘立柱建物2	155	第8-28図	2面烟2	256
第7-41図	H2-5号掘立柱建物	157	第8-29図	9-1号復旧溝	257
第7-42図	H2-6号掘立柱建物	158	第8-30図	11-2号堅穴立柱建物	259
第7-43図	H2-7号掘立柱建物	159	第8-31図	3面水田、烟	260
第7-44図	H2-8号掘立柱建物	160	第8-32図	3面溝	262
第7-45図	H3-1号掘立柱建物	161	第8-33図	土坑1	264
第7-46図	H3-2・3号掘立柱建物	163	第8-34図	土坑2	266
第7-47図	A4-1号堅穴状遺構	165	第8-35図	土坑3	267
第7-48図	H2-1号堅穴状遺構、A1-1号溝	166	第8-36図	ピット1	268
第7-49図	H2-3号溝	167	第8-37図	ピット2	269
第7-50図	H2-4～10号溝	169	第8-38図	ピット3	270
第7-51図	H3-1～2号溝	170	第8-39図	ピット4	271
第7-52図	A4-1～3号坑上遺構	171	第8-40図	出土遺物1	273
第7-53図	A4-4号坑上遺構、H1-1号坑上遺構	172	第8-41図	出土遺物2	274
第7-54図	H2-1～2号柵	173	第8-42図	出土遺物3	275
第7-55図	土坑1	175	第8-43図	出土遺物4	276
第7-56図	土坑2	177	西久保IV遺跡		
第7-57図	土坑3	179	第9-1図	遺跡位置図	279
			第9-2図	調査区位置図	280

第9-3図	基本上層	281	第9-12図	ピット1	294
第9-4図	平成3年度調査区1面	282	第9-13図	ピット2	295
第9-5図	平成31年度調査区2面	283	第9-14図	出土遺物1	295
第9-6図	道	284	第9-15図	出土遺物2	296
第9-7図	1号掘	285	上原Ⅱ遺跡		
第9-8図	1号掘立柱建物	287	第10-1図	道跡位置図	299
第9-9図	溝	288	第10-2図	調査区の設定	300
第9-10図	土坑1	290	第10-3図	上原Ⅱ遺跡調査範囲	300
第9-11図	土坑2	292			

表 目 次

第1-1表	バッ場ダム建設に伴う調査遺跡一覧	2	第7-22表	H1-5号掘立柱建物ピット計測表	153
第1-2表	周辺の主な遺跡	8	第7-23表	H2-1号掘立柱建物柱間計測表	155
東原Ⅱ遺跡					
第4-1表	ピット計測表1	37	第7-24表	H2-1号掘立柱建物ピット計測表	155
第4-2表	ピット計測表2	37	第7-25表	H2-2号掘立柱建物柱間計測表	156
第4-3表	ピット計測表3	37	第7-26表	H2-2号掘立柱建物ピット計測表	156
第4-4表	ピット計測表4	37	第7-27表	H2-3号掘立柱建物柱間計測表	156
横里中村遺跡					
第5-1表	8区1号掘立柱建物柱間計測表	43	第7-28表	H2-3号掘立柱建物ピット計測表	156
第5-2表	8区1号掘立柱ピット計測表	46	第7-29表	H2-4号掘立柱建物柱間計測表	156
第5-3表	8区1号櫛計測表	47	第7-30表	H2-4号掘立柱建物ピット計測表	156
第5-4表	ピット計測表	47	第7-31表	H2-5号掘立柱建物柱間計測表	157
第5-5表	遺物観察表	50	第7-32表	H2-5号掘立柱建物ピット計測表	157
川原湯原沼遺跡					
第6-1表	ピット計測表1	77	第7-33表	H2-6号掘立柱建物柱間計測表	158
第6-2表	遺物観察表1	78	第7-34表	H2-6号掘立柱建物ピット計測表	158
第6-3表	中近世未掲載遺物	79	第7-35表	H2-7号掘立柱建物柱間計測表	159
第6-4表	古代未掲載遺物	79	第7-36表	H2-7号掘立柱建物ピット計測表	159
第6-5表	ピット計測表2	96	第7-37表	H2-8号掘立柱建物柱間計測表	160
第6-6表	ピット計測表3	96	第7-38表	H2-8号掘立柱建物ピット計測表	160
第6-7表	ピット計測表4	96	第7-39表	H3-1号掘立柱建物柱間計測表	162
第6-8表	遺物観察表2	102	第7-40表	H3-1号掘立柱建物ピット計測表	162
第6-9表	縄文・弥生未掲載遺物	104	第7-41表	H3-2号掘立柱建物柱間計測表	163
下湯原遺跡					
第7-1表	A2-1号掘立柱建物柱間計測表	143	第7-42表	H3-2号掘立柱建物ピット計測表	163
第7-2表	A2-1号掘立柱建物ピット計測表	143	第7-43表	H3-3号掘立柱建物柱間計測表	163
第7-3表	A4-1号掘立柱建物柱間計測表	144	第7-44表	H3-3号掘立柱建物ピット計測表	163
第7-4表	A4-1号掘立柱建物ピット計測表	144	第7-45表	ピットの埋没土	204
第7-5表	A4-2号掘立柱建物柱間計測表	146	第7-46表	ピット計測表	209
第7-6表	A4-2号掘立柱建物ピット計測表	146	第7-47表	遺物観察表	217
第7-7表	A4-3号掘立柱建物柱間計測表	146	第7-48表	未掲載遺物(古代)	219
第7-8表	A4-3号掘立柱建物ピット計測表	146	第7-49表	未掲載遺物(中近世)	219
第7-9表	A4-4号掘立柱建物柱間計測表	146	西宮遺跡		
第7-10表	A4-4号掘立柱建物ピット計測表	146	第8-1表	20号建物柱間計測表	232
第7-11表	A4-5号掘立柱建物柱間計測表	148	第8-2表	平坦面計測表	248
第7-12表	A4-5号掘立柱建物ピット計測表	148	第8-3表	22号建物柱間計測表	252
第7-13表	H1-1号掘立柱建物柱間計測表	149	第8-4表	ピット計測表	271
第7-14表	H1-1号掘立柱建物ピット計測表	149	第8-5表	遺物観察表	277
第7-15表	H1-2号掘立柱建物柱間計測表	150	第8-6表	未掲載遺物(中近世)	278
第7-16表	H1-2号掘立柱建物ピット計測表	150	第8-7表	未掲載遺物(古代)	278
第7-17表	H1-3号掘立柱建物柱間計測表	151	第8-8表	未掲載遺物(縄文時代)	278
第7-18表	H1-3号掘立柱建物ピット計測表	151	西久保IV遺跡		
第7-19表	H1-4号掘立柱建物柱間計測表	152	第9-1表	1号掘立柱建物ピット計測表1	286
第7-20表	H1-4号掘立柱建物ピット計測表	152	第9-2表	1号掘立柱建物ピット計測表2	286
第7-21表	H1-5号掘立柱建物柱間計測表	153	第9-3表	1号掘立柱建物柱間計測表	286

写真目次

尾坂遺跡	5 調査区東側（調査前、西から）	2 2号トレンチ（西から）
PL 1	6 調査区周辺（調査前、西から）	3 3号トレンチ、泥流堆認証（南東から）
1 尾坂道路平成26年度調査区全景（北から）	7 調査区西側（調査前、東から）	4 3号トレンチ（東から）
2 平成26年度調査区天明泥流下（西から）	8 調査区西側（調査前、西から）	5 5号トレンチ（南東から）
3 6号烟（東から）	PL 2	6 5号トレンチ（西から）
4 尾坂道路平成30年度調査区全景（上空から）	1 1号トレンチ（西から）	7 2区1号石積西半（南から）

8	2 区1号石積東半(南から)	7	70区11号ピット(東から)	4	調査区2面(北西部、北東から)
	町道跡	8	70区11号ピット上層断面(東から)	5	裸集中範囲とピット列(北東から)
PL_3		9	70区12号ピット(北から)	PL16	
1	町道跡平成30年度調査区遠景(上空から)	10	70区12号ピット上層断面(北から)	1	8区1号掘立柱建物(上から)
2	調査区全景(調査前、東から)	11	70区13号ピット(南から)	2	8区1号掘立柱建物P1(南西から)
3	調査区全景(上空から)	12	70区13号ピット上層断面(西から)	3	8区1号掘立柱建物P1上層断面(西から)
4	基本土層(北から)	13	70区14号ピット(南から)	4	8区1号掘立柱建物P2(東から)
5	12号烟(上空から)	14	70区14号ピット上層断面(南から)	5	8区1号掘立柱建物P3(南から)
	東原II遺跡	15	70区15号ピット(南から)	6	8区1号掘立柱建物P3上層断面(南東から)
PL_4		16	70区15号ピット上層断面(南から)	7	8区1号掘立柱建物P4(南から)
1	東原II遺跡遠景(南から)	17	70区16号ピット(南から)	8	8区1号掘立柱建物P4上層断面(南西から)
2	東原II遺跡平成30年度調査区(南東から)	18	70区16号ピット上層断面(南から)	PL17	
PL_5		PL11		1	8区1号掘立柱建物P5(南から)
1	調査区全景(上空から)	1	70区17号ピット(北から)	2	8区1号掘立柱建物P5上層断面(南から)
2	調査区西北部(北西から)	2	70区17号ピット上層断面(北から)	3	8区1号掘立柱建物P6(南から)
PL_6		3	70区18号ピット(南から)	4	8区1号掘立柱建物P6上層断面(南から)
1	70区12号土坑(西から)	4	70区18号ピット上層断面(南から)	5	8区1号掘立柱建物P7(南から)
2	70区12号土坑上層断面(西から)	5	70区19号ピット(南から)	6	8区1号掘立柱建物P7上層断面(南から)
3	70区13号土坑(南から)	6	70区19号ピット上層断面(南から)	7	8区1号掘立柱建物P8(南から)
4	70区13号土坑上層断面(南から)	7	70区20号ピット(南から)	8	8区1号掘立柱建物P8上層断面(南から)
5	70区14号土坑(西から)	8	70区20号ピット上層断面(南から)	PL18	
6	70区14号土坑上層断面(西から)	9	70区21号ピット(南から)	1	8区1号掘立柱建物P9(北東から)
7	70区15号土坑(南から)	10	70区21号ピット上層断面(南から)	2	8区1号掘立柱建物P9上層断面(南西から)
8	70区15号土坑上層断面(南から)	11	70区22号ピット(南から)	3	8区1号掘立柱建物P10(南西から)
PL_7		12	70区22号ピット上層断面(南から)	4	8区1号掘立柱建物P10上層断面(南西から)
1	70区16号土坑(西から)	13	70区23号ピット(南から)	5	8区1号掘立柱建物P11(北東から)
2	70区16号土坑上層断面(西から)	14	70区23号ピット上層断面(南から)	6	8区1号掘立柱建物P11上層断面(北東から)
3	70区17号土坑(東から)	15	70区24号ピット(南から)	7	8区1号土坑(南から)
4	70区17号土坑上層断面(東から)	16	70区24号ピット上層断面(西から)	8	8区1号土坑上層断面(南から)
5	70区18号土坑(西から)	17	70区25号ピット(南から)	PL19	
6	70区18号土坑上層断面(西から)	18	70区25号ピット上層断面(南から)	1	8区2号土坑(南西から)
7	70区19号土坑(北から)	PL12		2	8区2号土坑上層断面(南西から)
8	70区19号土坑上層断面(東から)	1	70区26号ピット(西から)	3	8区3号土坑(南から)
PL_8		2	70区26号ピット上層断面(西から)	4	8区3号土坑上層断面(南から)
1	70区20号土坑(北から)	3	70区27号ピット(西から)	5	8区1号ピット列(西から)
2	70区20号土坑上層断面(北から)	4	70区27号ピット上層断面(西から)	6	8区1号ピット列(上から)
3	70区21号土坑(西から)	5	70区28号ピット(南から)	7	8区1号ピット列P4(西から)
4	70区21号土坑上層断面(西から)	6	70区28号ピット上層断面(南から)	8	8区1号ピット列P4上層断面(西から)
5	70区22号土坑(西から)	7	70区29号ピット(南から)	9	8区1号ピット列P3(西から)
6	70区22号土坑上層断面(西から)	8	70区29号ピット上層断面(南から)	PL20	
7	70区23号土坑(北から)	9	70区30号ピット(南から)	1	8区1号ピット列P3上層断面(西から)
8	70区23号土坑上層断面(西から)	10	70区30号ピット上層断面(南から)	2	8区1号ピット列P2(西から)
PL_9		11	70区31号ピット(北から)	3	8区1号ピット列P2上層断面(西から)
1	70区24号土坑(北から)	12	70区31号ピット上層断面(北から)	4	8区1号ピット列P1(西から)
2	70区24号土坑上層断面(北から)	13	70区32号ピット(北から)	5	8区1号ピット列P1上層断面(西から)
3	80区3号ピット(南から)	14	70区32号ピット上層断面(北から)	6	8区3号ピット(西から)
4	80区3号ピット上層断面(南から)	15	70区33号ピット(北から)	7	8区3号ピット上層断面(西から)
5	70区2号ピット(南から)	16	70区33号ピット上層断面(北から)	8	8区5号ピット(南から)
6	70区2号ピット上層断面(南から)	PL13		9	8区1号ピット上層断面(南から)
7	70区3号ピット(北から)	1	70区1号堀上造構(西から)	10	8区6号ピット(南西から)
8	70区3号ピット上層断面(北から)	2	70区1号堀上造構上層断面(西から)	11	8区6号ピット上層断面(南西から)
9	70区4号ピット(西から)	3	80区南東部割れ痕(西から)	12	8区7号ピット(南西から)
10	70区4号ピット上層断面(西から)	4	70区南部落込み(西から)	13	8区7号ピット上層断面(南西から)
11	70区5号ピット(東から)	5	70区南部落込み(西から)	14	8区8号ピット(南西から)
12	70区6号ピット(南から)	6	70区1号倒木痕(北から)	15	8区8号ピット上層断面(南西から)
13	70区6号ピット上層断面(南から)	7	70区2号倒木痕(西から)	16	8区9号ピット(西から)
14	70区7号ピット(東から)	8	70区4号倒木痕(北西から)	17	8区9号ピット上層断面(西から)
PL10			横壁中村遺跡	PL21	
1	70区8号ピット(北東から)	PL14		1	8区10号ピット(北東から)
2	70区8号ピット上層断面(東から)	1	横壁中村遺跡遠景(北から)	2	8区12号ピット(南西から)
3	70区9号ピット(北から)	2	横壁中村遺跡平成30年度調査区遠景(南から)	3	8区12号ピット上層断面(南西から)
4	70区9号ピット上層断面(北東から)	PL15		4	8区13号ピット(西から)
5	70区10号ピット(西から)	1	調査区全景(上空から)	5	8区13号ピット上層断面(西から)
6	70区10号ピット上層断面(西から)	2	調査区1面(西側、南東から)	6	8区14号ピット(西から)
		3	調査区1面(北西部、北東から)	7	8区14号ピット上層断面(西から)
				8	8区15号ピット(西から)

9	8区15号ビット上層断面(西から)	6	E11・E12号土坑上層断面(南西から)	6	D17号土坑(南から)
10	8区1号罐集中(上から)	7	E13号土坑(北から)	7	D18号土坑(西から)
11	8区1号罐集中(西から)	8	E14号土坑(西から)	8	D19号土坑(西から)
出土遺物		PL.29		PL.37	
川原湯勝沼遺跡		1 E15号土坑(西から)	1 D20号土坑(西から)		
PL.22	1 E 1号道遠口(東から)	2 E16号土坑(北から)	2 D21号土坑(西から)		
	2 E 1号道南東部(西から)	3 E17号土坑(西から)	3 D22号土坑(西から)		
	3 E 1号道中央付近(西から)	4 E 1号ビット(西から)	4 D23号土坑(南から)		
	4 E 1号道中央付近(東から)	5 E 2号ビット(西から)	5 D24号土坑(北から)		
	5 E 1号道南西部(東から)	6 E 3号ビット(北から)	6 D25号土坑(南から)		
	6 E 1号道、路面と路肩(西から)	7 E 4号ビット(北から)	7 D26号土坑(南から)		
	7 E 1号道、路面状況(南から)	8 E 4号ビット(北から)	8 D27号土坑(東から)		
	8 E 1号道、路面状況(南から)	PL.30	PL.38		
PL.23	1 E 1号道、東側昇降口(南から)	1 A区2面全景(東から)	1 D28号土坑(西から)		
	2 E 1号道、東側昇降口(北から)	2 A 4号土坑(南西から)	2 D 1号風呂本(東から)		
	3 E 1号道、西側昇降口(南から)	3 A 6号土坑(北から)	3 D 1号遺物集中(南から)		
	4 E 1号道、西側昇降口(北から)	4 A 7号土坑(北西から)	4 D 1号遺物集中(北から)		
	5 E 1号道、西側昇降口(南から)	5 A 8号土坑(北から)	5 D 2号遺物集中、遺物出土状況(南から)		
	6 E 1号道、西側昇降口(北から)	PL.31	6 D 2号遺物集中(南から)		
	7 E 2号道(西から)	1 C区2面全景(北から)	PL.39		
	8 E 3号道(北西から)	2 C 1号土坑(西から)	出土遺物 1		
	7 E 4号道、E 5号道(西から)	2 C 2号土坑(西から)	PL.40		
	8 E 5区1面東部煙突(東から)	3 C 3号土坑(西から)	出土遺物 2		
PL.24	4 C 4号土坑(西から)	PL.32	下関原道路		
	PL.32	1 C 5号土坑(西から)	PL.41		
	1 E 1号烟(南から)	2 C 6号土坑(西から)	1 H2-1号建物(南から)		
	2 E 2号烟(南から)	3 C 7号土坑(西から)	2 H2-1号建物、敷居物の痕跡(南から)		
	3 E 3～5号烟(南から)	4 C 8号土坑(西から)	3 4号道(西から)		
	4 E 5～8号烟(南から)	5 C 9号土坑(西から)	4 4号道(北西から)		
	5 E 9～10号烟、E 1号ヤックラ(南から)	6 C10号土坑(西から)	5 4号道下位の道(北西から)		
	6 E11～14号烟、E 2～5号ヤックラ(南から)	7 C11号土坑(西から)	6 4号道下位の道(北東から)		
	7 E区1面西部煙突(東から)	8 C12号土坑(西から)	7 4号道下位の溝(東から)		
	8 E区1面西部煙突(西から)	PL.33	8 4号道下位の溝断面(東から)		
PL.25	PL.33	1 C13号土坑上層断面(北から)	PL.42		
	1 E区1面西部煙突(北西から)	2 C14号土坑(北から)	1 7号道(南東から)		
	2 E19号烟(北東から)	3 C15号土坑(北から)	2 2号溝(北から)		
	3 E19号烟(東から)	4 C16号土坑(北から)	3 2号溝護岸の石材7(西から)		
	4 E19号烟(南西から)	5 C17号土坑(北から)	4 2号溝護岸の石材20(西から)		
	5 E20号烟、E21号烟(北西から)	6 C18号土坑(北から)	5 2号溝護岸の石材31(西から)		
	6 E20号烟、E21号烟(南西から)	7 C19号土坑(西から)	6 2号溝護岸の石材6(西から)		
	7 E 1号平坦面(北から)	8 C20号土坑上層断面(西から)	7 2号溝護岸の石材と杭2(南から)		
	8 E 2号平坦面(北から)	PL.34	8 2号溝机1(南から)		
PL.26	PL.34	1 C21号土坑上層断面(西から)	PL.43		
	1 E 3号平坦面(北から)	2 C 1号ビット(西から)	1 H2-2号溝(北から)		
	2 E 4号平坦面(北から)	3 C 2号ビット(西から)	2 H2-2号溝(南から)		
	3 E 5号平坦面(南から)	4 C 3号ビット(西から)	3 A4-6～7号烟(南から)		
	4 E 6号平坦面(南から)	5 C 4号ビット(西から)	4 A4-5号烟(南から)		
	5 E 1号ヤックラ(北から)	6 C 5号ビット(西から)	5 A4-4号烟(南から)		
	6 E 2号ヤックラ(北から)	7 D 1号土坑(北から)	6 A4-3～4号烟(南から)		
	7 E 3号ヤックラ(北から)	8 D 2号土坑(西から)	7 A4-3号烟(南から)		
	8 E 4号ヤックラ(北西から)	PL.35	8 A4-2号烟(南から)		
PL.27	PL.35	1 D 3号土坑(北から)	PL.44		
	1 E 5号ヤックラ(南から)	2 D 4号土坑(南から)	1 A4-1～2号烟(南から)		
	2 E 6号ヤックラ(西から)	3 D 5号土坑(西から)	2 C4-3～5号烟(西から)		
	3 E 1号土坑(南西から)	4 D 6号土坑(西から)	3 C4-3～5号烟(北東から)		
	4 E 2号土坑(東から)	5 D 7号土坑(西から)	4 C4-6～7号烟(南から)		
	5 E 3号土坑(南から)	6 D 8号土坑(西から)	5 C4-1号平坦面(西から)		
	6 E 4号土坑(南東から)	7 D 9号土坑(西から)	6 C4-2号平坦面(南から)		
	7 E 5号土坑(南から)	8 D10号土坑(西から)	7 H-18～21号烟(上から、画面天・北西)		
	8 E 6号土坑(西から)	PL.36	8 H-10～17号烟(上から、画面天・北西)		
PL.28	PL.36	1 D11号土坑(西から)	PL.45		
	1 E 7号土坑(南から)	2 D12号土坑(北から)	1 H-7～10号烟(上から、画面天・北西)		
	2 E 8号土坑(南から)	3 D13号土坑(西から)	2 H-1～7号烟(上から、画面天・北)		
	3 E 9号土坑(北から)	4 D14号土坑(西から)	3 H3-1号平坦面(南から)		
	4 E10号土坑(北から)	5 D15号土坑(西から)	4 H3-2号平坦面(南から)		
	5 E11・E12号土坑(東から)				

5	H3- 3号平坦面(南から)	8	A4- 1号堅穴状遺構ビット1(北から)	2	H1- 8号土坑断面(南から)
6	H2- 1号平坦面(南から)	PL53		3	H1- 8号土坑(南から)
7	H2- 2号平坦面(西から)	1	A4- 1号堅穴状遺構ビット2(北から)	4	H1- 9号土坑(南から)
8	H2- 3号平坦面(南から)	2	A4- 1号堅穴状遺構ビット3(北西から)	5	H1-10・50号土坑(北から)
PL46		3	A4- 1号堅穴状遺構ビット4(東から)	6	H1-50号土坑断面(南から)
1	H2- 4号平坦面(南から)	4	A4- 1号堅穴状遺構ビット5(北東から)	7	H1-11号土坑(南から)
2	H2- 5号平坦面(南から)	5	A4- 1号堅穴状遺構ビット6(東から)	8	H1-12号土坑(南から)
3	H2- 6号平坦面(西から)	6	H2- 1号堅穴状遺構(南西から)	PL61	
4	H2- 7号平坦面(南から)	7	A1- 1号溝(上から、両面天・北)	1	H1-13号土坑(西から)
5	H2- 8号平坦面(南から)	8	H2- 3号溝(上から、両面天・西)	2	H1-14号土坑(南から)
6	H2- 9号平坦面(南から)	PL54		3	H1-15号土坑(南から)
7	H2-10号平坦面(西から)	1	H2- 3号溝断面(北東から)	4	H1-15号土坑断面(南から)
8	H2-11号平坦面(西から)	2	H2- 4号溝(南から)	5	H1-16号土坑(南から)
PL47		3	H2- 5号溝(南から)	6	H1-17号土坑(西から)
1	H2-12号平坦面(南から)	4	H2- 6号溝(西から)	7	H1-18号土坑(南から)
2	H1- 2号平坦面(南から)	5	H2- 7号溝(西から)	8	H1-19号土坑(南から)
3	H1- 3号平坦面(南から)	6	H2- 8号溝(西から)	PL62	
4	H1- 4号平坦面(南から)	7	H2- 9号溝(西から)	1	H1-20号土坑(南から)
5	H1- 5号平坦面(南から)	8	H2- 10号溝(西から)	2	H1-21号土坑(南から)
6	H1- 6号平坦面(南から)	PL55		3	H1-22号土坑(南から)
7	H1- 7号平坦面(南から)	1	H3- 1号溝(南から)	4	H1-23号土坑(南から)
8	H1- 8号平坦面(南から)	2	H3- 2号溝(東から)	5	H1-24号土坑(北から)
PL48		3	A4- 1号傾斜上遺構(東から)	6	H1-25号土坑(北から)
1	H1- 9号平坦面(南から)	4	A4- 2号傾斜上遺構(東から)	7	H1-26号土坑(北から)
2	H1-10号平坦面(南から)	5	A4- 3号傾斜上遺構(東から)	8	H1-27号土坑(北東から)
3	H1- 1号平坦面(南から)	6	A4- 4号傾斜上遺構(南から)	PL63	
4	A2- 1号堅穴建物(南から)	7	H1- 1号堅穴遺構(西から)	1	H1-28号土坑(西から)
5	A2- 1号堅穴建物、完掘状態(南から)	8	H2- 1- 2号樋(西から)	2	H1-29号土坑(南から)
6	A2- 1号堅穴建物ビット3(北から)	PL56		3	H1-30号土坑(南から)
7	A2- 1号堅穴建物ビット4(北から)	1	A4- 1号土坑(西から)	4	H1-48号土坑(南から)
8	A2- 1号堅穴建物ビット5(北から)	2	A4- 2号土坑(北西から)	5	H1-49号土坑(南から)
PL49		3	A4- 3号土坑(南から)	6	H1-51号土坑(南から)
1	A2- 1号堅穴建物ビット6(北から)	4	A4- 4号土坑(南から)	7	H1-52号土坑(南から)
2	A4- 1号堅穴建物(南から)	5	A4- 5号土坑(南から)	8	H1-31号土坑(南から)
3	A4- 1号堅穴建物、完掘状態(南西から)	6	A4- 6号土坑(南から)	PL64	
4	A4- 1号堅穴建物カマド(南から)	7	A4- 7号土坑(南西から)	1	H1-32号土坑(南から)
5	A4- 1号堅穴建物カマド断面(南から)	8	A4- 7号土坑断面(南から)	2	H1-33号土坑(北から)
6	A4- 1号堅穴建物貯蔵穴(南から)	PL57		3	H1-34号土坑(南から)
7	A4- 1号堅穴建物土坑1(南から)	1	A4- 8号土坑(西から)	4	H1-35号土坑(西から)
8	H1- 1号堅穴建物(西から)	2	A4- 9号土坑(南から)	5	H1-36号土坑(南から)
PL50		3	A4-10号土坑(西から)	6	H1-37号土坑(南から)
1	H1- 1号堅穴建物カマド6(北から)	4	A4-11号土坑(西から)	7	H1-38号土坑(南から)
2	H1- 1号堅穴建物カマド断面(南から)	5	A4-12号土坑(西から)	8	H1-39号土坑(南西から)
3	H1- 1号堅穴建物カマド(西から)	6	A4-13号土坑(東から)	PL65	
4	H1- 1号堅穴建物カマド焼土(西から)	7	A4-13号土坑、遺骨検出状況(東から)	1	H1-40号土坑(南から)
5	H1- 1号堅穴建物カマド焼土断面(南から)	8	A4-13号土坑断面(南東から)	2	H1-41号土坑(南から)
6	H1- 1号堅穴建物カマド焼り方(西から)	PL58		3	H1-42号土坑(東から)
7	A2- 1号堅穴柱建物(南から)	1	A4-14号土坑(南から)	4	H1-43号土坑(南から)
8	A4- 1- 2号堅立柱建物(北から)	2	A4-15号土坑(南から)	5	H1-44号土坑(南から)
PL51		3	A4-16号土坑(南から)	6	H1-45号土坑(南から)
1	A4- 3- 5号堅立柱建物(北から)	4	A4-17号土坑(南から)	7	H1-46号土坑(南から)
2	H1- 1号堅立柱建物(東から)	5	H1- 1号土坑、遺骨検出状況(東から)	8	H1-47号土坑(東から)
3	H1- 2号堅立柱建物(東から)	6	H1- 1号土坑(南から)	PL66	
4	H1- 3号堅立柱建物(東から)	7	H1- 1号土坑断面(南から)	1	H2- 1号土坑(南西から)
5	H1- 4号堅立柱建物(東から)	8	H1- 1号土坑、完掘状態(南から)	2	H2- 2号土坑(西から)
6	H1- 5号堅立柱建物(東から)	PL59		3	H2- 3号土坑(北から)
7	H2- 1- 4号堅立柱建物(上から、両面天・西)	1	H1- 2号土坑、遺骨出土状況(西から)	4	H2- 4号土坑(北から)
8	H2- 5号堅立柱建物(南から)	2	H1- 2号土坑(南から)	5	H2- 5号土坑(北から)
PL52		3	H1- 2号土坑、完掘状態(西から)	6	H2- 6号土坑(北西から)
1	H2- 6号堅立柱建物(東から)	4	H1- 3号土坑(南から)	7	H2- 7号土坑(西から)
2	H2- 7号堅立柱建物(北から)	5	H1- 4号土坑(南から)	8	H2- 8号土坑(西から)
3	H2- 8号堅立柱建物(南から)	6	H1- 5号土坑(南から)	PL67	
4	H3- 1号堅立柱建物(南から)	7	H1- 6号土坑(南から)	1	H2- 9号土坑(西から)
5	H3- 2- 3号堅立柱建物(南から)	8	H1- 7号土坑(西から)	2	H2-10号土坑、遺骨検出状況(西から)
6	A4- 1号堅穴状遺構(南から)	PL60		3	H2-10号土坑、遺骨出土状況(西から)
7	A4- 1号堅穴状遺構、完掘状態(南から)	1	H1- 8号土坑、遺物出土状況(南から)	4	H2-10号土坑(西から)

	西宮遺跡	PL82
P75	1 西宮遺跡平成31年度調査区全量(南西から) 2 4号屋敷(南から) 3 4号屋敷(北東から) 4 4号屋敷(南東から) 5 4号屋敷(南東上空から)	1 9- 1号烟、9-16号烟(上空から) 2 12-24 ~ 31号烟(上空から) 3 12-17 ~ 24号烟、12-30号烟(上空から) 4 114号溝(南東上空から) 5 114号溝(南から) 6 114号溝(南から) 7 114号溝(北から) 8 114号溝(北から)
PL68	1 H2-15号土坑(南から) 2 H2-16号土坑(北から) 3 H2-17号土坑(西から) 4 H2-18号土坑(南から) 5 H2-19号土坑(南から) 6 H2-20号土坑(南から) 7 H2-21号土坑(南西から) 8 H2-22号土坑(南から)	PL76 1 4号屋敷20号建物3号廻炉裏(南から) 2 4号屋敷20号建物3号廻炉裏石組み(南から) 3 4号屋敷20号建物 1号カマド(南から) 4 4号屋敷20号建物 1号カマド穴掘状態(南から) 5 4号屋敷20号建物 1号カマド掘り方(南から) 6 4号屋敷20号建物 1号カマド基部断面(南から) 7 4号屋敷20号建物 1号カマドと2号カマド(南から) 8 4号屋敷20号建物 2号カマド断面(南から)
PL69	1 H2-23号土坑、遺骨検出状況(西から) 2 H2-23号土坑(南から) 3 H2-24号土坑(東から) 4 H3- 1号土坑(南から) 5 H3- 2号土坑(南から) 6 H3- 3号土坑(南から) 7 H3- 4号土坑(南から) 8 H3- 5号土坑(南から)	PL77 1 4号屋敷20号建物 2号上坑(南から) 2 4号屋敷20号建物 2号上坑掘り方(南から) 3 4号屋敷20号建物床組瓦痕(南から) 4 4号屋敷16 ~ 19号石組(南東から) 5 4号屋敷15 ~ 17号石組(南東から) 6 4号屋敷16 ~ 19号石組(北東から) 7 4号屋敷16 ~ 17号石組断面(南から) 8 4号屋敷15号石垣と粘土層まり断面(南東から)
PL70	1 H3- 6号土坑(南から) 2 H3- 7号土坑(南から) 3 H3- 8号土坑(西から) 4 H3- 9号土坑、遺物検出状況(東から) 5 H3- 9号土坑断面(西から) 6 H3- 9号土坑(西から) 7 H3-10号土坑(南から) 8 H3-11号土坑(南から)	PL78 1 4号屋敷15号石垣、3号ヤッカラ(南東から) 2 7号道、20号道(南西上空から) 3 7号道(南から) 4 7号道(南から)、手前11-8号烟 5 7号道14号石垣(南から)、手前11-6号烟、奥12号石垣 6 7号道14号石垣断面(南西から) 7 20号道(南から)、左11- 5号烟、右11-6号烟
PL71	1 H3-11号土坑、遺物出土状態(西から) 2 H3-11号土坑出土遺物(西から) 3 H3-12号土坑(南から) 4 A4-1号ピット(西から) 5 A4-3号ピット(東から) 6 A4-5号ピット(西から) 7 A4-13・14号ピット(北西から) 8 A4-28号ピット(南から) 9 A4-91号ピット(南から) 10 H1-3号ピット(南から) 11 H1-35号ピット(北から) 12 H1-40号ピット(西から)	PL79 1 20号道13号石垣(東から)、手前11-6号烟、14号石垣 2 20号道120号溝(南東から) 3 10号道・北(南上空から) 4 10号道・南(南東上空から) 5 16号道(南東から) 6 22号道(東から) 7 11- 7号烟(南西上空から) 8 11- 7号烟(北東から)
PL72	1 H1-44号ピット(南東から) 2 H1-51号ピット(南から) 3 H1-54号ピット(北から) 4 H1-58号ピット(北から) 5 H1-96号ピット(南から) 6 H1-98号ピット(南東から) 7 H1-102号ピット(南から) 8 H2-38号ピット(西から) 9 H2-41号ピット(西から) 10 H2-49号ピット(西から) 11 H2-77号ピット(南から) 12 H2-83号ピット(東から) 13 H2-84号ピット(西から) 14 H2-89号ピット(南東から) 15 H2-155号ピット(東から)	PL80 1 11- 8号烟(南上空から) 2 11- 8号烟(南から) 3 11- 6号烟(南西上空から) 4 11- 6号烟(南東から) 5 11- 6号烟(西から) 6 11- 5号烟、20号道(北西から) 7 12-13 ~ 14号烟(上空から) 8 12-10 ~ 12号烟(上空から)
PL73	出土遺物1	PL81 1 12-14号烟(東から) 2 12-13号烟(南から) 3 12-13号烟12-13号平面(東から) 4 12-11 ~ 12号烟(北東から) 5 12- 9 ~ 12号烟(上空から) 6 12- 9 ~ 10号烟(上空から) 7 12-10号烟12-9号平面(北東から) 8 12-10号烟12-10号平面(南から)
PL74	出土遺物2	PL82 1 11- 1号水田、11- 2号水田、111号溝(上空から) 2 11- 1号水田、11- 2号水田、111号溝(北上空から) 3 11- 1号水田、11- 2号水田、111号溝(東から)

13	II-1号水田、II-2号水田(西から)	15	392号ビット、393号ビット(西から)	1	1号獨立柱建物(西から)
PL88		16	394号ビット(南から)	2	1号獨立柱建物(北から)
1	102号溝(上空から。左上に9-4号畑)	17	395号ビット(南から)	3	1~5号溝(東から)
2	119号溝(上空から)	18	396号ビット(南から)	4	1号溝断面(西から)
3	9-4号畑(南から)	PL94		5	2号溝断面(東から)
4	119号溝(北から)	1	397号ビット(北から)	6	3号溝断面(西から)
5	117号溝(東から)	2	319号ビット(南から)	7	4号溝断面(西から)
6	調査区南部3面(東から)	3	320号ビット(南から)	8	5号溝断面(西から)
7	調査区南部3面(上空から)	4	321号ビット(南から)	PL101	
8	300号土坑(東から)	5	322号ビット(南から)	1	1号土坑(東から)
PL89		6	323号ビット(南から)	2	2号土坑道横壁認面(東から)
1	301号土坑(東から)	7	324号ビット(南から)	3	2号土坑(南から)
2	302号土坑(東から)	8	325号ビット(南から)	4	3号土坑(南から)
3	303号土坑(東から)	9	326号ビット(南から)	5	3~17号土坑断面(南から)
4	304号土坑(東から)	10	327号ビット(南から)	6	17号土坑(南から)
5	305号土坑(南から)	11	328号ビット(南から)	7	4号土坑(南から)
6	306号土坑(東から)	12	329号ビット(南から)	8	5号土坑(南から)
7	307号土坑(東から)	13	330号ビット(南から)	PL102	
8	308号土坑(東から)	14	331号ビット(南から)	1	5号土坑断面(南から)
PL90		15	332号ビット(南から)	2	6号土坑(南から)
1	308号土坑理状況(南から)	16	333号ビット(南から)	3	7号土坑(南から)
2	308号土坑石継下部(南から)	17	334号ビット(南から)	4	8号土坑(南から)
3	308号土坑掘り方(南から)	18	335号ビット(南から)	5	8~9号土坑断面(南から)
4	309号土坑断面(東から)	PL95		6	10号土坑(南から)
5	309号土坑(東から)	1	336号ビット(南から)	7	10号土坑断面(南から)
6	310号土坑断面(東から)	2	337号ビット(南から)	8	11号土坑(南から)
7	311号土坑断面(東から)	3	338号ビット(南から)	PL103	
8	312号土坑(東から)	4	339号ビット(南から)	1	12号土坑(南から)
PL91		5	340号ビット(南から)	2	13号土坑(南から)
1	313号土坑(南から)	6	341号ビット(南から)	3	13号土坑断面(南から)
2	314号土坑(南から)	7	342号ビット(南から)	4	14号土坑(南から)
3	315号土坑(南から)	8	343号ビット(南から)	5	14号土坑断面(南から)
4	316号土坑(東から)	9	344号ビット(南から)	6	15号土坑(南から)
5	317号土坑断面(東から)	10	345号ビット(南から)	7	16号土坑(南から)
6	317号土坑(東から)	11	346号ビット(南から)	8	18号土坑(南から)
7	調査区中部3面(東から)	12	347号ビット(南から)	PL104	
8	320号土坑(北から)	13	348号ビット(南から)	1	19号土坑(南から)
PL92		14	349号ビット(南から)	2	19号土坑堆積状況(南から)
1	321号土坑(北から)	15	350号ビット(南から)	3	1号ビット(南から)
2	322号土坑(西から)	16	351号ビット(東から)	4	2号ビット(南から)
3	323号土坑断面(西から)	17	352号ビット(東から)	5	3号ビット(南から)
4	323号土坑(西から)	18	353号ビット(南から)	6	3号ビット断面(南から)
5	367号ビット断面(東から)	PL96		7	4号ビット(南から)
6	368号ビット(南から)	1	354号ビット(東から)	8	5号ビット(南から)
7	369号ビット(南から)	2	355号ビット(東から)	9	6号ビット(南から)
8	370号ビット断面(南から)	3	356号ビット(東から)	10	7号ビット(南から)
9	370号ビット(南から)	4	357号ビット(東から)	11	8号ビット(南から)
10	号371号ビット(南から)	5	358号ビット(東から)	12	12号ビット(南から)
11	372号ビット(南から)	6	359号ビット(東から)	13	13号ビット(南から)
12	373号ビット(南から)	7	360号ビット(東から)	14	14号ビット(南から)
13	374号ビット(南から)	PL97		PL105	
PL93		出上遺物1		1	17号ビット(南から)
1	376号ビット(南から)	PL98		2	18号ビット(南から)
2	377号ビット(南から)	出上遺物2		3	19号ビット(南から)
3	378号ビット(南から)			4	20号ビット(南から)
4	379号ビット(南から)			出上遺物1	
5	380号ビット(南から)	PL99		1	17号ビット(南から)
6	381号ビット(南から)	1	西久保IV遺跡遠景(北西上空から)	2	18号ビット(南から)
7	383号ビット(南から)	2	調査区1面全景(上空から)	3	19号ビット(南から)
8	384号ビット、385号ビット(南から)	3	調査区東部1面(東から)	4	20号ビット(南から)
9	386号ビット(南から)	4	調査区東部1面(北から)	PL106	
10	387号ビット(南から)	5	2号道(東から)	付図タイトル	
11	388号ビット(南から)	6	1号畑(東から)	付図1	川原湯勝沼道路B~E区 1面全体図
12	389号ビット(北から)	7	調査区2面(北から)	付図2	川原湯勝沼道路B~E区 2面全体図
13	390号ビット(南から)	8	調査区2面(西から)	付図3	下原道路全体図
14	391号ビット(南から)	PL100		付図4	西宮遺跡全体図(近世)
				付図5	西宮遺跡全体図(中世)

第1章 八ッ場ダム発掘調査の経緯・方法と周辺の環境

第1節 八ッ場ダム発掘調査の経緯

八ッ場ダム建設に伴う埋蔵文化財の発掘調査は、建設省関東地方建設局(現国土交通省関東地方整備局)と群馬県教育委員会、長野原町教育委員会、吾妻町教育委員会(現東吾妻町教育委員会)が協議し、平成6年3月18日「八ッ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財調査の実施に関する協定書」を建設省関東地方建設局と群馬県教育委員会の両者で締結し、発掘調査事業の実施計画が決定された。同年4月1日、関東地方建設局長と群馬県教育委員会教育長との間で発掘調査受託契約を締結し、同日同教育長と群馬県埋蔵文化財調査事業団理事長の両者で発掘調査委託契約が締結され、調査が開始された。

調査当初は、工事用進入路建設に先立つ小規模調査が先行したが、平成10年度以降、工事用進入路が徐々に整い、住民の生活再建の施設としての学校建設や住宅地造成、国道・県道建設工事に伴う発掘調査が増加し、広大な面積が対象となった。

平成11年4月1日に「八ッ場ダム建設工事に伴う埋蔵

文化財調査の実施に関する協定の一部を変更する協定書」が締結され、これ以降は調査実施機関を財團法人群馬県埋蔵文化財調査事業団に変更し、現在の調査体制に至っている。発掘調査される遺跡も日々戸遣跡や尾坂遺跡などのように、江戸時代の天明泥流下の烟が一面に広がる遺跡や当時の集落、また長野原一本松遺跡や横壁中村遺跡にみられる繩文時代中・後期の大型集落遺跡などが発掘調査されてきた。

さらに、平成17年4月1日に期間変更の協定書変更がなされ、平成30年度末までに6回の変更を行い、調査は令和元年9月に終了した。

本書に掲載された個々の遺跡に関する調査経過などについては、章を分け個別の調査成果と共に記載した。

第2節 調査の方法

第1項 調査区の設定

平成6年から始まった八ッ場ダム建設に伴う埋蔵文化財発掘調査においては、遺跡名称の略号やグリッドの設



第1-1図 遺跡位置図

第1章 ハッ場ダム発掘調査の経緯・方法と周辺の環境

定などについて「ハッ場ダム関連埋文化財発掘調査方法」に基づき進められている。

1 遺跡名称の略号(遺跡番号)

ハッ場ダム調査の略称はYD、次に長野原町の大字をそれぞれ1地区とし、1：川原畠地区、2：川原湯地区、3：横壁地区、4：林地区、5：長野原地区の5地区に区分し、さらに各地区に所在する遺跡の調査順に番号を付すこととした。その後、東吾妻町の4地区にもYD番号が付与されることとなり、6：三島地区、7：大柏木地区、8：松谷地区、9：岩下地区とされた。下湯原遺跡であれば、長野原町川原湯地区での調査であり、YD 2-04となる。

2 グリッドの設定

グリッドの設定は、平面直角座標系第IX系に基づき、東吾妻町大字大柏木付近を基点(座標値：X=58000.0、Y=-97000.0)とした、北西方向に60区画の1km方眼を設定して大グリッド(地区)としている。

大グリッド(地区)内を100m方眼により100分割し中グリッド(区)とし、分割された中グリッドには、それぞれ大グリッドの南東隅を基点とする番号を付与している。さらに、この中グリッド(区)内を4m方眼により625分割し、中グリッドの南東隅を基点として、Y軸となる東から西へA～Y、X軸となる南から北へ1～25を付し、最小グリッドとしている。また、大グリッドの境界が調査区を通らない場合は、大グリッドの番号を省略し、中グリッドと小グリッドをあわせ「26[区H-20]」のように表記した(第1-2図)。

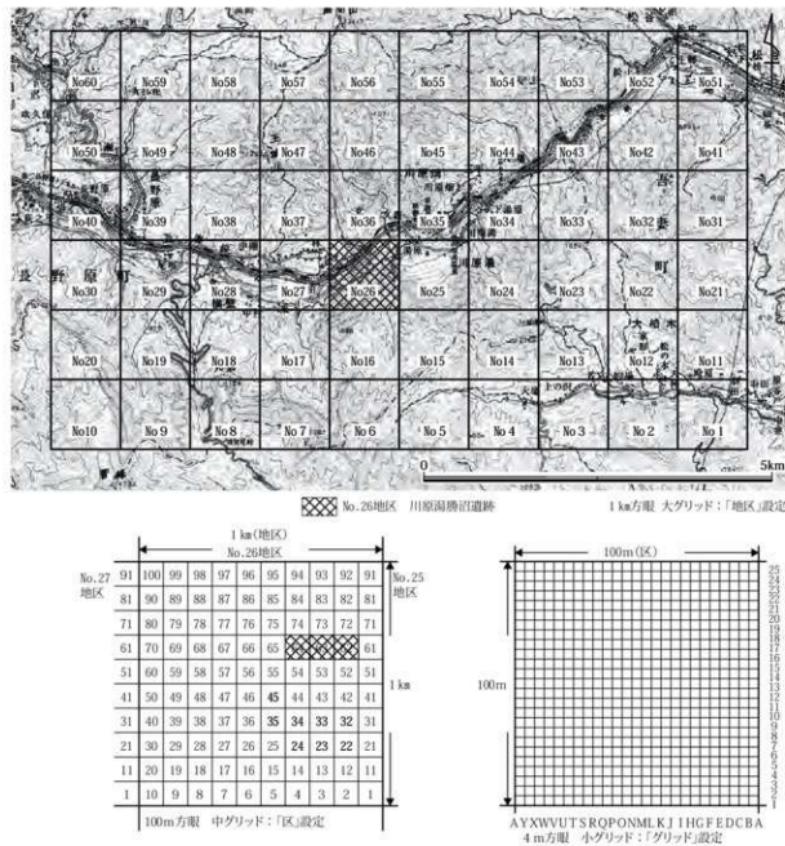
遺構名称については、中グリッド毎の遺構名称を基本とする。

次頁に、川原湯勝沼遺跡を例に調査グリッド設定の概要をまとめた。

1km方眼で区画された大グリッド(地区)の26地区に川原湯勝沼遺跡が位置している(上段の図)。26地区の62～64区が平成30年度の調査対象地点となる(中段左の図)。中段左図の100m方眼で区切られた中グリッド(区)の区画内を、中段右図のように4m方眼で区切ったものが小グリッドとなる。

第1-1表 ハッ場ダム建設工事に伴う調査遺跡一覧

所在大字	YD番号	遺跡名	調査年度(平成)
川原畠	YD 1 01	—	
	YD 1 02	東宮	9.19,20,21,26,27,28,29,30,31
	YD 1 03	石畠	10,29,31
	YD 1 04	三平 I	16,17,24,25,30
	YD 1 05	二社平	10,28,29
	YD 1 06	三平 II	16
	YD 1 07	上ノ平 I	18,19,28
	YD 1 08	西宮	20,26,27,28,29,30,31
	YD 1 09	西宮岩陰	26
	YD 1 10	三ツ堂岩陰	28
	YD 1 11	石畠 I 岩陰	29,30,31
	YD 1 12	川原畠の宝篋印塔	29
川原湯	YD 2 01	川原湯勝沼	9.15,16,28,31
	YD 2 02	西ノ上	14,27,29
	YD 2 03	石川原	20,26,27,28,29,30,31
	YD 2 04	下湯原	27,28,29,31
	YD 2 05	川原湯中原Ⅲ	28
	YD 2 06	前原	29
横壁	YD 3 01	横壁勝沼	6,7
	YD 3 02	西久保 I	10,12,29
	YD 3 03	横壁中村	8～18,30
	YD 3 04	山根Ⅲ	13,18
	YD 3 05	西久保IV	21,23,31
	YD 3 06	西久保V	28,29
林	YD 4 01	下田	7.25,26,28,29,30,31
	YD 4 02	—	
	YD 4 03	上原 I	24
	YD 4 04	—	
	YD 4 05	花畠	10,11,12
	YD 4 06	施木Ⅲ	10
	YD 4 07	中種 II	11,12,13,16,17,28,29,30
	YD 4 08	下原	12,13,15,16,29
	YD 4 09	施木Ⅱ	11,12,13,16,17
	YD 4 10	二反沢	12
	YD 4 11	立馬 I	13,14,17
	YD 4 12	立馬 II	14,15
	YD 4 13	上原IV	15,21
	YD 4 14	林中原 I	16,19,20,21,30
	YD 4 15	林中原 II	16,20,21
	YD 4 16	上原 II	16
	YD 4 17	林の御塚	7,10
	YD 4 18	立馬Ⅲ	19
	YD 4 19	東原 I	20
	YD 4 20	東原 II	20,30
	YD 4 21	東原Ⅲ	20,21
	YD 4 22	施木 I	21
	YD 4 23	林宮原	24,27
	YD 4 24	上原Ⅲ	25,27
	YD 4 25	中種 I	29
長野原	YD 5 01	長野原一本松	6～10,12～17,19,20
	YD 5 02	尾坂	11,18～22,25,26,28,29,30
	YD 5 03	久々戸 I	7.9,10,15,27,28
	YD 5 04	寺神	8.9,14,17,18
	YD 5 05	長野原城跡	23
	YD 5 06	町道跡	23,24,25,30
三島	YD 6 01	上郷 B	13,14
	YD 6 02	上郷原原	13,14,15,17～19
	YD 6 03	上郷 A	15,19,20
	YD 6 04	上郷西	19
	YD 6 05	三島大沢	
	YD 7 01	麻石 A	13
大柏木	YD 7 02	大柏木上ノ沢	
	YD 8	松田前田	
松谷	YD 9	—	
	YD 10	岩下	



第1-2図 調査グリッドの設定

下段に、川原湯勝沼遺跡平成30年度調査区における調査グリッド設定を示した。

なお、調査区の設定方法については、「第2章 第2節 発掘調査の方法』『長野原一本松遺跡(1)』(財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団2002)に詳しい。

第2項 発掘調査の方法

発掘調査は表土除去に掘削機械を使用し、表土除去後の各作業は発掘作業員による手作業で行った。遺構確認作業にはジョレンを用い、面的な遺構の把握に努めた。

確認された遺構は土層記録化のため、半裁あるいはベルト設定を行い写真や図面として記録した。

遺構から出土した遺物は、その遺構番号を付し、さらに図面上に出土位置を記録したものについて個別番号を付し、平面座標と標高を測定して取り上げた。

遺構等の測量は、測量業者に委託し調査期間の短縮を図った。縮尺は1/20, 1/40を基本とした。また、遺構の個別写真是各調査担当によるものであり、一眼レフ・デジタルカメラと一眼レフ・フィルムカメラを使用した。なお撮影用フィルムは120判の使用を基本とし、デジタルカメラの撮像画素は調査年度により相違し、また個々の発掘調査ごとに異なるが、1000万画素以上を原則と

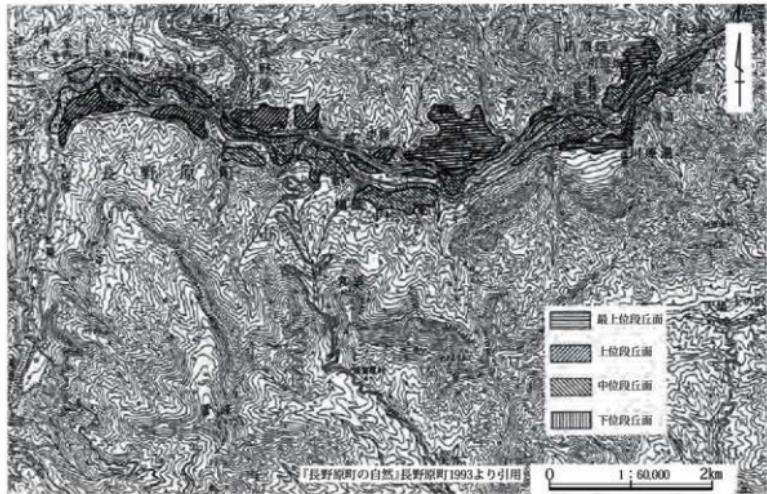
した。

第3節 周辺の環境

第1項 地理的環境

長野原町は群馬県の北西部、吾妻郡の南西隅に位置する。町の南西に浅間山(2,568m)、北西に草津白根山(2,171m)が聳え、両火山をつなぐ山脈の連なりが上信国境を構成している。この上信国境を構成する分水界の一つ、長野県との県境に位置する鳥居峠(1,362m)付近に源を発する吾妻川は、嬬恋村を経て長野原町、東吾妻町と東流し、渋川市白井で南下する利根川に合流する。長野原町の北部は山並に挟まれた吾妻川に沿い東西に延びている。吾妻川を境として、その南北の地形は異なる。右岸である南側は浅間火山噴出物が広く分布し、浅間山を中心とする山地部と山麓部の緩やかな台地が広がり、榛名山の山麓に至る。左岸である北側は草津白根火山噴出物が広く分布しており、崩壊地・崩壊跡地が多くみられる山地部を主とする。

吾妻川が形成した段丘面は、最上位段丘面、上位段丘面、中位段丘面、下位段丘面に区分される。発掘調査の対象となる埋蔵文化財埋蔵地もこれらの段丘面に位置しており、その対象地は広く、各段丘面を包括した面的な



第1-3図 長野原町段丘面の分布

発掘調査が必要とされる地域である。長野原町の遺跡の多くは、吾妻川が形成した河岸段丘上に存在しているが、近年の調査により丘陵、山麓斜面にもその分布域が広がることが判明した。

当地域には、川原畠、川原湯、林、横壁、長野原という5か所の大字がある。各大字は河川・段丘・道路などにより区画され、それぞれが特徴ある遺跡を包蔵する固有の領域をなしている。段丘様相と、それぞれの大字が包括する小地域の様相とが相互に影響しあい、地域の特性が形成されたといわれる。

第2項 歴史的環境

この地域の歴史については、すでに長野原町教育委員会の富田氏をはじめ多くの先人により詳細な説明がなされている。これらを参考とし、ハッカダム建設に伴う調査対象地域周辺の主な遺跡の分布図とその一覧表を掲載し、当地域の遺跡の概要を記述する。

旧石器時代

長野原町内では、いまだ旧石器時代の遺跡は確認されていない。吾妻川流域は応桑泥流や浅間・草津黄色軽石層(As-YPK)が厚く堆積している。そのため、柳沢城跡(57)から遺構外出土であるが、細石刃文化に伴うと考えられる珪質頁岩製のスクレイバーが出土したにとどまる。

縄文時代

長野原町内では吾妻川およびその支流の段丘面や丘陵部を中心に、多くの遺跡が存在する。

草創期の遺跡としては、石烟1岩陰(1)が挙げられる。奥行4m以上、幅40mの大規模な岩陰遺跡であり、草創期の表裏縄文などの出土が知られる。また横壁勝沼遺跡(46)では槍先形尖頭器が採取され、榎木II遺跡(44)では表裏縄文1点が出土している。

早期の遺跡は吾妻川左岸に多く、特に山間地の急傾斜地形の中に存在する、狭小な平坦地や緩傾斜地に占地する傾向が指摘されている。林地区では榎木II遺跡、立馬I遺跡(22)、立馬III遺跡(24)から早期の集落が検出されている。このほか中棚I遺跡(40)、花畠遺跡(25)などが知られる。また長野原地区では、長野原一本松遺跡(62)、幸神遺跡(59)、尾坂遺跡(60)で出土が報告されている。川原畠地区では三平I遺跡(4)から竪穴建物、三平II遺

跡(5)では当該期の資料が報告されている。

前期の遺跡は数少ないものの、漸増の傾向にあるとされ、河岸段丘面に集落が広がる傾向も指摘されている。

林中原I遺跡(34)や上原I遺跡(30)で前期初頭の集落が調査されている。

前期前葉～中葉段階では、榎木II遺跡や林中原I遺跡から黒浜式期の竪穴建物が検出されている。また、石烟I岩陰では関山II式や黒浜式が出土している。

前期後葉段階も、平野部での傾向に反し、当地域の集落規模は小規模にまとまるとされる。諸磯式期の集落は、三平I遺跡、榎木II遺跡、川原湯勝沼遺跡(21)等で数軒単位の竪穴建物や土坑が調査されている。林中原II遺跡(35)でも土坑が報告されている。また榎木III遺跡(45)では、包含層から出土した諸磯式土器が報告されている。

中期初頭段階の遺跡としては、上原II遺跡(31)が挙げられ、五領ヶ台II式の遺構と遺物の良好な出土が知られている。また同じ林地区の立馬II遺跡(23)、榎木II遺跡でも該期土器資料が出土している。

中期前葉段階のまとまった資料は少ないが、榎木II遺跡で竪穴建物3棟が検出されている。また前述した立馬II遺跡などで良好な土器の出土が見られるが、遺構を伴わない。榎木I遺跡(43)では1個体ながらも土坑からの出土が報告され、林中原II遺跡では土器2個体が共伴する土坑が調査されている。

中期中葉段階では、阿玉台I b式～II式段階の遺構として、林中原I遺跡で竪穴建物が、林中原II遺跡で土坑が検出されている。幸神遺跡では「焼町類型」を炉体土器とする竪穴建物が報告されている。

中葉後半段階の資料としては、上ノ平I遺跡(7)が知られる。また横壁中村遺跡(47)でも、土坑から該期の土器が出土している。なお下田遺跡(38)でも「新巻類型」の資料1点が土坑から出土している。またこの時期は、長野原一本松遺跡をはじめとして、各所で大型集落が確認されている。

後期も中期集落から継続する様相が見られるとされ、規模は縮小するものの吾妻川流域に広く分布している。敷石住居は、長野原一本松遺跡、横壁中村遺跡の他に林中原II遺跡、林中原I遺跡、久々戸遺跡(61)や向原遺跡(66)などでも調査されている。いずれも後期初頭から前葉段階の集落であり、称名寺式土器、堀之内式土器の他、

「茂沢類型」や三十稻場式など、隣接する長野県や新潟県域を中心とする土器群も見られる。中棚II遺跡(41)では水道遺構も検出されている。

後期中～後葉段階になると遺跡数は激減する。上原IV遺跡(33)、横壁中村遺跡で加曾利B式期の竪穴建物や掘立柱建物が、後葉段階では石川原遺跡(17)や横壁中村遺跡で竪穴建物が検出されているが、集落分布域が狭まる様相が指摘されている。

晚期前半段階の遺構としては、横壁中村遺跡や石川原遺跡で確認されたのみである。晚期末葉の資料はやや増え、立馬I遺跡、横壁中村遺跡で竪穴建物が、川原湯勝沼遺跡では再葬墓の要素を持つ土坑が検出されている。なおこの時期は、長野県の冰式や東北地方の大洞式などといった土器の出土もみられる。

弥生時代

遺跡数は希薄であるが、丘陵上あるいは最上位段丘面に立地する傾向が認められるとしてある。前期～中期の竪穴建物は横壁中村遺跡、立馬I遺跡、林中原II遺跡で検出されている。上原I遺跡では前期とされる短頭壺を伴う土坑が、三平I遺跡では前期末から中期前半とされる土坑が検出されている。また立馬I遺跡では中期に比定される甕棺墓も検出されており、上原III遺跡(32)では中期初頭の壺が出土している。

弥生時代後期になると、さらに遺跡数は減少する。石畠遺跡で土坑が検出されている。

古墳時代

上原I遺跡で前期と考えられる竪穴建物が検出され、S字状口縁台付甕や坩形土器が出土している。また、上原IV遺跡、林宮原遺跡(37)、下原遺跡(39)では後期の竪穴建物が検出されている。

奈良時代

奈良時代に比定される遺跡は希薄で羽根尾II遺跡が知られるのみである。

平安時代

9世紀後半代に至ると遺跡数が増加する。長野原一本松遺跡、横壁中村遺跡、尾坂遺跡、中棚I遺跡、上原I遺跡、上原III遺跡、上原IV遺跡、上ノ平I遺跡、林宮原遺跡、榎木I遺跡、榎木II遺跡、下湯原遺跡(13)など、各地区で集落が調査されている。古代の集落は吾妻川左岸に偏る傾向が指摘されてきたが、西ノ上遺跡(14)、石

川原遺跡、川原湯勝沼遺跡、横壁勝沼遺跡など吾妻川右岸からの検出も増加している。これらの集落遺跡からは、羽口、鉄滓、鎌、刀子、砥石など鍛冶関連遺物や鉄製品が出土しており、生産遺構としての鍛冶関連施設が各地区に点在しているとされる。

当地域の特徴的な該期遺構として、「陥穴状土坑」が挙げられる。イノシシ・シカなどを捕獲する罠獵遺構であるが、平安時代～中世に比定されるものが多数確認されている。

中世

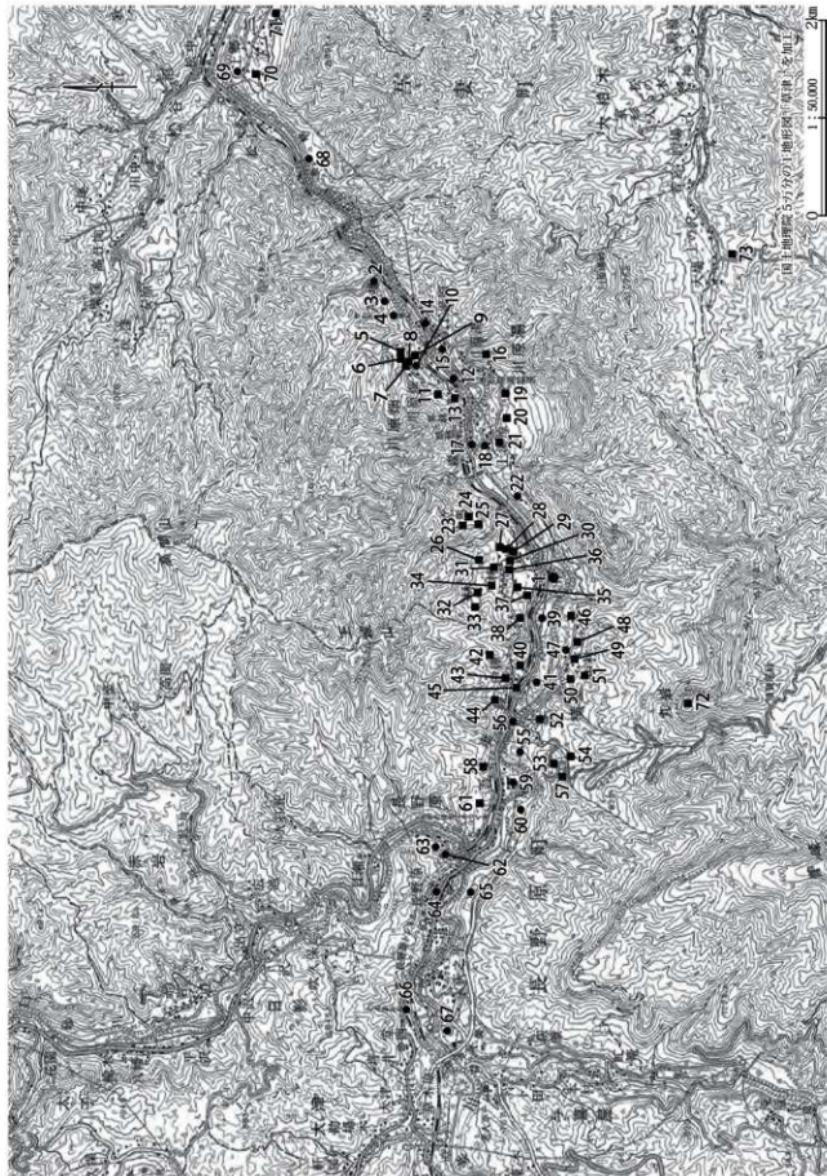
吾妻川流域には中世城館跡が点在する。金花山砦跡(15)、柳沢城跡、長野原城跡(63)、丸岩城跡(57)、羽根尾城跡や林城跡(36)が挙げられる。これらは、当時の交通網との関連が指摘され、交通の要衝に設けられたと考えられている。なお、下湯原遺跡では2列の柵と対になる掘立柱建物群が確認されている。城館跡以外では、横壁中村遺跡と下原遺跡で石垣に区画された屋敷跡が確認されている。また三平I遺跡、三平II遺跡、東原I遺跡(26)、東原II遺跡(27)、東原III遺跡(28)、林中原I遺跡、林宮原遺跡、二反沢遺跡(42)、榎木II遺跡、尾坂遺跡などで掘立柱建物や土坑、烟が調査されている。

近世

当地域の近世遺跡の多くは、天明3年(1783)の浅間山噴火に伴う泥流堆積物下の遺跡群である。民家の検出例としては東宮遺跡(9)、西宮遺跡(11)、石川原遺跡、下田遺跡、榎木I遺跡、尾坂遺跡、町遺跡(65)などが挙げられる。また、小林家屋敷跡(67)も長野原町教育委員会が調査した良好な遺構で、西宮遺跡、東宮遺跡と並び、民家の規模のみならず生業や性格まで窺わせる資料が出土している。さらに石川原遺跡では、民家以外に当時の寺の調査も行われている。なお東宮遺跡と西宮遺跡は天明泥流に埋没した江戸時代の村を面としてとらえ再構成することのできる調査といえる。

この他に当地域の天明泥流下の遺構としては、畠が各遺跡で調査されている。主に中位段丘面と下位段丘面に集中しており、近世農業の研究には欠かせない遺跡群となっている。

墓塚も多く、林中原I遺跡と林中原II遺跡以外にも、上ノ平I遺跡や横壁中村遺跡、下湯原遺跡、下田遺跡などでまとまった墓塚群が調査されている。当時の埋葬事



第1-4図 周辺の遺跡

例が窺える資料群である。

当地域の近世史研究にとり重要な資料となる天明3年以前の遺構や遺物も増加している。中棚II遺跡では安永期とされる畑、町遺跡では泥流下畑耕作土下位層から製

鉄関連遺構が調査されている。また時期は確定できないが、横堀中村遺跡における一字一石経の出土も近世社会における宗教様相の一端を知る資料となっている。

1-2表 周辺の主な遺跡

No.	遺跡名	所在地	主な時代	概要	参考	報告書等
1	石畳I岩陰	長野原町川原畠	縄文、弥生、平安、中世、近世	天明泥流下の畑、縄文時代草創期の土器出土。各時代の灰層。	昭53年度馬場県調査、平29～31年度事業団調査	3、5、8
2	石畳遺跡	長野原町川原畠	縄文、弥生、近世	天明泥流下の畑、石畳I岩陰。	平10.29.31年度事業団調査	8、12、77
3	二社平道跡	長野原町川原畠	縄文、平安、近世	天明泥流下の畑、二社平岩陰。	平10.28.29年度事業団調査	12、77
4	三平I遺跡	長野原町川原畠	縄文、弥生、平安	縄文時代早期～前朝の集落。弥生時代中期の土坑、平安時代の住居、陥し穴。	平16.17.24.25.29.30年度事業団調査	12、33、68、77、89、100
5	三平II遺跡	長野原町川原畠	縄文、平安、中世	縄文時代早期～前朝の集落。中世屋敷跡。	平16年度事業団調査	12、33
6	上ノ平I遺跡	長野原町川原畠	縄文、平安、近世	縄文時代中期～後期の集落。平安時代の住居、陥し穴、「貞觀水寶」敷石地。	平18.19.28年度事業団調査	37、69、91
7	上ノ平II遺跡	長野原町川原畠	縄文、平安、近世	近世の墓籠、石塔。		69
8	三ツ岩苔陰	長野原町川原畠	近世	天明泥流下の畠敷。大形の建物が良好な状態で検出。上台、大引、床板等多くの建築材が残る。また、下駄や頭冠、石臼等の当時の道具類が多く出土。縄文時代の住居、列石。	平28年度事業団調査	
9	東宮遺跡	長野原町川原畠	縄文、中世、近世	西宮集落北山中にある大きな岩の岩陰と岩の上の祭祀遺構。	平7、9.19～21.26～30.31年度事業団調査	12、59、64、77、83、90
10	西宮岩陰	長野原町川原畠	近世		平26年度事業団調査	88
11	西宮遺跡	長野原町川原畠	縄文、近世	天明泥流下の建物複数、酒蔵、道、石垣、井戸、煙等。	平20.26～30.31年度事業団調査	73、77、88、104
12	川原畠の宝鏡印塔	長野原町川原畠	近世	宝鏡印塔、絆石、諷謗神社跡。	平29年度事業団調査	104
13	下湯原遺跡	長野原町川原湯	縄文、平安、中世、近世	縄文時代の土坑、平安時代の住居、中世の墓地、近世の寺・道路。	平27～29.31年度事業団調査	77、87、102
14	西ノ上遺跡	長野原町川原湯	近世	天明泥流下の畑、平安時代の陥し穴、弥生時代の土坑等。	平14.27.29年度事業団調査	22、46、77、80、96
15	金花山古跡	長野原町川原湯	中世	中世山城、「川原湯真鏡」	平12年度教委・事業団調査	
16	前原遺跡	長野原町川原湯	近世		平29年度事業団調査	
17	石川原遺跡	長野原町川原湯	縄文、平安、近世	天明泥流下の建物と畑、道と水路。縄文時代中期の住居、列石、配石、水場遺構。平安時代の住居、陥し穴。	平20.25～31年度事業団調査	73、77、85
18	川原湯中原I遺跡	長野原町川原湯	縄文		平19年度教委調査	53
19	川原湯中原II遺跡	長野原町川原湯	平安		平17年度教委調査	31
20	川原湯中原III遺跡	長野原町川原湯	縄文、平安、中近世	縄文時代の住居と土坑。平安から近世にかけての土坑、陥穴。	平28年度事業団調査	58、77、93
21	川原湯勝沼遺跡	長野原町川原湯	縄文、平安、近世	縄文時代晚期の埋設土器、古墳時代の遺物。平安時代の住居、天明泥流下の畑。	平15.16.28.31年度事業団調査	12、21、77
22	立馬I遺跡	長野原町林	縄文、弥生、平安	縄文時代早期、飛鳥期の住居。弥生時代中期の住居と土器棺材。	平13.14.17年度事業団調査	27
23	立馬II遺跡	長野原町林	縄文、平安	縄文時代草創期、早期の土器、石器。中期初頭～前半の住居9軒。中期後半の住居1軒。平安時代前後の陥し穴等。	平14.15年度事業団調査	28
24	立馬III遺跡	長野原町林	縄文、平安	縄文時代早期の集落、前期、中期の住居、平安時代の陥し穴。	平19年度事業団調査	48
25	花畠遺跡	長野原町林	縄文、平安	平安時代の住居、陥し穴群。	平9～12年度事業団調査	12
26	東原I遺跡	長野原町林	縄文、平安	縄文時代土器片、陥し穴。平安時代住居。	平6、9.20.21年度事業団調査	31、46、54、69、80
27	東原II遺跡	長野原町林	縄文	縄文時代後期土器片、石器出土。	平10.20.21.30年度事業団調査	54
28	東原III遺跡	長野原町林	中世、近世	縄文時代早期～後期の包含層。中世の掘立柱建物。内耳鏡、古漁具等出土。江戸時代の礎石建物。	平20.21年度事業団調査	18、54
29	林の御塚遺跡	長野原町林	縄文		平7.10年度事業団調査	12

No	道跡名	所在地	主な時代	概要	備考	報告書等
30	上原Ⅰ道跡	長野原町林	縄文、平安、近世	縄文時代前期初頭の住居、中期の住居、平安時代の住居、陥し穴等。	平15年度町教委、平9.24年度事業団調査	12, 46, 74, 76
31	上原Ⅱ道跡	長野原町林	縄文	縄文時代中期の住居。	平16年度事業団調査	46, 76
32	上原Ⅲ道跡	長野原町林	平安	平安時代の住居、鍛冶遺構、陥し穴群。	平25.27年度事業団調査	46, 73, 74, 76, 81
33	上原IV道跡	長野原町林	縄文、近世	縄文時代後期の敷石住居、配石遺構、近世溝。	平15.21年度事業団調査	12, 16, 43, 46, 63, 76
34	林中原Ⅰ道跡	長野原町林	縄文、弥生、中世、近世	縄文時代前期～後期住居、配石等。中世の掘立柱建物。林城跡。	平19～21.30年度事業団調査	16, 17, 18, 25, 31, 46, 53, 57, 71, 76, 103
35	林中原Ⅱ道跡	長野原町林	縄文、弥生、中世	縄文時代後期の集落跡。敷石住居、晚期の土器群。中世の掘立柱建物。	平15.20.21年度町教委調査	18, 25, 31, 46, 60, 79, 89, 94
36	林城跡	長野原町林	中世			4, 71
37	林宮原遺跡	長野原町林	縄文、古墳、平安	古墳時代の住居1、平安時代の住居6、土坑6。	平15年度町教委、平24.27年度事業団調査	16, 18, 20, 25, 53, 61, 73, 74, 77, 103
38	下田道跡	長野原町林	平安、近世	天明泥流下の烟と建物。中近世の建物。平安時代の住居、陥し穴。	平7.25, 26, 28-30.31年度事業団調査	12, 73, 77, 82, 101
39	下原道跡	長野原町林	縄文、古墳、平安、中世、近世	天明泥流下の烟。中世の烟。古墳時代の住居。弥生時代の土器片等。縄文時代後期の住居。水田。	平12.15, 16.29年度事業団調査	12, 14, 36, 77, 95
40	中棚Ⅰ道跡	長野原町林	縄文、平安、中世	縄文時代早期の遺物、平安時代の住居。中棚の煙。	平23.28年度町教委調査、平29年度事業団調査	46, 76, 93, 97
41	中棚Ⅱ道跡	長野原町林	縄文、平安、近世	天明泥流下の烟。および安永九年と考えられる埋没烟等。縄文時代の住居。平安時代の住居。	平11～13.15.28～30年度事業団調査	14, 22, 77, 103
42	二反沢道跡	長野原町林	中世、近世	中世の石垣を伴う造跡跡。近世水路、煙。(旧大業院跡)	湯澤駆音岩隕。平12年度事業団調査	26, 93
43	楳木Ⅰ道跡	長野原町林	縄文、平安、近世	縄文時代の土坑。平安時代の住居。近世の遺物。	平10.21年度事業団調査	63
44	楳木Ⅱ道跡	長野原町林	縄文、平安、中世	縄文時代早期の集落跡、前期、中期の住居。平安時代の住居。中世の建物。	平11～13.16.17年度事業団調査	13, 42, 50, 77
45	楳木Ⅲ道跡	長野原町林	縄文、弥生	縄文時代前期、後期、弥生時代の包含層。	平9年度事業団調査	12, 73, 77
46	横壁勝沼道跡	長野原町横壁	縄文、弥生、平安	縄文時代中期～後期の土器片。槍先形尖頭器出土。平安時代の住居。	横壁勝沼Ⅰ道跡。平6, 7年度事業団調査、平29年度町教委試掘	12
47	横壁中村道跡	長野原町横壁	縄文、弥生、平安、中世	縄文時代中期後半～後期後半を中心とする集落跡。縄文時代晚期、弥生時代の土器片。平安と中世の遺物。	平8～18.30年度事業団調査	14, 23, 29, 30, 35, 44, 45, 51, 52, 55, 56, 65, 67, 72
48	山根Ⅰ道跡	長野原町横壁	縄文、平安	散布地、磨製石斧、石器、石棒などの石器類出土。		84
49	山根Ⅱ道跡	長野原町横壁	平安、近世	平安時代の散布地。	平24年度町教委調査	
50	山根Ⅲ道跡	長野原町横壁	縄文、中世	縄文時代中期後半の住居、土坑等。	平10.13.18年度事業団調査	12, 25, 31, 43
51	山根Ⅳ道跡	長野原町横壁	縄文、平安	縄文～平安時代の散布地。	平29年度町教委試掘	
52	西久保Ⅰ道跡	長野原町横壁	縄文、中世	縄文時代後期の住居、水場を検出。中世の礎石建物。	平6, 10.12.29年度調査	12, 98
53	西久保Ⅱ道跡	長野原町横壁	平安	散布地。	平29年度町教委試掘	93
54	西久保Ⅲ道跡	長野原町横壁		散布地。		
55	西久保Ⅳ道跡	長野原町横壁	縄文、近世	天明泥流下の烟。縄文時代の土坑等。	平21.23.31年度事業団調査	58, 63, 77, 80
56	西久保Ⅴ道跡	長野原町横壁	縄文、古墳、近世	天明泥流下の烟。水田	平28.29年度事業団調査	77, 98
57	丸岩城跡	長野原町横壁	中世	上塙、水場遺存。(加沢記)		1, 2, 4
58	柳沢城跡	長野原町横壁	中世	別城一部付随と呼ばれる特殊な構造、曲輪、堀、上塙などを検出。常滑、瀬戸、美濃、洲洲焼、さらには中国陶磁などが出土。	平5年度町教委調査	7
59	幸神道跡	長野原町長野原	縄文、平安	縄文時代中期の住居・土坑・陥し穴、烟跡	平8, 9.14.17.18年度事業団調査	43
60	尾坂道跡	長野原町長野原	縄文、弥生、平安、中世	天明泥流下の烟、建物。縄文時代住居、上塙、弥生時代の再葬墓、土坑。平安時代の住居、土坑等。	平6, 7.11.18～23.25.26.28～30年度事業団調査、平23.26年度に長野原草津口駅舎整備に伴う調査として一部調査	12, 58, 62, 77, 78, 86
61	久々戸道跡	長野原町長野原	縄文、弥生、近世	天明泥流下の烟、建物。縄文時代中期の住居、晚期の土器片。	平7, 9～11.15.26～28年度事業団調査	10, 14, 22, 53, 77, 81

第1章 ハッ場ダム発掘調査の経緯・方法と周辺の環境

No	遺跡名	所在地	主な時代	概要	備考	報告書等
62	長野原一本松遺跡	長野原町長野原	縄文、平安、中世	縄文時代中期～後期にかけての集落跡、大形の掘立柱建物、敷石住居などを検出。平安時代の住居、中世の掘立柱建物や多くの土坑等が検出されている。	平6～17.19.20年度事業団調査	11、34、40、41、49、66、70
63	長野原城跡	長野原町長野原	中世	土塁や堀切、物見台などが残る。長野原合戦の舞台となる。	平23年度事業団調査	1、4、71
64	柏木I遺跡	長野原町長野原	近世	天明泥流下の烟跡、中近世の陶磁器片。	平16年度町教委調査	25
65	町遺跡	長野原町長野原	近世	天明泥流下の烟。	平23～25.30年度事業団調査、平28年度町教委調査	75
66	向原遺跡	長野原町長野原	縄文、弥生、平安	縄文時代中期後半～後期の住居3軒、敷石住居2軒、土坑群。弥生時代中期の土坑、平安時代の土坑10軒を検出。	平5年度町教委調査	9、19
67	小林家屋敷跡	長野原町長野原	近世	天明泥流に埋没した敷石、礎石建物2軒、上蔵1軒。石垣等。分限者小林助左右衛門屋敷の一部。	平14年度町教委調査	15、16、24
68	旧新井村跡	長野原町与喜屋	近世	昭和55年、自衛隊による町民グラント成中に泥流で埋没した屋敷が発見された。日待供養塔、石臼。農具などが出上。		2、6
69	上郷西遺跡	東吾妻町三島	縄文、弥生、平安、近世	天明泥流下の烟、弥生時代前期の土坑と遺物。平安時代の住居。	平19年度事業団調査	39
70	上郷岡原遺跡	東吾妻町三島	縄文、平安、近世	天明泥流下の烟、水田、礎石建物等。近世の墓坑。平安時代の住居、繩文時代の住居、土坑。	平14.15.17～19年度事業団調査	32、38
71	上郷A遺跡	東吾妻町三島	縄文、平安、中世	縄文時代中期後半の集落跡。	平15.19.20年度事業団調査	22、47
72	上郷B遺跡	東吾妻町三島	縄文、平安、中世	平安時代の住居。多様な形態で幅広い時期にわたる窓穴。中近世の墓壙。	平13.14年度事業団調査	26
73	廢石A遺跡	東吾妻町大柏木	縄文、近世	縄文時代の窓穴。近世の墓壙。	平13年度事業団調査	26

文献リスト

- 1 山崎一、山口武夫1972「吾妻郡城壁史」西毛新聞社
- 2 長野原町誌編纂委員会1976『長野原町誌』長野原町
- 3 日本考古学会1980『日本考古学年報』31 日本考古学会
- 4 群馬県教育委員会1988『群馬県の中世城館跡』群馬県教育委員会
- 5 群馬県史編纂委員会1988『群馬県史 資料編1 原始古代1』群馬県
- 6 長野原町教育委員会1990『長野原町の遺跡』長野原町教育委員会
- 7 長野原町教育委員会1995『柳沢城』長野原町教育委員会
- 8 長野原町教育委員会1996『石畑遺跡 略報』長野原町教育委員会
- 9 長野原町教育委員会1996『向原遺跡』長野原町教育委員会
- 10 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団1998『長野原久々戸遺跡』(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 11 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2002『長野原一本松遺跡(1)』(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 12 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2002『ハッ場ダム発掘調査集成(1)』(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 13 長野原町教育委員会2002『町内遺跡Ⅰ』長野原町教育委員会
- 14 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2003『久々戸遺跡・中崩Ⅱ遺跡・下原遺跡・横壁中村遺跡』(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 15 長野原町教育委員会2003『町内遺跡Ⅱ』長野原町教育委員会
- 16 長野原町教育委員会2003『町内遺跡Ⅲ』長野原町教育委員会
- 17 群馬大学教育学部2004『尾崎喜佐雄博士 調査収集考古遺物・調査目録』雄山閣
- 18 長野原町教育委員会2004『町内遺跡Ⅳ』長野原町教育委員会
- 19 長野原町教育委員会2004『町内遺跡Ⅴ』長野原町教育委員会
- 20 長野原町教育委員会2004『林宮原遺跡Ⅱ』長野原町教育委員会
- 21 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2005『川原湯勝沼遺跡(2)』(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 22 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2005『久々戸遺跡(2)・中崩Ⅱ遺跡(2)・西ノ上遺跡・上郷A遺跡』(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 23 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2005『横壁中村遺跡(2)』(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 24 長野原町教育委員会2005『小林家屋敷跡』長野原町教育委員会
- 25 長野原町教育委員会2005『町内遺跡V』長野原町教育委員会
- 26 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2006『上郷B道路・廣石A遺跡・二反沢遺跡』(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 27 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2006『立馬I遺跡』(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 28 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2006『立馬II遺跡』(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 29 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2006『横壁中村遺跡(3)』(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 30 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2006『横壁中村遺跡(4)』(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 31 長野原町教育委員会2006『町内遺跡VI』長野原町教育委員会
- 32 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2007『上郷岡原遺跡(1)』(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 33 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2007『三平Ⅰ・三平Ⅱ遺跡』(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 34 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2007『長野原一本松遺跡(2)』(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 35 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2007『横壁中村遺跡(5)』(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 36 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2007『下原遺跡Ⅱ』(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 37 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2008『上ノ平I遺跡(1)』群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 38 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2008『上郷岡原遺跡(2)』(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 39 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2008『上郷西遺跡』(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団

- 40 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2008『長野原一本松遺跡(3)』
(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 41 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2008『長野原一本松遺跡(4)』
(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 42 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2008『榆木Ⅱ遺跡(1)』(財)
群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 43 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2008『山根Ⅲ遺跡(2)・上原Ⅳ遺跡・辛神遺跡』(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 44 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2008『横壁中村遺跡(6)』(財)
群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 45 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2008『横壁中村遺跡(7)』(財)
群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 46 長野原町教育委員会2008『町内遺跡Ⅷ』長野原町教育委員会
- 47 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2009『上郷A遺跡(2)』群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 48 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2009『立馬Ⅲ遺跡』(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 49 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2009『長野原一本松遺跡(5)』
(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 50 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2009『榆木Ⅱ遺跡(2)』(財)
群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 51 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2009『横壁中村遺跡(8)』(財)
群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 52 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2009『横壁中村遺跡(9)』(財)
群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 53 長野原町教育委員会2009『町内遺跡Ⅸ』長野原町教育委員会
- 54 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2010『東原Ⅰ遺跡・東原Ⅱ遺跡・東原Ⅲ遺跡』(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 55 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2010『横壁中村遺跡(10)』(財)
群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 56 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2010『横壁中村遺跡(11)』(財)
群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 57 長野原町教育委員会2010『林中原Ⅰ遺跡Ⅳ』長野原町教育委員会
- 58 群馬県教育委員会2011『群馬県内公開発行に伴う平成21年度県内遺跡発掘調査報告書』群馬県教育委員会
- 59 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2011『東宮遺跡(1)』(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 60 長野原町教育委員会2011『町内遺跡Ⅹ』長野原町教育委員会
- 61 長野原町教育委員会2011『林宮原遺跡Ⅹ』長野原町教育委員会
- 62 (公財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2012『尾坂遺跡』(公財)群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 63 (公財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2012『榆木Ⅰ遺跡・上原Ⅳ遺跡(2)・西久保Ⅳ遺跡』(公財)群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 64 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2012『東宮遺跡(2)』(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 65 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2012『横壁中村遺跡(12)』(財)
群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 66 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2013『長野原一本松遺跡(6)』
(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 67 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2013『横壁中村遺跡(13)』
(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 68 長野原町教育委員会2013『三平Ⅰ遺跡』長野原町教育委員会
- 69 長野原町教育委員会2013『町内遺跡ⅩⅢ』長野原町教育委員会
- 70 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2014『長野原一本松遺跡(7)』
(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 71 (公財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2014『長野原城跡・林中原Ⅰ遺跡』(公財)群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 72 (公財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2014『横壁中村遺跡(14)』
(公財)群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 73 群馬県教育委員会2015『群馬県内公開発行に伴う平成25年度県内遺跡発掘調査報告書』群馬県教育委員会
- 74 (公財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2015『上原Ⅰ遺跡・上原Ⅲ遺跡・林原Ⅲ遺跡』(公財)群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 75 (公財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2015『町遺跡』(公財)群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 76 長野原町教育委員会2015『林地区遺跡群』長野原町教育委員会
- 77 群馬県教育委員会2016『群馬県内公開発行に伴う平成26年度県内遺跡発掘調査報告書』群馬県教育委員会
- 78 (公財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2016『尾坂遺跡(2)』(公財)
群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 79 (公財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2016『林中原Ⅱ遺跡(1)』
(公財)群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 80 長野原町教育委員会2016『町内遺跡ⅩⅤ』長野原町教育委員会
- 81 (公財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2017『上原Ⅲ遺跡(2)・久々戸遺跡(3)』(公財)群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 82 (公財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2017『下田遺跡(2)』(公財)
群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 83 (公財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2017『東宮遺跡(3)』(公財)
群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 84 長野原町教育委員会2017『町内遺跡ⅩⅥ』長野原町教育委員会
- 85 (公財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2018『石川原遺跡(1)』(公財)
群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 86 (公財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2018『尾坂遺跡(3)』(公財)
群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 87 (公財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2018『下湯原遺跡(1)』(公財)
群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 88 (公財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2018『西宮遺跡(1)・西宮岩遺跡』(公財)群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 89 (公財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2018『林中原Ⅱ遺跡(2)』
(公財)群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 90 (公財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2018『東宮遺跡(4)』(公財)
群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 91 (公財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2018『上ノ平Ⅰ遺跡(3)』
(公財)群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 92 (公財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2018『川原湯中原Ⅲ遺跡』
(公財)群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 93 長野原町教育委員会2018『町内遺跡ⅩⅦ』長野原町教育委員会
- 94 (公財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2019『林中原Ⅱ遺跡(3)』
(公財)群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 95 (公財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2019『下原遺跡(3)』(公財)
群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 96 (公財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2019『西ノ上遺跡(2)』(公財)
群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 97 (公財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2019『中棚Ⅰ遺跡』(公財)
群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 98 (公財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2019『西久保Ⅰ(2)遺跡・
西久保Ⅴ遺跡』(公財)群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 99 (公財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2019『川原湯沼遺跡(3)』
(公財)群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 100 (公財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2020『三平Ⅰ遺跡(2)』(公財)
群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 101 (公財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2020『下田遺跡(3)』(公財)
群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 102 (公財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2020『下湯原遺跡(2)』(公財)
群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 103 (公財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2020『林宮原遺跡(2)・
林中原Ⅰ遺跡(2)・中棚Ⅱ遺跡(2)』(公財)群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 104 (公財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2020『西宮遺跡(2)・川
原湯の宝塚印跡』(公財)群馬県埋蔵文化財調査事業団

第2章 尾坂遺跡(4)

第1節 調査に至る経緯と経過

第1項 調査に至る経緯

尾坂遺跡は、平成6・7年度の立会・試掘調査の成果を踏まえ平成11年度より発掘調査が行われ、平成11年度の調査成果は平成14年刊行の「ハッカダム発掘調査集成(1)」(財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団、2002)に収録された。また、平成18年度には川原畑地区代替地造成工事に伴う発掘調査が行われ、平成28年に「尾坂遺跡(2)」(公益財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団、2016)が刊行された。なお、平成12年度以降は工事進捗に伴い数次にわたる調査が行われ、その成果は平成30年に「尾坂遺跡(3)」(公益財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団、2018)として刊行されている。平成30年度の発掘調査はこれらに続くものであり、旧JR吾妻線線路敷の橋架部分を隔て、東側を1区、西側を2区と調査区設定して調査にあたった。また調査地点は異なるが、長野原町教育委員会により、平成23年度に試掘調査、平成25年度には本調査も実施されている。また、長野原草津口駅舎整備に伴う発掘調査の成果を付した。

駅舎整備に伴い平成23年度に実施された発掘調査の成果は、平成24年度に「尾坂遺跡」(公益財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団、2012)として刊行されている。調査区の南側では長野原町によって太子線関連施設が発掘調査されている。なお、平成26年度に実施された長野原草津口駅舎整備に伴う発掘調査の成果を付した。

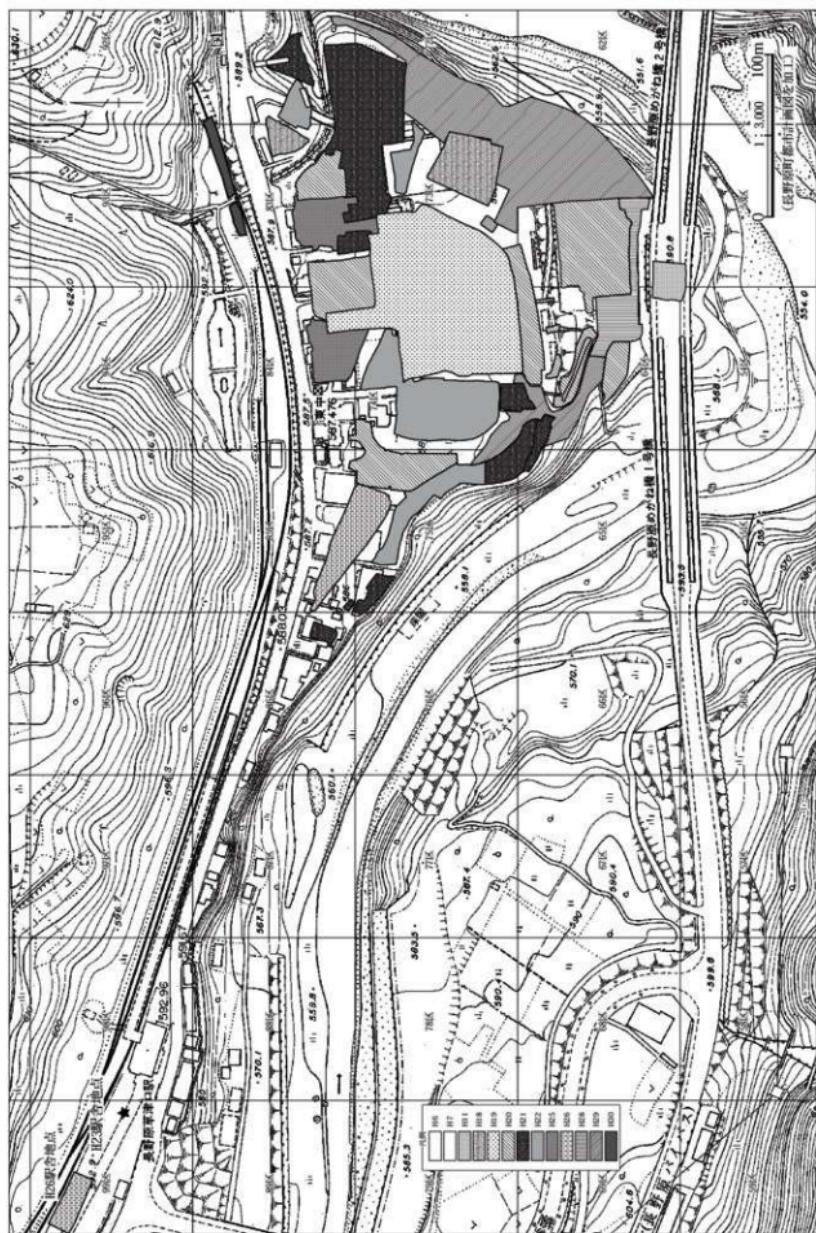
第2項 調査の経過

平成26年度の発掘調査は平成26年9月29日より本格的な調査に着手した。表土掘削の終了した部分から遺構確認を行い、測量業者による遺構地上測量と調査担当者による記録写真撮影を行った。下層の黒色土中の確認調査を実施したが、遺構・遺物の検出はなく、10月2日には埋め戻し、安全柵撤去などを行い、遺跡内の調査業務を終了した。

平成30年度の発掘調査は平成30年11月1日～平成30年12月28日に実施された。調査区は狭小であり、また線路敷の盛土も厚いため、安全確保を優先し、掘削可能な範囲を対象とするトレーンチ調査とした。

11月2日より東西に分かれた調査区のうち東側1区の





第2-2図 調査区位置図

第2章 尾坂遺跡(4)

調査に着手した。1区は、トレンチを3か所設定した。1～2号トレンチでは、規定の掘削深度に至るも遺構を確認することはできなかった。最も東側の3号トレンチでは、旧JR吾妻線のトンネルに向かう地形を切り盛りした箇所が確認でき、僅かであるが天明泥流下の地形を確認するにとどまった。

11月5日に1区の調査を一端終了し、12月4日から調査を再開、西側2区の調査に着手した。4号トレンチの西端では、線路敷の盛土を1.3mほど取り除きさらに掘削したが、規定の掘削深度に至るも遺構確認面まで到達することができなかった。しかしながら、5号トレンチからは、天明3年(1783)の浅間山噴火で発生した天明泥流堆積物が確認され、その下位にこの時に降下したAs-Aがほぼ全面覆い広がる基壇状の石積と段差を確認した。付近では、天明泥流に際し、尾坂の地蔵堂跡の宝篋印塔が被害を免れたとの伝承があり、天明泥流に被災した堂宇に関する遺構である可能性も考えられるが、調査範囲が狭小なため、これ以上の調査を進め確認することができなかった。遺物の出土はなく全ての調査を終了した。

第2節 遺跡の立地と基本土層

第1項 遺跡の立地

群馬県吾妻郡長野原町大字長野原に所在する尾坂遺跡は、長野原町を東流する吾妻川の蛇行により形成された、南に大きく突き出た左岸中位河岸段丘上に位置している。今回報告する調査区は山地斜面に近い、台地北端に存在し、調査区の標高は590m内外である。平成26年度の調査区は駅舎の西側に当たり、この南側の地点からは長野原町によって太子線関連施設が発掘調査されている。平成30年度の調査区はJR長野原草津口駅から東側に450mほどの、旧吾妻線の線路敷部分であり、河床からの比高は約40mである。

第2項 基本土層

平成30年度の調査では掘削深度が及ばなかったため下層の状況は明確にされなかつたが、基本土層としては既報の層序が踏襲されると考えられる。ただし、平成30年度調査区では黒褐色土層の下位に亜円礫を大量に含む砂

礫層が存在しており、既報のD区1号壁の層序に近しいと推察される。

第3節 検出された遺構と遺物

第1項 調査の概要

平成26年度の調査区から、As-Aの詰まった東西方向のサクが筋状に確認されたが、太子線以後に生じた攪乱によりその大半が壊されていた。また、南側調査区境界近くに石垣を作らと思われる段差があり、この周辺からも天明3年に降下したAs-Aが認められた。この石垣を作ら段差は太子線関連施設でも再利用されているが、石垣の多くは失われていた。太子線関連施設としては、当初の段階のものは確定できないが、直徑40cmほどのコンクリート製の柱が埋め込まれた状態で確認された。

平成30年度の調査地点は、旧JR吾妻線の線路敷のため調査区の幅が狭く、規定の掘削深度に至るも遺構確認面まで至れぬ地点が多く、天明泥流下の状況が伺えた地点は2か所である。遺構としては東側の調査区から石積遺構が検出されたのみである。石列より北側に平坦な面が確認され、ほぼ一様に軽石が堆積していた。

第2項 遺構と遺物

1 6号烟(第2-3図、PL. 2)

位置 99区M～P-17～18グリッド、平成26年度調査区東端に位置する。

歴のビッチ 0.47m

歴の走行方位(度) N-60-W

付属施設 なし。

遺物 なし。

所見 傾斜に交差する方向に歴の走る、中間的な間隔の歴を持つ烟と推測される。

2 1号石積遺構(第2-7図、PL. 2)

位置 83区N～P-19グリッド、平成30年度調査区西端に位置する。

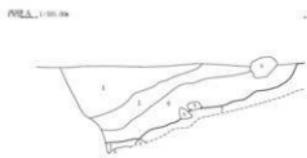
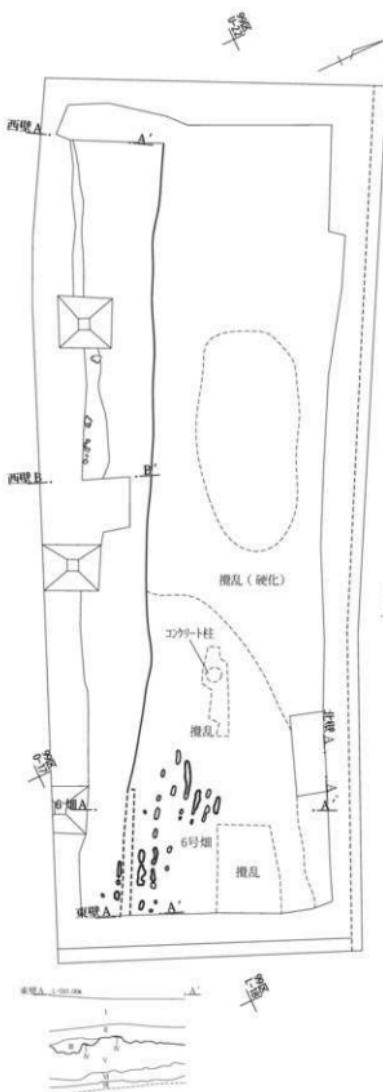
形状等 石積は最大で50cm程の礫を用い、5～20cm大的の礫で入念に裏込めが施されている。石積北側は平坦面を構成する。

規模 (5.43) × 0.56m

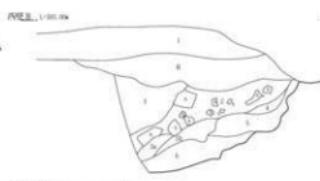
走行方位(度) N 8-E

遺物 なし。

所見 石積裏込めは石積基部から背部にかけて施されている。石積の南北に平坦面を確保するため、入念な地業がなされたと推測される。



- 西壁**
- I 表土碎石土主体
 - II 暗褐色土と碎石の混土
 - 1 暗褐色土。小礫混じりしより弱い。
 - 2 暗褐色土に人頭大の角礫含む。石垣の転落礫か。
 - 3 a 暗褐色土。締まり弱く、わずかに礫含む。
 - 3 b 3 a層より黒色土多く、しまりあり。
 - 4 黄褐色土上
 - 5 暗黄褐色土。ロームに暗褐色土、礫含む。
 - 6 黄褐色砂礫。地山砂礫層に暗褐色土混じり。
 - 7 ローム混じりの砂礫層(地山)

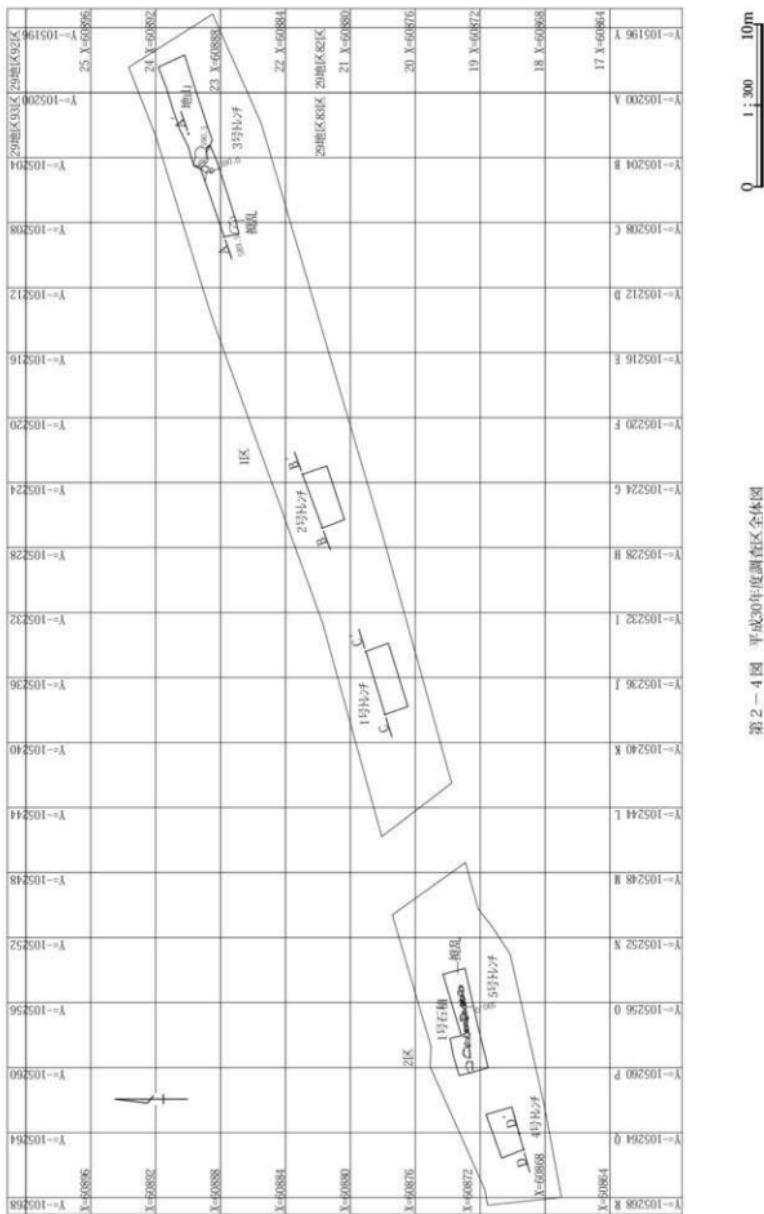


- 北壁・東壁共通**
- I 表土碎石土主体
 - II 暗褐色土と碎石の混土
 - II' II層の硬化的した層
 - III 天明泥流
 - IV As-A
 - V 暗褐色土。上部やや粘性あり、下部粘性無く、やや締まり弱い。
 - VI くすんだ黄褐色。ローム漸位層、やや砂質。
 - VII ローム層、やや砂質。

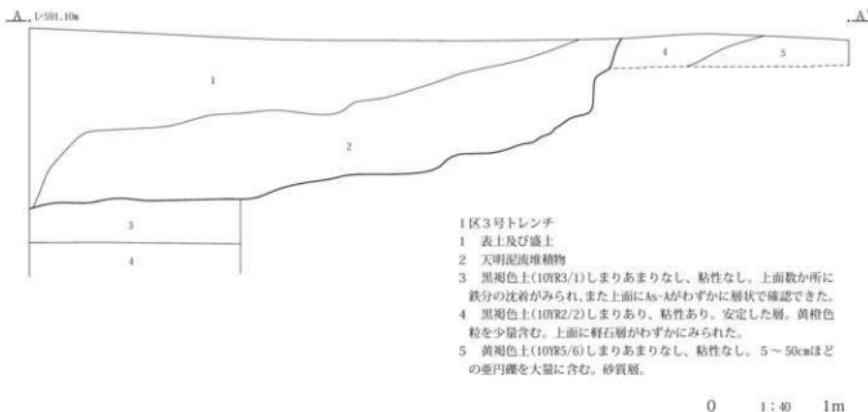


6号A 100.00m

第2-3図 平成26年度調査区



第2-4図 平成30年度調査区全体図

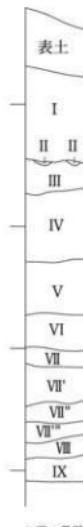


B区4号壁

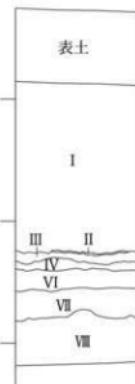
I 天明泥流堆植物
II As-A
III 黒褐色土(10YR3/1)天明泥流下烟耕作上。白色粒を若干含む。
IV 黑褐色土(10YR2/2)褐色ブロック上。白色粒、黄褐色粒を多量に含む。
V 黑褐色土(10YR3/4)白色粒、黒色ブロック土を少量含む。下位に鐵分沈着有。
VI 明黄褐色土(10YR6/6)砂質上。黄褐色粒を若干含む。
VI' 黄褐色土(10YR5/8)砂質上。黄褐色粒を少量含む。
VI'' 明黄褐色土(10YR6/6)砂質上。白色粒を若干含む。
VI''' 黄褐色土(10YR5/6)砂質上。
VII 灰黃褐色土(10YR4/2)砂質上。黒色土が若干混じる。
VIII 黄褐色土(10YR5/8)砂質上。白色蛭石を少量含む。

D区1号壁

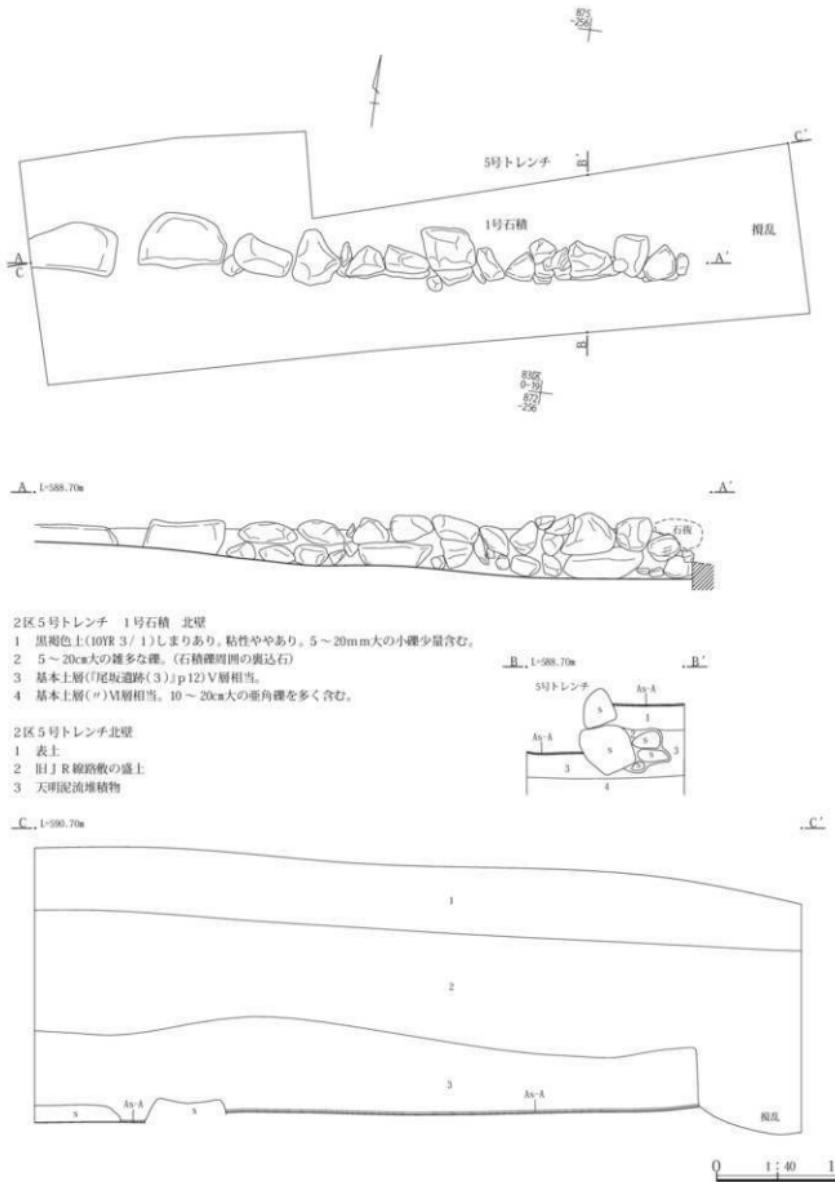
I 天明泥流堆植物
II As-A
III 黒褐色土(10YR3/1)天明泥流下烟耕作上。白色粒を若干含む。
IV 黑褐色土(10YR3/1)天明泥流下烟耕作上。白色粒、黄褐色粒。1~5cm大の亜角礫を少量含む。
VI 喀褐色土(10YR5/3)白色粒、黄褐色粒を多量。炭化物粒。1~10cm大の亜角礫を少量含む。
VII 黄褐色土(10YR5/8)シルト質上。白色粒、黄褐色粒。黒色ブロック土を多量。1~20cm大の亜角礫、炭化物粒を少量含む。
VIII 明黄褐色土(10YR6/8)砂質上。礫層。1~50cm大の亜円礫を大量、白
色粒、黄褐色粒。黒色ブロック土を若干含む。



B区4号壁



D区1号壁



第2-6図 2区 1号石積遺構

第3章 町遺跡(2)

第1節 調査に至る経緯と経過

第1項 調査に至る経緯

群馬県吾妻郡長野原町大字長野原に所在する町遺跡の発掘調査は、八ッ場ダム建設工事に係る県道林・長野原線建設に伴い実施された。町遺跡は、群馬県教育委員会による平成23年5月31日の試掘調査で遺構が確認され、同年6月10日に長野原町教育委員会から新規遺跡として県教育委員会文化財保護課に届け出がされた。町遺跡の調査にあたっては、平成23年度当初の発掘調査計画には挙がっていなかったものの、群馬県教育委員会と国土交通省八ッ場ダム工事事務所との協議を経て、平成23年6月21日付けで八ッ場ダム工事事務所長から発掘調査の追加調査依頼を群馬県教育委員会文化財保護課が受け、同日、同文化財保護課から当埋蔵文化財調査事業団へ発掘調査の実施の通知があった。これにより、当事業団では7月からの発掘調査に向けて準備が進められた。なお、工事計画との調整から、発掘調査は平成23年度から平成25年度の3ヶ年に亘って断続的に継続する形となった。

この調査により、天明泥流下から礎石、東、大引、根太、床板、床敷物が良好な状態で出土した大型建物や、烟跡、石垣などが確認されている。また陶磁器、漆器、木製品、石製品などが多種多量に出土しており、漆塗横笛、扇子、将棋駒、小型弓といった調度品や遊戯具も出土している。この成果は既に『町遺跡』(公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団、2015)として刊行されている。

本章で報告する調査はこれに続くものであり、平成24年度調査区の南に隣接する607m²の範囲が調査対象地である。調査期間は作業工程の打ち合わせや調査区の環境整備も含めた、平成30年9月21日～9月28日である。

第2項 調査の経過

平成30年9月21日より調査に着手した。調査区が狭小であったため、およそ2m×5mの範囲でトレーンチを設定し、調査を行った。調査区は天明3(1783)年に浅間山の噴火に伴い発生した天明泥流によって50cmほどの厚さで覆われていた。その堆積物を、掘削機械を用いて除去することで遺構面を表させた。遺構面は、流下した泥流の衝撃により削平された部分が多くあったが、過年度



の調査で確認された調査区中央辺に位置する畠地がさらに南に続いていることを確認することができた。

2面目の確認調査として、調査区南西部に約50cm×150cmの範囲でトレンチを設定し調査を行ったが、遺構は確認されなかった。平成30年9月28日、埋め戻しを行い、調査を終了した。

第2節 遺跡の立地と基本土層

第1項 遺跡の立地

町遺跡は群馬県吾妻郡長野原町大字長野原に所在する。本遺跡は、長野原町を東流する吾妻川と南流する白砂川の合流点の北西、吾妻川左岸の中位段丘面に位置する。北側背面には長野原城跡があり、遺跡の標高は約570mである。長野原市街を通る国道145号線の南側は、吾妻川への急崖が続いており、調査区周辺から西側に長野原市街地が広がっている。今回の調査区は、長野原草津口駅から諏訪神社前を過ぎた、市街地へ向かう国道145号線沿いであり、林地区からおりてくるバイパスとの接合部付近の手前にあたり、平成24年度の調査範囲に隣接する。

第2項 基本土層

天明3年の泥流の下に白色軽石のAs-A（浅間A軽石）に覆われた畠が広がり、畠面下はAs-Aと黄褐色土のローム層に挟まれた厚さ20cm程度の耕作土層が堆積している。この状況は既報の各調査区と共通するものであり、基本土層は既報を踏襲する。

第3節 検出された遺構と遺物

第1項 調査の概要

調査範囲が狭小のため、畠1区画の検出にとどまった。なお、畠の下位から遺構は検出されなかった。

第2項 遺構と遺物

畠の畠のピッチは、畠1条とその谷・溝1条をあわせ

て1単位とし、耕作地の中から連続して4単位が確認できる部位を選び、その幅を測り単位数で除したものである。畠幅あるいは床幅ではない。1畠に1条を植えた場合の条と隣の畠の条との間隔あるいは畠幅の推計値に近い。計測は縮尺1/40の遺構図を対象とした。

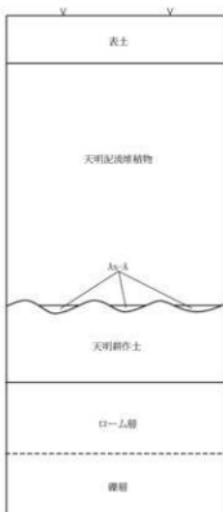
1 12号畠(第3-3図、PL. 3)

位置 23区G～H-22～23グリッド。

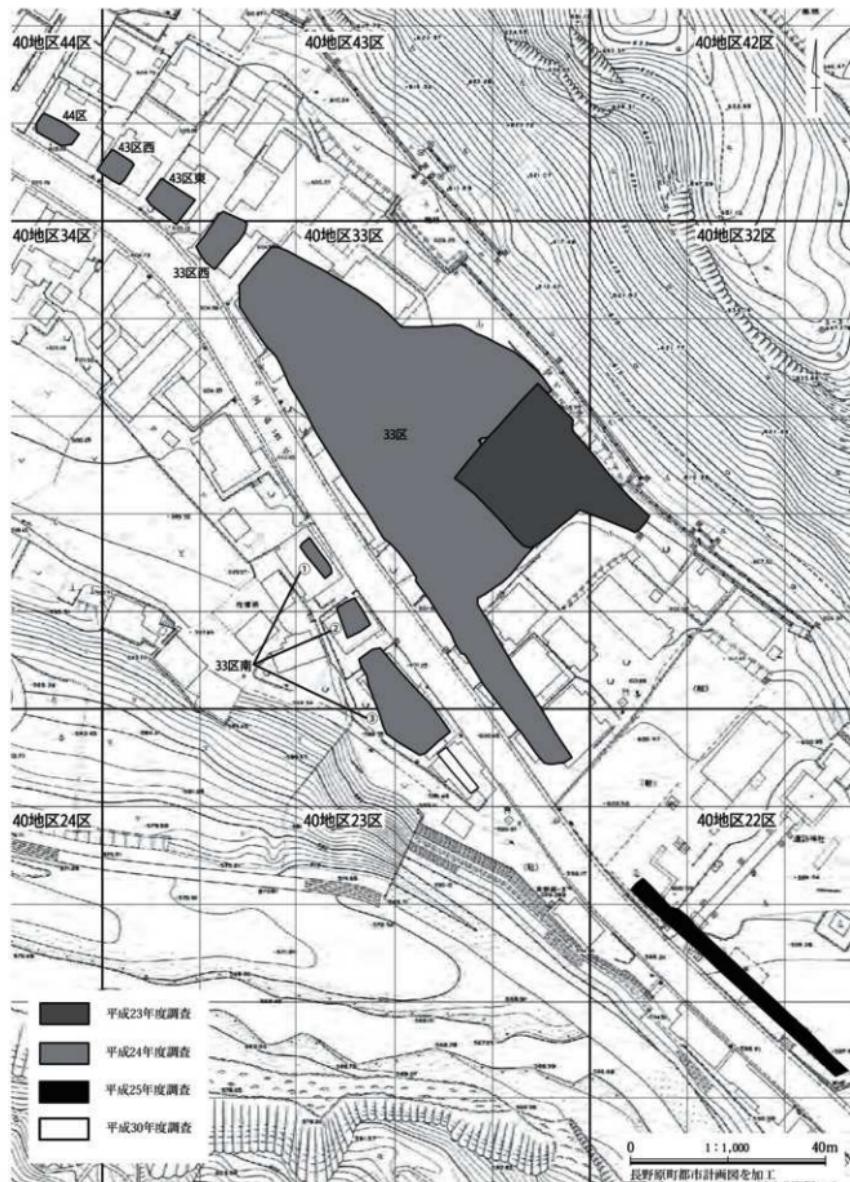
畠のピッチ 0.48m

畠の走向(度) N-65-W

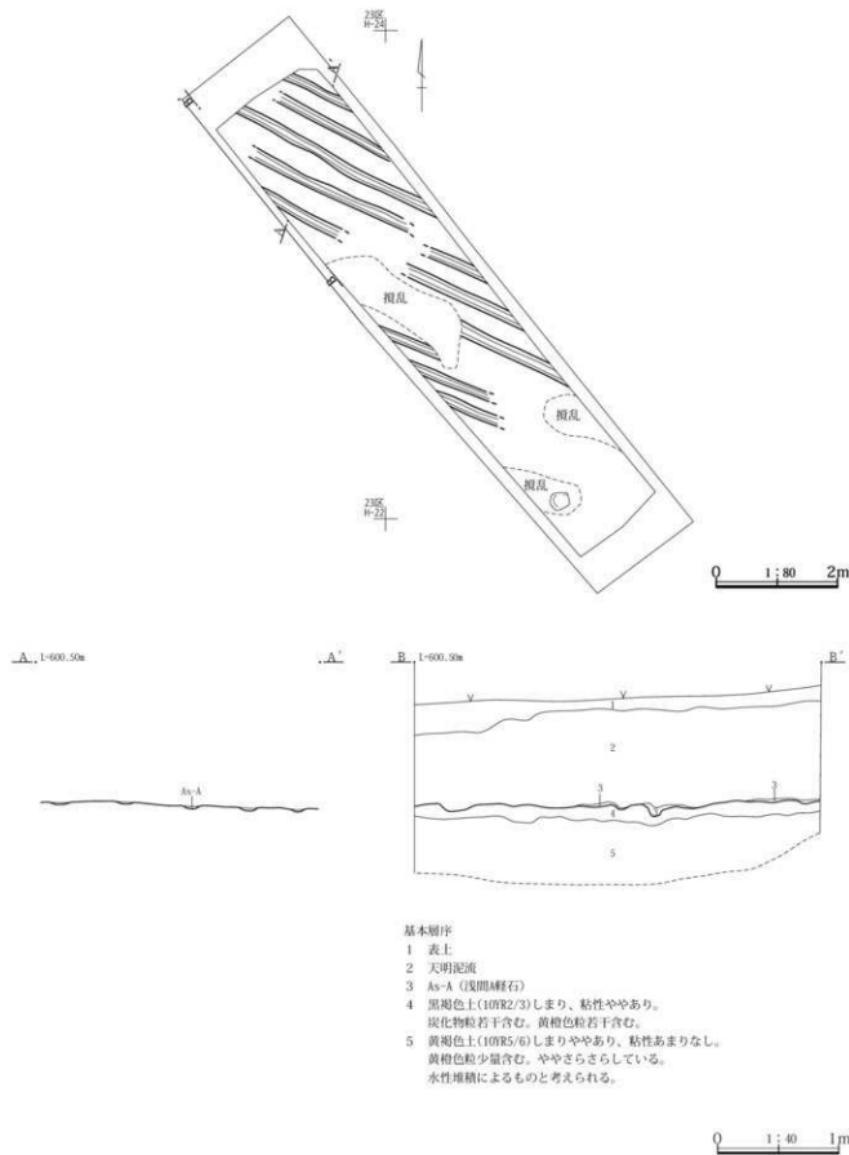
所見 畠のピッチは平成24年度に検出された9号畠の範囲(42.0～49.0cm)に収まるものの、畠の走向が9号畠の範囲(58～60度)より西に5度傾くため別遺構とした。



第3-2図 基本土層



第3-3図 調査区位置図



第3-4図 全体図

第4章 東原Ⅱ遺跡(2)

第1節 調査に至る経緯と経過

第1項 調査に至る経緯

東原Ⅱ遺跡は群馬県吾妻郡長野原町大字林字東原に所在する周知の埋蔵文化財包蔵地であり、隣接する東原Ⅰ遺跡・東原Ⅲ遺跡とともに調査が進められた。国道145号線新設工事に伴い、平成20年3月21日から3月26日に群馬県教育委員会文化課による試掘・確認調査が実施された。さらに、平成20年6月25日・26日に群馬県教育委員会文化財保護課による試掘調査の結果、土坑や陥し穴、ピット、溝などの遺構のほか繩文土器が確認されたため、本格的な発掘調査が必要であると判断された。

発掘調査は平成20年7月1日から開始され、東原Ⅱ遺跡の一部から着手したのち、東原Ⅰ遺跡・東原Ⅱ遺跡・東原Ⅲ遺跡の順に継続して調査を行い平成20年11月10日で終了した。平安面及び繩文面の2面から土坑、ピット、掘立柱建物、溝、焼土遺構、削平面などの遺構が検出され、この調査成果は既に『東原Ⅰ遺跡・東原Ⅱ遺跡・東原Ⅲ遺跡』(財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団、2010)

として刊行されている。

本調査はこれに続くものであり、調査区は前回調査地の東に位置する。調査区全体を中グリッドの区分に基づき、70区と80区に区分けし、合計1,581m²の範囲の調査を行った。調査期間は平成30年7月17日～8月24日である。調査に至る経緯の詳細は「第1章第1節 発掘調査に至る経緯」『東原Ⅰ遺跡・東原Ⅱ遺跡・東原Ⅲ遺跡』(財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団、2010)を参照されたい。

第2項 調査の経過

平成30年7月17日から調査を開始した。調査区の東側から掘削機械による表土掘削を行い、その後作業員による遺構精査を行った。

8月3日に調査区の全景写真を撮影し、その後、旧石器時代確認調査を行い8月10日に確認調査を終了した。8月20日より掘削機械による埋め戻しに着手し、8月24日に全調査を終了した。



第2節 遺跡の立地と基本土層

第1項 遺跡の立地

東原II遺跡は群馬県吾妻郡長野原町大字林に所在し、長野原町を東流する吾妻川左岸の上位段丘面上に位置している。標高はおよそ620mに及び、南にゆるやかに下る傾斜地となっている。北は東原I遺跡に隣接し、南は東原III遺跡に隣接する。

地質は、上部ローム層にAs-Ypk（浅間草津黄色軽石）の堆積が見られる。本遺跡は上位段丘面に位置するため、天明三年(1873年)の浅間山の噴火によって発生した天明泥流による影響は受けていない。ローム層下には応桑泥流堆積物が見られる。

北側には長野原町指定史跡となっている「御塚」と呼ばれる江戸時代初期の墳墓がある。また、平成20年度の当事業団による調査では、平安面及び繩文面の2面から、土坑、ピット、掘立柱建物、溝、焼土遺構、削平面などの遺構が検出された。

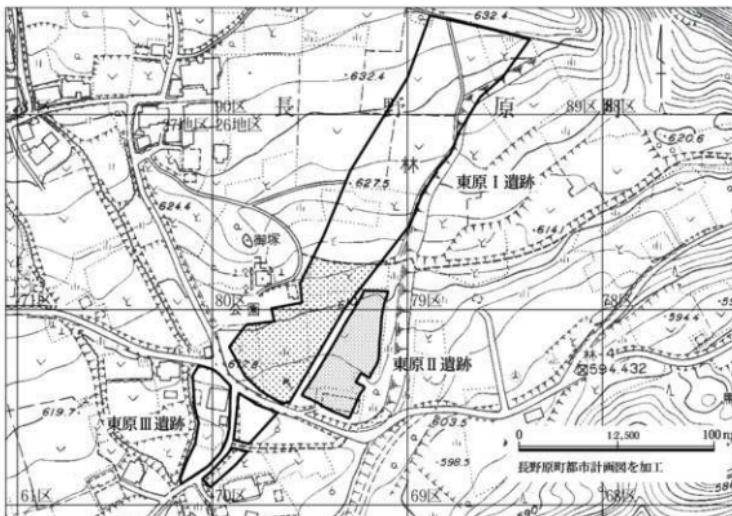
第2項 基本土層

本調査区の基本土層は調査区の西端に近い地点から確認されている。今回の調査ではAs-Ypkを確認したにとどまるため、参考として前回の基本土層(H20基本土層図)を付記した。南北に150m程隔たった地点での堆積状況であるがほぼ様相を同じくしている。ただし1面調査終了後に実施したグリッド調査で得られた各地点の堆積状況を見比べると、地点による堆積状況の相違は生じている。この地点により堆積状況が異なる現象は、吾妻川流域の河岸段丘上に立地する遺跡に共通した特徴といえよう。

第3節 検出された遺構と遺物

第1項 調査の概要

今回の調査区は平成20年度に発掘調査が行われ、土坑や掘立柱建物が検出された調査地の東に位置する。発掘調査により遺構の確認された面は黒褐色土下の1面のみ



第4-2図 調査区位置図

であり、縄文時代以降の遺構が確認されている。土坑13基、ピット33基、焼土遺構1基が検出された。また、倒木痕が4か所確認され、調査区南部からは地割れ痕と思われる地形が数か所検出された。

調査区南部で、複数の地割れにより生じた10~20cm程度の落ち込みも確認されているが、地割れ痕の発生した層が特定できず、地割れの発生した時期は判然しない。なお本遺跡の北に位置する東原Ⅰ遺跡では、旧石器確認調査に際しローム面から地割れ痕が確認されている。

北に位置する東原Ⅰ遺跡では陥穴と平安時代の建物、中央に位置する東原Ⅱ遺跡では陥穴と中世の建物、南に位置する東原Ⅲ遺跡では陥穴と中世の建物と近世の建物が確認されている。陥穴の分布には時代ごとの変化はそれほど認められないものの、平安時代以降の居住域

については、時代がくだるにつれ北から南へと移動する傾向が認められる。

第2項 遺構と遺物

今回の調査では土坑13基、ピット33基、焼土遺構1基が検出されたが、遺物を作成した遺構は少なく、その帰属時期は確定しがたい。

1 土坑

(1) 70区12号土坑(第4~9図、P.L. 6)

位置 70区H-23~24グリッド、調査区北部に位置する。

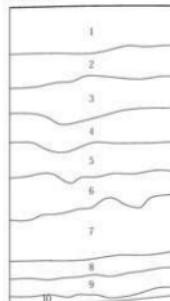
形状 長円形、断面方面を呈する。

規模 $1.74 \times 1.14 \times 1.29\text{m}$

主軸方位(度) N·82·E

埋没土 As-Ypk、黄褐色土ブロックを若干含む黒褐色土。

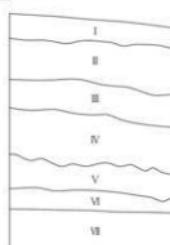
▲, ▲' 1-617.30m



調査区北壁

- 1 表土
- 2 黒褐色土(10YR3/1)しまりなし、粘性あまりなし。
- 3 黒褐色土(10YR3/1)しまりややあり、粘性あまりなし。
黄褐色粒若干含む。
- 4 黒褐色土(10YR2/2)しまり、粘性ややあり。黄褐色粒若干含む。
- 5 黑褐色土(10YR2/2)しまり、粘性ややあり。As-Ypkを少量含む。
- 6 ローム漸移帶
- 7 黄褐色土(10YR5/6)しまり、粘性ややあり。As-Ypkが混じる。
- 8 黄褐色土(10YR5/8)しまりあり、粘性あまりなし。比較的均質な層。
- 9 にぶい黄褐色土(10YR5/4)しまりあり、粘性あまりなし。
As-Ypkを少量含む。砂層に近い。
- 10 As-Ypk

▲, ▲' 1-633.20m



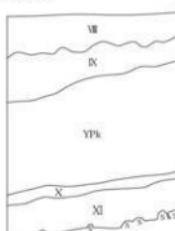
H20基本土層図No. 1

- I層：褐色土 表土。
- II層：褐色土 黄灰色シルト
(As-YpkかAs-Yk?)を
ブロック状に含む。
- III層：黒褐色土 褐灰色土を小
斑文状に含む。
- IV層：黒褐色土 褐灰色土をモ
ザイク状に多く含む。
- V層：黒褐色土 As-Ypk少量。
- VI層：ローム漸移帶 As-Ypk
少量。
- VII層：黄褐色ローム As-Ypk
少量、粗礫乱多い。

0 1:40 1m

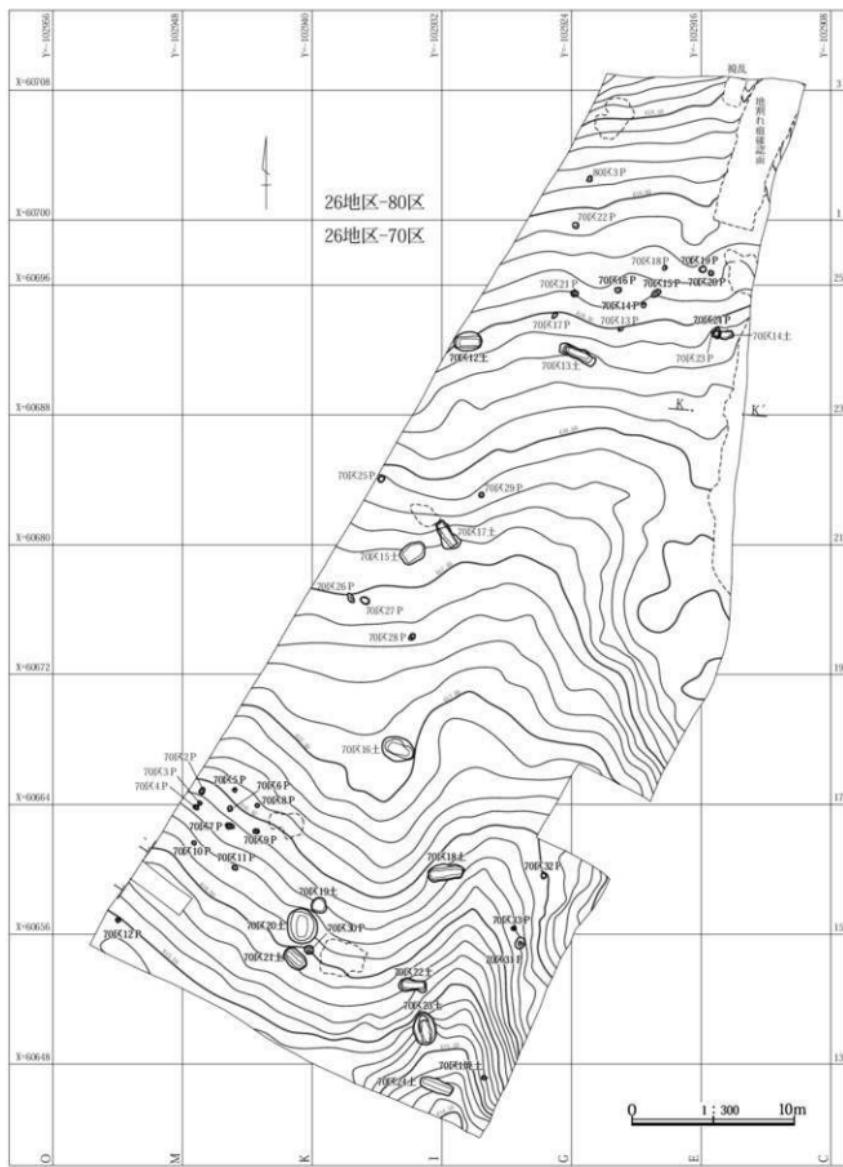
第4~3図 基本土層

▲, ▲' 1-630.20m

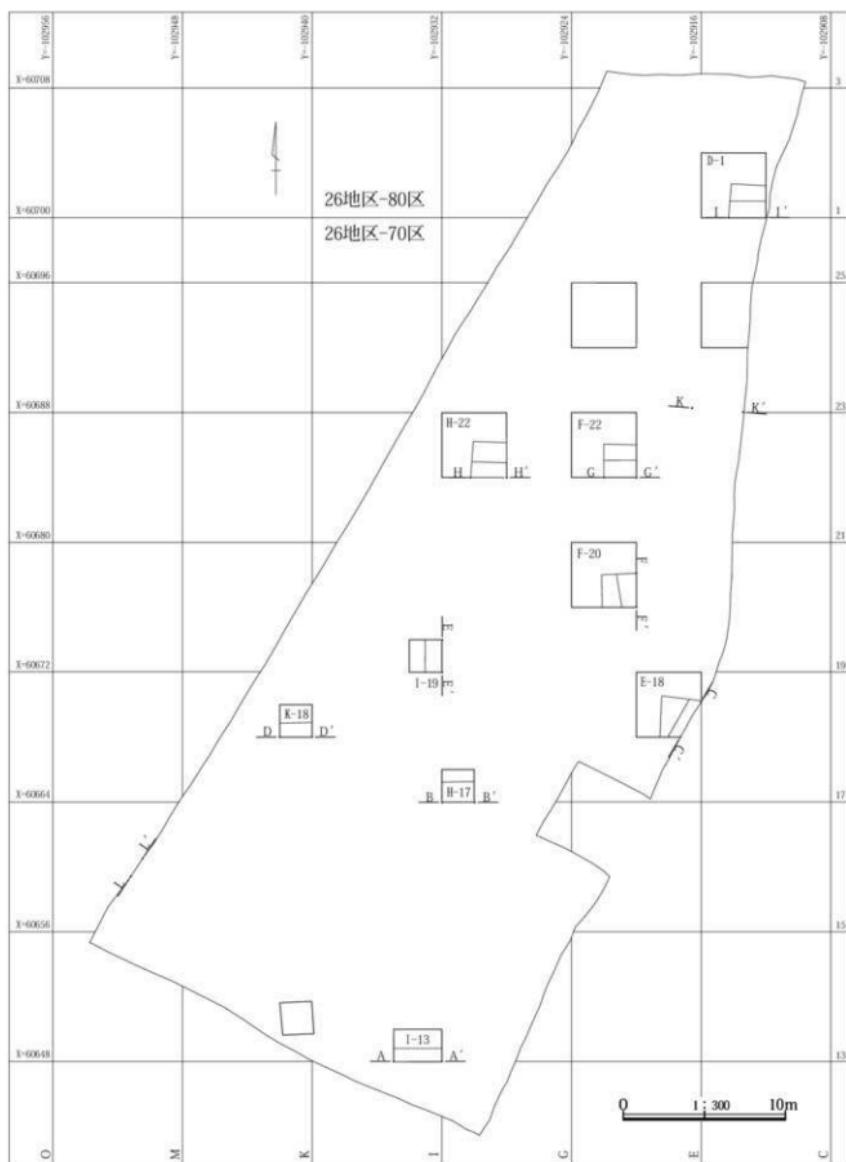


H20基本土層図No. 2

- VII層：黄褐色～褐色ローム ハード
ローム 下面層境に白色軽石
が入る。
- IX層：黄褐色ローム 細粒白色軽石
少量 やや粘質。
- Ypk : As-Ypk 上から細粒軽石、
硬化した桃色アッシュ、硬化
した灰褐色アッシュ、径 1cm以下の黄色軽石、細粒の黒灰色
アッシュのユニット。
- X層：黄褐色ローム 径 1cm大の風
化した黄色軽石を多く含む。
やや粘質。
- XI層：礫混じり灰褐色ローム 人頭
大の亜角礫主体崩れやすい
As-Ypk。

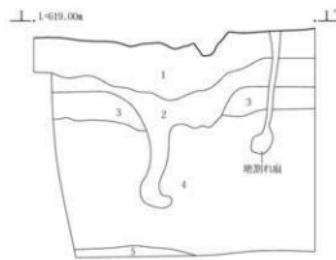


第4-4図 調査区全体図

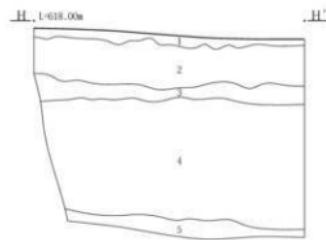


第4-5図 2面トレンチ位置図

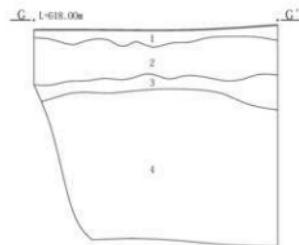
第4章 東原II遺跡(2)



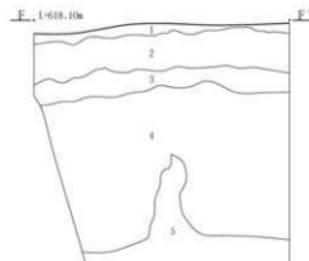
- 80区 D-19グリッド
- 1 黄褐色土(10YR5/8)しまりあり、粘性あまりなし。比較的均質な層。
 - 2 にぶい黄褐色土(10YR5/4)しまりあり、粘性あまりなし。As-Ypkを少量含む。砂層に近い。
 - 3 黄褐色土(10YR5/6)しまりあり、粘性あまりなし。
 - 4 As-Ypk
 - 5 褐灰色土(10YR5/1)しまりややあり、粘性あり。上面に1~5cmの幅で鉄分凝集のような層が確認できた。



- 70区 H-22グリッド
- 1 ローム漸移帶
 - 2 黄褐色土(10YR5/8)しまりあり、粘性あまりなし。比較的均質な層。
 - 3 にぶい黄褐色土(10YR5/4)しまりあり、粘性あまりなし。As-Ypkを少量含む。砂層に近い。
 - 4 As-Ypk
 - 5 褐灰色土(10YR5/1)しまりややあり、粘性あり。上面に1~5cmの幅で鉄分凝集のような層が確認できた。



- 70区 F-22グリッド
- 1 ローム漸移帶
 - 2 黄褐色土(10YR5/8)しまりあり、粘性あまりなし。比較的均質な層。
 - 3 にぶい黄褐色土(10YR5/4)しまりあり、粘性あまりなし。As-Ypkを少量含む。砂層に近い。
 - 4 As-Ypk

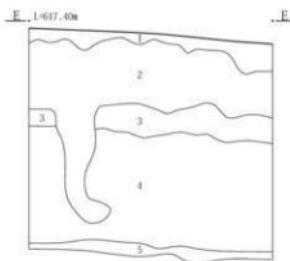


- 70区 F-20グリッド
- 1 ローム漸移帶
 - 2 黄褐色土(10YR5/8)しまりあり、粘性あまりなし。比較的均質な層。
 - 3 にぶい黄褐色土(10YR5/4)しまりあり、粘性あまりなし。As-Ypkを少量含む。砂層に近い。
 - 4 As-Ypk
 - 5 褐色土(7.5YR4/6)しまりややあり、粘性あり。粘性の強いローム層。白色軽石を少量含む。

0 1:40 1m

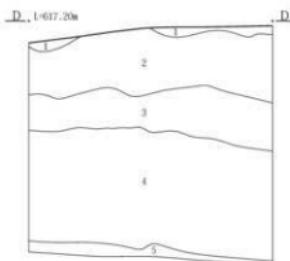
第4-6図 トレンチ1

第3節 検出された遺構と遺物



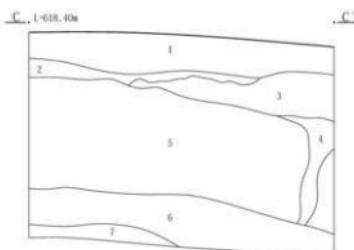
70区 I-19グリッド

- 1 ローム漸移帶
- 2 黄褐色土(10YR5/8)しまりあり、粘性あまりなし。比較的均質な層。
- 3 にぶい黄褐色土(10YR5/4)しまりあり、粘性あまりなし。As-Ypkを少量含む。砂層に近い。
- 4 As-Ypk
- 5 褐灰色土(10YR5/1)しまりややあり、粘性あり。上面に1~5cmの幅で鉄分凝集のような層が確認できた。5~30cm大の角礫を大量に含む。



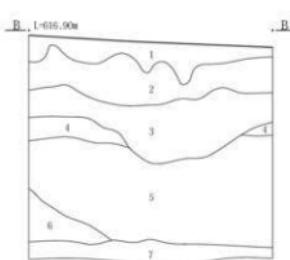
70区 K-18グリッド

- 1 ローム漸移帶
- 2 黄褐色土(10YR5/6)しまりあり、粘性ややあり。As-Ypkが乱れて混じる。
- 3 にぶい黄褐色土(10YR5/4)しまりあり、粘性あまりなし。As-Ypkを少量含む。砂層に近い。
- 4 As-Ypk
- 5 褐灰色土(10YR5/1)しまりややあり、粘性あり。上面に1~5cmの幅で鉄分凝集のような層が確認できた。10~30cm大の角礫を少量含む。



70区 E-18グリッド

- 1 表土
- 2 黒褐色土(10YR2/2)しまり、粘性ややあり。As-Ypkを少量含む。
- 3 ローム漸移帶
- 4 黄褐色土(10YR5/6)しまり、粘性ややあり。As-Ypkが乱れて混じる。
- 5 As-Ypk 下面に砂粒の褐灰色上層が認められる。
- 6 褐色土(7.5YR4/6)しまりややあり、粘性あり。粘性の強いローム層。白色軽石を少量含む。
- 7 暗オリーブ色土(5Y4/3)しまりややあり、粘性あまりなし。1~20cm大の礫が少量混じる。



70区 H-17グリッド

- 1 ローム漸移帶
- 2 黄褐色土(10YR5/6)しまり、粘性ややあり。As-Ypkが乱れて混じる。
- 3 黄褐色土(10YR5/8)しまりあり、粘性あまりなし。比較的均質な層。
- 4 にぶい黄褐色土(10YR5/4)しまりあり、粘性あまりなし。As-Ypkを少量含む。砂層に近い。
- 5 As-Ypk
- 6 硬化した桃色のAs-Ypk層
- 7 褐灰色土(10YR5/1)しまりややあり、粘性あり。上面に1~20cmの幅で鉄分凝集のような層が確認できた。10cm大の角礫を少量含む。

第4-7図 トレンチ2



重複 なし。

遺物 なし。

所見 本遺構の年代は、時期を特定する資料に欠けるため不明であるが、調査所見によれば埋没土は平安時代以前の遺構で検出される土に類似する。陥穴と推測される。

(2) 70区13号土坑(第4-9図、P.L. 6)

位置 70区F～G-23～24グリッド、調査区北部に位置する。

形状 長方形、断面逆台形を呈する。

規模 $2.40 \times 0.69 \times 1.31\text{m}$

主軸方位(度) N-64-W

埋没土 As-YPkを少量含む黒褐色土。

重複 なし。

遺物 なし。

所見 本遺構の年代は、時期を特定する資料に欠けるため不明であるが、調査所見によれば埋没土は平安時代以前の遺構で検出される土に類似する。陥穴と推測される。

(3) 70区14号土坑(第4-9図、P.L. 6)

位置 70区D-24グリッド、調査区北部に位置する。

形状 断面逆台形を呈する。

規模 $0.86 \times 0.52 \times 0.28\text{m}$

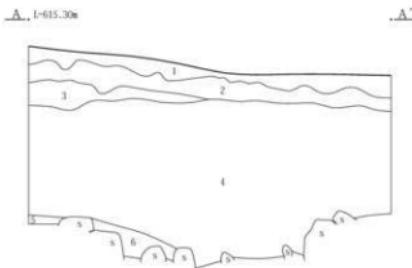
主軸方位(度) N-87-W

埋没土 黄褐色土ブロックを少量含む黒褐色土。

重複 70区23号ピット、70区24号ピット。

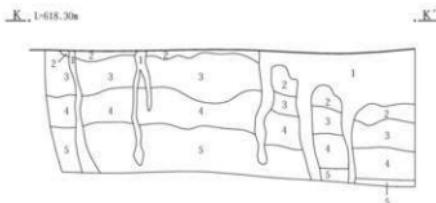
遺物 なし。

所見 本遺構の年代は、時期を特定する資料に欠けるた



70区 I-615グリッド

- 1 ローム漸移帶
- 2 黄褐色土(10YR5/6)しまり、粘性ややあり。As-YPkが乱れて混じる。
- 3 黄褐色土(10YR5/8)しまりあり、粘性あまりなし。比較的均質な層。
- 4 にぶい黄褐色土(10YR5/4)しまりあり、粘性あまりなし。As-YPkを少量含む。砂層に近い。
- 4 As-YPk
- 5 褐色土(7.5YR4/6)しまりややあり、粘性あり。粘性の強いローム層。白色軽石を少量含む。



70区 調査区南部落ち込み

- 1 黒褐色土(10YR2/2)しまり、粘性ややあり。黄褐色粒を若干含む。
- 2 ローム漸移帶
- 3 黄褐色土(10YR5/6)しまり、粘性ややあり。As-YPkが乱れて混じる。
- 4 にぶい黄褐色土(10YR5/4)しまりあり、粘性あまりなし。As-YPkを少量含む。砂層に近い。
- 5 As-YPk



第4-8図 トレンチ3

め不明であるが、調査所見によれば埋没土は平安時代以前の遺構で検出される土に類似する。ピットのいずれよりも古い。

(4) 70区15号土坑(第4-10図、P.L. 6)

位置 70区1-20～21グリッド、調査区中部に位置する。

形状 五角形、断面逆台形を呈する。

規模 1.61×1.17×0.19m

主軸方位(度) N-51-E

埋没土 黄褐色土ブロックを少量含む黒褐色土。

重複 なし。

遺物 なし。

所見 本遺構の年代は、時期を特定する資料に欠けるため不明であるが、調査所見によれば埋没土は平安時代以前の遺構で検出される土に類似する。

(5) 70区16号土坑(第4-10図、P.L. 7)

位置 70区1-17～18グリッド、調査区南部に位置する。

形状 長円形、断面逆台形を呈する。

規模 2.04×1.53×1.53m

主軸方位(度) N-64-W

埋没土 As-Ypkを少量含む黒褐色土。

重複 なし。

遺物 なし。

所見 本遺構の年代は、時期を特定する資料に欠けるため不明であるが、調査所見によれば埋没土は平安時代以前の遺構で検出される土に類似する。陥穴と推測される。

(6) 70区17号土坑(第4-10図、P.L. 7)

位置 70区H～I-20～21グリッド、調査区中部に位置する。

形状 台形、断面方形を呈する。

規模 1.92×1.08×1.42m

主軸方位(度) N-35-W

埋没土 As-Ypkを多量に含む黒褐色土。

重複 なし。

遺物 なし。

所見 本遺構の年代は、時期を特定する資料に欠けるため不明であるが、調査所見によれば埋没土は平安時代以前の遺構で検出される土に類似する。

(7) 70区18号土坑(第4-11図、P.L. 7)

位置 70区H～I-15～16グリッド、調査区南部に位置する。

形状 長円形、断面方形を呈する。

規模 2.33×1.01×1.30m

主軸方位(度) N-81-E

埋没土 As-Ypkを大量に含む黒褐色土。

重複 なし。

遺物 なし。

所見 本遺構の年代は、時期を特定する資料に欠けるため不明であるが、調査所見によれば埋没土は平安時代以前の遺構で検出される土に類似する。陥穴と推測される。

(8) 70区19号土坑(第4-10図、P.L. 7)

位置 70区J～K-15グリッド、調査区南部に位置する。

形状 円形、断面逆台形を呈する。

規模 0.98×0.98×0.18m

主軸方位(度) N-46-W

埋没土 しまり、粘性共にややある黒褐色土。

重複 なし。

遺物 なし。

所見 本遺構の年代は、時期を特定する資料に欠けるため不明であるが、調査所見によれば埋没土は近世以前の遺構で検出される土に類似する。

(9) 70区20号土坑(第4-11図、P.L. 8)

位置 70区J～K-14～15グリッド、調査区南部に位置する。

形状 長円形、断面逆台形を呈する。

規模 2.17×1.91×1.80m

主軸方位(度) N-27-W

埋没土 As-Ypkを多量に含む黒褐色土。

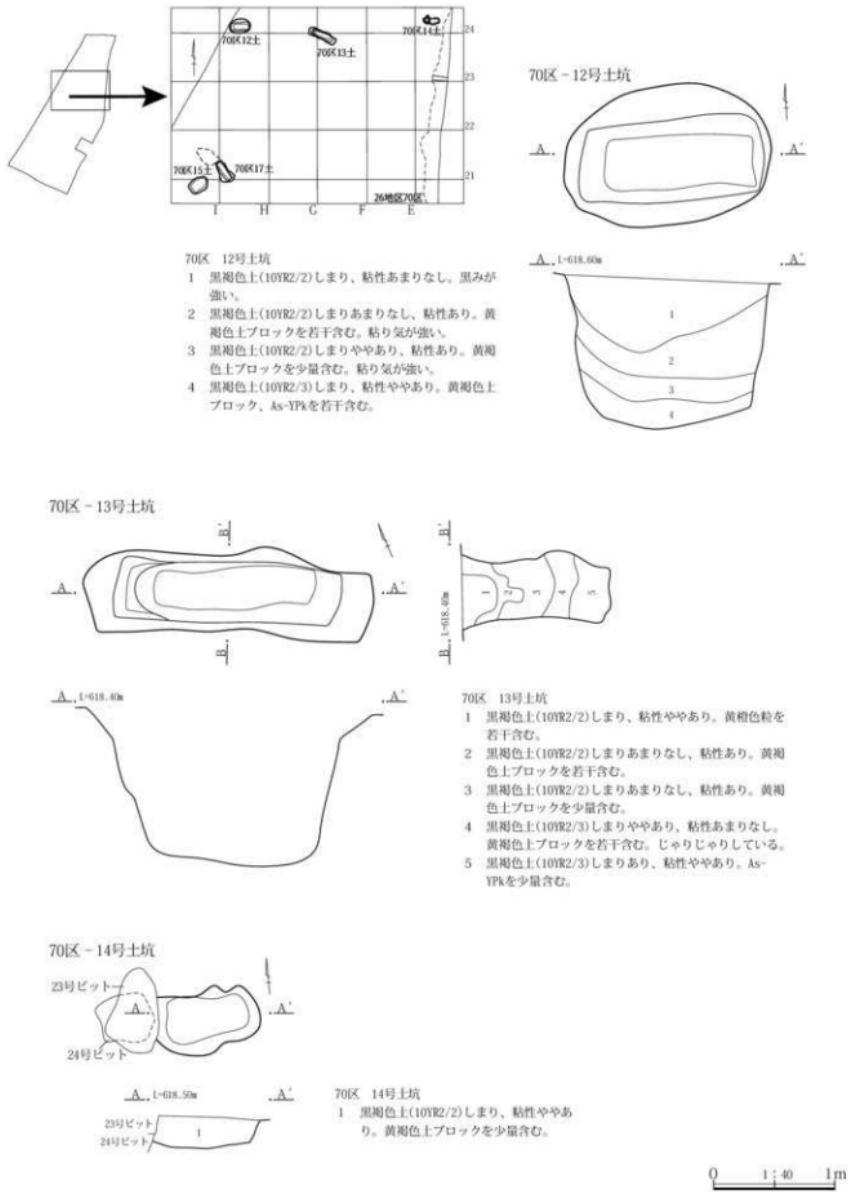
重複 なし。

遺物 なし。

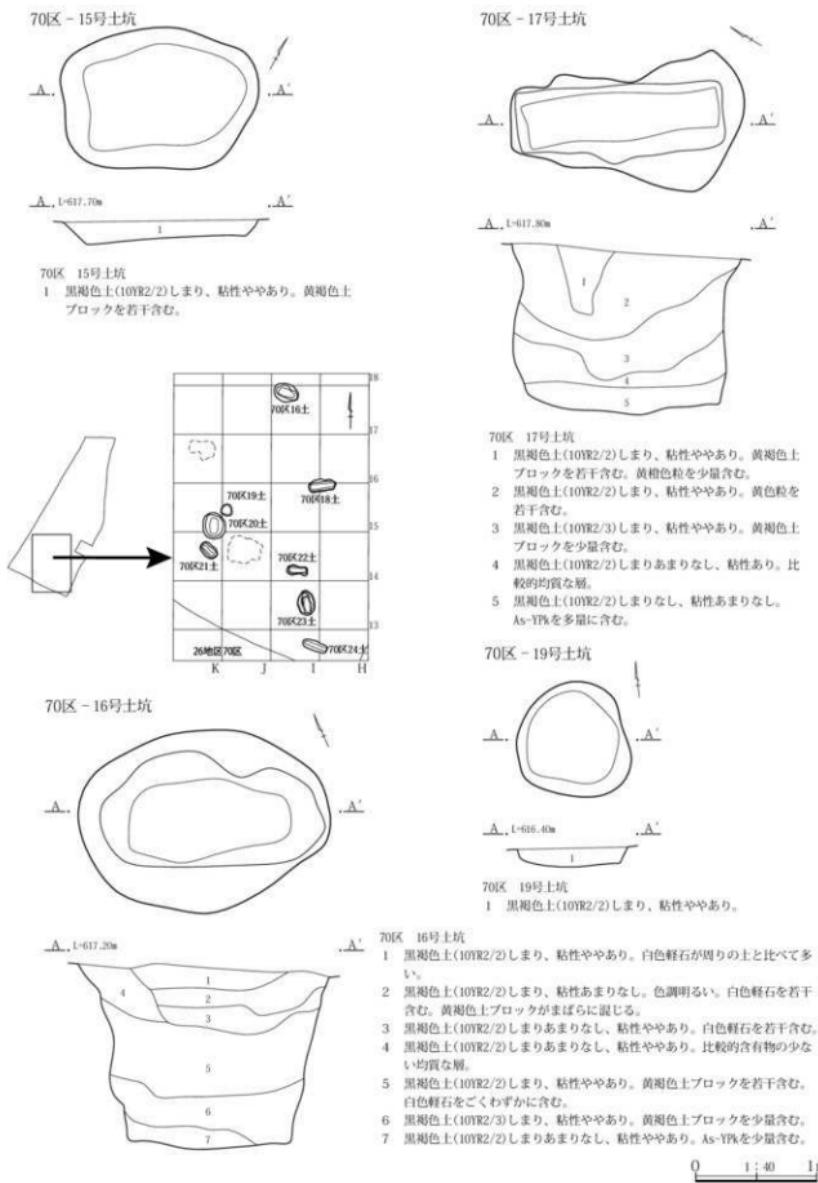
所見 本遺構の年代は、時期を特定する資料に欠けるため不明であるが、調査所見によれば埋没土は平安時代以前の遺構で検出される土に類似する。

(10) 70区21号土坑(第4-11図、P.L. 8)

位置 70区K-14グリッド、調査区南部に位置する。

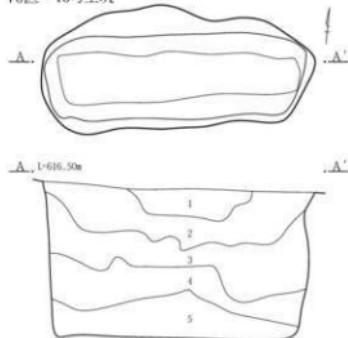


第4-9図 土坑1



第4章 東原II遺跡(2)

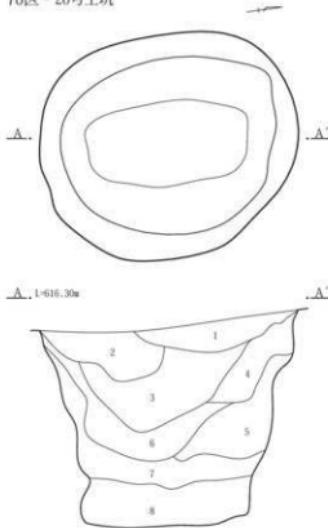
70区 - 18号土坑



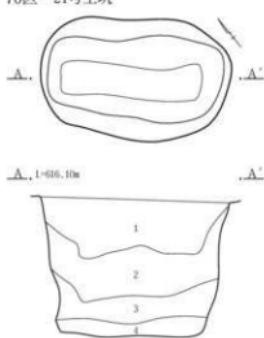
70区 18号土坑

- 1 黒褐色土(10YR2/2)しまり、粘性ややあり。白色軽石を少量含む。
- 2 黒褐色土(10YR2/2)しまり。粘性ややあり。色調やや明るい。
- 3 黒褐色土(10YR2/3)しまり、粘性ややあり。黄褐色土ブロックを少量含む。
- 4 黒褐色土(10YR2/2)しまり、粘性あまりなし。黄褐色土ブロックが1:1で混じる。
- 5 黒褐色土(10YR2/3)しまりなし、粘性あまりなし。As-Ypkを大量に含む。

70区 - 20号土坑



70区 - 21号土坑



70区 21号土坑

- 1 黒褐色土(10YR2/2)しまりあまりなし、粘性ややあり。白色軽石を若干含む。比較的均質な層。
- 2 黒褐色土(10YR2/2)しまりあまりなし、粘性ややあり。黄褐色土ブロックがまばらに混じる。色調明るい。
- 3 黒褐色土(10YR2/2)しまりあまりなし、粘性ややあり。黄褐色土ブロックを多量に含む。Ypkを若干含む。不均質な層。
- 4 黒褐色土(10YR2/2)しまりなし、粘性ややあり。As-Ypkを多量に含む。



第4-11図 土坑3

形状 長円形、断面逆台形を呈する。

規模 $1.57 \times 1.02 \times 1.17\text{m}$

主軸方位(度) N-46-W

埋没土 As-YPkを多量に含む黒褐色土。

重複 なし。

遺物 なし。

所見 本遺構の年代は、時期を特定する資料に欠けるため不明であるが、調査所見によれば埋没土は平安時代以前の遺構で検出される土に類似する。陷穴と推測される。

(11) 70区22号土坑(第4-12図、P L . 8)

位置 70区I-14グリッド、調査区南部に位置する。

形状 不整形、断面方形を呈する。

規模 $1.69 \times 0.80 \times 1.26\text{m}$

主軸方位(度) N-86-W

埋没土 As-YPkを少量含む黒褐色土。

重複 なし。

遺物 図化には至らないが土器片4点が出土している。

所見 本遺構の年代は、時期を特定する資料に欠けるため不明であるが、調査所見によれば埋没土は平安時代以前の遺構で検出される土に類似する。陷穴と推測される。

(12) 70区23号土坑(第4-12図、P L . 8)

位置 70区I-13グリッド、調査区南部に位置する。

形状 長円形、断面逆台形を呈する。

規模 $2.02 \times 1.43 \times 1.58\text{m}$

主軸方位(度) N-11-W

埋没土 As-YPk、白色軽石を大量に含む、しまりのある黒褐色土。

重複 なし。

遺物 図化には至らないが土器片9点が出土している。

所見 本遺構の年代は、時期を特定する資料に欠けるため不明であるが、調査所見によれば埋没土は平安時代以前の遺構で検出される土に類似する。陷穴と推測される。

(13) 70区24号土坑(第4-12図、P L . 9)

位置 70区H-I-12グリッド、調査区南部に位置する。

形状 長円形、断面方形を呈する。

規模 $2.07 \times 0.80 \times 1.24\text{m}$

主軸方位(度) N-78-W

埋没土 As-YPkを大量に含む黒褐色土。

重複 なし。

遺物 図化には至らないが土器片8点が出土している。

所見 本遺構の年代は、時期を特定する資料に欠けるため不明であるが、調査所見によれば埋没土は平安時代以前の遺構で検出される土に類似する。陷穴と推測される。

2 ピット

調査区の北部から13基、中部から5基、南部から15基のピットが検出されたが、いずれも遺物を伴っていない。調査所見によれば、埋没土から古代の遺構と推測されている。70区23号ピットと70区24号ピットは70区14号土坑と重複するが、いずれも土坑より新しい。また70区24号ピットは70区23号ピットに先行する。

(第4-13 ~ 16図、P L . 9 ~ 12)

3 焼土遺構

(1) 70区1号焼土遺構(第4-16図、P L . 13)

位置 70区H-12グリッド、調査区南部に位置する。

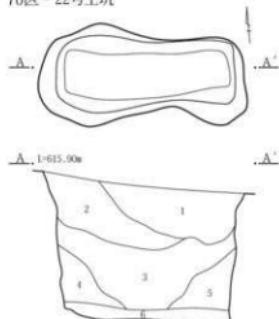
形状 不整形を呈する。

規模 $0.32 \times 0.22\text{m}$

主軸方位(度) N-75-W

所見 本遺構の年代は、不明である。遺構は南に開く谷筋の東側斜面から検出されている。また焼土層自体も検出されていない状況であり、用途・使途など判然としない。

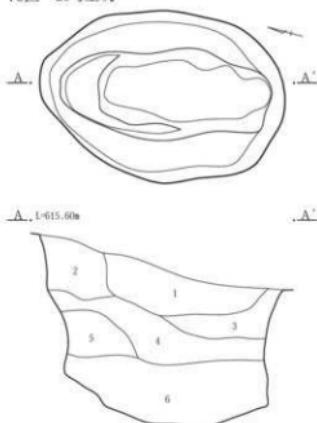
70区-22号土坑



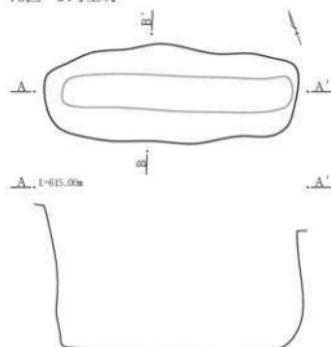
70区-22号土坑

- 1 黒褐色土(10YR2/2)しまりあまりなし、粘性ややあり。白色軽石をごくわずかに含む。
- 2 黒褐色土(10YR2/2)しまり、粘性ややあり。色調明るい。
- 3 黒褐色土(10YR2/3)しまり、粘性ややあり。
- 4 黒褐色土(10YR2/2)しまり、粘性あまりなし。黄褐色土ブロックが1：1で混じる。
- 5 黒褐色土(10YR2/3)しまり、粘性ややあり。黄褐色土ブロックがまばらに混じる不均質な層。
- 6 黒褐色土(10YR2/2)しまりあまりなし、粘性ややあり。As-Ypk少量含む。

70区-23号土坑

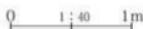


70区-24号土坑



70区-24号土坑

- 1 黒褐色土(10YR2/2)しまりあまりなし、粘性ややあり。比較的均質な層。
- 2 黒褐色土(10YR2/2)しまりあまりなし、粘性ややあり。黄褐色土ブロックを若干含む。
- 3 黒褐色土(10YR2/3)しまり、粘性あまりなし。黄褐色土ブロックを少量含む。
- 4 黒褐色土(10YR2/2)しまり、粘性あまりなし。黄褐色土ブロックが1：1で混じる。
- 5 黑褐色土(10YR2/2)しまりあまりなし、粘性ややあり。黄褐色土ブロックが全体的に混じる不均質な層。
- 6 黑褐色土(10YR2/2)しまりあまりなし、粘性ややあり。As-Ypkを大量に含む。



第4-12図 土坑4

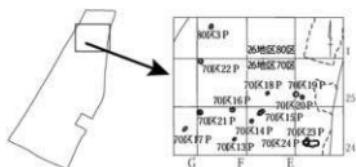
第4-1表 ピット計測表1

第4-2表 ピット計測表2

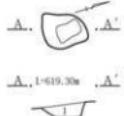
第4-3表 ピット計測表3

第4-4表 ピット計測表4

名称	70-32P	70-33P	80- 3P
位置	70K-G-15	70K-G-15	80K-F-1
平面形状	長円形	円形	不整形
規模			
長(m)	0.36	0.31	0.34
短(m)	0.29	0.26	0.32
深(m)	0.11	0.39	0.37
主軸方位(度)	N-15-W	N-76-E	N-13-W
重複			

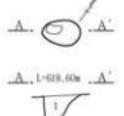


80区 - 3号ビット



80区 3号ビット
1 黒褐色土(10YR2/2)しまり、
粘性ややあり。

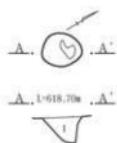
70区 - 13号ビット



70区 13号ビット
1 黒褐色土(10YR2/2)しまり、
粘性ややあり。

第4章 東原II遺跡(2)

70区 - 14号ピット



70区 - 14号ピット

1 黒褐色土(10YR2/2)しまり、
粘性ややあり。黄褐色土ブ
ロックを少量含む。

70区 - 15号ピット



70区 - 15号ピット

1 黒褐色土(10YR2/2)しまり、
粘性ややあり。黄褐色土ブ
ロックを少量含む。

70区 - 16号ピット



70区 - 16号ピット

1 黒褐色土(10YR2/3)しまり、
粘性ややあり。

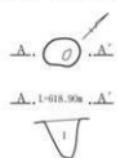
70区 - 17号ピット



70区 - 17号ピット

1 黒褐色土(10YR2/2)しまり、
粘性ややあり。黄褐色土ブ
ロックを若干含む。

70区 - 18号ピット



70区 - 18号ピット

1 黒褐色土(10YR2/2)しまり、
粘性ややあり。

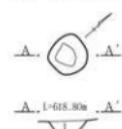
70区 - 19号ピット



70区 - 19号ピット

1 黒褐色土(10YR2/3)しまり、
粘性ややあり。

70区 - 20号ピット



70区 - 20号ピット

1 黒褐色土(10YR2/3)しまり、
粘性ややあり。

70区 - 21号ピット



70区 - 21号ピット

1 黒褐色土(10YR2/2)しまり、
粘性ややあり。黄褐色土ブ
ロックを若干含む。

70区 - 22号ピット



70区 - 22号ピット

1 黒褐色土(10YR2/2)しまり、
粘性ややあり。黄褐色土ブ
ロックを若干含む。

70区 - 24号ピット



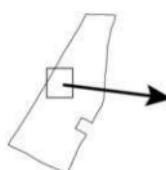
70区 - 24号ピット

23号ピット

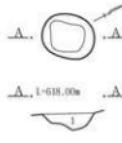
70区 - 23・24号ピット

1 黒褐色土(10YR2/2)しまり、粘性ややあり。黄褐色土ブ
ロックを若干含む。23号ピットの埋没上。

2 黑褐色土(10YR2/3)しまり、粘性ややあり。黄褐色土ブ
ロックを少量含む。24号ピットの埋没上。



70区 - 25号ピット



70区 - 25号ピット

1 黒褐色土(10YR2/2)しまり、
粘性ややあり。

70区 - 26号ピット



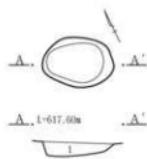
70区 - 26号ピット

1 黒褐色土(10YR2/2)しまり、
粘性ややあり。黄褐色土ブ
ロックを少量含む。

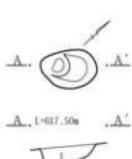
第4-14図 ピット2



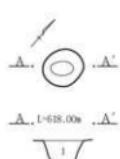
70区-27号ピット



70区-28号ピット



70区-29号ピット



70区 27号ピット

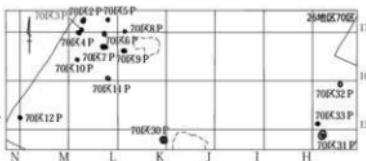
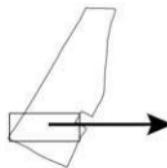
1 黒褐色土(10YR2/2)しまり、
粘性ややあり。黄褐色土ブ
ロックを少量含む。

70区 28号ピット

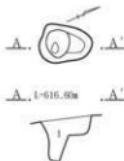
1 黒褐色土(10YR2/2)しまり、
粘性ややあり。黄褐色土ブ
ロックを少量含む。

70区 29号ピット

1 黒褐色土(10YR2/2)しまり。
粘性ややあり。黄褐色土ブ
ロックを多量含む。



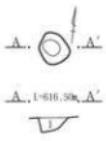
70区-2号ピット



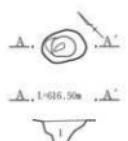
70区 2号ピット

1 黒褐色土(10YR2/2)しまり、
粘性ややあり。黄褐色土ブ
ロックを少量含む。

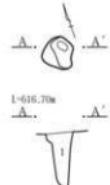
70区-3号ピット



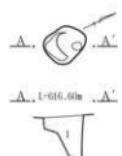
70区-4号ピット



70区-5号ピット



70区-6号ピット



70区 3号ピット

1 黒褐色土(10YR2/2)しまり、
粘性ややあり。黄褐色土ブ
ロックを若干含む。

70区 4号ピット

1 黒褐色土(10YR2/3)しまり、
粘性ややあり。黄褐色土ブ
ロックを少量含む。

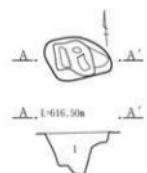
70区 5号ピット

1 黒褐色土(10YR2/2)しまり、
粘性ややあり。

70区 6号ピット

1 黒褐色土(10YR2/3)しまり、
粘性ややあり。黄褐色土ブ
ロックを少量含む。

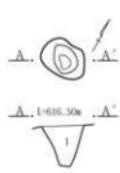
70区-7号ピット



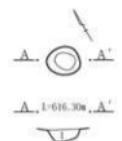
70区-8号ピット



70区-9号ピット



70区-10号ピット



70区 7号ピット

1 黒褐色土(10YR2/3)しまり、
粘性ややあり。黄褐色土ブ
ロックを若干含む。

70区 8号ピット

1 黒褐色土(10YR2/2)しまり、
粘性ややあり。黄褐色土ブ
ロックを少量含む。

70区 9号ピット

1 黒褐色土(10YR2/2)しまり、
粘性ややあり。

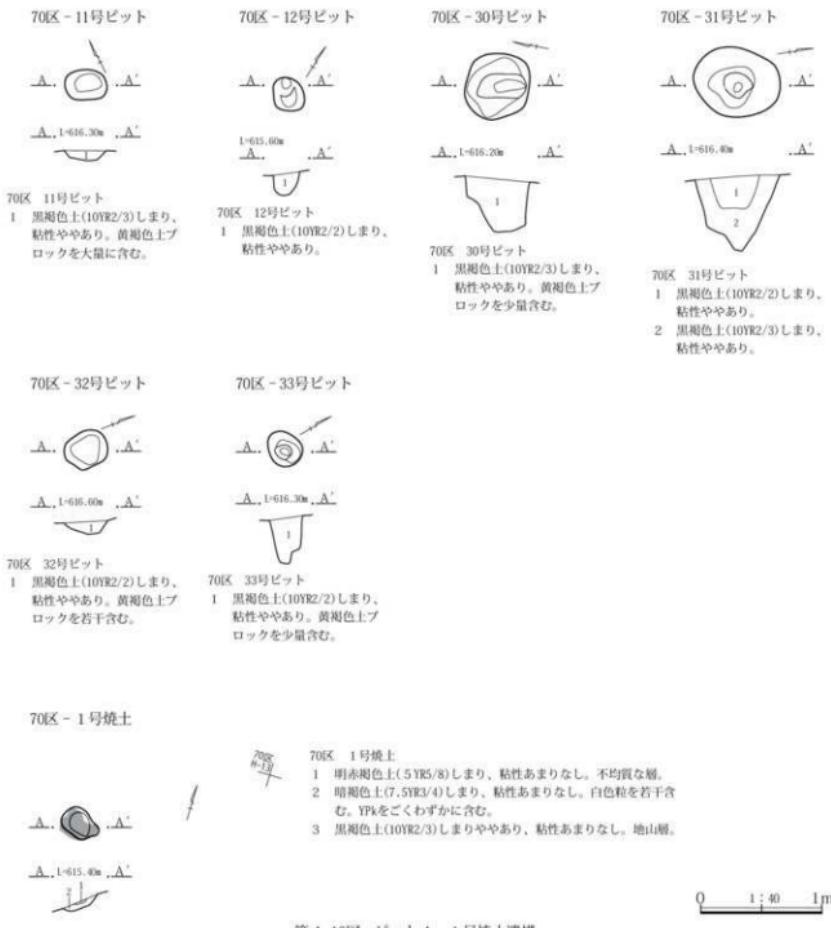
70区 10号ピット

1 黒褐色土(10YR2/2)しまり、
粘性ややあり。黄褐色土ブ
ロックを少量含む。



第4-15図 ピット3

第4章 東原II遺跡(2)



第4-16図 ピット4、1号焼土遺構

第5章 横壁中村遺跡(15)

第1節 調査に至る経緯と経過

第1項 調査に至る経緯

本遺跡は、群馬県吾妻郡長野原町大字横壁に所在する。八ッ場ダム建設に伴いこれまでに平成8年度から平成18年度まで調査が進められ、縄文時代の竪穴建物230棟以上を確認、県内でも有数の大規模集落とされる。また、古代から中近世に至る遺構も多数確認され、地域の主要遺跡の一つとされており、14冊の発掘調査報告書が刊行されている。本年度の調査はそれらに統くもので、調査対象範囲は「八ッ場ダム関係埋蔵文化財発掘調査方法」に基づく、27地区8区に該当する。なお、遺跡総体の調査経緯・経過の詳細については「第1章第1節 調査に至る経緯等」『横壁中村遺跡(14)』(公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団、2014)を参照されたい。

第2項 調査の経過

発掘調査は平成30年11月6日から12月3日かけて実施された。調査初日は雨天のため翌7日より環境整備、資材搬入に着手した。11月13日より調査区中央の調査対象

外の墓地を取り囲むような形で、掘削機械により表土掘削を行った。表土掘削後、遺構精査を行った。北寄りの傾斜下段に比較的安定した土層を確認し、2回に分けて遺構確認作業を繰り返した。11月19日より調査区西側上段2面目の表土掘削に着手、並行して遺構精査を行う。11月20日より調査区東側2面目の掘削機械による表土掘削に着手。翌21日より表土掘削に平行して遺構精査を行う。11月28日より調査区西側下段3面目の遺構精査に移る。12月3日ドローンによる調査区全景の空撮を行う。12月3日調査を終え、器材の片付けプレハブ撤出等すべてを12日まで行った。調査区内の掘削排土は下田へ搬出し、埋め戻しは行わず、作業の終了とした。

第2節 遺跡の立地と基本土層

第1項 遺跡の立地

群馬県吾妻郡長野原町を東流する吾妻川右岸に位置する本遺跡は、吾妻川の段丘疊層を基盤とし、その南に迫る山地からの崩落土が堆積する緩やかな北面傾斜地に立地している。調査区は、12月には5時間程度しか日差し



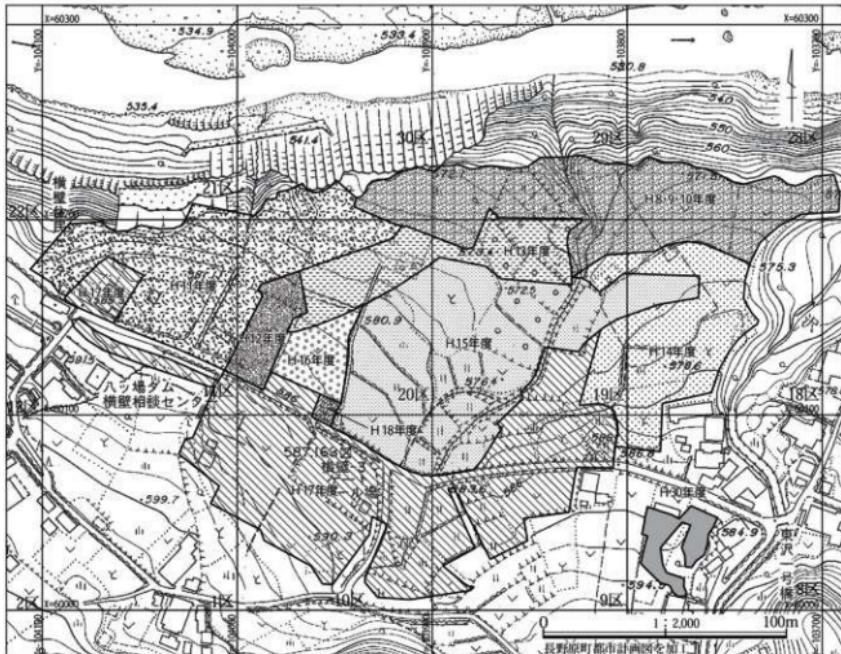
が得られず、午後2時には南の急峻に陽が入る日眩に不利な立地である。本年度調査区では、遺構を包含する土層の下位に崖錐堆積物と考えられる不均質な土砂が顕著であった。本年度の調査区である8区は、山腹が緩斜面に切り替わる標高587～593mの斜面地で、遺跡範囲の最東端にあたり、北流し吾妻川にそそぐ東沢および町道により東端境界となっている。付近の吾妻川河床面はおよそ530mを測り、吾妻川とは段丘崖によって隔てられている。

第2項 基本土層

本遺跡が立地する段丘面は、岩盤の上に吾妻川が運んだ段丘疊層を基盤としている。その上に南側の岩塊を核とする山地からの崩落土と礫が繰り返し堆積して形成された、北向きの緩傾斜地に遺跡は立地している。台地上

の基本土層は図に示したI～X層まで確認されているが、この10層が1箇所で全て捕らえる地点は今のところ確認されていない。また、各土層の層厚はその地区により異なっているため、あえて記入していない。縄文時代の遺物は概ねV層からVII層にわたって包含されるが、縄文時代晚期終末から弥生時代の遺物はIV層の下半分に包含される傾向があり、古代の遺物はIV層上層に、中世の遺物はIII層で出土するとされる。

本調査区西側の3層上面が調査区西側下段の1回目の遺構確認面であり、4層上面が調査区西側下段の2回目の遺構確認面となっており、5層上面が調査区西側下段の最終確認面である。また、調査区東側と西側上段は表土下が調査区西側の6層相当であったため、この層の上面を遺構確認面としている。



第5-2図 調査区位置図

第3節 検出された遺構と遺物

第1項 調査の概要

今回の調査区は、遺跡後背の山肌が緩斜面に切り替わる標高587～593mの斜面地で、遺跡範囲の最東端に位置し、過年度に縄文時代後晩期の配石遺構などが調査された場所の東端部分にあたる。

高台となる調査区東側で、ピット7基、土坑3基、主軸を東西方向にもつ2間×3間の掘立柱建物1棟が確認された。調査区西側は、大きく2段の地形を呈し、その段差位置に対応する場所に、柵1条やピット4基が検出された。また、段差斜面の下端に近い部分から礫集中が確認されている。今回検出された遺構はいずれも年代を特定する資料にかけるため、その帰属年代を古代から近世の間の特定の時期に定めることができなかった。今回の発掘調査により、遺跡の立地する段丘面の南東端まで遺跡が広がることが確認された。

I	I層 表土(耕作土)
II a	II a層 天明泥流
II b	II b層 As-A(浅間A軽石)
II c	II c層 As-A(浅間A軽石)下層の耕作土
III	III層 谈褐色土 ソ軟質で炭化物を含む。中世に比定される土壤で、20区1号鉢附近では炭化物を多量に含み、黒土化していた。
IV	IV層 灰黑色褐色土 やや軟質で均質。古代に比定される土壤であるが、本遺跡では大半が淀土化されて、層としてはほとんど残っていない。
V	V層 黄褐色土 やや軟質。縄文時代後期後半頃の土壤で、加曾利式中期の遺構と関連する。今のところ、山根沢周間に認められることから、Ⅳ層ないしはローム層の2次堆積の可能性が高い。
VI	VI層 黄褐色土 細まりのある土壤で、黄色軽石や白色粒子を多く含む。縄文時代に比定される土壤で、中期から後期前半の遺構・遺物はこの上層中に含まれる。なお、下半部を中心で多量の礫(山石)を含む。
VII	VII層 西側縁辺付近の土壤で、層位はⅥ層と同じであり、沼沢に流れたものかもしれない。この上層の上部には縄文時代前期前半の土器が含まれ、この上層で埋没した土坑も確認されている。
VIII	VIII層 黄褐色粘質土 崩落したローム層の2次堆積土で、多量の礫・砂礫を含む部分が多い。本遺跡では20区の西半部でのみ確認されており、現在の山根地区集落はこの上層の高まりの上に立地していると考える。供給源は山根集落南側の沢上流域、つまり丸岩の北麓で、崩落時期は縄文時代早期後半頃と思われる。
IX	IX層 黑褐色粘質土 硬質で粘性が強く、黄色軽石や白色粒子を多量に含む。
X	X層 黄色砂礫層 吾妻川が運んだ段丘砂礫層で、本遺跡北側の崖面では15m以上の堆積が確認できる。この下層は基盤の岩塊となる。

第2項 遺構と遺物

1 掘立柱建物

(1) 8区1号掘立柱建物(第5-5図、P.L.16～18)

位置 8区P～R-7～9グリッド、調査区東側に位置する。

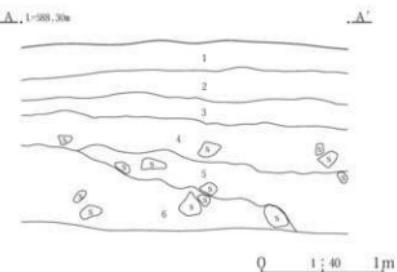
形状等 柱穴11基が確認されている。東西棟。

規模 7.80×5.02m、桁行7.96m、梁間5.10m。

主軸方位(度) N-74-W

第5-1表 8区1号掘立柱建物柱間計測表

	桁行 柱間	桁行 柱間	桁行 柱間	桁行
P 4	2.60	P 5	2.57	P 5
梁行柱間	2.35			7.71
P 3	3.93		P 11	2.02
梁行柱間	2.63			7.96
P 2	2.88	P 4	2.29	P 10
梁間	4.98	5.10	4.95	7.80
				4.82

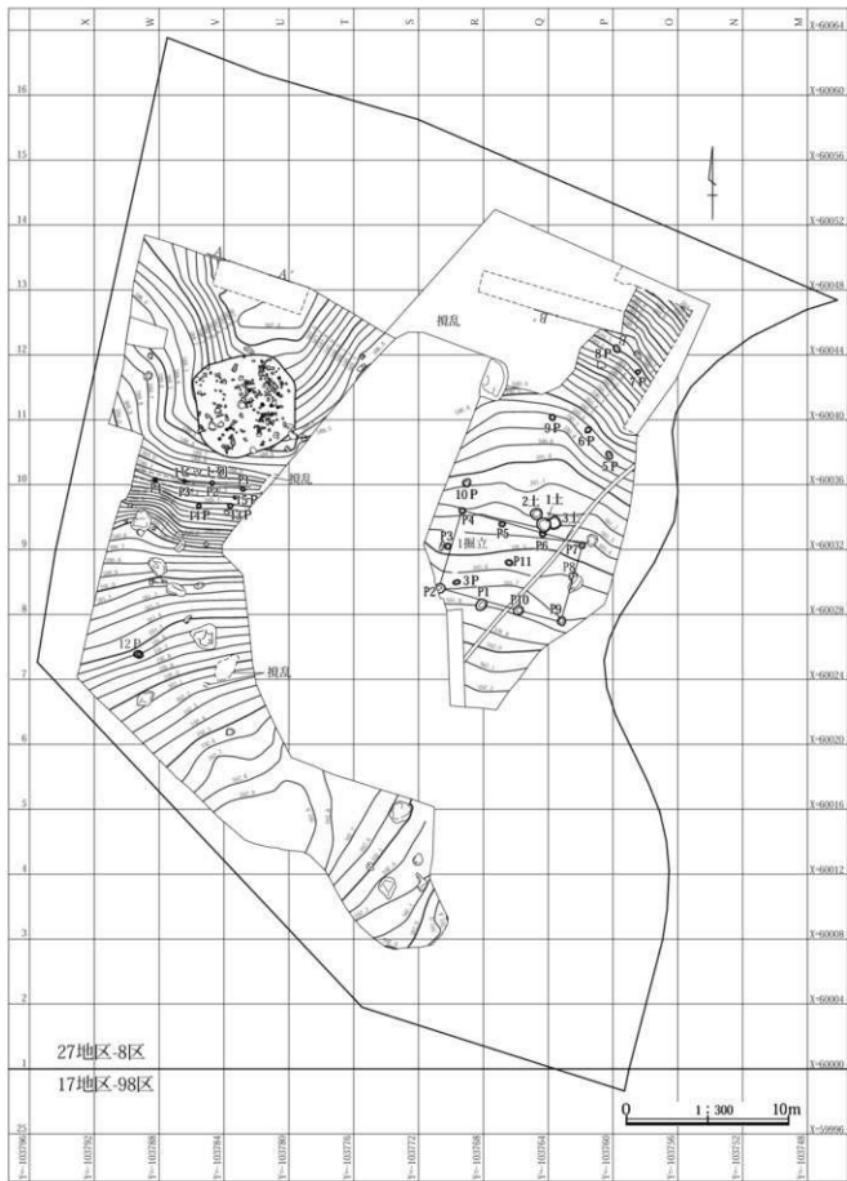


8区 1号トレンチ

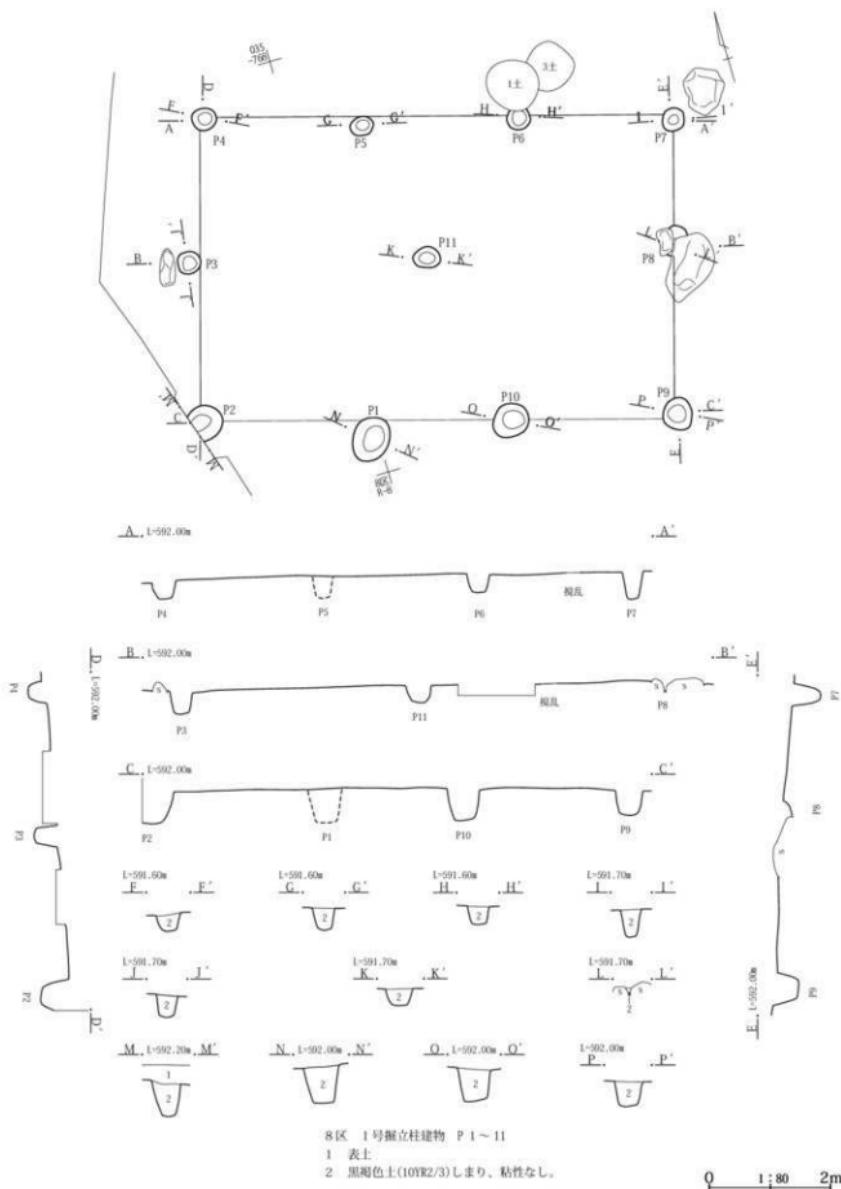
調査区西側

- 1 表土及び盛土
- 2 黑褐色土(10R2/3)しまりややあり、粘性あり。白色粒若干含む。1cmの大の小角礫を少量含む。
- 3 黑褐色土(10R2/3)しまりややあり、粘性あり。白色粒若干含む。1cmの大の小角礫を少量含む。色調暗い。
- 4 喀褐色土(10RS4/4)しまりややあり、粘性ややあり。1cmの大の小角礫を少量含む。
- 5 黄褐色土(10RS5/6)しまりややあり、粘性あまりなし。黄橙色粒を少量含む。
- 6 黄褐色土(10RS5/6)しまりややあり、粘性なし。1～20cmの大の礫からなる不均質な層。

第5-3図 基本土層



第5-4図 調査区全体図



第5-5図 8区1号掘立柱建物

0 1:80 2m

第5-2表 8区1号掘立柱ピット計測表

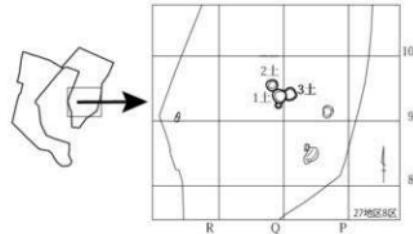
名前	P 1	P 2	P 3	P 4	P 5	P 6	P 7	P 8	P 9	P 10	P 11
位置	Q-R-8	R-8	R-9	R-9	Q-9	Q-9	P-9	P-8	P-7	Q-8	Q-8
平面形状	長円形	不明	円形	円形	長円形	円形	円形	円形	円形	円形	長円形
規模	長(m) 0.77 (0.48)	0.39	0.41	0.4	0.39	0.4	0.51	0.54	0.62	0.47	
	幅(m) 0.58 0.56	0.37	0.37	0.31 (0.35)	0.31 (0.35)	0.37 (0.32)	0.5	0.54	0.54	0.34	
	深(m) 0.62 0.59	0.38	0.31	0.36	0.31	0.46	0.1	0.42	0.55	0.28	
主軸方位(度)	N-47-E	N-72-E	N-81-W	N-64-W	N-89-W	N-74-W	N-63-E	N-34-E	N-17-W	N-64-E	N-68-W
重複						1号土坑					

埋没土 しまり、粘性ともにない黒褐色土。

重複 8区1号土坑、8区3号ピット。

遺物 なし。

所見 本遺構は年代を特定する資料にかけ、帰属年代は不詳である。2間×3間の掘立柱建物であり、中世以前の区分であれば3間無扇の建物に相当する。8区1号土坑に先行するが、8区3号ピットとの関係は特定できない。



2 土坑

調査区東側1号掘立柱建物に隣接して3基の土坑が検出されている。

(1) 8区1号土坑(第5-6図、PL.18)

位置 8区P～Q-9グリッド、調査区東側に位置する。

形状 偏円形を呈する。

規模 0.88×0.81×0.27m

主軸方位(度) N-47-W

埋没土 しまり、粘性ともにない黒褐色土。

重複 8区3号土坑、8区1号掘立柱建物。

遺物 図化には至らなかったが、埋没土から碁石が出土している。

所見 本遺構は年代を特定する資料にかけ、帰属年代は不詳である。8区3号土坑、8区1号掘立柱建物のいずれよりも新しい。

(2) 8区2号土坑(第5-6図、PL.19)

位置 8区Q-9グリッド、調査区東側に位置する。

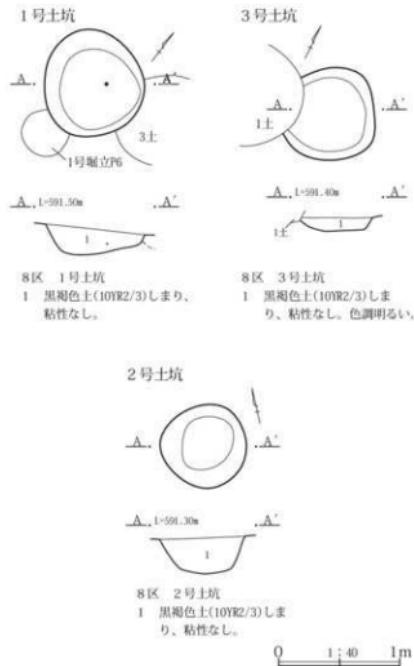
形状 偏円形を呈する。

規模 (0.76)×0.75×0.12m

主軸方位(度) N-61-E

埋没土 しまり、粘性ともにない黒褐色土。

重複 なし。



第5-6図 土坑

遺物 なし。

所見 本遺構は年代を特定する資料にかけ、帰属年代は不詳である。

(3) 8区3号土坑(第5-6図、PL.19)

位置 8区P-9グリッド、調査区東側に位置する。

形状 圓丸形を呈する。

規模 0.71×0.69×0.31m

主軸方位(度) N-77-W

埋没土 しまり、粘性ともない黒褐色土。

重複 8区1号土坑。

遺物 なし。

所見 本遺構は年代を特定する資料にかけ、帰属年代は不詳である。8区1号土坑に先行する。

3 櫃およびビット

(1) 8区1号櫃(第5-7図、PL.19~20)

位置 8区U~W-9~10グリッド、調査区西側に位置する。

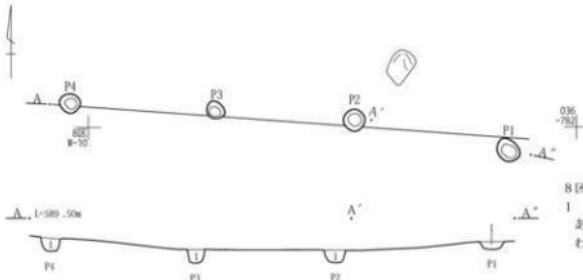
形状等 ビット4基が検出されている。

規模 (5.73)m

主軸方位(度) N-86-W

第5-4表 ビット計測表

名稱	3P	5P	6P	7P	8P	9P	10P	12P	13P	14P	15P
位置	8区R-8	8区P-10	8区P-10	8区O-11	8区O-12	8区P-10-11	8区R-9-10	8区W-7	8区U-9	8区V-9	8区U-9
平面形状	長円形	長円形	長円形	方形	長円形	長円形	偏円形	長円形	円形	円形	円形
規模											
長(m)	0.45	0.54	0.43	0.29	0.49	0.39	0.53	0.58	0.31	0.27	0.20
対(m)	0.26	0.36	0.33	0.25	0.38	0.35	0.46	0.45	0.31	0.26	0.18
深(m)	0.18	0.22	0.13	0.24	0.12	0.24	0.40	0.50	0.27	0.16	0.18
主軸方位(度)	N-74-E	N-29-W	N-49-E	N-57-E	N-27-W	N-53-W	N-39-E	N-72-W	N-10-E	N-33-E	N-12-W
重複	8-1号掘立										



8区1号櫃
1 黒色土(10YR2/1)しまりあまりなし、粘性ややあり。
わずかに小角礫を含む。

第5-7図 8区1号櫃



4 その他

(1) 8区1号ピット集中(第5-10図、PL.21)

位置 8区T~V-10~11グリッド、調査区北西部の北下がり斜面に位置する。

形状等 隅丸方形を呈する。

規模 6.34×6.01m

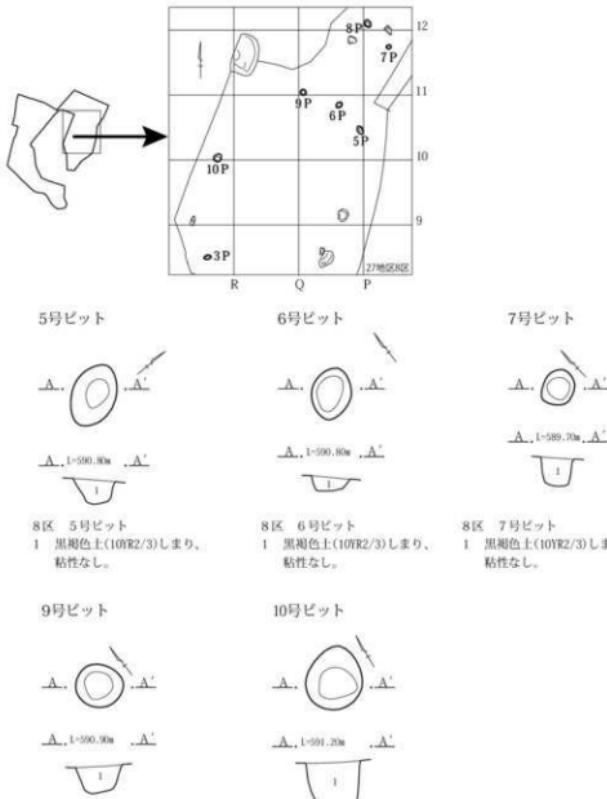
主軸方位(度) N-70-E

埋没土 1cm大の小角礫を少量含む、色調暗い暗褐色土。

重複 なし。

遺物 繩文土器片など8点が確認されている。

所見 調査時点において、2回の精査が行われたが遺構として認定には至らなかった。出土遺物から縄文時代の遺構にかかる可能性がうかがえる。

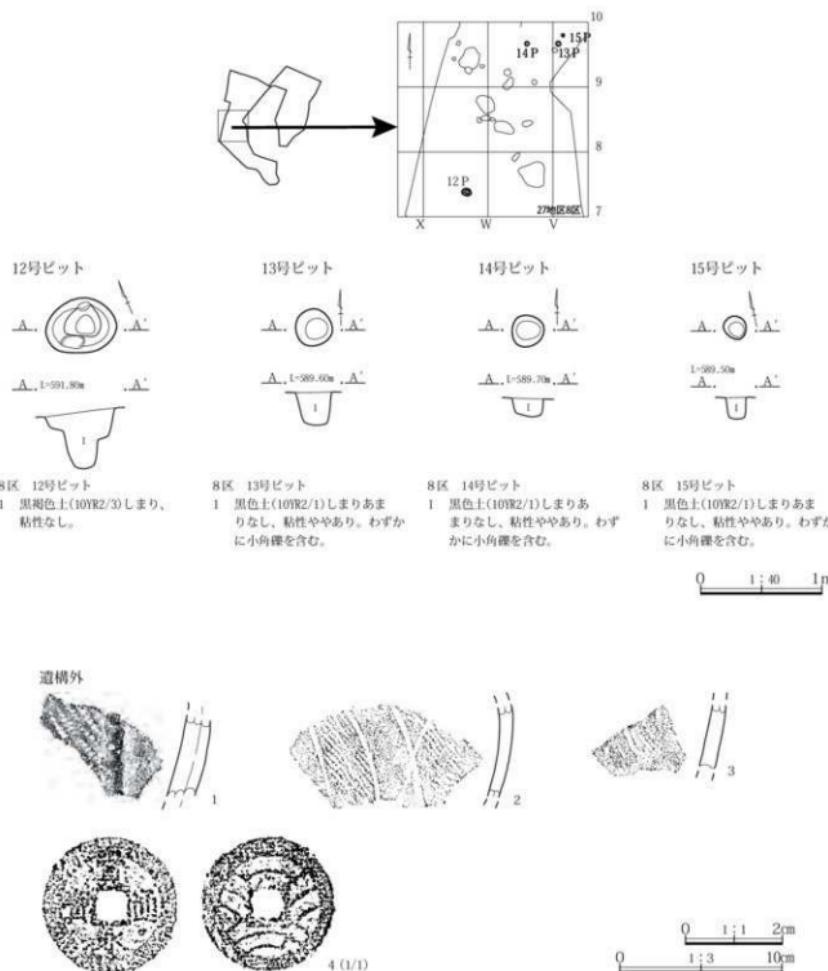


第5-8図 ピット1

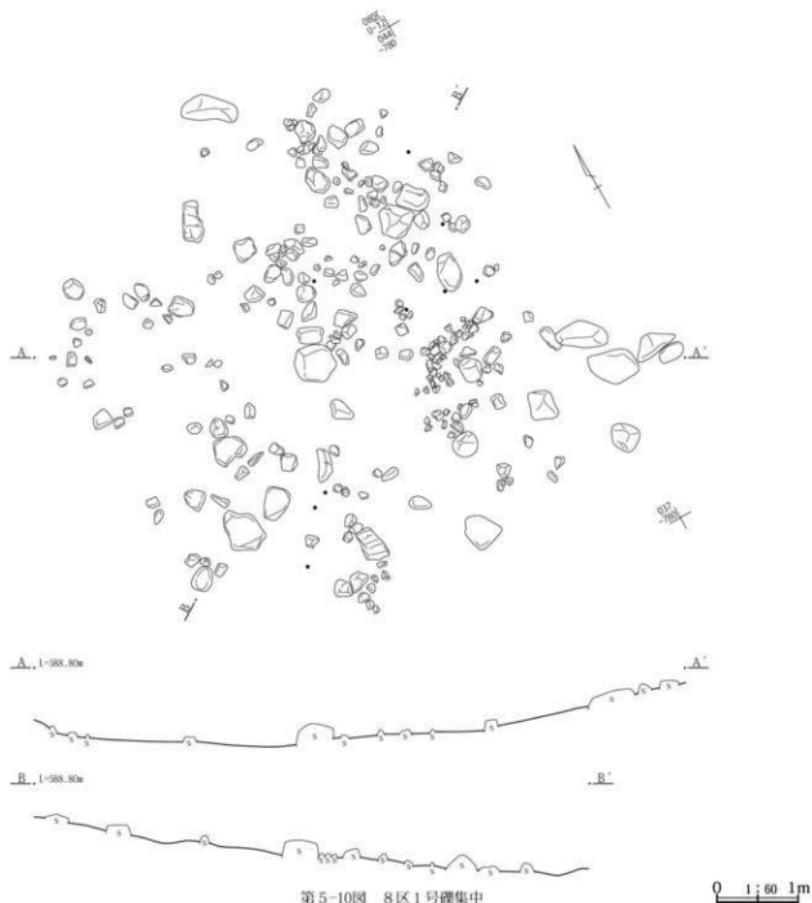
0 1:40 1m

5 出土遺物

遺構外から、縄文土器片(1～3)、古銭(4)のほか、
墓石1点が出土している。(第5-9図、P.L.30)



第5-9図 ピット2、出土遺物



第5-10図 8区1号礫集中

第5-5表 遺物観察表

探査 Pl.No.	No.	種類 器種	出土位置	計測値	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第5-9図 Pl.21	1	礎文土器 深鉢	8区1号トレンド 4層 体部破片		繊石英・輝石/良好 黄褐色	縦線による懸垂文構成。施文部は縦位LR充填施文。磨消部及び内面は撫で調整	加曾利Ⅲ式
第5-9図 Pl.21	2	礎文土器 深鉢	8区1号トレンド 4層 体部破片		繊石英・白色粒・ 褐色粒/良好/にぶい 黄色	弧状沈線に画された施文部と磨消部の交互配列。施文部 はLR充填施文。磨消部及び内面は平滑な撫で調整	加曾利Ⅳ式
第5-9図 Pl.21	3	礎文土器 深鉢	8区1号トレンド 4層 体部破片		繊石英・白色粒・ 褐色粒/良好/にぶい 黄色	体部下半か。沈線による懸垂文下端。縞文はLRか。内面 平滑な撫で調整。1と同一側体か	加曾利Ⅳ式
第5-9図 Pl.21	4	錢貨 寛永通寶	8区1号トレンド 手 完形	外 径 2.80 内 径 2.03 厚 0.15 重 3.8		四文錢。11波。全体に劣化が見られるが、文字、輪、郭 は明瞭。	

第6章 川原湯勝沼遺跡(4)

第1節 調査に至る経緯と経過

第1項 調査に至る経緯

川原湯勝沼遺跡は「川原湯上湯原遺跡」という遺跡名で平成9年12月1日から同月16日かけて、試掘調査後直ちに本調査が行われた。この調査では縄文時代前期末～中期初頭等の土坑、近世の烟が検出され、当事業団2002「第3章 川原湯勝沼遺跡」『ハッ場ダム発掘調査集成(1)』として刊行されている。

平成15年、国土交通省関東地方整備局ハッ場ダム工事事務所の依頼を受けた県教育委員会文化課の試掘調査により、本調査の必要となる遺構が確認された。これを受け、平成15年7月から平成16年4月にかけて行われた本調査により、縄文・古墳時代以降の溝、烟、埋設土器、土坑、ピット、河道、平安時代の堅穴建物、田畠、天明泥流下の烟、ヤックラ(集石)、道、溝などが検出された。この成果は当事業団2005『川原湯勝沼遺跡(2)』として刊行されている。

ハッ場ダム工事事務所の依頼により県教育委員会文化財保護課が実施した平成26年5月の試掘調査により、

As-Alに埋没した烟などの遺構が確認され、平成28年度に本調査が実施されることとなった。この調査により、天明泥流下の烟、ヤックラ(集石)、溝、近世以前の烟などが検出され、その成果は当事業団2019『川原湯勝沼遺跡(3)』として刊行されている。なお同書で取り上げられなかったA、C、D区の2面出土の遺構とA～D区2面出土の遺物を本章末尾に掲載した。

これまでの発掘調査において、調査対象地ではあるが工程上の都合から調査に着手できなかった地点を調査対象とする発掘調査が令和元年度に実施されることとなった。本章はこの発掘調査により得られた成果を報告する。

本遺跡の詳細な調査経過については上述した当事業団2019『公益財團法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書第658集、川原湯勝沼遺跡(3)』に詳しい。

第2項 調査の経過

発掘調査は令和元年7月1日～令和元年9月30日に実施された。調査範囲は遺跡の南辺を占める崖沿いの場所であるが、まず調査区北東部から掘削機械を用いた表土掘削を行い、その後作業員による遺構精査を行った。

7月10日、天明3年の浅間山噴火に伴う天明泥流に埋



第6-1図 遺跡位置図

もれた畠の調査を開始する。7月18日、調査区北東部の全景写真撮影を行った後、2面調査のため掘削機械による掘削作業を行うとともに、調査区北西部の表土掘削を開始する。8月7日、調査区南部1面の掘削機械による表土掘削を開始する。8月26日、全景写真撮影を行い、その後各遺構の写真撮影と遺構測量を行う。9月2日、調査区中央部2面の遺構調査に着手し、つづいて調査区南西部2面の遺構調査に移行する。9月6日、2面畠と1.5面畠の全景写真撮影と遺構測量を行い、発掘調査を終了した。

第2節 遺跡の立地と基本土層

第1項 遺跡の立地

川原湯勝沼遺跡は群馬県吾妻郡長野原町大字川原湯に所在する。本遺跡は長野原町北部を東流する吾妻川右岸の河岸段丘上に位置し、八ッ場ダム建設に伴い架橋された不動大橋の直下に位置している。遺跡は南に位置する急峻の麓に存在する北面傾斜地に展開し、標高は約540m、吾妻川との高低差は約30mである。

第2項 基本土層

本調査区もこれまでの調査区と同様に、地点ごとの差異が大きい。標準土層としては石守2020「第1章第3節4 基本土層」『公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書第658集、川原湯勝沼遺跡(3)』に掲載された層序を踏襲したい。調査区の基本土層として、調査区東半と調査区西半の2地点の層序を提示する。西半の地点は平成28年度調査のB区基本土層採取地点の南至近の資料となる。また東半の地点は同じく山地斜面に近い位置の資料であるが、遺跡東南端の資料となる。

川原湯勝沼遺跡標準土層

- I 表土層
- II 黒褐色天明泥流(天明3年/1783年)
- III As-L層(天明3年/1783年)
- IV 黒褐色から暗褐色土：天明の耕作土
- V 黒色～黄褐色土
- VI 黒色～黒褐色土：As-Kk (大治3年/1128年)含む。
- VII 黒褐色土
- VIII 黄褐色土：ローム漸移帶

IX 黄褐色ローム

X 黄褐色砂礫層

第3節 E区の遺構と遺物

第1項 調査の概要

令和元年度の調査は、平成16年度調査と平成28年度調査のB区およびC区の南に連なる、東西に細い帯状の範囲が調査対象であり、E区と呼称されている。道5条、畑21区画、ヤックラ6基、土坑17基とピット4基が検出された。このうち、土坑とピットおよび2区画の畑は縄文時代以降の遺構確認面である2面から検出されている。また道1条と畑1区画は天明泥流に覆われた1面と2面との間に位置する1.5面からの検出である。なお、調査区南辺東半から検出されたE1号道と名付けられた遺構は、本遺跡の南に聳える山地と遺跡の立地する台地との境に沿って東西に延びており、隣接集落と遺跡を結ぶ要路と考えられている。なおA～D区2面については後述(4節)する。

第2項 遺構と遺物

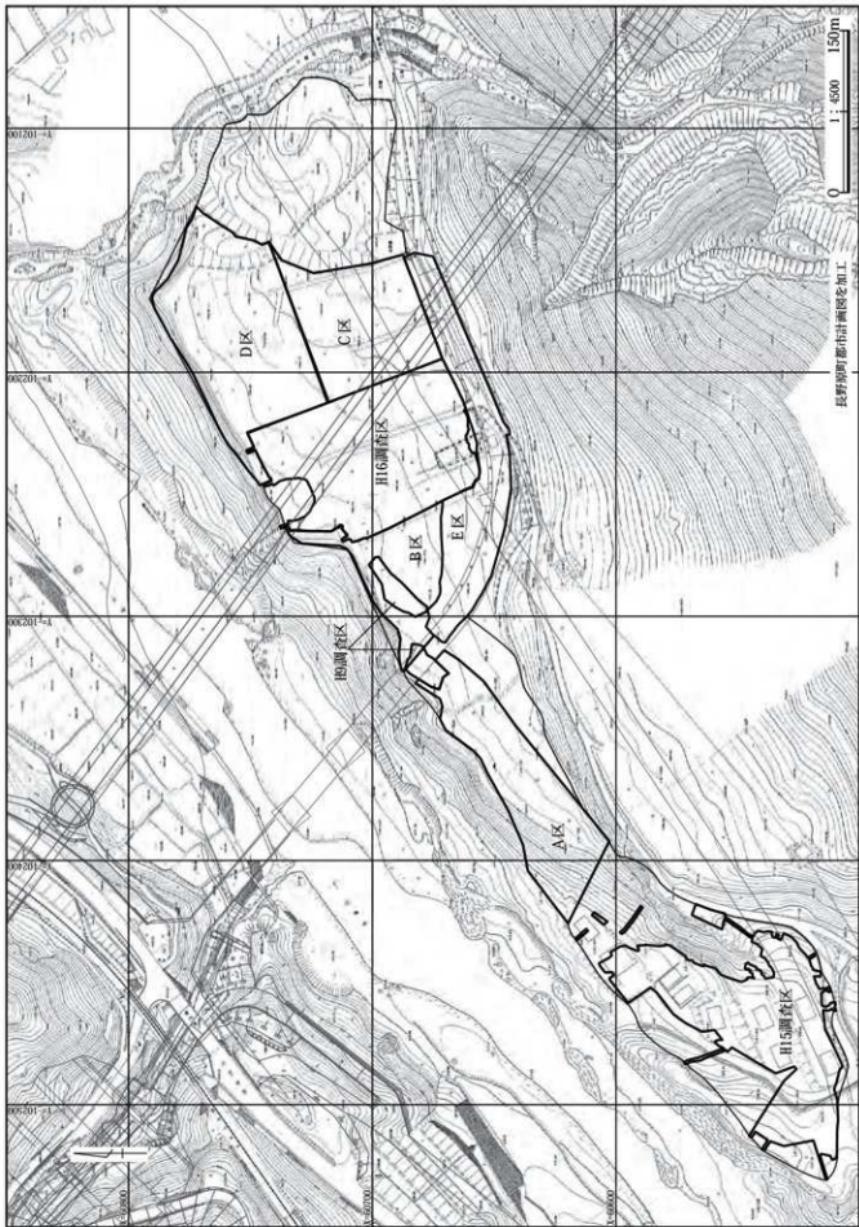
1 道

本調査区からは5条の道が検出されている。E3号道を除く4条は天明泥流直下の面(1面)に位置する。また、E1号道の道幅は所により2mを超えており、東に位置する石川原遺跡とつながる街道筋と推測されている。残る4条はいずれも畑と畑をつなぐ道である。なおE3号道は天明泥流直下の面(1面)の約1m下位、縄文時代以降の面(2面)の約0.3m上位からの検出であり、2面から道は検出されていない。

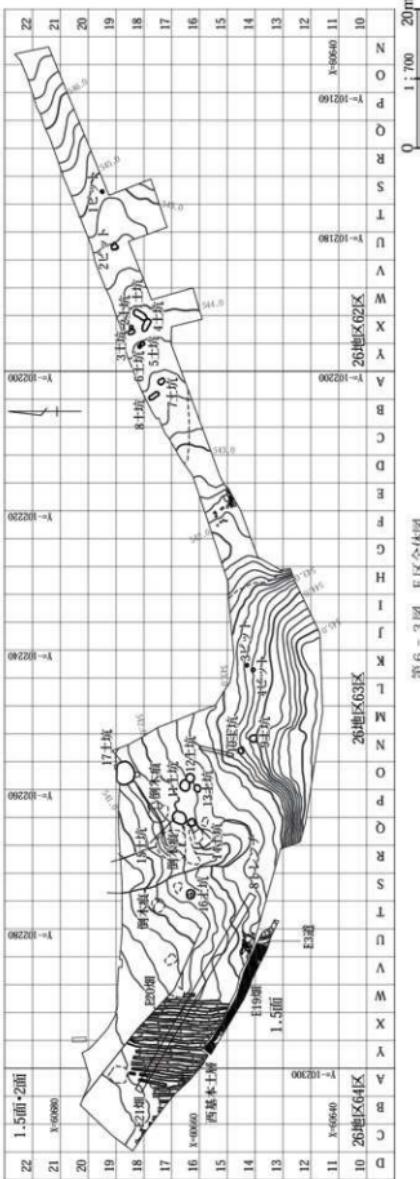
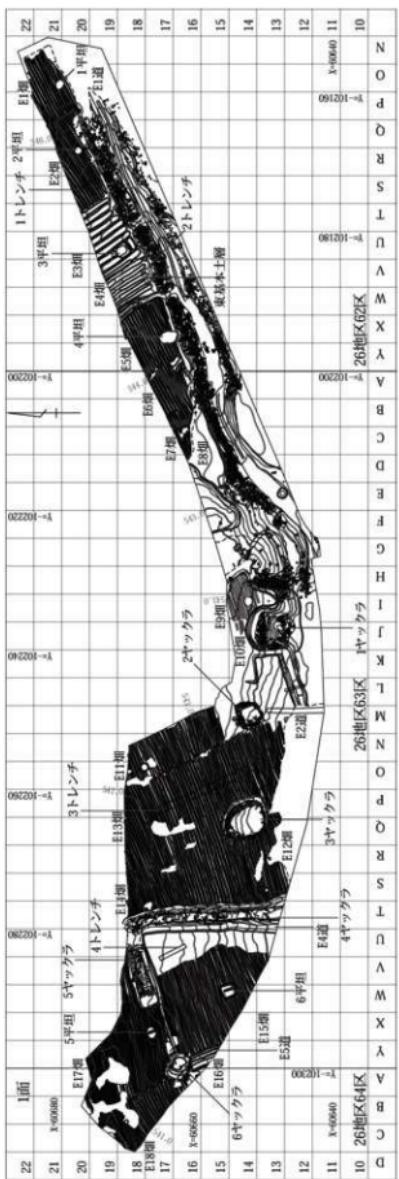
(1) E1号道(第6～5図、PL.22～23、39)

位置 62区P～63区G-11～19グリッド、調査区南辺東半に位置する。

形狀等 北側に位置する畑地から1mほど高い斜面に設けられた道の路肩は、角礫をヤックラ状に積み上げ一段高くなり、畑に下る出入口が3箇所開かれている。南側の路肩も角礫でヤックラ状に積み上げられており、その外側の斜面には直近の崖からの落石と思われる角礫が多くみられる。



第6-2図 調査区位置図



第6 - 3圖 E區全體圖

規模 $(72.94) \times 2.40 \sim 2.67m$

走行方位(度) N - 63 - E

遺物 路肩から寛永通寶(1)、路面から煙管(3)が出土している他、図化には至らなかつたが鉄釘、近世の磁器片が出土している。

所見 南側に位置する崖からの落石を除去しながら街道を維持していたと推測されている。隣接集落との要路と推察される。

(2) E2号道(第6 - 6 図, PL.23)

位置 63区J ~ L - 12 ~ 14グリッド、調査区中央辺に位置する。

形状等 鉤の手状をなし、西よりE1号ヤックラに至り、ヤックラ沿いに北に下る。道の東西部は浅い側溝を作り。

規模 南北部 $3.33 \times 0.84m$ 、東西部 $(8.65) \times 1.39m$ 。側溝 $(8.65) \times 0.72m$ 、深さ $0.09m$ 。底部西端標高 $544.9m$ 、底部東端標高 $544.3m$ 、両端の標高差 $0.6m$ 。

走行方位(度) 南北部N - 6 - W、東西部N - 72 - E。

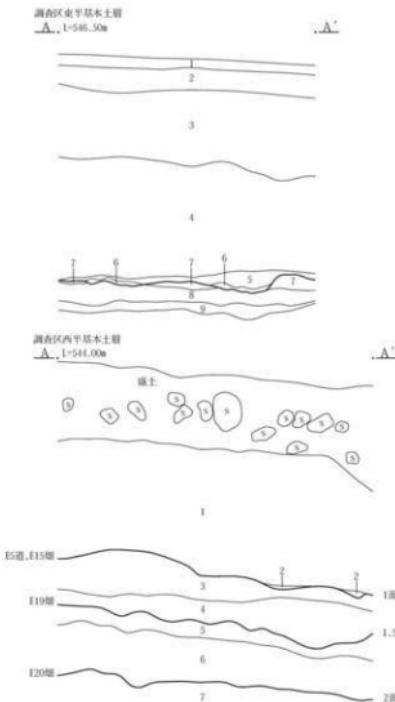
遺物 なし。

所見 本遺構は西進して、E4号ヤックラに至ると思われる。

(3) E3号道(第6 - 7 図, PL.23)

位置 63区U - 13グリッド、調査区西端付近に位置する。天明泥流直下の面の下位(1.5面)に位置する。

形状等 断面は浅い皿状をなすが、南端崖側は北端の谷側よりも道幅が広い。



第6 - 4 図 基本土層

調査区東半

- 1 灰赤色土(2.5YR5/2) 道路下碎石。
- 2 にぶい黄褐色土(10YR4/3) 道路下砂利土。
- 3 黑褐色土(10YR3/1) 道路下擾乱土。
- 4 黑褐色土(10YR3/3) 天明泥流。しまりややあり、粘性ほぼなし。Φ 1 ~ 10cm 粒20%。
- 5 黑褐色土(7.5YR2/2) しまりわずかにあり。粘性ややあり。まばらに暗褐色土混ざる。
- 6 As-A'
- 7 黑褐色土(7.5YR2/2) しまりわずかにあり。粘性ややあり。Φ 1 ~ 2cm 粒少量。
- 8 黑褐色土(7.5YR2/2) 耕作土。しまりわずかにあり。粘性ややあり。Φ 1 ~ 4cm 粒少量。
- 9 黑褐色土(10YR2/3) しまりわずかにあり。粘性ややあり。Φ 3 ~ 10cm 粒混ざる。

調査区西半

- 1 天明泥流
- 2 As-A'
- 3 黑褐色土(10YR3/2) しまりややあり、粘性わずかにあり。Φ 2 ~ 3cm 角礫少量。天明の耕作土。
- 4 暗灰黄色土(2.5Y4/2) しまり、粘性わずかにあり。Φ 2 ~ 4cm 角礫20%。洪水層。
- 5 黑褐色土(7.5YR3/1) しまり、粘性ややあり。Φ 1 ~ 2cm 角礫少量。1.5cm面耕作土。
- 6 オリーブ褐色土(2.5Y4/4) シルト質土。しまりややあり。粘性わずかにあり。Φ 2 ~ 5cm 角礫20%。洪水層。
- 7 黑褐色土(2.5Y3/2) しまりややあり、粘性あり。Φ 3 ~ 4cm 角礫少量。2cm面耕作土。



第6章 川原湯勝沼遺跡(4)

規模 $(1.84) \times 0.63m$

走行方位(度) N - 9 - W

遺物 なし。

所見 遺構は2面を覆った2~5cmの角礫を含むシルト質の洪水層の上に堆積する耕作土層(1.5面)に設けられたが、3cm前後の角礫を含む洪水層に覆われ失われたと思われる。本遺構の年代は出土層位から近世以前に比定されるが、中世に遡らないと推測されている。4号ヤックラの基盤構築と同時期の遺構と思われる。

(4) E4号道(第6-6図、PL.23)

位置 63区U~Y-17~18グリッド、調査区西端付近に位置する。

形状等 E5号ヤックラの南沿いに西のE6号ヤックラに到り、E17号畑とE15号畑を区分する。

規模 $(16.03) \times 0.35m$

走行方位(度) N - 72 - E

遺物 なし。

所見 道の北側には配石も認められ、南北に畑を区分する意図が強いと思われる。

(5) E5号道(第6-6図、PL.23)

位置 63区Y-15~16グリッド、調査区西端に位置する。

形状等 6号ヤックラから南に延びる。

規模 $(4.50) \times 0.50m$

走行方位(度) N - 20 - W

遺物 なし。

所見 南の崖際から北に下り畑地に続くものと思われる。

2 畑

本調査区からは21区画の畑が検出されている。このうち1区画(E19号畑)は調査区西端の天明泥流直下の面(1面)下位、縄文時代以降の面(2面)上位から検出されている。また調査区西端の2面からは2区画の畑(E20号畑、E21号畑)が検出されており、残りはいずれも1面からの検出である。なお、1面下位から検出された畑はいずれも崖寄りである調査区南辺沿いに限定され、崖から離れた地点からは検出されていない。

畠のピッチは、畠1条とその谷・溝1条をあわせて1単位とし、耕作地の中から連続して3単位以上が確認で

きる部位を選び、その幅を測り単位数で除したものである。畠幅あるいは床幅ではない。1畠に1条を植えた場合の条と隣の畠の条との間隔あるいは畠立幅の推計値に近い。計測は縮尺1/40の遺構図を対象とした。

(1) E1号畑(第6-8、13図、PL.24、25)

位置 62区N~Q-20~22グリッド、調査区東端、E1号道の北に位置する。

畠のピッチ 0.45m

畠の走行方位(度) N - 59 - E

付属施設 E1号平坦面。

遺物 図化には至らなかったが、遺構面から近世の陶器徳利、遺構面-20cmから近世の陶器碗が出土している。

所見 C区2号畑の南に連なるため、一連の区画と思われる。

a E1号平坦面(第6-13図、PL.25)

位置 62区O-20~21グリッド。

形状等 長円形を呈する。

規模 1.56×1.14m

主軸方位(度) N - 56 - W

(2) E2号畑(第6-8、13図、PL.24、25)

位置 62区P~T-19~21グリッド、調査区東端寄り、E1号道の北に位置する。

畠のピッチ (東) 0.49m、(西) 0.50m。

畠の走行方位(度) (東) N - 54 - E、(西) N - 59 - E。

付属施設 E2号平坦面。

遺物 なし。

所見 C区3号畑の南に連なるため、一連の区画と思われる。

a E2号平坦面(第6-13図、PL.25)

位置 62区Q~R-20グリッド。

形状等 円形を呈する。

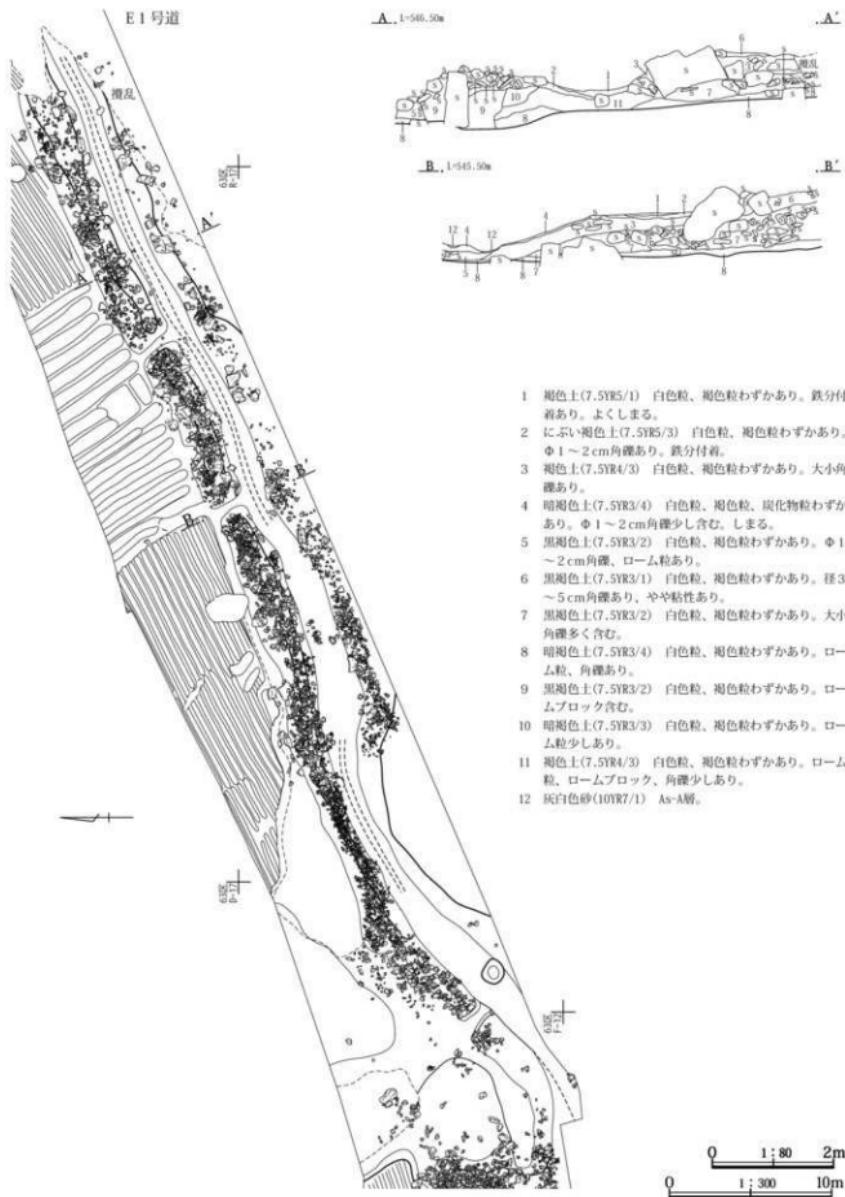
規模 1.14×1.10m

主軸方位(度) N - 8 - E

(3) E3号畑(第6-8、13図、PL.24、26)

位置 62区S~V-19~20グリッド、調査区東半、E1号道の北に位置する。

畠のピッチ 0.97m



第6-5図 道1

第6章 川原湯勝沼遺跡(4)

E2号道

A-A' L-545.30m



1 As-A

2 暗褐色土(10YR3/4) しまりあり、粘性ややあり。

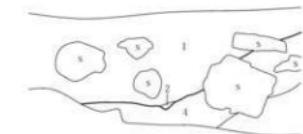
3 暗褐色土(10YR3/3) しまりややあり。粘性あり。

4 黒褐色土(10YR3/2) しまり、粘性ややあり。Φ 3~4cm角礫少量。

5 黒褐色土(7.5YR3/2) しまり、粘性わずかにあり。Φ 3~6cm角礫30%。

6 黒褐色土(2.5Y3/2) しまり、粘性わずかにあり。Φ 1~3cm角礫少量。

B-B' L-545.30m



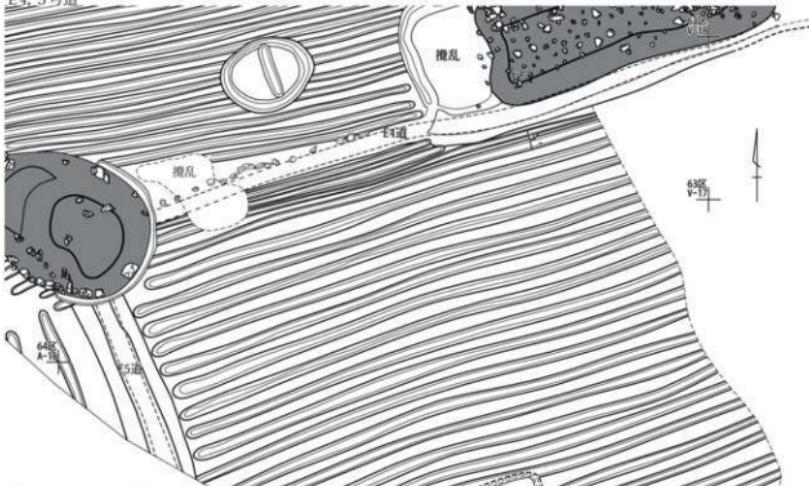
1 黒褐色土(10YR3/1) 天明泥流。しまりややあり、粘性わずかにあり。

2 As-A

3 黒褐色土(2.5Y3/1) シルト質土。しまり、粘性わずかにあり。Φ 5~20cm角礫少量。

4 黒褐色土(7.5YR3/1) シルト質土。しまり、粘性わずかにあり。Φ 5~20cm角礫50%。

E4, 5号道



A-A' L-542.30m



0 1:40 1m
0 1:120 5m

1 As-A

2 黒褐色土(7.5YR3/2) しまりわずかにあり、粘性ややあり。Φ 1cm礫 5%。

3 黒褐色土(10YR3/1) ヤックラ本体。Φ 4~20cm角礫90%、角礫の間に土が入り込む。

4 黒褐色土(7.5YR3/2) 耕作上。しまり、粘性わずかにあり。Φ 1~3cm角礫10%。

4' の土質は4層に似るが角礫5%

5 黒褐色土(2.5YR3/1) ややシルト質。しまり、粘性わずかにあり。Φ 1~5cm角礫3%。

6 黒褐色土(7.5Y3/1) しまりわずかにあり、粘性ややあり。Φ 3~15cm角礫20%。

第6-6 国 道2

歴の走行方位(度) N - 32 - W

付属施設 E3号平坦面。

遺物 なし。

所見 C区4号畠東半に連なるため、一連の区画と思われる。

a E3号平坦面(第6 - 13図、PL.26)

位置 62区U - 18~19グリッド。

形状等 長方形を呈し、外形に沿った溝を持つ。

規模 (外周) 2.28×1.90m、(内周) 1.65×1.15m。内外差(外周) 0.63m、(内周) 0.75m。

主軸方位(度) N - 35 - W

(4) E4号畠(第6 - 8図、PL.24)

位置 62区U - X - 17~19グリッド、調査区東半、E1号道の北に位置する。

歴のピッチ 0.97m

歴の走行方位(度) N - 30 - W

付属施設 なし。

遺物 なし。

所見 C区4号畠西半に連なるため、一連の区画と思われる。

(5) E5号畠(第6 - 8、13図、PL.24、26)

位置 62区W~63区A - 16~18グリッド、調査区東半、E1号道の北に位置する。

歴のピッチ 0.46m

歴の走行方位(度) N - 65 - E

付属施設 E4号平坦面。

遺物 なし。

所見 II区KA10 - 15号畠の南に連なるため、一連の区画と思われる。

a E4号平坦面(第6 - 13図、PL.26)

位置 62区X - 16~17グリッド。

形状等 不整形を呈する。

規模 2.68×1.73m

主軸方位(度) N - 21 - W

(6) E6号畠(第6 - 8図、PL.24)

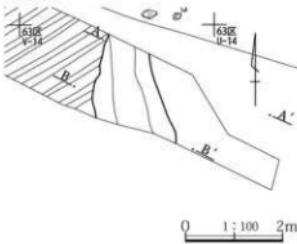
位置 63区A ~ B - 16~17グリッド、調査区東半、E1号道の北に位置する。

歴のピッチ 0.47m

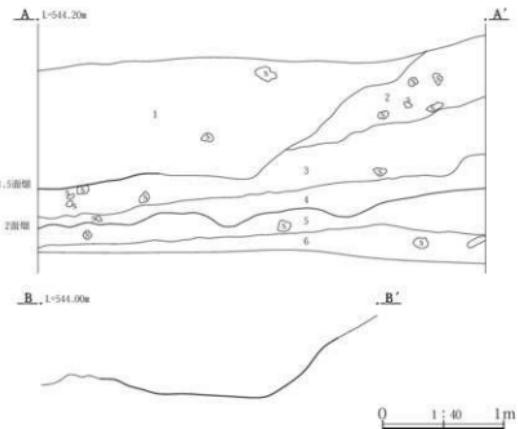
歴の走行方位(度) N - 63 - E

付属施設 なし。

E3号道



- 1 暗灰黄色土(2.5Y4/2) 洪水層。しまり、粘性わずかにあり。Φ 2~4 cm角礫20%。
- 2 黒褐色土(7.5Y3/1) しまり、粘性ややあり。Φ 1~2 cm角礫少量、3層に大き目の角礫混入。
- 3 黑褐色土(7.5Y3/1) 1.5面耕作上。しまり、粘性ややあり。Φ 1~2 cm角礫少量。
- 4 オリーブ褐色土(2.5Y4/4) 洪水層。シルト質上。輪りややあり、粘性わずかにあり。Φ 2~5 cm角礫20%。
- 5 黑褐色土(2.5Y3/2) 2面耕作上。しまりややあり、粘性あり。Φ 3~4 cm角礫少量。
- 6 褐色土(7.5YR4/3) 白色粒、褐色粒わずかあり。ローム粒。ロームブロック、角礫少しあり。



第6 - 7図 道3

遺物 なし。

所見 II区KA10-19号畑の南に連なるため、一連の区画と思われる。

(7) E7号畑(第6-8図、PL.24)

位置 63区B～D-16～17グリッド、調査区東半、E1号道の北に位置する。

畝のピッチ (東) 0.43m、(西) 0.44m。

畝の走行方位(度) (東) N-63-E、(西) N-63-E。

付属施設 1.66×0.65mの長方形に近い未耕作部分が存在する。

遺物 なし。

所見 II区KA10-23号畑の南に連なるため、一連の区画と思われる。

(8) E8号畑(第6-8図、PL.24)

位置 62区Y～63区C-16～17グリッド、調査区東半、E1号道の北に位置する。

畝のピッチ (東) 0.49m、(西) 0.46m。

畝の走行方位(度) (東) N-62-E、(西) N-61-E。

付属施設 なし。

遺物 なし。

所見 E6号畑とE7号畑の南に連なるが、両区画を区分する畝の区切りが存在しないため両者とは別区画とした。

(9) E9号畑(第6-9図、PL.24)

位置 63区H～I-13～14グリッド、調査区中央、E1号ヤックラの北に位置する。

畝のピッチ 0.46m

畝の走行方位(度) N-73-E

付属施設 なし。

遺物 図化には至らなかったが、遺構確認面から、桶の側板と思われる木質遺物が確認されている。

所見 II区KA11-6号畑の南に位置しており、一連の区画と推察される。E10号畑と同一区画の可能性がある。

(10) E10号畑(第6-9図、PL.24)

位置 63区I～J-14グリッド、調査区中央、E1号ヤックラの北に位置する。

畝のピッチ 計測不能。

畝の走行方位(度) N-77-E

付属施設 なし。

遺物 なし。

所見 II区KA11-6号畑の南に位置しており、一連の区画と推察される。E9号畑と同一区画の可能性がある。

(11) E11号畑(第6-9図、PL.24, 39)

位置 63区M～O-15～18グリッド、調査区西半、E2号ヤックラの北に位置する。

畝のピッチ (北) 0.55m、(南) 0.46m。

畝の走行方位(度) (北) N-65-E、(南) N-71-E。

付属施設 直径1.1m程度の平坦面に類似した、円形の未耕作部分が存在する。

遺物 遺構確認面から寛永通寶(3)が出土している。

所見 II区KA11-4号畑とII区KA11-5号畑の西に連なるため、同一の区画と思われる。またB区2号畑-Aの東南端と一連の区画をなすと思われる。

(12) E12号畑(第6-9図、PL.24)

位置 63区M～T-12～18グリッド、調査区西半、E4号ヤックラの東に位置する。

畝のピッチ (東) 0.49m、(西) 0.49m。

畝の走行方位(度) (東) N-71-E、(西) N-76-E。

付属施設 区画中央付近にヤックラが存在する。

遺物 図化には至らなかったが、遺構確認面から近世の陶器片が出土している。

所見 E13号畑とE14号畑の南に連なるが、両区画を区分する畝の区切りが存在しないため両者とは別区画とした。

(13) E13号畑(第6-9図、PL.24)

位置 63区P～S-17～18グリッド、調査区西半に位置する。

畝のピッチ 0.42m

畝の走行方位(度) N-68-E

付属施設 なし。

遺物 なし。

所見 B区2号畑-Aの南に連なるため、同一の区画と思われるが、畝の長さは相違する。

(14) E 14号畑(第6～9図、PL.24)

位置 63区 S～T - 16～18グリッド、調査区西半、E 4号ヤックラの東に位置する。

歴のピッチ 0.43m

歴の走行方位(度) N - 73 - E

付属施設 なし。

遺物 なし。

所見 B区1号畑 - Aの南に連なるため、一連の区画と思われる。

(15) E 15号畑(第6～10、13図、PL.26)

位置 63区 U～Y - 13～17グリッド、調査区西端寄り、E 4号道の南に位置する。

歴のピッチ (北) 0.55m、(南) 0.52m。

歴の走行方位(度) (北) N - 73 - E、(南) N - 73 - E。

付属施設 E 6号平坦面。

遺物 なし。

所見 北に位置するE 17号畑とはE 4号道で区分され、歴のピッチも相違することから別区画とした。なお、E 15号畑とE 4号ヤックラとの間に存在する未耕作地は、浅間山噴火に伴い畠地に積もったAs-Aをかき集め整地したものと思われる。

a E 6号平坦面(第6～13図、PL.26)

位置 63区 V～W - 14～15グリッド。

形状等 長方形を呈し、外形に沿った溝と主軸方位の溝を持つ。

規模 (外周) (2.20)×1.98m、(内周) (1.91)×1.61m。内外差(外周) (0.29)m、(内周) 0.37m。

主軸方位(度) (外周) N - 19 - W、(内周) N - 19 - W。

(16) E 16号畑(第6～10図)

位置 63区 Y～64区 A - 15～16グリッド、調査区西端、E 5号道の西に位置する。

歴のピッチ 計測不能。

歴の走行方位(度) N - 25 - W

付属施設 なし。

遺物 なし。

所見 区画の一隅が検出されたにとどまり、詳細は不明であるが、E 4号畑に類似した区画と思われる。

(17) E 17号畑(第6～10、13図、PL.26)

位置 63区 U～64区 B - 17～20グリッド、調査区西端、E 4号道の北に位置する。

歴のピッチ (北) 0.34m、(南) 0.36m。

歴の走行方位(度) (北) N - 75 - E、(南) N - 79 - E。

付属施設 E 5号平坦面。

遺物 なし。

所見 B区1号畑 - Bの西に連なるため、同一の区画と思われる。なお、E 5号ヤックラ沿いの東端はB区1号畑 - Aに連なるが区分していない。

a E 5号平坦面(第6～13図、PL.26)

位置 63区 X - 17グリッド。

形状等 長円形を呈し、外形に沿った溝と短軸方向の溝をもつ。

規模 (外周) 2.35×1.83m、(内周) 1.68×1.32m。内外差(外周) 0.29m、(内周) 0.37m。

主軸方位(度) (外周) N - 75 - E、(内周) N - 75 - E。

(18) E 18号畑(第6～10図)

位置 64区 A～C - 16～19グリッド、調査区西端に位置する。

歴のピッチ (北) 0.43m、(南) 0.48m。

歴の走行方位(度) (北) N - 65 - E、(南) N - 62 - E。

付属施設 なし。

遺物 なし。

所見 区画の南北で走向と歴のピッチが相違するが、一連の区画とした。

(19) E 19号畑(第6～11、12図、PL.25)

位置 63区 U～Y - 13～15グリッド、調査区西端寄りの1.5面、E 3号道の西に位置する。

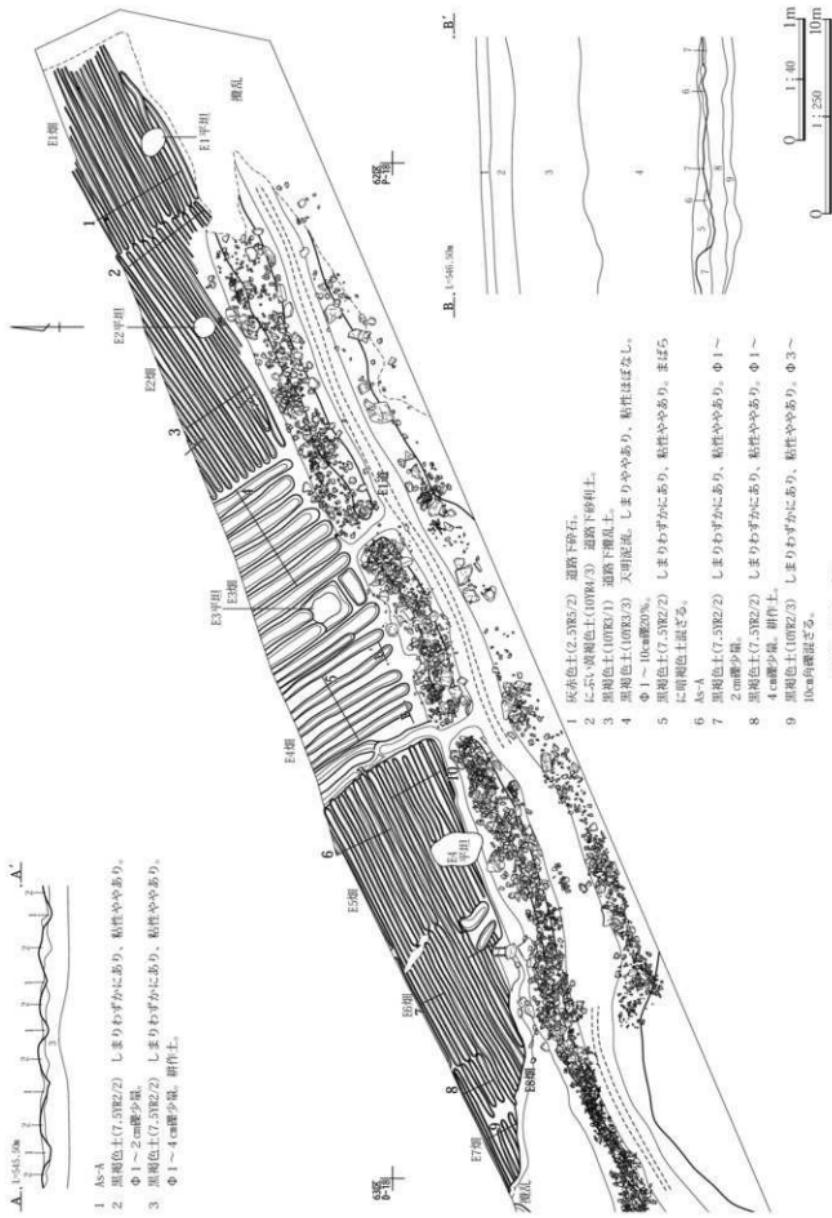
歴のピッチ (東) 0.32m、(中東) 0.30m、(中西) 0.30m、(西) 0.30m。

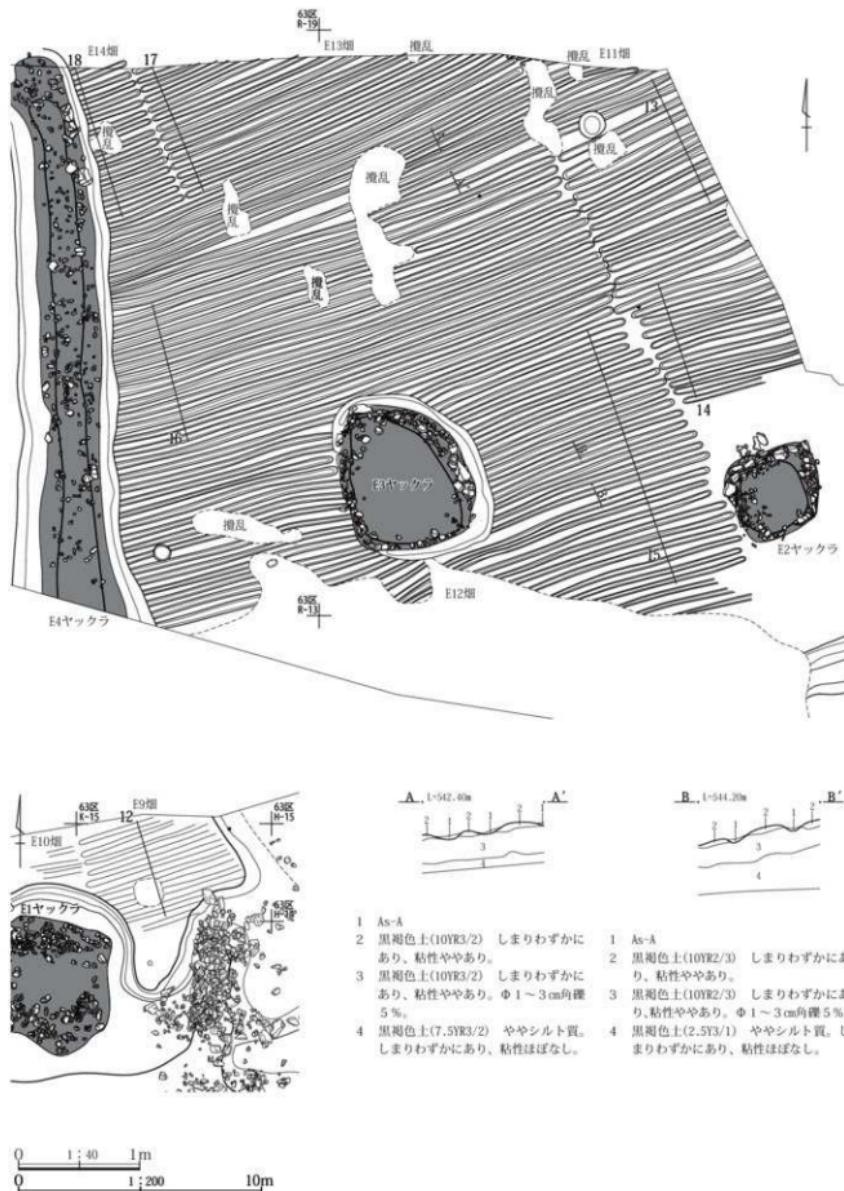
歴の走行方位(度) (東) N - 57 - E、(中東) N - 60 - E、(中西) N - 67 - E、(西) N - 62 - E。

付属施設 なし。

遺物 なし。

所見 南の崖に沿った狭い範囲での検出にとどまる。調査所見によれば、後世の耕作に伴う削平が指摘されているが、1.5面を覆った洪水による影響も及んでいると思





第6-9図 番2

われる。

(20) E20号畠(第6-11, 12図、PL.25)

位置 63区W~64区A-14~18グリッド、調査区西端寄りの2面に位置する。

畠のピッチ 0.92m

畠の走行方位(度) N-7-E

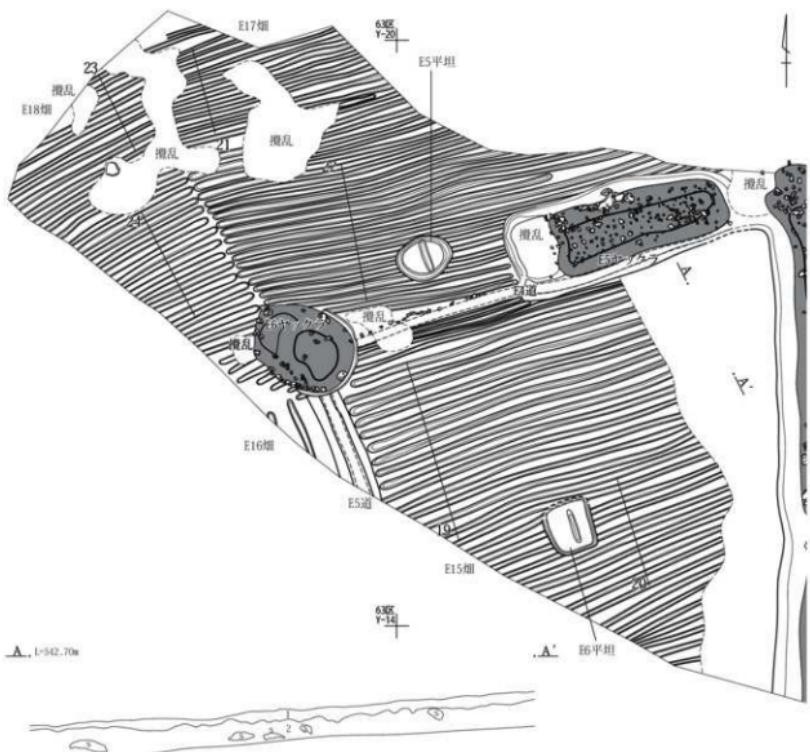
付属施設 なし。

遺物 なし。

所見 遺構北端の遺構面は天明3年である1面の0.4m程下位に位置するので、調査所見で指摘されているように、天明期の耕作により削平されなかった部分が残されたものと思われる。

(21) E21号畠(第6-11, 12図、PL.25)

位置 64区A-C-16~18グリッド、調査区西端の2面



1 黒褐色土(10YR3/2) しまりわずかにあり、粘性ややあり。Φ 1~2 cm 粘5%, As-A 2~4 cm ブロックで5%。

2 黒褐色土(10YR2/3) しまり、粘性わずかにあり。Φ 1~5 cm 角礫30%以上。

第6-10図 畑3

に位置する。

歟のピッチ 0.98m

歟の走行方位(度) N - 1 - W

付属施設 なし。

遺物 なし。

所見 遺構面は天明3年である1面の0.3m程下位に位置するので、調査所見て指摘されているように、天明期の耕作により削平されなかった部分が残されたものと思われる。

3 ヤックラ

遺構はいずれも調査区西半の1面から検出されている。平面形状の基本形として、円形に積まれたものと、方形に積まれたものの2形態が存在する。

(1) E1号ヤックラ(第6-14図、PL.26)

位置 63区I～J - 12～14グリッド、調査区西半、2号道の東に位置する。

形状等 不整形を呈し、遺構北半に溝を作ら。

規模 6.23×5.90m、高さ1.22m。

主軸方位(度) N - 54 - E

遺物 なし。

所見 本ヤックラの構築されている地盤は角礫混じりのシルト質土であり、E3号道で確認された2面を覆っているシルト質の洪水層との類似が想起される。

(2) E2号ヤックラ(第6-14図、PL.26)

位置 63区L～M - 13～14グリッド、調査区西半、E11号烟の南、E12号烟の東に位置する。

形状等 方形を呈する。

規模 3.96×3.50m。高さ1.03m。

主軸方位(度) N - 74 - E

遺物 なし。

所見 本ヤックラも角礫の集積であり、南にある崖に由来する礫と思われる。

(3) E3号ヤックラ(第6-14図、PL.26)

位置 63区P～Q - 13～15グリッド、調査区西半、E12号烟の中に位置する。

形状等 偏円形を呈し、西辺を除く3辺沿いに溝を作ら。

規模 6.52×5.12m。高さ1.05m。

主軸方位(度) N - 32 - W

遺物 なし。

所見 E2号ヤックラと同様に、北に下る斜面の傾斜がやや緩まる界隈に設けられている。

(4) E4号ヤックラ(第6-15図、PL.26)

位置 63区S～U - 12～18グリッド、調査区西端寄り、E12号烟の西に位置する。

形状等 帯状を呈する。

規模 (23.29)×2.01～3.23m。高さ0.66m。

主軸方位(度) N - 5 - W

遺物 なし。

所見 他のヤックラと異なり、調査区外から南北に堤状に設置されており、地境ともとれるが烟の区画とは一致していない。

(5) E5号ヤックラ(第6-15図、PL.27)

位置 63区U～W - 17～18グリッド、調査区西端寄り、E4号道の南に位置する。

形状等 長方形を呈する。E4号道と接する南辺を除く3辺に溝を持つ。

規模 7.29×2.60m。高さ2.73m。

主軸方位(度) N - 74 - E

遺物 なし。

所見 搾乱部分を挟みE4号ヤックラと近接するが、4号ヤックラより小ぶりな礫で構成されており、個別のヤックラとして構築されたと思われる。

(6) E6号ヤックラ(第6-16図、PL.27)

位置 63区Y～64区A - 16～17グリッド、調査区西端、E5号道の北に位置する。

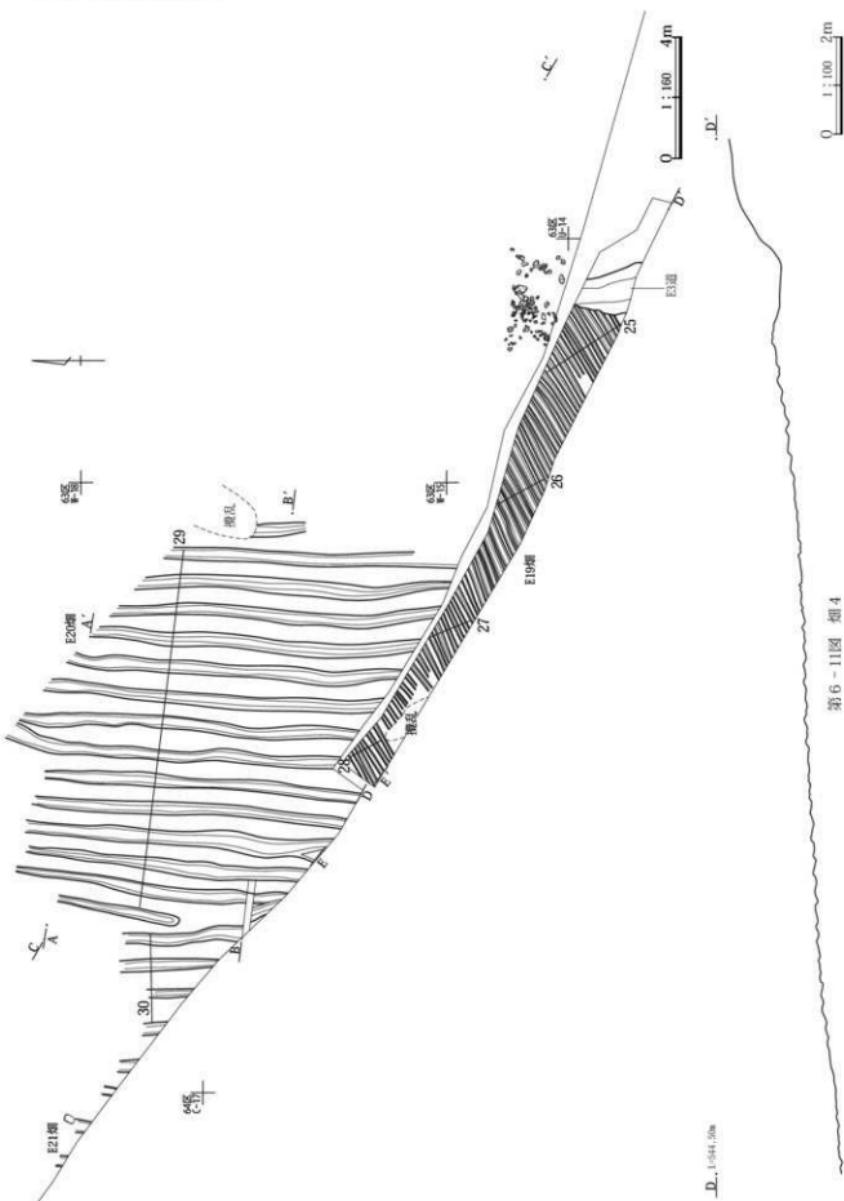
形状等 長円形を呈する。

規模 4.49×3.22m。高さ0.98m。

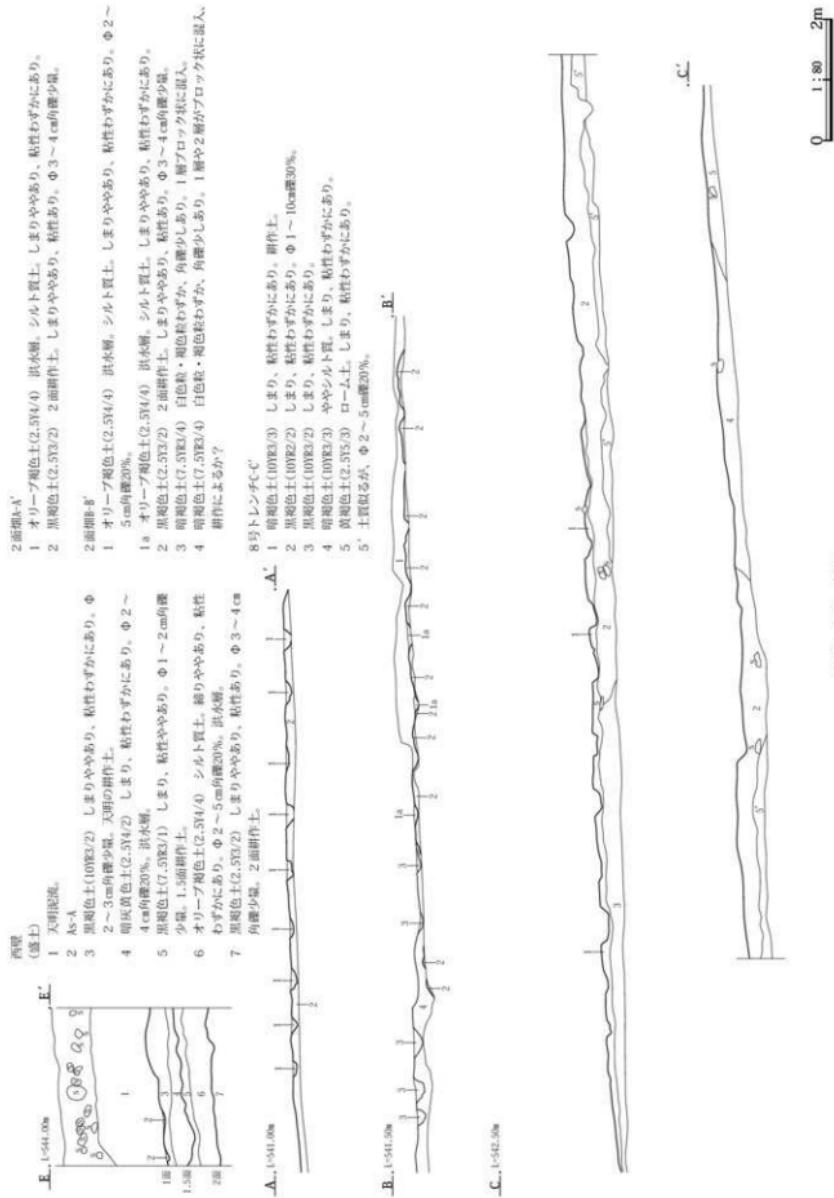
主軸方位(度) N - 49 - W

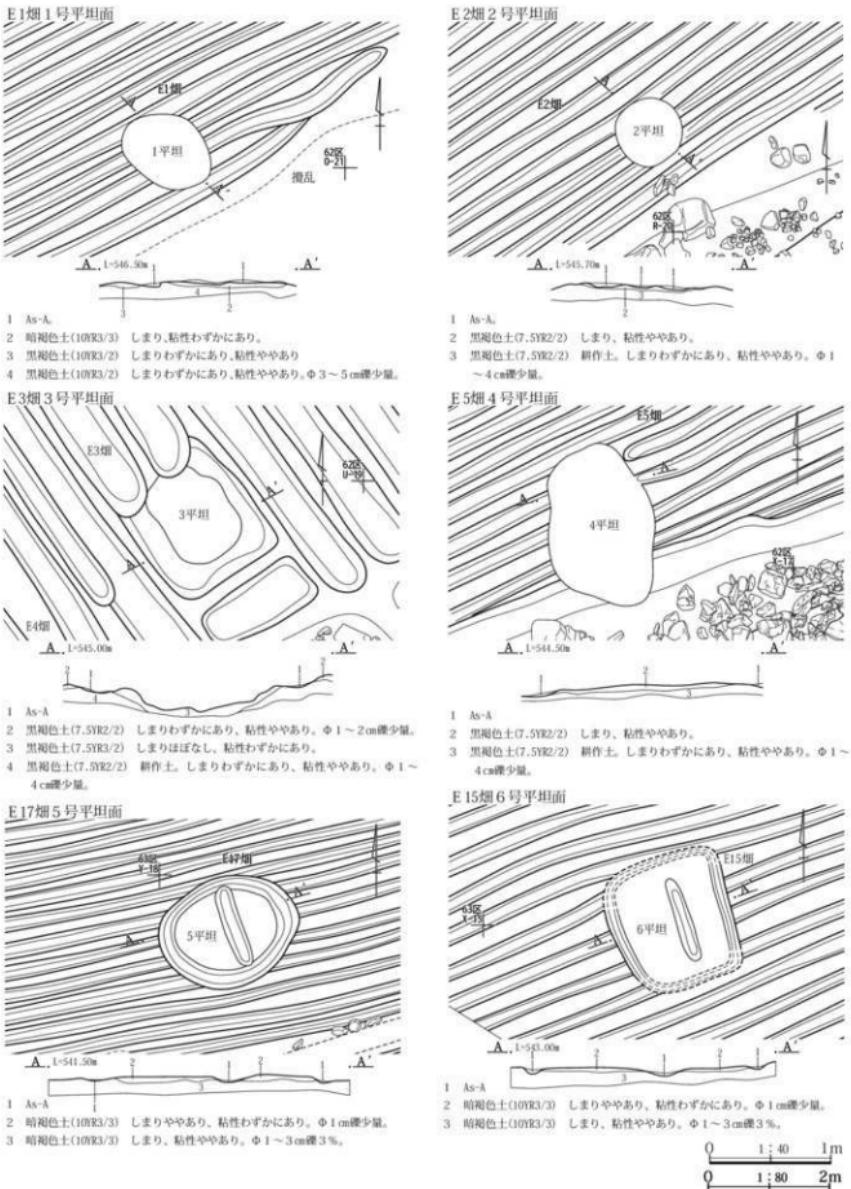
遺物 遺構確認面から近世の陶器片が出土している。

所見 ヤックラ直下にシルト質の土層を持たぬが、E5号ヤックラと礫の構成が類似しており、南に位置する崖との距離が影響したものと考えられる。



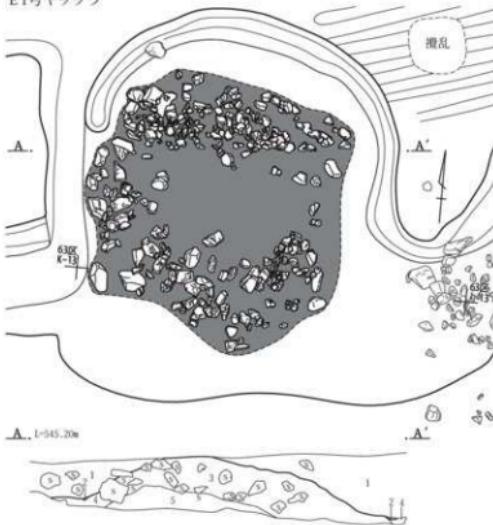
第6-11図 細4





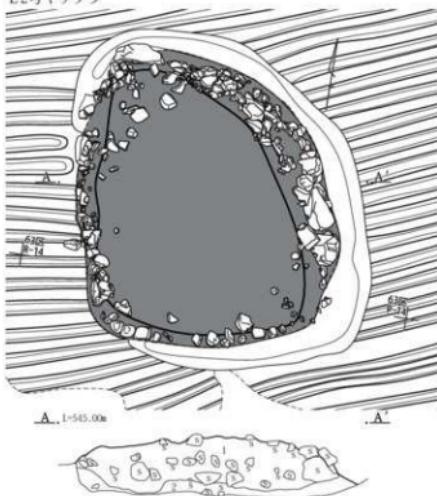
第6-13図 平坦面

E1号ヤックラ



- 1 黒褐色土(10YR3/1) 天明泥流。しまりややあり、粘性わずかにあり。
- 2 As-A
- 3 黒褐色土(2.5Y3/2) ヤックラ本体。しまり、粘性わずかにあり。 Φ 5 ~ 30cm角礫60%。
- 4 黒褐色土(2.5Y3/1) シルト質上。しまり、粘性わずかにあり。 Φ 5 ~ 20cm角礫少量。
- 5 黒褐色土(7.5Y3/1) シルト質上。しまり、粘性わずかにあり。 Φ 5 ~ 20cm角礫50%。

E2号ヤックラ



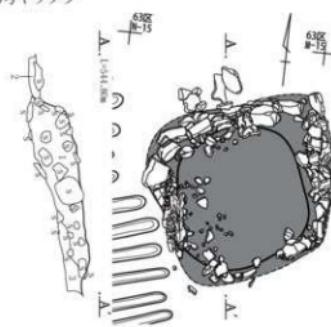
1 黒褐色土(10YR3/1) ヤックラ本体。しまり、粘性わずかにあり。 Φ 5 ~ 30cm角礫90%以上、角礫の間に土。

2 暗褐色土(10YR3/3) 耕作土。しまりわずかにあり、粘性ややあり。

3 黑褐色土(2.5Y3/1) ややシルト質。しまりわずかにあり、粘性ややあり。

第6-14図 ヤックラ1

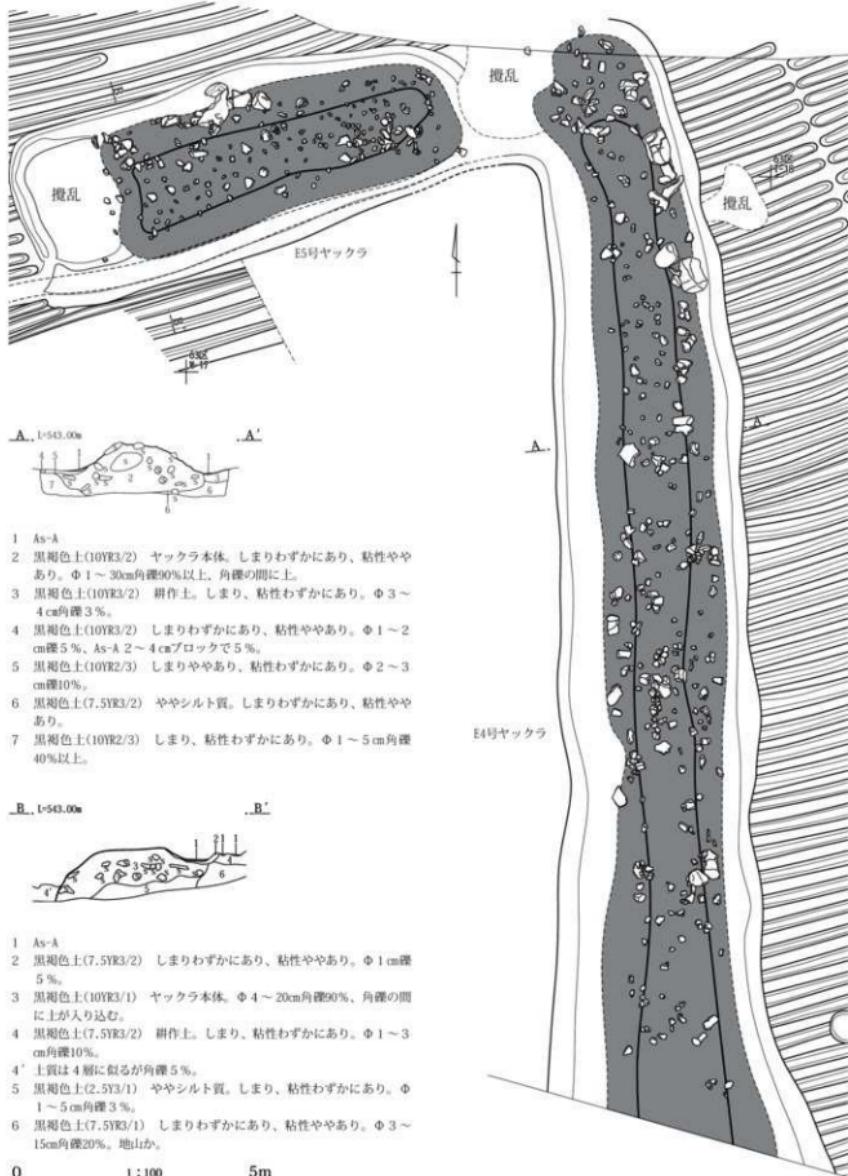
E3号ヤックラ



1 黒褐色土(10YR3/1) ヤックラ本体。しまりわずかにあり、粘性ややあり。 Φ 2 ~ 20cm角礫80%、角礫の間に土。

2 黒褐色土(10YR3/2) わずかにシルト質。しまりわずかにあり、粘性ややあり。 Φ 2cm角礫5%， Φ 10 ~ 20cm角礫少量。

0 1:100 4m



第6-15図 ヤックラ2

4 土坑

土坑は2面からの検出であり1面では検出されていない。またその検出位置も、2面中央部東寄りと2面西半東寄りの2か所に偏っている。なお、いずれの土坑も年代を推定する資料を伴っておらず、帰属時期を特定する根拠に欠ける。

(1) E1号土坑(第6-16図、PL.27)

位置 62区X～Y-17グリッド、調査区中央部東寄りに位置する。

形状等 長円形を呈する。

規模 $2.15 \times 0.87 \times 0.38\text{m}$

主軸方位(度) N-33-E

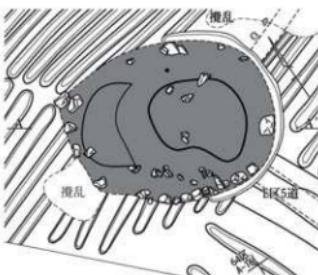
埋没土 ややシルト質で、暗褐色土がまばらに混じる黒褐色土。

重複 なし。

遺物 なし。

所見 本遺構の年代は、1面下位に位置することから、近世以前に比定される。

E1号ヤックラ



A-A', L=542.5m

A'

- 1 にふい黄褐色土(10YR4/3) しまり、粘性はほなし。Φ 2～20mm角礫90%。
- 2 暗褐色土(10YR3/3) しまり、粘性ややあり。Φ 1cm礫少量。
- 3 暗褐色土(10YR3/4) しまり、粘性わずかにあり。Φ 1cm礫30%。

0 1 100 2m

(2) E2号土坑(第6-17図、PL.27)

位置 62区Y-17グリッド、調査区中央部東寄りに位置する。

形状等 円形を呈する。

規模 $0.52 \times 0.47 \times 0.16\text{m}$

主軸方位(度) N-35-W

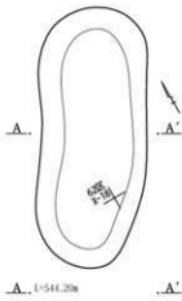
埋没土 黒褐色土。

重複 なし。

遺物 なし。

所見 本遺構の年代は、2面からの検出であり、近世以前に比定される。

E1号土坑



A-A', L=544.3m

A'

(3) E3号土坑(第6-17図、PL.27)

位置 62区Y-17グリッド、調査区中央部東寄りに位置する。

形状等 長円形を呈する。

規模 $0.99 \times 0.59 \times 0.16\text{m}$

主軸方位(度) N-21-W

埋没土 褐色土がまばらに混じる黒褐色土。

重複 なし。

- 1 黒褐色土(10YR2/2) ややシルト質。しまりわずかにあり、粘性ややあり。Φ 1～5mm褐色軽石少量。
- 2 褐色土(10YR4/4) しまりややあり。粘性わずかにあり。暗褐色土まばらに10%混ざる。

0 1 40 1m

第6-16図 ヤックラ3、土坑1

遺物 なし。

所見 本遺構の年代は、2面からの検出であり、近世以前に比定される。

(4) E4号土坑(第6-17図、PL.27)

位置 62区Y-17グリッド、調査区中央部東寄りに位置する。

形状等 長円形を呈する。

規模 $1.87 \times 0.81 \times 0.21\text{m}$

主軸方位(度) N-64-W

埋没土 褐色土がまばらに混じる黒褐色土。

重複 なし。

遺物 なし。

所見 本遺構の年代は、2面からの検出であり、近世以前に比定される。

E2号土坑



E2号土坑

- 1 黒褐色土(10YR2/2) ややシルト質、しまりわずかにあり、粘性ややあり。Φ 1~5mm褐色鉄石少量。
- 2 黒褐色土(10YR3/1) しまり、粘性わずかにあり。



(5) E5号土坑(第6-18図、PL.27)

位置 62区Y-17グリッド、調査区中央部東寄りに位置する。

形状等 長方形を呈する。

規模 $0.58 \times 0.44 \times 0.12\text{m}$

主軸方位(度) N-33-W

埋没土 ややシルト質で、褐色土がまばらに混じるオーリーブ黒色土。

重複 なし。

遺物 なし。

所見 本遺構の年代は、2面からの検出であり、近世以前に比定される。

E3号土坑



E3号土坑



(6) E6号土坑(第6-18図、PL.27)

位置 62区Y-17グリッド、調査区中央部東寄りに位置する。

形状等 方形を呈する。

規模 $0.48 \times 0.40 \times 0.20\text{m}$

主軸方位(度) N-49-E

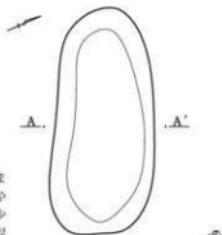
埋没土 ややシルト質で、褐色土がまばらに混じるオーリーブ黒色土。

重複 なし。

遺物 なし。

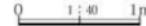
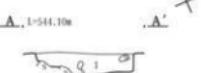
所見 本遺構の年代は、2面からの検出であり、近世以

E4号土坑



E4号土坑

- 1 黒褐色土(2.5Y3/1) しまりわずかにあり、粘性ややあり。Φ 2~5cm角礫少量。褐色土まばらに10%混ざる。



第6-17図 土坑2

前に比定される。

(7) E7号土坑(第6～18図、PL.28)

位置 62区Y-17グリッド、調査区中央部東寄りに位置する。

形状等 長円形を呈する。

規模 $1.01 \times 0.68 \times 0.27\text{m}$

主軸方位(度) N-37-W

埋没土 暗黒褐色土がブロックで混じる褐色土。

重複 なし。

遺物 なし。

所見 本遺構の年代は、2面からの検出であり、近世以前に比定される。

(8) E8号土坑(第6～18図、PL.28)

位置 62区Y-17グリッド、調査区中央部東寄りに位置する。

形状等 長方形を呈する。

規模 $(1.61) \times 0.56 \times 0.33\text{m}$

主軸方位(度) N-34-W

埋没土 ややシルト質で、褐色土がまばらに混じるオリーブ黒色土。

重複 なし。

遺物 なし。

所見 本遺構の年代は、2面からの検出であり、近世以前に比定される。

(9) E9号土坑(第6～18図、PL.28)

位置 63区O-19グリッド、調査区西半、東寄りに位置する。

形状等 不整形を呈する。

規模 $1.04 \times 0.99 \times 0.22\text{m}$

主軸方位(度) N-16-E

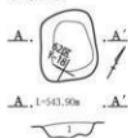
埋没土 ややシルト質で、白色軽石と褐色軽石が少量含まれる黒褐色土。

重複 なし。

遺物 なし。

所見 本遺構の年代は、2面からの検出であり、近世以前に比定される。

E5号土坑



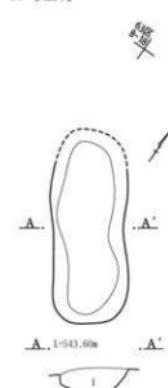
E6号土坑



E7号土坑



E8号土坑



E5, 6, 8号土坑

1 オリーブ黒色土(5Y2/2) や
シルト質。しまり、粘性わ
ずかにあり。褐色土まばらに
10%混ざる。

E7号土坑

1 オリーブ黒色土(5Y2/2) や
シルト質。しまり、粘性わ
ずかにあり。褐色土まばらに
10%混ざる。Φ 1～2mm白
色軽石、褐色軽石少量。

E9号土坑

2 褐色土(10YR4/4) しまりわ
ずかにあり。粘性ややあり。
3cm暗褐色土ブロックあり。

E9号土坑

1 黒褐色土(2.5Y3/1) ややシ
ルト質。しまりわずかにあり、
粘性ややあり。Φ 1～2mm白
色軽石、褐色軽石少量。

0 1:40 1m

第6～18図 土坑3

(10) E 10号土坑(第6-19図、PL.28)

位置 63区O~R-19グリッド、調査区西半、東寄りに位置する。

形状等 方形を呈する。

規模 $0.88 \times 0.70 \times 0.26\text{m}$

主軸方位(度) N-65-E

埋没土 ややシルト質で、白色軽石と褐色軽石を少量含み、灰黄褐色土がまばらに混ざる黒褐色土。

重複 なし。

遺物 なし。

所見 本遺構の年代は、2面からの検出であり、近世以前に比定される。

(11) E 11号土坑(第6-19図、PL.28)

位置 63区O~R-20グリッド、調査区西半、東寄りに位置する。

形状等 偏円形を呈する。

規模 $1.56 \times 1.45 \times 0.54\text{m}$

主軸方位(度) N-55-W

埋没土 わずかに粘土質の褐色土。

重複 E 12号土坑。

遺物 なし。

所見 本遺構の年代は、2面からの検出であり、近世以前に比定される。E 12号土坑より新しい。

(12) E 12号土坑(第6-19図、PL.28)

位置 63区O~R-20グリッド、調査区西半、東寄りに位置する。

形状等 円形を呈する。

規模 $(1.20) \times 1.19 \times 0.40\text{m}$

主軸方位(度) N-53-W

埋没土 黒褐色土がまばらに混ざる暗褐色土。

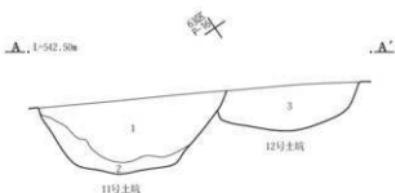
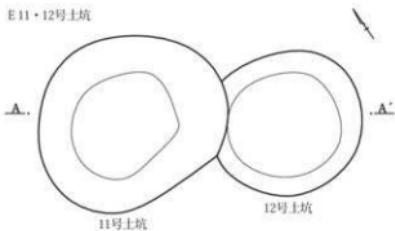
重複 E 11号土坑。

遺物 なし。

所見 本遺構の年代は、2面からの検出であり、近世以前に比定される。E 11号土坑より古い。



1 黒褐色土(2.5Y3/1) ややシルト質。しまりわずかにあり、粘性ややあり。 $\Phi 1 \sim 2\text{mm}$ 白色軽石、褐色軽石少量。灰黄褐色土まばらに10%。



- 1 黒褐色土(10Y3/2) ややシルト質。しまり、粘性ややあり。 $\Phi 1 \sim 1\text{mm}$ 褐色軽石少量。
- 2 褐色土(10Y4/4) わずかに粘土質。しまり、粘性ややあり。
- 3 暗褐色土(10Y3/3) わずかに粘土質。しまり、粘性ややあり。黒褐色土まばらに混ざる。

第6-19図 土坑4

(13) E13号土坑(第6-20図、PL.28)

位置 63区O～R-20グリッド、調査区西半、東寄りに位置する。

形状等 円形を呈する。

規模 $1.09 \times 0.91 \times 0.32\text{m}$

主軸方位(度) N-67-E

埋没土 黒褐色土がまばらに混ざる暗褐色土。

重複 なし。

遺物 なし。

所見 本遺構の年代は、2面からの検出であり、近世以前に比定される。

(14) E14号土坑(第6-20図、PL.28)

位置 63区P-20グリッド、調査区西半、東寄りに位置する。

形状等 偏円形を呈する。

規模 $1.11 \times 1.05 \times 0.46\text{m}$

主軸方位(度) N-6-W

埋没土 黒褐色土がまばらに混ざる暗褐色土。

重複 なし。

遺物 なし。

所見 本遺構の年代は、2面からの検出であり、近世以前に比定される。

(15) E15号土坑(第6-20図、PL.29)

位置 63区P-20グリッド、調査区西半、東寄りに位置する。

形状等 長円形を呈する。

規模 $2.08 \times 1.64 \times 0.27\text{m}$

主軸方位(度) N-21-E

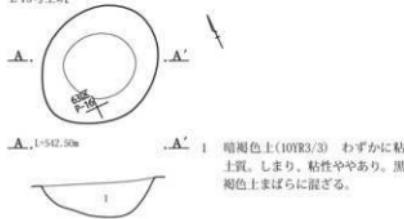
埋没土 黒褐色土がまばらに混ざる暗褐色土。

重複 なし。

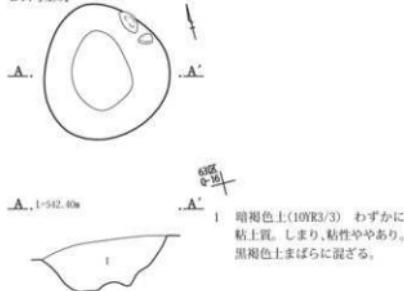
遺物 なし。

所見 本遺構の年代は、2面からの検出であり、近世以前に比定される。

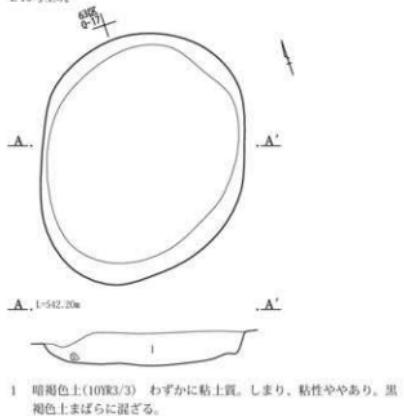
E13号土坑



E14号土坑



E15号土坑



0 1:40 1m

第6-20図 土坑5

第6章 川原湯勝沼遺跡(4)

(16) E 16号土坑(第6-21図、PL.29)

位置 63区S-16グリッド、調査区西半、東寄りに位置する。

形状等 長円形を呈する。

規模 $1.31 \times 1.17 \times 0.47\text{m}$

主軸方位(度) N-61-W

埋没土 ややシルト質の黒褐色土。

重複 なし。

遺物 なし。

所見 本遺構の年代は、2面からの検出であり、近世以前に比定される。

E 16号土坑



(17) E 17号土坑(第6-21図、PL.29)

位置 63区O-21グリッド、調査区西半、東寄りに位置する。

形状等 長円形を呈する。

規模 $3.35 \times 2.56 \times 0.60\text{m}$

主軸方位(度) N-87-W

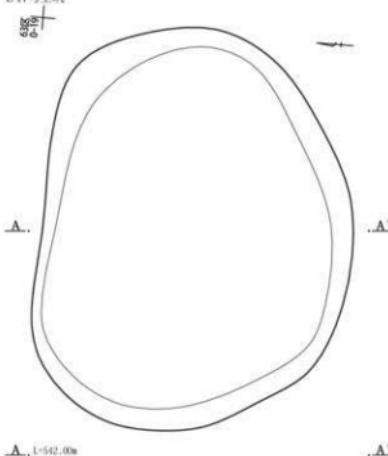
埋没土 ややシルト質の黒褐色土。

重複 なし。

遺物 なし。

所見 本遺構の年代は、2面からの検出であり、近世以前に比定される。

E 17号土坑



5 ピット

遺構は調査区東半から近接して2基、調査区中央部西から近接して2基検出された。いずれも2面からの検出である。(第6-22図、PL.29)

6 出土遺物

前述したE 1号道出土遺物、E 11号烟出土遺物のほか、遺構外出土ではあるが煙管(4)と縄文時代前期末葉の深鉢(5)が出土している。このほか陶化には至らなかったが、1面の遺構外から擂鉢や小鉢、徳利、香炉などの陶器や磁器も出土している。また同様に2面の遺構外からは、赤色塗彩された土師器片や黒曜石片なども確認されている。(第6-23図、PL.39)

1 黒褐色土(10YR3/2) ややシルト質。しまり、粘性わずかにあり。
Φ 1cm繪少量。

0 1:40 1m
第6-21図 土坑6

第6-1表 ピット計測表1

名稱	E1号ピット	E2号ピット	E3号ピット	E4号ピット
位置	62区W-18グリッド	62区W-17～18グリッド	63区W-19グリッド	63区W-19グリッド
平面形状	円形	不整形	円形	円形
断面形状	逆台形	有段尖頭形	逆台形	逆台形
規模				
長(m)	0.49	0.99	0.52	0.46
幅(m)	0.44	0.87	0.46	0.34
深(m)	0.28	0.83	0.14	0.09
主軸方位(度)	N-19-E	N-54-E	N-70-W	N-55-W
重複	なし	なし	なし	なし
遺物	なし	なし	なし	なし

E 1号ピット



- 1 黒褐色土(7.5YR3/2) しまり、粘性わずかにあり。
2 暗褐色土(10YR3/3) しまり、粘性わずかにあり。黄褐色土まばらに10%混ざる。

62区
W-18

E 3号ピット



E 4号ピット



- 1 黒褐色土(2.5Y3/1) ややシルト質。しまりわずかにあり。粘性ややあり。
Φ 4～5cm角縫10%。
2 オリーブ褐色土(2.5Y4/3) しりや、粘性ややあり。Φ 1～2cm角縫5%。
3 オリーブ黒色土(5Y3/2) ややシルト質。しまり、粘性わずかにあり。

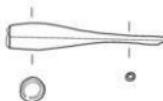


- 1 黒褐色土(10YR3/2) ややシルト質。しまり、粘性わずかにあり。

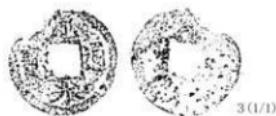
- 1 黑褐色土(10YR3/2) ややシルト質。しまり、粘性わずかにあり。

第6-22図 ピット1

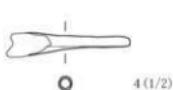
E1号道



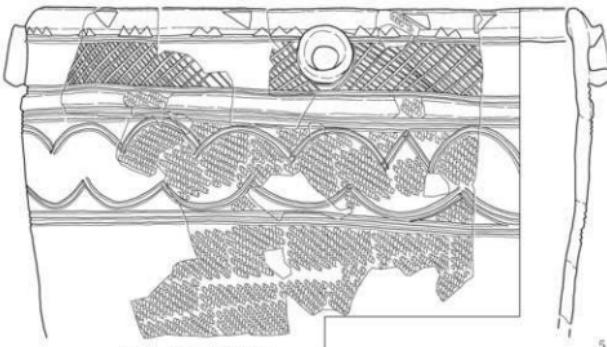
E11号烟



遺構外



0 1:1 2cm
0 1:2 4cm
0 1:3 10cm



第6-23図 出土遺物

第6-2表 遺物観察表 I

第6-23図 PL.39	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土・焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				外 径	内 径	厚 重			
第6-23図 PL.39	1	錢貨 寛永通寶	E1号道 路肩 2/3	2.25 1.81	0.01 1.5		新寛永背元。元、背ともに文字。輪、郭が明瞭。右上から左下方向へ細かな傷が見られる。		
第6-23図 PL.39	2	銅製品 煙管(吸口) 完形	E1号道 路面	6.5 1.6	厚 重	1.6 5.0	羅字が残存する。つなぎ目の残存は良好で太さが変化している。		
第6-23図 PL.39	3	錢貨 寛永通寶	E1号道 一部欠損	2.26 1.85	厚 重	0.09 1.1	新寛永。劣化が激しく、砂が多く付着している		
第6-23図 PL.39	4	銅製品 煙管(吸口)	E1号道 路面 一部欠損	5.1 0.9	厚 重	0.9 1.7	口付付近が削れている。つなぎ目は不明瞭で劣化が見られる。		
第6-23図 PL.39	5	繩文上器 深鉢	E1号道 路面 一部欠損	(36.0) 0	0	0	繩石英・雲母/ 良好/暗褐色	平縁。口縁部に環状突起を付す。口唇部下に三角陰刻文を施し横位隣線で両側された口縁部は斜格子彫籐文充填する。底部は横位3条で両側位連弧文を上下に配す。地文は横位LRで、口縁部環状突起下や剥落横位隣線に施文痕跡を見る。内面平滑な撫で調整	前期末葉

第6-3表 中近世未掲載遺物

区	層位 ・面	遺構 番号	遺構種 別	近世								近現代				時期不詳			
				中国陶器 ・磁器				国産磁器				国産施釉陶器				在地系			
				点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量		
E	2					1	23									1	12		
E	1			2	13	8	84								7	29			
E	1	1	烟No.1			1	5												
E	1	1	烟No.2			1	12												
E	1	12	烟No.5			1	23												
E	1	1	通路斜No.7			1	97												
E	1	1	通		1	18									2	4			
E	6	ヤックラ				4	14												
E	3	トレンチ				1	11												
計				0	0	31	31	18	269	0	0	0	0	9	33	0	0	1	12

※合計：左が点数、右が重さ(g)

第6-4表 古代未掲載遺物

地区	区	遺構名	土師器			須恵器	施釉陶器	磁器	その他	不明	備考
			小	中	大						
E	2面15				1片	13 g					
E	2面6				1片	9 g					
E	2面16				1片	37 g					
E	2面	2片	12 g								赤色繪彩
E	1水場19				2片	26 g					
E	2面14				1片	29 g					
E	2面水場周辺				1片	7 g					
E	1水場21				1片	57 g					
E	2面	4片	4 g		4片	24 g					上師器小は赤色繪彩
E	1水場22				3片	337 g					

大中小は想定器形の大小に基づく。小は杯・碗・皿など、中は高杯・小型壺など、大は甕・羽釜・壺など。
左 破片点数、右 破片重量

第4節 A,C,D区2面の遺構と遺物

第1項 調査の概要

平成28年度調査区の2面は、地区によりその遺構確認面が相違している。A区はローム漸移帶(黄褐色土)上面、B区はAs-Kkを含む黒褐色土層中、C・D区は疊混じりの暗黃褐色土層(ローム)上面がそれぞれの地区の2面確認面となっている。いずれにしても『川原湯勝沼(3)』で指摘されたように、近世であるB区を除く、他区の2面から検出された遺構は、明確な時代区分を行えず、縄文時代以降、近世にかけての遺構とされる。

第2項 遺構と遺物

1 土坑

A区の土坑は調査区の東半に集中し8基が確認されている。C区D区の土坑は、D区北端およびC区南端、C区D区の境界付近の3か所に集中する傾向が認められ

る。C区より20基、D区より26基が確認されている。なお、遺構確認面は近世以前、縄文以降の遺構が検出される層位である。

(1) A1号土坑(第6-26, 37図、PL.30, 39)

位置 64区K-13グリッド、A区東半に位置する。

形状等 偏円形を呈する。

規模 2.15×1.88×0.79m

主軸方位(度) N-40-W

埋没土 粘土質の黄色土。

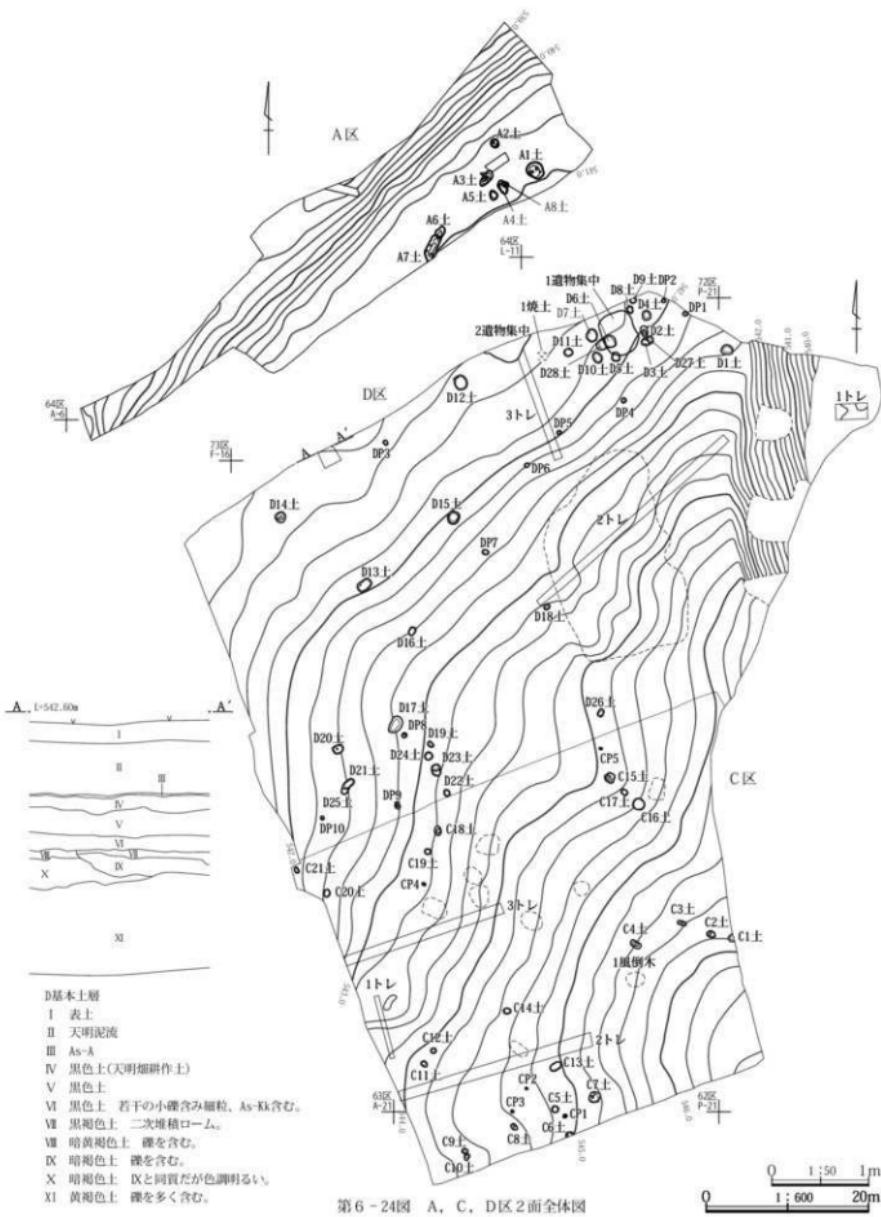
重複 なし。

遺物 埋没土より縄文時代中期前葉の五領ヶ台式直後の土器片(1)と弥生時代前期～中期の甕片(2)が出土している。

所見 本遺構の年代は、出土遺物から弥生時代以降に比定される。

(2) A2号土坑(第6-26図、PL.30)

位置 64区L-14グリッド、A区東半に位置する。



第6-24図 A, C, D区2面全体図

形状等 概ね円形を呈する。

規模 $1.07 \times 0.96 \times 0.40\text{m}$

主軸方位(度) N - 41 - W

埋没土 若干の炭化物、小礫、汚れたロームブロック混入した暗褐色土。

重複 なし。

遺物 図化には至らなかったが縄文時代中期初頭五領ヶ台2式の土器片が出土している。

所見 本遺構の年代は、出土遺物から縄文時代以降に比定される。

(3) A3号土坑(第6-26図、PL.30)

位置 64区L～M-13グリッド、A区東半に位置する。

形状等 長円形を呈する。

規模 $2.13 \times 1.00 \times 0.43\text{m}$

主軸方位(度) N - 36 - E

埋没土 ロームを多く含み、若干の炭化物を含む黄褐色土。

重複 なし。

遺物 図化には至らなかったが、縄文時代後期前葉の堀之内2式の土器片が出土している。

所見 本遺構の年代は、出土遺物から縄文時代以降に比

定される。

(4) A4号土坑(第6-26図、PL.30)

位置 64区L-12～13グリッド、A区東半に位置する。

形状等 長円形を呈する。

規模 $1.76 \times 0.88 \times 0.19\text{m}$

主軸方位(度) N - 21 - W

埋没土 ローム、黒色土ブロックを斑に含み、やや粘性のある暗褐色土。

重複 A8号土坑。

遺物 なし。

所見 本遺構の年代は、時期を特定する資料に乏しく不明である。A8号土坑より新しい。

(5) A5号土坑(第6-27図、PL.30)

位置 64区L-12～13グリッド、A区東半に位置する。

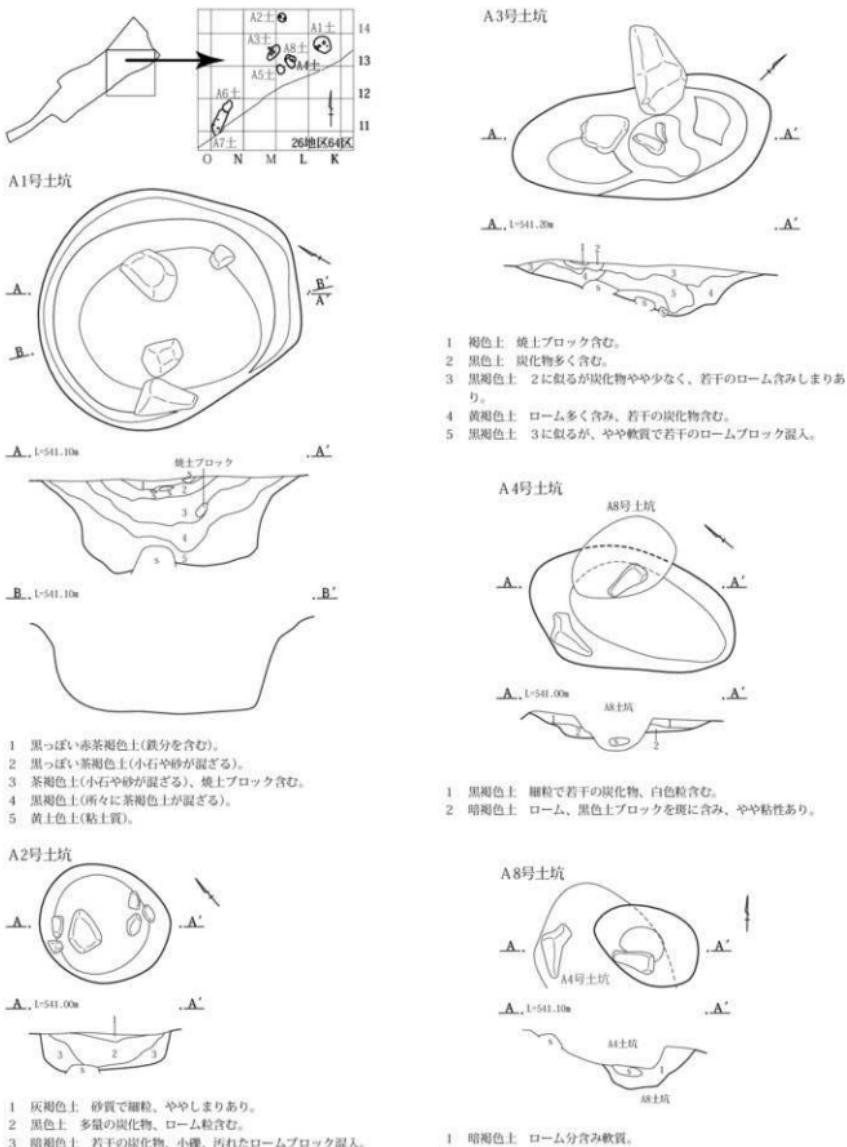
形状等 偏円形を呈する。

規模 $1.15 \times 0.92 \times 0.20\text{m}$

主軸方位(度) N - 27 - W



第6-25図 A区3面全体図



第6-26図 土坑7

埋没土 ローム、黒色土ブロックを斑に含み、やや粘性のある暗褐色土。

重複 なし。

遺物 なし。

所見 本遺構の年代は、時期を特定する資料に乏しく不明である。

(6) A6号土坑(第6-27図、PL.30)

位置 64区N-11グリッド、A区東半に位置する。

形状等 不整形を呈する。

規模 $2.34 \times 0.95 \times 0.43\text{m}$

主軸方位(度) N-34-E

埋没土 ロームブロックを多く含む黄褐色土。

重複 A7号土坑。

遺物 なし。

所見 本遺構の年代は、時期を特定する資料に乏しく不明である。A7号土坑より新しい。

(7) A7号土坑(第6-27、37図、PL.30、39)

位置 64区N-10~11グリッド、A区東半に位置する。

形状等 一隅がつぶれた隅丸長方形と推察される。

規模 $3.30 \times 1.17 \times 0.68\text{m}$

主軸方位(度) N-24-E

埋没土 ロームブロックをわずかに含み軟質な黒褐色土。

重複 A6号土坑

遺物 弥生時代前期~中期の土器片(3)が出土している。

所見 本遺構の年代は、出土遺物から弥生時代以降に比定される。A6号土坑に先行する。

(8) A8号土坑(第6-27図、PL.30)

位置 64区L-13グリッド、A区東半に位置する。

形状等 偏円形を呈する。

規模 $0.91 \times 0.62 \times 0.31\text{m}$

主軸方位(度) N-69-W

埋没土 ローム分を含み軟質な暗褐色土。

重複 なし。

遺物 なし。

所見 本遺構の年代は、時期を特定する資料に乏しく不明である。A4号土坑に先行する。

(9) C1号土坑(第6-27図、PL.31)

位置 72区O-1グリッド、C区東端に位置する。

形状等 東半が調査区外に及び不明である。

規模 $(0.73) \times 0.93 \times 0.30\text{m}$

主軸方位(度) N-75-E

埋没土 角礫を多く含み軟質な暗褐色土。

重複 なし。

遺物 なし。

所見 本遺構の年代は、時期を特定する資料に乏しく不明である。

(10) C2号土坑(第6-27図、PL.31)

位置 72区P-1グリッド、C区東端に位置する。

形状等 偏円形を呈する。

規模 $1.09 \times 0.79 \times 0.17\text{m}$

主軸方位(度) N-65-W

埋没土 地山ローム粒の混入する暗黃褐色土。

重複 なし。

遺物 なし。

所見 本遺構の年代は、時期を特定する資料に乏しく不明である。

(11) C3号土坑(第6-27図、PL.31)

位置 72区Q-1グリッド、C区東端に位置する。

形状等 隅丸長方形を呈する。

規模 $1.06 \times 0.48 \times 0.52\text{m}$

主軸方位(度) N-71-W

埋没土 地山礫が多く混入する黄褐色土。

重複 なし。

遺物 なし。

所見 本遺構の年代は、時期を特定する資料に乏しく不明である。

(12) C4号土坑(第6-27図、PL.31)

位置 72区R-1グリッド、C区東端に位置する。

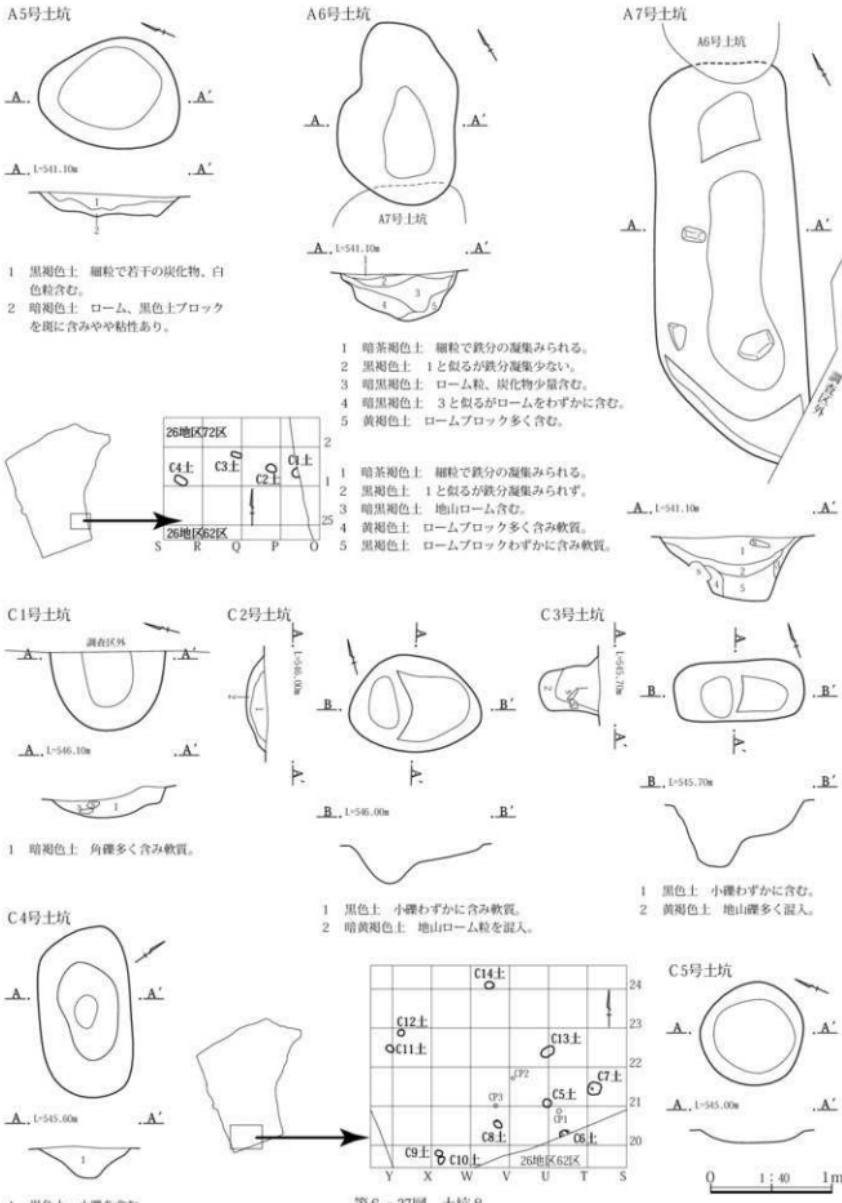
形状等 長円形を呈する。

規模 $1.40 \times 0.75 \times 0.25\text{m}$

主軸方位(度) N-58-W

埋没土 小礫を含む黑色土。

重複 なし。



遺物 なし。

所見 本遺構の年代は、時期を特定する資料に乏しく不明である。

(12) C5号土坑(第6-27図、PL.32)

位置 62区T~U-20~21グリッド、C区南端に位置する。

形状等 円形を呈する。

規模 $0.85 \times 0.85 \times 0.11\text{m}$

主軸方位(度) N-33-W

埋没土 不明である。

重複 なし。

遺物 なし。

所見 本遺構の年代は、時期を特定する資料に乏しく不明である。

(13) C6号土坑(第6-28図、PL.32)

位置 62区T-20グリッド、C区南端に位置する。

形状等 南半が調査区外に及び

規模 $0.96 \times (0.52) \times 0.22\text{m}$

主軸方位(度) N-69-E

埋没土 若干の小礫を含みやや粘質な黒色土。

重複 なし。

遺物 なし。

所見 本遺構の年代は、時期を特定する資料に乏しく不明である。

(14) C7号土坑(第6-28図、PL.32)

位置 62区S-21グリッド、C区南端に位置する。

形状等 隅丸方形を呈する。

規模 $1.48 \times 1.36 \times 0.27\text{m}$

主軸方位(度) N-58-E

埋没土 小礫、ロームを含む黒褐色土。

重複 なし。

遺物 なし。

所見 本遺構の年代は、時期を特定する資料に乏しく不明である。

(15) C8号土坑(第6-28図、PL.32)

位置 62区V-20グリッド、C区南端に位置する。

形状等 長円形を呈する。

規模 $0.93 \times 0.61 \times 0.33\text{m}$

主軸方位(度) N-43-W

埋没土 細粒で小礫、若干のロームを含む黒褐色土。

重複 なし。

遺物 なし。

所見 本遺構の年代は、時期を特定する資料に乏しく不明である。

(16) C9号土坑(第6-28図、PL.32)

位置 62区W-19グリッド、C区南端に位置する。

形状等 濡れた円形を呈する。

規模 $0.73 \times 0.58 \times 0.16\text{m}$

主軸方位(度) N-75-W

埋没土 小礫を含み軟質な黒色土。

重複 なし。

遺物 なし。

所見 本遺構の年代は、時期を特定する資料に乏しく不明である。

(17) C10号土坑(第6-28図、PL.32)

位置 62区W-19グリッド、C区南端に位置する。

形状等 濡れた円形を呈する。

規模 $0.84 \times 0.59 \times 0.17\text{m}$

主軸方位(度) N-30-E

埋没土 小礫を含み軟質な黒色土。

重複 なし。

遺物 なし。

所見 本遺構の年代は、時期を特定する資料に乏しく不明である。

(18) C11号土坑(第6-28図、PL.32)

位置 62区X-Y-22グリッド、C区南端に位置する。

形状等 偏円形を呈する。

規模 $0.85 \times 0.66 \times 0.21\text{m}$

主軸方位(度) N-50-W

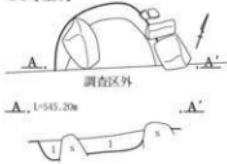
埋没土 細粒でややしまりある黒色土。

重複 なし。

遺物 なし。

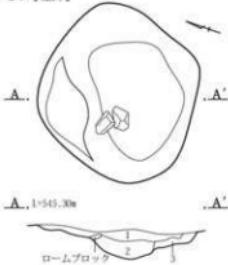
所見 本遺構の年代は、時期を特定する資料に乏しく不

C6号土坑



1 黒色土 若干の小礫含みや粘質。

C7号土坑



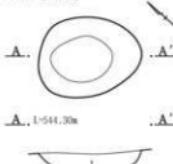
1 黒褐色土 若干のロームブロック含む。
2 黒褐色土 小礫、ローム含む。
3 増褐色土 汚れたローム土。

C9・10号土坑



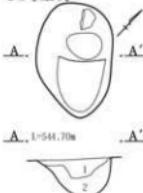
1 黒色土 小礫含み軟質。

C11号土坑



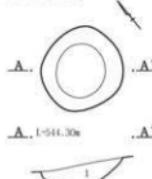
1 黒色土 細粒でややしまりあり。

C8号土坑



1 黒色土 細粒で粘性あり。
2 黒褐色土 細粒で小礫、若干のロームを含む。

C12号土坑



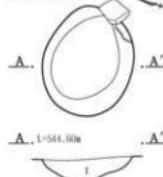
1 黒色土 わずかに礫を含む。

C13号土坑



1 黒褐色土 若干の礫を含む。

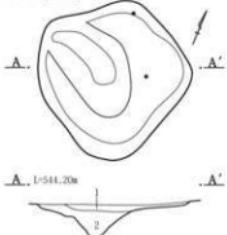
C14号土坑



1 黒色土 若干のローム、小礫含む。

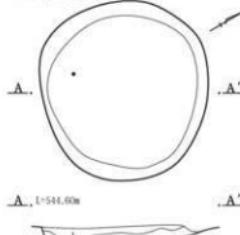


C15号土坑



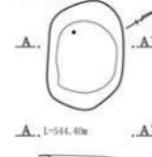
1 黒色土 細粒でわずかにロームを含む。
2 黒色土 1と似るがしまりあり。

C16号土坑



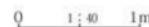
1 黒色土 ローム小粒含む細粒土。
2 暗褐色土 ロームブロック混入。

C17号土坑



1 黒色土 ローム小粒、ブロック含む。

第6-28図 土坑9



明である。

(19) C12号土坑(第6-28図、PL.32)

位置 62区X-22グリッド、C区南端に位置する。

形状等 円形を呈する。

規模 $0.71 \times 0.67 \times 0.25\text{m}$

主軸方位(度) N-46-E

埋没土 わずかに礫を含む黒色土。

重複 なし。

遺物 なし。

所見 本遺構の年代は、時期を特定する資料に乏しく不明である。

(20) C13号土坑(第6-28図、PL.33)

位置 62区T-U-22グリッド、C区南端に位置する。

形状等 長円形を呈する。

規模 $1.50 \times 0.91 \times 0.14\text{m}$

主軸方位(度) N-57-E

埋没土 若干の礫を含む黒褐色土。

重複 なし。

遺物 なし。

所見 本遺構の年代は、時期を特定する資料に乏しく不明である。

(21) C14号土坑(第6-28図、PL.33)

位置 62区V-24グリッド、C区南端に位置する。

形状等 極ね円形を呈する。

規模 $0.88 \times 0.72 \times 0.21\text{m}$

主軸方位(度) N-74-E

埋没土 若干のローム、小礫を含む黒色土。

重複 なし。

遺物 なし。

所見 本遺構の年代は、時期を特定する資料に乏しく不明である。

(22) C15号土坑(第6-28、37図、PL.33, 39)

位置 72区S-6グリッド、C区D区境界付近に位置する。

形状等 不整形を呈する。

規模 $1.32\text{m} \times 1.27 \times 0.27\text{m}$

主軸方位(度) N-11-W

埋没土 細粒でわずかにロームを含む黒色土。

重複 なし。

遺物 繩文時代後期前葉の堀之内2式の土器片(4, 5)が出土している。

所見 本遺構の年代は、出土遺物から縄文時代以降に比定される。

(23) C16号土坑(第6-28, 37図、PL.33, 39)

位置 72区R-5グリッド、C区D区境界付近に位置する。

形状等 円形を呈する。

規模 $1.49 \times 1.41 \times 0.19\text{m}$

主軸方位(度) N-40-W

埋没土 ロームブロックの混入する暗褐色土。

重複 なし。

遺物 縄文時代後期初頭の称名寺2式の土器片(6)が出土している。

所見 本遺構の年代は、出土遺物から縄文時代以降に比定される。

(24) C17号土坑(第6-28, 37図、PL.33, 39)

位置 72区R-5グリッド、C区D区境界付近に位置する。

形状等 長円形を呈する。

規模 $0.90 \times 0.61 \times 0.17\text{m}$

主軸方位(度) N-60-W

埋没土 ロームの小粒とブロックを含む黒色土。

重複 なし。

遺物 縄文時代中期初頭の五領ヶ台2式の土器片(7)が出土している。

所見 本遺構の年代は、出土遺物から縄文時代以降に比定される。

(25) D26号土坑(第6-29図、PL.37)

位置 72区S-8グリッド、C区D区境界付近に位置する。

形状等 長方形を呈する。

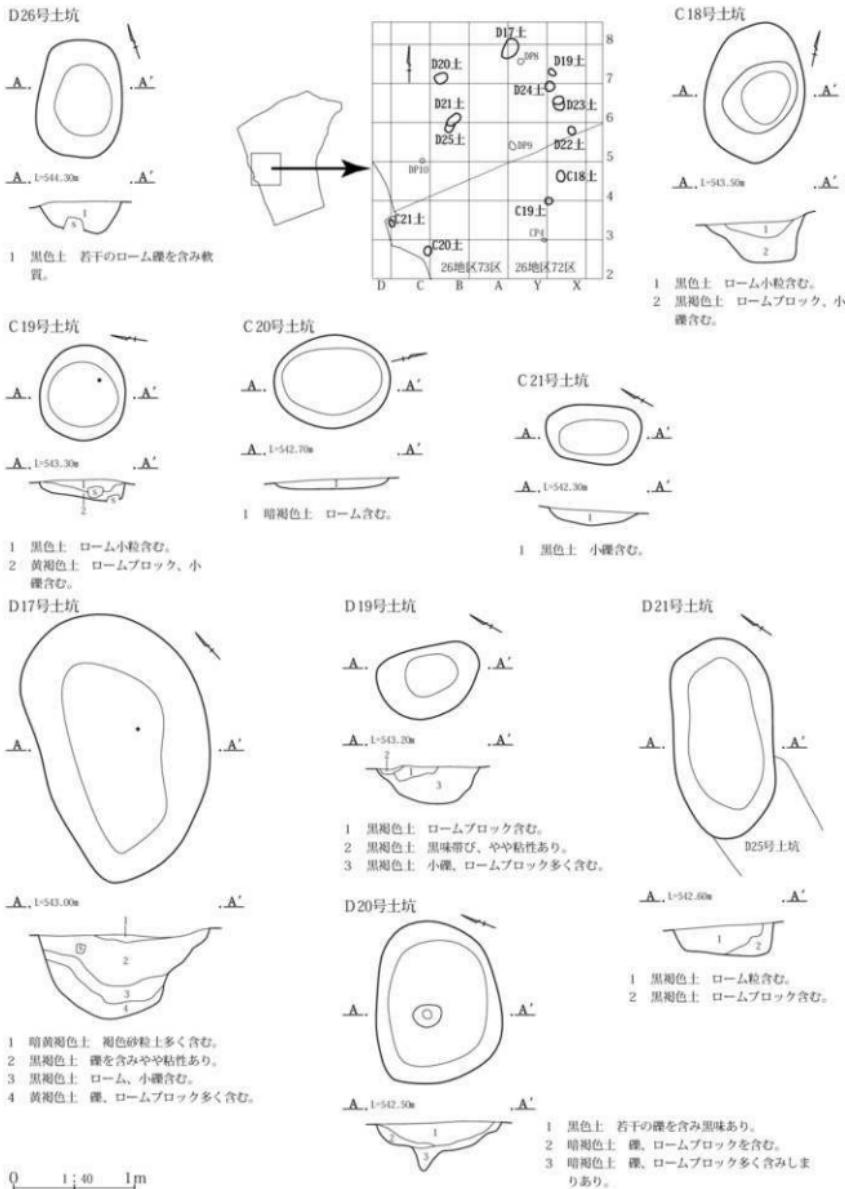
規模 $0.95 \times 0.70 \times 0.21\text{m}$

主軸方位(度) N-26-E

埋没土 若干のローム礫を含み軟質な黒色土。

重複 なし。

遺物 なし。



第6-29図 土坑10

所見 本遺構の年代は、時期を特定する資料に乏しく不明である。

(26) C18号土坑(第6～29図、PL.33)

位置 72区X～4グリッド、C区D区境界付近に位置する。

形状等 長円形を呈する。

規模 $1.16 \times 0.81 \times 0.29m$

主軸方位(度) N～10～W

埋没土 ロームブロック、小礫を含む黒褐色土。

重複 なし。

遺物 なし。

所見 本遺構の年代は、時期を特定する資料に乏しく不明である。

(27) C19号土坑(第6～29図、PL.33)

位置 72区X～Y～3～4グリッド、C区D区境界付近に位置する。

形状等 円形を呈する。

規模 $0.79 \times 0.71 \times 0.11m$

主軸方位(度) N～89～W

埋没土 ロームブロック、小礫を含む黒褐色土。

重複 なし。

遺物 なし。

所見 本遺構の年代は、時期を特定する資料に乏しく不明である。

(28) C20号土坑(第6～29図、PL.33)

位置 73区C～2グリッド、C区西辺に位置する。

形状等 長円形を呈する。

規模 $0.96 \times 0.77 \times 0.05m$

主軸方位(度) N～12～E

埋没土 ロームを含む暗褐色土。

重複 なし。

遺物 なし。

所見 本遺構の年代は、時期を特定する資料に乏しく不明である。

(29) C21号土坑(第6～29図、PL.34)

位置 73区C～D～3グリッド、C区西辺に位置する。

形状等 長円形を呈する。

規模 $0.78 \times 0.47 \times 0.15m$

主軸方位(度) N～28～W

埋没土 小礫含む黒色土。

重複 なし。

遺物 なし。

所見 本遺構の年代は、時期を特定する資料に乏しく不明である。

(30) D17号土坑(第6～29図、PL.36)

位置 72区Y～73区A～7～8グリッド、C区D区境界付近に位置する。

形状等 偏円形を呈する。

規模 $2.19 \times 1.34 \times 0.72m$

主軸方位(度) N～31～E

埋没土 磨、ロームブロック多く含む黄褐色土。

重複 なし。

遺物 なし。

所見 本遺構の年代は、時期を特定する資料に乏しく不明である。

(31) D19号土坑(第6～29図、PL.36)

位置 72区X～7グリッド、C区D区境界付近に位置する。

形状等 偏円形を呈する。

規模 $0.84 \times 0.57 \times 0.30m$

主軸方位(度) N～50～W

埋没土 磨、ロームブロックを多く含む黒褐色土。

重複 なし。

遺物 なし。

所見 本遺構の年代は、時期を特定する資料に乏しく不明である。

(32) D20号土坑(第6～29図、PL.37)

位置 73区B～6～7グリッド、C区D区境界付近に位置する。

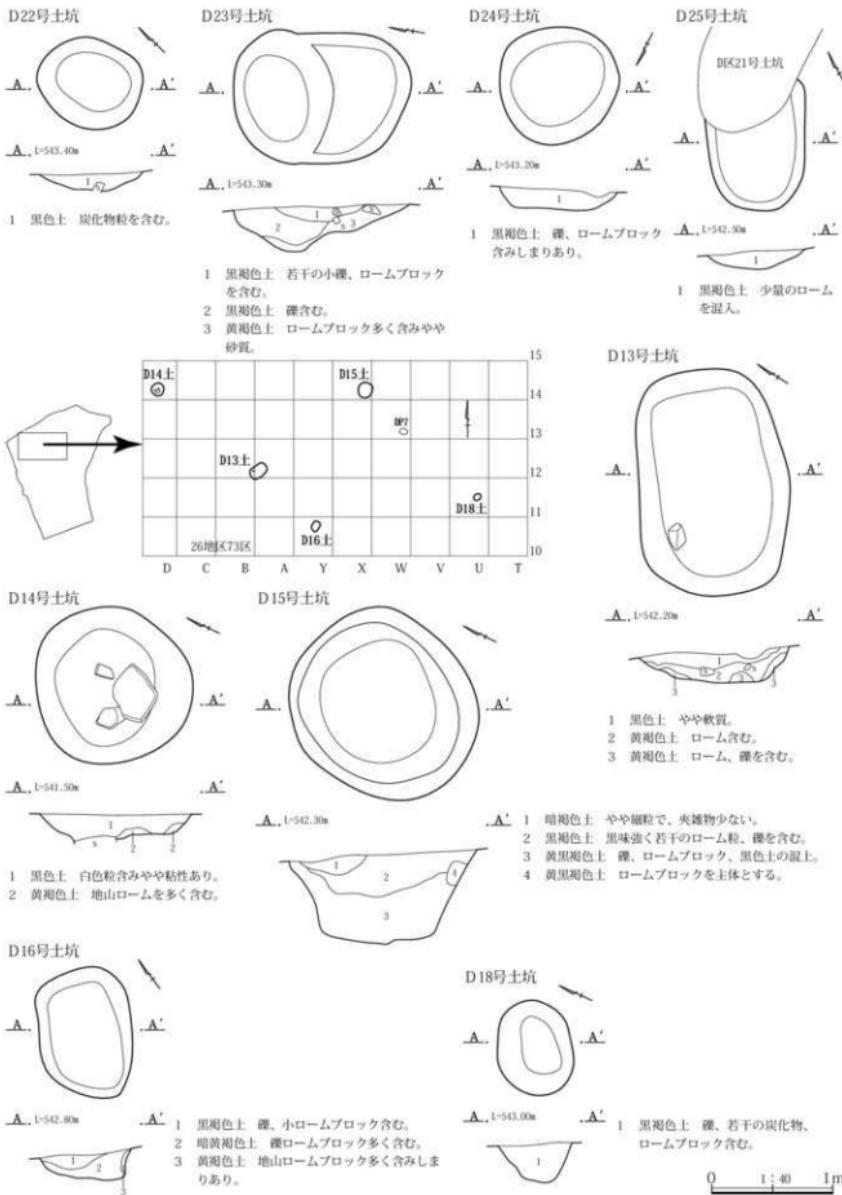
形状等 圓丸方形を呈する。中央部に掘り込みを持つ。

規模 $1.32 \times 1.04 \times 0.40m$

主軸方位(度)

埋没土 磨、ロームブロックを多く含み、しまりある暗褐色土。

第6章 川原湯勝沼遺跡(4)



第6-30図 土坑11

重複 なし。

遺物 なし。

所見 本遺構の年代は、時期を特定する資料に乏しく不明である。

(33) D21号土坑(第6～30図、PL.37)

位置 73区B～5～6グリッド、C区D区境界付近に位置する。

形状等 長円形を呈する。

規模 $1.64 \times 0.82 \times 0.26\text{m}$

主軸方位(度) N-50-E

埋没土 ロームブロックを含む黒褐色土。

重複 D25号土坑。

遺物 なし。

所見 本遺構の年代は、時期を特定する資料に乏しく不明である。D25号土坑より新しい。

(34) D22号土坑(第6～30図、PL.37)

位置 72区X～5グリッド、C区D区境界付近に位置する。

形状等 長円形を呈する。

規模 $0.88 \times 0.72 \times 0.12\text{m}$

主軸方位(度) N-34-W

埋没土 炭化物粒を含む黒色土。

重複 なし。

遺物 なし。

所見 本遺構の年代は、時期を特定する資料に乏しく不明である。

(35) D23号土坑(第6～30図、PL.37)

位置 72区X～6グリッド、C区D区境界付近に位置する。

形状等 長円形を呈する。

規模 $1.45 \times 1.10 \times 0.39\text{m}$

主軸方位(度) N-10-W

埋没土 ロームブロックを多く含む黄褐色土、やや砂質。

重複 なし。

遺物 なし。

所見 本遺構の年代は、時期を特定する資料に乏しく不明である。

(36) D24号土坑(第6～30図、PL.37)

位置 72区X～Y～6～7グリッド、C区D区境界付近

に位置する。

形状等 横ね円形を呈する。

規模 $1.00 \times 0.98 \times 0.17\text{m}$

主軸方位(度) N-12-E

埋没土 磯、ロームブロックを含み、しまりある黒褐色土。

重複 なし。

遺物 なし。

所見 本遺構の年代は、時期を特定する資料に乏しく不明である。

(37) D25号土坑(第6～30図、PL.37)

位置 73区B～5グリッド、C区D区境界付近に位置する。

形状等 圓丸長方形を呈すると推察される。

規模 $(1.04) \times 0.82 \times 0.17\text{m}$

主軸方位(度) N-29-E

埋没土 少量のロームが混入する黒褐色土。

重複 D21号土坑。

遺物 なし。

所見 本遺構の年代は、時期を特定する資料に乏しく不明である。D21号土坑に先行する。

(38) D13号土坑(第6～30図、PL.36)

位置 73区A～B～11～12グリッド、D区中央辺に位置する。

形状等 圓丸長方形を呈する。

規模 $1.88 \times 1.24 \times 0.29\text{m}$

主軸方位(度) N-52-E

埋没土 ローム、磯を含む黄褐色土。

重複 なし。

遺物 なし。

所見 本遺構の年代は、時期を特定する資料に乏しく不明である。

(39) D14号土坑(第6～30、37図、PL.36、40)

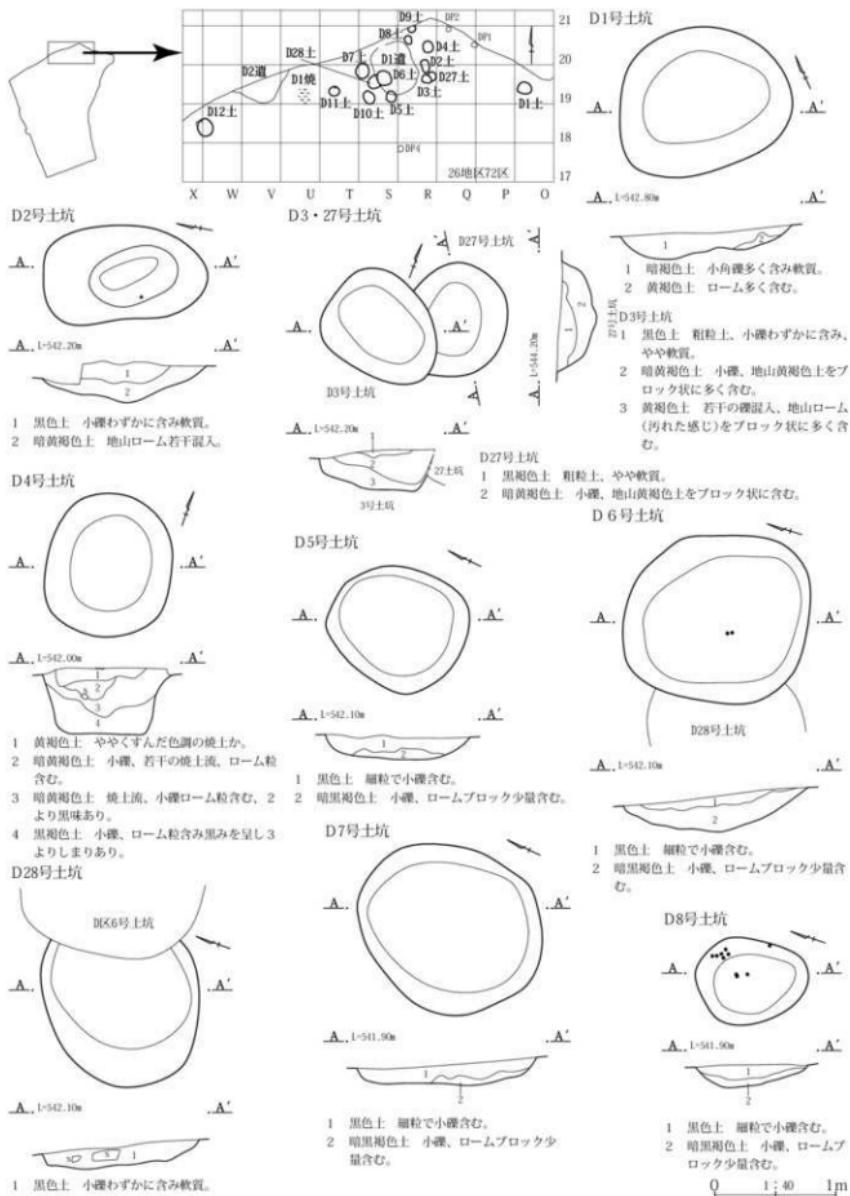
位置 73区D～14グリッド、D区中央辺に位置する。

形状等 偏円形を呈する。

規模 $1.33 \times 1.27 \times 0.31\text{m}$

主軸方位(度) N-10-E

埋没土 地山ロームを多く含む黄褐色土。



第6-31図 土坑12

重複 なし。

遺物 繩文時代中期前葉の五領ヶ台2式の土器片(19)が出土している。

所見 本遺構の年代は、出土遺物から縄文時代以降に比定される。

(40) D15号土坑(第6～30図、PL.36)

位置 72区W～X～14グリッド、D区中央辺に位置する。

形状等 長円形を呈する。

規模 $1.60 \times 1.54 \times 0.79\text{m}$

主軸方位(度) N～5～W

埋没土 ロームブロックを主体とする黄黒褐色土。

重複 なし。

遺物 なし。

所見 本遺構の年代は、時期を特定する資料に乏しく不明である。

(41) D16号土坑(第6～30図、PL.36)

位置 72区Y～10グリッド、D区中央辺に位置する。

形状等 長方形を呈する。

規模 $1.07 \times 0.77 \times 0.26\text{m}$

主軸方位(度) N～28～E

埋没土 地山ロームブロック多く含み、しまりある黄褐色土。

重複 なし。

遺物 なし。

所見 本遺構の年代は、時期を特定する資料に乏しく不明である。

(42) D18号土坑(第6～30図、PL.36)

位置 72区U～11グリッド、D区中央辺に位置する。

形状等 長円形を呈する。

規模 $0.79 \times 0.61 \times 0.32\text{m}$

主軸方位(度) N～52～E

埋没土 砂、若干の炭化物、ロームブロックを含む黒褐色土。

重複 なし。

遺物 なし。

所見 本遺構の年代は、時期を特定する資料に乏しく不明である。

(43) D1号土坑(第6～31図、PL.34)

位置 72区O～19グリッド、D区北部に位置する。

形状等 偏円形を呈する。

規模 $1.44 \times 1.19 \times 0.12\text{m}$

主軸方位(度) N～70～W

埋没土 ロームを多く含む黄褐色土。

重複 なし。

遺物 なし。

所見 本遺構の年代は、時期を特定する資料に乏しく不明である。

(44) D2号土坑(第6～31、37図、PL.34、39)

位置 72区R～19～20グリッド、D区北部に位置する。

形状等 長円形を呈する。

規模 $1.34 \times 0.80 \times 0.31\text{m}$

主軸方位(度) N～17～W

埋没土 地山ロームの若干混入する暗黄褐色土。

重複 なし。

遺物 繩文時代中期後葉の加曾利E III式の土器片(8)、弥生時代の壺片(9)、磨石(10)のほか、弥生時代中期の土器片が出土している。

所見 本遺構の年代は、出土遺物から弥生時代以降に比定される。

(45) D3号土坑(第6～31、37図、PL.35、39)

位置 72区R～19グリッド、D区北部に位置する。

形状等 長円形を呈する。

規模 $1.01 \times 0.83 \times 0.24\text{m}$

主軸方位(度) N～72～W

埋没土 若干の砾が混入し、地山ロームをブロック状に多く含む黄褐色土。

重複 D区27号土坑。

遺物 繩文時代後期前葉の高井東式の土器片(11)が出土している。

所見 本遺構の年代は、出土遺物から縄文時代以降に比定される。D区27号土坑より新しい。

(46) D4号土坑(第6～31、37図、PL.35、39)

位置 72区R～20グリッド、D区北部に位置する。

形状等 長円形を呈する。

規模 $1.17 \times 1.03 \times 0.47\text{m}$

主軸方位(度) N - 15 - W

埋没土 小礫、ローム粒を含む黒褐色土。

重複 なし。

遺物 繩文時代中期前葉の五領ヶ台2式の土器片(12)、弥生時代の壺片(13)のほか、繩文時代中期前葉五領ヶ台2式直後の土器片、繩文時代後期中葉高井東式の土器片、弥生時代前期～中期の土器片が出土している。

所見 本遺構の年代は、出土遺物から弥生時代以降に比定される。

(47) D5号土坑(第6-31図、PL.35)

位置 72区S-19グリッド、D区北部に位置する。

形状等 偏円形を呈する。

規模 $1.17 \times 1.04 \times 0.19\text{m}$

主軸方位(度) N - 27 - W

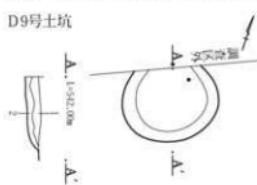
埋没土 小礫、ロームブロック少量を含む暗黒褐色土。

重複 D区1号遺物集中。

遺物 図化には至らなかったが、繩文時代後期中葉の加曾利B1式と思われる土器片が出土している。

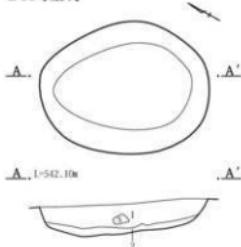
所見 本遺構の年代は、出土遺物から繩文時代以降に比定される。

D9号土坑



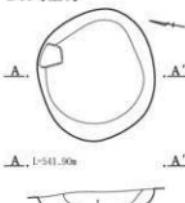
- 1 黒色土・細粒で小礫含む。
- 2 暗黒褐色土・小礫、ロームブロック少量含む。

D10号土坑



- 1 黒色土・細粒で小礫含む。
- 2 暗黒褐色土・小礫、ロームブロック少量含む。

D11号土坑



- 1 黒色土・細粒で小礫含む。
- 2 暗黒褐色土・小礫、ロームブロック少量含む。

第6-32図 土坑13

定される。D区1号遺物集中より新しい。

(48) D6号土坑(第6-31図、PL.35)

位置 72区S-19グリッド、D区北部に位置する。

形状等 楕円形を呈する。

規模 $1.67 \times 1.44 \times 0.35\text{m}$

主軸方位(度) N - 46 - W

埋没土 小礫、ロームブロック少量を含む暗黒褐色土。

重複 D28号土坑、D区1号遺物集中。

遺物 図化には至らなかったが、繩文時代中期初頭の五領ヶ台2式の土器片、繩文時代後期前葉の壺之内2式の土器片が出土している。

所見 本遺構の年代は、出土遺物から繩文時代以降に比定される。D28号土坑、D区1号遺物集中のいずれより新しい。

(49) D7号土坑(第6-31図、PL.35)

位置 72区S-T-19~20グリッド、D区北部に位置する。

形状等 偏円形を呈する。

規模 $1.59 \times 1.38 \times 0.15\text{m}$

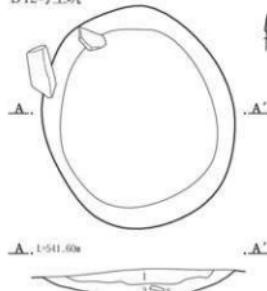
主軸方位(度) N - 3 - W

埋没土 小礫、ロームブロック少量を含む暗黒褐色土。

重複 なし。

遺物 なし。

D12号土坑



- 1 黒色土・礫を多く含む。
- 2 黒褐色土・礫を多く含み、山地ローム上混入。

所見 本遺構の年代は、時期を特定する資料に乏しく不明である。

(50) D8号土坑(第6-31、37図、PL.35、39)

位置 72区R-20グリッド、D区北部に位置する。

形状等 偏円形を呈する。

規模 $0.92 \times 0.69 \times 0.16\text{m}$

主軸方位(度) N-22-W

埋没土 小礫、ロームブロック少量を含む暗黒褐色土。

重複 なし。

遺物 繩文時代後期中葉の加曾利B1式の土器片(14~17)が出土している。

所見 本遺構の年代は、出土遺物から縄文時代以降に比定される。

(51) D9号土坑(第6-32図、PL.35、39)

位置 72区R-20グリッド、D区北部に位置する。

形状等 北辺が調査区外に及ぶが概ね円形を呈すると推察される。

規模 $0.79 \times (0.61) \times 0.10\text{m}$

主軸方位(度) N-59-E

埋没土 小礫、ロームブロック少量を含む暗黒褐色土。

重複 なし。

遺物 弥生前期~中期の土器片(18)が出土している。

所見 本遺構の年代は、出土遺物から弥生時代以降に比定される。

(52) D10号土坑(第6-32図、PL.35)

位置 72区S-19グリッド、D区北部に位置する。

形状等 偏円形を呈する。

規模 $1.39 \times 1.09 \times 0.29\text{m}$

主軸方位(度) N-25-W

埋没土 小礫、ロームブロック少量を含む暗黒褐色土。

重複 なし。

遺物 図化には至らなかったが、縄文時代中期初頭の五領ヶ台2式の土器片が出土している。

所見 本遺構の年代は、出土遺物から縄文時代以降に比定される。

(53) D11号土坑(第6-32図、PL.36)

位置 72区T-19グリッド、D区北部に位置する。

形状等 圓丸方形を呈する。

規模 $1.09 \times 0.99 \times 0.31\text{m}$

主軸方位(度) N-88-W

埋没土 小礫、ロームブロック少量を含む暗黒褐色土。

重複 なし。

遺物 なし。

所見 本遺構の年代は、時期を特定する資料に乏しく不明である。

(54) D12号土坑(第6-32図、PL.36)

位置 72区W-X-18グリッド、D区北部に位置する。

形状等 長円形を呈する。

規模 $1.77 \times 1.55 \times 0.23\text{m}$

主軸方位(度) N-28-W

埋没土 磚を多く含み、地山ローム土の混入する黒褐色土。

重複 なし。

遺物 なし。

所見 本遺構の年代は、時期を特定する資料に乏しく不明である。

(55) D27号土坑(第6-31図、PL.37)

位置 72区R-19グリッド、D区北部に位置する。

形状等 偏円形を呈すると推察される。

規模 $0.94 \times 0.85 \times 0.33\text{m}$

主軸方位(度) N-12-E

埋没土 小礫、地山黄褐色土をブロック状に含む暗黄褐色土。

重複 D3号土坑。

遺物 なし。

所見 本遺構の年代は、時期を特定する資料に乏しく不明である。D3号土坑に先行する。

(56) D28号土坑(第6-31図、PL.38)

位置 72区S-19グリッド、D区北部に位置する。

形状等 長円形を呈すると推察される。

規模 $(1.36) \times 1.28 \times 0.22\text{m}$

主軸方位(度) N-56-E

埋没土 小礫をわずかに含み軟質な黒色土。

重複 D6号土坑、D1号遺物集中。

遺物 なし。

所見 本遺構の年代は、時期を特定する資料に乏しく不明である。D1号遺物集中より新しく、D6号土坑に先行する。

2 ピット

A区からの検出ではなく、15基のピットがC区D区に散

在している。C区のピットは黄褐色土を埋没土とするものと砂質の黒色土を埋没土とするものとに二分される。D区のピットは埋没土にロームを含むものと、白色粒を含むものとに二分される。(第6-33~35図、PL.34)

3 その他

その他の遺構としては焼土遺構1か所と遺物集中2か

第6-5表 ピット計測表2

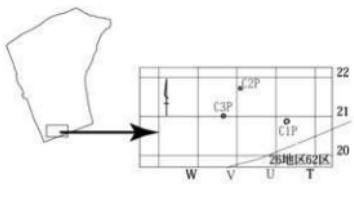
名前	C1号ピット	C2号ピット	C3号ピット	C4号ピット	C5号ピット	D1号ピット
位置	62区T-20グリッド	62区U-21グリッド	62区V-20~21グリッド	72区Y-2~3グリッド	72区S-7グリッド	72区P~Q-20グリッド
平面形状	偏円形	偏円形	円形	偏円形	偏円形	偏円形
断面形状	V字形	U字形	U字形	U字形	V字形	逆台形
規模	長(m) 0.52 短(m) 0.42 深(m) 0.27	0.36 0.28 0.25	0.40 0.40 0.22	0.46 0.32 0.33	0.40 0.26 0.30	0.67 0.54 0.28
主軸方位(度)	N-84-E	N-60-W	N-0	N-61-W	N-78-W	N-82-E
重複	なし	なし	なし	なし	なし	なし
遺物	なし	なし	なし	なし	なし	縄文土器五箇ケ台2式

第6-6表 ピット計測表3

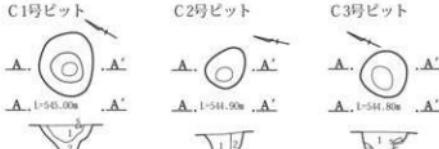
名前	D2号ピット	D3号ピット	D4号ピット	D5号ピット	D6号ピット	D7号ピット
位置	72区Q-20グリッド	73区A-16グリッド	72区R-17グリッド	72区T-16グリッド	72区U-15グリッド	72区W-13グリッド
平面形状	円形	偏円形	円形	円形	偏円形	長円形
断面形状	U字形	弧状	弧状	逆台形	方形	逆台形
規模	長(m) 0.52 短(m) 0.52 深(m) 0.21	0.63 0.49 0.26	0.64 0.58 0.23	0.54 0.49 0.18	0.66 0.49 0.20	0.82 0.59 0.26
主軸方位(度)	N-0	N-38-W	N-34-E	N-50-E	N-64-E	N-78-W
重複	なし	なし	なし	なし	なし	なし
遺物	なし	なし	なし	なし	なし	なし

第6-7表 ピット計測表4

名前	D8号ピット	D9号ピット	D10号ピット
位置	72区Y-7グリッド	72区Y-5グリッド	73区C-4~5グリッド
平面形状	円形	偏円形	方形
断面形状	U字形	V字形	U字形
規模	長(m) 0.64 短(m) 0.62 深(m) 0.20	0.96 0.62 0.33	0.48 0.46 0.26
主軸方位(度)	N-70-W	N-27-W	N-58-W
重複	なし	なし	なし
遺物	縄文土器五箇ケ台2式	なし	なし



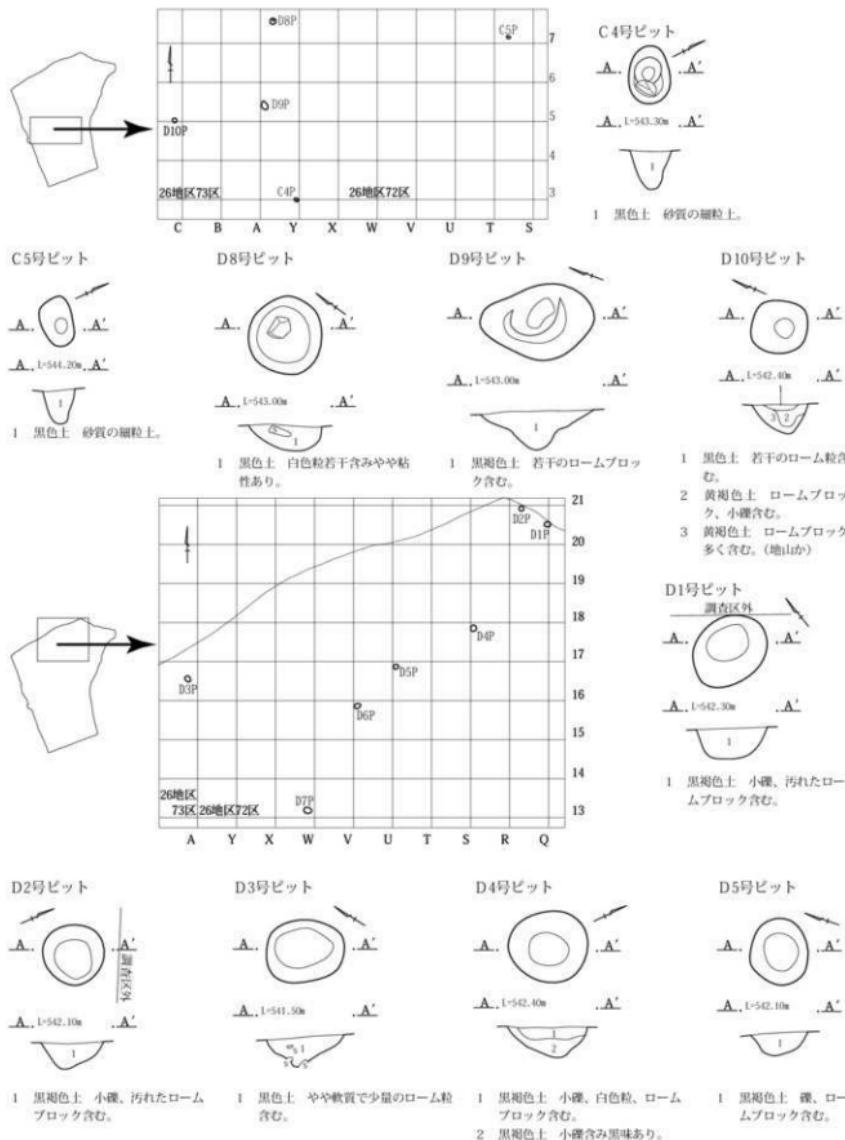
0 1:40 1m



C1. 2P
1 黒色土 粒子上。
2 黄褐色土 ローム小疊含む。

C3P
1 黒色土
2 黄褐色土 地山上主体。

第6-33図 ピット2



第6-34図 ピット3

0 1:40 1m

所が存在する。いずれもD区北部から検出された遺構である。

(1) D1号焼土遺構(第6-35図)

位置 72区U-19グリッド、D区北部に位置する。

形状等 不整形を呈する。

規模 $1.56 \times 1.40 \times 0.08m$

主軸方位(度) N-8-W

埋没土 不明である。

重複 なし。

遺物 なし。

所見 屋外炉の痕跡と推察される本遺構の年代は、時期を特定する資料に乏しく不明である。

(2) D2号遺物集中(第6-36, 37図、PL.38, 40)

位置 72区R-S-19~20グリッド、D区北部に位置する。

形状等 開丸長方形を呈する。

規模 $(5.34) \times 4.16 \times 0.32m$

主軸方位(度) N-24-W

埋没土 ローム土と黒色粘質土ブロックの混じる黄褐色土。

重複 D5号土坑、D6号土坑、D28号土坑。

遺物 埋没土から、縄文時代中期後葉の加曾利EⅢ式(26~29)土器のほか、縄文時代前期後葉の諸磯b式の土器片が出土している。

の土器片が出土している。また遺構周辺から打斧(25)が出土している。

所見 検出された遺物で標高の確認された21点のうち、本遺構の下位に位置する竪穴状遺構の床面より5cm未満の標高から検出されたもの6点、それ以上の標高から検出されたもの15点を数える。本遺構を構成する遺物は、下位の竪穴状遺構を覆った黄褐色土の2層から4層に含まれていた遺物と考えられる。なお、上記で形状・規模として記載したものは、本遺構により覆われていた下位遺構に関わるものである。本遺構及び下位の遺構の年代は、出土遺物から縄文時代以降に比定される。

備考 本件は二つの遺構に区分することも可能であるが、調査所見に基づき一体として記載した。

(3) D2号遺物集中(第6-36, 38図、PL.38, 40)

位置 72区U-W-19グリッド、D区北部に位置する。

形状等 遺構の大半が調査区外に及び不明である。

規模 $6.18m \times (2.38) \times 0.11m$

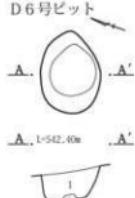
主軸方位(度) N-69-E

埋没土 ローム土主体の黄褐色土。

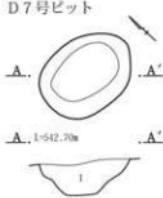
重複 なし。

遺物 埋没土から、縄文時代中期後葉の加曾利EⅣ式(22)土器、磨石(23, 24)のほか、縄文時代中期初頭の五領ヶ台2式

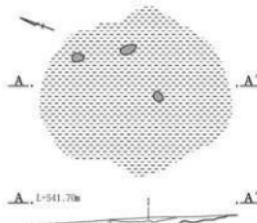
D1号焼土



1 黒色土 白色粒若干含みやや粘性あり。



1 黒色土 白色粒若干含みやや粘性あり。

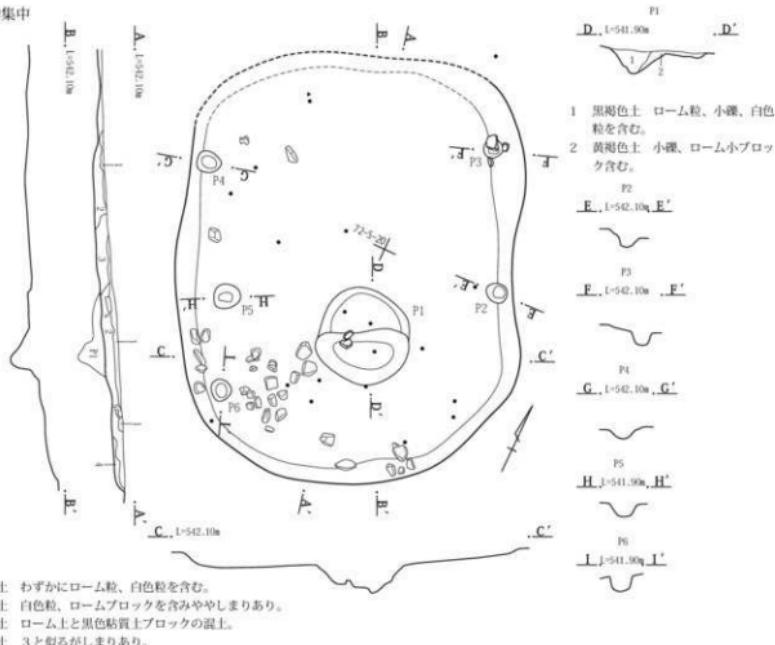


1 黒褐色土 焼土、炭化物の混土
2 若干の炭化物粒を含む。

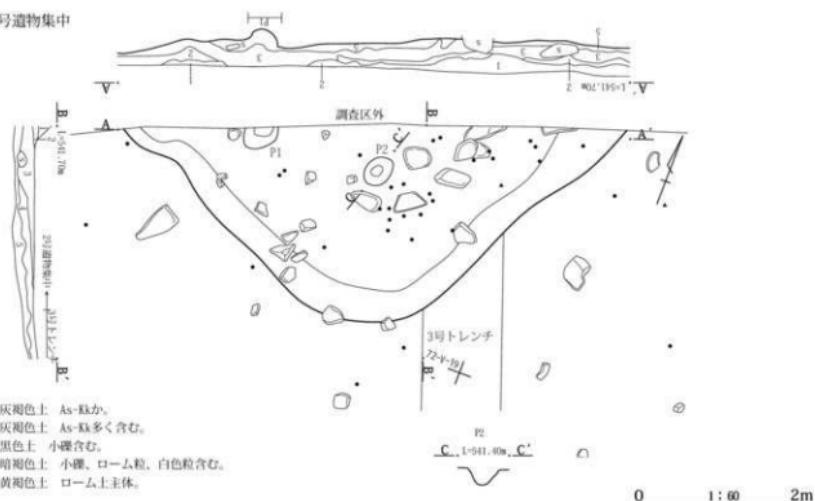
第6-35図 ピット4、D1号焼土遺構

0 1:40 1m

D1号遺物集中



D2号遺物集中



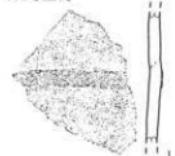
第6-36図 D遺物集中

所見 検出された遺物で、標高の確認された28点の標高は、遺構確認面を基準として-7cmから+23cmの範囲に

及んでおり、大半の遺物は5層であるローム土を主体とする黄褐色土に含まれていたと推察される。本遺構の年代は、時期を特定する資料に乏しく不明である。

4 出土遺物

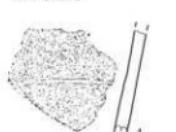
A1号土坑



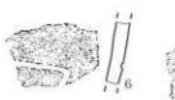
A7号土坑



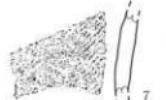
C15号土坑



C16号土坑



C17号土坑



D2号土坑



D3号土坑



D4号土坑



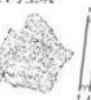
D9号土坑



D9号土坑



D14号土坑



D8号土坑



D1号遺物集中



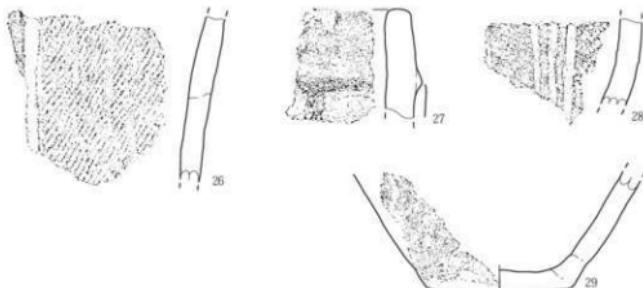
D1・2号遺物集中



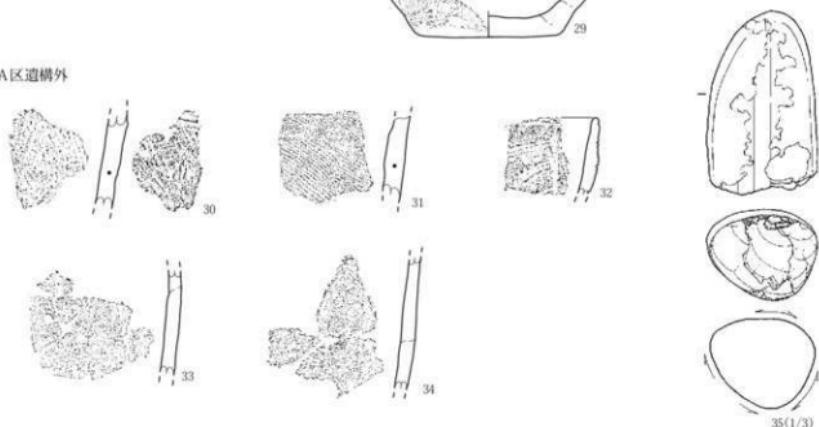
0 1:3 10cm

第6-37図 出土遺物2

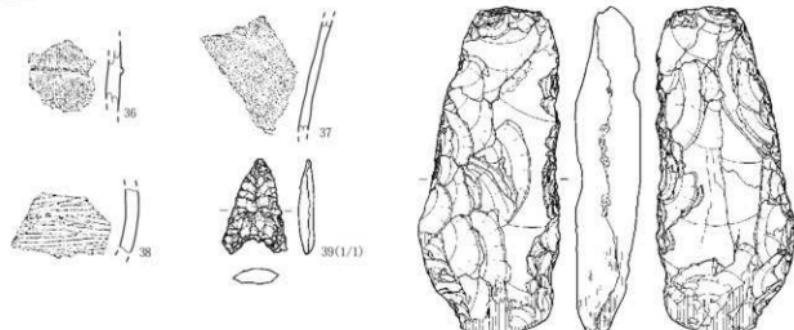
D2号遺物集中



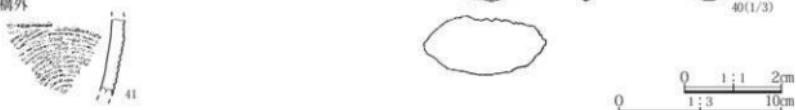
A区遺構外



B区遺構外



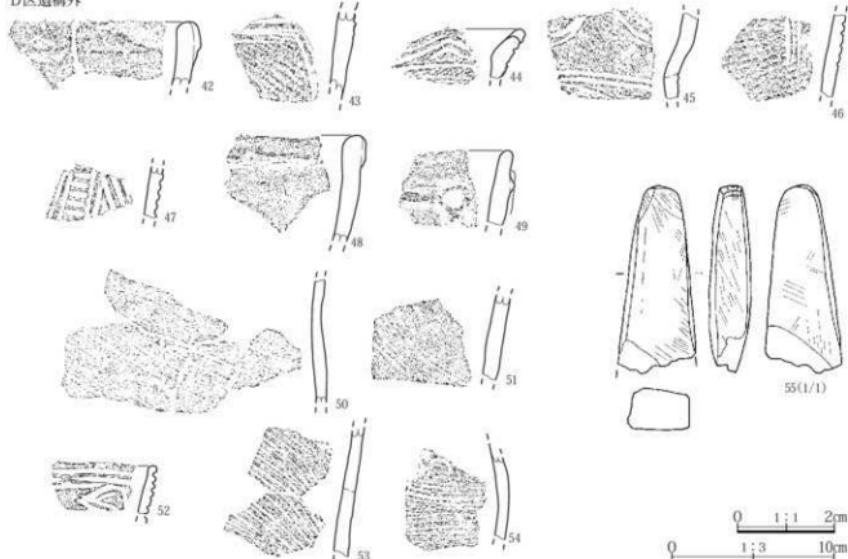
C区遺構外



第6-38図 出土遺物3



D区遺構外



第6-39図 出土遺物 4

第6-8表 遺物観察表2

発掘 PL No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第6-37回 PL.39	1	縄文土器 深鉢	AI上坑 体部破片		磁石英・白色粉/良好 好/白色	円筒状の形態を呈す。内外面は丁寧に研磨を加え。体部中央に横位隆帯を設け頭部を重ねる。	縄文中期前葉
第6-37回 PL.39	2	弥生土器 甕	AI上坑 体部破片		磁石英・白色粉/良好 好/灰褐色	外面縦位縫密条痕を施す。内面撫で調整。縛付着	弥生前期～中期
第6-37回 PL.39	3	弥生土器 跡?	AI上坑 体部破片		磁石英・片岩粉・褐色粉/良好/黒褐色	横位弧状沈線2条による弧状意匠。施文は深い。内面撫で調整	弥生前期～中期
第6-37回 PL.39	4	縄文土器 深鉢	C15上坑 底2cm 体部破片		磁石英・輝石(多)/ 良好/黒褐色	横位沈線を設け上位に弧線を配し斜位LRを充填する。施文は浅く判然としない。内面弱い撫でがある	縄文後期前葉
第6-37回 PL.39	5	縄文土器 深鉢	C15上坑 底2cm 体部破片		磁石英・輝石(多)/ 良好/浅い褐色	横位沈線を設けLRを施す。施文は浅い。内面研磨。色調差があるが6-37回と同一個体か	縄文後期前葉
第6-37回 PL.39	6	縄文土器 深鉢	C16上坑 体部破片		磁石英・輝石/良好 好/浅い黄褐色	体部上半か。横位沈線と斜位・弧状沈線による意匠文が配される。内外面とも平滑な撫で調整	縄文後期初頭
第6-37回 PL.39	7	縄文土器 深鉢	C17上坑 体部破片		磁石英・白石粉/良 好/浅い褐色	頭部破片か。横位隆線は口縁部又細か。側面は撫でて、以降位LRを施す。内面撫で調整	縄文中期初頭
第6-37回 PL.39	8	縄文土器 深鉢	D2上坑 体部破片		磁石英・褐色粉・白 色粉/良好/褐色	横位波状沈線2条を配し以下横位LRを施す。内面 弱い撫で調整	縄文中期後葉
第6-37回 PL.39	9	弥生土器 甕	D2上坑 頭部破片		褐色粉・白色粉/ 良好/浅褐色	横位波状沈線2条を配し以下横位LRを施す。内面 弱い撫で調整	弥生中期か
第6-37回 PL.39	10	- 磨石	B2号上坑 2箇 長幅 9.3 厚 9.0 重 440.2		粒粗輝石安山岩/全 形	表裏面の中央付近に磨面が認められる。扁平な円 錐を利用する。	
第6-37回 PL.39	11	縄文土器 深鉢	B3上坑 口縁部破片		磁石英・輝石/良 好/浅黄色	内側する波状線。頭部隆線を付し口縁部は沈線3 条があり埋文にLRを施す。頭部に沈線文を配す。 内面平滑な撫で	縄文後期中葉
第6-37回 PL.39	12	縄文土器 深鉢	D4上坑 体部破片		磁石英・輝石・白色 粉/良好/暗褐色	体部上半か。上位で僅かに外反する傾向を見る。 無文で内外面とも平滑な撫で調整を施す	縄文中期前葉
第6-37回 PL.39	13	弥生土器 甕	D4上坑 口縁部破片		磁/褐色粉・白色 粉/良好/浅褐色	口縁部は磨齒状を呈し口縁部外反する。横位LRを 施し頭部に横位波状沈線を配す。内面弱い撫で	弥生中期か
第6-37回 PL.39	14	弥生土器 甕	D9上坑 体部破片		粒片岩/褐色粉/良 好/褐色	外側横位麻痺。内面撫で調整	弥生前期～中期
第6-37回 PL.39	15	縄文土器 跡か	D8上坑 体部破片		磁石英・輝石/良 好/浅褐色	下位で屈曲し、下半は無節を横位施文する。内 外面とも丁寧な研磨を加える	縄文後期中葉

種別 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値	胎上/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第6-37回 PL.39	16	縄文土器 鉢か	DB上坑 体部破片		縄石英・輝石/良好 /にぶい褐色	上位で外反する傾向。薄手の器厚を呈す。内外面とも丁寧な研磨を加える。破片4点とも同一個体と思われる。	縄文後期中葉
第6-37回 PL.39	17	縄文土器 鉢か	DB上坑 体部破片		縄石英・輝石/良好 /にぶい褐色	無文。破片下位で屈曲傾向を示す。内外面とも丁寧な研磨を加える。	縄文後期中葉
第6-37回 PL.39	18	縄文土器 鉢か	DB上坑 体部破片		縄石英・輝石/良好 /にぶい褐色	薄手で無文。内外面とも丁寧な研磨を加える	縄文後期中葉
第6-37回 PL.39	19	縄文土器 深鉢	D14上坑 体部破片		縄石英・輝石/白色 粉/良好/褐色	薄手で無文。外面縦位割り調整後丁寧な研磨。内面弱い研磨を加える	縄文中期前葉
第6-37回 PL.40	20	縄文土器 深鉢	DI遺物集中 体部破片		粗石英・輝石・白 色粉/チャート/良好/灰 褐色	外反する体部上半。1本描き斜位沈線を乱雑に施す。内面平滑な横位撫で調整	縄文前期後葉
第6-37回 PL.40	21	縄文土器 深鉢	DI遺物集中 体部破片		縄石英・輝石/良好 /にぶい褐色	体部上半の外反部に横位平行沈線を施す。内面平滑な撫で調整	縄文前期後葉
第6-37回 PL.40	22	縄文土器 深鉢	DI遺物集中 体部破片		粗石英・褐色粉/や や軟質/黃褐色	底下沈線による懸垂文構成か。沈線に画された区画内を無筋で横位充填する。内外面とも平滑な撫で調整	縄文中期末葉?
第6-37回 PL.37	23	- 磨石	DI1号遺物集中 床+6cm 完形	長 幅 12.2 7.4 厚 重 3.4 459.4	粗粒輝石安山岩//	表面裏面の中央付近に磨面が認められる。扁平な円錐を利用すること。	
第6-37回 PL.37	24	- 磨石	DI1号遺物集中 床+6cm 完形	長 幅 12.0 9.4 厚 重 3.2 566.7	粗粒輝石安山岩//	表面裏面の中央付近に磨面が認められる。扁平な円錐を利用すること。	
第6-37回 PL.40	25	- 打製石斧	DI・2号遺物集 中 ほぼ完形	長 幅 13.9 (10.12) 厚 重 3.3 462.5	粗粒輝石安山岩//	表面の中央に素材酒片段割の主要剥離面を大きく残す。裏面には自然面を大きく残し、大形円錐を利用。左右両側辺のえぐり部中央付近にはつぶれ痕が認められ着柄痕の可能性がある。左右両側辺と上側辺は裏面加工が認められるが先端刃部は表面側のみ片面加工が主体的である。	
第6-38回 PL.40	26	縄文土器 深鉢	DI1号遺物集中 体部破片		粗石英・輝石・ チャート/良好/灰 褐色	外反する体部上半。1本描き斜位沈線を乱雑に施す。内面平滑な横位撫で調整	縄文前期後葉
第6-38回 PL.40	27	縄文土器 深鉢	DI2号遺物集中 口縁部破片		粗石英・輝石・褐色 粉/良好/明褐色	無文口縁部以下横位隣接線を設け、体部は隣接による懸垂文構成。内面平滑な撫で	縄文中期後葉
第6-38回 PL.40	28	縄文土器 深鉢	DI2号遺物集中 体部破片		粗輝石・白/白粉/良 好/にぶい/黃褐色	底下沈線3条による懸垂文構成。施部は底付虹充填施文。内面は弱い研磨を施す	縄文中期後葉
第6-38回 PL.40	29	縄文土器 深鉢	DI2号遺物集中 底部破片	底 (8.8)	粗輝石・白色粉/良 好/黒褐色	強く聞く体部下半。内外面とも丁寧に研磨を加える	縄文中期後葉
第6-38回 PL.40	30	縄文土器 深鉢	640-13-3面 体部破片		粗織維・白色粉/良 好/浅褐色	表面裏条痕を施す	縄文早期後葉
第6-38回 PL.40	31	縄文土器 深鉢	640-12-3面 体部破片		粗織維・石英粉/良 好/褐色	厚手の器厚を呈す。無筋が覆う。内面弱い撫で調整	縄文前期中葉
第6-38回 PL.40	32	縄文土器 深鉢	648-12-2面 口縁部破片		白色粉/良好/灰 黃褐色	沈線による方形状区画内に横位・斜位条痕が充填される。内面弱い研磨	縄文前期末葉?
第6-38回 PL.40	33	縄文土器 深鉢	64T-10-2面 体部破片		粗石英・輝石・褐色 粉/良好/にぶい褐色	無文。内外面とも研磨を施す	縄文中期初頭か
第6-38回 PL.40	34	縄文土器 深鉢	64T-10-2面 64S-11-2面 体部破片		粗石英・白色粉/良 好/にぶい褐色	無文。内外面とも研磨を施す。2002と同一個体	縄文中期初頭か
	35	- 磨石	AIK2面造境外 1/2	長 幅 11.2 6.8 厚 重 5.6 653.8	珪質変質岩//	裏面及び右側面に磨面が認められる。下部小口面には複数の剥離面が認められ下部小口上面に小さな剥離面が集中する。また裏面の下端部付近には敲打痕が認められ敲打痕の一部は下部小口面にかかっている。下部小口面の端部付近は敲打具として利用された可能性がある。	
第6-38回 PL.40	36	縄文土器 深鉢	26-63P19 体部破片		縄石英・輝石/良好 /褐色	横位隣接下を深い穂位沈線を施す。内面弱い撫で調整	中期前葉
第6-38回 PL.40	37	弥生土器 壺?	87上坑 体部破片		粗石英・片岩/や や軟質/褐色	無文。薄手の器厚を呈す。内外面研磨を加えるが下半は被熱したためか摩滅する	弥生前期～中期
第6-38回 PL.40	38	弥生土器 壺	26-63T-22 体部破片		粗石英・白色粉/ やや軟質/にぶい 褐色	粗・3・4条単位の横位条痕が覆う。内面平滑な撫で	弥生前期～中期
第6-38回 PL.40	39	- 石鑓	63R-23 完形	長 幅 2.0 1.3 厚 重 0.3 0.6	黒曜石//	表面裏面の全体に面的な二次加工が認められる。	四基無茎鑓
第6-38回 PL.40	40	- 打製石斧	63V-20 完形	長 幅 20.3 8.7 厚 重 4.1 817.9	変質安山岩//	側面部は全体的に裏面加工が認められる。先端刃部付近は裏面に摩滅痕が広範囲に認められる。左右両側辺の中央付近にはつぶれ痕が認められる。裏面には他の剥離面よりも風化が進行した剥離面が部分的に認められる。いわゆる二重風化面をもつ石器の可能性がある。	
第6-38回 PL.40	41	縄文土器 深鉢	26-72U-2面 体部破片		縄石英・白色粉/良 好/褐色	横狭の平行沈線による施文。横位沈線以下重複施文による同心円状の意匠を配す。三爻文も施す。内面平滑な撫で	縄文前期末葉

遺物観察表

神岡 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値	胎上・焼成・色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第6-39回 PL.40	42	縄文土器 深鉢	DK 2面 口縁部破片		粗石英・輝石・白色 粒・褐色粉/良好 /ぶい褐色	口縁部細陰線を設ける。内面弱い研磨	縄文中期末葉	
第6-39回 PL.40	43	縄文土器 深鉢	DK 2面 体部破片		粗石英・雲母/良好 /ぶい褐色	横位平行沈線部以下弧状沈線が派生する。区画内 は横位圧を充填し平行沈線による弧状意匠を配す。 内面弱い撫で	縄文中期初頭	
第6-39回 PL.40	44	縄文土器 深鉢	DK 2面 口縁部破片		粗石英・輝石・良好 /褐色	波状線。縦位沈線2条により幅狭口縁部を画し、 口縁部に沿って沈線を施す。無頭Lを地文とする。 内面平滑な撫で	縄文中期初頭	
第6-39回 PL.40	45	縄文土器 深鉢	DK 2面 口頭部破片		粗石英・片岩/良好 /暗褐色	波状線か。平行横位沈線で幅狭の口縁部を画し、 降線と沈線が口頭部に沿う。体部は弧状平行沈線 間を互石網文が施される。内面平滑な撫で調整	縄文中期初頭	
第6-39回 PL.40	46	縄文土器 深鉢	DK 2面 体部破片		粗石英・雲母/良好 /ぶい褐色	重下沈線による懸垂文構成。円形剥突による截痕 列が沿う。地文は縦位・斜位RL。内面平滑な撫で	縄文中期初頭	
第6-39回 PL.40	47	縄文土器 深鉢	DK 2面 体部破片		縞・輝石・白色粒褐 色粉/良好/ぶい褐色	斜位沈線2条による区画文か。横位短沈線を充填 する。内面弱い研磨	縄文中期前葉	
第6-39回 PL.40	48	縄文土器 深鉢	DK 2面 口縁部破片		粗石英・輝石/良好 /ぶい褐色	口縁部側に肥厚。無文で外面部削り調整後撫で 内面平滑な撫で調整	縄文後期初頭	
第6-39回 PL.40	49	縄文土器 深鉢	DK 1面26- 72X 口縁部破片		粗・輝石・褐色粉・白 色粉/良好/ぶい 褐色	口縁部横位沈線を設け円形貼付文より垂下降線が 派生する体部懸垂文構成。内面平滑な撫で	縄文後期前葉	
第6-39回 PL.40	50	弥生土器 甕	DK 2面 体部破片		粗石英・片岩/やや 軟質・褐色	単位不明の条痕が横位・縦位に複数。内外面とも 器面摩擦	弥生前期～中期	
第6-39回 PL.40	51	弥生土器 甕	DK 2面 体部破片		粗石英/やや軟質/ 褐色	単位不明の横位条痕が複数。内面横位撫で。外器 面摩擦	弥生前期～中期	
第6-39回 PL.40	52	弥生土器 甕	DK 2面 口縁部破片		縞・輝石/良好/褐色 /黒褐色	口縁部横位沈線により変形丁字文を作出する。体 部は横位矢羽意匠を配す。内面研磨	弥生前期～中期	
第6-39回 PL.40	53	弥生土器 甕	DK 2面 体部破片		粗石英・褐色粉/良 好/ぶい赤褐色	体部下手か。3・4条単位の斜位条痕が複数。内面 撫で	弥生前期～中期	
第6-39回 PL.40	54	弥生土器 甕	DK 2面 体部破片		粗石英・片岩/やや 軟質/ぶい赤褐色	単位不明の横位条痕が複数。内面撫で。外器面摩 擦	弥生前期～中期	
第6-39回	55	磨製石斧	DK 1面遺模外 2/3	長 (3.9) 幅 (1.1)	厚 0.9 重 8.4	玄武岩//	全体的に丁寧に研磨整形されておりわずかに光沢 がある。縦かい條痕が全体的に認められる。	

第6・9表 未掲載遺物

前期後葉	前期末葉	中期初頭	中期前葉	中期後葉	縄文時代		弥生時代 前期～中期
					後期前葉	後期中葉	
A2土坑		五頭ヶ台 2式	1				
A3土坑					蛭之内2式	1	
B2土坑							9
B4土坑		五頭ヶ台 2式直後	1		高井東式	3	2
B5土坑		五頭ヶ台 2式			加曾利B1式?	1	
B6土坑		五頭ヶ台 2式	1		1		
B8土坑					加曾利B1式?	5	
B9土坑							2
B10土坑		五頭ヶ台 2式	4				
B17土坑		五頭ヶ台 2式	2				
B1P		五頭ヶ台 2式	2				
B8P		五頭ヶ台 2式	1				1
B1遺物集中	諸磯b式	7	五頭ヶ台 2式	11			
B2遺物集中			五頭ヶ台 2式	5	加曾利B1式	22	
遺物外	十三番 型式?	11	五頭ヶ台 2式	72	加曾利B1式	5	加曾利B1～ 高井東式
						9	26

第7章 下湯原遺跡(3)

第1節 調査に至る経緯と経過

第1項 調査に至る経緯

群馬県の北西部、長野原町大字川原湯字下湯原および新井の門地内に存在する下湯原遺跡は、平成22年5月に群馬県教育委員会文化財保護課による試掘調査により、天明泥流下の畠とその下位に存在する中世の遺構などが確認された。これを受け、平成27年度から平成29年度にかけて発掘調査が実施され、縄文時代の土坑や平安時代の建物が検出された。このほかにも、中世から近世に至る墓が一か所に25基まとまって検出され、隣接する建物からは常花も出土しており、御堂等の墓に関連した建物と考えられている。溝や穴列で囲まれた長軸13m短軸6.5mを越える中世の大形掘立柱建物を中心とする集落が確認された発掘調査の成果は、当事業団2018『下湯原遺跡(1)』(以下、既報1)、同2020『下湯原遺跡(2)』(以下、既報2)として既に刊行されている。また過去3年間の発掘調査に際し、現有道路として利用されていたために調査不能であった地点に対する発掘調査が、平成

31年(令和元年)4月1日から同7月31日にかけて実施された。本章ではこの最終年度となった調査の成果を掲載する。

第2項 調査の経過

今回の調査区は旧国道145号線、旧JR吾妻線下の9,483m²が対象である。調査区が東西に長いため、西からA-4区、H-1~3区、C-4区と分割し、平成31年4月1日より順次発掘調査を実施した。5月の調査では、A-4区(旧JR吾妻線下)2面(古代以降)、H-1区(旧国道145号線)の1面(近世)、2面(古代以降)の調査を行った。6月の調査では、H-1区(旧国道145号線)の2面(古代以降)、H-2区の1面(近世)、H-3区1面(近世)の調査を行い、ついでH-2区(旧国道145号線)の2面(古代以降)、H-3区の2面(古代以降)、C-4区1面(近世)の調査を行い、7月31日に調査を終了した。

天明泥流下である1面目はほぼ全域で近世の畠が検出され、他に平坦面や溝が検出された。2面目(古代以降)ではA-4区、H-1~3区から竪穴建物、掘立柱建物が複数検出され、土坑、ピットが点在していた。



第7-1図 遺跡位置図

第2節 遺跡の立地と基本土層

第1項 遺跡の立地

下湯原遺跡は群馬県北西部に位置する群馬県吾妻郡長野原町大字川原湯に所在する。長野原町の北部を吾妻川が東流し、川を挟んで北西には草津白根山、南西には浅間山が位置する。本遺跡は吾妻川右岸の東西に広がる中位河岸段丘面上にあり、南側は所々山麓地形が張り出している。標高は約520mであり、今回の調査区はハッカ場大橋の直下に位置している。

第2項 基本土層

今回の調査区は大きく東西に二分される。東側の調査区はこれまでに調査が行われた一帯の東端に位置する。また西側の調査区は、調査済みの地区にその南北を挟まれた帶状の地区である。いずれにしても既報の調査域に隣接しており基本土層もまた共通する。既報において下層の堆積状況が場所により相違するとの指摘があるよう、今回の調査区の下層からはグライ化した地層が検出されており、本調査区の特徴となっている。

第3節 検出された遺構と遺物

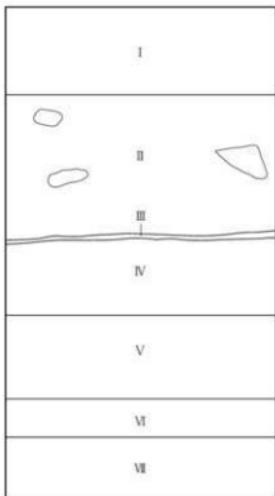
第1項 調査の概要

今回の調査区は大きく二分され、東側調査区は既報にて報告済みの調査範囲の東端に隣接する。この東側調査区からは烟7区画、調査区を東西に横断する道1条とこれに接する溝3条が検出されている。これらはいずれも天明泥流直下(1面)の遺構であり、この下層から遺構は検出されていない。しかしながら南北を既報の調査区に挟まれた西側調査区の1面の下層(2面)からは中世から繩文時代にかけての遺構が検出されている。西側調査区の1面から、礎石建物1棟、煙29区画、道1条、溝3条、2面からは、竪穴建物3棟、掘立柱建物22棟、竪穴状遺構3基、焼土遺構5基、溝11条、柵2条、土坑105基、ピット338基が検出された。なお2面から検出された土坑には、骨や歯が出土した土坑墓と考えられる遺構が6基含まれる。

第2項 1面の遺構

1 1面の概要

下湯原遺跡の天明泥流直下は吾妻川の中位段丘面である台地一面に畑が広がる生産領域である。今回の調査区も同様に一面の畑地であったが、西側調査区中央部東寄りの調査区北邊から礎石建物1棟が検出された。下湯原遺跡の建物は、これまでに遺跡南西部から検出されているが、今回検出された建物はこの既報建物の北東方向に150m程離れた地点に位置する。



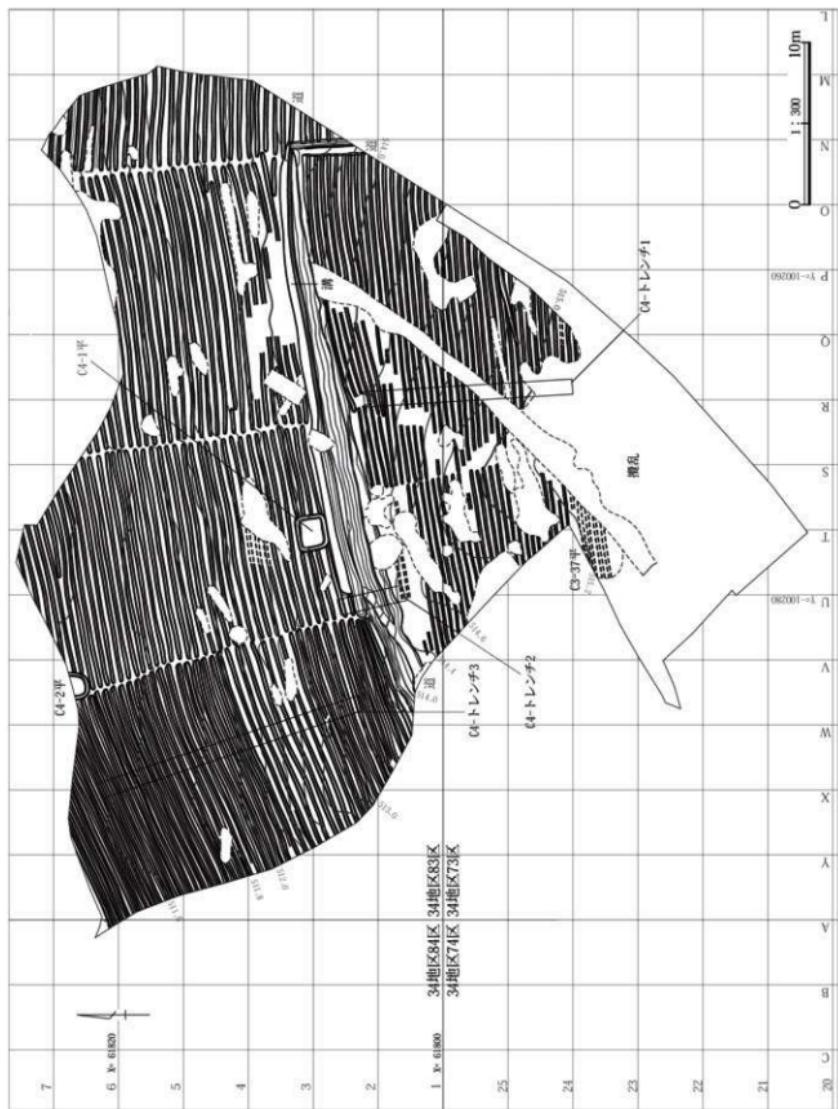
第7-2図 下湯原遺跡基本土層模式図

下湯原遺跡基本土層

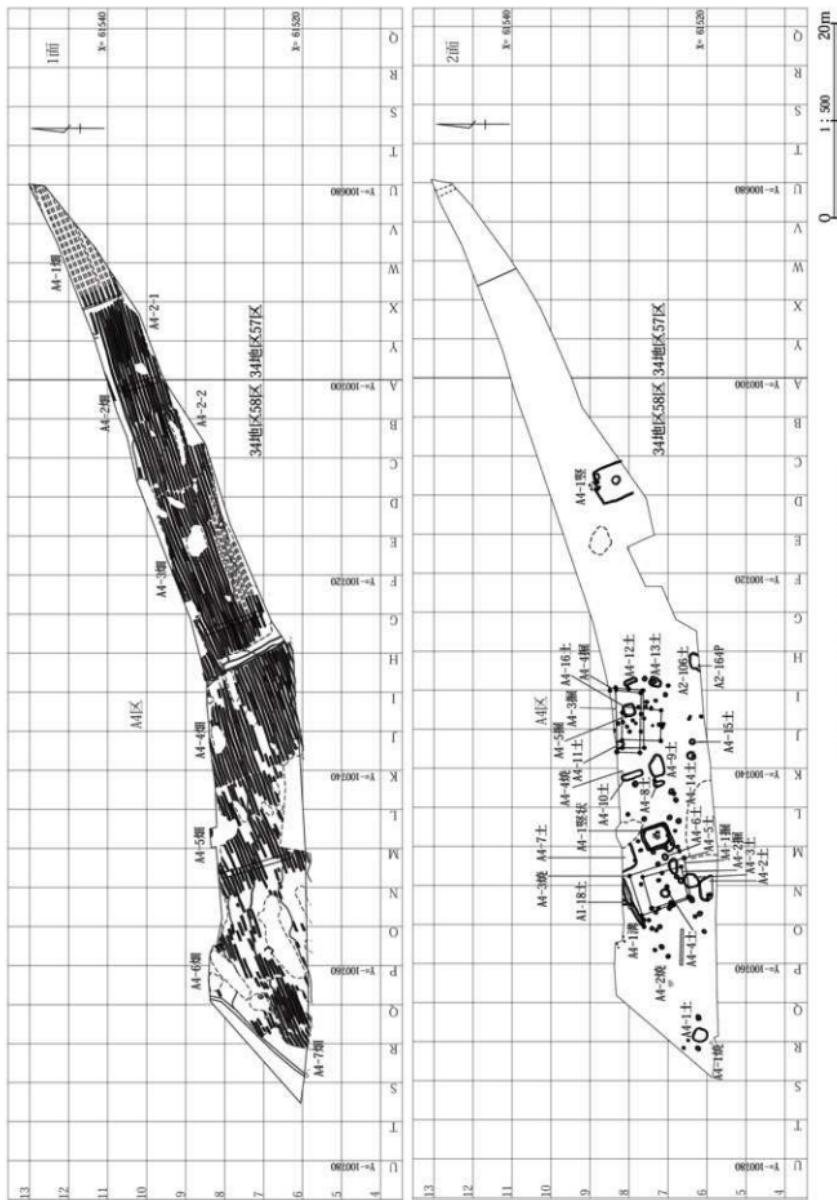
- I層 喰褐色土(10YR3/3)現在の耕作上及び表土。
- II層 喰褐色土(10YR3/3)天明泥流(天明3年・1783)
- III層 As-A (1783年)発達のよい白色輕石径2~4mmの大輕石が主体。
- IV層 にぶい褐色土(7.5YR6/4)粒子細かくしまり、粘性とともに弱い。
- V層 にぶい褐色土(7.5YR5/4)IV層よりやや暗い、土質はIV層に近い。
- VI層 にぶい褐色土(7.5YR5/4)V層に近い、所々に黄褐色の山砂含む。
- VII層 にぶい褐色土(7.5YR7/4)硬くしまった土層、ロームに近い層。



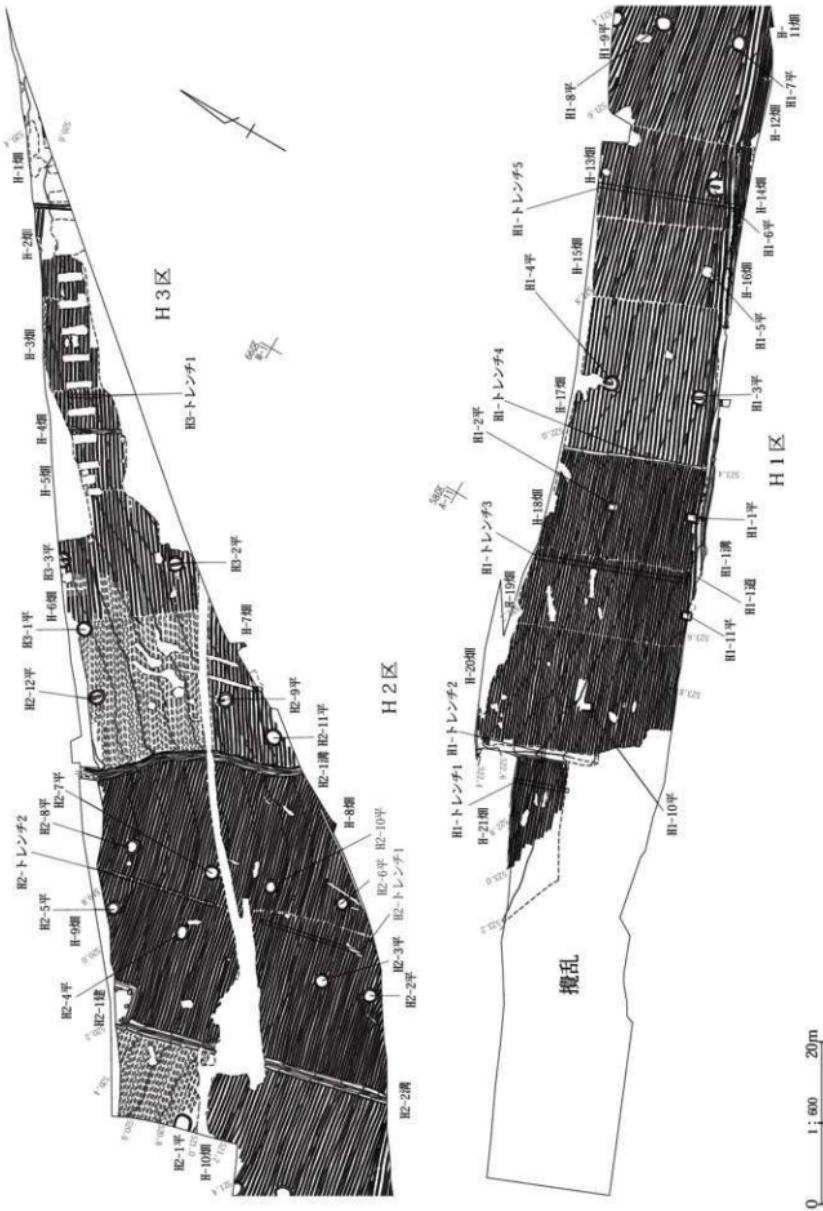
第7~3図 下鶴原遺跡調査区位置図



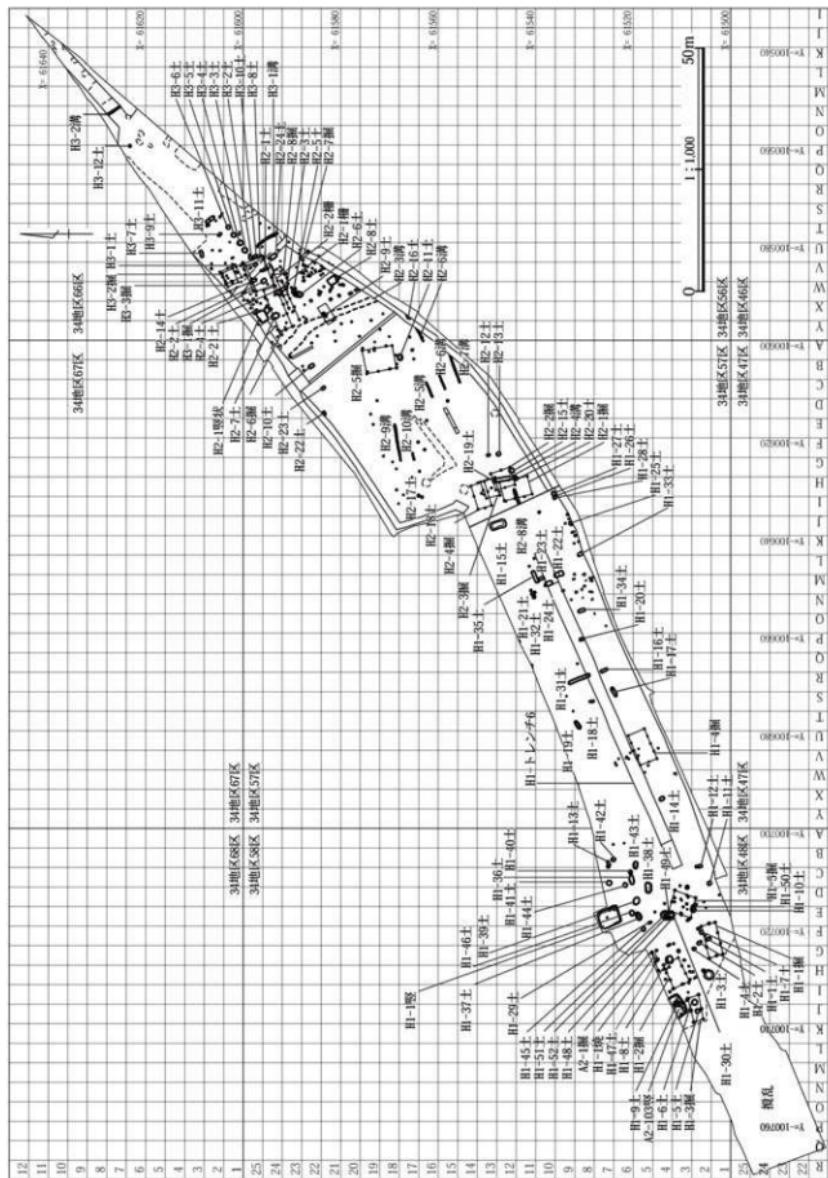
第7-4図 令和元年度東側調査区



第7-5図 令和元年度西側調査区北部



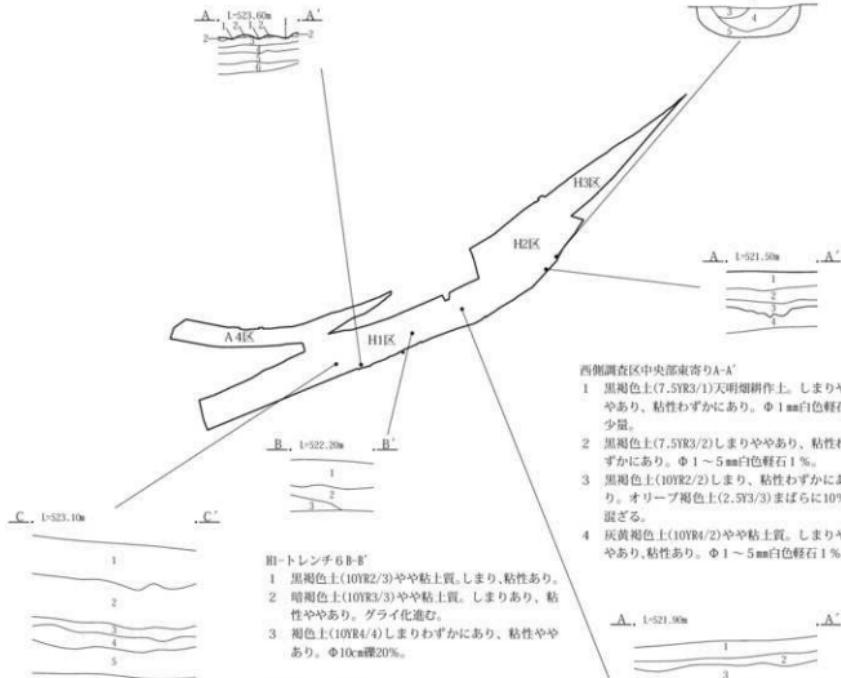
第7-6図 令和元年度西側調査区(除北部)1面



第7-7図 令和元年度西側調査区(除北部)2面

第7章 下湯原遺跡(3)

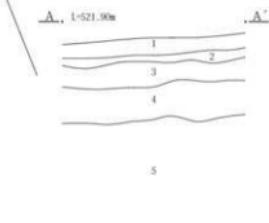
- III-トレンチ3 A-A'
- As-A
 - 黒褐色土(10YR2/3)しまりややあり、粘性わずかにあり。
 - 黒褐色土(10YR2/3)しまりややあり、粘性わずかにあり。Φ 5 mm~1 cm礫1%。
 - 黒褐色土(10YR2/2)しまり、粘性ややあり。Φ 5 mm~1 cm礫少量。
 - 黒褐色土(10YR3/2)しまり、粘性ややあり。Φ 1~2 cm礫1%。グラデ化進む。
 - 黒色土(2.5Y2/1)しまりわずかにあり、粘性ややあり。Φ 5 mm~2 cm礫5%。グラデ化進む。
- II-16号土坑A-A'
- 黒褐色土(7.5YR3/1)天明畑耕作土。しまりややあり、粘性わずかにあり。Φ 1 mm白色軽石少量。
 - 黒褐色土(7.5YR2/2)しまりややあり、粘性わずかにあり。Φ 1~5 mm白色軽石1%。
 - 暗赤褐色土(5YR3/2)やや粘土質。しまりわずかにあり、粘性あり。
 - 黒褐色土(7.5YR2/2)しまりややあり、粘性わずかにあり。Φ 1 mm白色軽石少量。
 - 黒褐色土(10YR2/2)しまり。粘性ややあり。Φ 1~3 mm白色軽石1%。



- III-トレンチ6 C-C'
- 黒褐色土(10YR2/3)やや粘土質。しまり、粘性あり。
 - 褐色土(10YR4/6)しまりややあり、粘性わずかにあり。Φ 1~4 cm礫30%。
 - にぶい黄褐色砂(10YB4/3)粗砂。しまりわずかにあり。黄褐色土が混ざる。
 - 褐色土(10YR4/4)しまりわずかにあり、粘性ややあり。Φ 1~2 cm礫1%。
 - オリーブ褐色砂(2.5Y4/4)黄褐色土が混ざる。Φ 2~3 cm礫2%。

第7-8図 令和元年度調査区基本土層

- 西側調査区中央部東寄りA-A'
- 黒褐色土(7.5YR3/1)天明畑耕作土。しまりややあり、粘性わずかにあり。Φ 1 mm白色軽石少量。
 - 黒褐色土(7.5YR3/2)しまりややあり、粘性わずかにあり。Φ 1~5 mm白色軽石1%。
 - 黒褐色土(10YR2/2)しまり、粘性わずかにあり。オリーブ褐色土(2.5Y3/3)まばらに10%混ざる。
 - 灰黃褐色土(10YR4/2)やや粘土質。しまりややあり、粘性あり。Φ 1~5 mm白色軽石1%。



東側の調査区から検出された道の西端は攪乱区画を間に挟むが、既報1の7号道に統くと考えられる。また西側の調査区から検出された4号道の東西両端は既報1の4号道につながっており、遺跡を大きく東西に横切り延びることが確認された。

西側調査区の東部から検出された溝の南北両端は既報1の2号溝に連なり、南の山麓方面に延びる2号道と遺跡を横断する4号道との辻付近から南流することが確認された。

2 碇石建物

西側調査区の中央部東寄りの北辺から検出された建物は、その北半が調査区外に及ぶため間取り等は不詳である。西側調査区中央部南辺に位置する4号道付近から北流する溝が建物を併む浅い溝につながっている。建物に至る道は確認されていないが、この溝の両側は土手状に盛り上がっており、道の用を果たしたと推察される。なお建物の北側は未調査区画であり、北からのアプローチの存在を否定するものではない。

(1) H2-1号建物(第7~9図、PL.41)

位置 57区G~H-19~20グリッド、西側調査区中央部東寄りの北辺に位置する。

形状 碇石4個が検出され、礎石建物の2間×1間が確

認されている。

規模 衍行(1.74)m、梁間3.69m。衍行柱間1.74m、梁行柱間1.86m。

衍行方位(度) N-14-W

本体構造 南北棟の礎石建物と推測される。

付属施設 建物敷地を深さ0.07~0.16m、幅0.41~1.09mの浅い溝が囲み、建物内からは敷物の痕跡が確認されている。炉床は確認されていない。

重複 なし。

遺物 なし。

所見 敷物痕を土座と解釈すれば、未調査部である北側に土間が存在する2間×3間以上の建物と推測される。

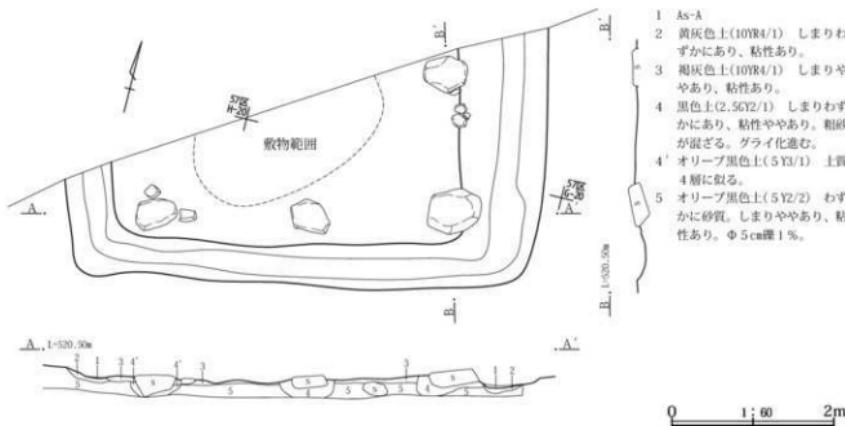
3 道

東西の調査区から、東西に延びる道がそれぞれ1条づつ検出されている。東側調査区から検出された道はその西端で既報1の7号道と接し、西側調査区から検出された道はその両端を既報1の4号道と接することが確認された。いずれも側溝をともなう。

(1) 4号道(第7~10、11図、PL.41)

位置 57区G~58区Y-3~10グリッド、西側調査区西半南辺に位置する。

形状 調査区南辺に沿い直線状に延びる。確認範囲の西



第7~9図 H2-1号建物

半に限定されるが、路面の下位から道と溝が検出されている。

規模 (77.62)m、幅0.89m。なお、既報部分を含むと(353.33)m、幅0.5 ~ 0.9mを測る。

走行方位(度) N - 67 - E、既報部分を含めるとN - 82 - Eを測る。

付属施設 溝。

重複 道西半の下位から道と溝が確認されている。

遺物 なし。

所見 遺跡の南部に存在する1号道と並走し、東西に延びることが確認された。今回確認された道の下位(1面下)から道と溝が検出されており、改修されつつ利用されていたと推測される。

備考 調査時の名称は、H - 1 区 1 号道。

a 側溝

位置 47区 S ~ X - 3 ~ 5 グリッド、4号道西部の南辺に位置する。

形状 調査区南辺に沿い直線状に延びる。

規模 (18.94)m、幅0.27 ~ 0.53m。

走行方位(度) N - 67 - E

重複 なし。

遺物 なし。

所見 溝は道西半の山側で確認されたが、既報部分では確認されておらず、水路としての企図はなく、水はけや道の補修を意図して局所的に設けられたと推察される。

b 下位の溝

位置 57区 T ~ V - 4 ~ 5 グリッド、西側調査区西半南辺、概ね4号道西端の下位に位置する。

形状 溝両端部底面の標高差は0.01m。逆台形の断面形状を持つ。

規模 (9.53) × 0.62m、深さ1.29m。

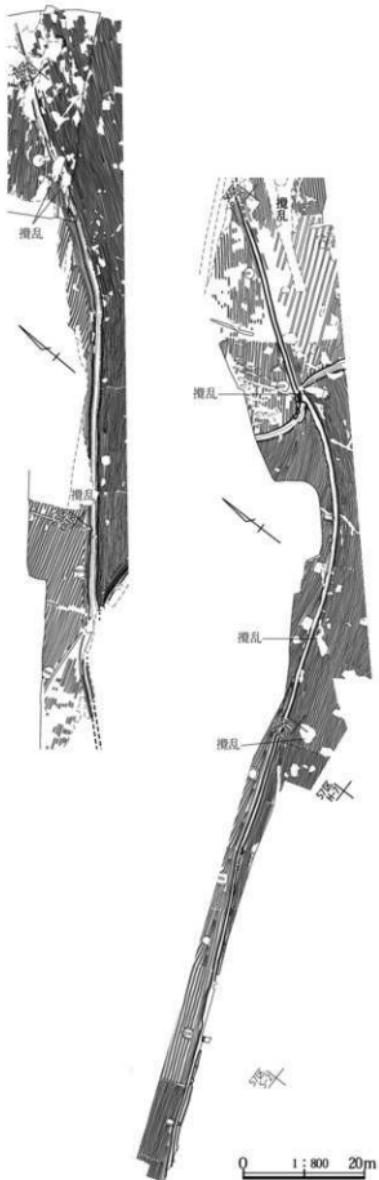
走行方位(度) N - 68 - E

埋没土 しまりわずかにあり、粘性ややある、Φ 3 ~ 10cmの砾を50%含む黒褐色土。

重複 4号道。

遺物 なし。

所見 4号道側溝が確認された範囲の下位に限定された検出であり、溝と称すよりは、細長い土坑と称したほうが適切といえる。4号道はその0.1m下位からも路面が



第7-10図 4号道1

4号道

4号道B-B'

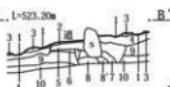
1 As-A

2 黒褐色土(10YR3/2) しまり非常に強い、粘性わずかにあり。
道として固められている。3 黒褐色土(7.5YR3/1) しまりあり、粘性わずかにあり。歯として
て高められている。4 黒褐色土(7.5YR3/1) しまりあり、粘性わずかにあり。Φ 5mm
~ 1cm躍 1%。

5 黒褐色土(10YR2/2) しまり強い、粘性わずかにあり。

6 にぶい黄褐色砂(10Y5/3) 細りややあり、粘性なし。細かい砂。
7 黒褐色土(10YR2/3) しまりややあり、粘性わずかにあり。Φ
5mm躍 2% Φ 1~3cm躍少量。8 黒褐色土(7.5YR3/2) しまりややあり、粘性わずかにあり。Φ
5mm白色軽石少量。

8' 8層に上質似るがΦ 2~4cm躍 20%。

9 黒褐色土(10YR2/2) しまりややあり、
粘性わずかにあり。Φ 5mm躍 5%。10 黒褐色土(10YR2/3) しまり、
粘性ややあり。Φ 5mm白色軽石少量。

4号道

A-A'

1 As-A

2 黒褐色土(10YR3/2) しまり非常に強い、粘性わずかにあり。
道として固められている。

3 黒褐色土(7.5YR3/1) しまりあり、粘性わずかにあり。歯として高められている。

4 黒褐色土(7.5YR3/2) しまり強い、粘性わずかにあり。

5 黒褐色土(7.5YR3/1) しまりあり、粘性わずかにあり Φ 5mm~1cm躍 1%。

6 黒褐色土(7.5YR3/1) しまりややあり、粘性わずかにあり。

6' 6層に上質似るが縛まり強い。

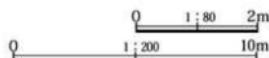
7 黒褐色土(7.5YR3/2) しまりややあり、粘性わずかにあり。耕作土。

8 黒褐色土(10YR2/3) しまりややあり、粘性わずかにあり。Φ 5mm躍 2% Φ 1~3cm躍少量。

9 黒褐色土(10YR2/3) しまり、粘性ややあり。Φ 5mm白色軽石少量。

下位の道と溝 (H 1 - 1号溝)

- Δ - Δ' , l=523.50m, Δ - Δ' ' 1 黒褐色土(10YR3/1) しまりややあり、粘性わずかにあり。
2 黒褐色土(7.5YR3/1) しまりわずかにあり、粘性ややあり。Φ
3~10cm躍 50%。



第7-11図 4号道2

第7章 下湯原遺跡(3)

確認されており、この下位あるいは上位の路面を整備する際に設けられた遺構と推測される。上位の路面に先行するが、下位の路面との新旧関係は不明である。

備考 調査時の名称は、H-1区1号溝。

c 下位の道

位置 57区M～W-3～8グリッド、西側調査区西半南辺、概ね4号道西半の下位に位置する。

形状 調査区南辺に沿い直線状に延びる。

規模 (28.11)m、幅0.72m。

走行方位(度) N-75-E

埋没土 しまり非常に強い、粘性わずかにある黒褐色土。

重複 4号道。

遺物 なし。

所見 天明3年時点の道に先行する路面であるが、下位の溝との新旧関係は不明である。

備考 調査時の名称は、H-1区1号道2面。

(2) 7号道(第7-12図、PL.42)

位置 83区M～V-1～3グリッド、東側調査区に位置する。

形状 東側調査区中央部に存在する標高差0.8mテラスの境界に沿い東西に延びる。道中央部は上道(上側テラス北端)と下道(下側テラス南端)に分岐し、東端付近の合流部に南へ延びる支道をもつ。道の西端と上道を除き側溝を伴う。

規模 東西部下道30.72m、幅0.51m。東西部上道(32.97)m、幅0.59m。東西部東支道(2.15)m、幅0.41m。南北部(3.96)m、幅0.48m。既報部分を含めると(68)m、幅0.4～0.6m。

走行方位(度) 東西部下道N-82-E。東西部上道N-77-E。東西部東支道N-90-E。南北部N-3-W。

付属施設 溝。

重複 なし。

遺物 なし。

所見 妨乱区画をはさみ、西は既報1の7号道に連なり、南北部は既報2のG区畑2の道に連なると考えられる。

備考 調査時の名称は、C-4区1号道。

a 側溝

位置 83区M～U-2～3グリッド、東側調査区7号道沿いに位置する。

形状 7号道東西部下道、東西部東支道の南辺沿い(山側)と南北部の東辺沿いに存在する。溝両端での底面の標高差は、東西部下道沿い0.12mの西下がり、東西部東支道沿い0m、南北部沿い0.39mの北下がりとなっている。

規模 東西部下道沿い29.19m、幅0.19～0.68m、深さ0.01～0.10m。東西部東支道沿い(2.10)m、幅0.31m、深さ0.05m。南北部沿い(3.89)m、幅0.41m、深さ0.06m。
走行方位(度) 東西部下道沿いN-81-E、東西部東支道沿いN-90、南北部沿いN-5-W。

重複 なし。

遺物 なし。

所見 東西部の溝は水路としてよりも、道の水はけを意図したものと推測される。なお東支道は側溝のみが既報2のG区1号溝に連なるようである。

4 溝

西側調査区東半から北流する溝2条が検出されている。東寄りの溝はその南北両端で既報1の2号溝に接し、遺跡内を北流することが確認された。中央寄りの溝の南端は前述したH2-1号建物を囲周する溝に連なる。いずれの溝も4号道至近から北流するが、明確な水源は確認されていない。

(1) 2号溝(第7-13、14図、PL.42)

位置 56区W～57区B-18～24グリッド、西側調査区東半に位置する。

形状 溝の東辺は切り石を連ねて護岸が形成され、西辺の所々には杭が打ち込まれている。溝南北両端の底面は、標高差1.59mの北下がり。

規模 (26.81)m、幅1.10m、深さ0.30m。既報部を含め(76.89)m、幅1m前後、深さ0.30m。

走行方位(度) N-41-W。既報部を含めN-30-W。

重複 なし。

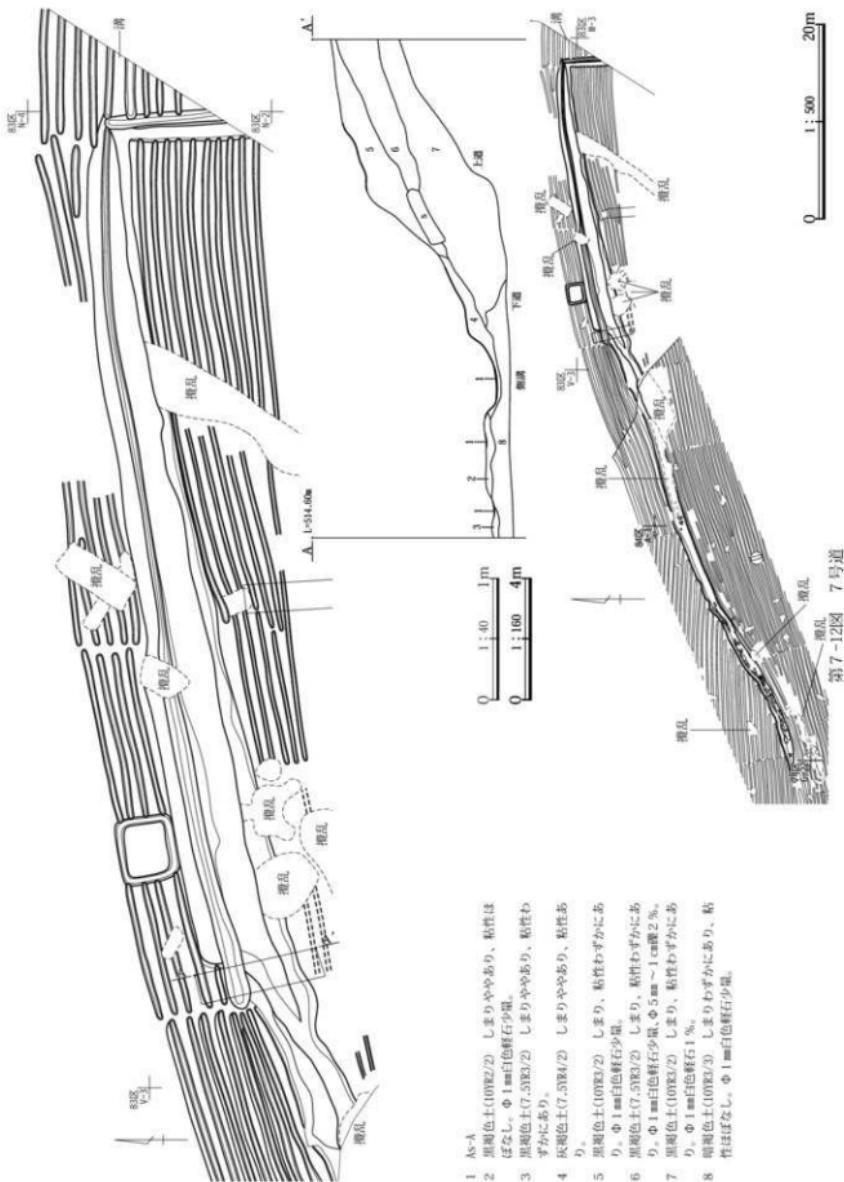
遺物 なし。

所見 4号道至近から遺跡内を北流することが確認された。

備考 調査時の名称は、H-2区1号溝。

(2) H2-2号溝(第7-15図、PL.43)

位置 57区E～H-10～19グリッド、西側調査区東半に位置する。



第7章 下湯原遺跡(3)

形状 4号道とH2-1号建物の間を一直線に伸び、溝の両辺には幅0.4m程の土手状の盛り上がりが形成され岸となっている。溝南北両端の底面は、標高差2.01mの北下がり。

規模 (33.49)m、幅1.26m、深さ0.12m。

走行方位(度) N - 14 - W

重複 なし。

遺物 中世国産施釉陶器碗の出土が確認されている。

所見 水路としての機能は認められるが、南端の4号道付近には明確な水源も見当たらないため、H2-1号建物への通路を主たる用途としていると推測される。

備考 調査時の名称は、H-2区2号溝。

5 煙

調査区は一面の畠地であり、東側調査区から7区画、西側調査区から29区画の畠が検出された。畠の長さには长短の二種があるが、ほぼ等高線に沿う東西方向の畠が南北に連なり区画を構成している。

畠の区分に際し平坦面などを分離境界とする、小単位・小区画に基づく造構区分は行っていない。その所在および畠のピッチとその走向から一つにまとめた。

畠のピッチは、畠1条とその谷・溝1条をあわせて1単位とし、耕作地の中から連続して3単位以上が確認できる部位を選び、その幅を測り単位数で除したものである。畠幅あるいは床幅ではない。1畠に1条を植えた場合の条と隣の畠の条との間隔あるいは畠立幅の推計値に近い。計測は縮尺1/40の遺構図を対象とした。

(1) A4-1号畠(第7-16図、PL.44)

位置 57区U～X-10～13グリッド、西側調査区北部に位置する。

畠のピッチ 0.51m

畠の走行方位(度) N - 71 - E

付属施設 なし。

所見 既報A区3号畠に二方を接し、同一の区画をなす。また間に未調査部分を含むが後述するH-17号畠とも一連の区画と推測される。

(2) A4-2-1号畠(第7-16図、PL.45)

位置 57区W～58区B-9～11グリッド、西側調査区

北部に位置する。

畠のピッチ 0.37m

畠の走行方位(度) N - 73 - E

付属施設 なし。

遺物 なし。

所見 既報A区4号畠の南に連なり、間に未調査部分を含むが後述のH-18号畠と併せ一連の区画を構成すると推測される。

(3) A4-2-2号畠(第7-16図、PL.44)

位置 58区A～D-7～10グリッド、西側調査区北部に位置する。

畠のピッチ 0.37m

畠の走行方位(度) N - 73 - E

付属施設 なし。

遺物 なし。

所見 既報A区4号畠の南に連なり、間に未調査部分を含むが後述のH-19号畠と併せ一連の区画を構成すると推測される。

(4) A4-3号畠(第7-16図、PL.43)

位置 58区C～H-6～9グリッド、西側調査区北部に位置する。

畠のピッチ 0.37m

畠の走行方位(度) N - 72 - E

付属施設 なし。

遺物 なし。

所見 既報A区4号畠の南に位置し、後述のH-20号畠の北に隣接しており、併せて一連の区画を構成すると推測される。

(5) A4-4号畠(第7-16図、PL.43)

位置 58区G～K-5～8グリッド、西側調査区北部に位置する。

畠のピッチ 0.39m

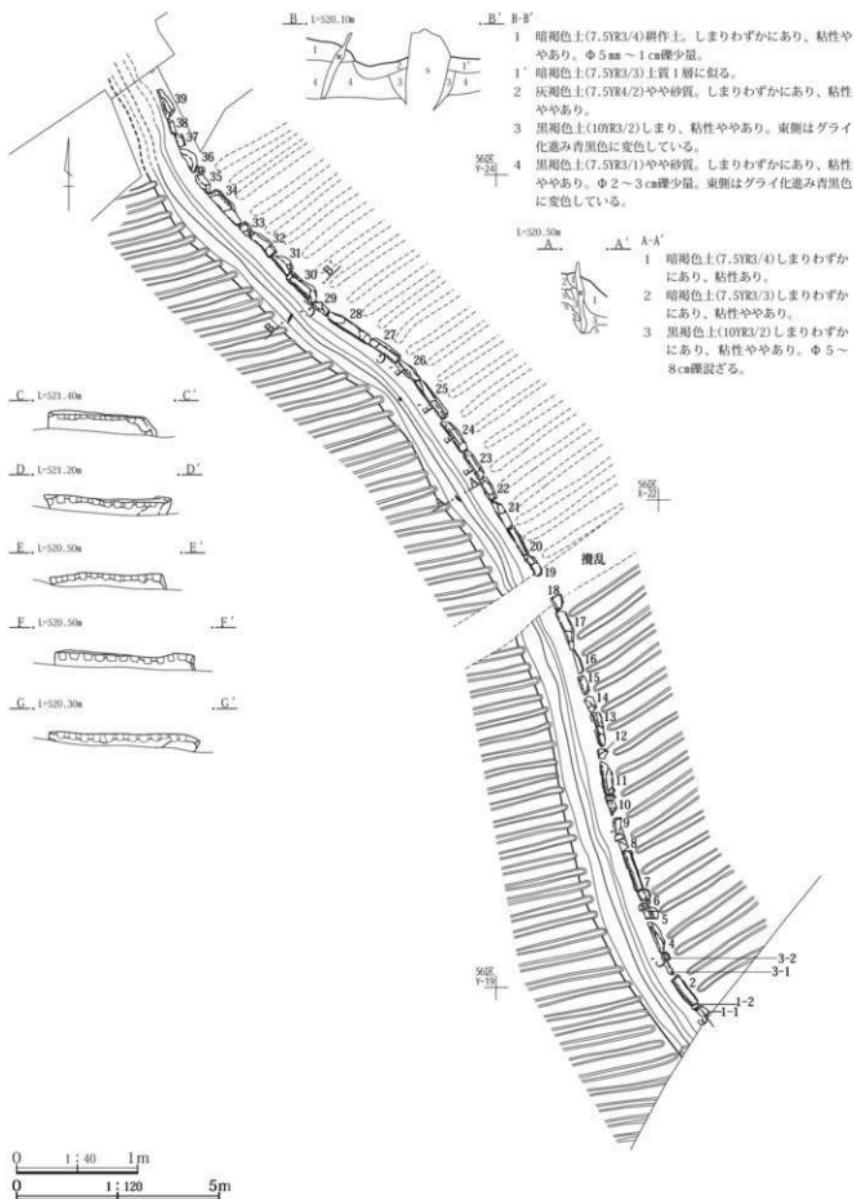
畠の走行方位(度) N - 68 - E

付属施設 なし。

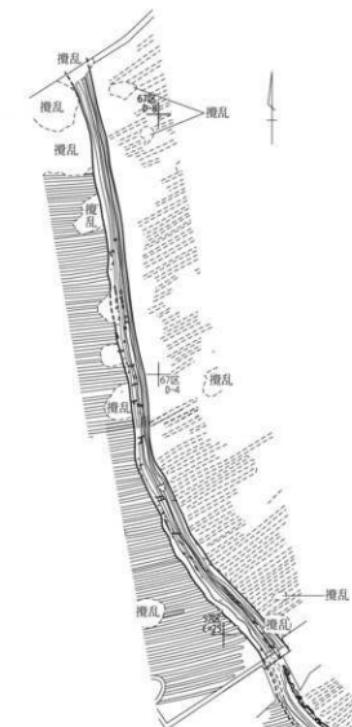
遺物 なし。

所見 既報A区6号畠に南北を挟まれ、A区6号畠の南はH21号畠が隣接することから、A区6号畠・A4-4

第3節 検出された遺構と遺物



第7-13図 2号溝1



号畳・H21号畳は一連の区画を構成すると推測される。なおA区6号畳は南北で畝の長さが相違する。

(6) A4-5号烟(第7-16图、PL.43)

位置 58区J～Q-5～8グリッド、西側調査区北部に位置する。

敵のピッチ 0.37m

該の走行方位(度) N-72-E

付属施設 なし。

遺物 なし。

所見 既報A区6号畑に南北を挟まれており、A区6号畑・A4-5号畑は一連の区画を構成すると推測される。なおA区6号畑は南北で畝の長さが相違する。

(7) A4-6号烟(第7-16图、PL.43)

位置 58区O～P-8グリッド、西側調査区北部に位置する。

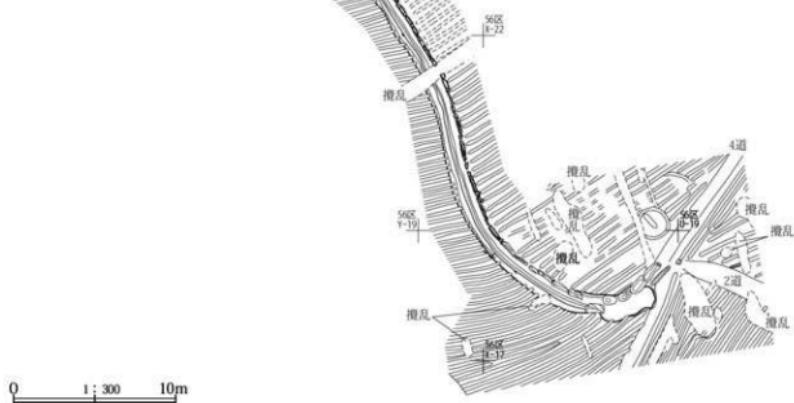
歯のピッチ 0.39m

該の走行方位(度) N - 67 - E

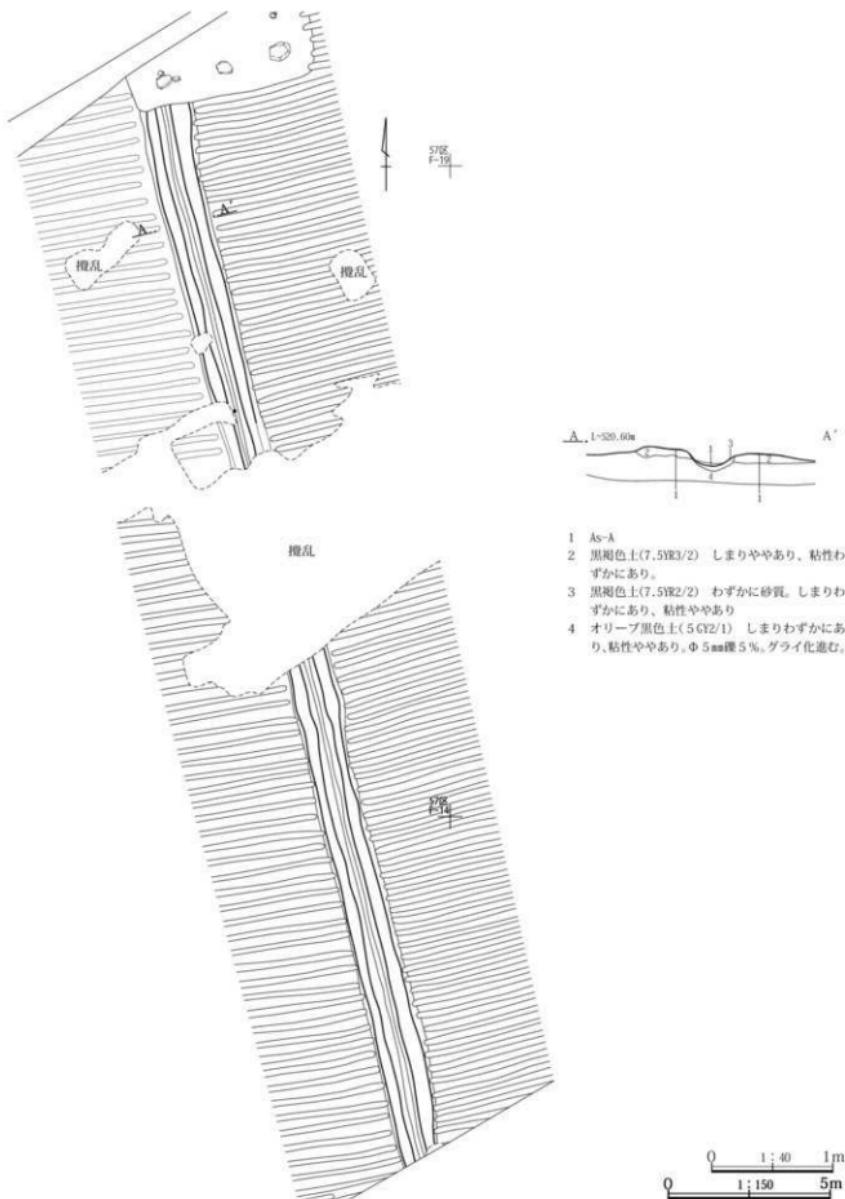
付属施設 なし。

遺物 なし。

所見 A4-6号烟は既報A区7号烟に北節しており、A4-6号烟・A区7号烟は一連の区画を構成すると推測される。



第7-14回 2号溝2



第7-15図 H2-2号溝

第7章 下湯原遺跡(3)

(8) A4 - 7号烟(第7 - 16図、PL.43)

位置 58区Q～R - 5～6グリッド、西側調査区北部に位置する。

畝のピッチ 0.39m

畝の走行方位(度) N - 60 - E

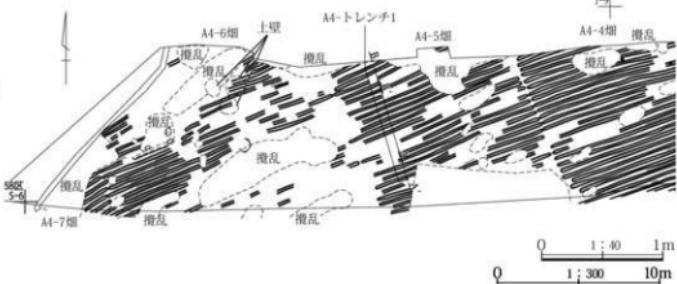
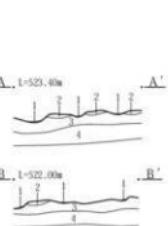
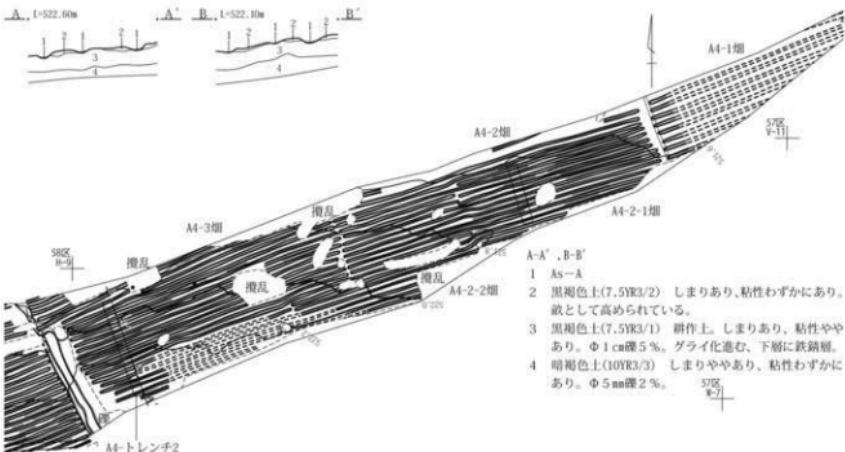
付属施設 なし。

遺物 なし。

所見 A4 - 6号烟は既報A区8号烟に北接しており、A4 - 6号烟・A区8号烟は一連の区画を構成すると推測される。

(9) C4 - 1号烟(第7 - 17図、PL.44)

位置 83区L～N - 3～7グリッド、東側調査区に位置する。



第7-16図 烟1

所見 7号道東支道によりC 4 - 1号烟と区分されるが、烟の様相は両者に大差ない。

(11) C 4 - 3号烟(第7-17図、PL.44)

位置 83区N～R - 3～6グリッド、東側調査区に位置する。

歟のピッチ 0.51m

歟の走行方位(度) N - 84 - E

付属施設 なし。

遺物 なし。

所見 区画南東隅に歟の乱れが存在するが、地形変化に伴う調整と推察される。

(12) C 4 - 4号烟(第7-17、22図、PL.44)

位置 83区R～V - 2～7グリッド、東側調査区に位置する。

歟のピッチ 0.47m

歟の走行方位(度) N - 82 - E

付属施設 C 4 - 1号平坦面、C 4 - 2号平坦面。

遺物 なし。

所見 北辺付近に歟の乱れが認められるため、区画を異なる烟が北に統く可能性がある。

備考 C 4 - 2号平坦面はC 4 - 5号烟との境界に接する。

a C 4 - 1号平坦面(第7-22図、PL.44)

位置 83区S～T - 2～3グリッド、C 4 - 4号烟南辺に位置し、7号道に接する。

形状 方形を呈し、溝が全周する。

規模 2.22×1.94m

主軸方位(度) N - 81 - E

b C 4 - 2号平坦面(第7-22図、PL.44)

位置 83区V - 6グリッド、C 4 - 5号烟との境界に位置する。

形状 北半が調査区外に及び不明、円形に近いものと推測される。周溝をもつ。

規模 (1.70)×(1.30)m

主軸方位(度) N - 2 - E

(13) C 4 - 5号烟(第7-17図、PL.44)

位置 83区U～84区A - 1～6グリッド、東側調査区

に位置する。

歟のピッチ 北部0.50m、中部0.55m、南部0.53m。

歟の走行方位(度) 北部・中部N - 70 - E、南部N - 73 - E。

付属施設 なし。

遺物 なし。

所見 南端の7号道に接する付近に歟の乱れが存在し、中部の歟はC 4 - 4号烟に近いが、既報1のC区9号烟と隣接しており一区画とした。

(14) C 4 - 6号烟(第7-17図、PL.44)

位置 83区N - 3～73区S - 23グリッド、東側調査区に位置する。

歟のピッチ 東部0.42m、西部0.38m。

歟の走行方位(度) 東部N - 87 - E、西部N - 81 - E。

付属施設 なし。

遺物 なし。

所見 北西隅の一画は歟の様相が相違しC 4 - 7号烟に類するが、走向に鑑み一区画とした。なお未調査区画を挟み南に位置する、既報2のG区烟2の道西部分とピッチは近しい。

(15) C 4 - 7号烟(第7-17、22図、PL.44)

位置 73区S - 23～83区U - 1グリッド、東側調査区に位置する。

歟のピッチ 0.39m

歟の走行方位(度) N - 83 - E

付属施設 C区37号平坦面

遺物 なし。

所見 既報1のC区14号烟の西に連なり、一連の区画と推測される。

a C区37号平坦面(第7-22図、PL.44)

位置 73区T - 23グリッド、歟幅中央やや西寄りに位置する。

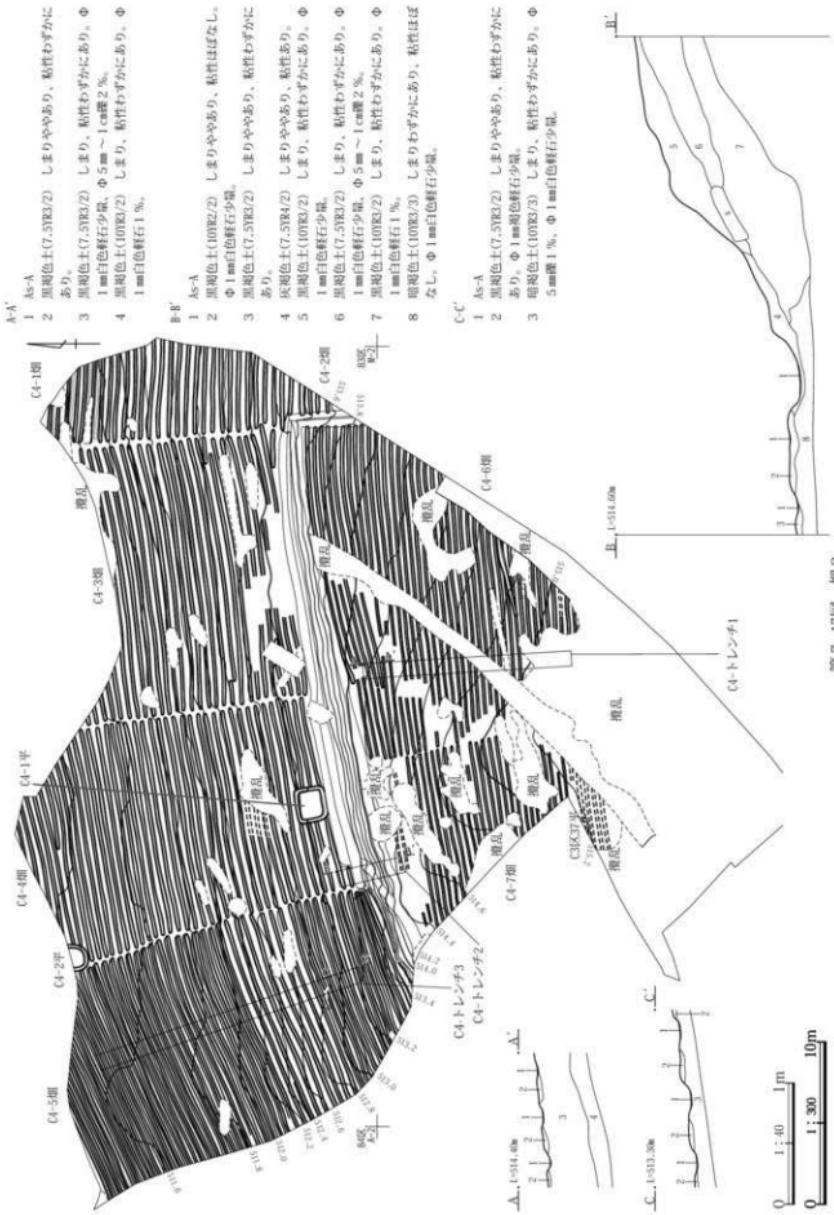
形状 長方形を呈し、溝が全周する。

規模 (0.94)×(0.51)m。既報部を併せ1.60×1.06m。

主軸方位(度) N - 11 - E。既報部を併せN - 18 - E。

所見 既報1のC区37号平坦面の南に接することから同一遺構とした。

備考 調査時の名称は、C 4 - 3号平坦面。



第7-17回 緒2

(16) H - 1号烟(第7 - 18図、PL.45)

位置 66区J - 10 ~ 11グリッド、西側調査区東端に位置する。

歟のピッチ 計測不能。

歟の走行方位(度) 計測不能。

付属施設 なし。

遺物 なし。

所見 既報1のB区10号烟に南北を挟まれることから、一連の区画と推測される。

(17) H - 2号烟(第7 - 18図、PL.45)

位置 66区L ~ O - 6 ~ 9グリッド、西側調査区東端に位置する。

歟のピッチ 0.50m

歟の走行方位(度) N - 60 - E

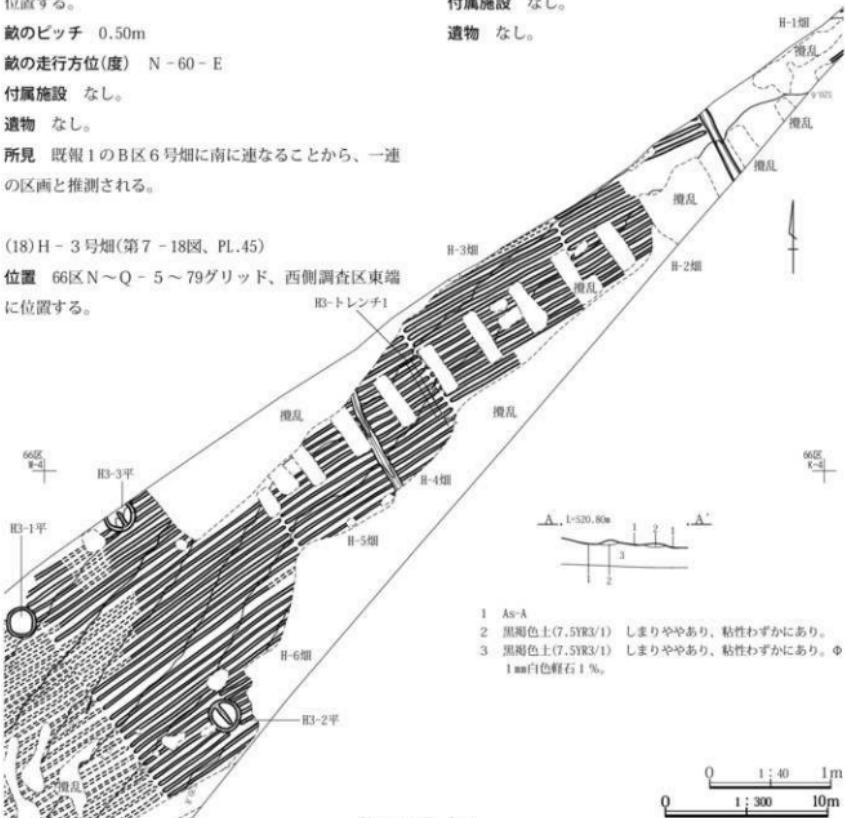
付属施設 なし。

遺物 なし。

所見 既報1のB区6号烟に南に連なることから、一連の区画と推測される。

(18) H - 3号烟(第7 - 18図、PL.45)

位置 66区N ~ Q - 5 ~ 79グリッド、西側調査区東端に位置する。



第7-18図 煙3

第7章 下湯原遺跡(3)

所見 西に位置するH-5号畠と統一区画の可能性がある。既報1のB区7号畠の南に連なることから、一連の区画に属すると推測されるが畠の長さは相違する。

(20) H-5号畠(第7-18図、PL.45)

位置 66区Q～S-2～4グリッド、西側調査区東半に位置する。

畠のピッチ 0.51m

畠の走行方位(度) N-57-E

付属施設 なし。

遺物 なし。

所見 東に位置するH-4号畠と統一区画の可能性がある。既報1のB区7号畠の南に連なることから、一連の区画に属すると推測されるが畠の長さは相違する。

(21) H-6号畠(第7-18、22図、PL.45)

位置 66区S-3～56区W-24グリッド、西側調査区東半に位置する。

畠のピッチ 北部0.52m、中部0.50m、南部0.51m。

畠の走行方位(度) 北部N-56-E、中部N-57-E、南部N-55-E。

付属施設 H3-1号平坦面、H3-2号平坦面、H3-3号平坦面。

遺物 なし。

所見 既報1のB区7号畠の南に連なることから、一連の区画に属すると推測されるが既報の畠と畠の長さは相違する。

a **H3-1号平坦面**(第7-22図、PL.45)

位置 57区V～W-4グリッド、H-7号畠との境界に位置する。

形状 円形を呈し、溝が全周する。

規模 1.96×1.83m

主軸方位(度) N-31-W

b **H3-2号平坦面**(第7-22図、PL.45)

位置 56区S～T-24～25グリッド、区画南寄りに位置する。

形状 円形を呈し、溝が全周する。

規模 2.08×2.00m

主軸方位(度) N-41-W

c **H3-3号平坦面**(第7-22図、PL.45)

位置 66区W-1グリッド、区画北寄りに位置する。

形状 北端が調査区外に及ぶため、円形で溝が全周すると推測される。

規模 2.00×(1.39)m

主軸方位(度) N-54-W

(22) H-7号畠(第7-19、23図、PL.45)

位置 56区T～57区A-56区18～66区1グリッド、西側調査区東半に位置する。

畠のピッチ 0.49m

畠の走行方位(度) N-55-E

付属施設 H3-1号平坦面、H2-9号平坦面、H2-11号平坦面、H2-12号平坦面。H3-1号平坦面は前述。

遺物 なし。

所見 西を2号溝に接し、既報1のB区8号畠の南に連なり、南に位置する既報1のE区5号畠に連なることから、これらと同一の区画を構成すると推測される。

a **H2-9号平坦面**(第7-23図、PL.46)

位置 56区V～W-21～22グリッド、区画の南半に位置する。

形状 円形を呈し、溝が全周する。

規模 2.02×1.84m

主軸方位(度) N-50-E

b **H2-11号平坦面**(第7-23図、PL.46)

位置 56区W-19～20グリッド、区画の南端西寄りに位置する。

形状 円形を呈し、溝が全周する。

規模 2.19×2.06m

主軸方位(度) N-4-W

c **H2-12号平坦面**(第7-23図、PL.46)

位置 56区X～Y-26グリッド、区画の南端に位置する。

形状 円形を呈し、溝が全周する。

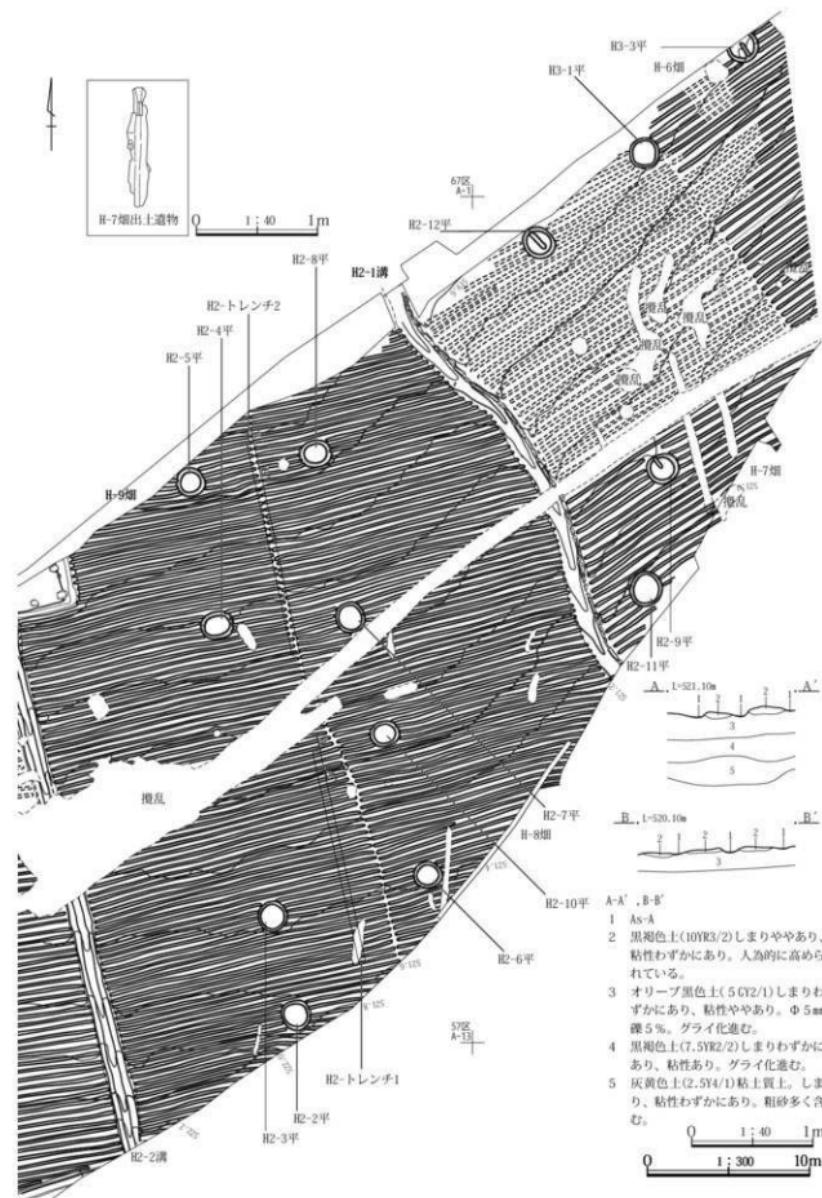
規模 2.13×1.82m

主軸方位(度) N-43-W

(23) H-8号畠(第7-19、23、24図、PL.45)

位置 56区W～57区D-14～23グリッド、西側調査区東半に位置する。

畠のピッチ 北部0.41m、南部0.40m。



第7-19図 煙4

歎の走行方位(度) 北部N - 77 - E、南部N - 77 - E。

付属施設 H2 - 6号平坦面、H2 - 7号平坦面、H2 - 8号平坦面、H2 - 10号平坦面。いずれも区画西寄りに位置する。

遺物 なし。

所見 既報1のE区4号畑の北に連なることから、同一区画を構成すると推測されるが、歎の長さは相違する。

a H2 - 6号平坦面(第7 - 23図、PL.46)

位置 57区A - 15グリッド、区画南端に位置する。

形状 円形を呈し、溝が全周する。

規模 1.84×1.64m

主軸方位(度) N - 85 - W

b H2 - 7号平坦面(第7 - 23図、PL.46)

位置 57区B～C - 19グリッド、調査区中央辺に位置する。

形状 円形を呈し、溝が全周する。

規模 1.92×1.85m

主軸方位(度) N - 24 - W

c H2 - 8号平坦面(第7 - 23図、PL.46)

位置 57区C - 21～22グリッド、区画は北部に位置する。

形状 円形を呈し、溝が全周する。

規模 2.06×1.67m

主軸方位(度) N - 75 - E

d H2 - 10号平坦面(第7 - 24図、PL.46)

位置 57区B - 17グリッド、調査区中央辺に位置する。

形状 円形を呈し、溝が全周する。

規模 1.87×1.58m

主軸方位(度) N - 77 - E

(24) H - 9号畑(第7 - 19、24図、PL.45)

位置 57区B～H - 11～22グリッド、西側調査区中央辺に位置する。

歎のピッチ 北部0.41m、南部0.41m。

歎の走行方位(度) 北部N - 80 - E、南部N - 79 - E。

付属施設 H2 - 2号平坦面、H2 - 3号平坦面、H2 - 4号平坦面、H2 - 5号平坦面。

遺物 なし。

所見 既報1のE区4号畑の北に連なることから、同一区画を構成すると推測されるが、歎の長さは相違する。

a H2 - 2号平坦面(第7 - 24図、PL.45)

位置 57区C - 13グリッド、区画南辺に位置する。

形状 円形を呈し、溝が全周する。

規模 1.88×1.80m

主軸方位(度) N - 18 - W

b H2 - 3号平坦面(第7 - 24図、PL.45)

位置 57区C～D - 14～15グリッド、区画南半に位置する。

形状 円形を呈し、溝が全周する。

規模 1.89×1.81m

主軸方位(度) N - 18 - W

c H2 - 4号平坦面(第7 - 24図、PL.46)

位置 57区D～E - 19グリッド、調査区北半に位置する。

形状 円形を呈し、溝が全周する。

規模 2.08×1.67m

主軸方位(度) N - 79 - E

d H2 - 5号平坦面(第7 - 24図、PL.46)

位置 57区E - 21グリッド、区画北辺に位置する。

形状 円形を呈し、溝が全周する。

規模 1.82×1.77m

主軸方位(度) N - 23 - W

(25) H - 10号畑(第7 - 20、24、25図、PL.45)

位置 57区F～M - 9～19グリッド、西側調査区中央辺に位置する。

歎のピッチ 東部0.47m、西部0.49m。

歎の走行方位(度) 東部N - 81 - E、西部N - 82 - E。

付属施設 H2 - 1号平坦面、H1 - 7号平坦面、H1 - 8号平坦面、H1 - 9号平坦面。

遺物 なし。

所見 既報1のA区1号畑の南に連なることから、同一区画を構成すると推測される。

a H2 - 1号平坦面(第7 - 24図、PL.45)

位置 57区I～J - 16グリッド、区画北部に位置する。

形状 西半が調査区外に及ぶため、長円形を呈し、溝が全周するものと推察される。

規模 2.20×(1.88)m

主軸方位(度) N - 17 - W

b H1 - 7号平坦面(第7 - 24図、PL.47)

位置 57区I - 10グリッド、区画南端に位置する。

形状 円形を呈し、溝が全周する。

規模 2.21×1.85m

主軸方位(度) N - 63 - E

c H1 - 8号平坦面(第7 - 25図、PL.47)

位置 57区J - 12グリッド、区画中央辺に位置する。

形状 円形を呈し、溝が全周する。

規模 2.20×2.10m

主軸方位(度) N - 20 - W

d H1 - 9号平坦面(第7 - 25図、PL.48)

位置 57区J ~ K - 13 ~ 14グリッド、区画中央辺に位置する。

形状 円形を呈し、溝が全周する。

規模 2.07×(1.65)m

主軸方位(度) N - 80 - E

(26) H - 11号畠(第7 - 20図、PL.44)

位置 57区F ~ J - 9 ~ 11グリッド、西側調査区中央の南辺に位置する。

畠のピッチ 0.33m

畠の走行方位(度) N - 68 - E

付属施設 なし。

遺物 なし。

所見 既報2のD1区畠(東から2区画目)の北に連なることから一連の区画を構成すると推測されるが、畠の長さは相違する。

(27) H - 12号畠(第7 - 20図、PL.44)

位置 57区J ~ L - 8 ~ 9グリッド、西側調査区中央の南辺に位置する。

畠のピッチ 0.33m

畠の走行方位(度) N - 71 - E

付属施設 なし。

遺物 なし。

所見 既報2のD1区畠(東から2区画目)の北に連なることから一連の区画を構成すると推測されるが、畠の長さは相違する。

(28) H - 13号畠(第7 - 20、25図、PL.44)

位置 57区L ~ P - 7 ~ 12グリッド、西側調査区中央辺に位置する。

畠のピッチ 0.51m

畠の走行方位(度) N - 73 - E

付属施設 H1 - 6号平坦面

遺物 なし。

所見 撤乱区画をはさみ既報1のA区2号畠の南に位置することから、同一の区画を構成すると推察される。

a H1 - 6号平坦面(第7 - 25図、PL.47)

位置 57区M ~ N - 8グリッド、区画南辺に位置する。

形状 方形を呈し、南辺を除き溝が周囲する。

規模 2.36×1.89m

主軸方位(度) N - 59 - E

(29) H - 14号畠(第7 - 20図、PL.44)

位置 57区L ~ N - 7 ~ 8グリッド、西側調査区中央の南辺に位置する。

畠のピッチ 0.35m

畠の走行方位(度) N - 65 - E

付属施設 なし。

遺物 なし。

所見 既報2のD1区畠(東から3区画目)の北に連なることから一連の区画を構成すると推測される。

(30) H - 15号畠(第7 - 20、25図、PL.44)

位置 57区N ~ R - 6 ~ 11グリッド、西側調査区西半に位置する。

畠のピッチ 0.53m

畠の走行方位(度) N - 79 - E

付属施設 H1 - 5号平坦面。

遺物 なし。

所見 撤乱区画をはさみ既報1のA区2号畠の南に位置することから、同一の区画を構成すると推察される。

a H1 - 5号平坦面(第7 - 25図、PL.47)

位置 57区P - 7グリッド、区画南辺に位置する。

形状 方形を呈する。

規模 1.44×1.36m

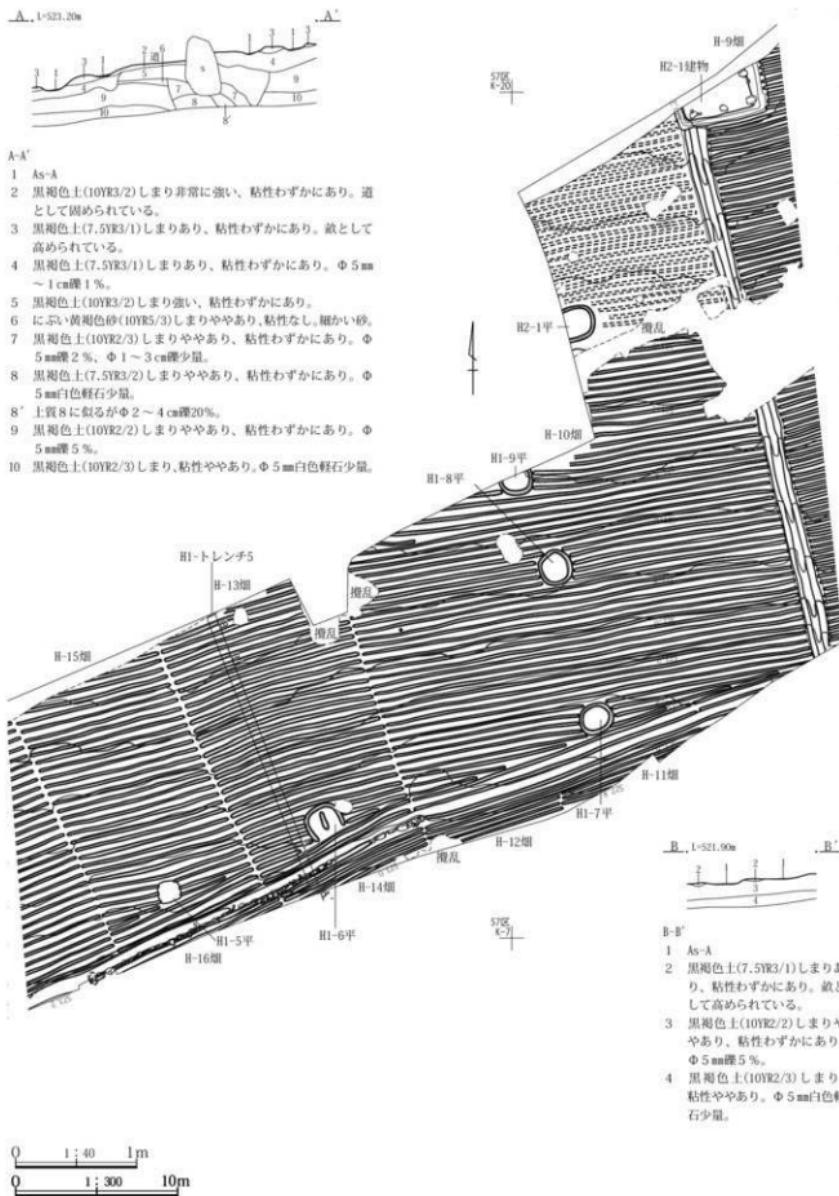
主軸方位(度) N - 72 - E

(31) H - 16号畠(第7 - 20図、PL.44)

位置 57区N ~ P - 6 ~ 7グリッド、西側調査区中央の南辺に位置する。

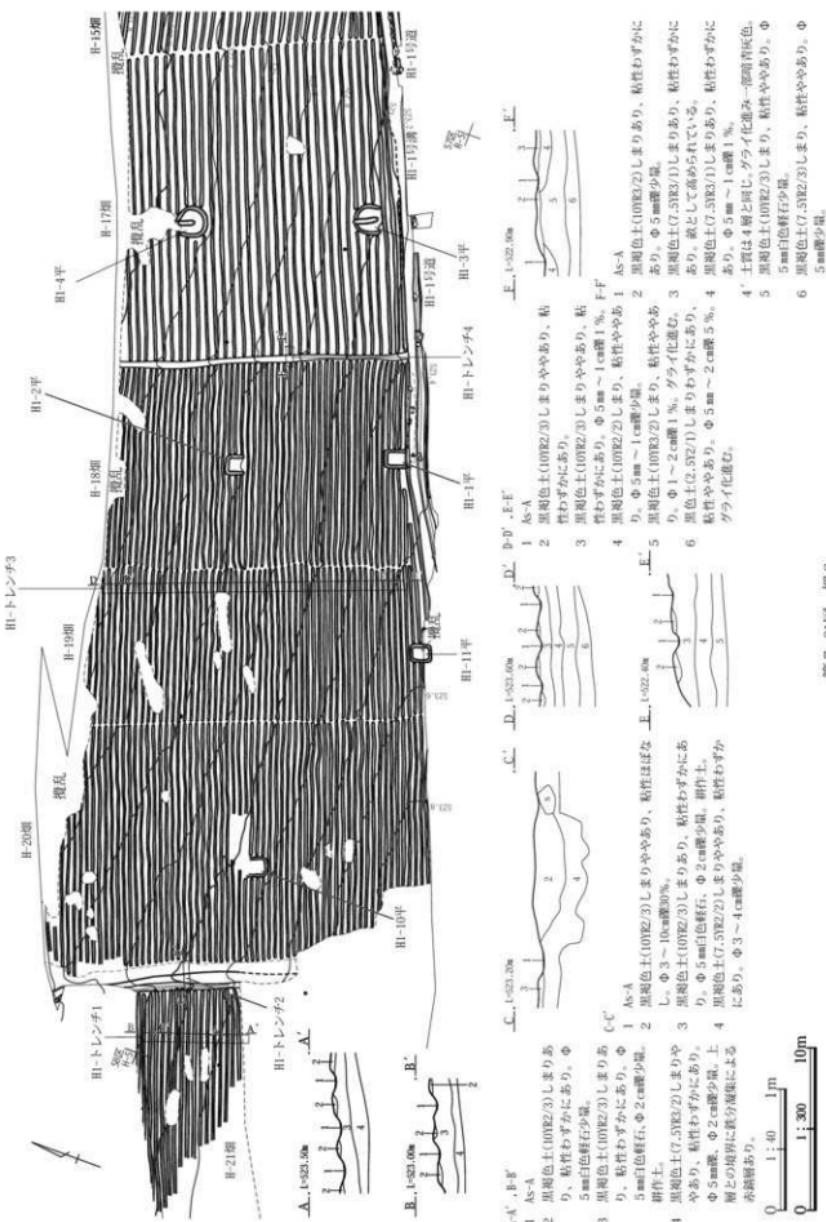
畠のピッチ 計測不能。

畠の走行方位(度) 計測不能。



第7-20図 番5

第3節 検出された遺構と遺物



付属施設 なし。

遺物 なし。

所見 既報2のD 1区畑(東から4区画目)の北に連なることから一連の区画を構成すると推測される。

(32) H - 17号畑(第7 - 21, 25図、PL.44)

位置 57区Q～W - 4～10グリッド、西側調査区中央辺に位置する。

畝のピッチ 0.54m

畝の走行方位(度) N - 68 - E

付属施設 H1 - 3号平坦面、H1 - 4号平坦面。

遺物 なし。

所見 撫乱区画を間に挟むが、北に位置する既報1のA区3号畑の南に位置しており、同一の区画を構成すると推測される。

a H1 - 3号平坦面(第7 - 25図、PL.47)

位置 57区S - 5～6グリッド、区画の南辺近くに位置する。

形状 U字状の溝に囲まれた、円の1/4程度を弦とする馬蹄形を呈する。

規模 1.94×1.63m

主軸方位(度) N - 64 - E

b H1 - 4号平坦面(第7 - 25図、PL.47)

位置 57区T - 8グリッド、区画の北半に位置する。

形状 円形を呈し、溝が全周する。

規模 1.98×1.97m

主軸方位(度) N - 63 - E

(33) H - 18号畑(第7 - 21, 26図、PL.44)

位置 57区U～58区A - 3～8グリッド、西側調査区西半に位置する。

畝のピッチ 0.37m

畝の走行方位(度) N - 71 - E

付属施設 H1 - 1号平坦面、H1 - 2号平坦面。

遺物 なし。

所見 撫乱区画を間に挟むが、北に位置する前述のA2 - 2 - 1号畑と同一区画を構成すると推測される。

a H1 - 1号平坦面(第7 - 26図、PL.48)

位置 57区V～W - 4グリッド、区画の南辺に位置する。

形状 方形を呈し、南辺を除き溝に囲まれる。

規模 1.39×1.19m

主軸方位(度) N - 19 - W

b H1 - 2号平坦面(第7 - 26図、PL.47)

位置 57区W～X - 6グリッド、区画の中央に位置する。

形状 方形を呈し、南辺を除き溝に囲まれる。

規模 1.28×1.23m

主軸方位(度) N - 71 - E

(34) H - 19号畑(第7 - 21, 26図、PL.44)

位置 58区X～C - 2～7グリッド、西側調査区西半に位置する。

畝のピッチ 0.37m

畝の走行方位(度) N - 70 - E

付属施設 H1 - 11号平坦面

遺物 なし。

所見 撫乱区画を間に挟むが、北に位置する前述のA2 - 2 - 2号畑と同一区画を構成すると推測される。

a H1 - 11号平坦面(第7 - 26図)

位置 57区Y - 2～3グリッド、区画南辺に位置する。

形状 方形を呈し、溝が全周する。

規模 1.31×1.14m

主軸方位(度) N - 22 - W

(35) H - 20号畑(第7 - 21, 26図、PL.44)

位置 58区A～G - 1～7グリッド、西側調査区西半に位置する。

畝のピッチ 0.37m

畝の走行方位(度) N - 71 - E

付属施設 H1 - 10号平坦面

遺物 なし。

所見 前述のA4 - 3号畑の南に連なり、同一の区画を構成する。

a H1 - 10号平坦面(第7 - 26図、PL.48)

位置 58区D - 4グリッド、区画中央に位置する。

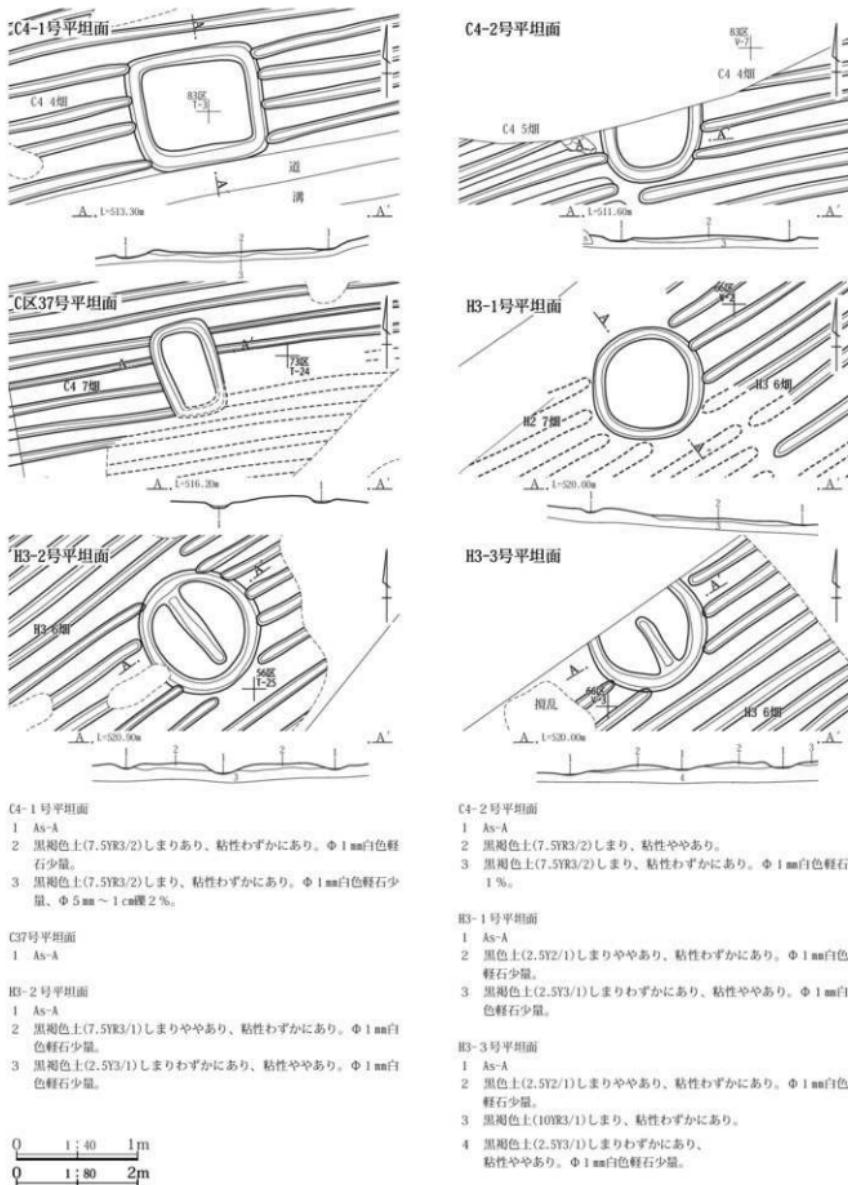
形状 方形を呈し、溝が全周すると推測される。

規模 (1.37)×1.25m

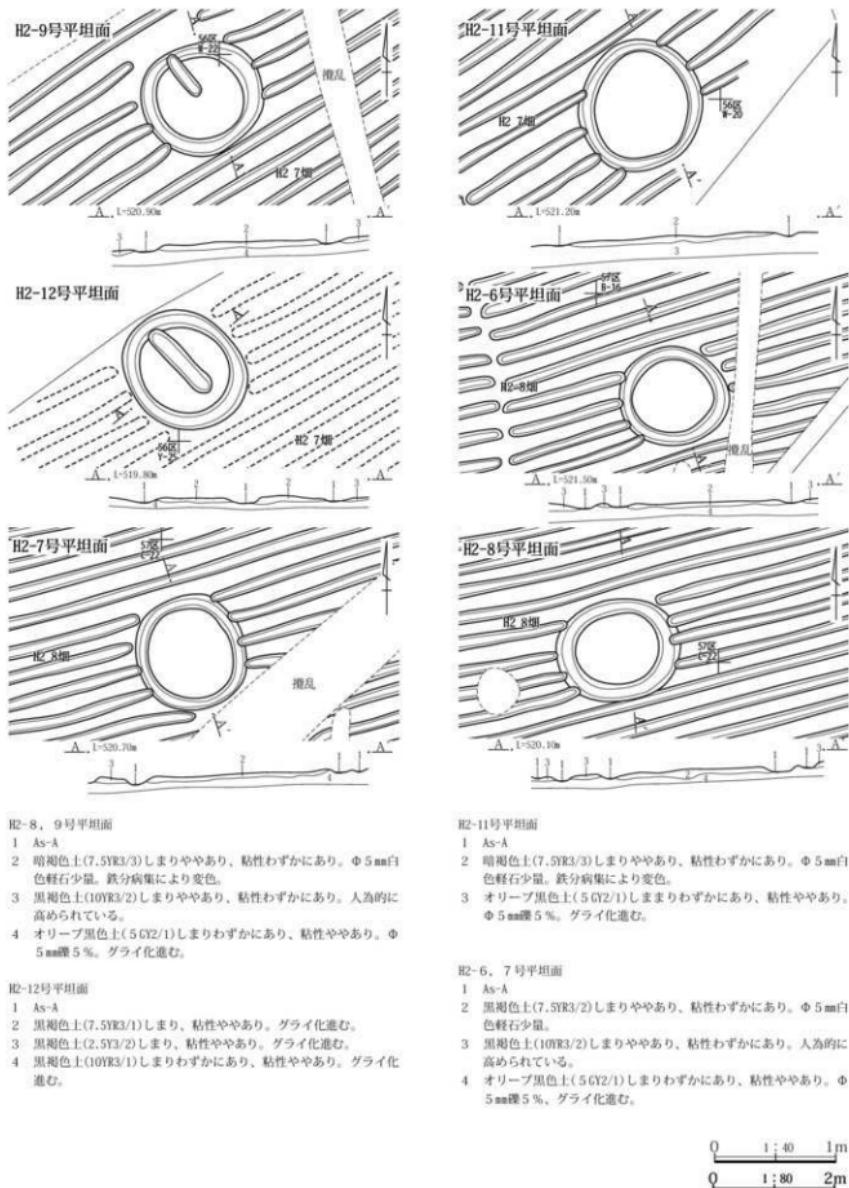
主軸方位(度) N - 22 - W

(36) H - 21号畑(第7 - 21図、PL.44)

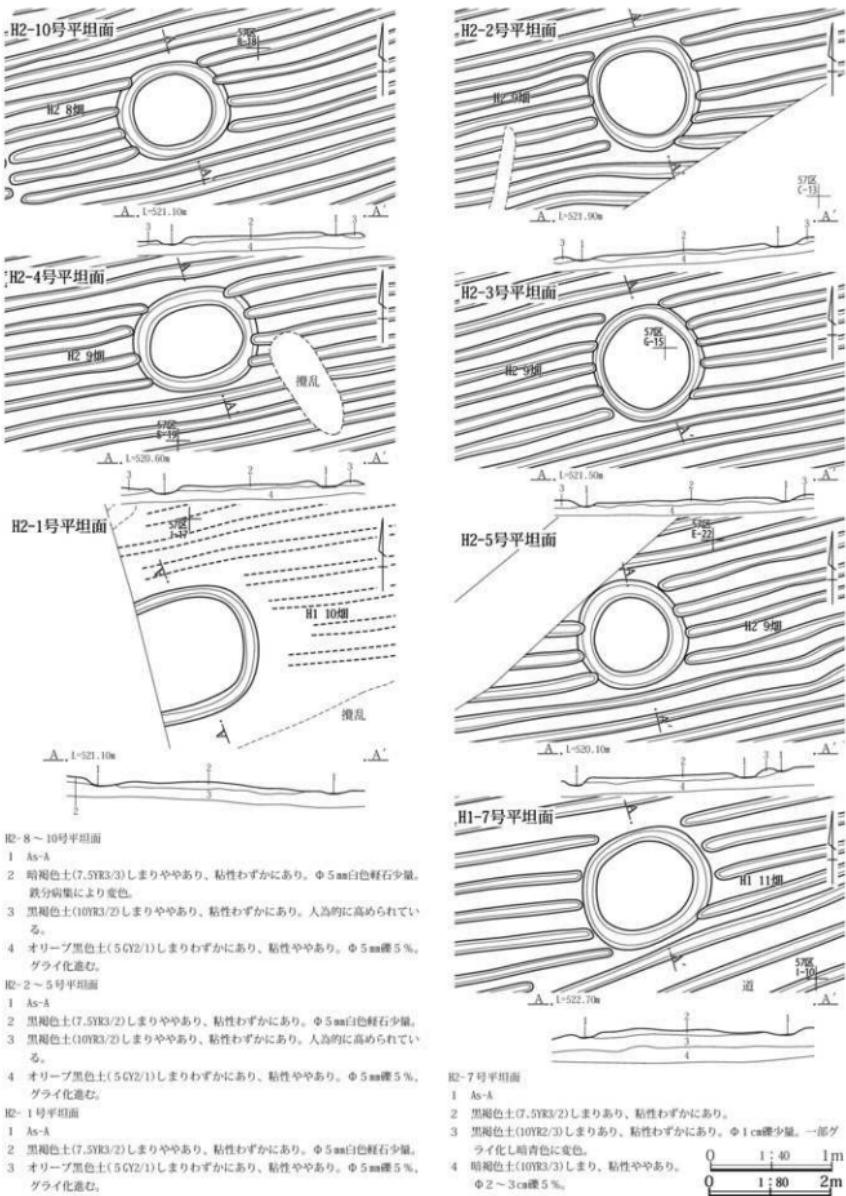
位置 58区F～J - 3～5グリッド、西側調査区西半に



第7-22図 平坦面1

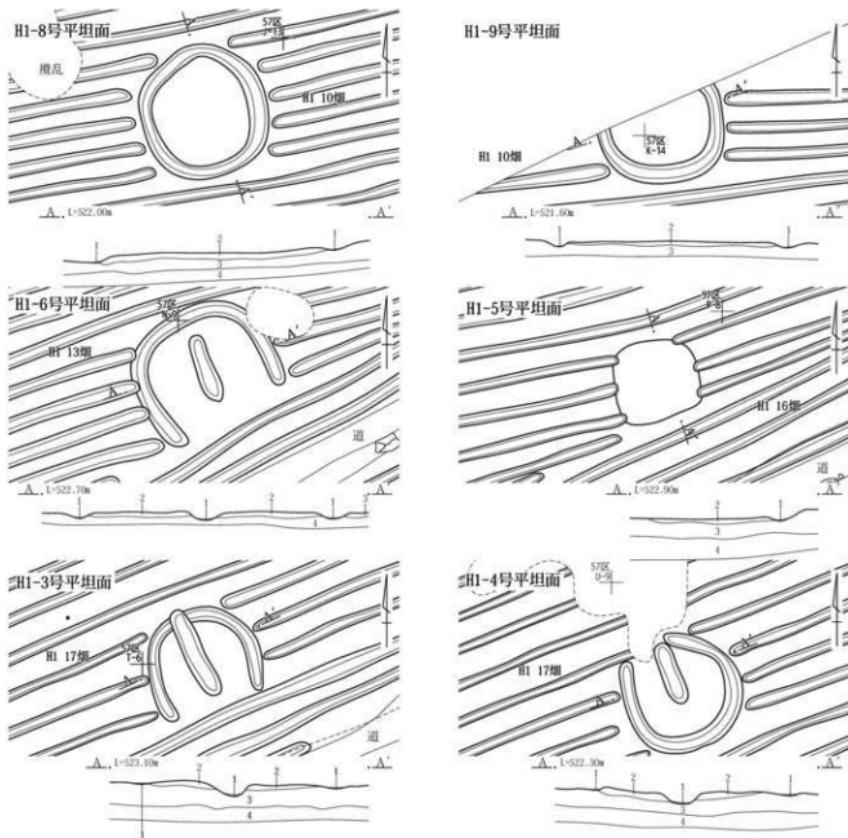


第7-23図 平坦面2



第7-24図

平坦面図



H1-8号平坦面

- 1 As-A
- 2 黒褐色土(7.5YR3/2)しまりあり、粘性わずかにあり。
- 3 黒褐色土(10YR2/3)しまりあり、粘性わずかにあり。Φ 1cm礫少量。一部グラナイト化暗青色に変色。
- 4 暗褐色土(10YR3/3)しまり、粘性ややあり。Φ 2~3 cm礫 5%。

H1-6号平坦面

- 1 As-A
- 2 黒褐色土(10YR3/2)しまりあり、粘性わずかにあり。
- 3 黑褐色土(10YR2/3)しまりややあり、粘性わずかにあり。礫として高められている。
- 4 黑褐色土(7.5YR3/1)しまりあり、粘性わずかにあり。Φ 5mm ~ 1cm礫 1%。

H1-3号平坦面

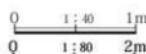
- 1 As-A
- 2 黑褐色土(7.5YR3/1)しまりあり、粘性わずかにあり。
- 3 黑褐色土(10YR2/3)しまりややあり、粘性わずかにあり。Φ 5mm ~ 1cm礫 1%。
- 4 黑褐色土(10YR2/2)しまり、粘性ややあり。Φ 5mm ~ 1cm礫少量。

H1-9号平坦面

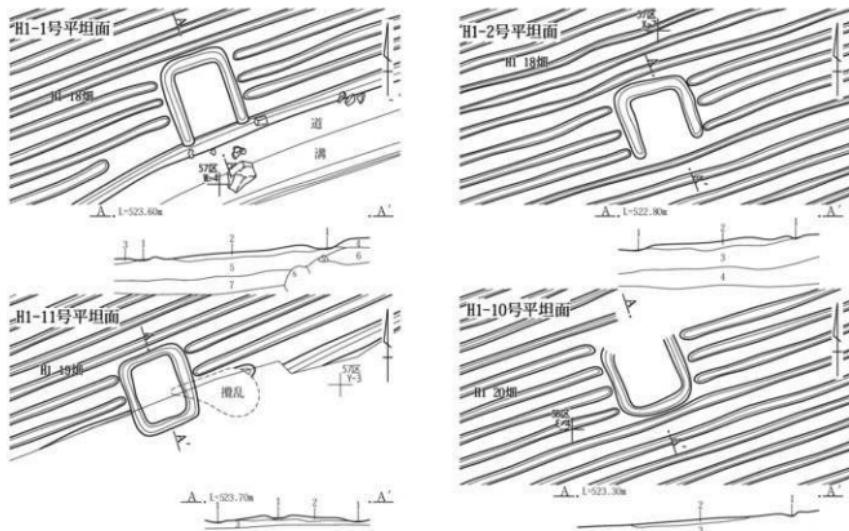
- 1 As-A
- 2 黒褐色土(7.5YR3/2)しまりあり、粘性わずかにあり。
- 3 黑褐色土(10YR2/3)しまりややあり、粘性わずかにあり。Φ 1cm礫少量。一部グラナイト化暗青色に変色。

H1-4号平坦面

- 1 黒褐色土(7.5YR3/1)しまりあり、粘性わずかにあり。Φ 1mm白色軽石少量。
- 2 黑褐色土(10YR2/2)しまりややあり、粘性わずかにあり。Φ 5mm礫 5%。
- 4 黑褐色土(10YR2/3)しまり、粘性ややあり。Φ 5mm白色軽石少量。



第7-25図 平坦面4



H1-1号平坦面

- 1 As-A
- 2 黒褐色土(10YR2/3)しまりあり、粘性わずかにあり。Φ 1~2mm白色軽石少量。
- 3 黒褐色土(10YR2/3)しまりややあり、粘性わずかにあり。
- 4 黒褐色土(2.5Y3/1)しまり非常に強い。粘性わずか。
- 5 黑褐色土(10YR2/3)しまりややあり、粘性わずかにあり。Φ 5mm~1cm礫1%。
- 6 黑褐色土(7.5Y3/2)しまりややあり、粘性はぼなし。Φ 2~3cm礫30%。
- 7 黑褐色土(10YR2/2)しまり。粘性ややあり。Φ 5mm~1cm礫少量。

H1-11号平坦面

- 1 As-A
- 2 黒褐色土(10YR3/2)しまりあり、粘性わずかにあり。
- 3 黑褐色土(10YR2/3)しまりややあり、粘性わずかにあり。Φ 5mm~1cm礫1%。

H1-2号平坦面

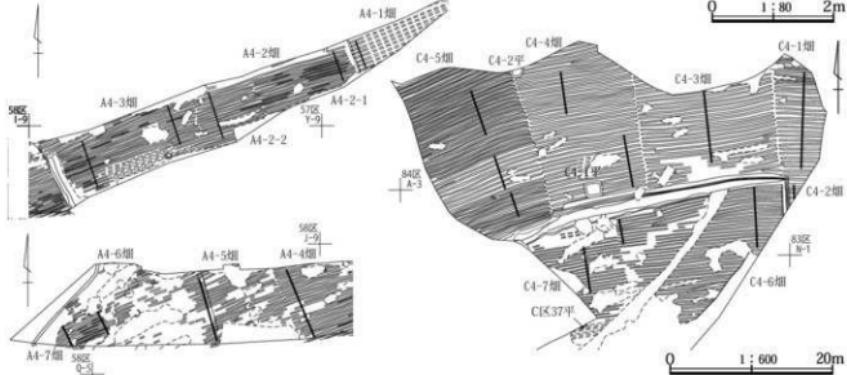
- 1 As-A
 - 2 黒褐色土(10YR2/3)しまりあり、粘性わずかにあり。Φ 1~2mm白色軽石少量。
 - 3 黑褐色土(10YR2/3)しまりややあり、粘性わずかにあり。
 - 4 黑褐色土(10YR2/2)しまり、粘性ややあり。Φ 5mm~1cm礫少量。
- H1-10号平坦面
- 1 As-A
 - 2 黒褐色土(10YR2/2)しまりあり、粘性わずかにあり。
 - 3 黑褐色土(10YR2/2)しまりややあり、粘性わずかにあり。Φ 5mm白色軽石1%。

H1-10号平坦面

- 1 As-A
- 2 黒褐色土(10YR3/2)しまりあり、粘性わずかにあり。
- 3 黑褐色土(10YR2/3)しまりややあり、粘性わずかにあり。Φ 5mm~1cm礫1%。

H1-1号平坦面

- 1 As-A
- 2 黒褐色土(10YR3/2)しまりあり、粘性わずかにあり。
- 3 黑褐色土(10YR2/3)しまりややあり、粘性わずかにあり。Φ 5mm~1cm礫1%。



第7-26図 平坦面5、烟計測位置1

位置する。

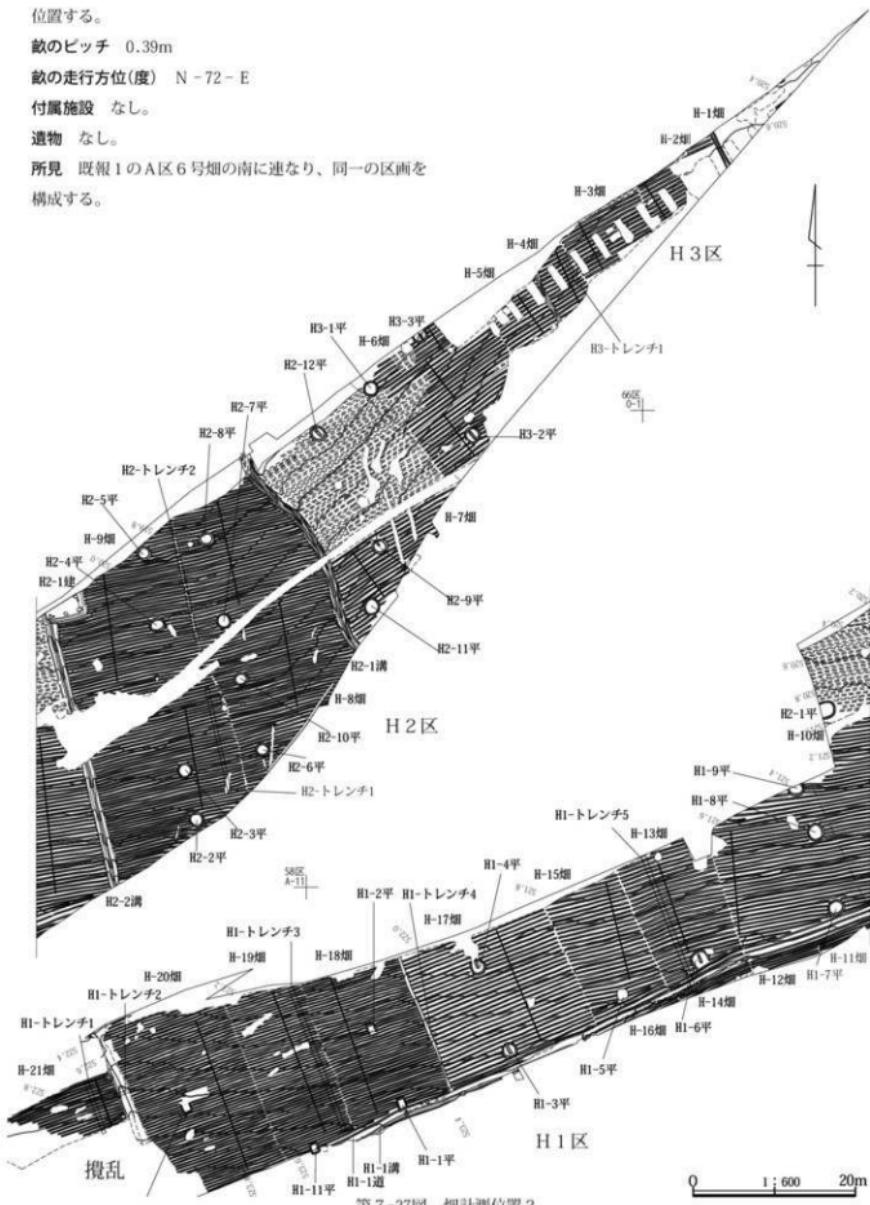
敵のピッチ 0.39m

敵の走行方位(度) N - 72 - E

付属施設 なし。

遺物 なし。

所見 既報1のA区6号畑の南に連なり、同一の区画を構成する。



第7-27図 煙計測位置2

第3項 2面の遺構

1 2面の概要

東側調査区からは該当する遺構は検出されておらず、確認された遺構はすべて西側調査区に帰属する。近世から縄文時代の遺物が出土する遺構面であり、竪穴建物3棟、掘立柱建物22棟、竪穴状遺構2基、溝8条、焼土遺構5基、柵2条、土坑105基(内土坑墓6基)、ビット338基が確認されている。遺構の多くは調査区の東西両端寄りに密集する傾向がみられ、中央部はまばらな分布となっているが、竪穴建物と焼土遺構の分布は調査区西半に限定される。

2 竪穴建物

既報の建物群から50m程南西に離れた、西側調査区西端寄りの地点から近接して3棟の竪穴建物が検出されており、うち1棟(A2-1号竪穴建物)は既報1で北半が確認された遺構であり、今回その南半が確認された。

(1) A2-1号竪穴建物(第7-28図、PL48、49、73)

位置 58区I～J-3～4グリッド、西側調査区西半に位置する。

形状等 北辺が不明瞭であるが、方形を呈すと推測される。遺構南半からは壁溝が検出されている。遺構北半の既報ビット2基とは異なり、南半から検出されたビット4基は、いずれも壁近くに位置する。

規模 (5.46)×4.52m、深さ0.43m、面積22.08m²

主軸方位(度) N-31-W

埋没土 径3～4cmの礫を少量、径1～5mmの白色軽石を1%含む暗褐色土。

カマド 北辺中央付近から焼土を多量に含む赤褐色土が検出されており、燃焼面の痕跡と推測される。

掘り方 なし。

重複 H1-9号土坑、A-2区110号ビット、A-2区269号ビット。

遺物 床下より黒色土器楕(1)が出土しているほか、土師器片(7点79g)、須恵器片(1点98g)が出土している。

所見 本遺構の年代は、10世紀中ごろに比定されているが、今回の出土遺物とも矛盾しない。H1-9号土坑、A-2区110号ビット、A-2区269号ビットのいずれに

も先行する。

備考 既報の名称は、A-2区1号住居(旧103号竪穴状遺構)。

(2) A4-1号竪穴建物(第7-29図、PL.49、73)

位置 58区C～D-7～9グリッド、西側調査区西半に位置する。

形状等 南辺が未確定であるが、概ね長方形を呈すると推測される。カマド脇に貯蔵穴(0.70×0.46m、深さ0.13m)、遺構中央付近に土坑1基が確認されている。

規模 (3.56)×3.70m、深さ0.41m、面積(11.64)m²

主軸方位(度) N-21-W

埋没土 径5mmの白色軽石と径1～2cmの礫が少量、径5mmの炭化物がわずかに混ざる、ややシルト質の暗褐色土。

カマド 北辺中央部に位置する。残存部は(1.14)×1.09、**主軸方位(度)** N-18-Wを測る。燃焼面は壁線やや奥寄りに位置する。両袖部の状況から袖の構築に石組みが用いられていたと推測される。

掘り方 なし。

重複 なし。

遺物 貯蔵穴から須恵器楕(2)、カマドから須恵器楕(3)、土師器甕(5)、覆土から須恵器楕(4)、刀子(6)が出土しているほか、土師器片(78点446g)、須恵器片(1点24g)が出土している。

所見 本遺構の年代は、出土遺物から9世紀～10世紀に比定される。

(3) H1-1号竪穴建物(第7-30図、PL49、50、73)

位置 58区D～F-6～7グリッド、西側調査区西半に位置する。

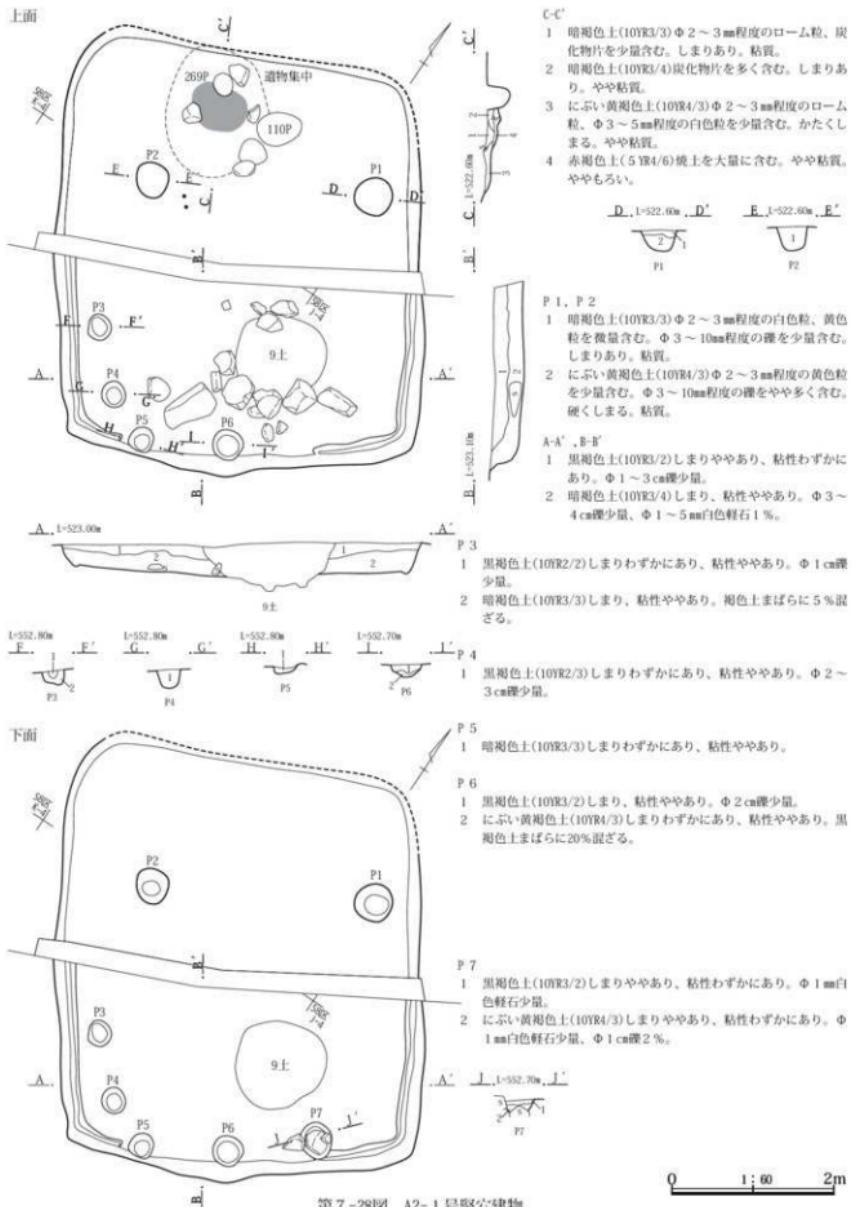
形状等 方形を呈する。北東隅と南辺から西辺半ばにかけて壁溝が確認される。カマド脇に貯蔵穴(0.74×0.62m、深さ0.12m)を持つ。遺構中央北寄りからビット1基が検出される。

規模 5.45×6.55m、深さ0.45m、面積34.69m²

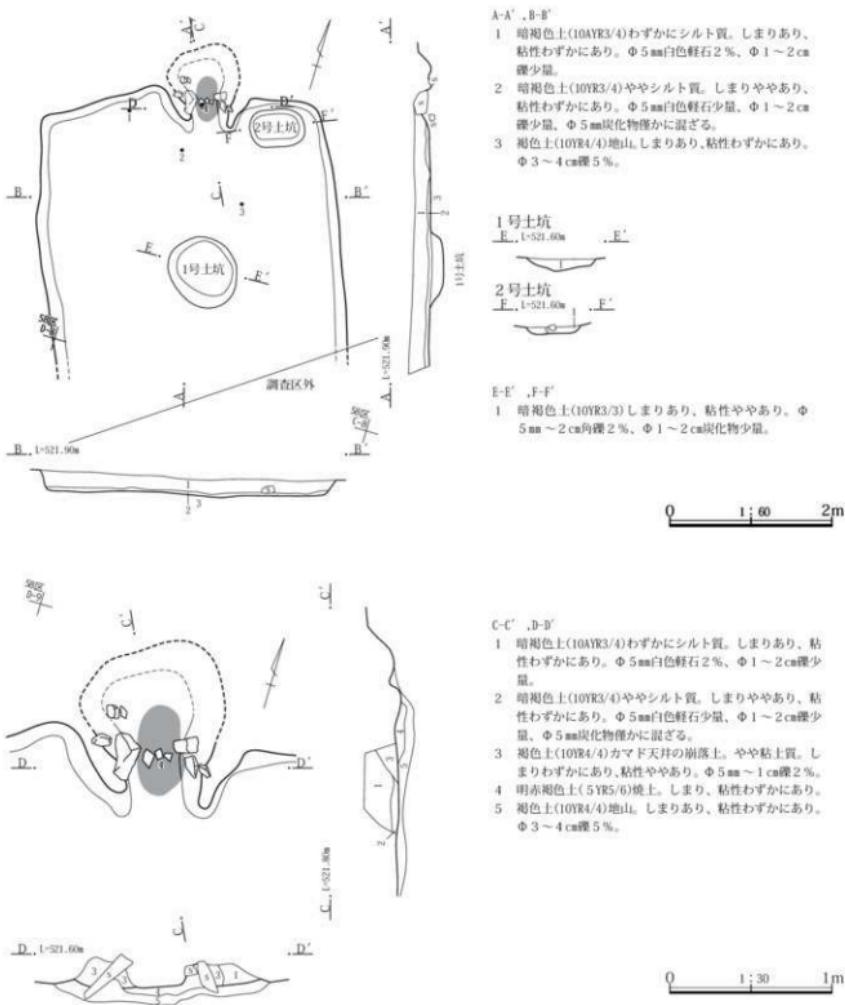
主軸方位(度) N-75-E

埋没土 径1mmの白色軽石を3%、径2～5cmの礫を3%含む暗褐色土。

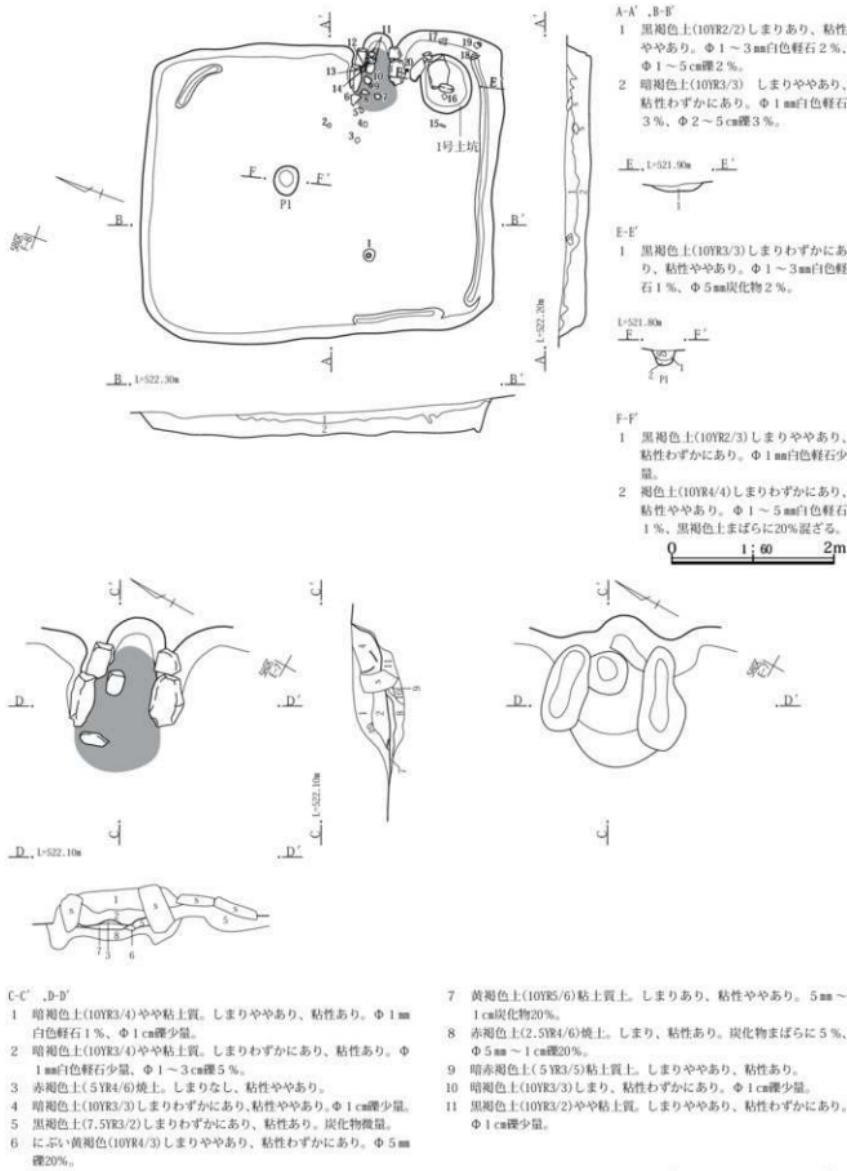
カマド 東辺南寄りに位置する。残存部は(1.28)×



第7-28図 A2-1号竖穴建物



第7-29図 A4-1号竖穴建物



1.01m、主軸方位(度)N-75-Eを測る。炉床は壁線の内側に位置し、燃焼面の石製支脚1基と両袖に石組みの一部が残存する。燃焼面から焼土面が上下2層確認され、カマドの改築が行われていたと推測される。

掘り方 なし。

重複 なし。

遺物 床面から須恵器楕(7~9)、カマドから須恵器楕(10, 11)、土師器甌(14)、須恵器羽釜(16)、埋没土から須恵器楕(12)、黒色土器瓶(14)、須恵器羽釜(15)が出土しているほか、土師器片(57点505g)、須恵器片(84点491g)が出土している。

所見 本遺構の年代は、出土遺物から9世紀後半から10世紀前半に比定される。

3 挖立柱建物

西側調査区北部から5棟、北部を除いた西側調査区から17棟の挖立柱建物が検出されており、東側調査区からの検出はない。遺構は西側調査区の東西両端で密となり、その中間はまばらに分布している。建物プランが重複している地点が5か所あり、22棟の内14棟が含まれる。重複地点の内訳は2棟2地点、3棟2地点、4棟1地点となっており、建物配置に3期程度の消長が予想される。なお検出されたうちの1棟は既報建物の南辺に相当する。

(1) A2-1号挖立柱建物(第7-31図、PL.50)

位置 58区G~H-4~5グリッド、調査区西端北辺に位置する。

形状等 調査区境界近くからピット3基が検出された。平成27年度の調査で検出された中世の南北棟建物の南辺に相当する。

規模 桁行4.02m、梁間3.97m。

桁行方位(度) N-23-W

本体構造 桁行柱間平均1.98m、梁行柱間平均1.93mの南北棟2×2間の掘立柱建物が確認された。

埋没土 今回検出されたピットの埋没土には径1mmの白色輕石が含まれる。

重複 なし。

遺物 なし。

所見 本遺構は、既報1で中世以降とされた遺構の延長部分である。

(2) A4-1号挖立柱建物(第7-32図、PL.50)

位置 58区M~N-6~8グリッド、調査区北部に位置する。

形状等 ピット6基が確認された。

規模 桁行5.73m、梁間4.35m。

桁行方位(度) N-16-W

本体構造 桁行柱間平均2.71m、梁行柱間平均4.37mの南北1×2間の掘立柱建物が確認された。

埋没土 ピットの埋没土は径1~3cmの礫を含む黒褐色土。

重複 A4-2号挖立柱建物、A4-3号焼土遺構。

遺物 図化には至らなかったが、P1から近世在地系土器片(1点12g)が出土している。

所見 本遺構の年代は、出土遺物から近世に比定される。A4-2号挖立柱建物、A4-3号焼土遺構の両者に先行する。A4-90号ピットとA4-91号ピットは、P5に位置する柱の改修に関連する遺構と推測される。

第7-1表 A2-1号挖立柱建物柱間計測表

	桁行柱間	桁行柱間	桁行
P5	1.76	P6	2.09
梁行柱間	1.89		1.89
P4		P8	4.17
梁行柱間	2.06		1.86
P3	1.85	P2	2.24
梁間	3.94	4.05	3.81
P1	4.07		

第7-2表 A2-1号挖立柱建物ピット計測表

ピット	P1	P2	P3	P4	P5	P6	P7	P8
位置	34[KG-5-6]	34[KG-5]	34[KG-4-5]	34[KG-4]	34[KH-4]	34[KH-5]	34[KH-5]	34[KH-5]
規模(m)								
長	0.44	0.53	0.54	0.39	0.48	0.36	0.46	0.74
短	0.40	0.39	0.44	0.34	0.41	0.35	0.45	0.41
深	0.38	0.20	0.40	0.25	0.15	0.26	0.46	0.30
平面形状	円形	偏円形	不整形	長円形	不整形	円形	方形	長円形
主軸方位(度)	N-19-W	N-24-W	N-83-W	N-30-W	N-36-W	N-52-W	N-40-W	N-35-W
目名稱	H1[K111P]	H1[K112P]	H1[K109P]					

(3) A4-2号掘立柱建物(第7-32図、PL.50)

位置 58区M~N-6~7グリッド、調査区北部に位置する。

形状等 ピット6基が確認された。

規模 柱行4.09m、梁間3.45m。

柱行方位(度) N-15-W

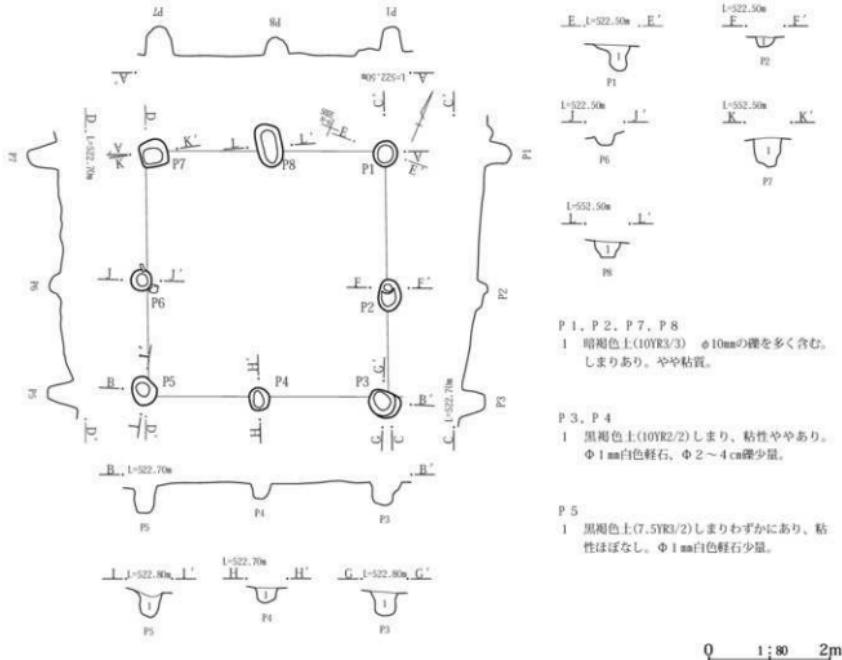
本体構造 柱行柱間平均2.07m、梁行柱間平均3.33mの南北棟 1×2 間の掘立柱建物が確認された。

埋没土 ピット埋没土の多くは径0.5~1cmの礫を含む黒褐色土。

重複 A4-1号掘立柱建物。

第7-4表 A4-1号掘立柱建物ピット計測表

ピット	P1	P2	P3	P4	P5	P6
位置	58区M-7~8	58区M-7	58区M-6	58区M-6	58区M-6	58区N-7
規模(m)						
長	0.28	0.40	0.37	0.46	0.42	0.28
短	0.25	0.35	0.33	0.44	0.38	0.27
深	0.41	0.31	0.31	0.20	0.44	0.23
平面形状	長円形	不整形	偏円形	偏円形	偏円形	円形
主軸方位(度)	N-28-W	N-49-W	N-33-E	N-71-W	N-69-W	N-68-E
旧名称	A4区89P	A4区27P	A4区38P	A4区17P	A4区80P	A4区86P



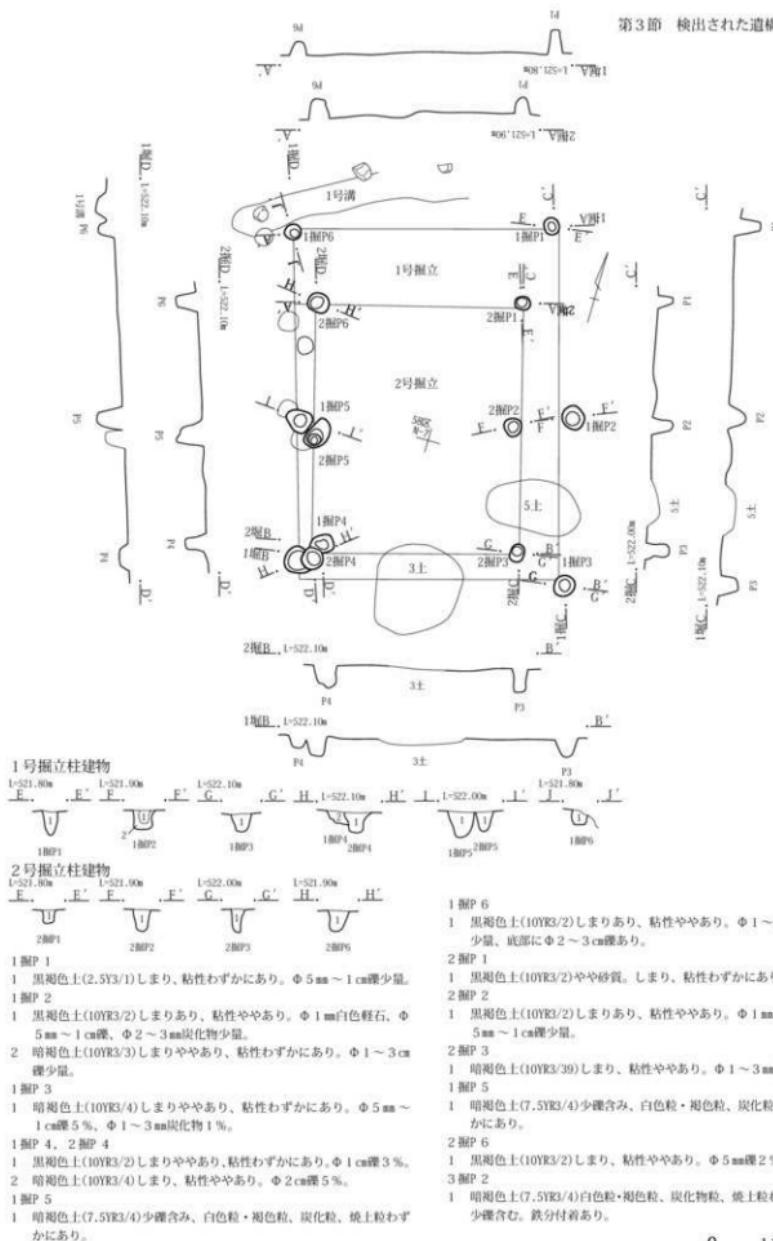
第7-31図 A4-1号掘立柱建物

遺物 図化には至らなかったが、P5から縄文土器加曾利E3の土器片が出土している。

所見 本遺構の年代は、A4-1号掘立柱建物より新しいことから近世に比定される。

第7-3表 A4-1号掘立柱建物柱間計測表

	柱行柱間	柱行柱間	柱行
P4	— 2.28 —	P5	— 3.12 — P6 5.90
梁行柱間	4.42	4.47	4.23
P3	— 2.28 —	P2	— 3.14 — P1 5.40
梁間	4.42	4.47	4.23



第7-32図 A4-1・2号掘立柱建物

0 1:80 2m

第7章 下湯原遺跡(3)

(4) A4-3号掘立柱建物(第7-33図、PL.51)

位置 58区H～J-7～8グリッド、調査区北部に位置する。

形状等 ピット6基が確認された。

規模 桁行6.30m、梁間2.48m。

桁行方位(度) N-89-W

本体構造 桁行柱間平均2.05m、梁行

柱間平均2.48mの東西棟1×3間の掘立柱建物が確認された。

埋没土 ピット埋没土は白色粒・褐色粒・炭化物粒・焼土粒を含む暗褐色土。

重複 A4-4号掘立柱建物、A4-5

号掘立柱建物。

遺物 なし。

所見 本遺構の年代を特定する資料は得られていない。A4-4号掘立柱建物に先行するが、A4-5号掘立柱建物との新旧は不明である。

(5) A4-4号掘立柱建物(第7-33図、PL.51)

位置 58区H～J-7～8グリッド、調査区北部に位置する。

形状等 ピット5基が確認された。

規模 桁行5.97m、梁間3.13m。

桁行方位(度) N-88-W

本体構造 桁行柱間平均2.96m、梁行柱間平均1.41mの東西棟2×2間の掘立柱建物が確認された。

埋没土 ピット埋没土は白色粒・褐色粒・炭化物粒・焼土粒を含む暗褐色土。

重複 A4-3号掘立柱建物、A4-5号掘立柱建物。

遺物 なし。

所見 本遺構の年代を特定する資料は得られていない。A4-3号掘立柱建物より新しいが、A4-5号掘立柱建物との新旧は不明である。

第7-5表 A4-2号掘立柱建物柱間計測表

	桁行柱間		桁行柱間		桁行
	P1	P2	P3	P4	
梁行柱間	3.36		3.26		3.36
P6	—	2.25	—	1.95	—
梁間	3.36		3.26		3.36
					4.21

第7-6表 A4-2号掘立柱建物ピット計測表

ピット	P1	P2	P3	P4	P5	P6
位置	58区K-7	58区K-7	58区K-6	58区K-6	58区K-6	58区K-7
規模(m)						
長	0.26	0.30	0.30	0.66	0.52	0.37
短	0.24	0.29	0.23	0.34	0.33	0.34
深	0.22	0.26	0.38	0.31	0.42	0.34
平面形状	不整形	不整形	長円形	短円形	不整形	不整形
主軸方位(度)	N-71-W	N-25-W	N-4-E	N-20-E	N-26-E	N-47-W
旧名称	A4区K95P	A4区K26P	A4区K37P	A4区K18P	A4区K81P	A4区K15P

第7-7表 A4-3号掘立柱建物柱間計測表

	桁行柱間		桁行柱間		桁行柱間		桁行
	P6	—	—	—	—	—	
梁行柱間	2.39					2.56	
P5	—	2.19	—	1.74	—	P3	—
梁間	2.39			2.18	—	P2	6.14
						2.56	

第7-8表 A4-3号掘立柱建物ピット計測表

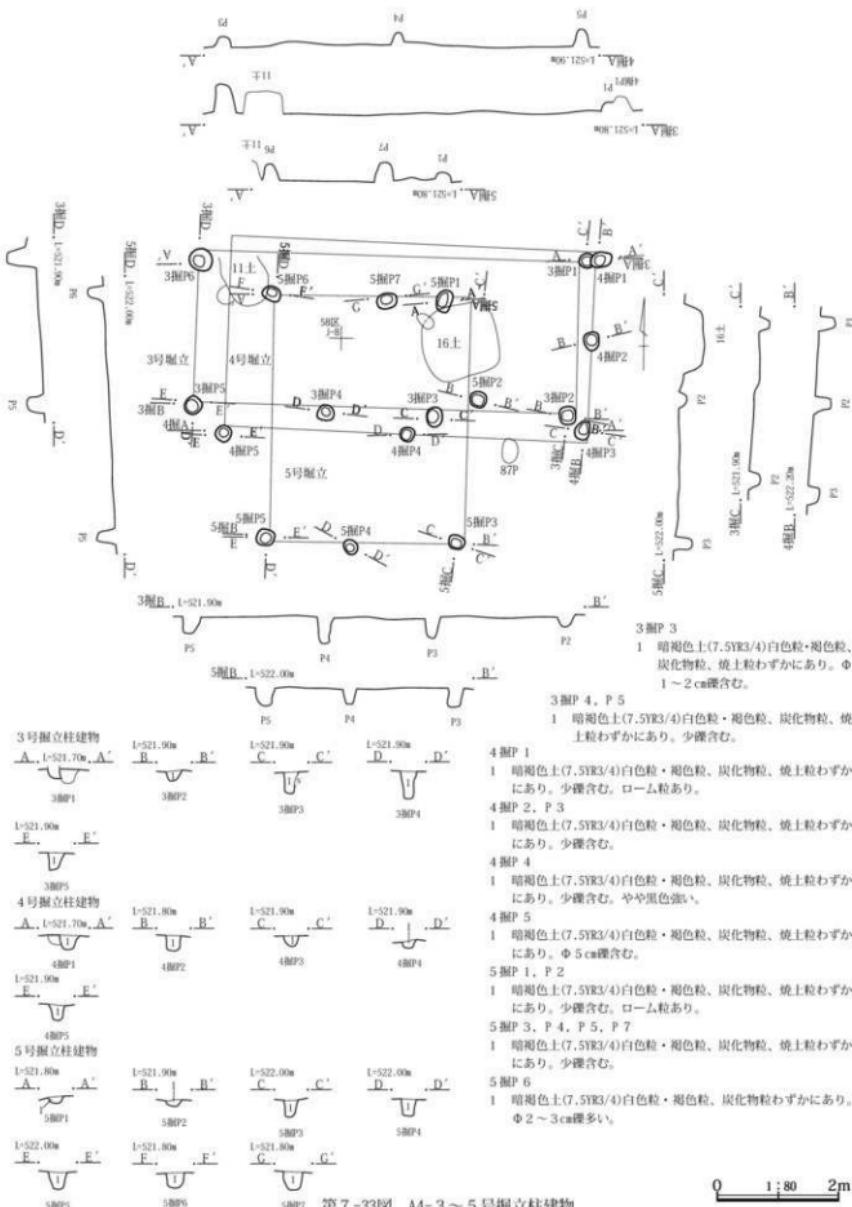
ピット	P1	P2	P3	P4	P5	P6
位置	58区	58区	58区	58区	58区	58区
規模(m)						
長	(0.25)	0.31	0.34	0.29	0.32	0.40
短	0.25	0.27	0.27	0.29	0.29	0.38
深	0.16	0.16	0.37	0.46	0.26	0.53
平面形状	偏円形	方形	長円形	不整形	円形	円形
主軸方位(度)	N-84-E	N-10-W	N-2-E	N-57-E	N-4-E	N-41-W
旧名称	A4区K73P	A4区K64P	A4区K70P	A4区K57P	A4区K43P	

第7-9表 A4-4号掘立柱建物柱間計測表

	桁行柱間		桁行柱間		桁行
	P1	—	—	—	
梁行柱間	—				1.34
P2	—				—
梁行柱間	—				1.48
P5	—	3.01	—	P4	—
梁間	—		2.90	—	P3
					5.92
					2.84

第7-10表 A4-4号掘立柱建物ピット計測表

ピット	P1	P2	P3	P4	P5
位置	58区	58区	58区	58区	58区
規模(m)					
長	0.37	0.32	0.31	0.26	0.29
短	0.26	0.26	0.26	0.25	0.28
深	0.22	0.24	0.18	0.16	0.27
平面形状	長円形	偏円形	偏円形	円形	円形
主軸方位(度)	N-65-E	N-15-W	N-21-E	N-62-E	N-5-W
旧名称	A4区K73P	A4区K75P	A4区K69P	A4区K66P	A4区K44P



第7-33图 M=3~5层掘立柱建筑物

第7章 下湯原遺跡(3)

(6) A4- 5号掘立柱建物(第7-33図、PL.51)

位置 58区I～J-7～8グリッド、調査区北部に位置する。

形状等 ピット7基が確認された。

規模 桁行4.04m、梁間3.26m。

桁行方位(度) N-0

本体構造 桁行柱間平均2.05m、梁行柱間平均1.49mの2×2間の南北棟掘立柱建物が確認された。

埋没土 ピット埋没土は白色粒、褐色粒、炭化物粒、焼土粒を含む暗褐色土。

重複 A4-3号掘立柱建物、A4-4号掘立柱建物、A4-11号土坑、A4-16号土坑。

遺物 図化には至らなかったが、P5より平安時代の土器器蓋の破片(1点11g)が出土している。

所見 本遺構の年代は出土遺物から古代以降に比定される。A4-3号掘立柱建物、A4-4号掘立柱建物との新旧は不明である。A4-11号土坑、A4-16号土坑より新しい。

(7) H1-1号掘立柱建物(第7-34図、PL.51)

位置 58区E～G-1～2グリッド、調査区西端に位置する。

形状等 ピット10基が確認された。

規模 桁行6.88m、梁間2.86m。

桁行方位(度) N-76-W

本体構造 桁行柱間平均2.26m、梁行柱間平均1.47mの2×3間の東西棟掘立柱建物が確認された。

埋没土 ピット埋没土は径1～3cmの礫を含む黒褐色土。

重複 なし。

遺物 なし。

所見 本遺構の年代を特定する資料は得られていない。

(8) H1-2号掘立柱建物(第7-35図、PL.51)

位置 58区G～I-

3～4グリッド、調査区西端に位置する。

形状等 ピット9基が確認された。

規模 桁行5.39m、梁間3.54m。

桁行方位(度) N-65-E

本体構造 桁行柱間平均1.78m、梁行柱間平均1.76mの2×3間の東西棟掘立柱建物が確認された。

埋没土 ピット埋没土は径1～5mmの白色軽石を含む黒褐色土。

重複 H1-34号ピット。

遺物 なし。

所見 本遺構の年代を特定する資料は得られていない。H1-34号ピットより新しい。調査所見に基づき、本遺構を2×3間としたが、P5の埋没土は他と相違するため、1×3間の可能性を否定しない。この場合の梁行柱間は3.51mとなる。

(9) H1-3号掘立柱建物(第7-36、76図、PL.51、74)

位置 58区I～J-2～3グリッド、調査区西端に位置する。

形状等 ピット6基が確認された。

規模 桁行5.06m、梁間2.31m。

桁行方位(度) N-75-E

本体構造 桁行柱間平均2.52m、梁行柱間平均2.19mの1×2間の東西棟掘立柱建物が確認された。

埋没土 ピット埋没土の多くは径1～5cmの礫を含む暗褐色土。

重複 H1-122号ピット。

遺物 P3の埋没土より縄文時代中期前半勝坂1式の土器片(34)が出土している。

第7-11表 A4-5号掘立柱建物柱間計測表

	桁行柱間		桁行柱間		桁行	
	P5	—	—	—	P6	4.02
梁行柱間	1.39				1.89	
	P4				P7	4.11
梁行柱間	1.75				0.94	
	P3	—	2.39	—	P2	—
梁間	3.18				1.70	—
					P1	3.98
						2.82

第7-12表 A4-5号掘立柱建物ピット計測表

ピット	P1	P2	P3	P4	P5	P6	P7
位置	58K1-8	58K1-7	58K1-7	58K1-7	58K1-7	58K1-8	58K1-8
規模(m)	0.37	0.28	0.28	0.27	0.29	0.32	0.33
短	0.26	0.26	0.24	0.22	0.28	0.24	0.26
深	0.12	0.11	0.30	0.28	0.31	0.27	0.32
平面形状	長円形	橢丸形	橢丸形	長円形	方形	橢丸台形	長円形
主軸方位(度)	N-24-E	N-80-W	N-70-W	N-29-W	N-73-W	N-61-W	N-72-E
旧名称	A4[5]68P	A4[5]63P	A4[5]52P	A4[5]49P	A4[5]45P	A4[5]59P	A4[5]66P

所見 本遺構の年代は、出土遺物から縄文時代以降に比定される。H1-122号ピットより新しい。

(10) H1-4号掘立柱建物(第7-37図、PL.51)

位置 58区T-V-4~6グリッド、調査区西端に位置する。

形状等 ピット11基が確認された。

規模 桁行6.66m、梁間3.67m。

桁行方位(度) N-67-E

本体構造 桁行柱間平均1.66m、梁行柱間平均1.84mの2×4間の東西棟掘立柱建物が確認された。

埋没土 ピット埋没土は径1mmの白色軽石を含む黒褐色土。

重複 なし。

遺物 なし。

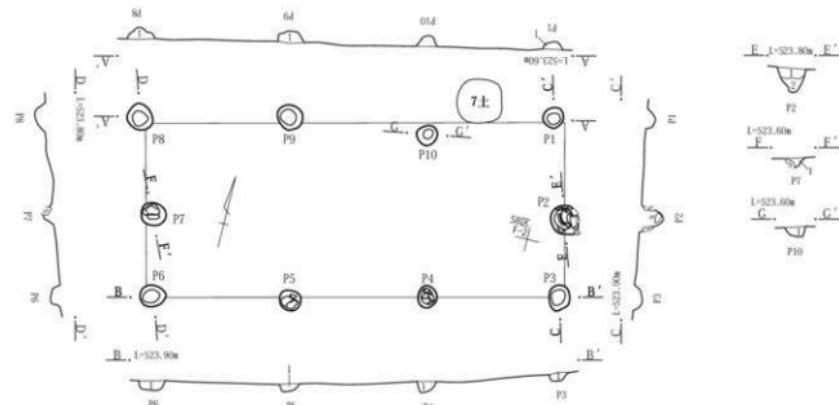
所見 本遺構の年代を特定する資料は得られていない。

第7-13表 H1-1号掘立柱建物柱間計測表

	桁行柱間	桁行柱間	桁行柱間	桁行			
P9	- 2.44 -	P8	- 2.30 -	P7	- 2.09 -	P6	6.82
梁行柱間	1.59					1.66	
P10							P5 6.78
梁行柱間	1.33					1.30	
P1	- 2.29 -	P2	- 2.25 -	P3	- 2.17 -	P4	6.82
梁間	2.95	2.99	2.65			2.94	

第7-14表 H1-1号掘立柱建物ピット計測表

ピット	P1	P2	P3	P4	P5	P6	P7	P8	P9	P10
位数	58[K6-1]	58[K5-1]	58[K5-1]	58[K6-1]	58[K6-2]	58[K6-2]	58[K6-2]	58[K6-2]	58[K6-2]	58[K6-1]
規模(m)	0.43	0.38	0.37	0.43	0.52	0.35	0.34	0.44	0.43	0.38
短	0.36	0.34	0.32	0.34	0.43	0.33	0.32	0.40	0.40	0.33
深	0.17	0.11	0.17	0.14	0.43	0.12	0.14	0.18	0.18	0.17
平面形状	偏円形	偏円形	偏円形	不整形	不整形	円形	丸角方形	偏円形	不整形	偏円形
主軸方位(度)	N-68-E	N-54-W	N-22-W	N-8-W	N-50-W	N-28-E	N-41-E	N-69-W	N-46-W	N-73-W
旧名称	H1[K5P1]	H1[K5P2]	H1[K5P3]	H1[K5P4]	H1[K5P5]	H1[K5P6]	H1[K5P7]	H1[K5P8]	H1[K5P9]	H1[K5P10]



P 1 ~ 3

1 黒褐色土(10YR3/2)や砂質。しまり、粘性わずかにあり。Φ 2~3cm 程5%。

P 4

P 4

1 黒褐色土(10YR3/2)しまりわずかにあり、粘性ややあり。Φ 1cm 程少量。

P 5

1 黒褐色土(2.5Y3/1)しまり、粘性ややあり。Φ 1mm白色軽石少量。

P 6 ~ 9

P10

1 黑褐色土(10YR3/2)しまりわずかにあり、粘性ややあり。Φ 3~5cm 程30%。

2 黑褐色土(10YR2/2)しまりわずかにあり、粘性ややあり。Φ 2~3cm 程、Φ 5mm 程少量。

0 1:80 2m

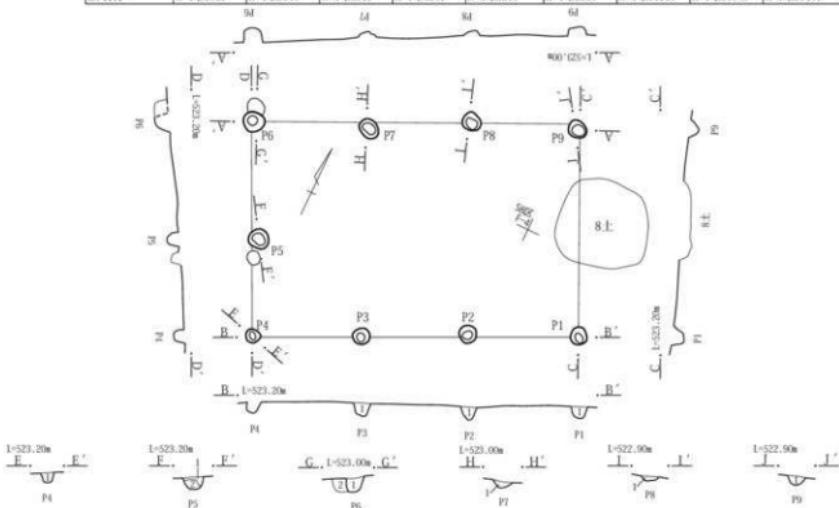
第7-34図 H1-1号掘立柱建物

第7-15表 H1-2号掘立柱建物柱間計測表

	柱行柱間	柱行柱間	柱行柱間	柱行			
	P6	P7	P8	P9			
梁行柱間	— 1.90 —	— 1.68 —	— 1.76 —	5.33			
1.92							
P5							
梁行柱間	— 1.59 —						
P4	— 1.78 —	P3	— 1.74 —	P2	— 1.84 —	P1	5.34
梁間	3.50	3.42	3.49	3.41			

第7-16表 H1-2号掘立柱建物ピット計測表

ピット	P1	P2	P3	P4	P5	P6	P7	P8	P9
位置	58[KH-3]	58[KH-3]	58[KH-3]	58[KH-3]	58[KH-3]	58[KH-3]	58[KH-4]	58[KH-4]	58[KH-4]
規模(m)	長 0.29	0.30	0.29	0.25	0.35	0.36	0.35	0.32	0.33
短 0.28	0.29	0.27	0.24	0.33	0.26	0.28	0.28	0.28	0.28
深 0.18	0.22	0.22	0.16	0.17	0.27	0.11	0.08	0.15	
平面形状	偏円形	円形	円形	偏円形	偏円形	偏円形	長円形	不整形	不整形
主軸方位(度)	N30°W	N64°W	N71°E	N60°E	N66°W	N78°E	N62°W	N75°W	N61°W
旧名称	H1[KS2P]	H1[KS3P]	H1[KS30P]	H1[KS21P]	H1[KS23P]	H1[KS33P]	H1[KS103P]	H1[KS104P]	H1[KS107P]



P 1

1 黒褐色土(10YR3/2)しまり、粘性わずかにあり。Φ 1 cm 墓少量。

P 2, P 3

1 黒褐色土(2.5Y3/2)しまり、粘性わずかにあり。Φ 1 cm 墓少量。

P 4

1 黒褐色土(10YR2/3)しまりわずかにあり、粘性ややあり。Φ 5 mm 白色軽石少量。

P 5

1 黒褐色土(10YR2/2)しまり、粘性わずかにあり。褐色砂 2~3 cm のブロックで10%。

2 黑褐色土(10YR2/2)しまり、粘性わずかにあり。黄褐色土 3 cm のブロックで少量。

P 6

1 黒褐色土(10YR2/3)しまりややあり、粘性わずかにあり。Φ 1~5 mm 白色軽石少量。

P 7

1 黒褐色土(10YR2/2)しまり、粘性ややあり。Φ 1 mm 白色軽石少量。

P 8

1 黑褐色土(7.5YR3/1)しまりややあり、粘性わずかにあり。Φ 1 mm 白色軽石少量。

P 9

1 黑褐色土(10YR2/2)しまり、粘性ややあり。Φ 1 mm 白色軽石、Φ 2~3 cm 墓少量。

0 1:80 2m

第7-35図 H1-2号掘立柱建物

第3節 検出された遺構と遺物

(11) H1-5号掘立柱建物(第7-38図、PL.51)

位置 58区D～E-2～4グリッド、調査区西端に位置する。

形状等 ピット7基が確認された。

規模 柱行4.68m、梁間4.20m。

柱行方位(度) N-18-E

本体構造 柱行柱間平均2.34m、梁行柱間平均2.21mの

2×2間の南北棟掘立柱建物が確認された。

埋没土 ピット埋没土は1～3cm程度の礫を含み、その多くは径1mmの白色軽石を含む黒褐色土。

重複 H1-10号土坑。

遺物 なし。

所見 本遺構の年代を特定する資料は

得られていない。H1-10号土坑との

新旧は不明であるが、本遺構のほうが

古いとすれば、土坑により南辺のピッ

ト1基が失われた可能性がある。

(12) H2-1号掘立柱建物(第7-39、40図、PL.51)

位置 57区G～I-11～12グリッド、西側調査区中央部に位置する。

形状等 ピット8基が確認された。

規模 柱行5.88m、梁間3.92m。

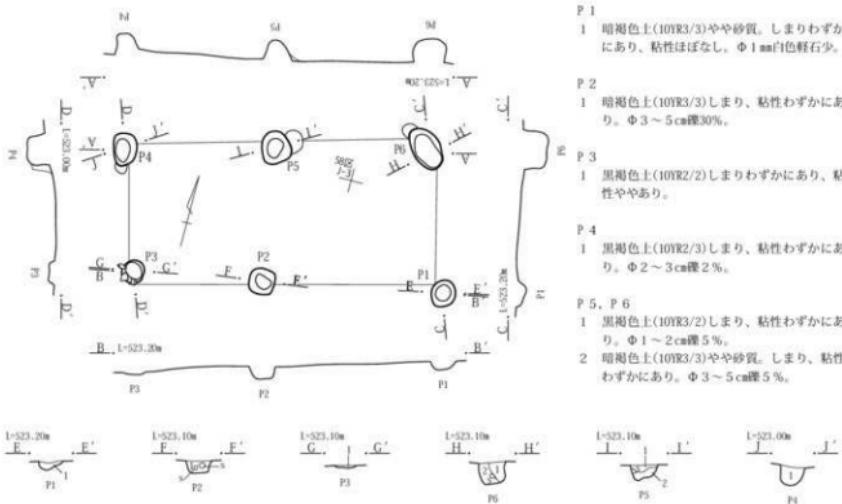
柱行方位(度) N-14-W

第7-17表 H1-3号掘立柱建物柱間計測表

	柱行柱間	柱間	梁行
柱間	P4 - 2.51 - P5 - 2.48 - P6	P4 - 2.48 - P5 - 2.48 - P6	5.01
長	2.02	2.18	2.38
短			
深	0.14	0.21	0.21
平面形状	偏円形	方形	圓丸長方形
柱行方位(度)	N-16-E	N-3-W	N-21-E
旧名称	H1区115P	H1区116P	H1区117P

第7-18表 H1-3号掘立柱建物ピット計測表

ピット	P 1	P 2	P 3	P 4	P 5	P 6
位置	58区I-2	58区J-2	58区J-2	58区J-2	58区J-2～3	58区I-3
規模(m)	0.47	0.43	0.39	0.53	0.53	0.74
長						
短	0.41	0.42	0.37	0.39	0.48	0.47
深	0.14	0.21	0.04	0.28	0.21	0.38
平面形状	偏円形	方形	円形	圓丸長方形	圓丸五角形	長円形
柱行方位(度)	N-16-E	N-3-W	N-21-E	N-20-W	N-19-W	N-49-W
旧名称	H1区115P	H1区116P	H1区117P	H1区29P	H1区28P	H1区27P



第7-36図 H1-3号掘立柱建物

0 1 2m

本体構造 梁行柱間平均1.96m、梁行柱間平均3.93mの1×3間の南北棟掘立柱建物が確認された。

埋没土 ピット埋没土の多くは径1cmの礫を含む黒褐色土。

重複 H2-2号掘立柱建物、H2-4号溝。

遺物 なし。

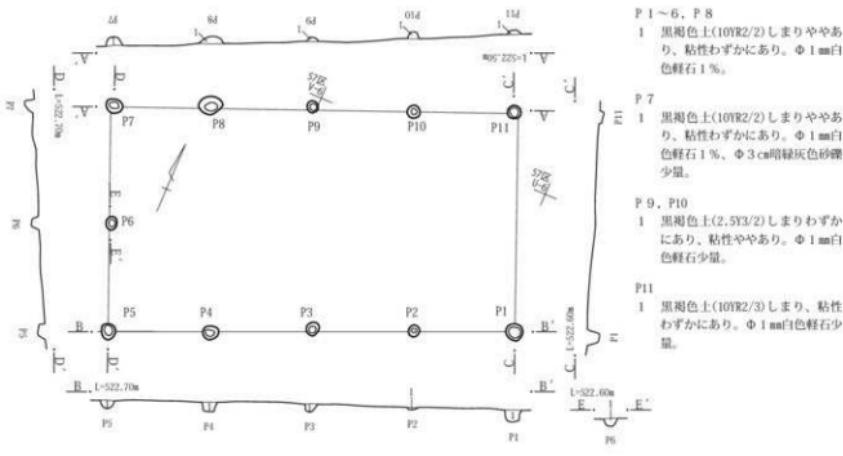
所見 本遺構の年代を特定する資料は得られていない。H2-2号掘立柱建物との新旧は不明であるが、H2-4号溝より新しい。

第7-19表 H1-4号掘立柱建物柱間計測表

	柱間	柱間	柱間	柱間	柱間
	P7 - 1.60 - P6 - 1.66 - P9 - 1.67 - P10 - 1.65 - P11	6.58			
梁行柱間	1.92				
	P6				
梁行柱間	1.75				
	P5 - 1.68 - P4 - 1.67 - P3 - 1.67 - P2 - 1.65 - P1	6.64			
梁間	3.68	3.71	3.65	3.61	3.62

第7-20表 H1-4号掘立柱建物ピット計測表

ピット	P1	P2	P3	P4	P5	P6	P7	P8	P9	P10	P11
位置	57[KU-5	57[KU-5	57[KU-5	57[KV-4	57[KV-4	57[KV-5	57[KV-5	57[KV-5	57[KV-5	57[KU-6	57[KU-6
規模(m)	長 0.30	0.19	0.23	0.27	0.26	0.23	0.28	0.41	0.20	0.22	0.23
短 0.29	0.18	0.20	0.23	0.24	0.19	0.24	0.31	0.18	0.22	0.22	
深 0.19	0.04	0.13	0.15	0.12	0.13	0.14	0.11	0.06	0.12	0.08	
平面形状	円形	円形	長円形	偏円形	偏円形	長円形	偏円形	長円形	偏円形	円形	円形
主軸方位(度)	N-43-W	N-18-E	N-30-E	N-49-E	N-29-W	N-18-W	N-82-W	N-62-E	N-45-W	N-84-W	N-78-W
旧名称	H1-1区63P	H1-1区62P	H1-1区61P	H1-1区60P	H1-1区59P	H1-1区69P	H1-1区68P	H1-1区67P	H1-1区66P	H1-1区65P	H1-1区64P



第7-37図 H1-4号掘立柱建物

0 1:80 2m

(13) H2-2号掘立柱建物(第7-39, 40図, PL.51)

位置 57区G～H-12～13グリッド、西側調査区中央部に位置する。

形状等 ピット6基が確認された。

規模 柱行4.15m、梁間3.66m。

柱行方位(度) N-17-W

本体構造 柱行柱間平均2.07m、梁行柱間平均3.66mの1×2間の南北棟掘立柱建物が確認された。

埋没土 ピット埋没土の多くは径1～2cmの礫を含む黒褐色土。

重複 H2-1号掘立柱建物、H2-3号掘立柱建物。

遺物 なし。

所見 本遺構の年代を特定する資料は得られていない。

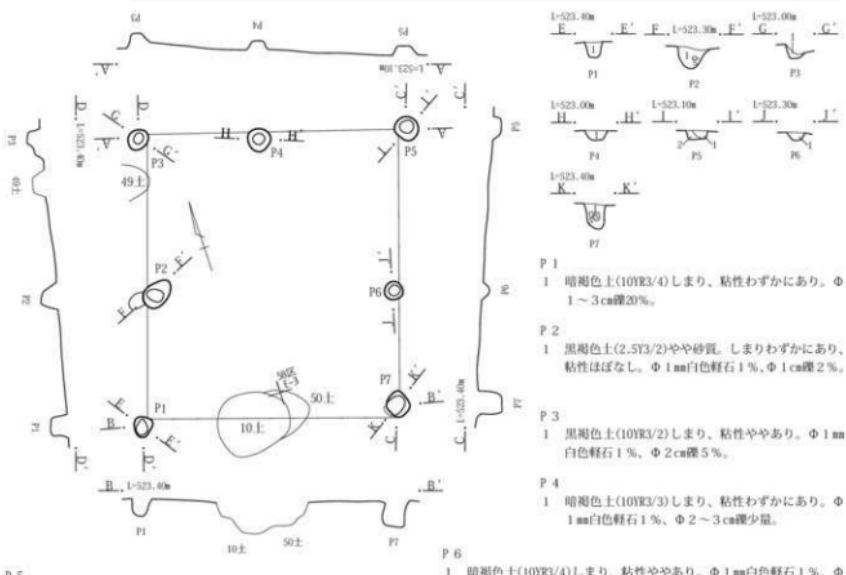
2棟の掘立柱建物との新旧は不明である。

第7-21表 H1-5号掘立柱建物柱間計測表

	柱行柱間	梁行柱間	柱行		
P5	— 2.72 —	P6	— 1.86 —	P7	4.55
梁行柱間	2.43				
P4	—				
梁行柱間	1.98				
P3	— 2.59 —	P2	— 2.17 —	P1	4.73
梁間	4.41	3.92			4.16

第7-22表 H1-5号掘立柱建物ピット計測表

ピット	P1	P2	P3	P4	P5	P6	P7
位置	58IE-3	58IE-3	58IE-4	58IE-3-4	58IE-3	58IE-3	58IE-2
規模(m)							
長	0.34	0.54	0.37	0.37	0.38	0.41	0.31
短	0.30	0.37	0.31	0.38	0.37	0.31	0.36
深	0.26	0.35	0.23	0.14	0.13	0.14	0.42
平面形状	楕丸三角形	偏円形	偏円形	偏円形	偏円形	円形	方形
主軸方位(度)	N-30-E	N-58-E	N-55-E	N-31-W	N-10-W	N-70-W	N-23-W
旧名称	H1区39P	H1E46P	H1E123P	H1E124P	H1E55P	H1E125P	H1E49P



P 5

1 埋褐色土(10YR3/3)しまり、粘性わざかにあり。Φ 1～3cm礫30%。

2 埋オーリーブ褐色土(2.5Y3/3)しまりわざかにあり、粘性ややあり。Φ 1cm礫少量。

P 6

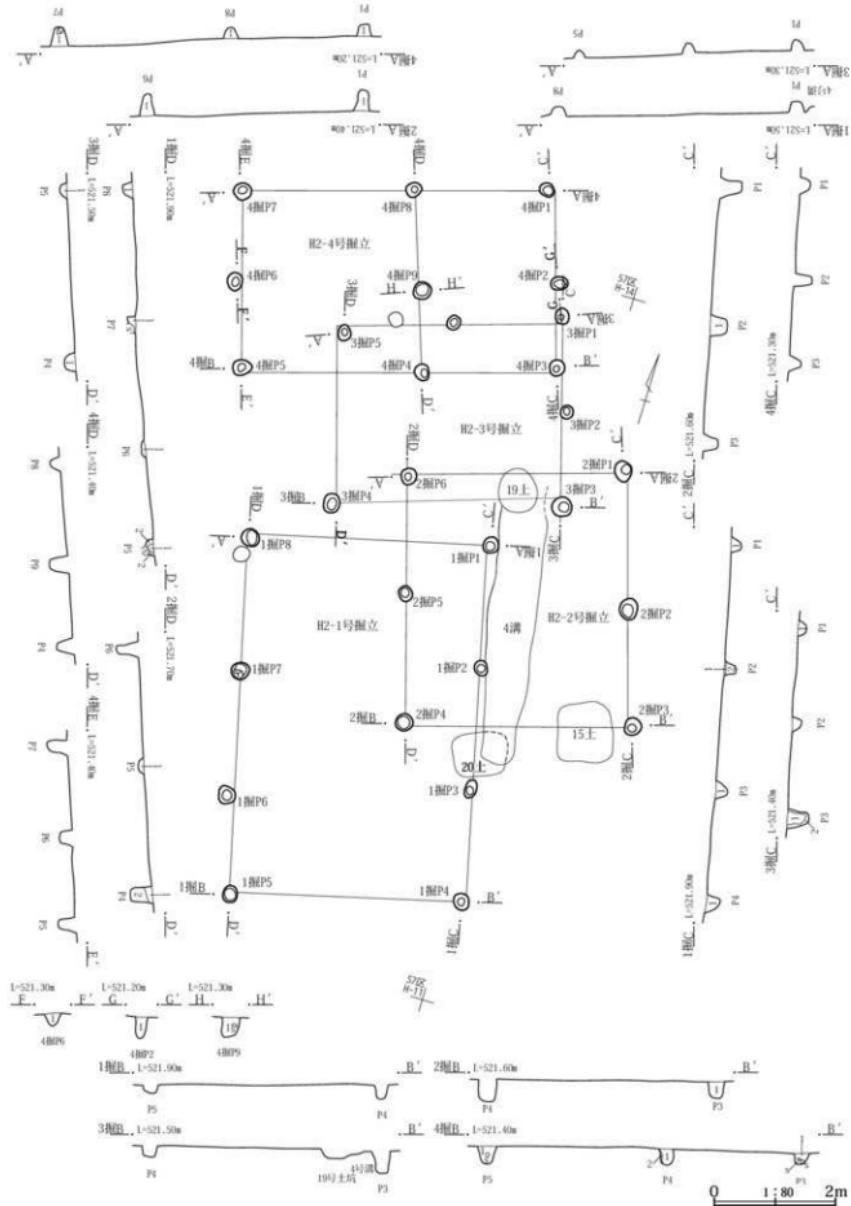
1 埋褐色土(10YR3/4)しまり、粘性ややあり。Φ 1mm白色軽石1%、Φ 2cm礫2%。

P 7

1 埋褐色土(10YR2/3)しまり、粘性ややあり。Φ 1cm礫少量。3～8cm礫あり。

0 1:80 2m

第7-38図 H1-5号掘立柱建物



第7-39図 H2-1～4号掘立柱建物1

第3節 検出された遺構と遺物

(14) H2-3号掘立柱建物(第7-39、40図、PL.51)

位置 57区G～I-12～13グリッド、西側調査区中央部に位置する。

形状等 ピット6基が確認された。

規模 柱行3.77m、梁間2.93m。

桁行方位(度) N-72-E

本体構造 柱行柱間平均1.79m、梁行柱間平均1.56mの

2×2間の東西棟掘立柱建物が確認された。

埋没土 ピット埋没土の多くは径1～5mmの白色軽石を含む黒褐色土。

重複 H2-2号掘立柱建物、H2-4号掘立柱建物。

遺物 なし。

所見 本遺構の年代を特定する資料は得られていない。

2棟の掘立柱建物との新旧は不明である。

第7-23表 H2-1号掘立柱建物柱間計測表

	柱行柱間	柱行柱間	柱行柱間	柱行		
P5	1.62	P6	2.06	P7	2.19	P8
梁行柱間						
3.81		4.00		3.94		3.95
P4	1.84	P3	2.00	P2	2.03	P1
梁間	3.81	4.00		3.94		3.95

第7-24表 H2-1号掘立柱建物ピット計測表

ピット	P1	P2	P3	P4	P5	P6	P7	P8
位置	57KH-12	57KH-12	57KH-11	57KH-11	57KH-11	57KH-11	57KH-11	57KH-12
規模(m)								
長	0.28	0.27	0.31	0.28	0.28	0.30	0.31	0.31
短	0.26	0.21	0.19	0.26	0.24	0.28	0.28	0.26
深	0.26	0.18	0.21	0.24	0.15	0.15	0.11	0.28
平面形状	円形	偏円形	長円形	偏円形	偏円形	偏円形	偏円形	
主軸方位(度)	N-24-E	N-42-W	N-6-E	N-43-W	N-16-W	N-35-W	N-49-E	N-59-W
目名	H2-141P	H2-140P	H2-139P	H2-138P	H2-145P	H2-144P	H2-143P	H2-142P

H2-1号掘立建物

1脚P1

1 黒褐色土(7.5YR3/1)しまりややあり、粘性あり。Φ 1cm礫少量。

1脚P2

1 黒褐色土(7.5YR3/1)しまり、粘性ややあり。Φ 1mm白色軽石少量。

2 黑褐色土(7.5YR3/1)しまりややあり、粘性あり。Φ 1cm礫少量。

1脚P3、P4

1 黑褐色土(7.5YR3/1)しまり。粘性ややあり。Φ 1mm白色軽石少量。

1脚P5

1 黑褐色土(10YR2/2)しまりややあり、粘性わずかにあり。Φ 1mm白色軽石少量。

2 喀褐色土(10YR3/3)しまりややあり、粘性わずかにあり。

1脚P6

1 黑褐色土(2.5Y3/1)しまり、粘性ややあり。Φ 1cm礫少量。

1号掘立P7、P8

1 黑褐色土(7.5YR3/2)しまり、粘性ややあり。Φ 1cm礫少量。

H2-3号掘立建物

3脚P1

1 黑褐色土(2.5Y3/1)しまり、粘性ややあり。

3号掘立P2、P6

1 黑褐色土(10YR2/1)やや砂質。しまり、粘性ややあり。Φ 1mm白色、褐軽石1%。

3脚P3

1 黑褐色土(7.5YR3/4)しまりややあり、粘性あり。Φ 1～5mm白色軽石少量。

2 黑褐色土(7.5YR2/2)しまりややあり、粘性あり。Φ 1～5mm白色軽石少量。灰褐色土ブロックあり。

3号掘立P4

1 黑褐色土(7.5YR3/1)しまりわずかにあり、粘性ややあり。1cmオーバー層褐色土ブロック5%混ざる。

3号掘立P5

1 黑褐色土(10YR3/2)しまり、粘性ややあり。Φ 1mm白色軽石少量。

H2-2号掘立建物

2脚P1、P2、P5

1 喀褐色土(7.5YR3/2)しまりややあり、粘性あり。Φ 1～2cm礫少量。

2脚P3

1 黑褐色土(2.5Y3/1)しまりややあり、粘性わずかにあり。

2脚P4

1 黑褐色土(2.5Y3/1)しまりややあり、粘性わずかにあり。

2 黑褐色土(10YR3/1)しまりわずかにあり、粘性ややあり。

2脚P6

1 喀褐色土(7.5YR3/3)しまりややあり、粘性あり。Φ 1～2cm礫少量。

H2-4号掘立建物

4脚P1、P8

1 黑褐色土(7.5YR3/1)しまり、粘性ややあり。Φ 1mm白色軽石少量。

4脚P2

1 黑褐色土(2.5Y3/1)しまりわずかにあり、粘性あり。

4脚P3、P5、P6

1 黑褐色土(10YR3/2)しまり。粘性ややあり。Φ 5mm白色軽石少量。

4脚P4

1 黑褐色土(10YR3/2)しまり、粘性ややあり。Φ 5mm白色軽石少量。

4脚P7

1 喀褐色土(7.5YR3/2)しまり、粘性ややあり。Φ 5mm白色軽石1%。

4脚P9

1 黑褐色土(2.5Y3/1)しまりわずかにあり、粘性あり。Φ 1～3mm白色軽石少量。

第7-40図 H2-1～4号掘立柱建物2

第7章 下湯原遺跡(3)

(15) H2-4号掘立柱建物(第7-39, 40図, PL.51)

位置 57区H～I-13～14グリッド、西側調査区中央部に位置する。

形状等 ピット9基が確認された。

規模 桁行5.17m、梁間3.00m。

桁行方位(度) N-73-E

本体構造 桁行柱間平均2.57m、梁行

柱間平均1.48mの2×2間の東西棟掘

立柱建物が確認された。

埋没土 ピット埋没土の多くは径1～

5mmの白色軽石を含む黒褐色土。

重複 H2-3号掘立柱建物。

遺物 なし。

所見 本遺構の年代を特定する資料は

得られていない。H2-3号掘立柱建物との新旧は不明である。

(16) H2-5号掘立柱建物(第7-41図, PL.51)

位置 57区A～B-18～19グリッド、

西側調査区中央部に位置する。

形状等 ピット8基が確認された。

規模 桁行6.35m、梁間4.75m。

桁行方位(度) N-11-W

本体構造 全体としての桁行柱間は

平均2.09mであるが、桁行柱間平均

2.47m、梁行柱間平均4.75mの南北棟

1×2間の南辺を一間拡張して1×3

間とした掘立柱建物と推測される。

埋没土 ピット埋没土は径1～5mmの

白色軽石を含む黒褐色土。

第7-25表 H2-2号掘立柱建物柱間計測表

	桁行柱間		桁行柱間		桁行
	P4	— 2.13 —	P5	— 1.91 —	P6
梁行柱間	3.74		3.68		3.55
	P3	— 1.94 —	P2	— 2.31 —	P1
梁間	3.74		3.68		3.55

第7-26表 H2-2号掘立柱建物ピット計測表

ピット	P1	P2	P3	P4	P5	P6
位置	57区G-13	57区G-12	57区G-12	57区H-12	57区H-12	57区H-13
規模(m)						
長	0.35	0.36	0.30	0.30	0.25	0.27
短	0.29	0.29	0.28	0.28	0.22	0.26
深	0.34	0.28	0.25	0.36	0.09	0.37
平面形状	偏円形	長円形	偏円形	円形	楕丸長方形	楕丸方形
主軸方位(度)	N-31-W	N-0	N-29-E	N-69-E	N-48-W	N-23-W
日名称	H2区132P	H2区137P	H2区136P	H2区135P	H2区134P	H2区133P

第7-27表 H2-3号掘立柱建物柱間計測表

	桁行柱間		桁行柱間		桁行
	P5	— 1.79 —	P6	— 1.78 —	P1
梁行柱間					1.56
	—	—	—	—	P2
梁行柱間					1.55
	P4	— — —	P5	— — —	P1
梁間	2.83				3.12

第7-28表 H2-3号掘立柱建物ピット計測表

ピット	P1	P2	P3	P4	P5	P6
位置	57区H-13	57区H-13	57区H-13	57区H～I-13	57区H-12	57区I-13
規模(m)						
長	0.27	0.23	0.34	0.33	0.27	0.25
短	0.22	0.21	0.33	0.27	0.21	0.23
深	0.13	0.16	0.34	0.17	0.11	0.18
平面形状	長円形	円形	円形	長円形	偏円形	円形
主軸方位(度)	N-30-W	N-8-W	N-73-E	N-12-W	N-24-W	N-11-W
日名称	H2区131P	H2区130P	H2区129P	H2区128P		

第7-29表 H2-4号掘立柱建物柱間計測表

	桁行柱間		桁行柱間		桁行
	P7	— 2.82 —	P8	— 2.19 —	P1
梁行柱間					1.53
	1.51		1.66		
	P6	— 3.03 —	P7	— 2.23 —	P2
梁行柱間					1.42
	1.43		1.34		
	P5	— 2.95 —	P6	— 2.20 —	P3
梁間	2.90		3.00		3.14

第7-30表 H2-4号掘立柱建物ピット計測表

ピット	P1	P2	P3	P4	P5	P6	P7	P8	P9
位置	57区H-14	57区H-13	57区H-13	57区H-13	57区I-13	57区I-13	57区I-13	57区H～I-14	57区H-13
規模(m)									
長	0.26	0.29	0.26	0.29	0.32	0.30	0.30	0.27	0.32
短	0.22	0.23	0.26	0.24	0.26	0.26	0.29	0.23	0.29
深	0.19	0.28	0.21	0.26	0.31	0.23	0.30	0.15	0.31
平面形状	偏円形	長円形	円形	偏円形	偏円形	偏円形	偏円形	偏円形	偏円形
主軸方位(度)	N-69-W	N-67-E	N-46-W	N-53-W	N-66-E	N-19-W	N-76-E	N-58-E	N-43-E
日名称	H2区119P	H2区126P	H2区125P	H2区124P	H2区123P	H2区122P	H2区121P	H2区120P	H2区127P

重複 なし。

遺物 なし。

所見 本遺構の年代を特定する資料は得られていない。

(17) H2 - 6号掘立柱建物(第7 - 42図、PL.52)

位置 56区W~Y-23~26グリッド、調査区東端寄りに位置する。

形状等 ピット8基が確認された。

規模 柱行7.97m、梁間2.75m。

航向方位(度) N-78-E

本体構造 梁行柱間平均2.33m、梁行柱間

平均2.71mの1×3間の東西棟掘立柱建物が

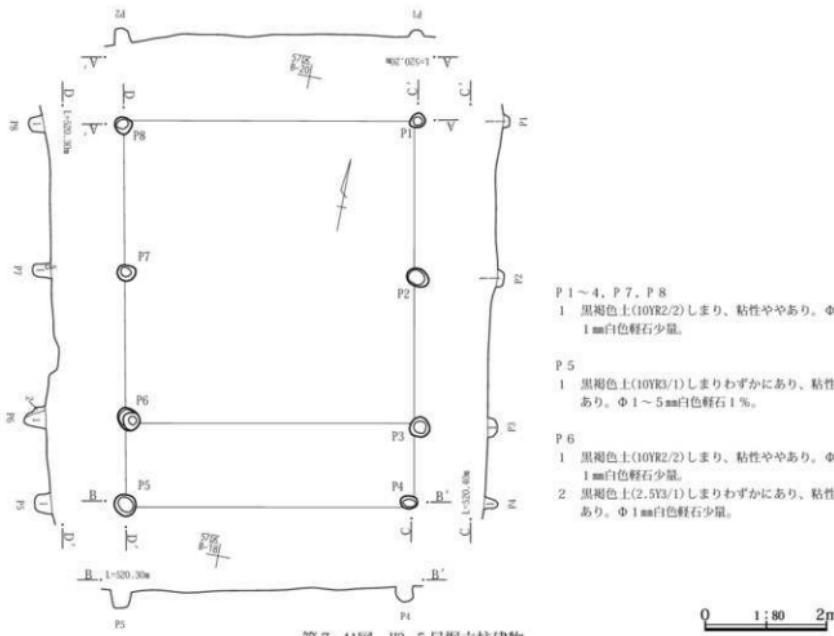
確認された。

第7-31表 H2-5号獨立柱建物柱間計測表

	桁行 柱間	桁行 柱間	桁行 柱間	桁行 柱間	桁行 柱間
梁行柱間	P5 4.68	P6 4.80	P7 4.77	P8 4.80	P9 6.20
	P4 4.68	P5 4.80	P6 4.77	P7 4.80	P8 6.20
	P4 4.68	P5 4.80	P6 4.77	P7 4.80	P8 6.20

第7-32表 月2-5回獨立建物ピット計測表

ピット	P1	P2	P3	P4	P5	P6	P7	P8
位置	57JK-A-19	57JK-A-19	57JK-A-18	57JK-A-18	57JK-B-18	57JK-B-18	57JK-B-19	57JK-B-19
規模(m)	長	0.27	0.38	0.34	0.29	0.37	0.40	0.31
	短	0.23	0.30	0.33	0.21	0.35	0.35	0.27
	深	0.11	0.13	0.16	0.25	0.29	0.36	0.19
平面形状	偏円形	偏円形	円形	長円形	円形	偏円形	偏円形	偏円形
軸方位(度)	N-48-E	N-72-W	N-12-W	N-87-W	N-42-W	N-56-W	N-67-E	N-63-E
柱名	H2JK114P	H2JK113P	H2JK112P	H2JK111P	H2JK110P	H2JK111P	H2JK116P	H2JK115P



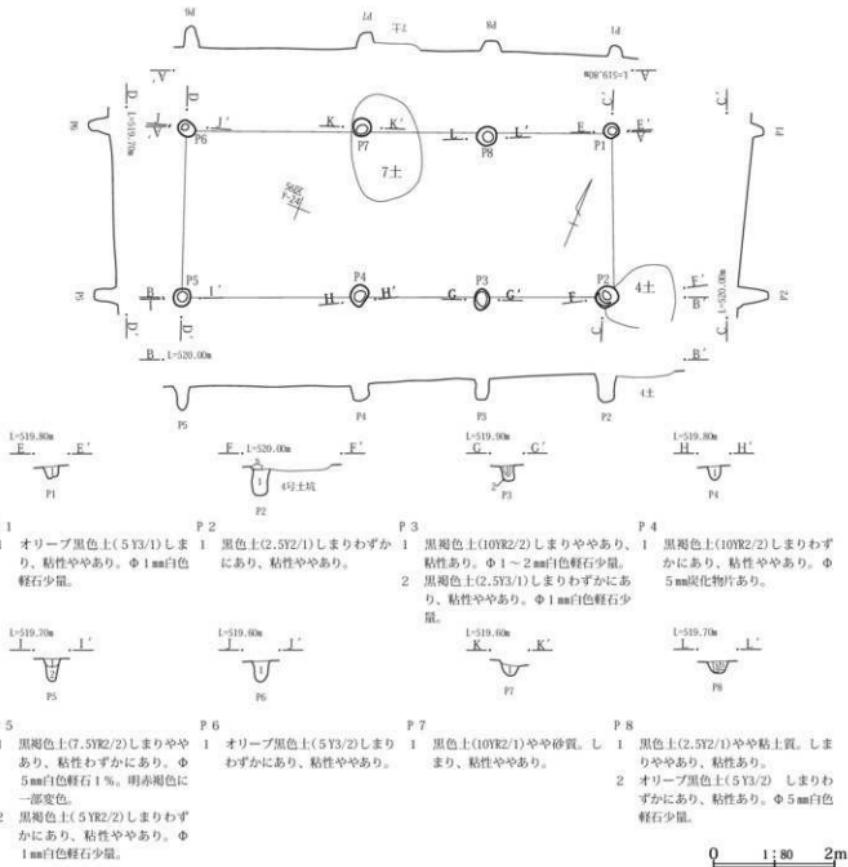
第7-41图 H2-5号掘立柱建筑物

第7-33表 H2-6号獨立柱建物柱間計測表

	平行柱間		平行柱間		平行柱間		平行
	P5	-2.88	P6	-2.06	P7	-2.06	P8
梁行柱間	2.75		2.73		2.66		2.69
	P4	-2.89	P3	-2.01	P2	-2.06	P1
梁間	2.75		2.73		2.66		2.69
	P4	-2.89	P3	-2.01	P2	-2.06	P1

第7-34表 II 2-6号耐立柱建物ピット計測表

ビット位置	P1	P2	P3	P4	P5	P6	P7	P8
56位K-25	56位K-23	56位K-23	56位K-23	56位K-23	56位K-24	56位K-24	56位K-24	56位K-26
規則(m)	長	0.37	0.36	0.37	0.30	0.30	0.31	0.34
	短	0.33	0.25	0.29	0.28	0.24	0.30	0.31
	深	0.49	0.35	0.23	0.37	0.33	0.23	0.19
平面形状	囲丸方形	長円形	偏円形	囲九方形	囲九長方形	円形	円形	円形
主輪角度(度)	W-27-E	N-18-W	N-19-W	N-20-W	N-69-W	N-16-E	N-35-E	N-31-E
主輪名前	H2K133P	H2K145P	H2K155P	H2K155P	H2K140SP	H2K141PT	H2K124SP	H2K124P



第7-42图 H2-6号掘立柱建物

(18) H2-7号掘立柱建物(第7-43図、PL.52)

位置 56区U～V-22～23グリッド、調査区東端寄りに位置する。

形状等 ピット7基が確認された。

規模 柱行4.57m、梁間2.32m。

柱行方位(度) N-62-E

本体構造 柱行柱間平均1.58m、梁行柱間平均2.22mの1×3間の東西棟掘立柱建物が確認された。

埋没土 ピット埋没土の多くは径1～5mmの白色軽石を含む黒褐色土。

重複 H2-57号ピット、H2-59号ピット、H2-68号ピット。

遺物 なし。

所見 本遺構の年代を特定する資料は得られていない。H2-57号ピットに先行

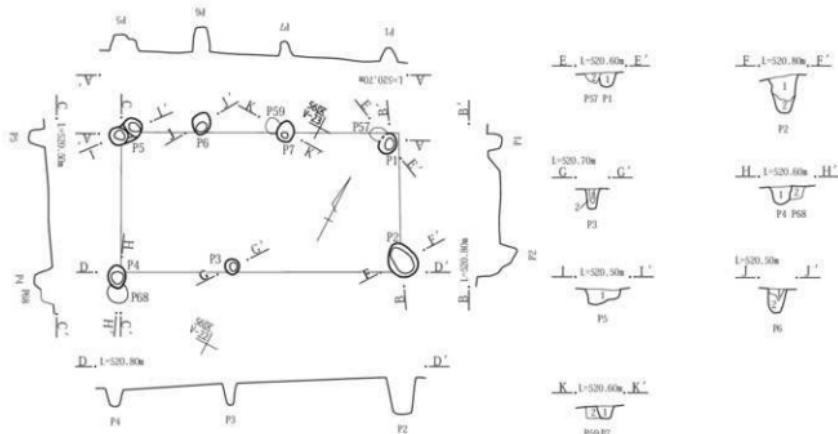
し、H2-59号ピット、H2-68号ピットより新しいが、これらのピットはそれぞれ隣接するピットに位置する柱の改修に関連する遺構である可能性がある。

第7-35表 H2-7号掘立柱建物柱間計測表

	柱行柱間	柱行柱間	柱行柱間	柱行
柱行柱間	1.34	1.38	1.73	4.44
梁間	2.34	2.38	1.94	
梁間	P4 — 1.86	P3 —	P2 — 1.94	4.70
柱間	2.34	2.38	1.94	

第7-36表 H2-7号掘立柱建物ピット計測表

ピット	P1	P2	P3	P4	P5	P6	P7
位置	56区U-23	56区V-22	56区V-22	56区V-22	56区V-22	56区V-22	56区V-22
規模(m)	長 0.36	0.58	0.26	0.381	0.569	0.38	0.36
短 0.25	0.47	0.28	0.286	0.338	0.31	0.29	
深 0.24	0.65	0.34	0.28	0.25	0.39	0.20	
平面形状	不整形	偏円形	偏円形	長円形	双円形	長円形	偏円形
主軸方位(度)	N-1°W	N-58°W	N-24°W	N-34°W	N-32°E	N-10°W	N-17°W
柱名	H2区56P	H2区154P	H2区64P	H2区67P	H2区91P	H2区65P	H2区60P



P 1, P 4

1 黒褐色土(2.5Y3/1)しまり、粘性ややあり。Φ 1 mm白色軽石少量。

P 2

1 黑褐色土(10YR2/2)しまりわずかにあり、粘性ややあり。Φ 1～3 mm白色軽石 2%。
2 黑褐色土(2.5Y3/1)しまりわずかにあり、粘性あり。

P 3

1 黑褐色土(2.5Y3/1)しまりわずかにあり、粘性ややあり。Φ 1 mm白色軽石少量。
2 黑褐色土(2.5Y3/2)しまり、粘性わずかにあり。

P 5

1 オリーブ黒褐色土(5Y3/1)しまり、粘性ややあり。Φ 1 mm白色軽石少量。

P 6

1 黑褐色土(7.5YR2/2)しまりあり、粘性ややあり。Φ 1 mm白色軽石少量。
2 オリーブ黒褐色土(2.5Y3/3)しまりわずかにあり、粘性ややあり。Φ 1 mm白色軽石少量。

P 7

1 黑褐色土(7.5YR3/1)しまりややあり、粘性わずかにあり。Φ 1～5 mm白色軽石 1%。

第7-43図 H2-7号掘立柱建物



第7章 下湯原遺跡(3)

(19) H2-8号掘立柱建物(第7-44図、PL.52)

位置 56区V～W-23～24グリッド、調査区東端寄りに位置する。

形状等 ピット6基が確認された。

規模 桁行4.43m、梁間2.77m。

桁行方位(度) N-86-E

本体構造 桁行柱間平均2.17m、梁行柱間平均2.76mの1×2間の東西棟掘立柱建物が確認された。

埋没土 ピット埋没土の多くは径1mmの白色・褐色軽石を含む黒褐色土。

重複 なし。

遺物 なし。

所見 本遺構の年代を特定する資料は得られていない。

(20) H3-1号掘立柱建物(第7-45図、PL.53)

位置 56区U～W-56区24～66区1グ

リッド、調査区東端寄りに位置する。

形状等 ピット13基が確認された。

規模 桁行6.34m、梁間4.51m。

桁行方位(度) N-69-E

本体構造 全体としては桁行柱間平均1.51m、梁行柱間平均2.52mの変則的な2×4の東西棟掘立柱建物であるが、桁行5.65m、梁行4.51mの1×3の東西棟掘立柱建物の北辺と東辺をそれぞれ一間拡張したものと推測される。なお、本体部分の桁行柱間は平均1.90m、梁行柱間は平均3.91m。

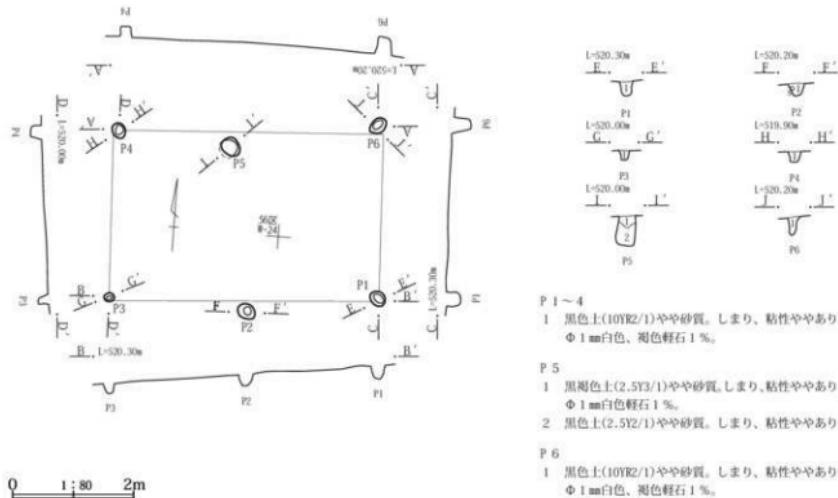
埋没土 ピット埋没土の多くは径1mmの白色軽石を含む

第7-37表 H2-8号掘立柱建物柱間計測表

	桁行 柱間	桁行 柱間	桁行 柱間
P4	— 1.83 —	P5	— 2.44 —
梁行柱間	2.76		2.83
P3	— 2.24 —	P2	— 2.18 —
梁間	2.76	2.69	2.83

第7-38表 H2-8号掘立柱建物ピット計測表

ピット	P1	P2	P3	P4	P5	P6
位置	56区V-23	56区V-23	56区V-23	56区V-24	56区V-24	56区V-24～25
規模(m)	長 0.28	0.31	0.18	0.26	0.34	0.32
短 0.23	0.24	0.15	0.21	0.27	0.22	
深 0.24	0.20	0.16	0.18	0.50	0.31	
平面形状	長円形	偏円形	偏円形	偏円形	偏円形	偏円形
上輪方位(度)	N-54-E	N-60-E	N-85-E	N-29-E	N-45-E	N-47-E
田名	H2区12P	H2区48P	H2区18P	H2区44P	H2区32P	H2区4P

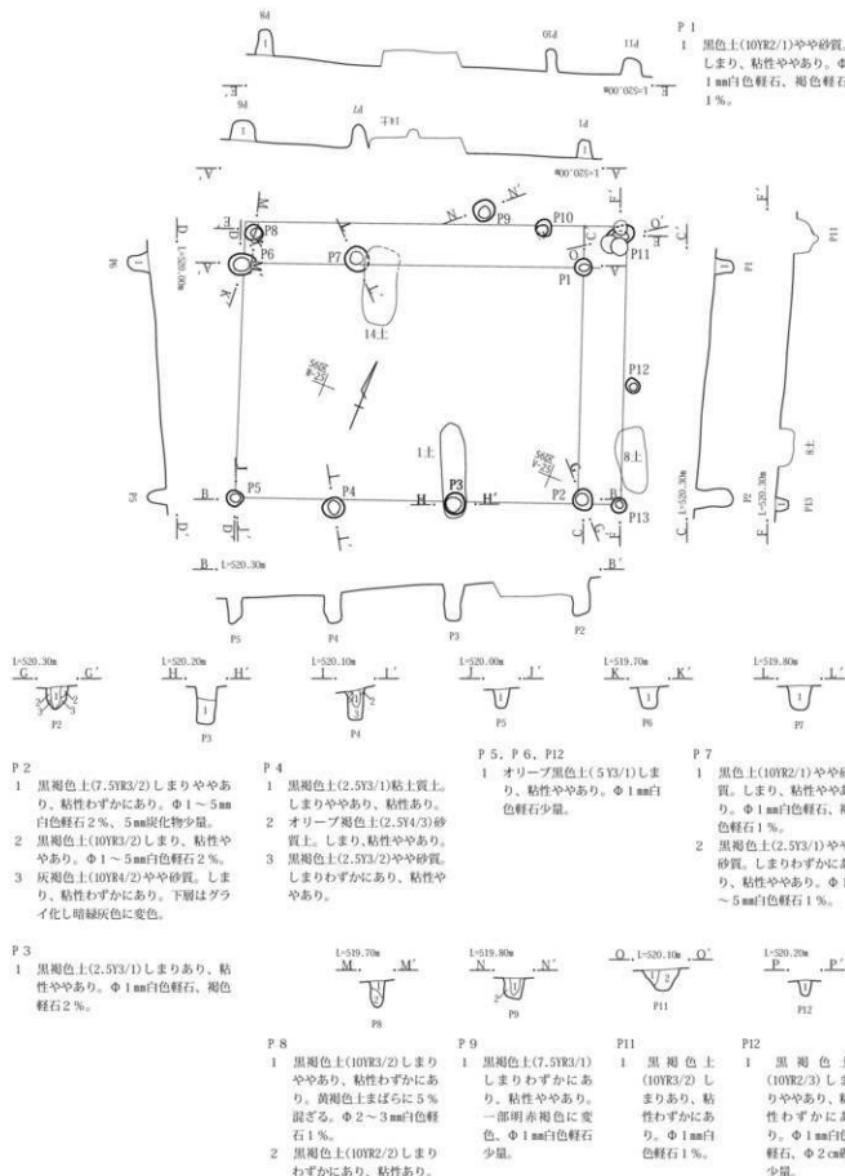


第7-44図 H2-8号掘立柱建物

P1～4
1 黒褐色土(10YR2/1)やや砂質。しまり、粘性ややあり。
Φ 1mm白色、褐色軽石 1%。

P5
1 黒褐色土(2.5Y3/1)やや砂質。しまり、粘性ややあり。
Φ 1mm白色軽石 1%。
2 黑色土(2.5Y2/1)やや砂質。しまり、粘性ややあり。

P6
1 黑色土(10YR2/1)やや砂質。しまり、粘性ややあり。
Φ 1mm白色、褐色軽石 1%。



第7-45図 H3-1号掘立柱建物

第7章 下湯原遺跡(3)

黒褐色土であるが、褐色軽石を含むものもある。

重複 H2-1号土坑、H2-14号土坑、H3-2号ピット、
H3-6号ピット、H3-32号ピット。

遺物 なし。

所見 本遺構の年代を特定する資料は得られていない。

重複する土坑・ピット のいずれにも先行する。なお、3基のピットはP11に位置する柱の改修に関連する遺構の可能性がある。

(21) H3-2号掘立柱建物(第7-46図、PL.52)

位置 66区V～W-1～2グリッド、調査区東端寄りに位置する。

形状等 ピット6基が確認された。

規模 桁行3.54m、梁間2.88m。

桁行方位(度) N-64-W

本体構造 桁行柱間平均1.76m、梁行柱間平均2.77mの

1×2間の南北棟掘立柱建物が確認された。

埋没土 ピット埋没土の多くは径1mmの白色軽石を含む黒褐色土。

重複 H3-3号掘立柱建物。

遺物 なし。

所見 本遺構の年代を特定する資料は得られていない。

H3-3号掘立柱建物との新旧は不明である。

(22) H3-3号掘立柱建物(第7-46図、PL.52)

位置 66区V～W-1～2

形状等 ピット4基が確認された。

規模 桁行3.15m、梁間2.36m。

桁行方位(度) N-68-E

本体構造 桁行柱間平均3.02m、梁行柱間平均2.33mの1×1間の東西棟掘立柱建物が確認された。

埋没土 ピット埋没土の多くは径1mmの白色軽石を含むオリーブ黒色土。

重複 H3-2号掘立柱建物

第7-39表 H3-1号掘立柱建物柱間計測表

	桁行柱間	桁行柱間	桁行柱間	桁行柱間	桁行	本体桁行
P8	-	-	P9	P10	-	P11
梁行柱間	0.56			0.92	2.49	
P6	-	1.86	-	P7	-	P12
				P11		
梁行柱間	3.84	4.10		3.79	1.93	
P5	-	1.63	P4	-	2.00	P13
梁間	4.35			2.09	0.62	P14
本体梁間	3.84	4.10		4.80	4.46	5.70
				0.33	0.35	
				0.33	0.36	0.44
				0.33	0.36	0.34
				0.33	0.36	0.35

第7-40表 H3-1号掘立柱建物ピット計測表

ピット	P1	P2	P3	P4	P5	P6	P7	P8	P9	P10
位置	56KV-25	56KV-25	56KV-24	56KV-24	56KV-24	56KV-25	56KV-25	56KV-25	56KV-25	56KV-25
規模(m)	長 0.29 短 0.28 深 0.32	0.35 0.33 0.52	0.35 0.34 0.40	0.37 0.34 0.53	0.28 0.27 0.33	0.46 0.36 0.35	0.42 0.39 0.35	0.30 0.27 0.36	0.37 0.36 0.44	0.286 0.278 0.35
平面形状	円形	偏円形	偏円形	偏円形	偏円形	偏円形	長円形	偏円形	円形	偏円形
主軸方位(度)	N-29-W	N-70-W	N-19-E	N-61-E	N-64-E	N-56-E	N-31-W	N-74-E	N-6-E	N-63-W
旧名称	H3K28P	H3K14P	H2K157P	H2K5P	H2K22P	H2K30P	H2K27P	H2K29P	H3K15P	

ピット	P11	P12	P13
位置	56KV-25～66KV-25	56KV-25	56KV-24～25
規模(m)	長 (0.44) 短 (0.30) 深 (0.34)	0.24 0.22 0.24	0.25 0.25 0.2
平面形状	長円形	偏円形	円形
主軸方位(度)	N-42-E	N-35-W	N-23-W
旧名称	H3K33P	H3K23P	H3K27P

第3節 検出された遺構と遺物

遺物 なし。

所見 本遺構の年代を特定する資料は得られていない。

H3-2号掘立柱建物との新旧は不明である。

第7-41表 H3-2号掘立柱建物柱間計測表

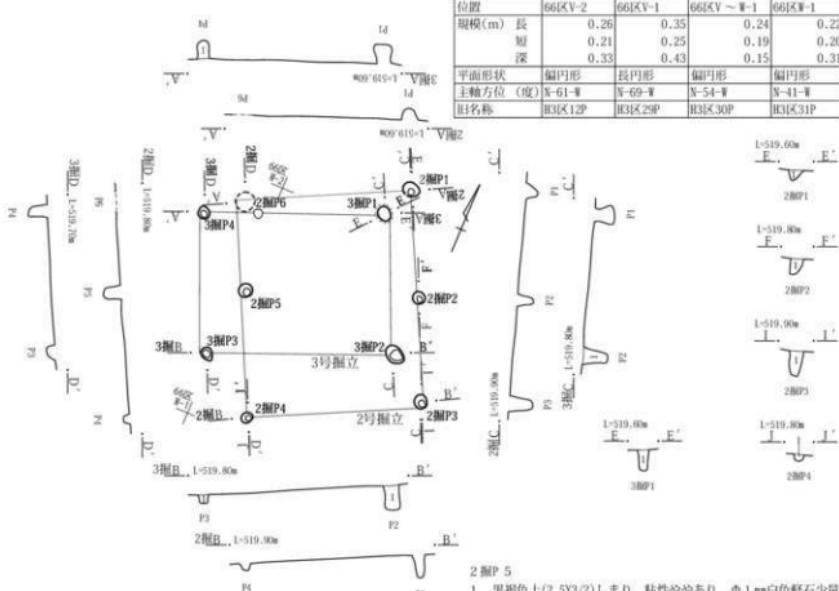
	柱間	柱間	柱間
	P4	P5	P6
梁行柱間	— 2.08 —	— 1.49 —	— 2.72 —
	2.82	2.85	2.72
	P3	P2	P1
梁間	— 1.70 —	— 1.78 —	— 3.49 —
	2.82	2.72	3.49

第7-43表 H3-3号掘立柱建物柱間計測表

	柱間	柱間
	P4	P5
梁行柱間	— 2.94 —	— 2.94 —
	2.31	2.34
	P6	P7
梁間	— 3.09 —	— 3.09 —
	2.31	2.34

第7-44表 H3-3号掘立柱建物ビット計測表

ビット	P 1	P 2	P 3	P 4
位置	661KV-2	661KV-1	661KV-W-1	661KV-W-1
規模(m)	長 0.26	0.35	0.24	0.22
短 0.21	0.25	0.19	0.20	
深 0.33	0.43	0.15	0.31	
平面形状	偏円形	長円形	偏円形	偏円形
主軸方位(度)	N-89-W	N-79-W	N-42-E	N-25-E
証名称	H3-318P	H3-319P	H3-320P	H3-321P



H3-2号掘立柱建物

2箇P 1

- 1 喀褐色土(10YR3/3)しまり、粘性ややあり。Φ 1 ~ 3 mm白色軽石少量。
- 2 黄褐色土(2.5Y5/4)しまりわずかにあり、粘性ややあり。

2箇P 2, P 3

- 1 喀褐色土(10YR3/3)しまり、粘性ややあり。Φ 1 ~ 3 mm白色軽石少量。

2箇P 4

- 1 黒褐色土(7.5YR3/1)しまり、粘性ややあり。Φ 1 mm白色軽石少量。

1 黒褐色土(2.5Y3/2)しまり、粘性ややあり。Φ 1 mm白色軽石少量。

H3-3号掘立柱建物

3箇P 1

- 1 オリーブ黒色土(5Y3/1)しまり、粘性ややあり。

3箇P 2 ~ 4

- 1 オリーブ黒色土(5Y3/1)しまり、粘性ややあり。Φ 1 mm白色軽石少量。

0 1:80 2m

第7-46図 H3-2・3号掘立柱建物

4 竪穴状遺構

西側調査区北部から1基、西側調査区西半から1基の竪穴状遺構が確認されている。西側調査区北部の遺構は西側調査区北部から検出された2群の掘立柱建物の中間に西寄りの地点から検出された。西側調査区西半の遺構は掘立柱建物が密集する一画に隣接した位置から検出されている。

(1) A4-1号竪穴状遺構(第7-47, 75図, PL.52, 53, 73)

位置 58区L～M-6～7グリッド、西側調査区北部に位置する。

形状等 短軸方向に突出部を持つ長方形を呈し、一面に炭化物が散在し、遺構中央部には礫が集中する。

規模 長方形部分3.01×2.41m、張出部1.20×0.67m(方形部とあわせ幅3.08m)を測る。深さ0.35m。

主軸方位(度) N-20-W

埋没土 径5mmの白色軽石と径2～3cmの礫を含む黒褐色土に覆われ、北辺沿いに焼土の混ざる埋没土が存在する。

掘り方 ピット6基を伴い、方形の内周には溝を持つ。

重複 なし。

遺物 繩文土器壺之内1式(17)、銭種不明の古銭(18)などが出土しているほか、図化には至らないが、羽釜片(1点24g)や土師器片(78点446g)、中世在地土器片(6点110g)鉄滓のほかP4からは中世国産陶器片(1点4g)も出土している。

所見 本遺構の年代は、出土遺物から中世以降に比定される。

(2) H2-1号竪穴状遺構(第7-48図、PL.53)

位置 56区X～Y-24～25グリッド、西側調査区西半に位置する。

形状等 圓丸長方形を呈する。

規模 2.47×1.86m、深さ0.39m。

主軸方位(度) N-61-E

埋没土 径1～3mmの白色軽石と、径5mmの褐色軽石および径1～3cm黄褐色土ブロックを含む暗灰黃土。

重複 H2-155号ピット、H2-156号ピット。

遺物 なし。

所見 本遺構の年代を特定する資料は得られていない。

ピットのいずれにも先行する。

5 溝

溝の検出位置は西側調査区の北部と東半に限られており、11条が検出された。西側調査区北部からの検出は1条にとどまるが、既報1で報告された鉤の手状に走る中世の溝の南端となる。この溝を除き、検出された溝で東西方向に主軸を持つものは西側調査区中央部東寄りに限られる。この6条の溝はいずれも等高線に対しやや東下がりに位置し、ほぼ並行して存在しており、地形に応じて配置されたと推察される。

(1) A1-1号溝(第7-48, 75図、PL.53, 73)

位置 58区M～O-7～8グリッド、西側調査区北部に位置する。

形状等 確認された部分は東西に走るが、既報の鉤の手状に走る溝の南端である。

規模 (5.30)×0.45m、深さ0.17～0.24m。既報部分を合わせると(31.60)×0.43～2.05m、深さ0.17～1.49m。なお、今回確認された範囲の両端部底面の標高差は0.09mを測る。

走行方位(度) N-65-E。(既報部を含め)N-31-E。

埋没土 径0.5～2cmの礫を含む黒褐色土。

重複 A4-13号ピット、A4-14号ピット。

遺物 繩文土器加曾利E3(19, 20)が出土している。

所見 本遺構は既報の中世の溝の南端であるが、明確な水源は確認されていない。いずれのピットにも先行する。

備考 調査時の名称は、A4-1号溝。

(2) H2-3号溝(第7-49, 75図、PL.54, 73)

位置 56区W～57区A-19～24グリッド、西側調査区東端近くに位置する。

形状等 傾斜に沿い南北に位置する。

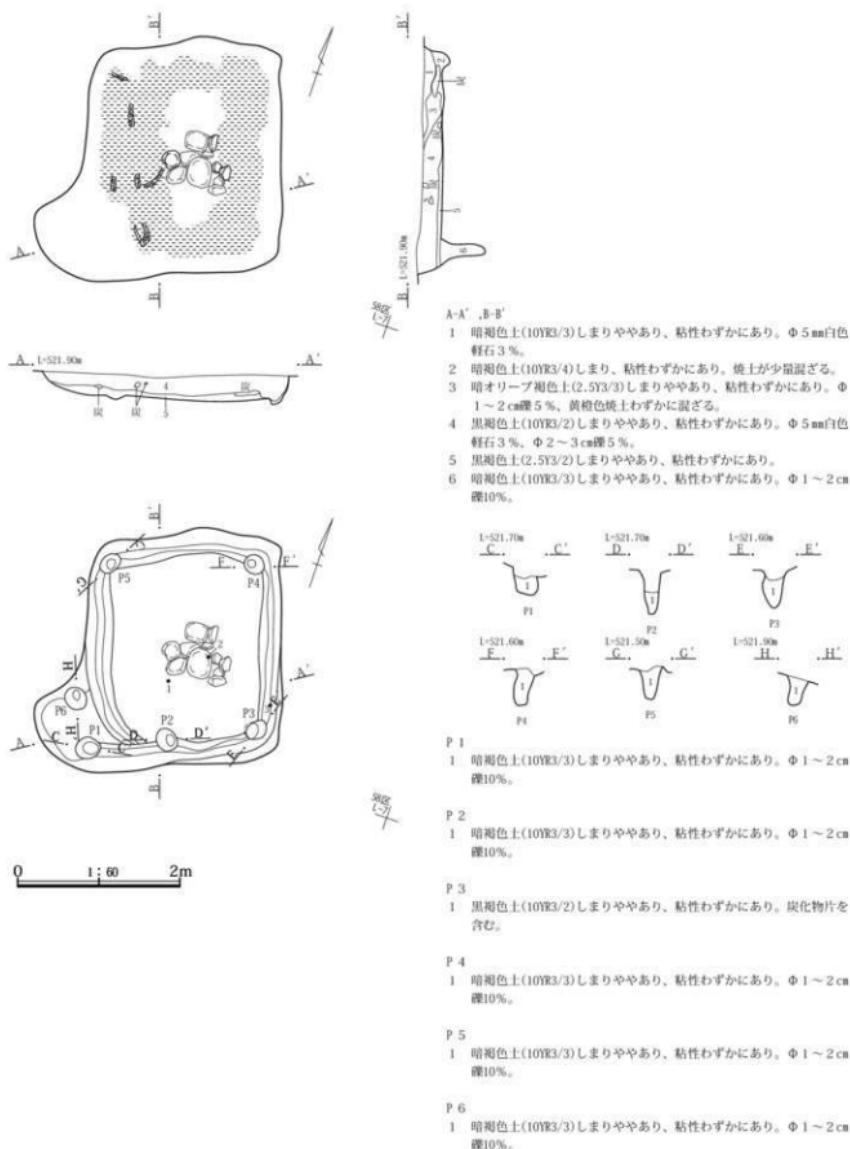
規模 (22.74)×1.20～2.94m、深さ0.29m。両端部の標高差は1.37m、北下がり。

走行方位(度) N-30-W

埋没土 粗砂多く混ざり、径2～3cm礫を含み、鉄分凝集によりまばらに明赤褐色に変色する砂質土。

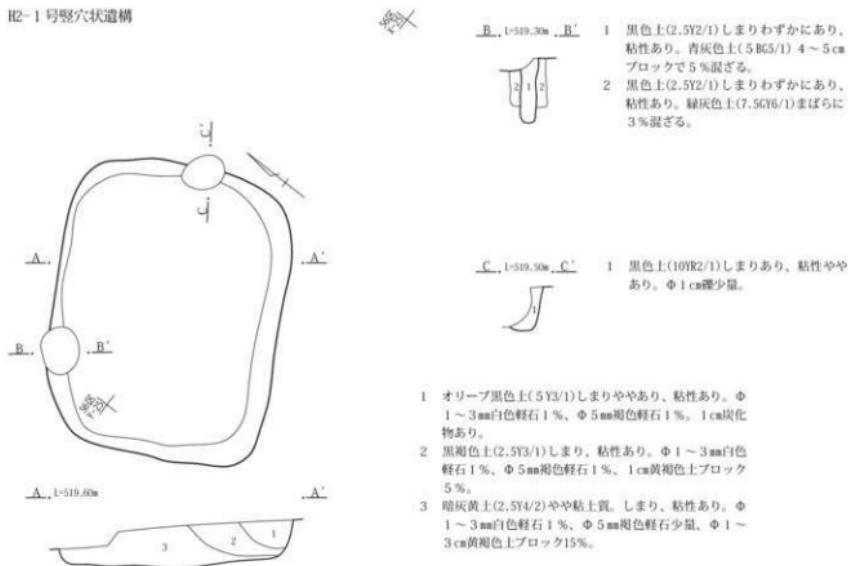
重複 H2-9号土坑。

遺物 溝の西辺から石臼(21)が出土している。

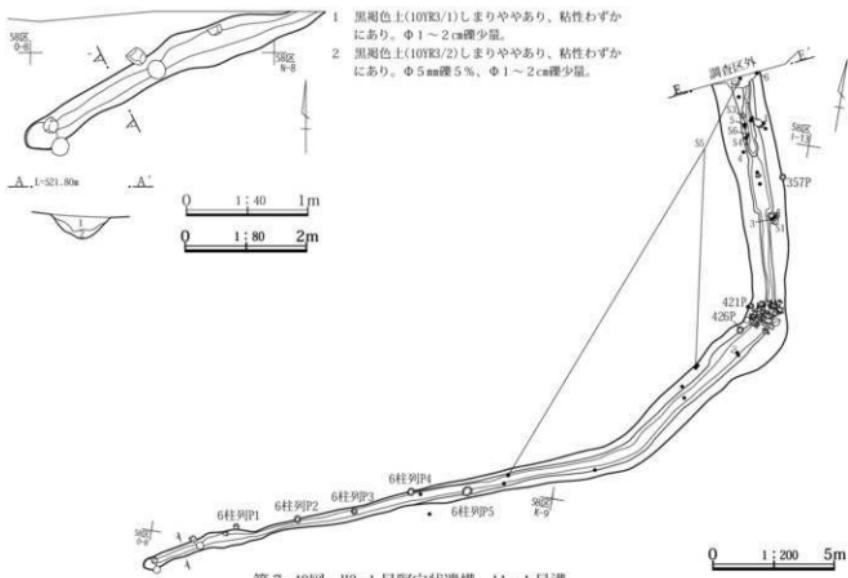


第7-47図 A4-1号竖穴状遺構

H2-1号竖穴状遗構



A1-1号溝

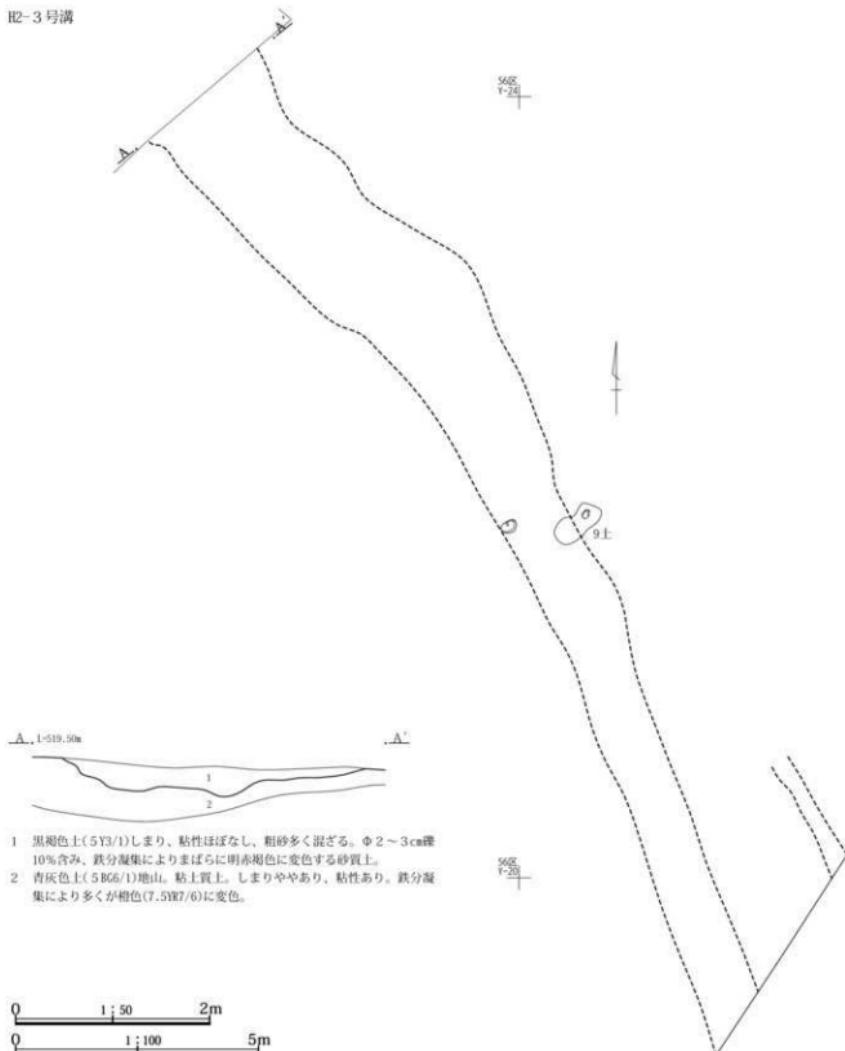


第7-48图 H2-1号竖穴状遗构、A1-1号溝

所見 本遺構の年代は、出土遺物から中世以降に比定される。H2-9号土坑に先行する。なお、本遺構は1面

の2号溝の下位に位置している。また未調査区画を間に挟むが、既報2のD3区2面1号溝ないしは3面16号溝に連なる可能性がある。

H2-3号溝



第7-49図 H2-3号溝

第7章 下湯原遺跡(3)

(3) H2-4号溝(第7-50図、PL.54)

位置 57区G～H-12～13グリッド、西側調査区中央部に位置する。

形状等 傾斜に沿い直線状に存在する。

規模 $(4.26) \times 0.74\text{m}$ 、深さ0.05～0.14m。両端部底面の標高差は0.30m。

走行方位(度) N-11-W

埋没土 粗砂多く混ざる暗赤褐色の砂質土。

重複 H2-1号掘立柱建物P2、H2-19号土坑、H2-20号土坑。

遺物 なし。

所見 本遺構の年代を特定する資料は得られていない。

H2-20号土坑より新しく、H2-1号掘立柱建物P2、H2-19号土坑に先行する。

(4) H2-5号溝(第7-50図、PL.54)

位置 57区C-16グリッド、西側調査区中央部東寄りに位置する。

形状等 等高線に沿い直線状、南に位置するH2-6号溝と並行する。

規模 $(3.43) \times 0.25\text{m}$ 、深さ0.03m。両端部底面の標高差は0.03m。

走行方位(度) N-68-E

埋没土 オリーブ褐色がまばらに混ざる黒褐色土。

重複 なし。

遺物 なし。

所見 本遺構の年代を特定する資料は得られていない。

H2-5～7号溝は平行に位置しており、上層に存在した区画の痕跡である可能性がある。

(5) H2-6号溝(第7-50図、PL.54)

位置 57区B～C-15グリッド、西側調査区中央部東寄りに位置する。

形状等 等高線に沿い直線状、北に位置するH2-5号溝、南に位置するH2-7号溝と並行する。

規模 $(13.87) \times 0.22\text{m}$ 、深さ0.03m。両端部底面の標高差は0.06m。

走行方位(度) N-65-E

埋没土 オリーブ褐色がまばらに混ざる黒褐色土。

重複 H2-159号ピット。

遺物 なし。

所見 本遺構の年代を特定する資料は得られていない。H2-159号ピットより新しい。H2-5～7号溝は平行に位置しており、上層に存在した区画の痕跡である可能性がある。

(6) H2-7号溝(第7-50図、PL.54)

位置 57区A～C-14～15グリッド、西側調査区中央部東寄りに位置する。

形状等 等高線に沿い直線状、北に位置するH2-6号溝と並行する。

規模 $(5.96) \times 0.27\text{m}$ 、深さ0.01～0.05m。両端部底面の標高差は0.04m。

走行方位(度) N-71-E

埋没土 オリーブ褐色がまばらに混ざる黒褐色土。

重複 なし。

遺物 なし。

所見 本遺構の年代を特定する資料は得られていない。H2-5～7号溝は平行に位置しており、上層に存在した区画の痕跡である可能性がある。

(7) H2-8号溝(第7-50図、PL.54)

位置 57区H～I-11～12グリッド、西側調査区中央部に位置する。

形状等 等高線に沿い直線状に位置する。

規模 $3.28 \times 0.48\text{m}$ 、深さ0.01～0.11m。両端部底面の標高差は0.07m。

走行方位(度) N-70-E

埋没土 径3～10cmの礫を含むほぼ砂質の暗赤褐色土。

重複 なし。

遺物 なし。

所見 本遺構の年代を特定する資料は得られていない。

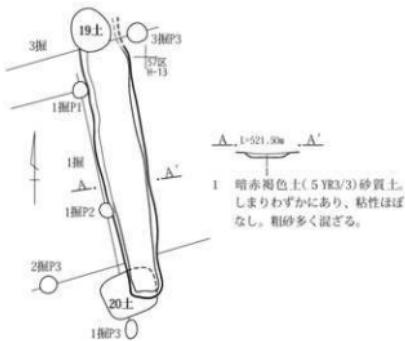
(8) H2-9号溝(第7-50図、PL.54)

位置 57区E～G-17～18グリッド、西側調査区中央部東寄りに位置する。

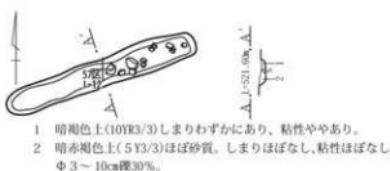
形状等 南に位置するH2-10号溝と並行し、等高線に沿い直線状に位置する。

規模 $7.68 \times 0.18 \sim 0.35\text{m}$ 、深さ0.02～0.05m。両端部底面の標高差は0.04m。

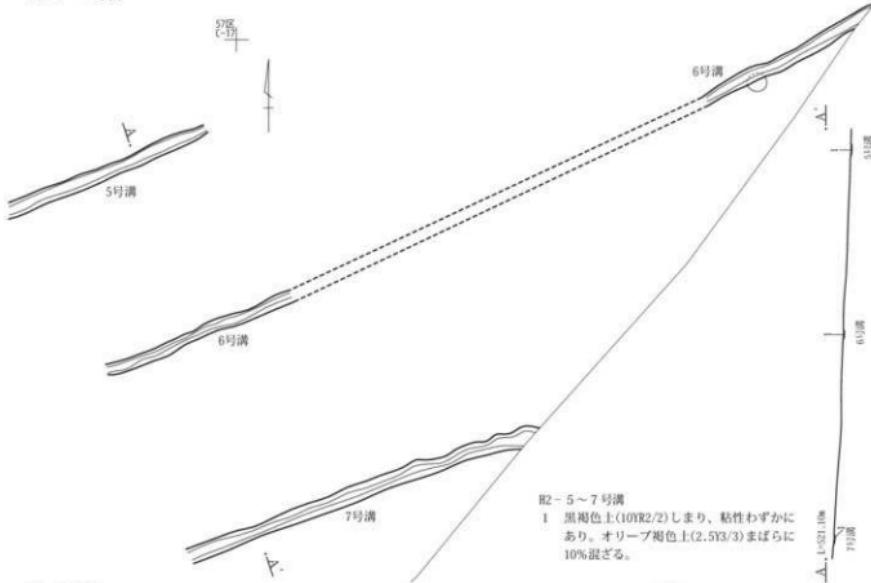
H2-4号溝



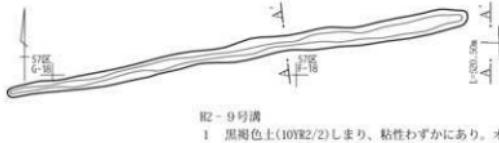
H2-8号溝



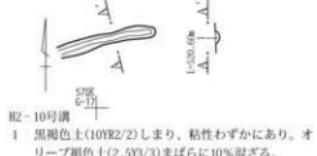
H2-5~7号溝



H2-9号溝



H2-10号溝



第7-50図 H2-4~10号溝

第7章 下湯原遺跡(3)

走行方位(度) N - 80 - E

埋没土 オリーブ褐色土がまばらに混ざる黒褐色土。

重複 なし。

遺物 なし。

所見 本遺構の年代を特定する資料は得られていない。

(9) H2 - 10号溝(第7 - 50図、PL.54)

位置 57区F～G - 17グリッド、西側調査区中央部東寄りに位置する。

形状等 北に位置するH2 - 9号溝と並行し、等高線に沿う直線状に位置する。

規模 (1.66) × 0.22m、深さ0.06m。両端部底面の標高差は計測不能。

走行方位(度) N - 77 - E

埋没土 オリーブ褐色土がまばらに混ざる黒褐色土。 H3 - 1号溝

重複 なし。

遺物 なし。

所見 本遺構の年代を特定する資料は得られていない。

(10) H3 - 1号溝(第7 - 51図、PL.55)

位置 56区T～U - 25～26グリッド、西側調査区東半に位置する。

形状等 傾斜に沿う、緩やかな弧状を描く。

規模 (5.34) × 0.25～0.62m、深さ0.06～0.14m。両端部底面の標高差は0.26m。

走行方位(度) N - 35 - W

埋没土 3～5cmの角礫を多く含む暗赤褐色の粗砂。

重複 なし。

遺物 固化には至らなかったが、近世国産施釉陶器(1点5g)が出土している。

所見 本遺構の年代は、出土遺物から近世以降に比定される。

(11) H3 - 2号溝(第7 - 51図、PL.55)

位置 66区M～N - 7グリッド、西側調査区東端に位置する。

形状等 傾斜に沿う直線状に位置する。

規模 (3.21) × 0.40m、深さ0.33m。両端部底面の標高差は0.30m。

走行方位(度) N - 33 - W

埋没土 径1～5mmの白色軽石を含む黒褐色土。

重複 なし。

遺物 なし。

所見 本遺構の年代を特定する資料は得られていない。

6 燃土遺構

西側調査区から5基の燃土遺構が確認されたが、このうち4基が西側調査区北部からの検出である。残る1基は西側調査区西端からの検出である。

(1) A4 - 1号燃土遺構(第7 - 52図、PL.55)

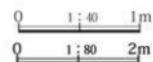
位置 58区Q～R - 5グリッド、西側調査区北部に位置する。



1 暗赤褐色砂(5YR3/4)粗砂。しまり、粘性なし。3～5cm角礫多く含む。



- 1 As-A'
- 2 黒褐色土(10YR3/1)耕作上。しまりあり、粘性わずかにあり。Φ 1mm白色軽石少量。
- 3 黒褐色土(7.5YR3/1)やや砂質。しまりあり、粘性わずかにあり。Φ 1～5mm白色軽石1%。
- 4 黒褐色土(7.5YR3/2)しまり。粘性ややあり。Φ 1～5mm白色軽石少量。



第7-51図 H3-1～2号溝

形状等 隅丸方形を呈し、炭化物の薄い堆積層の上に焼土が存在する。

規模 $0.42 \times 0.36\text{m}$

主軸方位(度) N - 43 - E

重複 なし。

遺物 なし。

所見 本遺構の年代を特定する資料は得られていない。

(2) A4- 2号焼土遺構(第7 - 52図、PL.55)

位置 58区P - 6 グリッド、西側調査区北部に位置する。

形状等 不整形を呈する。

規模 $0.81 \times 0.57\text{m}$

主軸方位(度) N - 80 - E

重複 なし。

遺物 なし。

所見 本遺構の年代を特定する資料は得られていない。

(3) A4- 3号焼土遺構(第7 - 52図、PL.55)

位置 58区M - 8 グリッド、西側調査区北部に位置する。

形状等 双円形を呈する。

規模 $0.39 \times 0.29\text{m}$

主軸方位(度) N - 12 - E

埋没土 下層に鉄鏽層のあるグライ化した耕作土の下位に位置する、径5mmの砾を含む暗褐色土。

重複 A4- 1号掘立柱建物。

遺物 なし。

所見 本遺構の年代は、A4- 1号掘立柱建物の上位に位置することから近世に比定される。

(4) A4- 4号焼土遺構(第7 - 53図、PL.55)

位置 58区K - 8 グリッド、西側調査区北部に位置する。

形状等 亜円形を呈する。

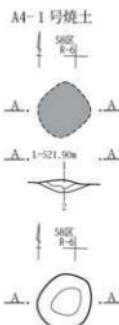
規模 $0.46 \times 0.40\text{m}$

主軸方位(度) N - 76 - E

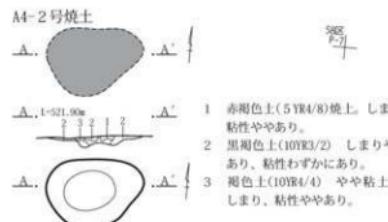
重複 なし。

遺物 なし。

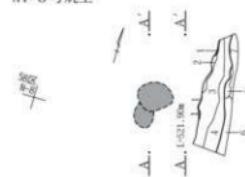
所見 本遺構の年代を特定する資料は得られていない。



- 1 赤褐色土(5YR4/6)焼土。しまりわずかにあり、粘性あり、下層に炭化物の薄い堆積層あり。Φ 1 ~ 3cm 粒5%。
- 2 黑褐色土(10YR4/4)しまりややあり、粘性わずかにあり。



A4- 3号焼土



- 1 As - A
- 2 黑褐色土(7.5YR3/2)しまりあり、粘性わずかにあり。底として高められている。
- 3 黑褐色土(7.5YR3/1)耕作土。しまりあり、粘性ややあり。Φ 1cm 粒5%。グライ化進む。下層に鉄鏽層。
- 4 明褐色土(10YR2/3)しまりややあり、粘性わずかにあり。Φ 5mm 粒2%。
- 5 明赤褐色土(5YR5/8)焼土。しまり、粘性ややあり。
- 6 暗赤褐色土(5YR5/3)やや粘土質。しまりわずかにあり、粘性ややあり。
- 7 暗褐色土(10YR3/3)わずかに粘土質。しまり、粘性ややあり。

第7-52図 A4- 1 ~ 3号焼土遺構



(5) H1-1号焼土遺構(第7-53図、PL.55)

位置 58区G-4グリッド、西側調査区西端に位置する。
形状等 双円形を呈する焼土範囲の周辺に炭化物が分布する。

規模 0.73×0.49m**主軸方位(度)** N-57-E**重複** なし。**遺物** なし。**所見** 本遺構の年代を特定する資料は得られていない。**遺物** なし。**所見** 本遺構の年代を特定する資料は得られていない。
 H2-8号掘立柱建物との関係は確定できない。

7 檻

西側調査区の東半から平行する2条の檻が検出されている。檻の北側には2棟の掘立柱建物が存在するが、檻の走行方位と建物の長手方向はおよそ一致している。また1棟の掘立柱建物は2条の檻と交差する位置に立地しており、存在時期が相違すると予想される。

(1) H2-1号檻(第7-54図、PL.55)

位置 56区V-X-23~24グリッド、西側調査区東半に位置する。

形状等 ピット7基が確認されたが、うち2基は隣接している。

規模 (11.62)m、ピット間隔は0.26~2.78mを測るが、隣接部分を除外した平均は2.22mとなる。

走行方位(度) N-66-E

重複 H2-3号土坑。また、交差する位置にH2-8号掘立柱建物が存在する。

遺物 なし。**所見** 本遺構の年代を特定する資料は得られていない。

H2-3号土坑に先行する。H2-8号掘立柱建物との関係は確定できない。

(2) H2-2号檻(第7-54図、PL.55)

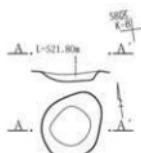
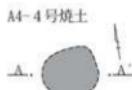
位置 56区U-X-23~24グリッド、西側調査区東半に位置する。

形状等 ピット9基が確認された。

規模 (11.36)m、ピット間隔は0.64~2.60mを測り、平均は1.39mとなる。

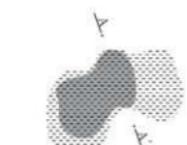
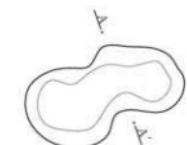
走行方位(度) N-68-E

重複 交差する位置にH2-8号掘立柱建物が存在する。



I 黄褐色土(10YR5/6)やシルト質。しまりややあり、粘性ほばなし。

II H1-4号焼土

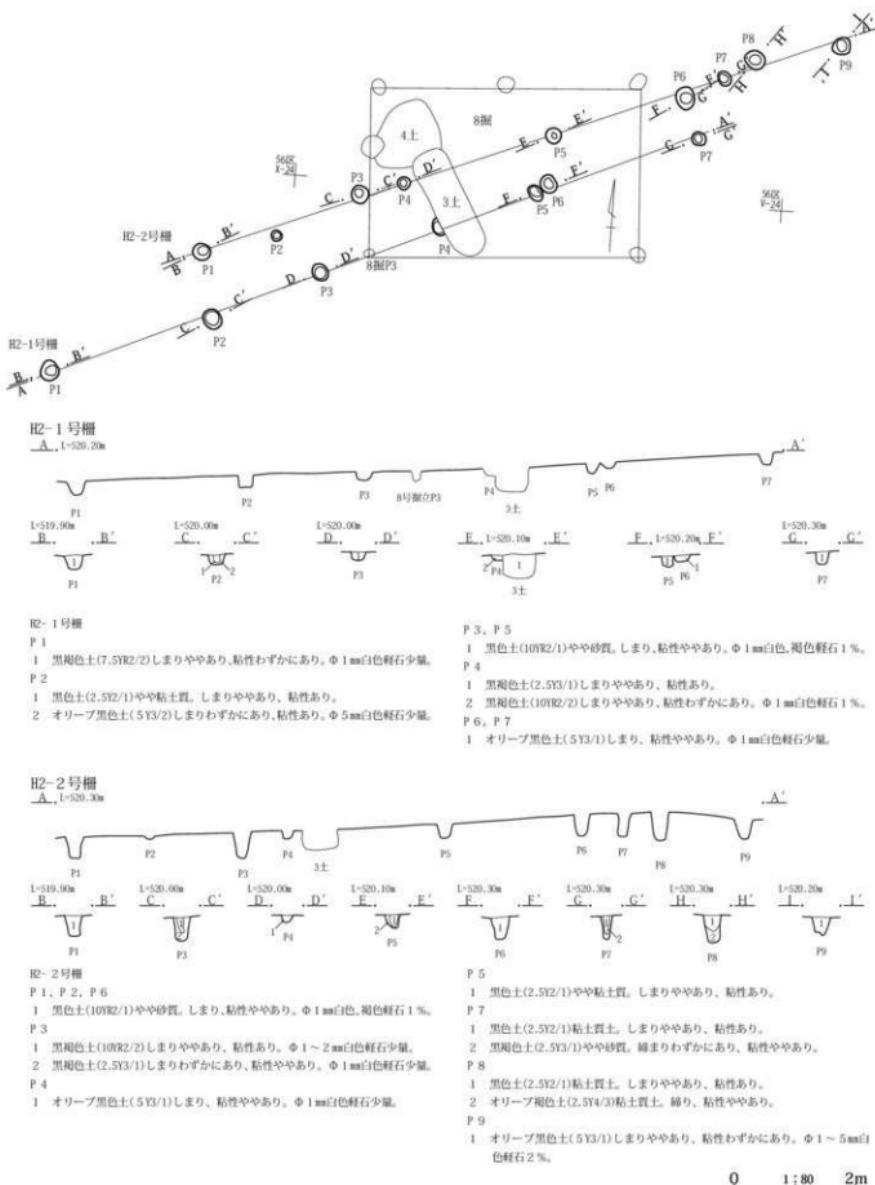
58区
G-558区
G-5

I 黒褐色土(10YR3/2)しまり、粘性わずかにあり。Φ1cm炭化物10%、Φ1~2cm橙色(7.5YR6/6)焼土ブロック5%。

2 暗褐色土(10YR3/3)しまり、粘性ややあり。Φ1~5mm白色軽石、Φ2~4mm鐵少量。

0 1:40 1m

第7-53図 A4-4号焼土遺構、H1-1号焼土遺構



第7-54図 H2-1～2号柵

8 土坑

2面の土坑105基は全て西側調査区からの検出である。西側調査区北部を含め、調査区の西と東に密集域が偏る傾向が認められ、調査区中央付近からの検出はまばらである。長軸が短軸の2倍を超える細長い土坑が15基ほど存在するが、1基を除き地形の傾斜に沿い等高線に交差する方向に軸線が位置している。また西側調査区の東半に、深い皿状の土坑が2m程度の間隔で等高線沿いに一列に並んだ形で検出されている。埋没土はいずれも径1~5mmの白色軽石を2%含むもので、その半数はグライ化の傾向があるが、ほぼ同一の土質であり、一連の遺構と推察される。なお骨や歯を伴う、土坑墓と考えられる土坑は6基検出されているが、その検出位置は調査区の西半から3基、東半から3基となっており、西側調査区の中央付近からは検出されていない。土坑墓の長軸方向は1基を除きいずれも西北であり、西側調査区北部から検出された1基のみが東北方向の軸線となっている。

(1) A4-1号土坑(第7-55図、PL.56)

位置 58区Q-6グリッド、西側調査区北部に位置する。

形状等 偏円形を呈する。

規模 1.54×1.38m、深さ0.24m。

主軸方位(度) N-19-W

埋没土 径5mmの礫5%、径3cmの角礫少量を含む黒褐色土。

重複 なし。

遺物 図面には至らなかったが、縄文時代中期後半の唐草文系の土器片が出土している。

所見 本遺構の年代は、出土遺物から縄文時代以降に比定される。

(2) A1-18号土坑(第7-55図)

位置 58区N-7~8グリッド、西側調査区北部に位置する。

形状等 偏円形を呈する。

規模 1.16×0.50m、深さ0.38m。

主軸方位(度) N-19-E

埋没土 径1~3cmの礫を10%程度、地山黄褐色土粒子を3%程度含む暗褐色土。

重複 上位にA1-1号溝。

遺物 なし。

所見 確報1で北半が報告されたA1区18号土坑の南に連なることから、本遺構の年代は中近世に比定される。

(3) A4-2号土坑(第7-55図、PL.56)

位置 58区M~N-5~6グリッド、西側調査区北部に位置する。

形状等 遺構南半が調査区外に及び不明。

規模 1.36×2.20m、深さ0.22m。

主軸方位(度) N-10-W

埋没土 白色粒・褐色粒、炭化物をわずか含む、径1~2cmの礫を含み、鉄分付着する暗褐色土。

重複 A4-83号ピット。下位にA4-84号ピット、A4-85号ピット。

遺物 なし。

所見 本遺構の年代を特定する資料は得られていない。A4-83号ピットより新しい。

(4) A4-3号土坑(第7-55図、PL.56)

位置 58区M~N-6グリッド、西側調査区北部に位置する。

形状等 偏円形を呈する。

規模 1.52×1.36m、深さ0.12m。

主軸方位(度) N-3-E

埋没土 白色粒・褐色粒、炭化物をわずか含む、径3~4cmの礫を含み、鉄分付着する暗褐色土。

重複 なし。

遺物 なし。

所見 本遺構の年代を特定する資料は得られていない。

(5) A4-4号土坑(第7-55図、PL.56)

位置 58区N-6~7グリッド、西側調査区北部に位置する。

形状等 長円形を呈する。

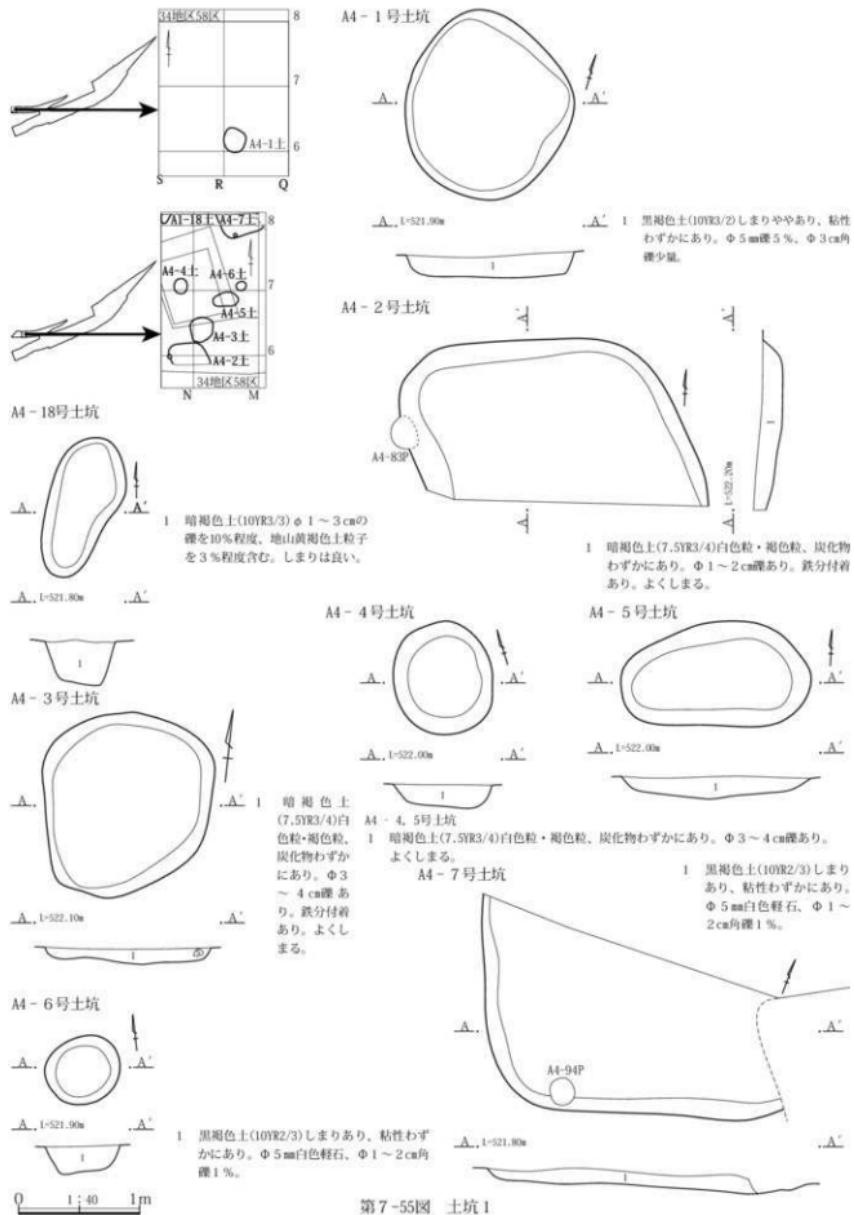
規模 0.90×0.82m、深さ0.18m。

主軸方位(度) N-0

埋没土 白色粒・褐色粒、炭化物をわずか含む、径3~4cmの礫を含み、鉄分付着する暗褐色土。

重複 なし。

遺物 なし。



第7-55図 土坑1

第7章 下湯原遺跡(3)

所見 本遺構の年代を特定する資料は得られていない。

(6) A4-5号土坑(第7-55図、PL.56)

位置 58区M-6グリッド、西側調査区北部に位置する。

形状等 偏円形を呈する。

規模 1.54×0.85m、深さ0.18m。

主軸方位(度) N-87-E

埋没土 白色粒・褐色粒、炭化物をわずか含み、径3~4cmの礫を含む暗褐色土。

重複 なし。

遺物 なし。

所見 本遺構の年代を特定する資料は得られていない。

(7) A4-6号土坑(第7-55図、PL.56)

位置 58区M-7グリッド、西側調査区北部に位置する。

形状等 円形を呈する。

規模 0.62×0.56m、深さ0.24m。

主軸方位(度) N-73-E

埋没土 径5mmの白色軽石と径1~2cmの角礫を1%含む黒褐色土。

重複 なし。

遺物 なし。

所見 本遺構の年代を特定する資料は得られていない。

(8) A4-7号土坑(第7-55図、PL.56)

位置 58区L~M-7~8グリッド、西側調査区北部に位置する。

形状等 北半が調査区外に及び不明。

規模 (2.40)×(1.54)m、深さ0.22m。

主軸方位(度) N-23-W

埋没土 径5mmの白色軽石と径1~2cmの角礫を1%含む黒褐色土。

重複 A4-94号ピット。

遺物 図化には至らなかったが、土師器片や中世在地土器片(1点32g)が出土している。

所見 本遺構の年代は、出土遺物から中世以降に比定される。A4-94号ピットに先行する。

(9) A2-106号土坑(第7-56図)

位置 58区H-6グリッド、西側調査区北部に位置する。

形状等 不整形を呈する。

規模 1.62×1.26m、深さ0.22m。

主軸方位(度) N-69-E

埋没土 径5~80mmの礫を多く含み、ロームブロックを少量含む暗褐色土。

重複 A2-164号ピット。

遺物 なし。

所見 既報1で南辺が報告されたA2区106号土坑の北に連なることから、本遺構の年代は中近世に比定される。A2-164号ピットに先行する。

(10) A4-8号土坑(第7-56図、PL.57)

位置 58区K-7グリッド、西側調査区北部に位置する。

形状等 偏円形を呈する。

規模 1.08×0.50m、深さ0.36m。

主軸方位(度) N-20-W

埋没土 径1mmの白色軽石を少量含む黒褐色土。

重複 なし。

遺物 なし。

所見 本遺構の年代を特定する資料は得られていない。

(11) A4-9号土坑(第7-56図、PL.57)

位置 58区J~K-7グリッド、西側調査区北部に位置する。

形状等 不整形を呈する。

規模 2020×1.47m、深さ0.32m。

主軸方位(度) N-87-E

埋没土 白色粒・褐色粒をわずか含み、径1~2cmの礫とロームブロックを含む褐色土。

重複 なし。

遺物 なし。

所見 本遺構の年代を特定する資料は得られていない。

(12) A4-10号土坑(第7-56図、PL.57)

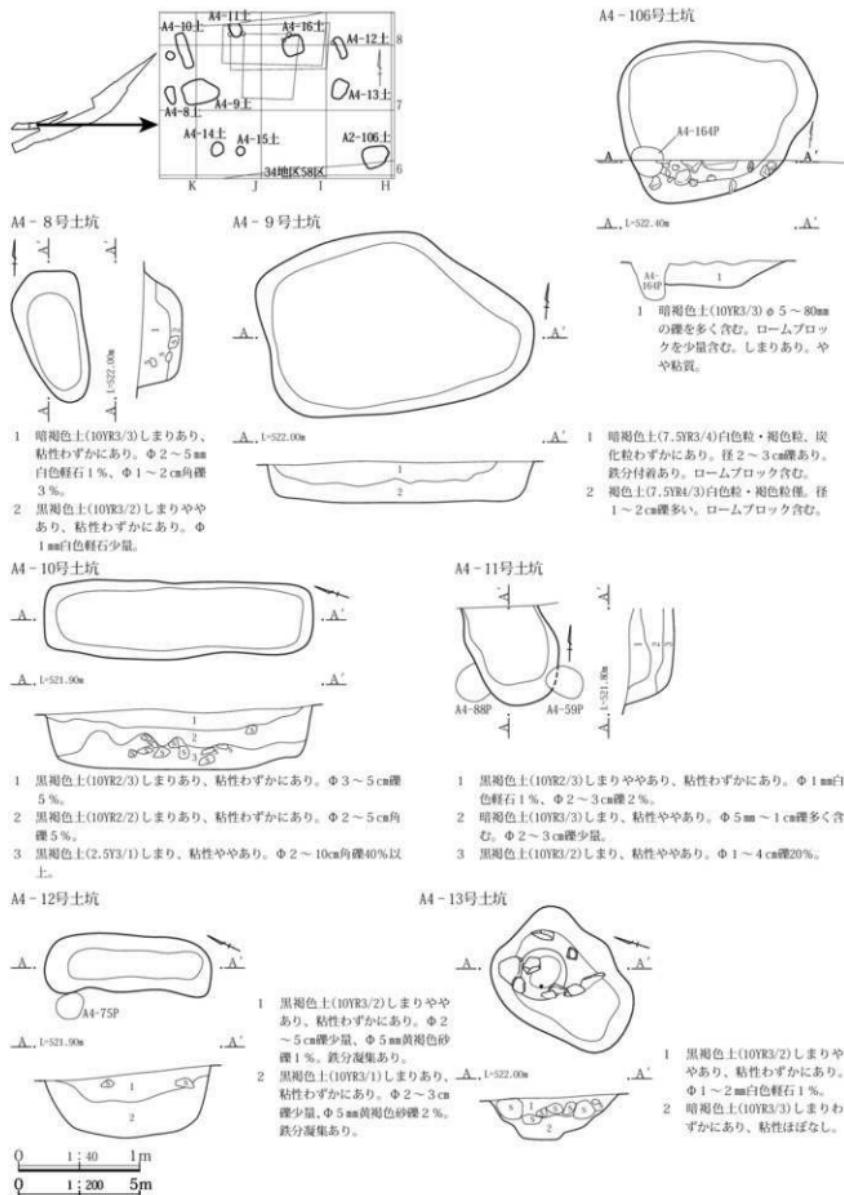
位置 58区K-7~8グリッド、西側調査区北部に位置する。

形状等 長方形を呈する。

規模 2020×0.62m、深さ0.50m。

主軸方位(度) N-19-W

埋没土 径2~10cmの角礫を40%以上含む黒褐色土。



第7章 下湯原遺跡(3)

重複 なし。

遺物 なし。

所見 本遺構の年代を特定する資料は得られていない。

(13) A4-11号土坑(第7-56図、PL.57)

位置 58区J-8グリッド、西側調査区北部に位置する。

形状等 北半が調査区外に及び不明。

規模 $(0.80) \times (0.68)$ m、深さ0.40m。

主軸方位(度) N-13-W

埋没土 径1~4cmの礫を20%含む黒褐色土。

重複 A4-5号掘立柱建物(P6)、A4-88号ピット。

遺物 図化には至らなかったが、内黒の土師器片(1点3g)が出土している。

所見 本遺構の年代は、出土遺物から平安時代以降に比定される。A4-88号ピットより新しく、A4-5号掘立柱建物に先行する。

備考 既報1のA1区27号土坑と至近の位置から検出されているが、埋没土の種類が相違するため別遺構とした。

(14) A4-12号土坑(第7-56図、PL.57)

位置 58区H-7~8グリッド、西側調査区北部に位置する。

形状等 I辺が波打った長円形を呈する。

規模 1.38×0.44 m、深さ0.58m。

主軸方位(度) N-24-W

埋没土 径2~3cmの礫を少量、径5mmの黄褐色砂礫を2%含み、鉄分凝集のある黒褐色土。

重複 なし。

遺物 なし。

所見 本遺構の年代を特定する資料は得られていない。

(15) A4-13号土坑(第7-56図、PL.57)

位置 58区H-7グリッド、西側調査区北部に位置する。

形状等 不整形を呈する。

規模 1.20×0.90 m、深さ0.34m。

主軸方位(度) N-23-E

埋没土 埋め土は径1~2mmの白色軽石を1%含む黒褐色土。

重複 なし。

遺物 一段深くなった一画の底面から5cm浮いた地点か

ら歯が確認されている。

所見 本遺構の年代を特定する資料は得られていないが、土坑墓と思われる。

(16) A4-14号土坑(第7-57図、PL.58)

位置 58区J-7グリッド、西側調査区北部に位置する。

形状等 偏円形を呈する。

規模 0.84×0.72 m、深さ0.12m。

主軸方位(度) N-28-E

埋没土 白色粒・褐色粒・炭化粒をわずかに含み、径2~3cmの礫とロームブロックを含み、鉄分付着のある暗褐色土。

重複 なし。

遺物 なし。

所見 本遺構の年代を特定する資料は得られていない。

(17) A4-15号土坑(第7-57図、PL.58)

位置 58区J-7グリッド、西側調査区北部に位置する。

形状等 円形を呈する。

規模 0.54×0.54 m、深さ0.10m。

主軸方位(度) N-0

埋没土 径1~2mmの白色軽石を1%含む暗褐色土。

重複 なし。

遺物 なし。

所見 本遺構の年代を特定する資料は得られていない。

(18) A4-16号土坑(第7-57図、PL.58)

位置 58区I-8~9グリッド、西側調査区北部に位置する。

形状等 刃丸方形を呈する。

規模 1.16×1.24 m、深さ0.36m。

主軸方位(度) N-12-W

埋没土 径2~5cmの礫30%を含む黒褐色土。

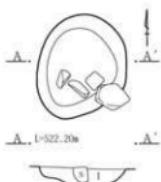
重複 A4-5号掘立柱建物(P1)、A4-67号ピット。

遺物 なし。

所見 本遺構の年代を特定する資料は得られていない。A4-5号掘立柱建物(P1)、A4-67号ピットのいずれにも先行する。

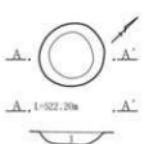
第3節 検出された遺構と遺物

A4-14号土坑



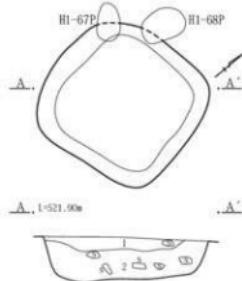
1 暗褐色土(7.5YR3/4)白色粒・褐色粒・炭化粒わずかにあり。径2~3cm程あり。
鉄分付着あり。ロームブロック含む。

A4-15号土坑

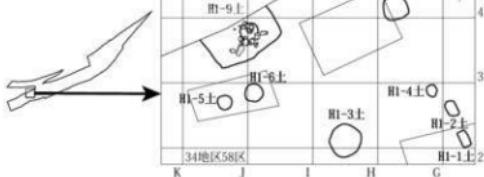


1 暗褐色土(10YR3/3)しまりあり。粘性わ
ずかにあり。Φ 1~2mm白色軽石1%。

A4-16号土坑



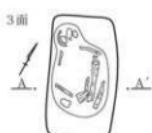
1 黒褐色土(10YR3/2)しまり。粘性ややあ
り。Φ 5mm程2%、Φ 3~4cm程5%。
2 黒褐色土(2.5Y3/2)しまり。粘性ややあ
り。Φ 2~5cm程30%。



H1-1号土坑

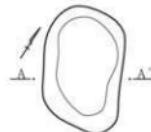


4面



H1-1号土坑埋葬状況

H1-2号土坑



1 黒褐色土(10YR2/2)しまり。粘性わざか
にあり。Φ 5mm~1cm程5%。
2 黒褐色土(10YR2/2)しまりわざかにあり。
粘性ややあり。Φ 1~3cm程5%。



H1-2号土坑埋葬状況

0 1:40 1m
0 1:200 5m

第7-57図 土坑3

第7章 下湯原遺跡(3)

(19) H1 - 1号土坑(第7 - 57, 75図、PL.58, 73)

位置 58区F - 2グリッド、西側調査区西半に位置する。

形状等 長方形を呈する。

規模 $1.00 \times 0.55m$ 、深さ0.43m。

主軸方位(度) N - 25 - W

埋没土 埋め土は径5mmの礫を2%含む暗褐色土。

重複 なし。

遺物 右体側を下にする、北頭位横臥屈葬の人骨が確認されたほか、底面から4cm浮いた位置から鉄錢(22)が出土している。

所見 本遺構は、出土遺物から中近世の土坑墓と考えられる。

(20) H1 - 2号土坑(第7 - 57図、PL.59)

位置 58区F - 2グリッド、西側調査区西半に位置する。

形状等 圓丸長方形を呈する。

規模 $1.00 \times 0.63m$ 、深さ0.25m。

主軸方位(度) N - 32 - W

埋没土 埋め土は径1~3cmの礫を5%含む黒褐色土。

重複 なし。

遺物 良好とはいえない状況ではあるが人骨が確認されている。

所見 本遺構の年代を特定する資料は得られていない。土坑墓と考えられる。H1 - 1号土坑の軸線上に近接して位置することから、両遺構の帰属時期は大きく隔たらないと推察される。

(21) H1 - 3号土坑(第7 - 58, 75図、PL.59, 74)

位置 58区H - 1~2グリッド、西側調査区西半に位置する。

形状等 圓丸方形を呈する。

規模 $2.05 \times 1.88m$ 、深さ1.00m。

主軸方位(度) N - 12 - E

埋没土 径1~2cmの礫5%、径5~6cmの礫少量を含む黒褐色土。

重複 なし。

遺物 繩文土器加曾利E 4式の土器片(23, 24)が出土している。

所見 本遺構の年代は、出土遺物から縄文時代中期以降に比定される。

(22) H1 - 4号土坑(第7 - 58図、PL.59)

位置 58区G - 2グリッド、西側調査区西半に位置する。

形状等 偏円形を呈する。

規模 $0.74 \times 0.62m$ 、深さ0.26m。

主軸方位(度) N - 20 - W

埋没土 径2~3cmの礫3%を含む黒褐色土。

重複 なし。

遺物 なし。

所見 本遺構の年代を特定する資料は得られていない。

(23) H1 - 5号土坑(第7 - 58図、PL.59)

位置 58区J - 2グリッド、西側調査区西半に位置する。

形状等 円形を呈する。

規模 $0.88 \times 0.86m$ 、深さ0.20m。

主軸方位(度) N - 70 - W

埋没土 暗褐色土をまばらに3%含む、やや砂質の黒褐色土。

重複 なし。

遺物 なし。

所見 本遺構の年代を特定する資料は得られていない。

(24) H1 - 6号土坑(第7 - 58図、PL.59)

位置 58区I - J - 2~3グリッド、西側調査区西半に位置する。

形状等 偏円形を呈する。

規模 $1.10 \times 1.08m$ 、深さ0.36m。

主軸方位(度) N - 35 - W

埋没土 径2~3cmの礫3%、径5mmの礫2%を含む、やや砂質の黒褐色土。

重複 なし。

遺物 図化には至らなかったが、縄文時代中期前半の土器片が確認されている。

所見 本遺構の年代は、出土遺物から縄文時代中期以降に比定される。

(25) H1 - 8号土坑(第7 - 58, 75図、PL.60, 74)

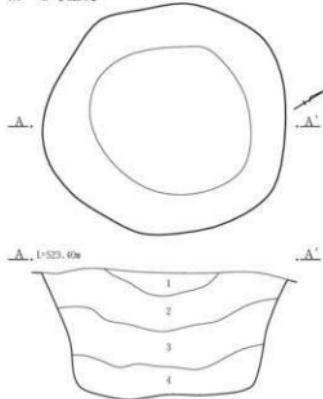
位置 58区G - 7~8グリッド、西側調査区西半に位置する。

形状等 圓丸方形を呈する。

規模 $1.42 \times 1.50m$ 、深さ0.20m。

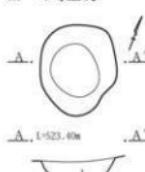
第3節 検出された遺構と遺物

HI - 3号土坑



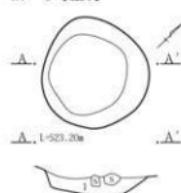
- 1 黒褐色土(2.5Y3/2)しまり、粘性わずかにあり。Φ 5 mm白色軽石少量。Φ 3~6 cm礫5%。
- 2 黒褐色土(10Y3/2)しまりややあり、粘性わずかにあり。Φ 1~4 cm礫10%。
- 3 黒褐色土(10Y2/3)しまりややあり、粘性わずかにあり。Φ 1~3 cm礫5%。
- 4 黒褐色土(2.5Y3/1)しまり、粘性わずかにあり。Φ 1~2 cm礫5%、Φ 5~6 cm礫少量。

HI - 4号土坑



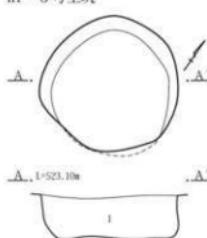
- 1 黒褐色土(10YR2/2)しまりわずかにあり、粘性ややあり。Φ 2~3 cm礫3%。

HI - 5号土坑



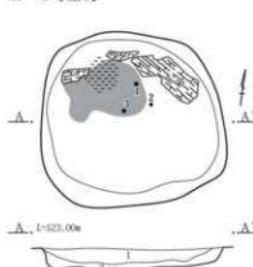
- 1 黒褐色土(10YR2/3)やや砂質。しまりわずかにあり、粘性ややあり。暗褐色土まばらに3%。

HI - 6号土坑



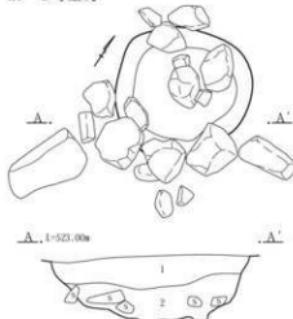
- 1 黒褐色土(10YR3/2)やや砂質。しまりややあり、粘性わずかにあり。Φ 2~3 cm礫3%、Φ 5 mm礫2%。

HI - 8号土坑



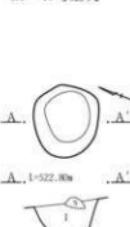
- 1 黒褐色土(2.5Y3/1)しまり、粘性ややあり。Φ 5 mm白色軽石少量あり。Φ 2~3 cm炭化物中央に少量。
- 2 黒褐色土(2.5Y3/2)しまりわずかにあり、粘性ややあり。Φ 1~2 cm礫少量。褐色土がまばらに20%混ざる。

HI - 9号土坑



- 1 黒褐色土(10YR3/1)しまりややあり、粘性わずかにあり。Φ 1~5 mm白色軽石1%、Φ 1~4 cm礫1%。
- 2 黒褐色土(7.5YR3/1)しまり、粘性ややあり。Φ 1~5 mm白色軽石1%、Φ 1~2 cm炭化物少量混ざる。

HI - 47号土坑



- 1 黒褐色土(10YR2/3)しまり、粘性ややあり。Φ 1 mm白色軽石、Φ 3 cm礫少量。

第7-58図 土坑4

0 1:40 1m

第7章 下湯原遺跡(3)

主軸方位(度) N - 17 - W

埋没土 径1～2cmの礫少量、褐色土がまばらに20%混ざる黒褐色土。

重複 なし。

遺物 遺構北半に炭化物が残存していたほか、埋没土から刀子(25)や鉄釘(26, 27)が出土している。

所見 本遺構の年代を特定する資料は得られていない。

(26) H1 - 9号土坑(第7 - 58, 75図、PL.60, 74)

位置 58区I～J - 3グリッド、西側調査区西半に位置する。

形状等 隅丸方形を呈する。

規模 1.10×1.08m、深さ0.60m。

主軸方位(度) N - 21 - W

埋没土 径1～5mmの白色軽石1%、径1～2cm炭化物少量が混ざる黒褐色土。

重複 A2 - 1号竪穴建物。

遺物 称名寺I式の繩文土器片(28)、磨石(29)のほか、土師器片(1点6g)、須恵器片(1点7g)、中世国産焼締陶器片(1点5g)が出土している。

所見 本遺構の年代は、出土遺物から中世以降に比定される。A2 - 1号竪穴建物より新しい。

(27) H1 - 47号土坑(第7 - 58図、PL.65)

位置 58区G - 4グリッド、西側調査区西半に位置する。

形状等 偏円形を呈する。

規模 0.58×0.50m、深さ0.28m。

主軸方位(度) N - 89 - W

埋没土 径1mmの白色軽石、径3cmの礫少量を含む黒褐色土。

重複 なし。

遺物 なし。

所見 本遺構の年代を特定する資料は得られていない。

(28) H1 - 7号土坑(第7 - 59図、PL.59)

位置 58区F - 2グリッド、西側調査区西半に位置する。

形状等 隅丸方形を呈する。

規模 0.74×0.72m、深さ0.26m。

主軸方位(度) N - 2 - W

埋没土 径5mmの礫3%、径1～4cmの礫5%を含む黒褐色土。

重複 なし。

遺物 なし。

所見 本遺構の年代を特定する資料は得られていない。

(29) H1 - 10・50号土坑

a H1 - 10号土坑(第7 - 59, 74図、PL.60)

位置 58区D～E - 2～3グリッド、西側調査区西半に位置する。

形状等 偏円形を呈する。

規模 1.22×1.00m、深さ0.38m。

主軸方位(度) N - 87 - W

埋没土 径1～3mmの白色軽石1%、径1cmの礫少量を含む暗褐色土。

重複 H1 - 50号土坑。

遺物 なし。

所見 本遺構の年代を特定する資料は得られていない。H1 - 50号土坑より新しい。

b H1 - 50号土坑(第7 - 59図、PL.60)

位置 58区D～E - 2～3グリッド、西側調査区西半に位置する。

形状等 西側をH1 - 10号土坑にきられ不明。

規模 (0.64)×0.80m、深さ0.50m。

主軸方位(度) N - 86 - W

埋没土 径1mmの白色軽石1%、径1～2cmの礫2%を含む暗褐色土。

重複 H1 - 10号土坑。

遺物 なし。

所見 本遺構の年代を特定する資料は得られていない。H1 - 10号土坑に先行する。

(30) H1 - 11号土坑(第7 - 59図、PL.60)

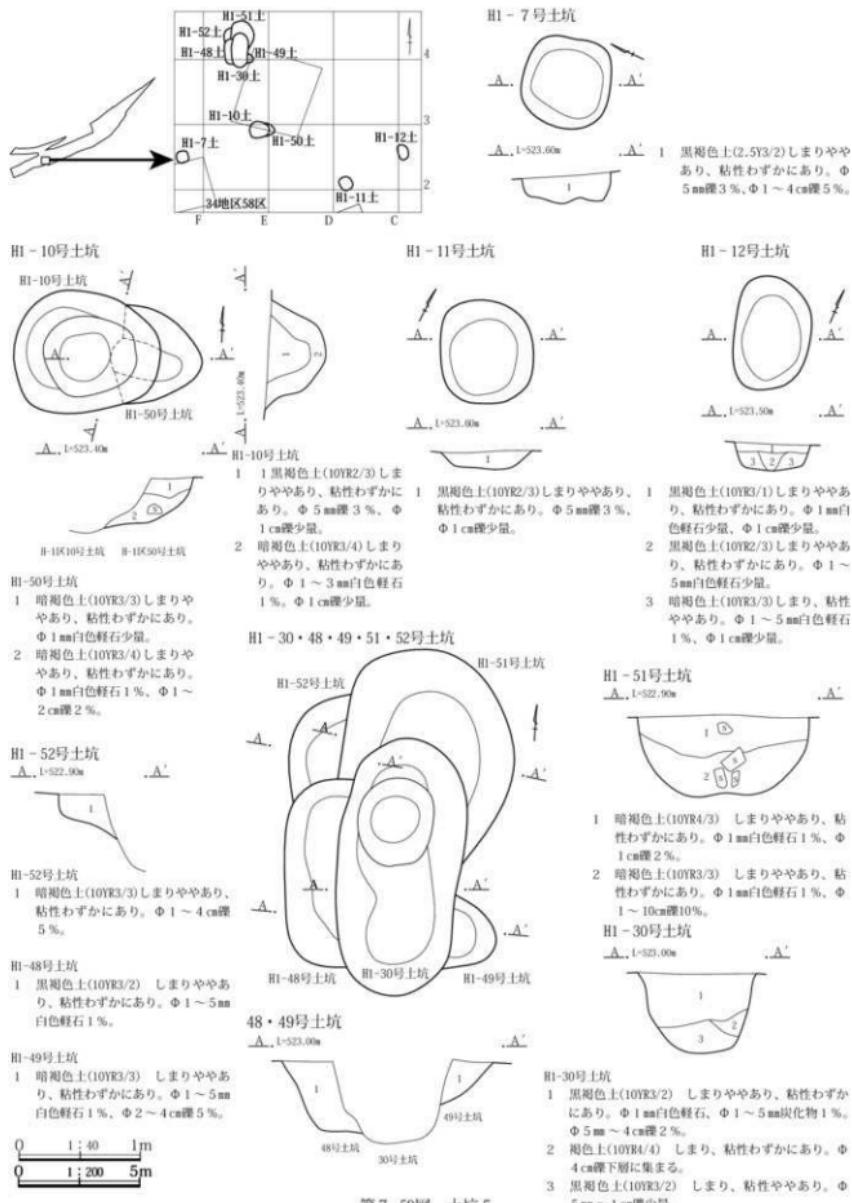
位置 58区C - 1～2グリッド、西側調査区西半に位置する。

形状等 隅丸方形を呈する。

規模 0.82×0.74m、深さ0.14m。

主軸方位(度) N - 31 - W

埋没土 径5mmの礫3%、径1cmの礫少量を含む黒褐色土。



第7-59図 土坑5

重複 なし。

遺物 なし。

所見 本遺構の年代を特定する資料は得られていない。

(31) H1-12号土坑(第7-59図、PL.60)

位置 58区B-C-2グリッド、西側調査区西半に位置する。

形状等 長円形を呈する。

規模 0.92×0.62m、深さ0.22m。

主軸方位(度) N-21-W

埋没土 径1~5mmの白色軽石1%、径1cmの礫少量を含む暗褐色土。

重複 なし。

遺物 なし。

所見 本遺構の年代を特定する資料は得られていない。

(32) H1-30・48・49・51・52号土坑

a H1-30号土坑(第7-59図、PL.63)

位置 58区E-3~4グリッド、西側調査区西半に位置する。

形状等 長円形を呈する。

規模 2.10×1.00m、深さ0.80m。

主軸方位(度) N-3-E

埋没土 径5mm~1cmの礫少量を含む黒褐色土。

重複 H1-48~49号土坑、H1-51~52号土坑。

遺物 なし。

所見 本遺構の年代を特定する資料は得られていない。いずれの土坑よりも新しい。

b H1-48号土坑(第7-59図、PL.63)

位置 58区E-3~4グリッド、西側調査区西半に位置する。

形状等 東半をH1-30号土坑にきられ不明。

規模 1.54×(0.54)m、深さ0.58m。

主軸方位(度) N-0

埋没土 径1~5mmの白色軽石1%を含む黒褐色土。

重複 H1-30号土坑、H1-51~52号土坑。

遺物 なし。

所見 本遺構の年代を特定する資料は得られていない。

H1-51~52号土坑より新しく、H1-30号土坑に先行する。

c H1-49号土坑(第7-59図、PL.63)

位置 58区E-3~4グリッド、西側調査区西半に位置する。

形状等 西側をH1-30号土坑にきられ不明。

規模 (0.42)×(0.58)m、深さ0.36m。

主軸方位(度) N-76-W

埋没土 径1~5mmの白色軽石1%を含む黒褐色土。

重複 H1-30号土坑。

遺物 なし。

所見 本遺構の年代を特定する資料は得られていない。

H1-30号土坑に先行する。

d H1-51号土坑(第7-59図、PL.63)

位置 58区E-4グリッド、西側調査区西半に位置する。

形状等 南側をH1-48号土坑とH1-30号土坑に切られ不明。

規模 (1.68)×1.38m、深さ0.64m。

主軸方位(度) N-18-E

埋没土 径1mmの白色軽石1%、径1~10cmの礫10%を含む暗褐色土。

重複 H1-30号土坑、H1-48号土坑、H1-52号土坑。

遺物 図化には至らなかったが、縄文時代中期前半の土器片が出土している。

所見 本遺構の年代は、出土遺物から縄文時代以降に比定される。H1-52号土坑より新しく、他の2遺構に先行する。

e H1-52号土坑(第7-59図、PL.63)

位置 58区E-4グリッド、西側調査区西半に位置する。

形状等 H1-48号土坑とH1-51号土坑に二方を切られ不明。

規模 (0.68)×(0.40)m、深さ0.35m。

主軸方位(度) N-19-W

埋没土 径1~4cmの礫5%を含む暗褐色土。

重複 H1-48号土坑、H1-52号土坑。

遺物 なし。

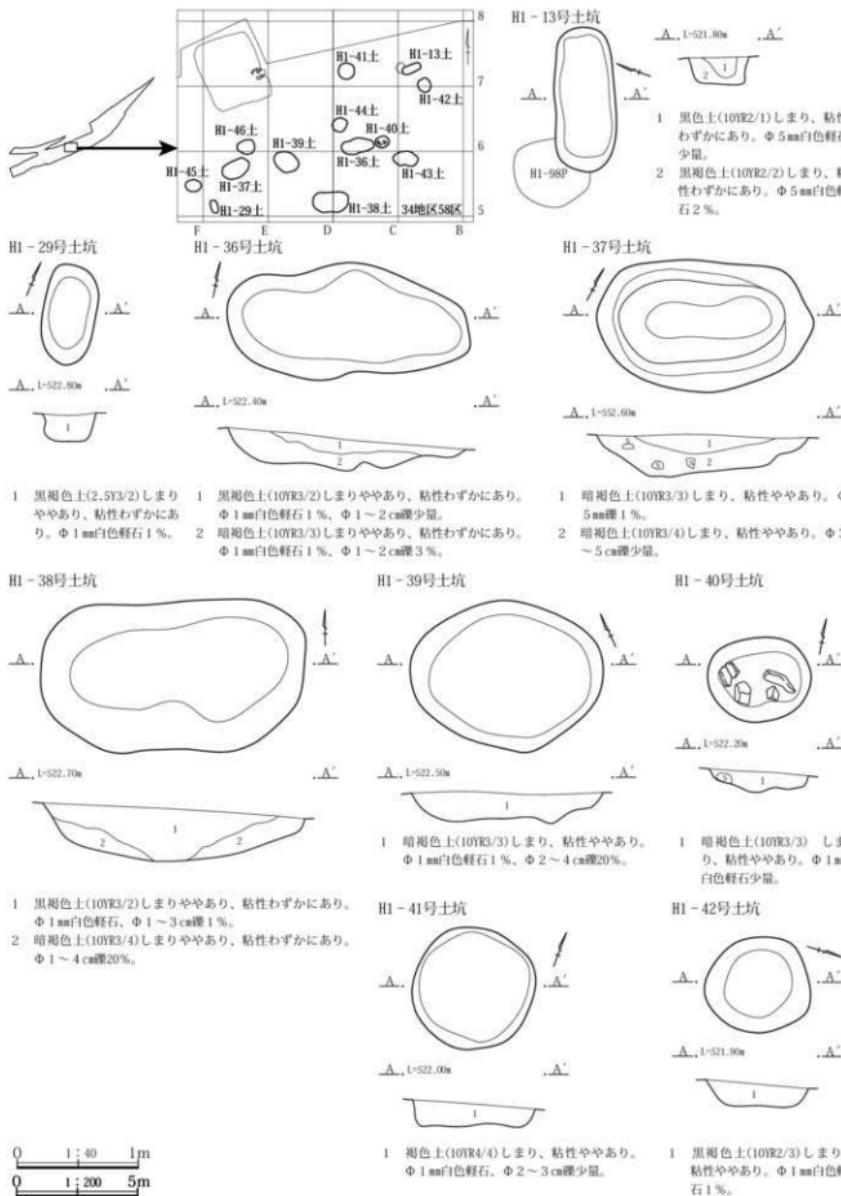
所見 本遺構の年代を特定する資料は得られていない。

(33) H1-13号土坑(第7-60図、PL.61)

位置 58区B-7グリッド、西側調査区西半に位置する。

形状等 圓丸長方形を呈する。

規模 1.18×0.48m、深さ0.22m。



第7-60図 土坑6

第7章 下湯原遺跡(3)

主軸方位(度) N - 66 - E

埋没土 径5mmの白色軽石2%を含む黒褐色土。

重複 H1-98号ピット。

遺物 なし。

所見 本遺構の年代を特定する資料は得られていない。

H1-98号ピットより新しい。

(34) H1-29号土坑(第7-60図、PL.63)

位置 58区E-5グリッド、西側調査区西半に位置する。

形状等 長円形を呈する。

規模 0.80×0.44m、深さ0.22m。

主軸方位(度) N - 18 - W

埋没土 径1mmの白色軽石1%を含む黒褐色土。

重複 なし。

遺物 なし。

所見 本遺構の年代を特定する資料は得られていない。

(35) H1-36号土坑(第7-60図、PL.64)

位置 58区C-5~6グリッド、西側調査区西半に位置する。

形状等 不整形を呈する。

規模 2.00×0.87m、深さ0.34m。

主軸方位(度) N - 88 - E

埋没土 径1mmの白色軽石1%、径1~2cm礫3%を含む暗褐色土。

重複 なし。

遺物 図面には至らなかったが、阿玉台式の縄文土器片が出土している。

所見 本遺構の年代は、出土遺物から縄文時代以降に比定される。

(36) H1-37号土坑(第7-60、75図、PL.64、74)

位置 58区E-5グリッド、西側調査区西半に位置する。

形状等 長円形を呈する。

規模 1.78×1.02m、深さ0.34m。

主軸方位(度) N - 62 - E

埋没土 径3~5cmの礫少量を含む暗褐色土。

重複 なし。

遺物 阿玉台I b式の縄文土器(30)が出土している。

所見 本遺構の年代は、出土遺物から縄文時代以降に比

定される。

(37) H1-38号土坑(第7-60図、PL.64)

位置 58区C~D-5グリッド、西側調査区西半に位置する。

形状等 圓丸長方形を呈する。

規模 2.16×1.20m、深さ0.48m。

主軸方位(度) N - 86 - E

埋没土 径1~4cmの礫20%を含む暗褐色土。

重複 なし。

遺物 なし。

所見 本遺構の年代を特定する資料は得られていない。

(38) H1-39号土坑(第7-60図、PL.64)

位置 58区D-5グリッド、西側調査区西半に位置する。

形状等 長円形を呈する。

規模 ×m、深さm。

主軸方位(度)

埋没土 径1mmの白色軽石1%、径2~4cmの礫20%を含む暗褐色土。

重複 なし。

遺物 なし。

所見 本遺構の年代を特定する資料は得られていない。

(39) H1-40号土坑(第7-60図、PL.65)

位置 58区C-6グリッド、西側調査区西半に位置する。

形状等 長円形を呈する。

規模 0.84×0.68m、深さ0.18m。

主軸方位(度) N - 74 - E

埋没土 径1mmの白色軽石を少量含む暗褐色土。

重複 なし。

遺物 なし。

所見 本遺構の年代を特定する資料は得られていない。

(40) H1-41号土坑(第7-60図、PL.65)

位置 58区C-7グリッド、西側調査区西半に位置する。

形状等 円形を呈する。

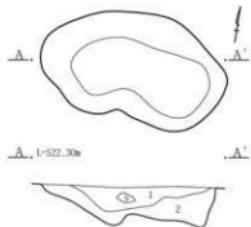
規模 1.00×0.98m、深さ0.22m。

主軸方位(度) N - 0

埋没土 径1mmの白色軽石、径2~3cmの礫少量を含む

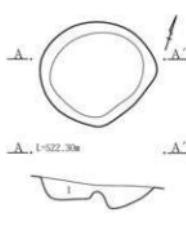
第3節 検出された遺構と遺物

II - 43号土坑



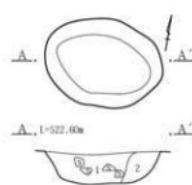
- 1 黒褐色土(10YR3/2)しまり、粘性ややあり。 Φ 5mm軽石1%、 Φ 10cm礫少量。
- 2 單褐色土(10YR3/3)しまり、粘性ややあり。 Φ 1cm礫、 Φ 3~5cm礫5%。

II - 44号土坑



- 1 單褐色土(10YR3/3)しまり、粘性ややあり。 Φ 1mm白色軽石1%、 Φ 3~5cm礫5%。

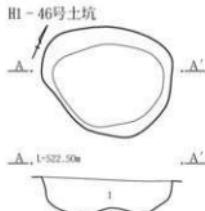
II - 45号土坑



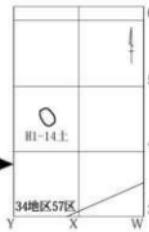
- 1 黒褐色土(7.5YR3/2)しまり、粘性ややあり。 Φ 5~10cm礫20%、 Φ 1mm白色軽石1%。

- 2 褐色土(10YR4/4)しまり、粘性ややあり。 Φ 3~5cm礫5%。

II - 14号土坑

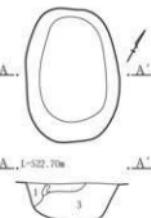


- 1 單褐色土(10YR3/3)しまり、粘性ややあり。 Φ 1mm白色軽石1%、 Φ 1~4cm礫3%。



- 1 オリーブ褐色土(2.5Y4/3)しまりややあり、粘性あり。 Φ 1mm白色軽石少量。
- 2 黒褐色土(2.5Y3/1)しまりややあり、粘性わずかにあり。 Φ 1mm白色軽石1%。
- 3 黑褐色土(2.5Y2/1)しまり、粘性ややあり。 Φ 1mm白色軽石2%、 Φ 1cm礫少量。

II - 16号土坑

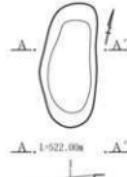


II - 17号土坑



- 1 黒褐色土(2.5Y3/2)しまりあり、粘性わずかにあり。 Φ 1mm白色軽石1%。
- 2 黒褐色土(10YR2/2)しまりややあり、粘性わずかにあり。 Φ 1mm白色軽石、 Φ 2cm軽石少量。
- 3 黑褐色土(2.5Y3/1)しまり、粘性ややあり。 Φ 1mm白色軽石2%。

II - 18号土坑

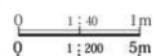


- 1 黒褐色土(2.5Y3/1)しまり、粘性ややあり。 Φ 1mm白色軽石1%、 Φ 1cm礫少量。

II - 19号土坑



- 1 黒褐色土(10YR3/2)しまりあり、粘性わずかにあり。 Φ 1~2mm白色軽石1%。
- 2 黒褐色土(10YR2/2)しまり、粘性ややあり。 Φ 1mm白色軽石少量。



褐色土。

重複 なし。

遺物 なし。

所見 本遺構の年代を特定する資料は得られていない。

(41) H1-42号土坑(第7-60図、PL.65)

位置 58区B-6~7グリッド、西側調査区西半に位置する。

形状等 偏円形を呈する。

規模 0.88×0.82m、深さ0.22m。

主軸方位(度) N-25-W

埋没土 径1mmの白色軽石1%を含む黒褐色土。

重複 なし。

遺物 なし。

所見 本遺構の年代を特定する資料は得られていない。

(42) H1-43号土坑(第7-61図、PL.66)

位置 58区B-C-5~6グリッド、西側調査区西半に位置する。

形状等 不整形を呈する。

規模 1.54×0.80m、深さ0.32m。

主軸方位(度) N-85-W

埋没土 径1mmの礫と径3~5cmの礫を5%含む暗褐色土。

重複 なし。

遺物 なし。

所見 本遺構の年代を特定する資料は得られていない。

(43) H1-44号土坑(第7-61図、PL.65)

位置 58区C-D-6グリッド、西側調査区西半に位置する。

形状等 偏円形を呈する。

規模 0.86×0.84m、深さ0.24m。

主軸方位(度) N-24-E

埋没土 径1mmの白色軽石1%と径3~5cmの礫5%を含む暗褐色土。

重複 なし。

遺物 なし。

所見 本遺構の年代を特定する資料は得られていない。

(44) H1-45号土坑(第7-61図、PL.65)

位置 58区F-5グリッド、西側調査区西半に位置する。

形状等 長円形を呈する。

規模 0.98×0.72m、深さ0.26m。

主軸方位(度) N-85-W

埋没土 径3~5cmの礫5%を含む褐色土。

重複 なし。

遺物 なし。

所見 本遺構の年代を特定する資料は得られていない。

(45) H1-46号土坑(第7-61図、PL.65)

位置 58区E-5~6グリッド、西側調査区西半に位置する。

形状等 偏円形を呈する。

規模 1.08×0.86m、深さ0.30m。

主軸方位(度) N-88-W

埋没土 径1mmの白色軽石1%と径1~4cmの礫3%を含む暗褐色土。

重複 なし。

遺物 なし。

所見 本遺構の年代を特定する資料は得られていない。

(46) H1-14号土坑(第7-61図、PL.61)

位置 57区X-4グリッド、西側調査区西半に位置する。

形状等 圓丸長方形を呈する。

規模 1.07×0.78m、深さ0.34m。

主軸方位(度) N-30-W

埋没土 径1mmの白色軽石2%と径1cmの礫少量を含む褐色土。

重複 なし。

遺物 なし。

所見 本遺構の年代を特定する資料は得られていない。

(47) H1-16号土坑(第7-61図、PL.61)

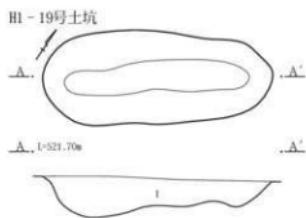
位置 57区Q-R-7グリッド、西側調査区中央付近に位置する。

形状等 長方形を呈する。

規模 2.28×0.80m、深さ0.52m。

主軸方位(度) N-25-W

埋没土 径1mmの白色軽石少量を含む黒褐色土。



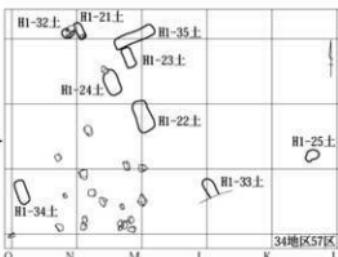
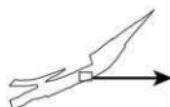
1 黒褐色土(2.5Y3/1)しまりあり、粘性ややあり。Φ 1mm白色軽石少量、Φ 1~3cm礫少量。



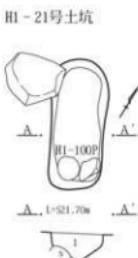
1 黒褐色土(2.5Y3/2)しまりあり、粘性ややあり。Φ 1mm白色軽石 1%、Φ 1cm礫少量。



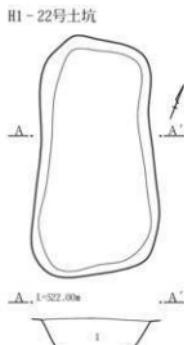
1 黒褐色土(2.5Y3/1)しまりあり、粘性ややあり。Φ 1mm白色軽石少量。



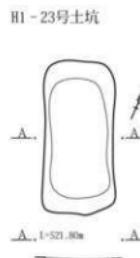
- 1 黒褐色土(2.5Y3/1)しまり、粘性ややあり。Φ 1mm白色軽石少量。
- 2 黒褐色土(10YR2/2)しまり、粘性ややあり。Φ 1~3cm白色軽石少量。
- 3 黒褐色土(10YR2/3)しまり、粘性ややあり。Φ 1mm白色軽石少量。



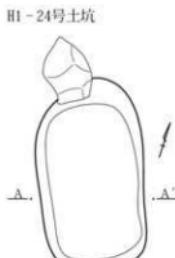
1 黒褐色土(7.5YR2/2)しまりあり、粘性わずかにあり。Φ 1~3mm白色軽石、Φ 2~3cm礫少量。



1 黒褐色土(10YR3/1)しまりややあり、粘性わずかにあり。Φ 1~3mm白色軽石 2%、Φ 2~4cm礫 1%。



1 黒褐色土(2.5Y3/1)しまりあり、粘性ややあり。Φ 1mm白色軽石少量。



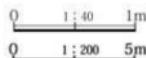
1 黒褐色土(2.5Y3/1)しまりあり、粘性ややあり。Φ 1mm白色軽石少量。



1 黒褐色土(7.5YR3/1)しまり、粘性ややあり。Φ 1mm白色軽石少量、Φ 2~4cm礫 3%。

H1-23号土坑、24号土坑

- 1 黒褐色土(10YR3/2)しまりあり、粘性わずかにあり。Φ 1~2mm白色軽石 1%。
- 2 黒褐色土(10YR2/2)しまり、粘性ややあり。Φ 1mm白色軽石少量。



第7-62図 土坑8

重複 なし。

遺物 なし。

所見 本遺構の年代を特定する資料は得られていない。

(48) H1-17号土坑(第7-61図、PL.61)

位置 57区R～S-6～7グリッド、西側調査区中央付近に位置する。

形状等 圓丸長方形を呈する。

規模 2.05×0.64m、深さ0.32m。

主軸方位(度) N-60-E

埋没土 径1mmの白色軽石2%を含む黒褐色土。

重複 なし。

遺物 なし。

所見 本遺構の年代を特定する資料は得られていない。

(49) H1-18号土坑(第7-61図、PL.61)

位置 57区S-8グリッド、西側調査区中央付近に位置する。

形状等 長円形を呈する。

規模 1.00×0.42m、深さ0.08m。

主軸方位(度) N-10-W

埋没土 径1mmの白色軽石1%と径1cmの礫少量を含む黒褐色土。

重複 なし。

遺物 なし。

所見 本遺構の年代を特定する資料は得られていない。

(50) H1-19号土坑(第7-62図、PL.61)

位置 57区T-8～9グリッド、西側調査区中央付近に位置する。

形状等 長円形を呈する。

規模 1.88×0.76m、深さ0.34m。

主軸方位(度) N-55-E

埋没土 径1mmの白色軽石少量と径1～3cmの礫2%を含む黒褐色土。

重複 なし。

遺物 なし。

所見 本遺構の年代を特定する資料は得られていない。

(51) H1-20号土坑(第7-62図、PL.62)

位置 57区P-8グリッド、西側調査区中央付近に位置する。

形状等 圓丸長方形を呈する。

規模 0.98×0.52m、深さ0.23m。

主軸方位(度) N-18-W

埋没土 径1mmの白色軽石1%と径1cmの礫少量を含む黒褐色土。

重複 なし。

遺物 なし。

所見 本遺構の年代を特定する資料は得られていない。

(52) H1-31号土坑(第7-62図、PL.63)

位置 57区R-8～9グリッド、西側調査区中央付近に位置する。

形状等 圓丸長方形を呈する。

規模 4.66×0.64m、深さ0.46m。

主軸方位(度) N-22-W

埋没土 径1mmの白色軽石少量を含む黒褐色土。

重複 なし。

遺物 なし。

所見 本遺構の年代を特定する資料は得られていない。

(53) H1-21号土坑(第7-62図、PL.62)

位置 57区M～N-11グリッド、西側調査区中央付近に位置する。

形状等 圓丸長方形を呈する。

規模 1.04×0.42m、深さ0.22m。

主軸方位(度) N-28-W

埋没土 径1～3mmの白色軽石とΦ2～3cmの礫を少量含む黒褐色土。

重複 なし。

遺物 なし。

所見 本遺構の年代を特定する資料は得られていない。

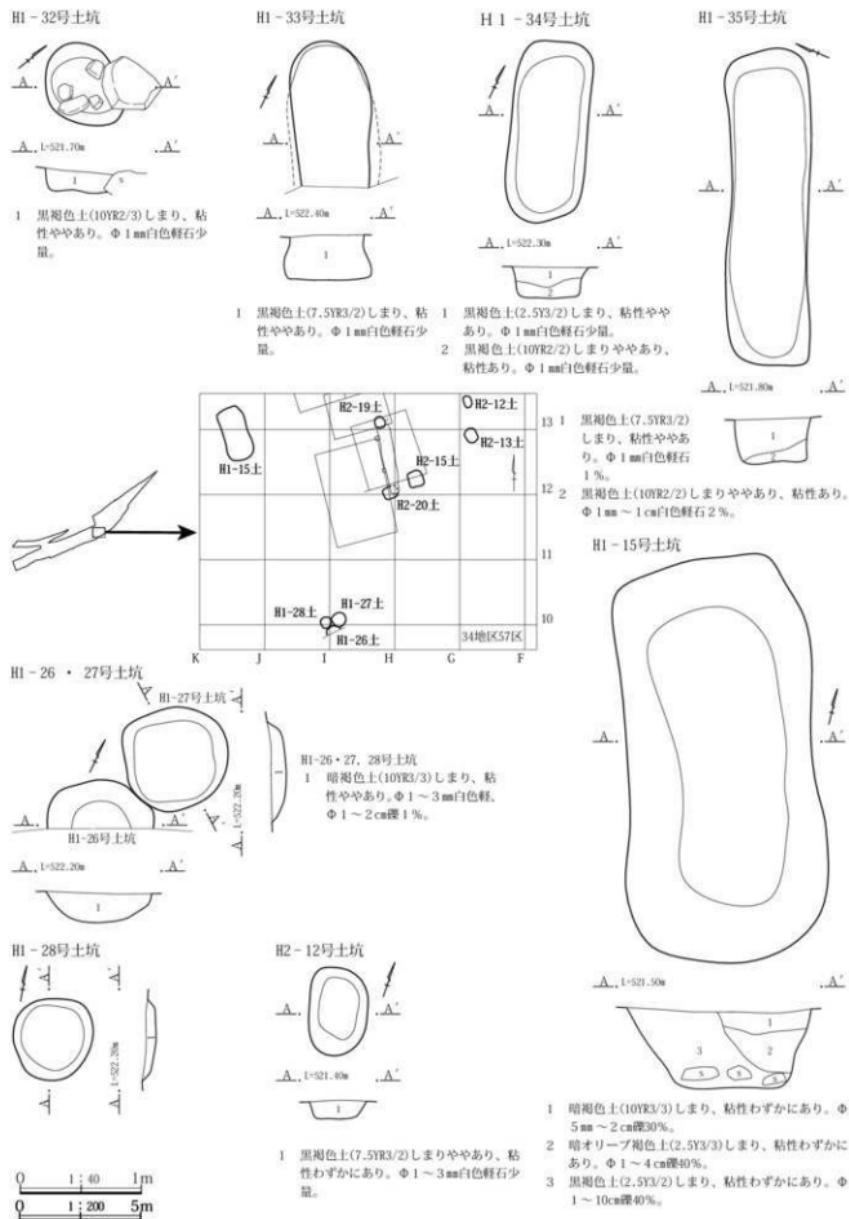
(54) H1-22号土坑(第7-62図、PL.62)

位置 57区L～M-9～10グリッド、西側調査区中央付近に位置する。

形状等 圓丸長方形を呈する。

規模 1.90×0.90m、深さ0.18m。

主軸方位(度) N-30-W



第7-63図 土坑9

第7章 下湯原遺跡(3)

埋没土 径1～3mmの白色軽石2%と径2～4cmの礫1%を含む黒褐色土。

重複 なし。

遺物 なし。

所見 本遺構の年代を特定する資料は得られていない。

(55) H1-23号土坑(第7-62図、PL.62)

位置 57区M-10グリッド、西側調査区中央付近に位置する。

形状等 長方形を呈する。

規模 1.26×0.56m、深さ0.36m。

主軸方位(度) N-23-W

埋没土 径1mmの白色軽石少量を含む黒褐色土。

重複 なし。

遺物 なし。

所見 本遺構の年代を特定する資料は得られていない。

(56) H1-24号土坑(第7-62図、PL.62)

位置 57区M-10グリッド、西側調査区中央付近に位置する。

形状等 圓丸長方形を呈する。

規模 1.56×0.86m、深さ0.58m。

主軸方位(度) N-24-W

埋没土 径1mmの白色軽石少量を含む黒褐色土。

重複 なし。

遺物 なし。

所見 本遺構の年代を特定する資料は得られていない。

(57) H1-25号土坑(第7-62図、PL.62)

位置 57区J-9グリッド、西側調査区東半に位置する。

形状等 双円形を呈する。

規模 0.76×0.58m、深さ0.18m。

主軸方位(度) N-81-E

埋没土 径1mmの白色軽石少量と径2～4cm礫3%を含む黒褐色土。

重複 なし。

遺物 なし。

所見 本遺構の年代を特定する資料は得られていない。

(58) H1-32号土坑(第7-63図、PL.64)

位置 57区N-11グリッド、西側調査区中央付近に位置する。

形状等 偏円形を呈する。

規模 0.76×0.58m、深さ0.20m。

主軸方位(度) N-81-W

埋没土 径1mmの白色軽石少量を含む黒褐色土。

重複 なし。

遺物 なし。

所見 本遺構の年代を特定する資料は得られていない。

(59) H1-33号土坑(第7-63図、PL.64)

位置 57区K-L-8グリッド、西側調査区中央付近に位置する。

形状等 長円形を呈すると予想されるが遺構南半が調査区外に及び不明。

規模 (1.20)×0.58m、深さ(0.38)m。

主軸方位(度) N-30-W

埋没土 径1mmの白色軽石少量を含む黒褐色土。

重複 なし。

遺物 なし。

所見 本遺構の年代を特定する資料は得られていない。

(60) H1-34号土坑(第7-63図、PL.64)

位置 57区N-8グリッド、西側調査区中央付近に位置する。

形状等 圓丸長方形を呈する。

規模 1.50×0.64m、深さ0.26m。

主軸方位(度) N-20-W

埋没土 径1mmの白色軽石少量を含む黒褐色土。

重複 なし。

遺物 なし。

所見 本遺構の年代を特定する資料は得られていない。

(61) H1-35号土坑(第7-63図、PL.64)

位置 57区L-M-10～11グリッド、西側調査区中央付近に位置する。

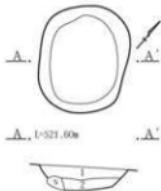
形状等 長方形を呈する。

規模 2.60×0.63m、深さ0.38m。

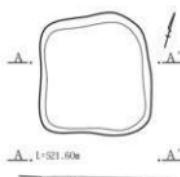
主軸方位(度) N-64-E

埋没土 径1mm～1cmの白色軽石2%を含む黒褐色土。

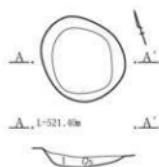
H2-13号土坑



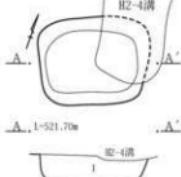
H2-15号土坑



H2-19号土坑



H2-20号土坑

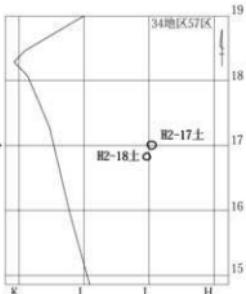
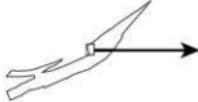


- 1 黒褐色土(7.5YR3/2)しまりややあり、粘性わずかにあり。
Φ 1~3 mm白色軽石少量。
2 にぶい黄褐色土(10YR4/3)砂質土。しまりわずかにあり。
粘性ほばなし。粗砂多く混ざる。

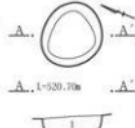
- 1 黒褐色土(10YR2/3)しまりややあり、粘性わずかにあり。
Φ 1 mm白色軽石少量。

- 1 黒褐色土(7.5YR3/2)しまりややあり、粘性わずかにあり。
Φ 1 mm白色軽石少量。

- 1 黒褐色土(2.5Y3/1)しまりややあり、粘性わずかにあり。
Φ 1 mm白色軽石少量。



H2-17号土坑

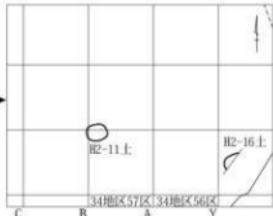


H2-18号土坑

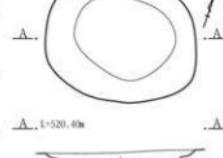


- 16 1 黒褐色土(10YR2/2)しまりわずかにあり、粘性ややあり。
Φ 1~5 mm白色軽石 1 %。

- 1 黒褐色土(7.5YR3/2)しまり、粘性ややあり。
Φ 1 mm白色軽石少量、Φ 1~3 cm埋 5 %。

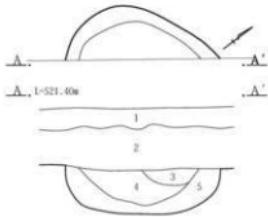


H2-11号土坑

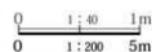


- 1 黒褐色土(10YR2/2)しまり、粘性ややあり。
Φ 1 mm白色軽石少量。

H2-16号土坑



- 1 黒褐色土(7.5YR3/1)天明畑耕作土。しまりややあり、粘性わずかにあり。
Φ 1 mm白色軽石少量。
2 黒褐色土(7.5YR3/2)しまりややあり、粘性わずかにあり。
Φ 1~5 mm白色軽石 1 %。
3 明赤褐色土(5YR3/2)やや粘土質。しまりわずかにあり、粘性あり。
4 黒褐色土(7.5YR2/2)しまりややあり、粘性わずかにあり。
Φ 1 mm白色軽石少量。
5 黒褐色土(10YR2/2)しまり、粘性ややあり。
Φ 1~3 mm白色軽石 1 %。



第7-64図 土坑10

重複 なし。

遺物 なし。

所見 本遺構の年代を特定する資料は得られていない。

(62) H1-15号土坑(第7-63図、PL.61)

位置 57区J-12~13グリッド、西側調査区東半に位置する。

形状等 細丸長方形を呈する。

規模 3.32×1.50m、深さ0.68m。

主軸方位(度) N-20-W

埋没土 径1~10cmの礫40%を含む黒褐色土。

重複 なし。

遺物 図化には至らなかったが、埋没土から近世国産施釉陶器片(2点12g)が出土している。

所見 本遺構の年代は、出土遺物から近世に比定される。

備考 調査時の所見によれば、復旧坑の可能性が指摘されている。

(63) H1-26号土坑(第7-63図、PL.62)

位置 57区H~I-9グリッド、西側調査区東半に位置する。

形状等 以降南半が調査区外に及び不明。

規模 (0.86)×(0.38)m、深さ0.26m。

主軸方位(度) N-84-W

埋没土 径1~3mmの白色軽石と径1~2cmの礫1%を含む暗褐色土。

重複 H1-27号土坑。

遺物 なし。

所見 本遺構の年代を特定する資料は得られていない。一部を接するH1-27号土坑より新しい。

(64) H1-27号土坑(第7-63図、PL.62)

位置 57区H-9~10グリッド、西側調査区東半に位置する。

形状等 細丸長方形を呈する。

規模 0.85×0.80m、深さ0.16m。

主軸方位(度) N-49-E

埋没土 径1~3mmの白色軽石と径1~2cmの礫1%を含む暗褐色土。

重複 H1-26号土坑。

遺物 なし。

所見 本遺構の年代を特定する資料は得られていない。先行するH1-26号土坑と一部を接する。

(65) H1-28号土坑(第7-63図、PL.63)

位置 57区H~I-9~10グリッド、西側調査区東半に位置する。

形状等 偏円形を呈する。

規模 0.66×0.63m、深さ0.10m。

主軸方位(度) N-10-W

埋没土 径1~3mmの白色軽石と径1~2cmの礫1%を含む暗褐色土。

重複 なし。

遺物 なし。

所見 本遺構の年代を特定する資料は得られていない。

(66) H2-12号土坑(第7-63図、PL.67)

位置 57区F-13グリッド、西側調査区東半に位置する。

形状等 長円形を呈する。

規模 0.72×0.48m、深さ0.14m。

主軸方位(度) N-12-W

埋没土 径1~3mmの白色軽石少量を含む黒褐色土。

重複 なし。

遺物 なし。

所見 本遺構の年代を特定する資料は得られていない。

(67) H2-13号土坑(第7-64図、PL.67)

位置 57区F-12~13グリッド、西側調査区東半に位置する。

形状等 細丸長方形を呈する。

規模 0.87×0.72m、深さ0.20m。

主軸方位(度) N-36-W

埋没土 粗砂の多く混ざる砂質のにぶい黄褐色土。

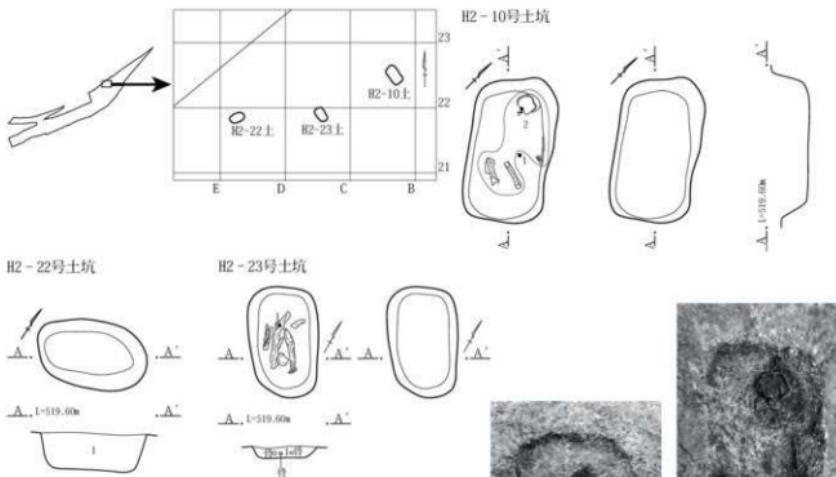
重複 なし。

遺物 なし。

所見 本遺構の年代を特定する資料は得られていない。

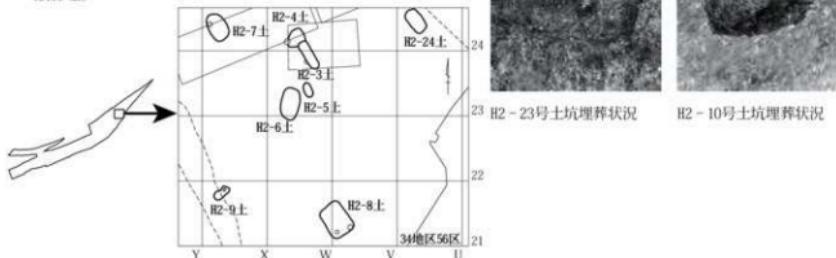
(68) H2-15号土坑(第7-64図、PL.68)

位置 57区G-12グリッド、西側調査区東半に位置する。

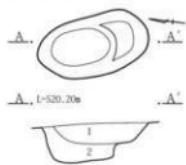


1 黒褐色土(10YR2/2)しまりあり、粘性ややあり。Φ1~5mm白色
軽石少量。

1 黒褐色土(10YR2/3)しまり。粘性ややあり。 Φ 1 mm白色軽石少量。



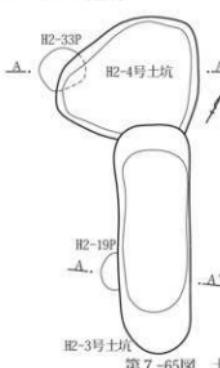
H2 - 5号土坑



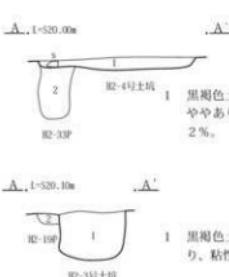
1 黒色土(7.5YR2/1)しまりややあり、粘性わずかにあり。重5kg

白色、褐色輕石 2%
2 黑褐色土(2.5Y3/1)しまり、粘性ややあり。Φ 5 mm白色輕石 1%

R2 = 3 · 4 级十项



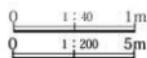
第7-65図 土坑11



黒褐色土(2.5Y3/2)しまり、粘性ややあり。Φ 1~5 mm白色軽石2%。



黒褐色土(2.5Y3/1)しまりややあり、粘性あり。



第7章 下湯原遺跡(3)

形状等 隅丸方形を呈する。

規模 $0.98 \times 0.90m$ 、深さ $0.08m$ 。

主軸方位(度) N - 20 - W

埋没土 径 $1mm$ の白色軽石少量を含む黒褐色土。

重複 なし。

遺物 なし。

所見 本遺構の年代を特定する資料は得られていない。

(69) H2 - 19号土坑(第7 - 64図、PL.68)

位置 57区H - 13グリッド、西側調査区東半に位置する。

形状等 偏円形を呈する。

規模 $0.72 \times 0.63m$ 、深さ $0.14m$ 。

主軸方位(度) N - 28 - W

埋没土 やや砂質の黒褐色土。

重複 H2 - 4号溝。

遺物 なし。

所見 本遺構の年代を特定する資料は得られていない。

H2 - 4号溝より新しい。

(70) H2 - 20号土坑(第7 - 64図、PL.68)

位置 57区G ~ H - 11 ~ 12グリッド、西側調査区東半に位置する。

形状等 東北隅が確定されていないが、隅丸長方形を呈すると推測される。

規模 $(0.98) \times 0.70m$ 、深さ $0.20m$ 。

主軸方位(度) N - 71 - E

埋没土 径 $1mm$ の白色軽石少量を含む黒褐色土。

重複 H2 - 4号溝。

遺物 なし。

所見 本遺構の年代を特定する資料は得られていない。

H2 - 4号溝に先行する。

(71) H2 - 17号土坑(第7 - 64図、PL.68)

位置 57区H ~ I - 16 ~ 17グリッド、西側調査区東半に位置する。

形状等 偏円形を呈する。

規模 $0.54 \times 0.48m$ 、深さ $0.17m$ 。

主軸方位(度) N - 83 - E

埋没土 径 $1 \sim 5mm$ の白色軽石 1% を含む黒褐色土。

重複 なし。

遺物 なし。

所見 本遺構の年代を特定する資料は得られていない。

(72) H2 - 18号土坑(第7 - 64図、PL.68)

位置 57区H ~ I - 16グリッド、西側調査区東半に位置する。

形状等 偏円形を呈する。

規模 $0.40 \times 0.38m$ 、深さ $0.22m$ 。

主軸方位(度) N - 47 - W

埋没土 径 $1mm$ の白色軽石少量と径 $1 \sim 3cm$ の礫 5% を含む黒褐色土。

重複 なし。

遺物 なし。

所見 本遺構の年代を特定する資料は得られていない。

(73) H2 - 11号土坑(第7 - 64図、PL.67)

位置 57区A - 17 ~ 18グリッド、西側調査区東半に位置する。

形状等 隅丸長方形を呈する。

規模 $1.22 \times 1.00m$ 、深さ $0.15m$ 。

主軸方位(度) N - 76 - E

埋没土 径 $5mm$ の礫 3% と径 $1cm$ の礫少量を含む黒褐色土。

重複 なし。

遺物 なし。

所見 本遺構の年代を特定する資料は得られていない。

(74) H2 - 16号土坑(第7 - 64図、PL.68)

位置 56区X - 17グリッド、西側調査区東半に位置する。

形状等 遺構の大半が調査区外に及び不明。

規模 $0.90 \times (0.72)m$ 、深さ $0.88m$ 。

主軸方位(度) N - 83 - E

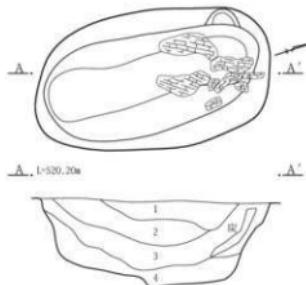
埋没土 径 $1 \sim 3mm$ の白色軽石 1% を含む黒褐色土。

重複 なし。

遺物 なし。

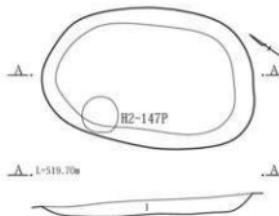
所見 本遺構の年代を特定する資料は得られていないが、遺構面は天明3年時点の耕作土層との間に径 $1 \sim 5mm$ の白色軽石 1% を含む黒褐色土層1枚を挟むのみであり、近世に帰属する可能性も認められる。

H2-6号土坑



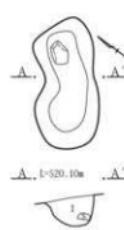
- 1 喙灰黄土(2.5Y4/2)やや砂質。しまりややあり、粘性わざかにあり。Φ 1~3mm白色軽石少量。
- 2 黒褐色土(2.5Y3/2)やや砂質。しまりややあり、粘性わざかにあり。Φ 1~3mm白色軽石少量。Φ 1cm炭化物1%。
- 3 オリーブ黒色土(5Y3/1)しまりわざかにあり、粘性ややあり。炭化物まばらに5%。
- 4 黒褐色土(2.5Y3/1)しまりほばなし、粘性ややあり。Φ 1mm白色軽石1%。

H2-7号土坑



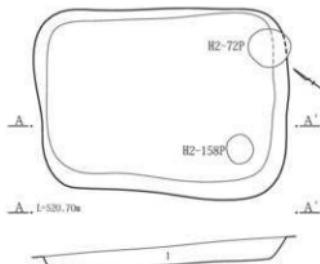
- 1 オリーブ黒色土(5Y2/2)しまりあり、粘性ややあり。Φ 1~5mm白色軽石3%。

H2-9号土坑



- 1 黒褐色土(5YR2/1)しまりややあり、粘性わざかにあり。Φ 1mm白色軽石少量。

H2-8号土坑



H2-24号土坑

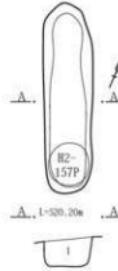


H2-24号土坑

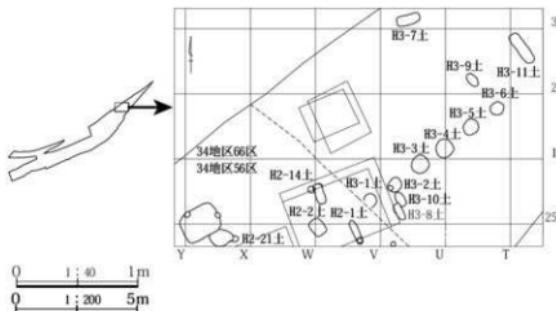


- 1 黒褐色土(10YR3/2)しまり、粘性ややあり。褐色土上(10YR4/4)がまばらに30%混ざる。下層は褐色土上がグライ化した青灰色土上(5BG5/1)が30%まばらに混ざる。

H2-1号土坑



- 1 黒褐色土(10YR2/2)しまりわざかにあり、粘性ややあり。Φ 1~5mm白色軽石1%。



第7-66図 土坑12

第7章 下湯原遺跡(3)

(75) H2-10号土坑(第7-65、74図、PL.67、74)

位置 57区B-22グリッド、西側調査区東半に位置する。

形状等 圓丸長方形を呈する。

規模 1.65×1.20m、深さ0.28m。

主軸方位(度) N-36-W

埋没土 やや砂質の黒褐色土に覆われている。

重複 なし。

遺物 埋葬された遺骨の周囲から元祐通寶(31)と景德元寶と思われる古銭(32)が出土している。

所見 本遺構の年代は出土遺物から中世に比定される。

右体側を下にした北頭位横臥屈葬の土坑墓と推測される。

備考 埋没土は調査時の所見に基づく。

(76) H2-22号土坑(第7-65図、PL.68)

位置 57区D-21グリッド、西側調査区東半に位置する。

形状等 長円形を呈する。

規模 0.93×0.53m、深さ0.30m。

主軸方位(度) N-72-E

埋没土 径1~5mmの白色軽石少量を含む黒褐色土。

重複 なし。

遺物 なし。

所見 本遺構の年代を特定する資料は得られていない。

(77) H2-23号土坑(第7-65図、PL.69)

位置 57区C-21~22グリッド、西側調査区東半に位置する。

形状等 圓丸長方形を呈する。

規模 0.90×0.53m、深さ0.10m。

主軸方位(度) N-29-W

埋没土 径1mmの白色軽石少量を含む黒褐色土。

重複 なし。

遺物 埋葬方法等は確認できないが、遺骨が検出されている。

所見 本遺構の年代を特定する資料は得られていない。土坑墓と推測される。

(78) H2-3・4号土坑

a H2-3号土坑(第7-65図、PL.66)

位置 56区W-23~24グリッド、西側調査区東半に位置

する。

形状等 圓丸長方形を呈する。

規模 1.87×0.60m、深さ0.42m。

主軸方位(度) N-32-W

埋没土 黒褐色土。

重複 H2-1号柵(P4)、H2-4号土坑。

遺物 なし。

所見 本遺構の年代を特定する資料は得られていない。H2-1号柵、H2-4号土坑のいずれよりも新しい。

b H2-4号土坑(第7-65図、PL.66)

位置 56区W-24グリッド、西側調査区東半に位置する。

形状等 圓丸三角形を呈する。

規模 1.16×(0.80)m、深さ0.10m。

主軸方位(度) N-56-E

埋没土 径1~5mmの白色軽石2%を含む黒褐色土。

重複 H2-6号掘立柱建物(P1)、H2-3号土坑。

遺物 なし。

所見 本遺構の年代を特定する資料は得られていない。H2-6号掘立柱建物、H2-3号土坑のいずれにも先行する。

(79) H2-5号土坑(第7-65図、PL.66)

位置 56区W-23グリッド、西側調査区東半に位置する。

形状等 長円形を呈する。

規模 0.90×0.50m、深さ0.33m。

主軸方位(度) N-21-W

埋没土 径5mmの白色軽石1%を含む黒褐色土。

重複 なし。

遺物 なし。

所見 本遺構の年代を特定する資料は得られていない。

(80) H2-6号土坑(第7-66図、PL.66)

位置 56区W-22~23グリッド、西側調査区東半に位置する。

形状等 圓丸長方形を呈する。

規模 1.92×1.12m、深さ0.72m。

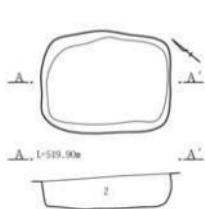
主軸方位(度) N-13-W

埋没土 径1mmの白色軽石1%を含む黒褐色土。

重複 なし。

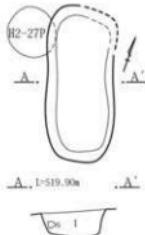
遺物 2層、3層に炭化物が含まれている。

H2-2号土坑



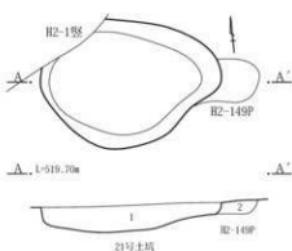
1 黒褐色土(2.5Y3/1)しまりややあり、粘性あり。Φ 2 ~ 3 cm程度 2 %。

H2-14号土坑



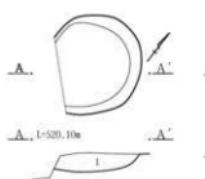
1 黒褐色土(10YR3/2)しまり、粘性ややあり。Φ 1 ~ 5 mm白色軽石 3 %。

H2-21号土坑

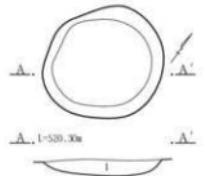


1 黒褐色土(2.5Y3/1)しまりわずかにあり、粘性ややあり。Φ 1 ~ 5 mm白色軽石 2 %。

H3-1号土坑



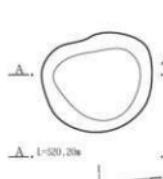
H3-5号土坑



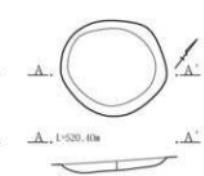
H3-1, 2, 6号土坑

1 黒褐色土(10YR3/2)しまりあり、粘性わずかにあり。Φ 1 ~ 5 mm白色軽石 2 %。

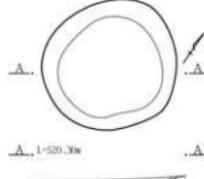
H3-2号土坑



H3-6号土坑

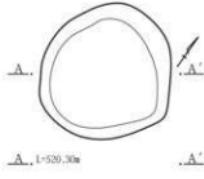


H3-3号土坑



- 1 黒褐色土(10YR3/2)しまりありし
ま粘性わずかにあり。Φ 1 ~ 5 mm
白色軽石 2 %。
- 2 黒褐色土(2.5Y3/1)しまりありし
ま粘性わずかにあり。Φ 1 ~ 5 mm
白色軽石 2 %。グライ化進む。

H3-4号土坑



H3-4, 5号土坑

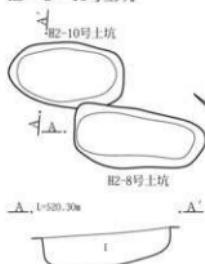
1 黒褐色土(2.5Y3/1)しまりあり、
粘性わずかにあり。Φ 1 ~ 5 mm
白色軽石 2 %。グライ化進む。

H3-7号土坑



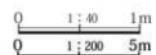
1 オリーブ黒色土(5Y3/1)しまりややあり、粘性わずかにあり。
Φ 1 ~ 3 mm白色軽石 2 %。グライ化した暗青灰色土(5BG4/1)
がまばらに混ざる。

H3-8・10号土坑



1 黒褐色土(10YR3/2)しまりややあり、粘
性わずかにあり。Φ 1 mm白色軽石 1 %。

1 黒褐色土(2.5Y3/2)わずかに砂質。
しまり、粘性ややあり。Φ 1 ~ 5 mm白色軽石 2 %。



第7-67図 土坑13

第7章 下湯原遺跡(3)

所見 本遺構の年代を特定する資料は得られていない。

(81) H2-7号土坑(第7-66図、PL.66)

位置 56区X-24グリッド、西側調査区東半に位置する。

形状等 長円形を呈する。

規模 1.72×1.14m、深さ0.19m。

主軸方位(度) N-26-W

埋没土 径1~5mmの白色軽石3%を含むオリーブ黒色土。

重複 H2-6号掘立柱建物(P6)。

遺物 なし。

所見 本遺構の年代を特定する資料は得られていない。

H2-6号掘立柱建物より新しい。

(82) H2-8号土坑(第7-66図、PL.66)

位置 56区V~W-21グリッド、西側調査区東半に位置する。

形状等 圓丸長方形を呈する。

規模 2.06×1.48m、深さ0.26m。

主軸方位(度) N-35-W

埋没土 径1~5mmの白色軽石3%を含むオリーブ黒色土。

重複 H2-72号ピット、H2-158号ピット。

遺物 なし。

所見 本遺構の年代を特定する資料は得られていない。

H2-72号ピット、H2-158号ピットのいずれにも先行する。

(83) H2-9号土坑(第7-66図、PL.67)

位置 56区X-21グリッド、西側調査区東半に位置する。

形状等 双円形を呈する。

規模 1.06×0.40m、深さ0.25m。

主軸方位(度) N-53-E

埋没土 径1mmの白色軽石少量を含む黒褐色土。

重複 H2-3号溝。

遺物 なし。

所見 本遺構の年代は、中世以降の遺構と推測されるH2-3号溝より新しいことから、中世以降に比定される。

(84) H2-24号土坑(第7-66図、PL.69)

位置 56区U-24グリッド、西側調査区東半に位置する。

形状等 圓丸長方形を呈する。

規模 1.56×0.88m、深さ(0.82)m。

主軸方位(度) N-35-W

埋没土 褐色土(10Y R4/4)がまばらに30%混ざる黒褐色土、下層は褐色土がグライ化した青灰色土が30%まばらに混ざる。

重複 なし。

遺物 なし。

所見 本遺構の年代を特定する資料は得られていない。

(85) H2-1号土坑(第7-66図、PL.66)

位置 56区V-24~25グリッド、西側調査区東半に位置する。

形状等 長円形を呈する。

規模 1.55×0.38m、深さ0.26m。

主軸方位(度) N-23-W

埋没土 径1~5mmの白色軽石1%を含む黒褐色土。

重複 H3-1号掘立柱建物(P3)。

遺物 なし。

所見 本遺構の年代を特定する資料は得られていない。

H3-1号掘立柱建物より新しい。

(86) H2-2号土坑(第7-67図、PL.66)

位置 56区V~W-24~25グリッド、西側調査区東半に位置する。

形状等 圓丸長方形を呈する。

規模 1.07×0.84m、深さ0.28m。

主軸方位(度) N-38-W

埋没土 径2~3cm砾2%を含む黒褐色土。

重複 なし。

遺物 なし。

所見 本遺構の年代を特定する資料は得られていない。

(87) H2-14号土坑(第7-67図、PL.67)

位置 56区V~W-25グリッド、西側調査区東半に位置する。

形状等 東北隅が確定していないが、圓丸長方形を呈すると推測される。

規模 1.28×0.54m、深さ0.24m。

主軸方位(度) N-20-W

埋没土 径1~5mmの白色軽石3%を含む黒褐色土。

重複 H3-1号掘立柱建物(P7)。

遺物 なし。

所見 本遺構の年代を特定する資料は得られていない。

H3-1号掘立柱建物より新しい。

(88) H2-21号土坑(第7-67図、PL.68)

位置 56区X-24グリッド、西側調査区東半に位置する。

形状等 不整形を呈する。

規模 1.16×0.96m、深さ0.24m。

主軸方位(度) N-85-W

埋没土 径1~5mmの白色軽石2%を含む黒褐色土。

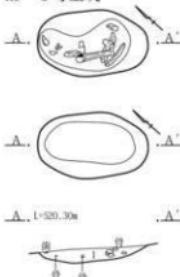
重複 H2-1号竪穴状遺構、H2-149号ピット。

遺物 なし。

所見 本遺構の年代を特定する資料は得られていない。

H2-1号竪穴状遺構に先行し、H2-149号ピットより新しい。

H3-9号土坑



H3-9号土坑埋葬状況

- 1 黒褐色土(2.5Y3/1)しまりややあり、粘性わずかにあり。Φ1~3mm白色軽石2%。

(89) H3-1号土坑(第7-67図、PL.69)

位置 56区X-25グリッド、西側調査区東半に位置する。

形状等 南西隅が調査区外に及び不明。

規模 0.80×(0.66)m、深さ0.15m。

主軸方位(度) N-74-W

埋没土 径1~5mmの白色軽石2%を含む黒褐色土。

重複 なし。

遺物 なし。

所見 本遺構の年代を特定する資料は得られていない。

(90) H3-2号土坑(第7-67図、PL.69)

位置 56区X-25グリッド、西側調査区東半に位置する。

形状等 偏円形を呈する。

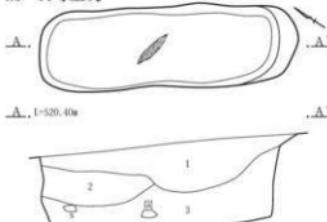
規模 0.88×0.76m、深さ0.10m。

主軸方位(度) N-41-E

埋没土 径1~5mmの白色軽石2%を含む黒褐色土。

重複 上位にH3-26号ピット。

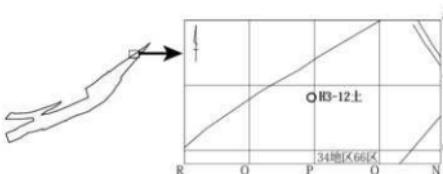
H3-11号土坑



- 1 黒褐色土(10Y3/2)しまりややあり、粘性わずかにあり。Φ1~5mm白色軽石3%。

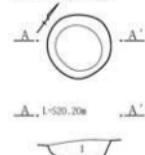
- 2 黒褐色土(2.5Y3/1)しまりわずかにあり、粘性ややあり。Φ1~5mm白色軽石1%。

- 3 オリーブ黒色土(5Y3/1)やや砂質。しまりわずかにあり、粘性あり。Φ1~5mm白色軽石1%。

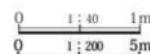


第7-68図 土坑14

H3-12号土坑



- 1 黒褐色土(7.5YR2/2)しまり、粘性わずかにあり。Φ1mm白色軽石1%。



遺物 なし。

所見 本遺構の年代を特定する資料は得られていない。

(91) H3-3号土坑(第7-67図、PL.69)

位置 56・66区U-56区25~66区1グリッド、西側調査区東半に位置する。

形状等 偏円形を呈する。

規模 1.10×1.04m、深さ0.20m。

主軸方位(度) N-27-E

埋没土 グライ化進む、径1~5mmの白色軽石2%を含む黒褐色土。

重複 なし。

遺物 なし。

所見 本遺構の年代を特定する資料は得られていない。

(92) H3-4号土坑(第7-67図、PL.69)

位置 66区T-U-1グリッド、西側調査区東半に位置する。

形状等 偏円形を呈する。

規模 1.14×1.12m、深さ0.24m。

主軸方位(度) N-8-W

埋没土 グライ化進む、径1~5mmの白色軽石2%を含む黒褐色土。

重複 なし。

遺物 なし。

所見 本遺構の年代を特定する資料は得られていない。

(93) H3-5号土坑(第7-67図、PL.69)

位置 66区T-1グリッド、西側調査区東半に位置する。

形状等 偏円形を呈する。

規模 1.02×0.96m、深さ0.13m。

主軸方位(度) N-14-E

埋没土 グライ化進む、径1~5mmの白色軽石2%を含む黒褐色土。

重複 なし。

遺物 なし。

所見 本遺構の年代を特定する資料は得られていない。

(94) H3-6号土坑(第7-67図、PL.70)

位置 66区T-1グリッド、西側調査区東半に位置する。

形状等 偏円形を呈する。

規模 0.82×0.82m、深さ0.13m。

主軸方位(度) N-39-E

埋没土 径1~5mmの白色軽石2%を含む黒褐色土。

重複 なし。

遺物 なし。

所見 本遺構の年代を特定する資料は得られていない。

(95) H3-7号土坑(第7-67図、PL.70)

位置 66区S-T-2グリッド、西側調査区東半に位置する。

形状等 長方形を呈する。

規模 1.44×0.62m、深さ0.26m。

主軸方位(度) N-76-E

埋没土 径1~3mmの白色軽石2%とグライ化した暗青灰色土がまばらに混ざるオリーブ黒色土。

重複 なし。

遺物 なし。

所見 本遺構の年代を特定する資料は得られていない。

(96) H3-8・10号土坑

a H3-8号土坑(第7-67図、PL.70)

位置 56区U-25グリッド、西側調査区東半に位置する。

形状等 長円形を呈する。

規模 1.10×0.46m、深さ0.38m。

主軸方位(度) N-31-W

埋没土 径1~5mmの白色軽石2%を含む、わずかに砂質の黒褐色土。

重複 H3-10号土坑

遺物 なし。

所見 本遺構の年代を特定する資料は得られていない。H3-10号土坑より新しい。

b H3-10号土坑(第7-67図、PL.70)

位置 56区U-25グリッド、西側調査区東半に位置する。

形状等 長円形を呈する。

規模 0.96×0.55m、深さ0.15m。

主軸方位(度) N-35-W

埋没土 径1mmの白色軽石1%を含む黒褐色土。

重複 H3-8号土坑。

遺物 なし。

所見 本遺構の年代を特定する資料は得られていない。

H3-8号土坑に先行する。

(97) H3-9号土坑(第7-68図、PL.70)

位置 66区T-2グリッド、西側調査区東半に位置する。

形状等 長円形を呈する。

規模 0.90×0.53m、深さ0.15m。

主軸方位(度) N-41-W

埋没土 径1~3mmの白色軽石2%を含む黒褐色土。

重複 なし。

遺物 遺骨が確認されている。

所見 本遺構の年代を特定する資料は得られていない。

埋葬法などは不明であるが土坑墓と推測される。

(98) H3-11号土坑(第7-68図、PL.70)

位置 66区S-T-2グリッド、西側調査区東半に位置する。

形状等 圓丸長方形を呈する。

規模 2.10×0.65m、深さ0.81m。

主軸方位(度) N-34-W

埋没土 径1~5mmの白色軽石1%を含むオリーブ黒色土。オリーブ黒色土。

重複 なし。

遺物 なし。

所見 本遺構の年代を特定する資料は得られていない。

(99) H3-12号土坑(第7-68図、PL.71)

位置 66区O-P-6グリッド、西側調査区東半に位置する。

形状等 円形を呈する。

規模 0.52×0.52m、深さ0.18m。

主軸方位(度) N-0

埋没土 径1mmの白色軽石1%を含む黒褐色土。

重複 なし。

遺物 なし。

所見 本遺構の年代を特定する資料は得られていない。

9 ピット

東側の調査区からピットは検出されていない。すべて西側の調査区からの検出であり、柵や建物などの遺構を

構成するものも含めると507基が確認されている。

遺構を構成する一部であるものを除いた、単体で確認されたピットのうち、67基は西側調査区北部からの検出であり、西側調査区北部西半から検出された二群の掘立柱建物の周囲に集中している。北部を除く西側調査区の271基の分布状況も同様の傾向があり、建物が密集している調査区の両端にピットが密に分布するが、西側調査区東半の密集度が高い。また調査区の中央部に単体で存在する建物の周囲にもピットの集中が認められる。

埋没土 ピットは最下層の埋没土の土色に基づき6系統に区分される。西側調査区北部のピットの最下層埋没土は、1基を除き黒褐色土か暗褐色土のいずれかである。なかでも暗褐色土は西側調査区北部に特徴的な土色であり、北部以外からは11基の検出にとどまる。なお例外の1基は複層の埋没土を持つピットであり、最下層は褐色土である。西側調査区北部のピットで、埋没土中に白色軽石と褐色軽石の両者が確認される埋没土は、いずれも礫と炭化物を伴っており、焼土とロームを伴うもの、焼土のみ含まれるもの、いずれも含まぬものに三分される。

オリーブ色を帯びた埋没土は西側調査区の東半に集中しており、白色軽石を伴うことが多く、白色軽石を伴わないピットは4基に限られる。なおこの系統の埋没土を持つピットで、西側調査区の東半以外から検出されたものは1基のみである。

複層の埋没土が確認されたピットの中で、西側調査区北部のピットは6基中の1基のみが系統の異なる埋没土で構成されているが、北部を除く西側調査区では19基中の11基が系統の異なる埋没土で構成されている。

他遺構との関係 A4-14号ピットはA4-13号ピットより新しく、いずれもA4-1号溝より新しい。A4-90号ピットはA4-1号掘立柱建物に先行し、A4-91号ピットはA4-1号掘立柱建物とA4-2号掘立柱建物の両者に先行するが、柱の補修痕の可能性がある。A4-84号ピットはA4-85号ピットに先行する。A4-67号ピットはA4-16号土坑より新しい。A4-88号ピットはA4-11号土坑に先行する。H1-120~122号ピットはH1-3号掘立柱建物に先行するが、柱の補修痕の可能性がある。H1-17号ピットはH1-16号ピットに先行する。H1-36号ピットはH1-14号ピットに先行する。H1-45号ピットはH1-5号掘立柱建物の両者に先行す

るが、柱の補修痕の可能性がある。H2-100号ピットはH1-21号土坑より新しい。H2-195号ピットはH2-6号溝に先行する。H2-72号ピットとH2-84号ピットはH2-8号土坑より新しい。H2-57号ピット、H2-59号ピット、H2-68号ピットはH2-7号掘立柱建物に先行するが、柱の補修痕の可能性がある。H2-79号ピットはH2-146号ピットより新しい。H2-87号ピットはH2-88号ピットに先行する。H2-149号ピットはH2-21号土坑に先行する。H2-155号ピット

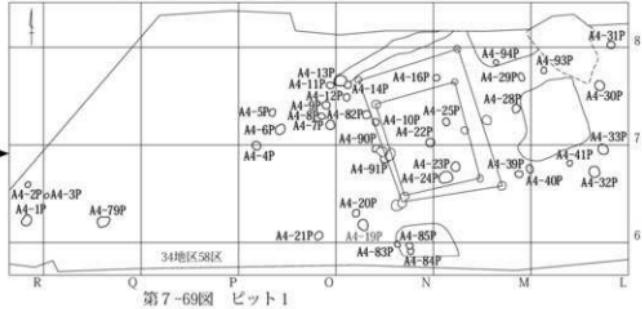
とH2-156号ピットはH2-1号竪穴状遺構より新しい。H3-46号ピットはH3-1号掘立柱建物に先行し、H3-2号ピット、H3-32号ピット、H3-33号ピットはこの建物より新しいが、いずれも柱の補修痕の可能性を持つ。H3-26号ピットはH3-2号土坑より新しい。H3-16号ピットはH3-17号ピットより新しい。H3-25号ピットはH3-24号ピットより新しい。H3-64号ピットはH3-63号ピットより新しい。

遺物 僅かではあるが遺物を伴うピットも確認されてい

第7-45表 ピットの埋没土

	上色 白色 褐色 輕石	褐色 輕石	雜	燒土	ローム	單層ピット	複層ピット
11	オリーブ黒色土	○				H2-73,13,23,26,42,43,58,61,62,70,74~76,86,90~95,97,150,204~218P, H3-46~64P	H2-69,83P
12	オリーブ黒色土					H2-63,102,104,107P	
13	暗オリーブ褐色土	○				H2-146P	H2-77P
14	灰オリーブ色土	○				H1-86P	
21	黒色土	○	○			H2-8,10,11,31,37,44,46,50,54,71,73,78,96,98,175~203P, H3-34~39P	
22	黒色土	○				H2-39,40P	
23	黒色土		○			H2-156P	
24	黒色土					H1-41P, H2-33P	H2-155P
31	黒褐色土	○	○			H2-57P, H3-26P	
32	黒褐色土	○				A4-23,90,92P, H1-12,15,16,17,19,20,24,25,34,45,70~76,79~84,87~89,91,92,94,95,97,100,101,113,114P, H2-47,49,55,59,66,68,72,79~82,87,99,108,109,146,148P, H3-1,2,4~11,13,16,17,32,33P	A4-91P, H2-38,89P
33	黒褐色土	○	○			A4-25,35P, H1-13,14,18,38,48,56,57,77,85,105,106,108,110,119,120P	H1-58P
34	黒褐色土		○			A4-2,7,8,10,16,19,20,29,30,87,93P, H1-36,37,43,50,53,122P, H2-85,110,160-174P, H3-24,25,40~45P	A4-13.5P, H1-44,51P
35	黒褐色土					A4-88,94P, H1-22,90,93,99P, H2-28,88,103,151,153P	H1-40P, H2-41,84P
41	暗褐色土	○	○	○		A4-22,40,47,48P	
41'	暗褐色土	○	○	○		A4-39,41,42,46,50,51,53~55,58,60,65,71,76~79,82~85P	
41''	暗褐色土	○	○	○		A4-61,62,67,72,74P	
42	暗褐色土	○	○			A4-32~34,36, H1-26P	H1-98P
43	暗褐色土	○				H1-118,121P	H1-102P
44	暗褐色土		○			A4-4,6,9,11,12,14,21,24,31, H1-47,52P	A4-13P, H1-11,54P
45	暗褐色土					H2-100,106,152,158P	
51	褐色土	○				H3-3P	
52	褐色土					H1-78P	A4-28P
53	褐色土		○				H1-35P
61	暗灰黄色土					H1-42P	
62	灰黄褐色土	○					H2-101P
63	灰褐色土						H1-96P
64	灰褐色土						

註 複層ピットは最下層の埋没土



第7-69図 ピット1

第3節 検出された遺構と遺物

る。いずれも図化には至らないが、A4-13号ピットから鉄製品、A4-16号ピットからは繩文土器片、A4-39号ピットからは土師器片、H1-43号ピットからは陶器片、H2-78号ピットからは中世在地系土器片が出土している。

(第7-69~73図、PL.71, 72)

A4-5号ピット



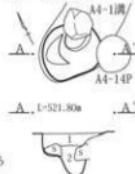
- 1 明褐色土(10YR3/3)しまりやあり、粘性わざかにあり。Φ 2~3 cm厚2%。
- 2 黒褐色土(7.5YR3/2)しまりやあり、粘性わざかにあり。Φ 2~3 cm厚3%。

A4-28号ピット



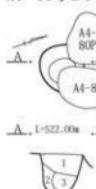
- 1 黒褐色土(10YR3/2)しまりやあり、粘性わざかにあり。Φ 1~3 mm白色軽石少量。炭化物まばらに混ざる。
- 2 黒褐色土(10YR3/2)しまりやあり、粘性わざかにあり。Φ 2~3 mm厚少量。
- 3 褐色土(10R4/4)しまり、粘性やあり。

A4-13号ピット



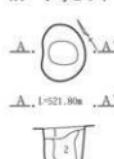
- 1 喀褐色土(10YR3/3)しまりやあり、粘性わざかにあり。Φ 1~3 cm上部ブロック%、Φ 5 mm~1 cm炭化物2%。
- 2 喀褐色土(10YR3/3)しまりわざかにあり、粘性やあり。Φ 1~2 cm角礫少量。

A4-91号ピット



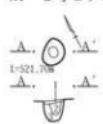
- 1 黒褐色土(10YR3/2)しまり、粘性やあり。Φ 5 mm~2 cm厚2%。
- 2 喀褐色土(10YR3/3)や粘土質。しまりわざかにあり、粘性やあり。Φ 5 mm白色軽石少量。
- 3 黒褐色土(10YR2/2)や粘土質。しまりやあり、粘性あり。Φ 5 mm~1 cm白色軽石少量。

A4-1号ピット

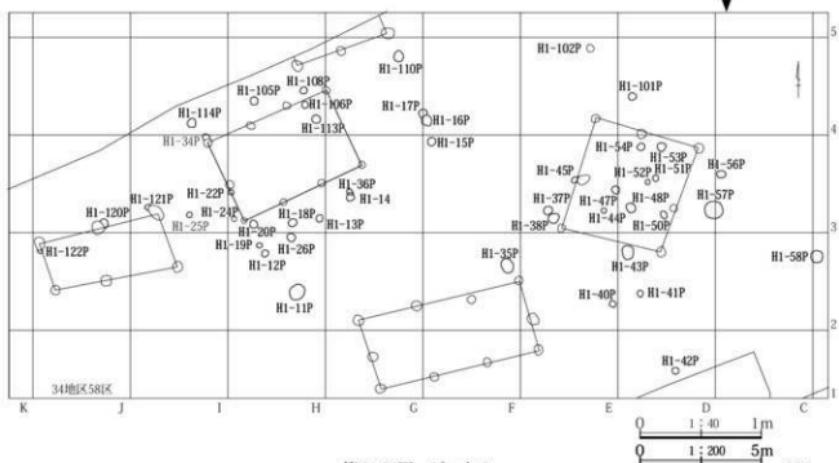
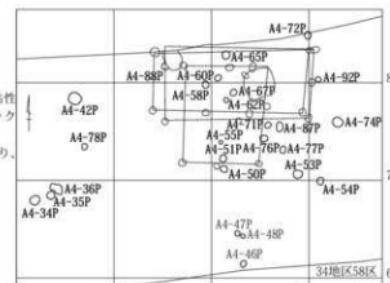


- 1 黒褐色土(2.5Y3/2)しまりややあり。粘性わざかにあり。Φ 1 cm厚少量。
- 2 黒褐色土(10YR2/2)やや粘土質。しまりややあり、粘性あり。
- 3 黒褐色土(2.5Y3/2)しまりわざかにあり、粘性ややあり。Φ 1~2 cm厚3%。

A4-3号ピット



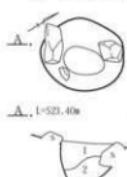
- 1 黒褐色土(2.5Y3/2)しまりややあり。粘性わざかにあり。Φ 1 cm厚少量。
- 2 黒褐色土(10YR2/2)やや粘土質。しまりややあり、粘性あり。
- 3 黒褐色土(2.5Y3/2)やや砂質。しまり、粘性わざかにあり。Φ 5 mm厚2%。



第7-70図 ピット2

第7章 下湯原遺跡(3)

H1-11号ピック



- 1 黒褐色土(10YR2/3)しまり
粘性わずかにあり。Φ5cm
黄褐色砂礫少量。
 - 2 暗褐色土(10YR3/3)しま
わざかにあり、粘性やや
り。Φ3~5cm礫30%。

H1 - 35号ビット



- 黒褐色土(10YR3/2)し
まりわずかにあり、粘性や
やあり。Φ 1 mm白色輕石,
Φ 3~4 cm礫少量。
 - 褐色土(10YR4/4)し
まり、
粘性わずかにあり。Φ

H1-40号ピット



- 3 用測位 L-10X32

H1-44号ビット



- 黑猩急上(7-5YR3/2)

H1-51号ビット



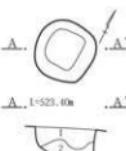
- 褐色土(10YR3/3)しまり
やあり、粘性わずかにあ
ウ1cm礫5%。
褐色土(10YR3/2)しまり、
生わざかにあり。ウ1~
2cm礫10%。

H1-54号ピット



- 黒褐色土(10YR3/2)しま
ややあり、粘性わずかに
り。Φ 2~3 mm白色輕
1%。Φ 1~2 cm礫少量
 - 暗褐色土(10YR3/4)しま
わずかにあり、粘性やや
り。Φ 2~3 cm礫少量。

H1-58号ピット



- 1 黒褐色土(2.5Y3/2)しまりややあり、粘性わずかにあり。Φ1～5mm白色軽石2%、Φ1～2cm礫3%。
 - 2 黒褐色土(10YR3/2)しまりややあり、粘性わずかにあり。Φ1～5mm白色軽石、Φ1cm礫少量。

HJ-96号ピット

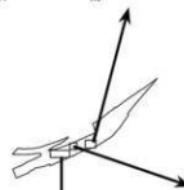


- 1 黒褐色土(2.5Y3/1)しまりあり、
粘性ややあり。

HI-98号ピット



- 黒褐色土(10YR3/2)しまりあり、粘性わずかにあり。Φ 1 mm白色軽石 2%。



第7-71図 ピット3





第7-73図 ピット5

第7-46表 ピット計測表

遺構名	出土位置	平面形状	規模(m)			主軸方位 (度)	段下解 埋没土	備考
			長	短	深			
A4-1号ピット	58-K-6グリッド	長円形	0.46	0.36	0.38	N-30-E	34	
A4-2号ピット	58-K-6グリッド	長円形	0.26	0.22	0.09	N-40-E	34	
A4-3号ピット	58-K-6グリッド	長円形	0.22	0.18	0.19	N-31-E	34	
A4-4号ピット	58-K-6グリッド	長円形	0.36	0.33	0.17	N-33-W	44	
A4-5号ピット	58-K-7グリッド	長円形	0.28	0.23	0.17	N-15-E	34	
A4-6号ピット	58-K-7グリッド	長円形	0.42	0.36	0.29	N-59-E	44	
A4-7号ピット	58-K-7グリッド	長円形	0.38	0.36	0.18	N-20-W	34	
A4-8号ピット	58-K-7グリッド	長円形	0.28	0.24	0.14	N-56-W	34	
A4-9号ピット	58-K-7グリッド	円形	0.32	0.32	0.16	N-0	44	
A4-10号ピット	58-K-7グリッド	長円形	0.28	0.26	0.33	N-35-W	34	
A4-11号ピット	58-K-7グリッド	長円形	0.32	0.26	0.19	N-66-W	44	
A4-12号ピット	58-K-7グリッド	長円形	0.30	0.27	0.25	N-0	44	
A4-13号ピット	58-K-7グリッド	長円形	0.56	0.48	0.36	N-80-W	44	圓化に至らないが、鉄製品出土。
A4-14号ピット	58-K-7グリッド	円形	0.28	0.28	0.33	N-0	44	A4-13Pより新しい。
A4-15号ピット	58-K-7グリッド	円形	0.26	0.26	0.29	N-0	34	圓化に至らないが、繩文土器片出土。
A4-19号ピット	58-K-6グリッド	長円形	0.45	0.58	0.28	N-37-E	34	
A4-20号ピット	58-K-6グリッド	長円形	0.30	0.28	0.14	N-4-E	34	
A4-21号ピット	58-K-6グリッド	長円形	0.36	0.28	0.23	N-46-E	44	
A4-22号ピット	58-K-6グリッド	円形	0.36	0.36	0.30	N-0	41	
A4-23号ピット	58-K-6グリッド	長円形	0.48	0.37	0.29	N-12-W	32	
A4-24号ピット	58-K-6グリッド	長円形	0.56	0.48	0.09	N-63-W	44	
A4-25号ピット	58-K-7グリッド	円形	0.33	0.28	0.38	N-17-W	33	
A4-28号ピット	58-K-7グリッド	長円形	0.36	0.33	0.24	N-15-E	52	
A4-29号ピット	58-K-7グリッド	長円形	0.36	0.22	0.29	N-25-W	34	
A4-30号ピット	58-L-7グリッド	長円形	0.42	0.38	0.52	N-34-W	34	
A4-31号ピット	58-L-7グリッド	円形	0.30	0.30	0.41	N-0	44	
A4-32号ピット	58-L-6グリッド	長円形	0.46	0.42	0.31	N-21-W	42	
A4-33号ピット	58-L-6グリッド	長円形	0.46	0.38	0.35	N-37-W	42	
A4-34号ピット	58-L-6グリッド	長円形	0.41	0.37	0.34	N-45-E	42	
A4-35号ピット	58-K-6グリッド	長円形	0.34	0.30	0.21	N-37-E	33	
A4-36号ピット	58-K-6グリッド	不定形	0.60	0.34	0.27	N-37-W	42	
A4-39号ピット	58-K-6グリッド	長円形	0.32	0.3	0.18	N-57-W	41*	圓化に至らないが、土師器片出土。
A4-40号ピット	58-L-6グリッド	長円形	0.34	0.25	0.14	N-30-W	41	
A4-41号ピット	58-L-6グリッド	長円形	0.22	0.23	0.19	N-9-W	41*	
A4-42号ピット	58-K-7グリッド	長円形	0.53	0.48	0.59	N-45-W	41*	
A4-46号ピット	58-L-6グリッド	長円形	0.28	0.24	0.30	N-11-E	41*	
A4-47号ピット	58-L-6グリッド	長円形	0.23	0.20	0.11	N-37-W	41	
A4-48号ピット	58-L-6グリッド	長円形	0.20	0.16	0.14	N-66-W	41	
A4-50号ピット	58-L-7グリッド	長円形	0.42	0.36	0.62	N-56-W	41*	
A4-51号ピット	58-L-7グリッド	長円形	0.25	0.31	0.25	N-7-W	41*	
A4-53号ピット	58-L-7グリッド	長円形	0.38	0.35	0.16	N-75-W	41*	
A4-54号ピット	58-K-6グリッド	長円形	0.30	0.27	0.13	N-12-E	41*	
A4-55号ピット	58-L-7グリッド	長円形	0.15	0.14	0.17	N-39-E	41*	
A4-58号ピット	58-J-7グリッド	長円形	0.28	0.25	0.19	N-0	41*	
A4-60号ピット	58-L-8グリッド	長円形	0.28	0.23	0.21	N-44-E	41*	
A4-61号ピット	58-L-7グリッド	長円形	0.27	0.26	0.17	N-61-E	41*	
A4-62号ピット	58-L-7グリッド	円形	0.19	0.19	0.09	N-0	41*	
A4-65号ピット	58-L-8グリッド	長円形	0.34	0.32	0.27	N-11-E	41*	
A4-67号ピット	58-L-8グリッド	長円形	0.32	0.22	0.14	N-45-W	41*	A4-16土坑より新しい。
A4-71号ピット	58-L-7グリッド	長円形	0.26	0.22	0.17	N-51-E	41*	
A4-72号ピット	58-K-8グリッド	長円形	0.32	0.26	0.18	N-18-W	41*	
A4-74号ピット	58-K-7グリッド	長円形	0.44	0.37	0.31	N-7-W	41*	
A4-76号ピット	58-L-7グリッド	長円形	0.32	0.26	0.44	N-76-E	41*	
A4-77号ピット	58-L-7グリッド	長円形	0.28	0.22	0.16	N-15-E	41*	
A4-78号ピット	58-K-7グリッド	長円形	0.26	0.23	0.30	N-15-E	41*	
A4-79号ピット	58-K-6グリッド	長円形	0.53	0.41	0.39	N-66-E	41*	
A4-82号ピット	58-K-7グリッド	長円形	0.36	0.34	0.23	N-31-E	41*	
A4-83号ピット	58-K-5グリッド	長円形	0.28	0.2	0.17	N-41-W	41*	
A4-84号ピット	58-K-5グリッド	長円形	0.26	0.22	0.16	N-6-W	41*	A4-85Pより古い。
A4-85号ピット	58-K-5グリッド	長円形	0.32	0.25	0.15	N-57-W	41*	
A4-87号ピット	58-L-7グリッド	長円形	0.40	0.26	0.13	N-4-W	34	
A4-88号ピット	58-J-8グリッド	長円形	(0.28)	0.28	0.41	N-51-E	35	A4-11土坑より古い。

ピット計測表

遺構名	出土位置	平面形状	規模(m)			主軸方位 (度)	最下層 埋没土	備考
			長	短	深			
A4-90号ピット	58-6グリッド	長円形	0.34	(0.20)	0.29	N-50-E	32	A4-1掘立より古い。
A4-91号ピット	58-6グリッド	長円形	0.35	0.40	0.34	N-19-E	32	A4-1掘立とA4-2掘立より古い。
A4-92号ピット	58-8グリッド	長円形	0.34	0.20	0.19	N-63-W	32	
A4-93号ピット	58-L-7グリッド	長円形	0.28	0.22	0.25	N-14-W	34	
A4-94号ピット	58-L-7グリッド	長円形	0.24	0.20	0.21	N-40-W	35	
H1-11号ピット	58-B-2グリッド	長円形	0.68	0.55	0.36	N-32-E	44	
H1-12号ピット	58-B-2グリッド	長円形	0.30	0.26	0.15	N-29-E	32	
H1-13号ピット	58-B-3グリッド	長円形	0.31	0.26	0.17	N-5-E	33	
H1-14号ピット	58-B-3グリッド	長円形	0.32	0.30	0.09	N-70-E	33	H1-36Pより新しい。
H1-15号ピット	58-B-3グリッド	長円形	0.36	0.32	0.11	N-21-E	32	
H1-16号ピット	58-F-4グリッド	長円形	0.45	0.43	0.31	N-32-W	32	H1-17Pより新しい。
H1-17号ピット	58-F-4グリッド	長円形	0.36	0.30	0.22	N-45-E	32	
H1-18号ピット	58-B-3グリッド	長円形	0.36	0.31	0.24	N-66-E	33	
H1-19号ピット	58-B-2グリッド	長円形	0.24	0.18	0.13	N-75-W	32	
H1-20号ピット	58-B-3グリッド	長円形	0.34	0.32	0.26	N-11-W	32	
H1-22号ピット	58-B-3グリッド	長円形	0.24	0.22	0.18	N-42-W	35	
H1-24号ピット	58-B-3グリッド	長円形	0.22	0.20	0.15	N-58-W	32	
H1-25号ピット	58-1-3グリッド	円形	0.24	0.24	0.17	N-0	32	
H1-26号ピット	58-B-2グリッド	長円形	0.35	0.32	0.26	N-50-W	42	
H1-34号ピット	58-1-3グリッド	長円形	(0.28)	0.28	0.21	N-54-W	32	
H1-35号ピット	58-F-2グリッド	長円形	0.61	0.48	0.31	N-24-W	53	
H1-36号ピット	58-B-3グリッド	長円形	0.31	0.22	0.19	N-89-W	34	
H1-37号ピット	58-E-3グリッド	長円形	0.38	0.34	0.5	N-56-E	34	
H1-38号ピット	58-E-3グリッド	長円形	0.47	0.42	0.51	N-56-E	33	
H1-40号ピット	58-E-2グリッド	長円形	0.28	0.24	0.12	N-63-W	35	
H1-41号ピット	58-B-2グリッド	長円形	0.29	0.22	0.14	N-8-W	24	グライ化進む。
H1-42号ピット	58-B-1グリッド	長円形	0.28	0.26	0.13	N-9-W	61	
H1-43号ピット	58-B-2グリッド	長円形	0.57	0.44	0.19	N-8-W	34	陶化に至らないが、陶器片出土。
H1-44号ピット	58-E-3グリッド	長円形	0.22	0.21	0.25	N-20-W	34	
H1-45号ピット	58-E-3グリッド	長円形	(0.32)	0.23	0.29	N-72-E	32	
H1-47号ピット	58-B-3グリッド	長円形	0.34	0.30	0.19	N-22-W	44	
H1-48号ピット	58-B-3グリッド	長円形	0.40	0.35	0.32	N-25-W	33	
H1-50号ピット	58-B-3グリッド	長円形	0.32	0.25	0.57	N-23-W	34	
H1-51号ピット	58-B-3グリッド	長円形	0.26	0.24	0.32	N-16-W	34	
H1-52号ピット	58-B-3グリッド	長円形	0.20	0.18	0.10	N-40-E	44	
H1-53号ピット	58-B-3グリッド	長円形	0.36	0.34	0.32	N-9-E	34	
H1-54号ピット	58-B-3グリッド	長円形	0.32	0.28	0.21	N-42-E	44	陶化に至らないが、砾石出土。
H1-56号ピット	58-C-3グリッド	長円形	0.40	0.26	0.08	N-79-E	33	
H1-57号ピット	58-C-3グリッド	長円形	0.73	0.72	0.34	N-40-W	33	
H1-58号ピット	58-B-2グリッド	長円形	0.52	0.50	0.26	N-7-W	33	
H1-70号ピット	57-E-4グリッド	長円形	0.25	0.22	0.12	N-49-E	32	
H1-71号ピット	57-E-5グリッド	円形	0.18	0.18	0.09	N-0	32	
H1-72号ピット	57-V-5グリッド	円形	0.20	0.20	0.10	N-0	32	
H1-73号ピット	57-V-6グリッド	円形	0.13	0.13	0.08	N-0	32	
H1-74号ピット	57-V-6グリッド	長円形	0.22	0.18	0.15	N-30-E	32	
H1-75号ピット	57-V-6グリッド	長円形	0.27	0.25	0.23	N-65-E	32	
H1-76号ピット	57-V-6グリッド	円形	0.20	0.20	0.13	N-0	32	
H1-77号ピット	57-V-6グリッド	長円形	0.22	0.2	0.14	N-46-W	33	
H1-78号ピット	57-V-6グリッド	長円形	0.24	0.21	0.08	N-61-E	52	
H1-79号ピット	57-V-6グリッド	長円形	0.26	0.25	0.12	N-50-W	32	
H1-80号ピット	57-V-6グリッド	長円形	0.23	0.20	0.12	N-66-W	32	
H1-81号ピット	57-V-5グリッド	円形	0.23	0.23	0.12	N-0	32	
H1-82号ピット	57-V-5グリッド	円形	0.20	0.20	0.20	N-0	32	
H1-83号ピット	57-S-9グリッド	長円形	0.24	0.20	0.14	N-21-W	32	
H1-84号ピット	57-S-9グリッド	長円形	0.20	0.19	0.05	N-57-E	32	
H1-85号ピット	57-Q-9グリッド	長円形	0.25	0.21	0.26	N-19-E	33	
H1-86号ピット	57-Q-8グリッド	長円形	0.29	0.25	0.08	N-11-E	14	
H1-87号ピット	57-Q-8グリッド	長円形	0.28	0.23	0.18	N-19-W	32	
H1-88号ピット	57-Q-8グリッド	長円形	0.26	0.25	0.15	N-44-E	32	
H1-89号ピット	57-Q-8グリッド	長円形	0.43	0.42	0.16	N-30-W	32	
H1-90号ピット	57-J-9グリッド	長円形	0.36	0.22	0.18	N-11-W	35	
H1-91号ピット	57-J-9グリッド	長円形	0.22	0.19	0.06	N-60-E	32	
H1-92号ピット	57-J-9グリッド	長円形	0.27	0.24	0.11	N-17-W	32	
H1-93号ピット	57-J-9グリッド	長円形	0.22	0.19	0.08	N-33-W	35	

遺構名	出土位置	平面形状	規模(cm)			主軸方位 (度)	最下層 埋没上	備考
			長	短	深			
H1-94号ピット	57-I-9グリッド	長円形	0.38	0.25	0.24	N-23-#	32	
H1-95号ピット	57-I-10グリッド	長円形	0.48	0.38	0.15	N-25-#	32	
H1-96号ピット	57-L-11グリッド	円形	0.29	0.29	0.20	N-0	63	最下層は黒褐色土が20%混ざる。
H1-97号ピット	57-II-11グリッド	長円形	0.40	0.34	0.16	N-78-#	32	
H1-98号ピット	58-B-7グリッド	長円形	0.62	0.55	0.23	N-29-#	42	
H1-99号ピット	57-L-11グリッド	長円形	0.39	0.18	0.33	N-80-#	35	
H1-100号ピット	57-II-11グリッド	長円形	0.20	0.18	0.33	N-33-#	32	H1-21土より新しい。
H1-101号ピット	58-B-4グリッド	長円形	0.32	0.30	0.32	N-34-E	32	
H1-102号ピット	58-E-4グリッド	長円形	0.32	0.30	0.27	N-13-#	43	
H1-105号ピット	58-B-4グリッド	長円形	0.33	0.31	0.21	N-25-#	33	
H1-106号ピット	58-B-4グリッド	長円形	0.28	0.26	0.13	N-33-#	33	
H1-108号ピット	58-B-4グリッド	長円形	0.30	0.28	0.18	N-38-E	33	
H1-110号ピット	58-B-4グリッド	長円形	0.45	0.40	0.26	N-7-#	33	
H1-113号ピット	58-II-4グリッド	円形	0.34	0.34	0.16	N-0	32	
H1-114号ピット	58-I-1グリッド	長円形	0.36	0.34	0.26	N-13-E	32	
H1-118号ピット	58-k-6グリッド	長円形	0.22	0.21	0.08	N-15-E	43	
H1-119号ピット	58-k-6グリッド	長円形	0.27	0.26	0.12	N-24-E	33	
H1-120号ピット	58-J-3グリッド	長円形	0.38	(0.30)	0.28	N-13-#	33	H1-3掘立より古い。
H1-121号ピット	58-I-3グリッド	円形	(0.25)	(0.25)	0.20	N-0	43	H1-3掘立より古い。
H1-122号ピット	58-J-2グリッド	長円形	(0.21)	0.20	0.34	N-36-#	34	H1-3掘立より古い。
H2-7号ピット	56-V-24グリッド	長円形	0.20	0.18	0.19	N-45-#	11	
H2-8号ピット	56-V-23グリッド	長円形	0.30	0.28	0.28	N-52-E	21	
H2-9号ピット	56-V-24グリッド	長円形	0.32	0.30	0.41	N-52-E	11	
H2-10号ピット	56-U-24グリッド	長円形	0.19	0.20	0.17	N-19-#	21	
H2-11号ピット	56-V-23グリッド	長円形	0.26	0.23	0.24	N-40-#	21	
H2-13号ピット	56-V-23グリッド	長円形	0.30	0.28	0.23	N-13-#	11	
H2-23号ピット	56-W-24グリッド	長円形	0.30	0.24	0.27	N-18-#	11	
H2-26号ピット	56-W-25グリッド	長円形	0.37	0.20	0.26	N-55-#	11	
H2-28号ピット	56-W-25グリッド	長円形	0.26	0.22	0.12	N-25-E	35	
H2-31号ピット	56-W-24グリッド	長円形	0.28	0.22	0.20	N-48-#	21	
H2-33号ピット	56-W-24グリッド	長円形	0.38	0.34	0.49	N-34-E	24	
H2-37号ピット	56-X-25グリッド	長円形	0.35	0.30	0.23	N-22-#	21	
H2-38号ピット	56-W-25グリッド	長円形	0.46	0.40	0.43	N-42-E	32	
H2-39号ピット	56-W-25グリッド	長円形	0.40	0.32	0.23	N-33-E	22	
H2-40号ピット	56-X-25グリッド	長円形	0.28	0.23	0.10	N-40-#	22	
H2-41号ピット	56-X-25グリッド	長円形	0.32	0.31	0.31	0.31N-13-#	35	
H2-42号ピット	56-X-25グリッド	長円形	0.28	0.24	0.27	N-50-E	11	
H2-43号ピット	56-W-24グリッド	長円形	0.24	0.23	0.17	N-35-#	11	
H2-44号ピット	56-T-25グリッド	長円形	0.27	0.26	0.14	N-55-E	21	
H2-46号ピット	56-Y-23グリッド	長円形	0.25	0.23	0.28	N-56-E	21	
H2-47号ピット	56-W-23グリッド	方形	0.27	0.27	0.18	N-41-#	32	
H2-49号ピット	56-V-23グリッド	長円形	0.37	0.26	0.28	N-22-#	32	
H2-50号ピット	56-V-22グリッド	長円形	0.32	0.28	0.34	N-41-E	21	
H2-54号ピット	56-X-22グリッド	長円形	0.30	0.18	0.18	N-16-#	21	
H2-55号ピット	56-X-22グリッド	長円形	0.22	0.20	0.18	N-43-#	32	
H2-57号ピット	56-E-23グリッド	長円形	0.25	0.22	0.15	N-81-#	31	H2-7掘立より古い。
H2-58号ピット	56-E-22グリッド	長円形	0.26	0.18	0.20	N-33-#	11	
H2-59号ピット	56-V-22グリッド	長円形	0.28	0.24	0.19	N-43-#	32	H2-7掘立より古い。
H2-61号ピット	56-V-22グリッド	長円形	0.29	0.24	0.19	N-18-#	11	
H2-62号ピット	56-V-22グリッド	長円形	0.27	0.21	0.24	N-3-E	11	
H2-63号ピット	56-V-22グリッド	長円形	0.27	0.24	0.13	N-29-#	12	
H2-66号ピット	56-V-21グリッド	長円形	0.30	0.28	0.11	N-34-#	32	
H2-68号ピット	56-V-21グリッド	長円形	(0.33)	0.34	0.20	N-33-#	32	H2-7掘立より古い。
H2-69号ピット	56-V-21グリッド	不定形	0.50	0.20	0.18	N-4-#	11	最下層は中5mm炭化物を少量含む。
H2-70号ピット	56-V-21グリッド	長円形	0.26	0.22	0.13	N-16-#	11	
H2-71号ピット	56-V-22グリッド	円形	0.22	0.22	0.19	N-0	21	
H2-72号ピット	56-V-21グリッド	長円形	0.35	0.31	0.20	N-35-#	32	H2-8土坑より新しい。
H2-73号ピット	56-W-21グリッド	長円形	0.29	0.28	0.18	N-48-E	21	
H2-74号ピット	56-W-21グリッド	長円形	0.28	0.26	0.15	N-51-#	11	
H2-75号ピット	56-W-22グリッド	長円形	0.24	0.20	0.16	N-75-E	11	
H2-76号ピット	56-W-22グリッド	長円形	0.50	0.45	0.19	N-31-E	11	
H2-77号ピット	56-V-23グリッド	長円形	0.25	0.23	0.37	N-27-#	13	
H2-78号ピット	56-W-20グリッド	長円形	0.48	0.32	0.17	N-13-#	21	炭化に至らないが、中世在地系土器片出上。
H2-79号ピット	56-W-20グリッド	長円形	0.48	0.38	0.2	N-13-#	32	H2-21土坑より古い。

ピット計測表

遺構名	出土位置	平面形状	規模(単)			主軸方位 (度)	最下層 埋没土	備考
			長	対	深			
H2-80号ピット	56-Y-21グリッド	長円形	0.28	0.25	0.09	N-56-W	32	
H2-81号ピット	56-Y-21グリッド	長円形	0.56	0.43	0.31	N-65-E	32	
H2-82号ピット	56-Y-21グリッド	長円形	0.32	0.28	0.12	N-35-E	32	
H2-83号ピット	57-Y-21グリッド	長円形	0.40	0.33	0.25	N-57-W	11	
H2-84号ピット	57-Y-17グリッド	長円形	0.47	0.40	0.57	N-34-W	35	H2-8上坑より新しい。
H2-85号ピット	57-Y-16グリッド	長円形	0.34	0.30	0.51	N-70-W	34	
H2-86号ピット	56-Y-21グリッド	長円形	0.55	0.47	0.22	N-34-W	11	
H2-87号ピット	56-X-22グリッド	長円形	(0.24)	0.20	0.12	N-45-E	32	
H2-88号ピット	56-X-22グリッド	長円形	0.26	0.22	0.20	N-36-W	35	
H2-89号ピット	56-Y-22グリッド	長円形	0.53	0.34	0.27	N-23-W	32	
H2-90号ピット	56-Y-22グリッド	長円形	0.34	0.30	0.16	N-16-W	11	
H2-91号ピット	57-J-9グリッド	長円形	0.23	0.19	0.06	N-65-E	11	
H2-92号ピット	56-Y-22グリッド	長円形	0.32	0.3	0.16	N-21-W	11	
H2-93号ピット	56-Y-22グリッド	長円形	0.37	0.24	0.14	N-68-W	11	
H2-94号ピット	56-Y-22グリッド	長円形	0.42	0.30	0.26	N-36-W	11	
H2-95号ピット	56-X-23グリッド	長円形	0.25	0.18	0.26	N-15-W	11	
H2-96号ピット	56-X-23グリッド	長円形	0.24	0.20	0.30	N-23-E	21	
H2-97号ピット	56-X-23グリッド	長円形	0.22	0.20	0.10	N-9-W	11	
H2-98号ピット	56-Y-23グリッド	長円形	0.22	0.19	0.30	N-53-E	21	
H2-99号ピット	56-Y-23グリッド	円形	0.22	0.22	0.12	N-0	32	
H2-100号ピット	56-Y-23グリッド	長円形	0.21	0.20	0.21	N-48-E	45	
H2-101号ピット	56-Y-22グリッド	長円形	0.50	0.48	0.21	N-11-W	62	最下層の一部、鉄分凝集により明褐色に変色。
H2-102号ピット	56-Y-23グリッド	長円形	0.29	0.24	0.28	N-49-W	12	
H2-103号ピット	56-Y-24グリッド	長円形	0.27	0.20	0.16	N-8-W	35	
H2-104号ピット	56-Y-24グリッド	円形	0.16	0.16	0.28	N-0	12	
H2-106号ピット	56-Y-24グリッド	円形	0.22	0.22	0.21	N-0	45	
H2-107号ピット	56-Y-23グリッド	長円形	0.26	0.24	0.09	N-19-E	12	
H2-108号ピット	56-Y-21グリッド	長円形	0.26	0.24	0.16	N-72-W	32	
H2-109号ピット	56-Y-21グリッド	長円形	0.26	0.23	0.16	N-42-W	32	
H2-110号ピット	56-Y-23グリッド	長円形	0.26	0.24	0.24	N-15-E	34	
H2-146号ピット	56-Y-20グリッド	長円形	0.34	0.28	-	N-59-W	32	Φ1~3mmの炭化物を少量含む。
H2-148号ピット	56-Y-22グリッド	長円形	0.30	0.28	0.49	N-5-E	32	
H2-149号ピット	56-X-24グリッド	不定形	(0.53)	0.35	0.12	N-86-W	13	
H2-150号ピット	56-U-24グリッド	長円形	0.30	0.29	0.31	N-36-E	11	
H2-151号ピット	56-U-24グリッド	長円形	0.20	0.18	0.24	N-42-W	35	
H2-152号ピット	56-T-23グリッド	長円形	0.27	0.25	0.16	N-8-W	45	
H2-153号ピット	56-U-23グリッド	長円形	0.25	0.18	0.12	N-45-E	35	
H2-155号ピット	56-X-25グリッド	長円形	0.40	0.30	0.13	N-49-W	24	最下層に緑灰色の斑点がまばらに3%混ざる。
H2-156号ピット	56-X-25グリッド	長円形	0.36	0.26	0.35	N-46-W	23	H2-155Pと共にH2-1号穴状遺構より新しい。
H2-158号ピット	56-Y-21グリッド	長円形	0.24	0.20	0.19	N-55-W	45	
H2-160号ピット	57-B-13グリッド	長円形	0.30	0.28	0.19	N-46-W	34	
H2-161号ピット	57-B-13グリッド	長円形	0.32	0.28	0.23	N-28-W	34	
H2-162号ピット	57-B-12グリッド	円形	0.22	0.22	0.09	N-0	34	
H2-163号ピット	57-I-11グリッド	円形	0.26	0.26	0.21	N-0	34	
H2-164号ピット	57-B-17グリッド	長円形	0.24	0.22	0.22	N-4-W	34	
H2-165号ピット	57-B-18グリッド	長円形	0.34	0.30	0.17	N-6-W	34	
H2-166号ピット	57-C-18グリッド	長円形	0.24	0.22	0.13	N-65-W	34	
H2-167号ピット	57-E-18グリッド	長円形	0.24	0.22	0.10	N-12-E	34	
H2-168号ピット	57-F-18グリッド	長円形	0.30	0.26	0.17	N-35-W	34	
H2-169号ピット	57-F-16グリッド	長円形	0.42	0.36	0.13	N-25-W	34	
H2-170号ピット	57-F-16グリッド	長円形	0.40	0.35	0.35	N-13-E	34	
H2-171号ピット	56-X-19グリッド	長円形	0.32	0.30	0.11	N-49-W	34	
H2-172号ピット	57-B-22グリッド	長円形	0.24	0.20	0.20	N-51-W	34	
H2-173号ピット	57-B-22グリッド	円形	0.24	0.24	0.20	N-0	34	
H2-174号ピット	56-Y-22グリッド	円形	0.26	0.26	0.18	N-0	34	
H2-175号ピット	57-I-18グリッド	長円形	0.24	0.22	0.17	N-32-W	21	
H2-176号ピット	57-C-17グリッド	長円形	0.19	0.18	0.15	N-35-E	21	
H2-177号ピット	57-B-16グリッド	長円形	0.43	0.38	0.31	N-10-W	21	
H2-178号ピット	57-B-15グリッド	長円形	0.48	0.40	0.17	N-46-W	21	
H2-179号ピット	57-E-19グリッド	円形	0.28	0.28	0.17	N-0	21	
H2-180号ピット	57-B-19グリッド	長円形	0.28	0.26	0.20	N-52-E	21	
H2-181号ピット	57-B-19グリッド	円形	0.28	0.28	0.10	N-0	21	
H2-182号ピット	57-B-19グリッド	長円形	0.30	0.26	0.38	N-68-E	21	
H2-183号ピット	57-A-19グリッド	長円形	0.25	0.22	0.18	N-19-W	21	

道構名	出上位置	平面形状	規模(m)			主軸方位 (度)	最下層 埋没土	備考
			長	寛	深			
H2-184号ピット	57-k-19グリッド	長円形	0.28	0.26	0.45	N-22-#	21	
H2-185号ピット	57-k-18グリッド	長円形	0.30	0.28	0.26	N-13-E	21	
H2-186号ピット	57-k-18グリッド	長円形	0.26	0.25	0.22	N-9-#	21	
H2-187号ピット	57-k-19グリッド	長円形	0.30	0.28	0.16	N-34-#	21	
H2-188号ピット	56-Y-20グリッド	長円形	0.30	0.28	0.18	N-15-E	21	
H2-189号ピット	57-k-19グリッド	長円形	0.20	0.18	0.29	N-31-#	21	
H2-190号ピット	56-Y-18グリッド	長円形	0.26	0.24	0.15	N-41-E	21	
H2-191号ピット	56-Y-18グリッド	長円形	0.22	0.20	0.12	N-4-E	21	
H2-192号ピット	56-Y-18グリッド	長円形	0.26	0.20	0.25	N-9-#	21	
H2-193号ピット	57-k-17グリッド	長円形	0.32	0.26	0.42	N-27-#	21	
H2-194号ピット	56-Y-17グリッド	長円形	1.36	0.32	0.08	N-9-E	21	
H2-195号ピット	56-Y-21グリッド	長円形	0.36	0.30	0.13	N-23-#	21	H2-6番より古い。
H2-196号ピット	56-Y-20グリッド	長円形	0.35	0.26	0.12	N-24-E	21	
H2-197号ピット	56-X-21グリッド	長円形	0.36	0.32	0.19	N-40-#	21	
H2-198号ピット	56-Y-21グリッド	長円形	(0.16)	0.20	0.27	N-28-#	21	
H2-199号ピット	56-U-22グリッド	円形	0.18	0.16	0.08	N-32-E	21	
H2-201号ピット	56-U-23グリッド	円形	0.21	0.21	0.13	N-0	21	
H2-202号ピット	56-W-25グリッド	長円形	0.22	0.21	0.19	N-54-E	21	
H2-203号ピット	56-W-25グリッド	長円形	0.29	0.21	0.21	N-73-#	21	
H2-204号ピット	57-k-22グリッド	長円形	0.34	0.30	0.44	N-43-#	11	
H2-205号ピット	57-k-21グリッド	長円形	0.32	0.26	0.17	N-14-#	11	
H2-206号ピット	56-Y-21グリッド	長円形	(0.17)	0.20	0.34	N-31-#	11	
H2-207号ピット	56-U-22グリッド	長円形	(0.23)	0.23	0.32	N-54-#	11	
H2-208号ピット	57-k-23グリッド	不定形	0.40	0.44	0.27	N-46-E	11	
H2-209号ピット	57-k-24グリッド	長円形	0.28	0.24	0.27	N-44-#	11	
H2-210号ピット	56-Y-24グリッド	長円形	0.24	0.20	0.23	N-48-E	11	
H2-211号ピット	56-Y-25グリッド	長円形	0.33	0.24	0.45	N-55-E	11	
H2-212号ピット	56-X-25グリッド	長円形	0.38	0.24	0.37	N-30-#	11	
H2-213号ピット	56-X-25グリッド	長円形	0.25	0.20	0.31	N-38-#	11	
H2-214号ピット	56-X-25グリッド	長円形	0.22	0.21	0.12	N-39-#	11	
H2-215号ピット	56-W-25グリッド	円形	0.28	0.28	0.57	N-0	11	
H2-216号ピット	56-W-25グリッド	円形	0.24	0.24	0.26	N-0	11	
H2-217号ピット	56-V-25グリッド	円形	0.22	0.22	0.21	N-0	11	
H2-218号ピット	56-V-25グリッド	長円形	0.32	0.30	0.21	N-45-#	11	
H3-1号ピット	56-Y-25グリッド	長円形	0.23	0.21	0.15	N-30-E	32	
H3-2号ピット	56-V-25グリッド	円形	0.28	0.28	0.41	N-0	32	H3-1掘立より新しい。
H3-3号ピット	66-U-1グリッド	長円形	0.23	0.22	0.04	N-32-E	51	
H3-4号ピット	66-U-2グリッド	円形	0.15	0.15	0.15	N-27-E	32	
H3-5号ピット	56-V-25グリッド	円形	0.16	0.16	0.15	N-0	32	
H3-6号ピット	56-Y-1グリッド	円形	0.24	0.24	0.24	N-0	32	
H3-7号ピット	66-U-1グリッド	長円形	0.28	0.28	0.15	N-29-E	32	
H3-8号ピット	66-U-2グリッド	長円形	0.18	0.17	0.02	N-20-E	32	
H3-9号ピット	66-Y-1グリッド	長円形	0.24	0.20	0.08	N-33-#	32	
H3-10号ピット	66-Y-1グリッド	長円形	0.22	0.18	0.12	N-42-#	32	
H3-11号ピット	66-Y-1グリッド	長円形	0.26	0.24	0.30	N-56-E	32	
H3-13号ピット	66-V-2グリッド	長円形	0.26	0.24	0.06	N-70-E	32	
H3-16号ピット	66-V-1グリッド	長円形	0.27	0.26	0.38	N-40-#	32	H3-17Pより新しい。
H3-17号ピット	66-V-1グリッド	長円形	0.26	(0.20)	0.17	N-47-E	32	
H3-24号ピット	66-W-1グリッド	不定形	0.44	0.20	0.24	N-34-E	34	H3-25Pより古い。
H3-25号ピット	66-W-1グリッド	長円形	0.28	0.26	0.38	N-45-#	34	
H3-26号ピット	56-U-25グリッド	長円形	0.32	0.30	0.14	N-71-E	31	H3-2土壤より新しい。
H3-32号ピット	56-V-25グリッド	長円形	0.32	(0.26)	0.25	N-33-#	32	H3-1掘立より新しい。
H3-33号ピット	66-V-1グリッド	長円形	0.37	0.34	0.30	N-36-#	32	H3-1掘立より新しい。
H3-34号ピット	66-W-1グリッド	長円形	0.22	0.20	0.25	N-4-#	21	
H3-35号ピット	66-V-1グリッド	長円形	0.28	0.27	0.53	N-56-#	21	
H3-36号ピット	66-V-2グリッド	長円形	0.25	0.23	0.18	N-77-#	21	
H3-37号ピット	66-V-1グリッド	長円形	0.30	0.34	0.34	N-34-#	21	
H3-38号ピット	66-V-1グリッド	円形	0.23	0.23	0.33	N-0	21	
H3-39号ピット	66-V-1グリッド	長円形	0.25	0.24	0.13	N-23-#	21	
H3-40号ピット	66-V-1グリッド	長円形	0.18	0.16	0.17	N-52-#	34	
H3-41号ピット	66-V-1グリッド	円形	0.18	0.18	0.09	N-0	34	
H3-42号ピット	56-U-25グリッド	長円形	0.23	0.21	0.21	N-42-#	34	
H3-43号ピット	56-T-24グリッド	長円形	0.26	0.24	0.32	N-24-E	34	
H3-44号ピット	56-S-25グリッド	長円形	0.26	0.28	0.34	N-22-E	34	

ピット計測表

遺構名	出土位置	平面形状	規模(φ)			主軸方位 (度)	最下層 埋没土	備考
			長	短	深			
H3-45号ピット	66-S-2グリッド	円形	0.22	0.22	0.11	N-0	34	
H3-46号ピット	56-E-24グリッド	長円形	0.28	0.23	0.20	N-81-Ⅵ	11	H3-1号掘立柱建物より古い。
H3-47号ピット	56-E-25グリッド	長円形	0.32	0.30	0.20	N-43-E	11	
H3-48号ピット	56-E-25グリッド	長円形	0.26	0.22	0.19	N-55-Ⅵ	11	
H3-49号ピット	56-E-25グリッド	長円形	0.30	0.22	0.11	N-4-E	11	
H3-50号ピット	66-V-1グリッド	長円形	0.24	0.20	0.28	N-60-Ⅵ	11	
H3-51号ピット	66-V-1グリッド	長円形	0.27	0.24	0.36	N-16-Ⅵ	11	
H3-52号ピット	66-V-1グリッド	長円形	0.17	0.14	0.27	N-35-Ⅵ	11	
H3-53号ピット	66-V-1グリッド	長円形	0.28	0.23	0.13	N-45-E	11	
H3-54号ピット	66-T-1グリッド	長円形	0.22	0.20	0.14	N-37-Ⅵ	11	
H3-55号ピット	66-T-1グリッド	長円形	0.28	0.26	0.34	N-22-E	11	
H3-56号ピット	66-T-1グリッド	長円形	0.20	0.18	0.47	N-53-E	11	
H3-57号ピット	66-V-2グリッド	長円形	0.38	0.34	0.11	N-65-E	11	
H3-58号ピット	66-E-2グリッド	長円形	0.28	0.22	0.24	N-17-Ⅵ	11	
H3-59号ピット	66-S-2グリッド	円形	0.28	0.28	0.14	N-0	11	
H3-60号ピット	66-S-2グリッド	長円形	0.35	0.33	0.34	N-32-Ⅵ	11	
H3-61号ピット	66-S-2グリッド	長円形	0.28	0.26	0.21	N-40-E	11	
H3-62号ピット	66-T-2グリッド	円形	0.32	0.32	0.29	N-0	11	
H3-63号ピット	66-T-2グリッド	長円形	0.32	0.28	0.35	N-17-Ⅵ	11	H3-64号ピットより古い。
H3-64号ピット	66-T-2グリッド	長円形	0.35	0.28	0.43	N-64-E	11	

註 理没上の欄の数字は、第7-45表行頭の理没土の分類番号

第4項 出土遺物

A2-1号竪穴建物

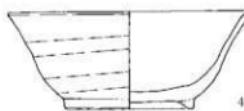


1

M4-1号竪穴建物



2



4



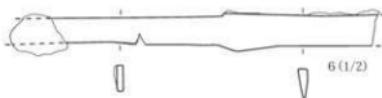
3



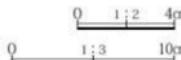
M4-1号竪穴建物



5

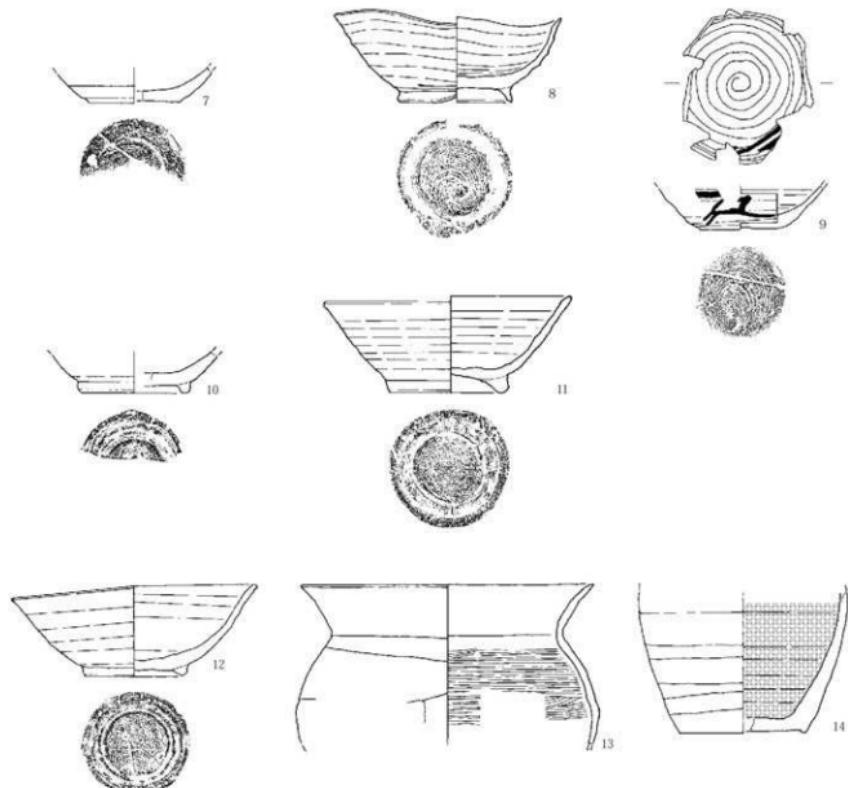


6 (1/2)



第7-74図 出土遺物1

III - 1号竪穴建物



M - 1号竪穴建物

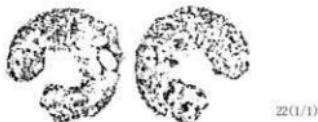


第7-75図 出土遺物2

H4-1号溝



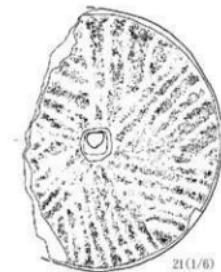
H1-1号土坑



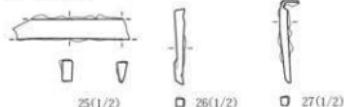
H1-3号土坑



H2-3号溝



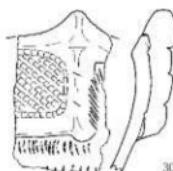
H1-8号土坑



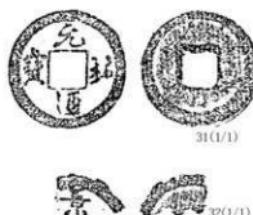
H1-9号土坑



H1-37号土坑



H1-10号土坑



遺構外



第7-76図 出土遺物3

第7-47表 遺物観察表

種類 PL.No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土・焼成・色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第7-74回 PL.73	1 黒色土器 碗	A2-1豊穴建物 床下 口縁部～体部	口 14.0	0	0	細砂粒・酸化塩/ 灰	内面黒色處理。ロクロ整形。回転は右 回り。内面は体部下位は縱方向、上半 から口縁部は横方向へラミガキ。	
第7-74回 PL.73	2 須恵器 碗	A4-1豊穴建物 貯藏穴 口縁部片	口 13.8			細砂粒・酸化塩/ オリーブ黒	ロクロ整形。回転は右回り。	
第7-74回 PL.73	3 須恵器 碗	A4-1豊穴建物 カマド 底部～体部下位片	底 台 6.4 6.5			細砂粒・還元塩/ 灰白	ロクロ整形。回転は右回り。底部は回 転糸切り、高台は貼付。	
第7-74回 PL.73	4 須恵器 碗	A4-1豊穴建物 床+15cm 1/3	口 14.8	台 7.8	底 高 5.9	細砂粒・還元塩/ 灰白	ロクロ整形。回転は右回り。底部は回 転糸ナダ、高台は貼付。	
第7-74回 PL.73	5 上師器 甕	A4-1豊穴建物 カマド 口縁部～胴部上位片	口 20.2			細砂粒・良好/暗 褐色	口縁部から胴部は横ナダ、胴部はヘラ 削り。内面胴部はヘラナダ。	
第7-74回 PL.73	6 鉄製品 刀子	H1-8土坑 床+4cm 一部欠損	長 幅 (15.2) 1.9	厚 重 0.4 24.4			刀身が細く、反りが見られない。	
第7-75回 PL.73	7 須恵器 碗	H1-1豊穴建物 床+2cm 底部～体部下位	底 台 5.6 6.5			細砂粒・酸化塩/ 灰黄	ロクロ整形。回転は右回り。底部は回 転糸切り無調整。	0
第7-75回 PL.73	8 須恵器 碗	H1-1豊穴建物 床+1cm 完形	口 底 13.9 6.8	底 高 6.8 5.6		細砂粒・還元塩/ 灰白	ロクロ整形。回転は右回り。底部は回 転糸切り、高台は貼付。盃が大きい。	
第7-75回 PL.73	9 須恵器 碗	H1-1豊穴建物 床+0.3cm 底部～体部下位片	底 5.1			細砂粒・酸化塩/ 灰黄	ロクロ整形。回転は右回り。底部は回 転糸切り無調整。	内外面の体部に墨書き。
第7-75回 PL.73	10 須恵器 碗	H1-1豊穴建物 カマド 底部～体部下位	底 6.6			細砂粒・酸化塩/ に赤い黄褐色	ロクロ整形。回転は右回り。底部は回 転糸切り、高台は貼付。	
第7-75回 PL.73	11 須恵器 碗	H1-1豊穴建物 カマド 口縁部一部欠損	口 底 14.9 7.4	台 高 6.8 5.9		細砂粒・還元塩/ 灰黄	ロクロ整形。回転は右回り。底部は回 転糸切り、高台は貼付。	
第7-75回 PL.73	12 須恵器 碗	H1-1豊穴建物 床+0~20cm 3/4	口 底 14.9 6.4	台 高 5.9 5.6		細砂粒・還元塩/ 灰白	ロクロ整形。回転は右回り。底部は回 転糸切り、高台は貼付。	一部破片が二次焼成に よって酸化塗化か。
第7-75回 PL.73	13 上師器 甕	H1-1豊穴建物 カマド 口縁部～胴部上平片	口 底 18 18.6			細砂粒・良好/に 赤い黄褐色	口縁部から胴部は横ナダ、胴部は上位 がナダ、中位はヘラ削り。内面胴部は木 目痕が残るヘラによるヘラナダ。	
第7-75回 PL.73	14 黒色土器 瓶	H1-1豊穴建物 床+12cm 底部～胴部下半片	底 7.8			細砂粒・酸化塩/ 明褐色	内面黒色處理。ロクロ整形。回転は右 回り。底部はヘラナダ、高台は削り出し。 胴部は下位が回転ヘラ削り。	
第7-75回 PL.73	15 須恵器 羽釜	H1-1豊穴建物 口縁部～胴部上位片	口 18 21.2			細砂粒・粗砂粒/ 還元塩/灰黄	ロクロ整形。回転は右回りか。鶲は貼 付。胴部はヘラ削り。内面は胴部はヘ ラナダ。	
第7-75回 PL.73	16 須恵器 羽釜	H1-1豊穴建物 カマド 口縁部～胴部上平片	口 19 21.6	底 0		細砂粒・粗砂粒/ 還元塩/浅黄	ロクロ整形。回転は右回りか。鶲は貼 付。胴部はヘラ削り。内面は胴部にヘ ラナダ。	
第7-75回 PL.73	17 塗文土器 深鉢	A4-1豊穴状遺構 床+19cm 胴部破片				粗砂・輝石/相 ふつう	沈線による懸垂文を施す。	瓶之内口式
第7-75回 PL.73	18 銭貨 銭種不明	A4-1豊穴状遺構 1/3	外 内 —	厚 重 1.58 0.7	//		面の形はやや深いが、文字が潰れてお り判別できない。背の形は浅く、輪、 郭が不明瞭。	
第7-76回 PL.73	19 塗文土器 深鉢	A4-1溝 胴部破片				粗砂・白色粒/相 ふつう	沈線による懸垂文を施し、RLを握位充 填施文。さらに施文帶に1条の沈線を 垂下させる。	加曾利E3式

遺物觀察表

種類 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 深跡	出土現存率	計測値			胎上 / 焼成 / 色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第7-76回 PL.73	20	縄文土器	A4-1溝 脣部破片					粗砂、白色粒 / 桜 / ふつう	縫合条痕を充填施文する。	加曾利E式
第7-76回 PL.73	21	石臼(下)	H2-3溝 2/3	径 幅	32.0	厚 重	13.7 15000.0	粗粒輝石安山岩//	粉引仕の下臼。径は30cmよりも2cm程大きい。擦り合せ面はあまり凸面にならず、むしろ平面に近い。厚みがあり、かなり重い石材。6分両。溝は主副合わせて4~8個、6~7本が多い。本数と幅にはかなり違いが大きい。溝溝が重なり、目立て仕直しされている。芯孔はφ 2.8cmで方形、中央部でズレがあり、両側穿孔。方形にすることでの芯棒がズれないように工夫している。	
第7-76回 PL.73	22	銚貫 鉄鉗	H1-1土坑 床+4cm 3/4	外 内	23.73	厚 重	2.46 1.0		全体が跡に覆われて状態が悪い。種子痕跡が見られる	
第7-76回 PL.74	23	縄文土器 深跡	H1-3土坑 口縁部破片					粗砂、白色粒、石英 / 桜 / ふつう	口縁下に無文帯を作出し、横位縫線をめぐらす。	加曾利E式
第7-76回 PL.74	24	縄文土器 深跡	H1-3土坑 脣部破片					粗砂、白色粒、石英 / 黄桜 / ふつう	隆線を垂下させ、RLを横位充填施文する。	加曾利E式
第7-76回 PL.74	25	鉄製品 刀子	A4-1建物 床+7cm 一部	長 幅	(4.7) 1.2	厚 重	0.4 6.3		ほぼ茎部分のみが残存する。基端部が一部欠損する。	
第7-76回 PL.74	26	鉄製品 釘	H1-8土坑 床+7cm 一部欠損	長 幅	3.1 0.5	厚 重	0.4 0.9		頭部と脚部先端が欠損する。	
第7-76回 PL.74	27	鉄製品 釘	H1-8土坑 床+4cm ほぼ完形	長 幅	3.4 0.9	厚 重	0.4 1.7		頭部が薄くなり、折れる。脚部の先端が欠ける。	
第7-76回 PL.74	28	縄文土器 深跡	H1-9土坑 脣部破片					粗砂 / にぶい赤褐 / ふつう	帶状縫線による弧状モチーフを描き、RLを充填施文する。	称名寺I式
第7-76回 PL.74	29	磨石	H1-9土坑 完形	長 幅	15.4 8.9	厚 重	3.9 780.6	粗粒輝石安山岩//	自然な橋円形彫刻利用。表裏両面に敲打による凹み有り、表面のものはφ 1.4cm深さ2cm、裏面のものはφ 1.6cm深さ0.4cm。表裏両面とも弱い削減あり。周縁部に黒変部分あり。	黒変あり。
第7-76回 PL.74	30	縄文土器 深跡	H1-37土坑 口縁部破片					粗砂、金雲母 / 明赤 褐 / 良好	波状突起から隆線を垂下させ、横位隆線と連接させた口縁部文様帶を形成。区画内に区画に沿った1条の結節沈線をめぐらし、斜位の結節沈線を充填施文する。区画外には斜列を泊わせる。口唇部に刻み付く。	阿玉台1b式
第7-76回 PL.74	31	銚貫 元祐通寶 完形	H2-10土坑 床+14cm 完形	外 内	24.39 19.21	厚 重	1.15 2.1		面の彫が深く、文字、輪、郭が明瞭。背は彫が浅いが、輪、郭は判断できる。	
第7-76回 PL.74	32	銚貫 景祐通寶か 1/4	H2-10土坑 1/4	外 内	—	厚 重	1.31 0.5		「景」の文字が確認できるが、その他の文字が欠損している。劣化が多い。	
第7-76回 PL.74	33	縄文土器 深跡	A4区2面 脣部破片					粗砂、白色粒 / 桜 / 良好	RL・LRによる結束羽状縫文を横位施文する。	前期末葉
第7-76回 PL.74	34	縄文土器 深跡	H1-3匁立 (H1-117P11) 口縁部破片					粗砂、金雲母 / にぶ い赤褐 / ふつう	硬い波状口縁。口縁部を肥厚させ、波頂部下に突起を付す。肥厚部に横位沈線を併んで2条の斜列をめぐらし、肥厚部下は沈線による巻匠を掘く。	勝牌B式
第7-76回 PL.74	35	縄文土器 深跡	A4区2面 脣部破片					粗砂 / 桜 / 良好	2条隆線による巻垂文を施し、継位矢羽根状短沈線を充填施文する。	鄭上式
第7-76回 PL.74	36	縄文土器 深跡	A1-18空建 物 脣部破片					粗砂 / 桜 / ふつう	沈線による巻垂文、継位丸を施す。	鄭之内I式
第7-76回 PL.74	37	銚貫 古寛永 完形	H1-1面 1/3	外 内	23.80 19.72	厚 重	1.37 2.8		面、共ともに彫が深く、文字、輪、郭が明瞭。背の割が上にずれる。	
第7-76回 PL.74	38	木製品 漆椀	H3-括 1/3	口 底	— (9.09)	高	(3.2)		内外面赤色の漆椀。内面に使用痕の擦れが見られる。	

第7-48表 未掲載遺物(古代)

遺構名	土師器			須恵器			施釉陶器	磁器	その他・不明
	小	中	大	小	中	大			
A2-1号堅穴建物	7片	79g					1片	98g	
A4-1号堅穴状遺構	3片	10g		75片	436g		1片	24g	
A4-10土坑				1片	3g				
A4-A配流下				1片	11g				
A4-39号ビット				1片	17g				
A4-59号ビット				1片	11g				
A4区1面							1片	37g	
A4区2面				3片	29g	1片	30g		
A4区3号トレンチ								2片	4g
A4区2号トレンチ				1片	3g				
A4区1号トレンチ				1片	14g				
H1-1号堅穴建物	1片	16g	2片	22g	56片	489g	63片	212g	
H1-9号土坑				1片	6g	1片	7g		
H1区1号トレンチ				1片	5g				
H2区2面				6片	34g	1片	42g	1片	6g

大中小は想定图形の大小に基づく。小は杯・椀・皿など、中は高杯・小型壺など、大は甕・羽釜・壺など。

左 破片点数、右 破片重量

第7-49表 未掲載遺物(中世)

区	層位・面	遺構番号	遺構種別	中世(国産)				近世(国産)				近現代		時期不詳	
				施釉陶器		燒結陶器		在地系鉢・鍋		磁器		施釉陶器			
				点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量		
A-4		1堅穴						6	110						
A-4		1堅穴P4		1	4										
A-5		7土坑						1	32						
A-4		89ビット4										1	12		
A-4	A配流下					1	25	1	3	4	31				
C-4	A配流1									1	5				
A-5	1							1	4	9	41				
A-4	1トレンチ									10	14				
A-4	2トレンチ									1	5				
C-4	1トレンチ									3	59				
C-4	2トレンチ									3	15				
C-4	3トレンチ							3	5	2	10				
H-1	1住			1	5										
H-1	9土坑									2	10				
H-1	15土坑									2	12				
H-1	1							3	13	2	47		1	31	
H-1	2							6	34	6	98			9 185	
H-1	3トレンチ									1	10				
H-1	8トレンチ									1	2				
H-2	2溝									1	105				
H-2	78ビット					1	45								
H-2	1							7	109	1	5				
H-2	2					1	10			1	5				
H-2	1トレンチ									1	5				
H-3	1溝									1	5				
H-3	1トレンチ									2	21				
H-3	2トレンチ							2	5						
計				1	4	1	5	10	222	26	285	51	393	1 12 1 31 9 185	

第8章 西宮遺跡(3)

第1節 調査に至る経緯と経過

第1項 調査に至る経緯

西宮遺跡は群馬県吾妻郡長野原町大字川原畠字西宮に所在する。平成20年度より発掘調査が着手され、平成20年度と平成26年度の調査成果は『西宮遺跡(1)、西宮岩陰』2018(以下、既報1)として当事業団より刊行されている。また平成27年度以降平成30年度にかけて継続的に行われた発掘調査により、第1面(江戸時代)で天明3(1783)年の浅間山の噴火に伴って発生した天明泥流で埋没した畑、道、溝、1~2m程に切断して人為的に縛めておかけられた状態の樹木、馬屋や廻炉裏を伴う建物などを、9区第2面では天明泥流以前の江戸時代の畑や水田などを確認し、第3面(古代以降)と第4面(縄文時代以降)では、土坑、ピット、溝などが調査され、その成果は『西宮遺跡(2)・川原畠の宝鏡印塔』2020(以下、既報2)として刊行されている。最終年度となった平成31年度の発掘調査では、前年度からの継続調査部分である9区と、これまで調査に着手できなかった旧町道下の11区、旧国

道145号部分の12区、旧吾妻線敷設部分の13区の発掘調査が行われた。本章はこの平成31年度の調査成果につき報告する。なお本遺跡の詳細な調査経過については既報2を参照されたい。

第2項 調査の経過

平成31年度の発掘調査は、工事工程との関連でこれまで発掘調査を行うことのできなかった旧国道145号下、旧吾妻線線路敷、旧長野原町道下等を対象に、平成31年4月1日から令和元年7月12日にかけて実施された。

4月は前年度に調査が行われた9区の継続調査と、旧長野原町道下の11区の調査を行った。9区の第1面の調査では天明泥流下の畑や道の続きを確認することができた。また11区の調査では、これまでの調査で確認されている集落の幹線となる道などを確認したが、住宅建設や、道路建設に伴う攪乱が広範囲にわたっているため、慎重に調査を進めた。

5月は9区と11区の調査を継続し、また旧吾妻線線路敷の13区の調査に着手した。9区2面目から、南北方向に走行する畑や、泥流下畑の造成のために使用されたと



第8-1図 遺跡位置図

思われる、礫を片付けた復旧坑を検出した。また、最終確認面では土砂崩れに際して形成された自然流路と思われる溝が確認された。11区からは、天明3年当時の段差地形に沿う3重の石垣が検出された。上段からは道や畑など、下段からは過年度調査で検出された屋敷の続きが確認された。13区では天明泥流下畠跡の続きを確認し、2面目の調査を継続した。

6月に入り11区で確認された遺構の精査と並行し、旧国道145号部分の12区の調査に着手した。12区からは水路を地境とする畠の下から、南北に走向する近世の畠が検出されている。13区3面では階穴と思われる土坑やピットが検出された。

7月は建物の検出された11区2-1面や、水田の検出された11区2-2面、12区の精査を行う傍ら、7月10日より撤収の準備に着手した。なお、9、12、13区では湧水や雨水の流入により、水中ポンプを用いた常時排水対策を行ながら調査を行った。

第2節 遺跡の立地と基本土層

第1項 遺跡の立地

本遺跡は長野原町を東流する吾妻川左岸の高間山の山麓傾斜面にあり、JR吾妻線の旧川原湯温泉駅から西へ約1km、旧国道145号および旧JR吾妻線沿いに位置する。遺跡は吾妻川の中位段丘面に立地し、その標高はおよそ530~540mである。南流して吾妻川に注ぐミヨウガ沢の左右に広がる扇状地に立地しており、東に位置する境川により隣接する東宮遺跡と区分されている。高間山南面の山麓傾斜面に展開する、江戸時代に川原畠村と呼ばれた地域の南西部に相当する。

第2項 基本土層

今年度の発掘調査は遺跡内の4区画が調査対象であり、山麓に近い11区(調査区北部)、段丘面の南端に近い9区と12区および13区の4か所であるが、南側の3区画はミヨウガ沢左岸の9区・12区東(調査区中部)と右岸の12区西・13区(調査区南部)とに二分できる。

今回の調査区もこれまでの調査で明らかのように、ハッツ地区の他の遺跡同様、地点ごとの差異が著しい。北部からは耕作土層とこれを覆う土砂崩れと目される層

が2組確認されており、それぞれ2面および3面とした。また、中部では土砂崩れ層は確認されておらず、南部では北部の2面に相当する遺構面は確認されていない。こうした状況を踏まえ、基本土層としては調査区北部に近い既報1の基本土層を踏襲したい。

第3節 検出された遺構と遺物

第1項 調査の概要

今回の調査区はこれまで未調査であった、遺跡を北東から南西に二分する帯状の区画であり、調査区は北部・中部・南部に三分される。

天明泥流に覆われた遺構確認面(1面)から、屋敷1軒、道6条、溝1条、畠24区画が検出されている。発掘調査時点では1.5面、2-1面と呼称されていた、1面の直下に位置する遺構確認面(2面)からは、礎石建物1棟、道2条、畠4区画が検出されている。なお調査区南部から検出された2面に帰属する遺構は畠の痕跡1区画にとどまる。発掘調査時点では3面、2-1'面、2-2面と呼称されていた、2面の下位に位置する遺構確認面(3面)から、掘立柱建物1棟、溝4条、水田2区画、畠1区画、土坑23基、ピット55基が検出されている。

第2項 1面の遺構

1 1面の概要

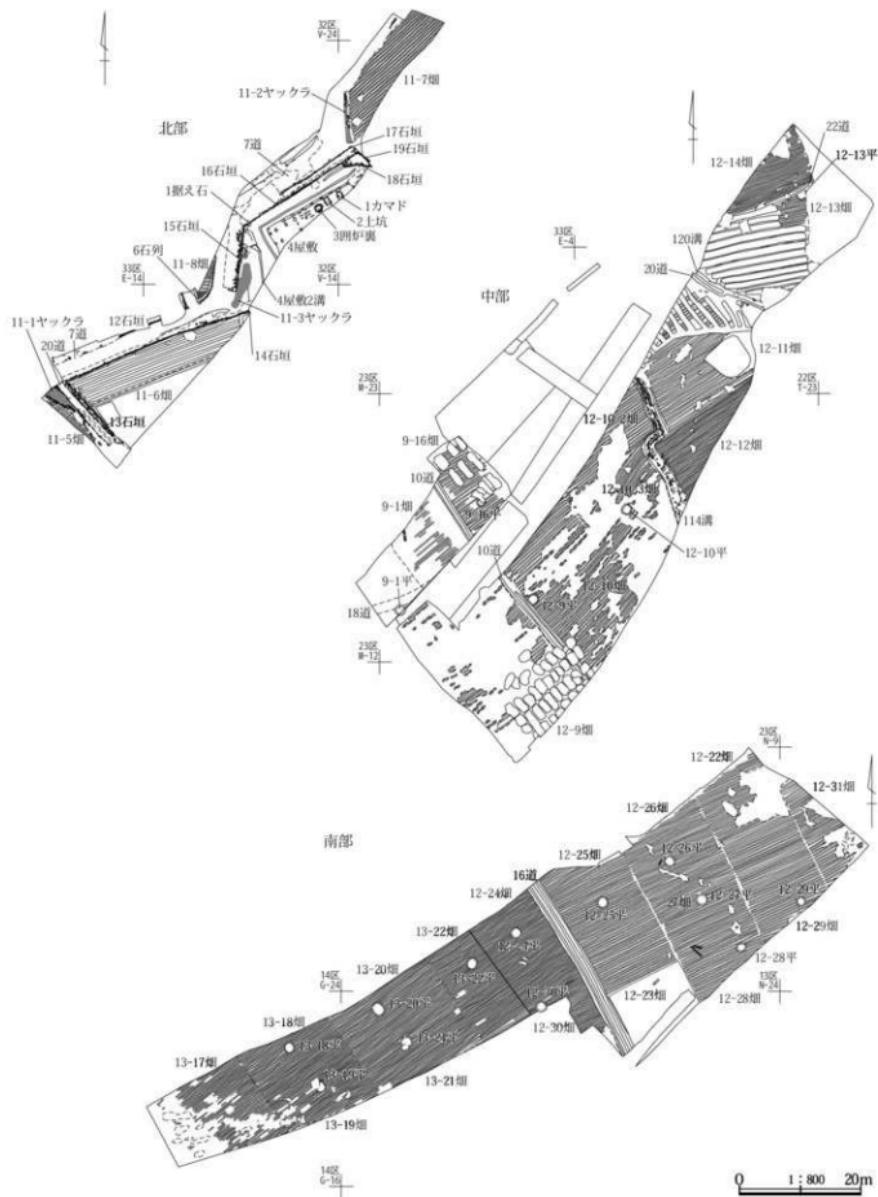
1面は天明泥流直下から検出された遺構面である。調査区北部からは屋敷1軒と道2条、畠2区画が確認されているが、今回検出された屋敷は、既報2で報告された4号屋敷の北辺に相当する。また調査区北部の北辺から検出された7号道は、既報2で報告されている西宮遺跡を横切る真田道の東端にあたる。

調査区中部の4地点で天明泥流対策の復旧坑が確認されているが、それぞれ異なる掘り方がなされている。なかでも、東寄りの地点から検出された復旧坑群(第8-18号)は、南北に掘られた平行する9基からなる復旧坑の底部においてその南端を東西に結ぶ溝が掘られている点において他と相違する。調査担当者の所見によれば、復旧坑掘削に際し生じた湧水処理のための排水溝と考えられている。

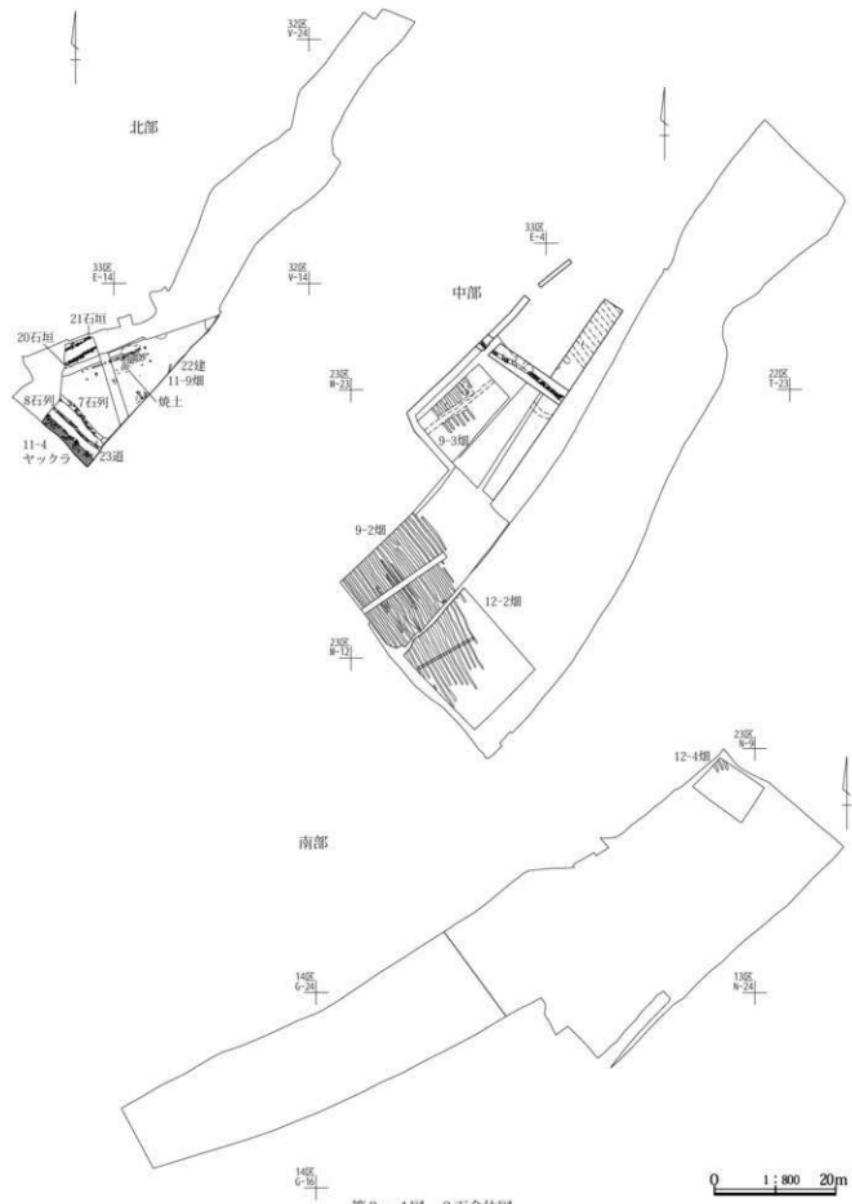
西宮遺跡基本土層

I	I層：暗褐色土(10YR3/3)現在の耕作上及び表土。
II	II層：黄褐色土(10YR5/8)10~15cmの礫を多く含む。 (2区の北側に厚く堆積。1区はない。昭和10年9月25日の山津波等による崩壊土?)
III	III層：暗褐色土(10YR3/4)天明泥流。径5~10cm礫15~30%混入する。
IV	IV層：As-A'(1783年)発泡のよい白色軽石。 径2~4mmの軽石が主体。表面や建物の雨落溝に多く堆積している。少量ではあるが、径10mmの大同質の軽石を含む。
V	V層：黒褐色土(10YR2/2)粒子細かく、しまり、粘性ともに弱い。畑の耕作上等。
VI	VI層：黒褐色土(10YR3/2)粒子細かく、しまり、粘性とも、IV層より強い。白色或いは黄色軽石3~5%混入する。
VII	VII層：黒褐色土(10YR5/8)拳大から人頭大の角礫を含む。崩壊土。

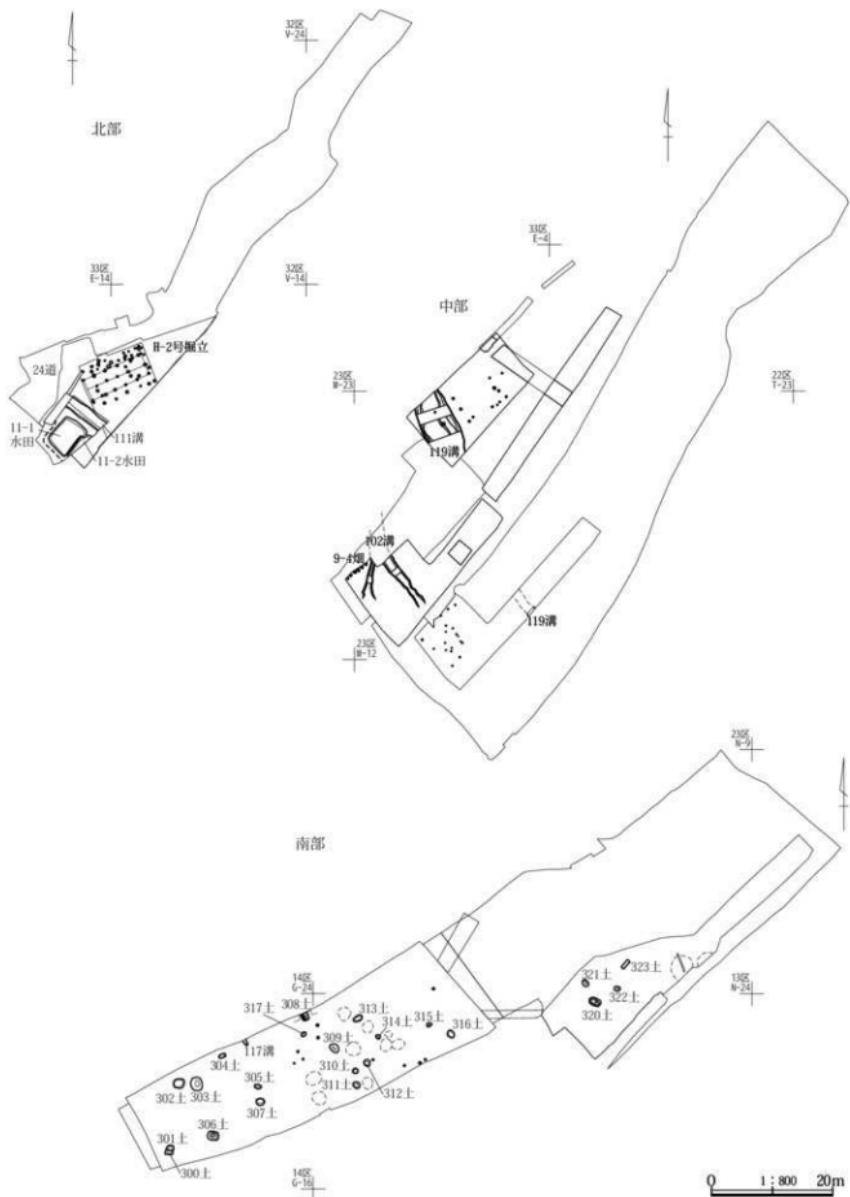
- A-A' 1-534.90m
 2-1面
 2-2面
 4ヤックラ
 10
 7石畠
 11
 23面
 12
 3
 14
 13
 8石畠
 15
 16
 17
 18
 19
 20
 21
 22
 23
 24
 25
 26
 27
 28
 29
 30
 31
 32
 33
 34
 35
 36
 37
 38
 39
 40
 41
 42
 43
 44
 45
 46
 47
 48
 49
 50
 51
 52
 53
 54
 55
 56
 57
 58
 59
 60
 61
 62
 63
 64
 65
 66
 67
 68
 69
 70
 71
 72
 73
 74
 75
 76
 77
 78
 79
 80
 81
 82
 83
 84
 85
 86
 87
 88
 89
 90
 91
 92
 93
 94
 95
 96
 97
 98
 99
 100
 101
 102
 103
 104
 105
 106
 107
 108
 109
 110
 111
 112
 113
 114
 115
 116
 117
 118
 119
 120
 121
 122
 123
 124
 125
 126
 127
 128
 129
 130
 131
 132
 133
 134
 135
 136
 137
 138
 139
 140
 141
 142
 143
 144
 145
 146
 147
 148
 149
 150
 151
 152
 153
 154
 155
 156
 157
 158
 159
 160
 161
 162
 163
 164
 165
 166
 167
 168
 169
 170
 171
 172
 173
 174
 175
 176
 177
 178
 179
 180
 181
 182
 183
 184
 185
 186
 187
 188
 189
 190
 191
 192
 193
 194
 195
 196
 197
 198
 199
 200
 201
 202
 203
 204
 205
 206
 207
 208
 209
 210
 211
 212
 213
 214
 215
 216
 217
 218
 219
 220
 221
 222
 223
 224
 225
 226
 227
 228
 229
 230
 231
 232
 233
 234
 235
 236
 237
 238
 239
 240
 241
 242
 243
 244
 245
 246
 247
 248
 249
 250
 251
 252
 253
 254
 255
 256
 257
 258
 259
 260
 261
 262
 263
 264
 265
 266
 267
 268
 269
 270
 271
 272
 273
 274
 275
 276
 277
 278
 279
 280
 281
 282
 283
 284
 285
 286
 287
 288
 289
 290
 291
 292
 293
 294
 295
 296
 297
 298
 299
 300
 301
 302
 303
 304
 305
 306
 307
 308
 309
 310
 311
 312
 313
 314
 315
 316
 317
 318
 319
 320
 321
 322
 323
 324
 325
 326
 327
 328
 329
 330
 331
 332
 333
 334
 335
 336
 337
 338
 339
 340
 341
 342
 343
 344
 345
 346
 347
 348
 349
 350
 351
 352
 353
 354
 355
 356
 357
 358
 359
 360
 361
 362
 363
 364
 365
 366
 367
 368
 369
 370
 371
 372
 373
 374
 375
 376
 377
 378
 379
 380
 381
 382
 383
 384
 385
 386
 387
 388
 389
 390
 391
 392
 393
 394
 395
 396
 397
 398
 399
 400
 401
 402
 403
 404
 405
 406
 407
 408
 409
 410
 411
 412
 413
 414
 415
 416
 417
 418
 419
 420
 421
 422
 423
 424
 425
 426
 427
 428
 429
 430
 431
 432
 433
 434
 435
 436
 437
 438
 439
 440
 441
 442
 443
 444
 445
 446
 447
 448
 449
 450
 451
 452
 453
 454
 455
 456
 457
 458
 459
 460
 461
 462
 463
 464
 465
 466
 467
 468
 469
 470
 471
 472
 473
 474
 475
 476
 477
 478
 479
 480
 481
 482
 483
 484
 485
 486
 487
 488
 489
 490
 491
 492
 493
 494
 495
 496
 497
 498
 499
 500
 501
 502
 503
 504
 505
 506
 507
 508
 509
 510
 511
 512
 513
 514
 515
 516
 517
 518
 519
 520
 521
 522
 523
 524
 525
 526
 527
 528
 529
 530
 531
 532
 533
 534
 535
 536
 537
 538
 539
 540
 541
 542
 543
 544
 545
 546
 547
 548
 549
 550
 551
 552
 553
 554
 555
 556
 557
 558
 559
 560
 561
 562
 563
 564
 565
 566
 567
 568
 569
 570
 571
 572
 573
 574
 575
 576
 577
 578
 579
 580
 581
 582
 583
 584
 585
 586
 587
 588
 589
 590
 591
 592
 593
 594
 595
 596
 597
 598
 599
 600
 601
 602
 603
 604
 605
 606
 607
 608
 609
 610
 611
 612
 613
 614
 615
 616
 617
 618
 619
 620
 621
 622
 623
 624
 625
 626
 627
 628
 629
 630
 631
 632
 633
 634
 635
 636
 637
 638
 639
 640
 641
 642
 643
 644
 645
 646
 647
 648
 649
 650
 651
 652
 653
 654
 655
 656
 657
 658
 659
 660
 661
 662
 663
 664
 665
 666
 667
 668
 669
 670
 671
 672
 673
 674
 675
 676
 677
 678
 679
 680
 681
 682
 683
 684
 685
 686
 687
 688
 689
 690
 691
 692
 693
 694
 695
 696
 697
 698
 699
 700
 701
 702
 703
 704
 705
 706
 707
 708
 709
 710
 711
 712
 713
 714
 715
 716
 717
 718
 719
 720
 721
 722
 723
 724
 725
 726
 727
 728
 729
 730
 731
 732
 733
 734
 735
 736
 737
 738
 739
 740
 741
 742
 743
 744
 745
 746
 747
 748
 749
 750
 751
 752
 753
 754
 755
 756
 757
 758
 759
 760
 761
 762
 763
 764
 765
 766
 767
 768
 769
 770
 771
 772
 773
 774
 775
 776
 777
 778
 779
 780
 781
 782
 783
 784
 785
 786
 787
 788
 789
 790
 791
 792
 793
 794
 795
 796
 797
 798
 799
 800
 801
 802
 803
 804
 805
 806
 807
 808
 809
 8010
 8011
 8012
 8013
 8014
 8015
 8016
 8017
 8018
 8019
 8020
 8021
 8022
 8023
 8024
 8025
 8026
 8027
 8028
 8029
 8030
 8031
 8032
 8033
 8034
 8035
 8036
 8037
 8038
 8039
 8040
 8041
 8042
 8043
 8044
 8045
 8046
 8047
 8048
 8049
 8050
 8051
 8052
 8053
 8054
 8055
 8056
 8057
 8058
 8059
 8060
 8061
 8062
 8063
 8064
 8065
 8066
 8067
 8068
 8069
 8070
 8071
 8072
 8073
 8074
 8075
 8076
 8077
 8078
 8079
 8080
 8081
 8082
 8083
 8084
 8085
 8086
 8087
 8088
 8089
 8090
 8091
 8092
 8093
 8094
 8095
 8096
 8097
 8098
 8099
 80100
 80101
 80102
 80103
 80104
 80105
 80106
 80107
 80108
 80109
 80110
 80111
 80112
 80113
 80114
 80115
 80116
 80117
 80118
 80119
 80120
 80121
 80122
 80123
 80124
 80125
 80126
 80127
 80128
 80129
 80130
 80131
 80132
 80133
 80134
 80135
 80136
 80137
 80138
 80139
 80140
 80141
 80142
 80143
 80144
 80145
 80146
 80147
 80148
 80149
 80150
 80151
 80152
 80153
 80154
 80155
 80156
 80157
 80158
 80159
 80160
 80161
 80162
 80163
 80164
 80165
 80166
 80167
 80168
 80169
 80170
 80171
 80172
 80173
 80174
 80175
 80176
 80177
 80178
 80179
 80180
 80181
 80182
 80183
 80184
 80185
 80186
 80187
 80188
 80189
 80190
 80191
 80192
 80193
 80194
 80195
 80196
 80197
 80198
 80199
 80200
 80201
 80202
 80203
 80204
 80205
 80206
 80207
 80208
 80209
 80210
 80211
 80212
 80213
 80214
 80215
 80216
 80217
 80218
 80219
 80220
 80221
 80222
 80223
 80224
 80225
 80226
 80227
 80228
 80229
 80230
 80231
 80232
 80233
 80234
 80235
 80236
 80237
 80238
 80239
 80240
 80241
 80242
 80243
 80244
 80245
 80246
 80247
 80248
 80249
 80250
 80251
 80252
 80253
 80254
 80255
 80256
 80257
 80258
 80259
 80260
 80261
 80262
 80263
 80264
 80265
 80266
 80267
 80268
 80269
 80270
 80271
 80272
 80273
 80274
 80275
 80276
 80277
 80278
 80279
 80280
 80281
 80282
 80283
 80284
 80285
 80286
 80287
 80288
 80289
 80290
 80291
 80292
 80293
 80294
 80295
 80296
 80297
 80298
 80299
 80300
 80301
 80302
 80303
 80304
 80305
 80306
 80307
 80308
 80309
 80310
 80311
 80312
 80313
 80314
 80315
 80316
 80317
 80318
 80319
 80320
 80321
 80322
 80323
 80324
 80325
 80326
 80327
 80328
 80329
 80330
 80331
 80332
 80333
 80334
 80335
 80336
 80337
 80338
 80339
 80340
 80341
 80342
 80343
 80344
 80345
 80346
 80347
 80348
 80349
 80350
 80351
 80352
 80353
 80354
 80355
 80356
 80357
 80358
 80359
 80360
 80361
 80362
 80363
 80364
 80365
 80366
 80367
 80368
 80369
 80370
 80371
 80372
 80373
 80374
 80375
 80376
 80377
 80378
 80379
 80380
 80381
 80382
 80383
 80384
 80385
 80386
 80387
 80388
 80389
 80390
 80391
 80392
 80393
 80394
 80395
 80396
 80397
 80398
 80399
 80400
 80401
 80402
 80403
 80404
 80405
 80406
 80407
 80408
 80409
 80410
 80411
 80412
 80413
 80414
 80415
 80416
 80417
 80418
 80419
 80420
 80421
 80422
 80423
 80424
 80425
 80426
 80427
 80428
 80429
 80430
 80431
 80432
 80433
 80434
 80435
 80436
 80437
 80438
 80439
 80440
 80441
 80442
 80443
 80444
 80445
 80446
 80447
 80448
 80449
 80450
 80451
 80452
 80453
 80454
 80455
 80456
 80457
 80458
 80459
 80460
 80461
 80462
 80463
 80464
 80465
 80466
 80467
 80468
 80469
 80470
 80471
 80472
 80473
 80474
 80475
 80476
 80477
 80478
 80479
 80480
 80481
 80482
 80483
 80484
 80485
 80486
 80487
 80488
 80489
 80490
 80491
 80492
 80493
 80494
 80495
 80496
 80497
 80498
 80499
 80500
 80501
 80502
 80503
 80504
 80505
 80506
 80507
 80508
 80509
 80510
 80511
 80512
 80513
 80514
 80515
 80516
 80517
 80518
 80519
 80520
 80521
 80522
 80523
 80524
 80525
 80526
 80527
 80528
 80529
 80530
 80531
 80532
 80533
 80534
 80535
 80536
 80537
 80538
 80539
 80540
 80541
 80542
 80543
 80544
 80545
 80546
 80547
 80548
 80549
 80550
 80551
 80552
 80553
 80554
 80555
 80556
 80557
 80558
 80559
 80560
 80561
 80562
 80563
 80564
 80565
 80566
 80567
 80568
 80569
 80570
 80571
 80572
 80573
 80574
 80575
 80576
 80577
 80578
 80579
 80580
 80581
 80582
 80583
 80584
 80585
 80586
 80587
 80588
 80589
 80590
 80591
 80592
 80593
 80594
 80595
 80596
 80597
 80598
 80599
 80600
 80601
 80602
 80603
 80604
 80605
 80606
 80607
 80608
 80609
 80610
 80611
 80612
 80613
 80614
 80615
 80616
 80617
 80618
 80619
 80620
 80621
 80622
 80623
 80624
 80625
 80626
 80627
 80628
 80629
 80630
 80631
 80632
 80633
 80634
 80635
 80636
 80637
 80638
 80639
 80640
 80641
 80642
 80643
 80644
 80645
 80646
 80647
 80648
 80649
 80650
 80651
 80652
 80653
 80654
 80655
 80656
 80657
 80658
 80659
 80660
 80661
 80662
 80663
 80664
 80665
 80666
 80667
 80668
 80669
 80670
 80671
 80672
 80673
 80674
 80675
 80676
 80677
 80678
 80679
 80680
 80681
 80682
 80683
 80684
 80685
 80686
 80687
 80688
 80689<br



第8-3図 1面全体図



第8-4図 2面全体図



第8-5図 3面全体図

2 4号屋敷

調査区北部の中央辺(32区T～33区A-12～18グリッド)から、既報2で報告された4号屋敷の北辺が検出された。屋敷はその三方を石垣で囲まれ、隣接する道(7号道)と畑から区分されている。遺構は斜面に立地するため、屋敷後背の法面を保護するために階段状の石垣が設けられ、屋敷の山側を囲んでいる。屋敷への入り口は敷地西側に存在し、高所側となる7号道とは道幅3.64mの斜路で結ばれている。斜路と主屋である20号建物との間には、南北に排水溝が設置されており雨水対策が施されている。斜路と排水溝との間、石垣の根方から斜路に半分ほどはみ出して検出されたヤックラは、石垣基礎付近に生じていた窪地を、礫を主体とする黒褐色土により補填し整地したものと推察されるが、これもまた雨水対策の一つと推察される。調査所見によれば、ヤックラの北、石垣の根方から検出された粘土の堆積は敷地内の整地に用いられたと想定されている。なお、屋敷南西部から確認されている倉や烟については既報2を参照されたい。(第8-7～10、40～42図、PL.75～78、97)

(1) 20号建物(第8-9～10、42図、PL.76～77、97)

位置 32区T～X-14～18グリッド、7号道の南、4号屋敷北部に位置する。

形狀等 確石19個と床組の圧痕、雨落ち跡が検出された。

規模 今回確認された部分は東西18.04m、南北4.47mであるが、既調査分と併せ桁行18.30m、梁間9.32mの南入り東西棟の確石建物となる。なお軒の出の平均は北側0.97m、西側1.18m、南側1.16mを測る。

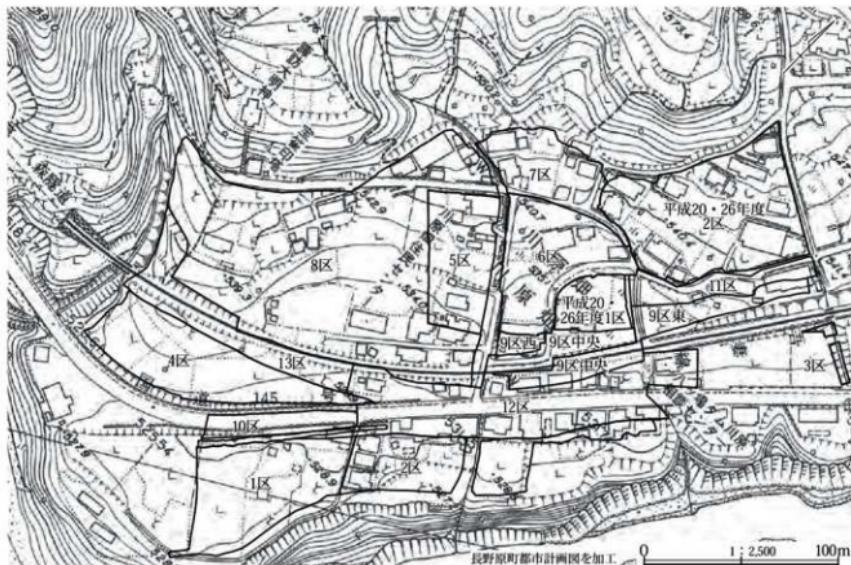
桁行方位(度) N-69-E

本体構造 身舎となる4間×8間(桁行14.39m、梁間7.55m)の四辺を抵張し、6間×11間(桁行18.30m、梁間9.32m)とした東西棟確石建物(170.6m²)の建物。

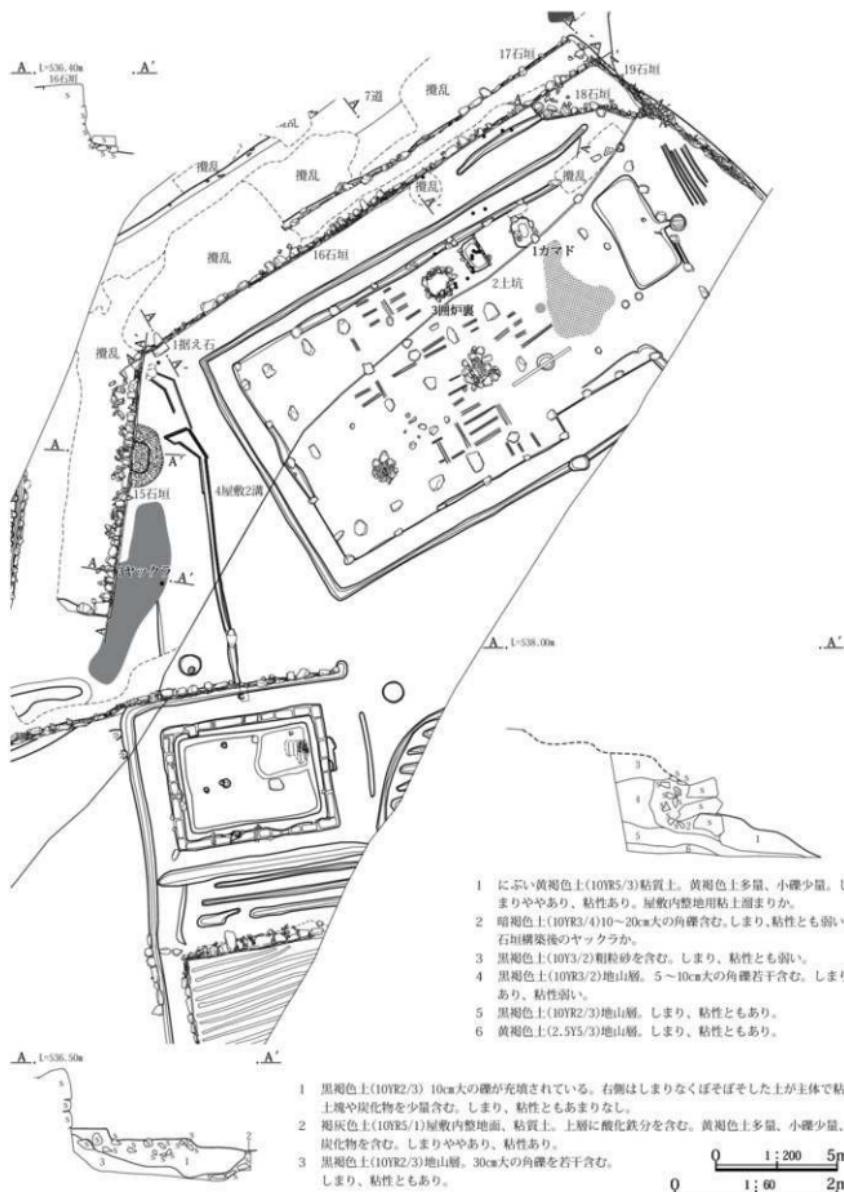
付属施設 囲炉裏、カマド、土坑。付属施設については後述する。

重複 なし。

遺物 煙管(17～20)、鉄鍋(9、14、15)、銅製の蓋(16)、工具(13)、瀬戸・美濃陶器水注(11)の他、図化には至らなかったが銅製品も出土している。また屋敷内からは柄鏡(8)とその箱、茶釜(5)、鉄鍋(1～3)、煙管(6)、



第8-6図 調査区位置図



第8-7図 4号屋敷1

16・17号石垣
△, 1:50.0m

A'



15号石垣
△, 1:50.0m

A'

3号石垣
△, 1:50.0m

A'

19号石垣
△, 1:50.0m

A'

18号石垣
△, 1:50.0m

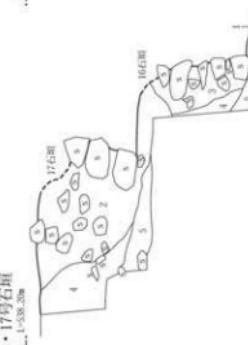
A'

17号石垣
△, 1:50.0m

A'

16号石垣
△, 1:60m

0 1:100 2m



A'

砥石(7)、肥前磁器染付皿(9)の他、図化には至らなかつたが磁器小碗、陶器皿なども出土している。

所見 建物の基本構造は、四辺拡張という古代に由来する構造を基礎とするが、東辺の拡張幅は他の3辺より広くとられており、東辺を除く3辺を拡張したプランの東側に馬屋部分を増築した構造に近い。また桁行方位の柱(礎石)は京呂組で多用される不等間隔の配置となっているが、梁行方向についても不等間隔な配置が多用されており、敷土台の使用も想像される。間取りに合わせた柱配置が行われる、近世的な建築への移行形態と推察される。建物南辺中央東寄りに出入り口を設け、建物東半を馬屋を伴う土間とし、西半を板間とする配置となっている。なお建物内から唐臼は検出されていない。

a 3号圓炉裏(第8-10、42図、PL.76、97)

位置 32区V-15~16グリッド、20号建物北辺中央部に位置する。

形状 概ね方形に石が組まれて、圓炉裏構築時の粘土が残存している。

規模 1.52×1.32m

主軸方位 N-56-E

重複 なし。

遺物 逆台形の先端を持つ工具に類似した鉄製品(12)が出土している。

所見 圓炉裏の上部構造は残されておらず、泥流被災時に使用されていたかは判然としない。なお、1~2号圓炉裏については既報2を参照されたい。

b 1・2号カマド(第8-10図、PL.76)

位置 32区U-V-17グリッド、20号建物北辺中央部に位置する。

形状 丸形容形の掘込とカマド基部となる石組みが残されていた。

規模 (1.38)×1.05m

主軸方位 N-23-W

重複 1号カマド下位に2号カマド。

遺物 図化には至らなかつたが鐵鍋片が出土している。

所見 0.6m程西にずれた位置からカマドの痕跡(2号カマド)が検出されており、時期は不明であるがカマドが組みなおされたものと推察される。

c 2号土坑(第8-10、42図、PL.77、97)

位置 32区V-17グリッド、20号建物北辺中央部に位置

する。

形状 平面形状は東西の壁面に石組みの残る長方形。

規模 1.38×1.00×0.37m

主軸方位 N-32-W

重複 なし。

遺物 瀬戸・美濃陶器小碗(10)が出土している。また図化には至らなかつたが、黒曜石の破片が出土している。

所見 3号圓炉裏と1号カマドの中間、圓炉裏寄りに位置しており、床下土坑となる可能性も否定しえないが、土間の西北端に位置していたと推察される。なお1号土坑については既報2を参照されたい。

(2)石垣

屋敷後背を土砂崩れに由来する崖に面し立地する4号屋敷は、北から西に接する7号道との境、東に接する畠地との境に石垣が組まれ、敷地の保全が計られている。なかでも敷地北端では最大で2.6m程度の標高差が存在し、屋敷北辺は3段の石垣となっている。

a 15号石垣(第8-7~8図、PL.77、78)

位置 32区Y-33区A-13~16グリッド、4号屋敷西辺北端に位置する。

形状 4号屋敷出入口から7号道沿いに北へ延びる石垣であり、敷地北辺に至り16号石垣に接続する。裏込めも施されている、打ち込み接ぎに近い野面積み。

規模 10.88m×高さ0.56~1.46m

主軸方位(度) N-7-E

遺物 なし。

所見 石垣の半ば付近に粘土の集積が確認されており、調査所見によれば、屋敷内整地用の粘土溜まりと捉えられている。

b 16号石垣(第8-7~8、40図、PL.77、97)

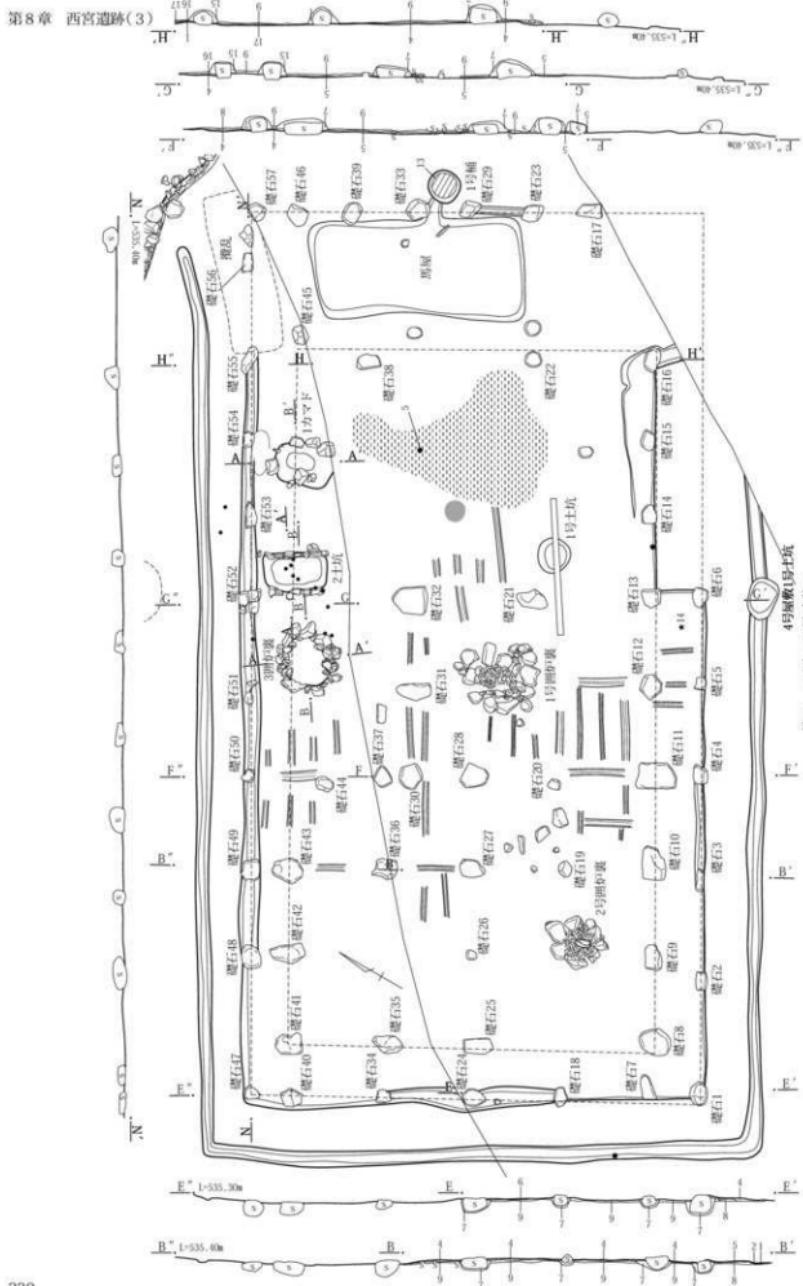
位置 32区U-Y16~19グリッド、4号屋敷北辺に位置する。

形状 西端を15号石垣に接し、7号道沿いに西に延び、北端で10号石垣に接する。天端のテラスに17号石垣、北端の中段に18号石垣が位置する。裏込めも施されている、打ち込み接ぎに近い野面積み。

規模 22.18m×高さ0.74~1.58m

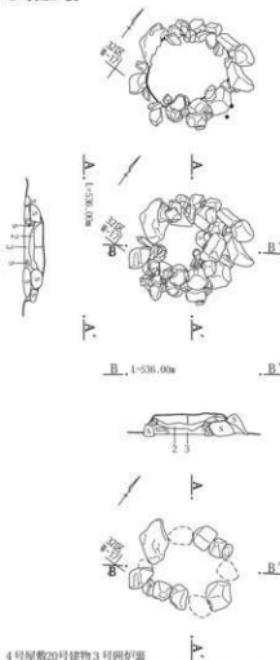
主軸方位(度) N-57-E

遺物 鉄鍋(1,3)の他、図化には至らなかつたが近世

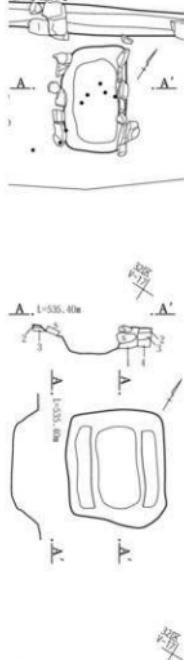


第8-9図 20号墓(房主坑)
4号墓(房主坑)

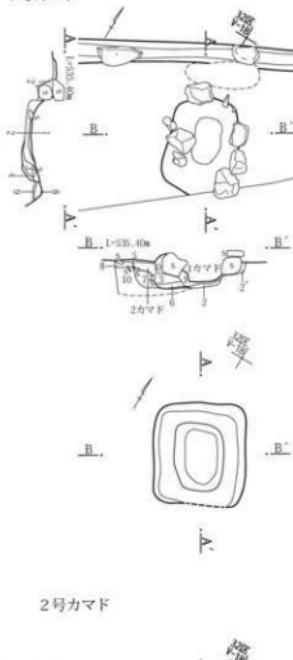
3号回炉裏



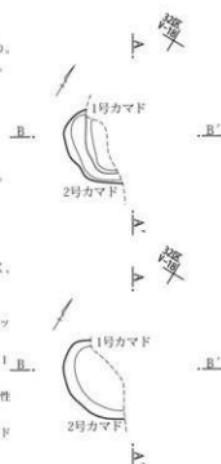
2号土坑



1号カマド



2号カマド



4号屋敷20号建物3号廻炉裏

- 1 にぶい黄色土(2.5YR6/3)間に埋構築時の粘土。上面の使用面は残存なし。燒土粒多量、炭化物少量。しまり強く、粘性あり。
- 2 黄褐色土(10YR4/2)間に埋構築材料を含む焼土。酸化鉄分を若干含む。にぶい黄色土粒少量。しまり弱く、粘性強い。
- 3 黄褐色土(2.5Y5/3)黄褐色土と焼土塊を含む。しまり、粘性とも弱い。

4号屋敷20号建物2号土坑

- 1 黒褐色土(10R3/1)しりとり。粘性とも弱い。土坑構築時の層と思われる。
- 2 黒褐色土(7.5YR4/2)建物整地面。酸化鉄分多量、黄褐色土、褐灰色土塊を含む。しまり強く硬化、粘性弱い。
- 3 褐灰色土(10R5/1)建物整地面。粘土土。上層に酸化鉄分を含む。黄褐色土多量、小礫少量。しまりややあり、粘性あり。
- 4 褐灰色土(10R6/1)地山。角礫若干。しまり強く、粘性弱い。

4号屋敷20号建物1号カマド、2号カマド

- 0 天明泥炭。袖石の断面に残存。袖石の崩落を考慮し残したままセクションを記録した。
- 1 青黒色土(10RG2/1)上面に褐灰色土ブロックと燒土ブロックが不均質に残存する。鉄分凝集および炭化物若干。しまり弱く、粘性あり。1号カマドの灰層。
- 2 にぶい黃褐色土(10YR5/4)1号カマド構築後の層。しまり弱く、粘性あり。
- 2' にぶい黃褐色土(10YR5/4)1号カマドの袖に当たる層。しまり弱く、粘性あり。2に比して粘性が強く、黒褐色土ブロックを不均質に含む。
- 3 にぶい黃褐色土(10YR5/4)2号カマド廻炉後ろの層。しまり、粘性ともあり。2や2'に比してしまりが強い。この上面が1-B.号カマド割り方。
- 4 黒褐色土(7.5YR4/2)2号カマド廻炉時から1号カマド構築時にかけて残存した2号カマドの灰層と思われる。しまり、粘性とも弱い。
- 5 黑褐色土(7.5YR4/2)建物整地面。酸化鉄分多量、黄褐色土、褐灰色土塊を含む。しまり強く硬化、粘性弱い。2号カマド廻炉後から1号カマド構築時にかけての層。
- 6 青黒色土(7.5YR4/1)燒土ブロックを全体的に含む。しまりややあり、粘性あり。2号カマドの灰層。
- 7 にぶい黃褐色土(10YR4/3)2号カマド構築時の層。しまり、粘性とも弱い。
- 8 褐灰色土(10YR5/1)粘土質土。上層に酸化鉄分を含む。黄褐色土多量、小礫少量。しまりややあり、粘性あり。
- 9 黑褐色土(7.5YR3/1)2号カマド以前に構築されたカマドの灰層の残骸か。しまり、粘性とも弱い。色調暗い。
- 10 褐灰色土(10R6/1)地山。角礫多量。しまり強く、粘性弱い。

第8-10図 20号建物

0 1:60 2m

表8-1表 20号施立柱建物付開口測量

測量箇所	計測	幅員	幅員	幅員	幅員	幅員	幅員	幅員	幅員	幅員	幅員	幅員	幅員	幅員	幅員
内側面	0.40	0.80	0.80	1.01	0.92	0.90	0.90	0.90	0.90	0.90	0.90	0.90	1.00	1.00	1.00
外側面	1.10 - 0.60 = 2.63	- 0.60 = 2.63	- 0.60 = 2.63	- 1.75 - 0.60 = 2.63	- 1.75 - 0.60 = 2.63	- 1.75 - 0.60 = 2.63	- 1.75 - 0.60 = 2.63	- 1.75 - 0.60 = 2.63	- 1.75 - 0.60 = 2.63	- 1.75 - 0.60 = 2.63	- 1.75 - 0.60 = 2.63	- 1.75 - 0.60 = 2.63	- 1.75 - 0.60 = 2.63	- 1.75 - 0.60 = 2.63	- 1.75 - 0.60 = 2.63
壁柱位置	0.82	0.37	0.37	0.37	0.37	0.37	0.37	0.37	0.37	0.37	0.37	0.37	0.37	0.37	0.37
壁柱位置	1.35 - 0.60 = 1.65 - 0.60 = 2.01	- 0.60 = 2.01	- 0.60 = 2.01	- 1.40 - 0.60 = 2.01	- 1.40 - 0.60 = 2.01	- 1.40 - 0.60 = 2.01	- 1.40 - 0.60 = 2.01	- 1.40 - 0.60 = 2.01	- 1.40 - 0.60 = 2.01	- 1.40 - 0.60 = 2.01	- 1.40 - 0.60 = 2.01	- 1.40 - 0.60 = 2.01	- 1.40 - 0.60 = 2.01	- 1.40 - 0.60 = 2.01	- 1.40 - 0.60 = 2.01
壁柱位置	1.38	2.04	2.04	2.04	2.04	2.04	2.04	2.04	2.04	2.04	2.04	2.04	2.04	2.04	2.04
壁柱位置	1.25 - 0.60 = 1.60 - 0.60 = 2.02	- 0.60 = 2.02	- 0.60 = 2.02	- 1.40 - 0.60 = 2.02	- 1.40 - 0.60 = 2.02	- 1.40 - 0.60 = 2.02	- 1.40 - 0.60 = 2.02	- 1.40 - 0.60 = 2.02	- 1.40 - 0.60 = 2.02	- 1.40 - 0.60 = 2.02	- 1.40 - 0.60 = 2.02	- 1.40 - 0.60 = 2.02	- 1.40 - 0.60 = 2.02	- 1.40 - 0.60 = 2.02	- 1.40 - 0.60 = 2.02
壁柱位置	1.90	1.88	1.88	1.88	1.88	1.88	1.88	1.88	1.88	1.88	1.88	1.88	1.88	1.88	1.88
壁柱位置	1.00 - 0.60 = 1.40 - 0.60 = 2.00	- 0.60 = 2.00	- 0.60 = 2.00	- 1.40 - 0.60 = 2.00	- 1.40 - 0.60 = 2.00	- 1.40 - 0.60 = 2.00	- 1.40 - 0.60 = 2.00	- 1.40 - 0.60 = 2.00	- 1.40 - 0.60 = 2.00	- 1.40 - 0.60 = 2.00	- 1.40 - 0.60 = 2.00	- 1.40 - 0.60 = 2.00	- 1.40 - 0.60 = 2.00	- 1.40 - 0.60 = 2.00	- 1.40 - 0.60 = 2.00
壁柱位置	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00
壁柱位置	1.00 - 0.60 = 1.40 - 0.60 = 2.00	- 0.60 = 2.00	- 0.60 = 2.00	- 1.40 - 0.60 = 2.00	- 1.40 - 0.60 = 2.00	- 1.40 - 0.60 = 2.00	- 1.40 - 0.60 = 2.00	- 1.40 - 0.60 = 2.00	- 1.40 - 0.60 = 2.00	- 1.40 - 0.60 = 2.00	- 1.40 - 0.60 = 2.00	- 1.40 - 0.60 = 2.00	- 1.40 - 0.60 = 2.00	- 1.40 - 0.60 = 2.00	- 1.40 - 0.60 = 2.00
壁柱位置	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00
壁柱位置	1.00 - 0.60 = 1.40 - 0.60 = 2.00	- 0.60 = 2.00	- 0.60 = 2.00	- 1.40 - 0.60 = 2.00	- 1.40 - 0.60 = 2.00	- 1.40 - 0.60 = 2.00	- 1.40 - 0.60 = 2.00	- 1.40 - 0.60 = 2.00	- 1.40 - 0.60 = 2.00	- 1.40 - 0.60 = 2.00	- 1.40 - 0.60 = 2.00	- 1.40 - 0.60 = 2.00	- 1.40 - 0.60 = 2.00	- 1.40 - 0.60 = 2.00	- 1.40 - 0.60 = 2.00
壁柱位置	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00
内側面	1.20 - 0.60 = 1.60 - 0.60 = 2.00	- 0.60 = 2.00	- 0.60 = 2.00	- 1.70 - 0.60 = 2.00	- 1.70 - 0.60 = 2.00	- 1.70 - 0.60 = 2.00	- 1.70 - 0.60 = 2.00	- 1.70 - 0.60 = 2.00	- 1.70 - 0.60 = 2.00	- 1.70 - 0.60 = 2.00	- 1.70 - 0.60 = 2.00	- 1.70 - 0.60 = 2.00	- 1.70 - 0.60 = 2.00	- 1.70 - 0.60 = 2.00	- 1.70 - 0.60 = 2.00
壁柱位置	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00
壁柱位置	1.18 - 0.60 = 1.58 - 0.60 = 2.08	- 0.60 = 2.08	- 0.60 = 2.08	- 1.38 - 0.60 = 2.08	- 1.38 - 0.60 = 2.08	- 1.38 - 0.60 = 2.08	- 1.38 - 0.60 = 2.08	- 1.38 - 0.60 = 2.08	- 1.38 - 0.60 = 2.08	- 1.38 - 0.60 = 2.08	- 1.38 - 0.60 = 2.08	- 1.38 - 0.60 = 2.08	- 1.38 - 0.60 = 2.08	- 1.38 - 0.60 = 2.08	- 1.38 - 0.60 = 2.08
壁柱位置	1.16	2.04	2.04	2.04	2.04	2.04	2.04	2.04	2.04	2.04	2.04	2.04	2.04	2.04	2.04
内側面	1.62	9.37	9.37	7.56	7.56	9.37	9.37	9.37	9.37	9.37	9.37	9.37	9.37	9.37	9.37
外側面	9.25														

の陶器や磁器が出土している。

所見 屋敷地と7号道との標高差を考慮し、階段状の石垣を組んだと推測される。

c 17号石垣(第8-7~8図、PL.77)

位置 32区U~X-17~19グリッド、4号屋敷北辺に位置する。

形状 16号石垣の天端に設けられた幅1.05~1.29mのテラスに設置されている。16号石垣の半ば近くから7号道沿いに東に延び、北端で10号石垣に接する。裏込めも施されている、打ち込み接ぎに近い野面積み。

規模 14.02m×高さ0.56~0.73m

主軸方位(度) N-56-E

遺物 図化には至らなかったが、近世の陶器や磁器が出土している。

所見 7号道南辺の路肩となっている。

d 10号石垣(第8-7~8図、PL.77)

位置 32区T~U-18~19グリッド、4号屋敷北辺に位置する。

形状 北端を17号石垣と接し南に延び、屋敷地と畠地の境界をなす。北端の中段に16号石垣、下段に18号石垣が位置する。裏込め地業は確認されていないが、打ち込み接ぎに近い野面積みと推測される。

規模 (4.00)m×高さ1.10~1.63m。なお、既報2掲載部分を合わせると確認長10.58m。

主軸方位(度) N-50-W

遺物 なし。

所見 既報2に掲載された10号石垣の北端部分が確認された。

備考 調査時の名称は、19号石垣。

e 18号石垣(第8-7~8図、PL.77)

位置 32区T~U-18~19グリッド、4号屋敷北辺に位置する。

形状 屋敷北端の16号石垣と10号石垣の接合部分に位置し、三角形のテラスを構成する。裏込めも施されている、打ち込み接ぎに近い野面積み。

規模 4.96m×高さ0.80~1.10m

主軸方位(度) N-85-W

遺物 図化には至らなかったが近世陶器が出土している。

所見 石垣の最高地点が存在する場所であり、法面保護

のために16号石垣と10号石垣の基部に構築されたと推測される。

3 道

調査区北部から2条、調査区中部から4条、調査区南部から1条の道が検出されている。これらの道は互いに接続するものがあり、既報2に掲載された道を合わせると5条の道が確認されることになる。このうち最大幅の道は真田道とされる7号道であり、他の4条はいずれもこの街道筋から分岐した支道ともいえるが、日々の用に供せられる生活道路と捉えられる。なお調査区を越え、連なると目された道は一括してとりあげた。

(1) 7号道(第8-11、12図、PL.78)

位置 32区S~33区H-10~24グリッド、調査区北部に位置する。

形状 西宮遺跡北部を東西に抜ける街道筋の東端にあたる。東に位置する境川を越え東宮遺跡に至る。道の両側を石垣や列石により境界される。

規模 (81.04)×2.92~4.49m。東宮遺跡を含む既調査分を合わせると(431.48)×1.58~4.49m。

走行方位(度) N-43-E。既調査分を合わせるとN-44-E。

付属施設 石垣。付属施設については後述する。

重複 なし。

遺物 図化には至らなかったが、近世の陶器擂鉢片などが出土している。

所見 7号道をほぼトレースする形で現在の町道が存在するが、遺跡西端でルートが相違するとされる。諏訪神社の南に当たる地点がそれであり、7号道は町道より南に位置する。長野原町都市計画図を確認すると、町道は諏訪神社の手前に位置する斜面の、西側稜線の下部を横切る形で道が通っており、地形なりにとりまわされていない。かつての諏訪神社の神域は町道南辺よりも更に南に広がりを持っており、7号道は神域を避け、これを回り込むようにしていたと推察される。

備考 調査時の名称は、21号道。

a 12号石垣(第8-11図、PL.78)

位置 33区D~E-11~12グリッド、7号道北辺に位置する。

形状 既報1の平成26年度調査区(2区)6号畠と南接する7号道との間に位置し、両者の境界となる。攢乱区画に接するため西端は確認されていないが、東端は既報1の平成26年度調査区(2区)5号道の西辺を区画する石垣に連なり北上する。

規模 東西部(12.22)×高さ0.47m、南北部(2.71)m。

走行方位(度) 東西部N-67-E、南北部N-20-W。

遺物 なし。

所見 本遺構は平成26年度調査区(2区)3号屋敷を区画する境界であり屋敷の一部と位置づけるべきであるが、編集の都合によりここに記載した。

備考 なお、平成26年度調査区(2区)13号畠との境に位置する列石については、13号畠を含め畠の項目に記載する。

b 14号石垣(第8-11図、PL.78)

位置 32区Y-33区H-10~13グリッド、7号道南辺に位置する。

形状 7号道と11-6号畠の間に位置し、両者の境界となる。東端は4号屋敷出入口の斜路へと続く。

規模 (32.69)×高さ0.53~1.04m。既調査部分と合わせると、41.08×高さ0.53~1.04m。

走行方位(度) N-69-E。既調査部分と合わせると、N-72-E。

遺物 図化には至らなかったが、中世在地系土器が出土している。

所見 路面と11-6号畠との間に生じている高低差を保護し養生する路肩として機能している。

(2) 10号道(第8-13図、PL.79)

1c号屋敷(既報2)の南で7号道から分岐し南下する道(既報2)の延長部分が検出された。1a号屋敷方面から流れる溝が合流し、道の両側に溝を伴う。

a 道部部分

位置 23区D-J-11~19グリッド、調査区中部に位置する。

形状 道の両側に溝を伴う。

規模 (41.37)×1.18m。既調査分を合わせ(104.08)×1.18~1.58m。

走行方位(度) N-36-W。既調査分を含みN-15-W。

重複 なし。

遺物 なし。

備考 既調査部分で18号道が分岐する。

b 側溝部分

規模 幅0.21~0.49m、深さ0.51m。今回調査部分の北端標高531.6m、南端標高529.4m、標高差2.2mを測る。

(3) 16・18号道(第8-14~15、43図、PL.79, 98)

10号道から分岐したミョウガ沢左岸の18号道は、対岸の16号道に接続し、くの字状の道となると推測されるため、一連の遺構として記載した。

a 16号道路部分

位置 13区R-20~23区X-3グリッド、調査区中部に位置する。

形状 道路両側と中央に合わせて3条の溝を伴う。

規模 (31.76)×1.98m。既調査分を合わせると(116.82)×1.38~1.98m。

走行方位(度) N-29-W。既調査分を合わせるとN-14-E。

重複 なし。

遺物 鉄鎌(21, 22)が出土している。

備考 既調査部分で15号道、17号道が分岐する。

b 16号道側溝部分

規模 0.38~0.59m、深さ0.03~0.10m。今回調査部分の北端標高529.3m、南端標高528.2m、標高差1.1mを測る。

c 18号道

位置 23区J-M-13~16グリッド、調査区中部に位置する。

形状 10号道から分岐する。

規模 (11.49)×1.55m。既調査分を合わせると(19.31)×1.36~1.55m。

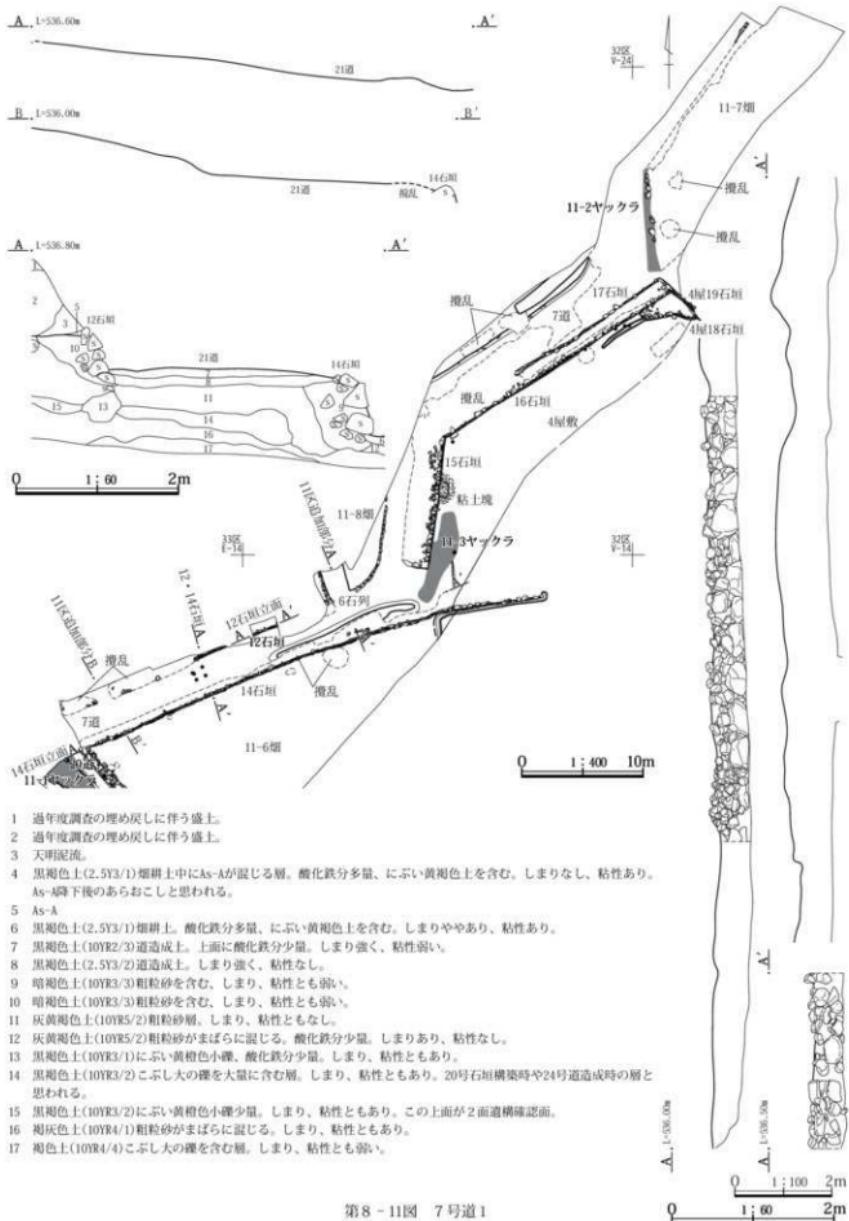
走行方位(度) N-65-E。既調査分を合わせるとN-59-E。

重複 1号平坦面。

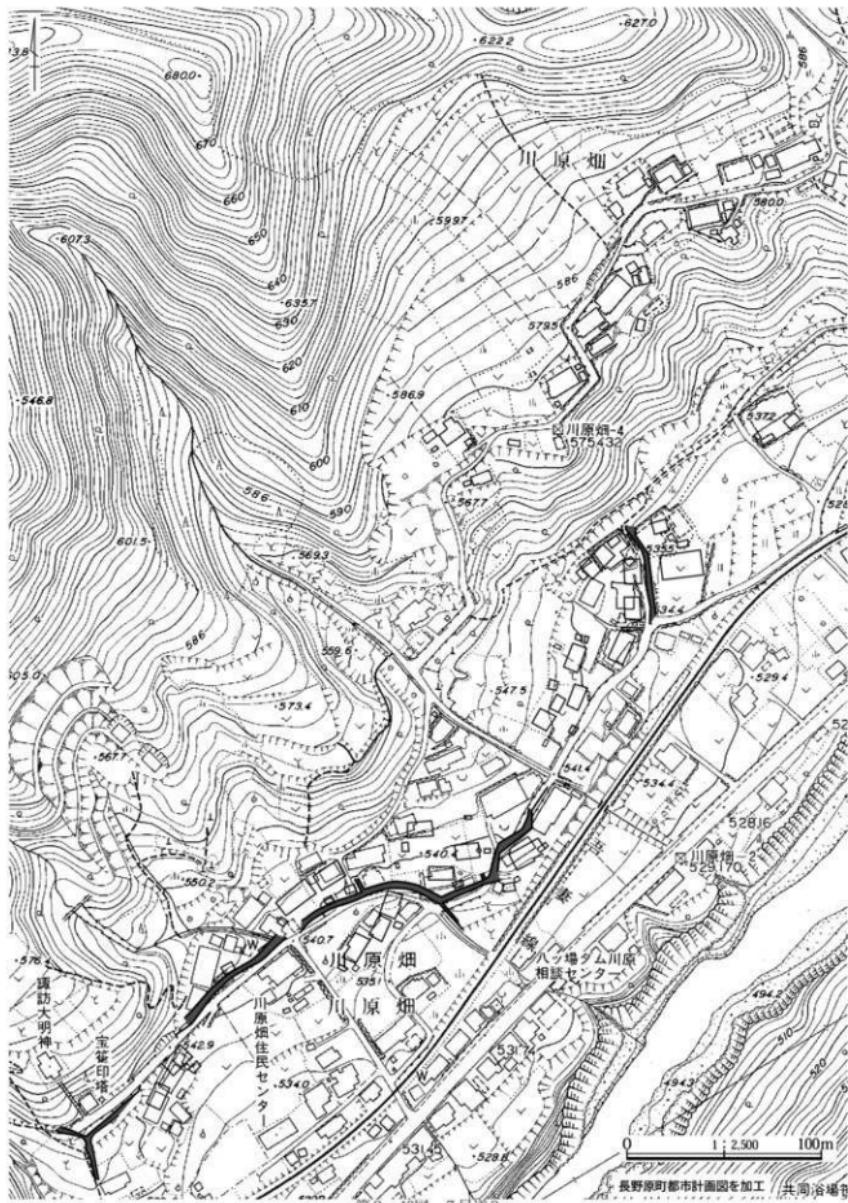
遺物 なし。

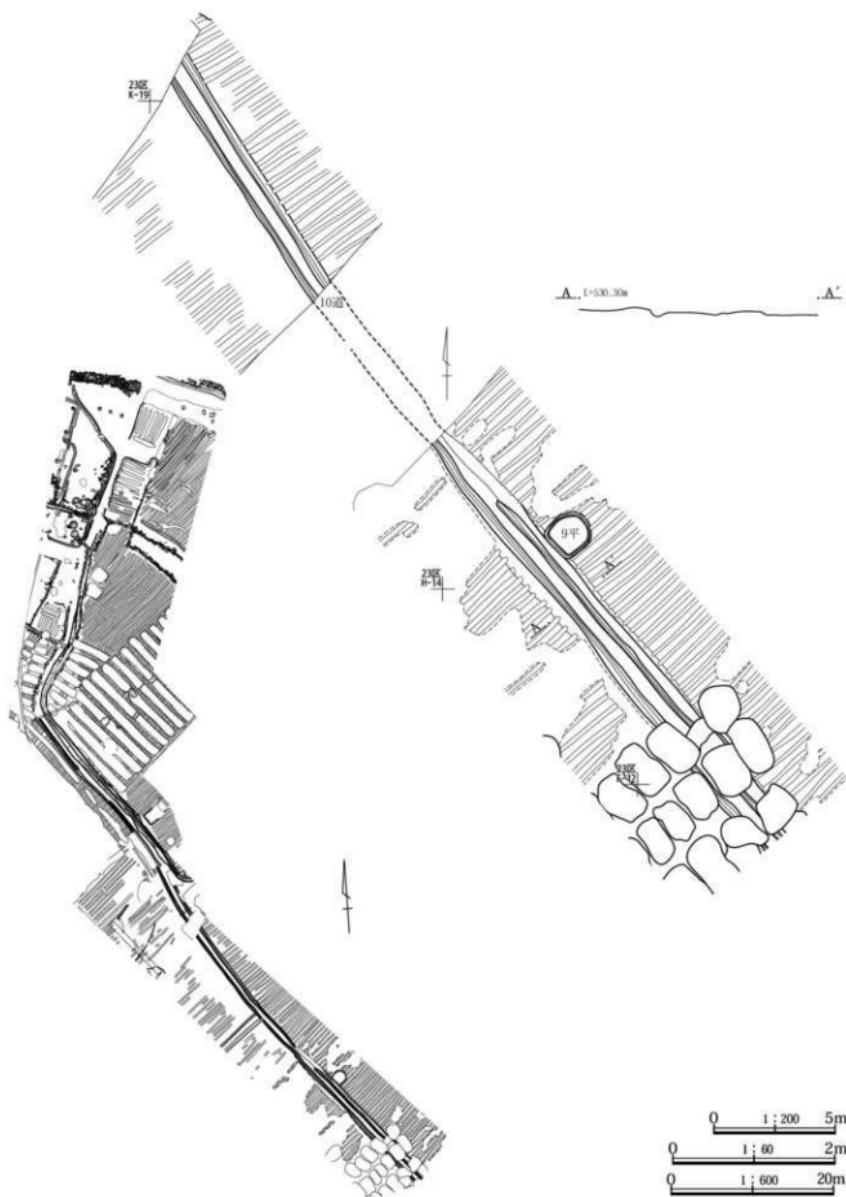
所見 痕跡が検出されたにとどまり、路面状況等は不明である。調査所見によれば道の北に接する9-1号畠は、降下した軽石を鍛込んだ状態との事であり、この復旧作業により道が痕跡化したと推測される。また18号道の南側の溝状の窪みが1号平坦面の北側と交差するとのこと

第3節 検出された遺構と遺物



第8-11図 7号道1





第8-13図 10号道

であり、1号平坦面は復旧作業後の遺構と推測される。

(4) 20号道(第8-16図、PL.78, 79)

位置 32区V-1~33区H-9グリッド、調査区北部西端から中部に位置する。

形状 北端で7号道と分岐し、南に至る。北端付近の路肩は東側に石垣、西側にヤックラが存在し、街道筋と同様な石で組まれた路肩となっている。調査区中部では両側に側溝を伴うが、南端に至り東辺沿いの溝のみとなる。

規模 $(48.80) \times 0.79 \sim 1.44\text{m}$

走行方位(度) N-39-W

付属施設 石垣、ヤッ克拉、溝。付属施設については後述する。

重複 なし。

遺物 なし。

a 溝

位置 32区V-X-1~3グリッド、20号道南端側に位置する。

形状 調査区中部の北側では道の両側にあるが、途中から道東辺の溝に合流し、南側は1条のみとなる。

規模 $(12.41) \times 0.45 \sim 0.74\text{m}$ 。北端標高531.0m、南端標高529.8m、標高差1.2mを測る。

走行方位(度) N-48-W

所見 未調査区画を間に挟むが、4号屋敷を抜ける排水路はこの溝に流れ込むと推察される。

備考 調査時の名称は、120号溝。

b 13号石垣

位置 33区F-H-7~10グリッド、20号道北端東辺に位置する。

形状 角礫を用いた野面積みにより、低地側となる東接する畑地側に壁面が作られている。

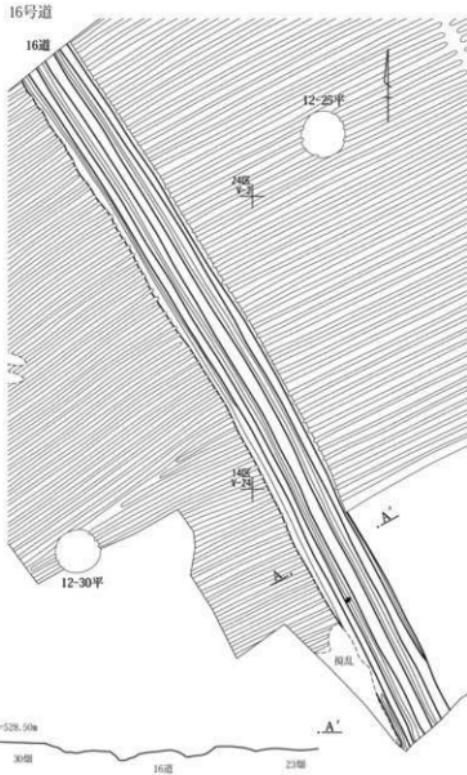
規模 $12.56 \times 0.56 \sim 0.88 \times \text{高さ} 0.09 \sim 0.50\text{m}$

走行方位(度) N-42-W

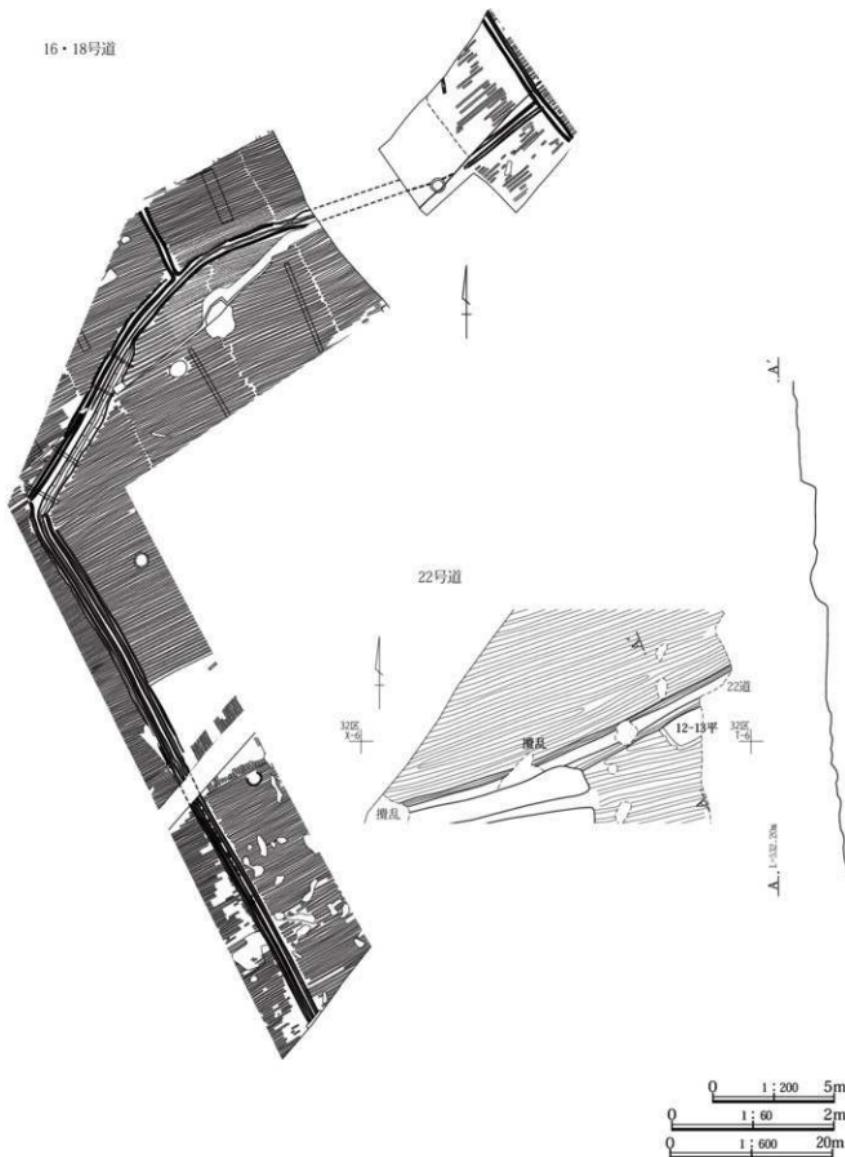
重複 なし。

遺物 なし。

所見 隣接する道と畑の境界をなし、相互の高低差を保持するために設けられた遺構であるが、道の路肩としてここに記載した。



第8-14図 16・18号道1



第8-15図 16・18号道2、22号道

c 11-1号ヤックラ

位置 33区G～I-8～10グリッド、20号道北端西辺に位置する。

形状 北端は広く、南端に向かい狭まり、道沿いに展開する。

規模 $(8.58) \times 0.41 \sim 2.81\text{m}$ 。既調査分を合わせると、 $9.34 \times 0.41 \sim 1.63\text{m}$ 。

走行方位(度) N-49-W。既調査分を合わせるとN-55-W。

重複 なし。

遺物 なし。

所見 高く積まれてはいないが、道の路肩を意識して集石されたものと推察される。

備考 調査時の名称は、11区1号ヤックラ。

(5) 22号道(第8-15図、PL.79)

調査区東南端を東西に走向する、両脇に溝を伴う道が検出された。

a 道路部分

位置 32区T～X-4～6グリッド、調査区中部に位置する。

形状 平坦面を半裁し設置され、両側の畠地より高くなっている。

規模 $(14.50) \times 0.94 \sim 1.21\text{m}$

走行方位(度) N-67-E。

重複 なし。

遺物 なし。

所見 東端は20号道に至る畦道と推察される。

b 側溝部分

規模 幅0.17～0.49m、深さ0.05m。両端の標高差は不明である。

4 畑

今回の調査では、調査区北部から4区画、調査区中部から9区画、調査区南部からは10区画の畠が検出されている。調査区北部は歟の間隔が広めの畠が多くみられ、調査区南部は歟の間隔が狭い畠ばかりとなっている。両者の間に位置する調査区中部の歟の間隔はやや広めといえる。ミョウガ沢の右岸と左岸とで栽培傾向が異なることも予想される。

今回の発掘調査により検出された畠は、いずれも既報に掲載された畠に連なり、その一部となるものである。本来ならば既に公表されている遺構名により報告を進めるべきではあるが、編集の都合から調査時の遺構名に基づき記載した。

なお畠の区分に際し平坦面などを分離境界とする、小単位・小区画に基づく遺構区分は行っていない。その所在および歟のピッチとその走向から一つにまとめた。

歟のピッチは、歟1条とその谷・溝1条をあわせて1単位とし、耕作地の中から連続して3単位以上が確認できる部位を選び、その幅を測り単位数で除したものである。歟幅あるいは床幅ではない。1歟に1条を植えた場合の条と隣の歟の条との間隔あるいは歒立幅の推計値に近い。計測は縮尺1/40の遺構図を対象とした。

また、平坦面は一括して後掲する。

(1) 11-7号畠(第8-17図、PL.79)

位置 32区Q～U-19～25グリッド、調査区北部東端に位置する。

歒のピッチ 0.46m

歒の走行方位(度) N-51-E

付属施設 ヤックラ。付属施設については後述する。

遺物 なし。

所見 既報2の畠114に連なる。ヤックラは畠西辺と7号道の境界として機能している。攢乱区画の中ではあるが、畠北辺と7号道の境界として列石が配置されていた痕跡が残されている。

a 11-2号ヤックラ

位置 32区U-19～21号グリッド、畠西辺に位置する。

規模 $8.57 \times 0.50 \sim 1.22\text{m}$

主軸方位(度) N-5-W

遺物 なし。

(2) 11-8号畠(第8-17図、PL.80)

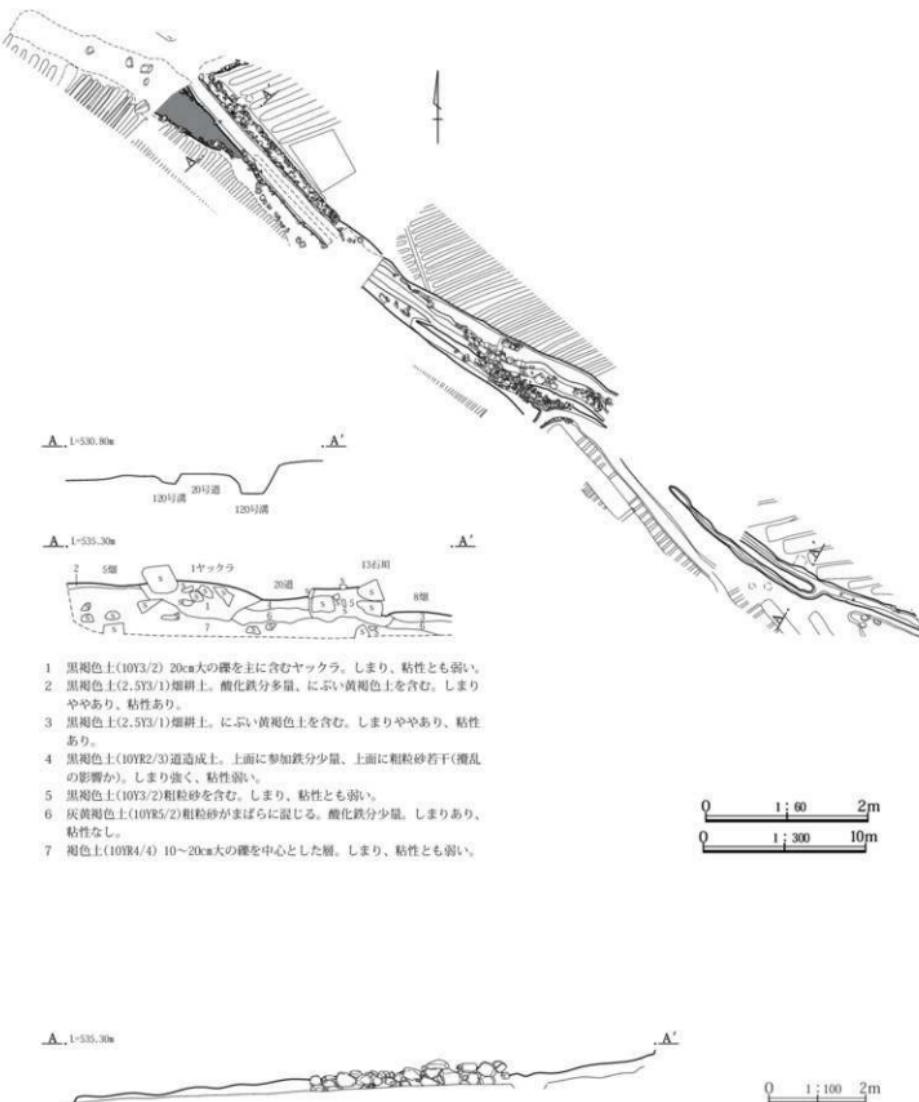
位置 33区B-13～15グリッド、調査区北部に位置する。

歒のピッチ 0.49m

歒の走行方位(度) N-84-W

付属施設 列石による境界。

所見 既報1の2区13号畠(既報2畠127)の南端が確認された。石を連ねた境界により区画される。



第8-16図 20号道

第8章 西宮遺跡(3)

(3) 11 - 6号烟(第8 - 17, 43図、PL.80, 98)

位置 32区Y～33区H - 9～12グリッド、調査区北部に位置する。

歟のピッチ 0.86m

歟の走行方位(度) N - 69 - E

付属施設 なし。

遺物 脚部のみではあるが肥前磁器白磁伝飯器(23)が出土している。

所見 既報2の烟108に連なる。調査所見によれば、烟の南半は鏽き込みがなされた状態とのことであり、歟のピッチなどは確認できないが、同一の区画とした。なおこの鏽き込み範囲の南には、ここより歟の間隔の狭い烟(既報2 烟110)が展開することが既報2により報告されている。

(4) 11 - 5号烟(第8 - 17図、PL.80)

位置 33区G～H - 7～9グリッド、調査区北部西辺に位置する。

歟のピッチ 0.47m

歟の走行方位(度) N - 44 - E

付属施設 なし。

遺物 図化には至らず、錢種なども不明であるが古銭などが出土している。

所見 既報1の1区3号烟(既報2 烟98)の東端が確認された。

(5) 12 - 14号烟(第8 - 18図、PL.80, 81)

位置 32区T～W - 5～9グリッド、調査区中部北端、22号道北に位置する。

歟のピッチ 0.35m

歟の走行方位(度) N - 69 - E

付属施設 なし。

遺物 なし。

所見 22号道沿い部分の数条は歟の走向がやや相違するが、一連の区画とした。

(6) 12 - 13号烟(第8 - 18, 22図、PL.81)

位置 32区T～X - 3～6グリッド、調査区中部北端、22号道南に位置する。

歟のピッチ 0.38m

歟の走行方位(度) N - 81 - E

付属施設 12 - 13号平坦面

遺物 なし。

所見 区画の大部分は復旧坑により搅乱されているが、確認された範囲より南の部分は、歟のピッチと走向が相違する別区画の烟の可能性が高い。

(7) 12 - 11号烟(第8 - 18図、PL.80, 81)

位置 22区W～23区B - 21～32区2グリッド、調査区中部、20号道南に位置する。

歟のピッチ 北部0.46m、南部0.47m

歟の走行方位(度) 北部N - 56 - E、南部N - 60 - E

付属施設 なし。

遺物 図化には至らなかったが、近世の陶器碗や磁器の破片が出土している。

所見 既報2の烟100に連なる。

(8) 12 - 12号烟(第8 - 18図、PL.80, 81)

位置 22区V～23区A - 18～23グリッド、調査区中部、114号溝東に位置する。

歟のピッチ 0.36m

歟の走行方位(度) N - 59 - E

付属施設 なし。

遺物 なし。

所見 未調査区画を挟むが、既報2の烟101に連なると推測される。

(9) 12 - 10 - 2号烟(第8 - 18図、PL.80, 81)

位置 23区A～E - 18～23グリッド、調査区中部、114号溝西に位置する。

歟のピッチ 0.45m

歟の走行方位(度) N - 57 - E

付属施設 なし。

遺物 なし。

所見 歛のピッチ、走向を考慮して区画を分けた。既報2の烟107に連なる。

備考 調査時の名称は、12区10号烟。

(10) 12 - 10 - 3号烟(第8 - 18, 22図、PL.80, 81)

位置 23区A～D - 16～20グリッド、調査区中部、114

号溝西に位置する。

歎のピッチ 0.39m

歎の走行方位(度) N - 38 - E

付属施設 12 - 10号平坦面

遺物 なし。

所見 歎のピッチ、走向を考慮して区画を分けた。

備考 調査時の名称は、12区10号畠。

(11) 9 - 16・12 - 10号畠(第8 - 18, 21, 22図, PL.80~82)

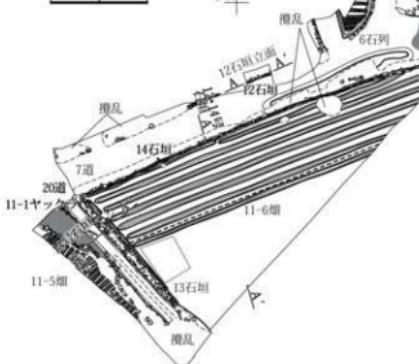
位置 23区B~G - 11~18グリッド、調査区中部、10号道東に位置する。

歎のピッチ 9 - 16号畠0.48m、12 - 10号畠0.43m

A-A', 1-535.50m

1-14

0 1:100 2m



A-A', 1-535.50m

14石垣

0

1:60

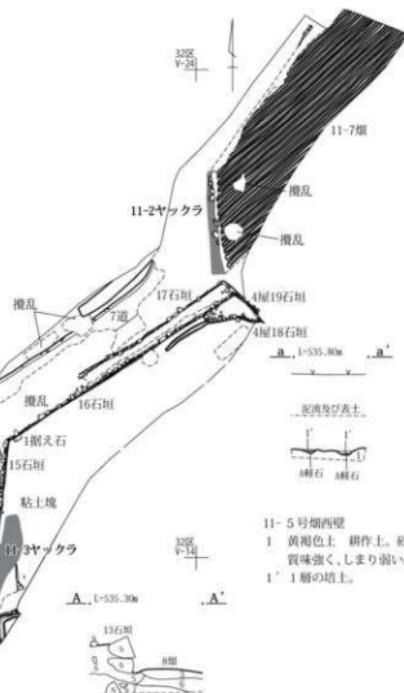
2m

11- 6 畠A

4 黒褐色土(2.5Y3/1)畠耕土中にAs-Aが混じる層。酸化鉄分多量、にぶい 黃褐色土を含む。しまりなし、粘性あり。As-A降下後のあるおこしと思われる。

6 黒褐色土(2.5Y3/1)畠耕土。酸化鉄分多量、にぶい黄褐色土を含む。しまりややあり、粘性あり。

9 喷褐色土(10YR3/3)粗粒砂を含む。しまり、粘性とも弱い。



0 1:400 10m

A-A'

11 黄褐色土(10Y5/2)粗粒砂層。しまり、粘性ともなし。

12 黄褐色土上(10Y5/2)粗粒砂がまばらに混じる。酸化鉄分少量。しまりあり、粘性なし。

16 褐褐色土上(10Y4/1)粗粒砂がまばらに混じる。しまり、粘性ともあり。褐褐色土(10Y4/4)こぶし大の礫を含む層。しまり、粘性とも弱い。

17 褐褐色土(10Y4/3)粗粒砂を含む。しまり、粘性とも弱い。

0 1:80 2m

第8 - 17図 調査区北部畠

歴の走行方位(度) 9-16号烟N-58-E、12-10号烟N-45-E

付属施設 9-16号平坦面、12-9号平坦面。

遺物 図面には至らなかったが近世の陶器片が出土している。

所見 9-16号烟は既報2の烟106の西北に、12-10号烟はその東南に位置しており、三者は一続きとなっている。ピッチと走向はやや相違するが一連の区画とした。

(12) 9-1号烟(第8-18図、PL.82)

位置 23区I-K-15~18グリッド、調査区中部、18号道北に位置する。

歴のピッチ 0.42m

歴の走行方位(度) N-55-E

付属施設 なし。

遺物 なし。

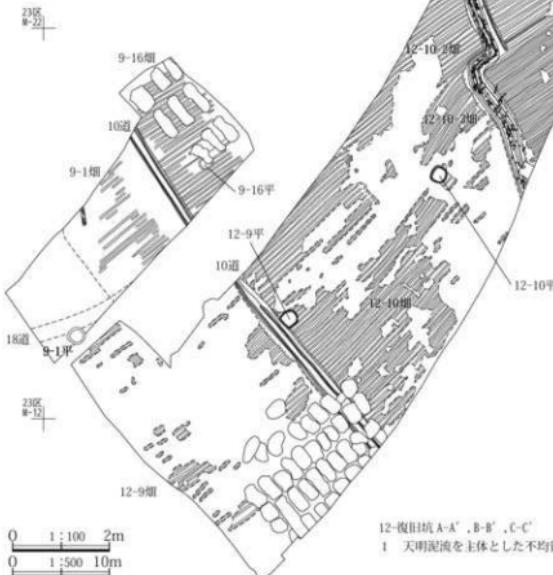
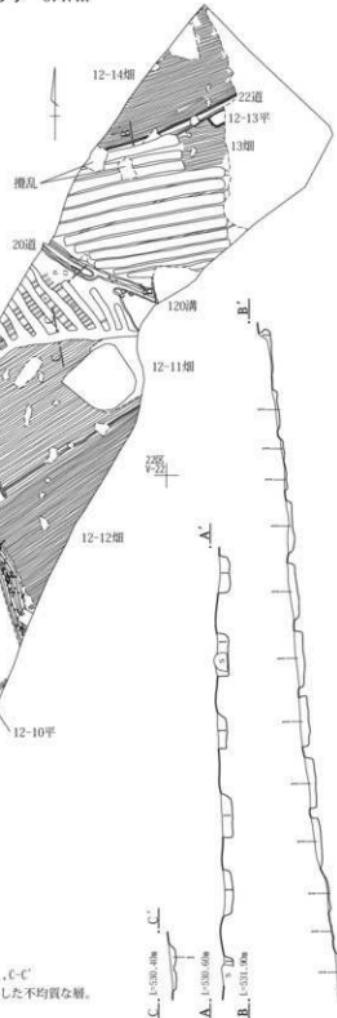
所見 調査所見によれば、破線から西側の範囲は降下したA軽石が動き込まれた形状の烟とのことであり、東側と区画を異にする可能性を秘めるが、同一の区画とした。既報2の烟89の北に隣接し、攪乱区画を間に挟むが、既

報2の烟88に連なると推測される。

(13) 12-9号烟(第8-18、21図、PL.81)

位置 23区F-L-9~15グリッド、調査区中部、10号道西に位置する。

歴のピッチ 0.47m



第8-18図 調査区中部烟

第3節 検出された遺構と遺物

歎の走行方位(度) N - 48 - E

付属施設 9 - 1号平坦面

遺物 なし。

所見 捣乱区画が多いが、既報2の畠90と一連の区画と推察される。

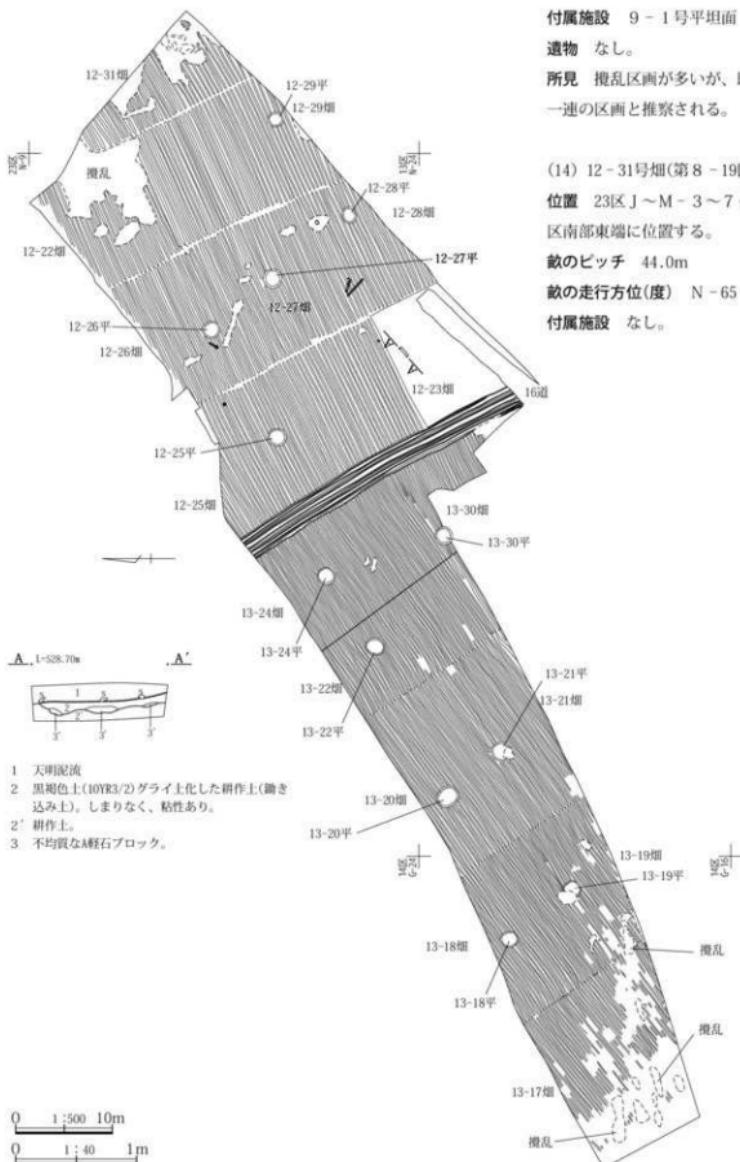
(14) 12 - 31号畠(第8 - 19図、PL.82)

位置 23区J～M - 3～7グリッド、調査区南部東端に位置する。

歎のピッチ 44.0m

歎の走行方位(度) N - 65 - E

付属施設 なし。



第8 - 19図 調査区南部畠

第8章 西宮遺跡(3)

遺物 なし。

所見 未調査区画を間に挟むが、既報2の烟63と既報2の烟64の間に位置し、これらと一連の区画をなすと推察される。

(15) 12-22・29号烟(第8-19, 22図, PL.82)

位置 13区L～Q-25～23区8グリッド、調査区南部東端に位置する。

歟のピッチ 12-22号烟0.42m, 12-29号烟0.42m

歟の走行方位(度) 2-22号烟N-68-E, 12-29号烟N-67-E

付属施設 12-29号平坦面

遺物 なし。

所見 歟のピッチ、走向ともに差異なく、同一の区画とした。また、既報2の烟61と既報2の烟62の間に位置し、両者と同一の区画を構成すると推察される。

(16) 12-26～28号烟(第8-19, 22図, PL.82)

位置 13区N～T-23～23区6グリッド、調査区南部東端寄りに位置する。

歟のピッチ 12-26号烟0.41m, 12-27号烟0.41m,

12-28号烟0.42m

歟の走行方位(度) 12-26号烟N-67-E, 12-27号烟N-64-E, 12-28号烟N-65-E

付属施設 12-26～28号平坦面

遺物 なし。

所見 歟のピッチ、走向ともに差異なく、同一の区画とした。また、既報2の烟59と既報2の烟60の間に位置し、両者と同一の区画を構成すると推察される。

(17) 12-25・23号烟(第8-19, 22, 43図, L.82, 98)

位置 13区R～W-23～24区4グリッド、調査区南部、16号道東に位置する。

歟のピッチ 12-25号烟0.40m, 12-23号烟0.41m

歟の走行方位(度) 12-25号烟N-59-E, 12-23号烟N-64-E

付属施設 12-25号平坦面

遺物 屋号と思われる、丸に青の焼き印の押された木蓋(24)が出土している。

所見 歟のピッチ、走向ともに差異なく、同一の区画と

した。既報2の烟57の南に連なる。区画南半はA軽石旗下後に鍛込みが行われている。鍛込み部分の南に隣接する既報2の烟58は歟の走向が相違するため、鍛込み部分は区画が異なる可能性がある。

(18) 13-22・12-24号烟(第8-19, 23図, PL.82)

位置 13区V～14区C-19～24区3グリッド、調査区南部、16号道西に位置する。

歟のピッチ 13-22号烟0.33m, 12-24号烟0.32m

歟の走行方位(度) 13-22号烟N-58-E, 13-24号烟N-58-E

付属施設 13-22号平坦面, 12-24号平坦面

遺物 なし。

所見 歟のピッチ、走向ともに差異なく、歟の区切りも存在しないため同一の区画とした。

(19) 13-30号烟(第8-19, 23図)

位置 13区U～X-22～24グリッド、調査区南部、16号道西に位置する。

歟のピッチ 0.34m

歟の走行方位(度) N-69-E

付属施設 12-30号平坦面

遺物 なし。

所見 南に位置する既報2の烟66に連なる。

(20) 13-20・21号烟(第8-19, 23図)

位置 14区A～G-19～25グリッド、調査区南部西寄りに位置する。

歟のピッチ 13-20号烟0.35m, 13-21号烟0.36m

歟の走行方位(度) 13-20号烟N-57-E, 13-21号烟N-55-E

付属施設 13-20号平坦面, 13-21号平坦面

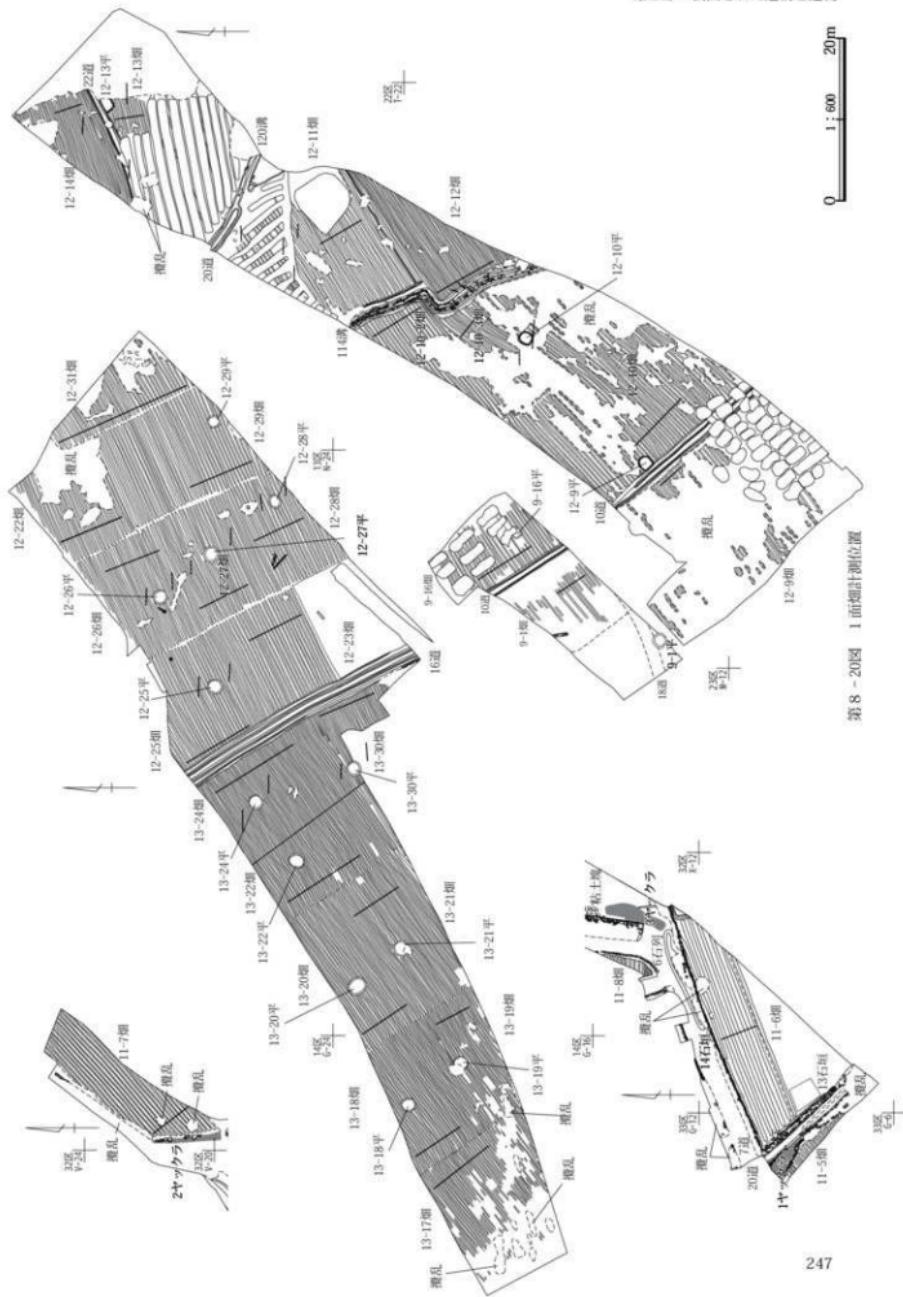
遺物 なし。

所見 歟のピッチ、走向ともに差異なく、同一の区画とした。北に位置する既報2の烟54に連なる。

(21) 13-18号烟(第8-19, 23図)

位置 14区F～K-19～22グリッド、調査区南部西寄りに位置する。

歟のピッチ 0.33m



第8-20圖 1面煙計測位置

第8章 西宮遺跡(3)

歴の走行方位(度) N - 56 - E

付属施設 13 - 18号平坦面

遺物 なし。

所見 北に位置する既報2の烟47に連なる。

(22) 13 - 19号烟(第8 - 19, 23図)

位置 14区E ~ I - 18 ~ 21グリッド、調査区南部西寄りに位置する。

歴のビッチ 0.30m

歴の走行方位(度) N - 61 - E

付属施設 13 - 19号平坦面

遺物 なし。

所見 南に位置する既報2の烟53に連なる。

(23) 13 - 17号烟(第8 - 19図)

位置 14区I ~ N - 17 ~ 21グリッド、調査区南部西端に位置する。

歴のビッチ 0.33m

歴の走行方位(度) N - 52 - E

付属施設 なし。

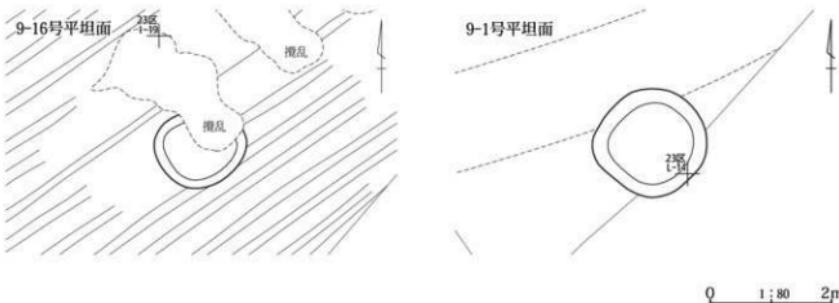
所見 北に位置する既報2の烟46と南に位置する既報2の烟51の間に位置し、同一の区画を構成する。

(24) 平坦面

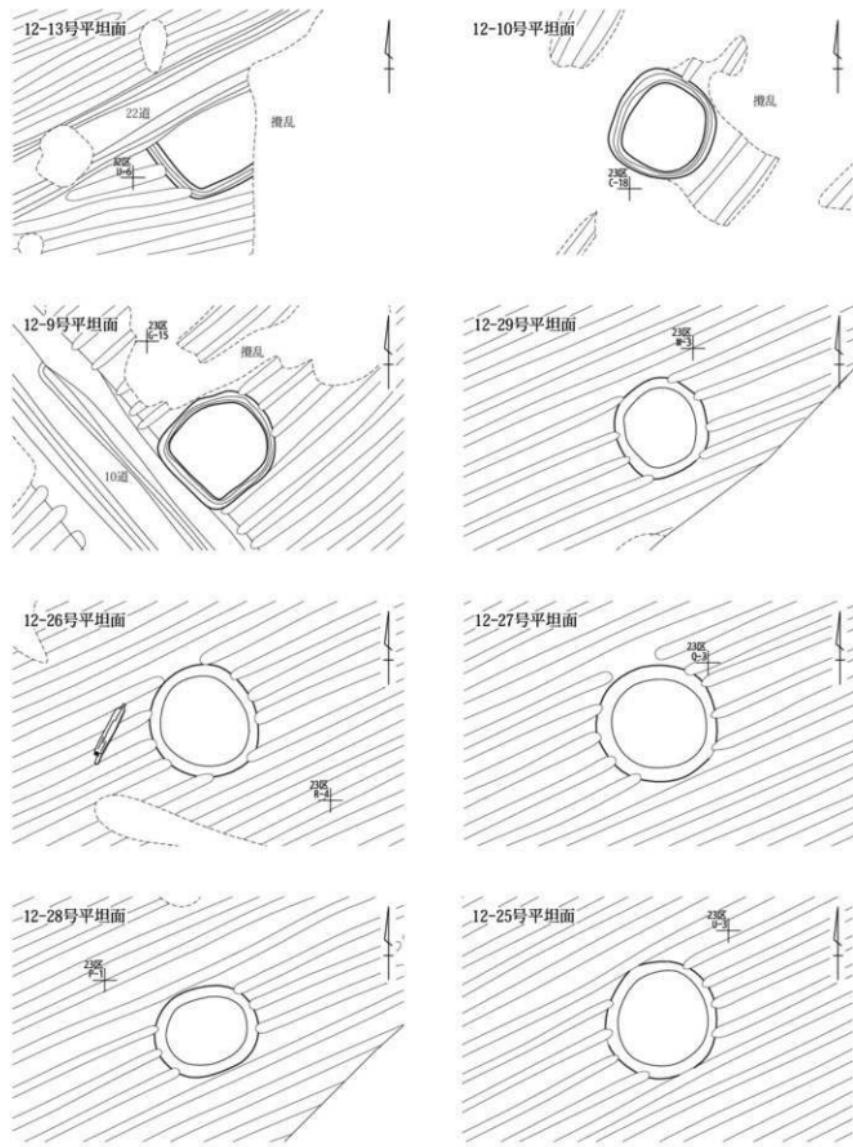
円形および方形の平坦面と、その中間形態となる平面形状がみられる。平坦面はいずれも周溝を伴う。

第8-2表 平坦面計測表

遺構名	位置	形狀	規模 外周	内周
9-16号平坦面	23[KK~I-18	丸形	1.45 × 1.28m	(1.06) × 0.98m
9-1号平坦面	23[KK~L-13~14	丸形	1.71 × 1.69m	1.26 × 1.29m
12-13号平坦面	32[KT~5~6	方形	(2.01) × (1.26)m	(1.69) × (1.01)m
12-10号平坦面	23[KB~C-18	円形	1.70 × 1.65m	1.33 × 1.24m
12-9号平坦面	23[KF~14	方形の1辺弧状	1.78 × 1.67m	1.42 × 1.38m
12-29号平坦面	23[KL~M-2	円形	1.46 × 1.46m	1.21 × 1.13m
12-26号平坦面	23[KK~4	円形	1.81 × 1.69m	1.46 × 1.32m
12-27号平坦面	23[KP~0~2	円形	1.93 × 1.86m	1.48 × 1.41m
12-28号平坦面	13[KO~25	長円形	1.67 × 1.37m	1.29 × 1.01m
12-25号平坦面	23[KU~2	円形	1.84 × 1.75m	1.51 × 1.38m
12-24号平坦面	23[KX~Y-1	円形	1.76 × 1.70m	1.43 × 1.44m
12-30号平坦面	13[KW~X-23	円形	1.78 × 1.70m	1.37 × 1.29m
13-22号平坦面	14[KX~24~25	長円形	1.98 × 1.74m	1.68 × 1.41m
13-20号平坦面	14[KE~22~23	丸形長方形	2.28 × 2.06m	1.96 × 1.59m
13-21号平坦面	14[KD~21~22	円形	1.98 × 1.70m	1.88 × 1.60m
13-18号平坦面	14[KH~I~21	長円形	1.85 × 1.70m	1.47 × 1.26m
13-19号平坦面	14[KG~H~19~20	円形	1.80 × (1.58)m	1.55 × (1.50)m

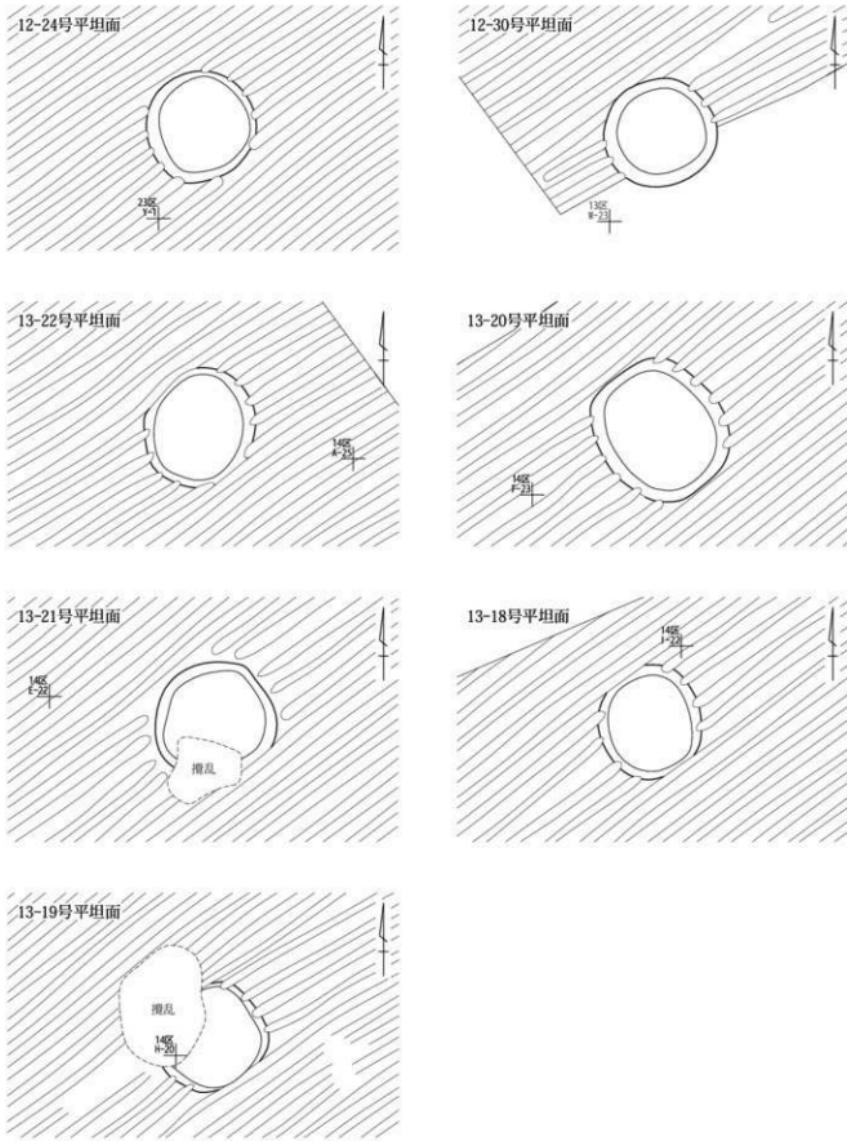


第8-21図 平坦面1



第8-22図 平坦面2

0 1:80 2m



第8-23図 平坦面3

0 1:80 2m

5 114号溝(第8-24図、PL.82)

位置 35地区22区Y~23区B-17~23グリッド、調査区中部に位置する。

形狀等 溝の両岸に石が組まれ、その外側に境木とされる植栽が並ぶ。クランク状に屈曲し南流する。

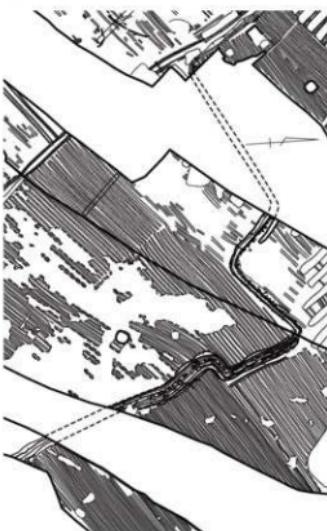
規模 $(24.03) \times 1.03 \sim 1.79m$ 、深さ $0.19 \sim 0.23m$ 。底面の北端標高 $529.8m$ 、南端標高 $528.7m$ 、標高差 $1.1m$ を測る。既報部を含め $(104.37) \times 0.36 \sim 1.79m$ 。

走行方位(度) N-19°W、既報部を含めると N-34°W。

重複 なし。

遺物 図化には至らなかったが、埋没土から近世の陶器碗が出土している。

所見 既報2の調査範囲を含め、概ね北西から南東に流れているが、この上流は確認されていない。10号道の東側の側溝は、調査区中部に至る手前のあたりで分岐し、東に流れを変える気配がうかがえる。114号溝の上流と推察される。



第8-24図 114号溝

第3項 2面の遺構

1 2面の概要

発掘調査時に2~1面、1.5面とされた、天明泥流に覆われた耕作面(1面)の直下に位置する耕作面を2面とした。調査地点により両者の間には土砂崩れとみられる層が介在する。礎石建物1棟、道2条、畑4区画、復旧溝とされる溝1条とヤックラ1基が検出されたが、調査区南部からは畑1区画が検出されたのみであり、検出された遺構はミョウガ沢左岸に偏る。近世の遺構が検出されている。

2 22号建物(第8-25図、PL.83)

建物は、24号道と23号道の交差する角地から検出された。高所側にある24号道の南に位置し、道との間には浅い溝状の窪地が存在する。窪地東端は攪乱されており、窪地の終端は確認されていないが、攪乱区画付近が窪地の東端と推測される。なお、窪地西側は未調査区画に至り、水路としての機能を有するかは不明である。また、建物の南西からは歓の端が検出されており、既報2で確認された畑地が広がる。

位置 33区C～F-9～11グリッド、調査区北部西半に位置する。

形状等 東西棟の礎石建物の礎石11点、石跡3か所と焼土や灰、炭化物が確認された。

規模 桁行(11.01)m、梁行(2.43)m。礎石建物の桁行3間、梁行8間が検出されている。桁行柱間平均1.44m、梁行柱間平均1.31mを測る。

桁行方位(度) N-70-E

本体構造 東西棟5間×8間の礎石建物の北辺が検出さ

れたと推測される。11.01×6.27m、21坪程度の礎石建物と推察される。

付属施設 不明。

重複 なし。

遺物 図化には至らなかったが、近世の陶器片や磁器片が出土している。

所見 本遺構の年代は、出土遺物と礎石配置から近世に比定される。北壁寄りから検出された焼土範囲からは、灰層や焼土層が確認されている。また黄褐色土ブロックも確認されており、カマドの痕跡と推測される。カマドと推測される焼土範囲からやや離れた、建物中央寄りの地点から灰が検出されており、窓戸裏の存在が予測される。

3 道

調査区北部西端から2条の道が検出された。24号道は1面7号道の下位、23号道は1面20号道の下位に位置する。2面を覆った流入土砂により廃棄された旧道とされる。いずれの道も道端を石により境界されており、一般的な村道・農道よりも格上の道とされる。

(1) 23号道(第8-26図、PL.83, 84)

位置 33区E～G-6～9グリッド、調査区北部西端に位置する。

形状等 道の両端に列石を伴う。

規模 (10.48)×1.52～2.28m

走行方位(度) N-48-W

重複 なし。

遺物 図化には至らなかったが、近世の陶器碗の破片が出土している。

第8-3表 22号建物柱間計測表

	桁行 柱間										
	- 1.78 -	- 2.14 -	- 0.88 -	- 1.26 -	- 0.98 -	- 1.49 -	- 1.39 -	- 0.98 -	- 1.61 -	- 1.74 -	10.37
梁行 柱間	1.46	1.31									
	- 1.81 -	- 0.69 -									10.40
梁行 柱間											
											1.22
梁行 柱間											
											0.40

第3節 検出された遺構と遺物

所見 本遺構の年代は、出土遺物から近世に比定される。

(2) 24号道(第8-26図、PL.84)

位置 33区E～G-10～11グリッド、調査区北部西端に位置する。

形状等 道の両端に石垣を作り、

規模 $(5.40) \times 1.86 \sim 2.14m$

走行方位(度) N-63-E

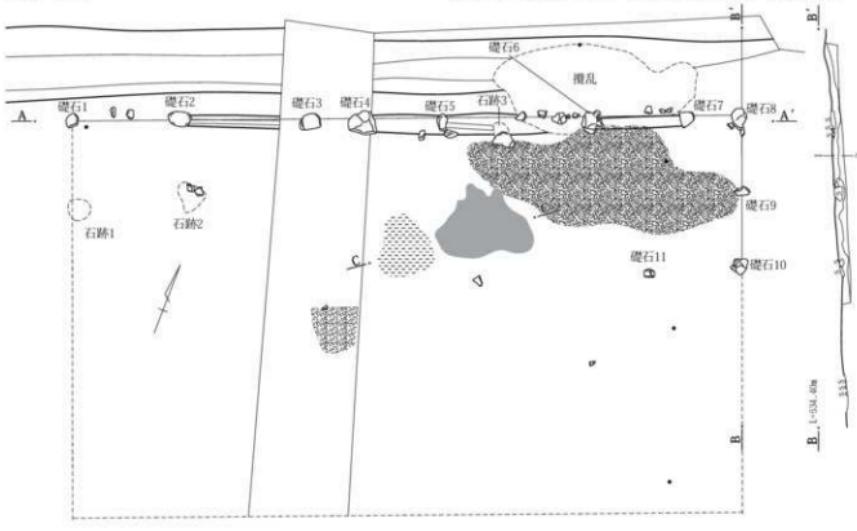
重複 なし。

遺物 図化には至らなかったが近世陶器が出土している。

所見 本遺構の年代は、出土遺物から近世に比定される。

4 煙

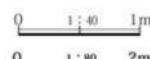
調査区北部から1区画、調査区中部から2区画、調査区南部東端から1区画が検出された。1面の烟は歓が等高線に対し平行するのに対し、2面の烟はいずれも傾斜に沿う、等高線に交差する方向の歓であり、排水重視の



- 1 黒褐色土(10YR3/1)黄粘色粒と炭化物粒を少量含む。しまり強く、粘性あり。色調明るく褐色灰色に近い。
- 2 黄褐色土(10YR5/6)地山。黒褐色土ブロックを不均質に含む。しまりあり。粘性弱い。



- 1 青黒色土(5BG2/1)粘性あり、しまり弱い。炭化物粒を多く含む層。
- 2 暗褐色土(10YR3/4)粘性あり、しまり弱い。中心部に青黒色の灰層や赤褐色の焼上層が認められる。両端の層は黄褐色土ブロックが乱れて混じる層。カマドの残骸か。



第8-25図 22号建物

第8章 西宮遺跡(3)



第8-26図 2面道

乾地化を意図した配置といえよう。

(1) 11-9号烟(第8-27图、Pl.84)

位置 33区B～C-2～10グリッド、調査区北部南辺に位置する。

敵のピッチ 計測不能。

敵の走行方位(度) 計測不能。

付属施設 319号土坑。付属施設については後述する。

遺物 なし。

所見 既報2の9区東部2面畑の北端が確認された。遺構の年代は近世に比定されている。

a 319号土坑(第8-27图, PL.84)

位置 33区C～D-9グリッド、11-9号烟北辺に位置する。

形状 散乱する礫の下から、丁字状の遺構が検出された。

規模 1.59×1.57m

主軸方位(度) N - 85 - W

埋没土 酸化鉄分をまばらに含み、にぶい黄橙色小礫を少量、10~20cm大の亜角礫を大量に含む黒褐色土。

重複 なし。



遺物 図化には至らなかったが、中世在地系土器や近世陶器の破片が出土している。

所見 本遺構の年代は、出土遺物から近世に比定される。焼作に支障となる礫を集めたものと推測される。

(2) 9-3号烟(第8-27图、Pl. 85)

位置 3区G～J-21～23グリッド、調査区中部北辺に位置する。

歯のピッチ 0.89mm

敵の走行方位(度) N - 42 - W

付属施設 なし。

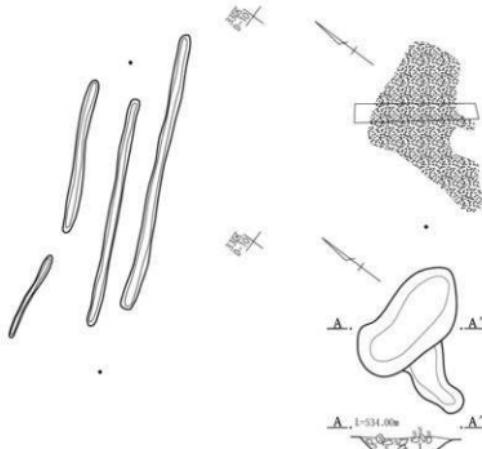
遺物 なし。

所見 1面畑耕作土の直下に位置し、隣接する93号トレンチから近世施釉陶器が出土しており、本遺構の年代は近世に比定される。

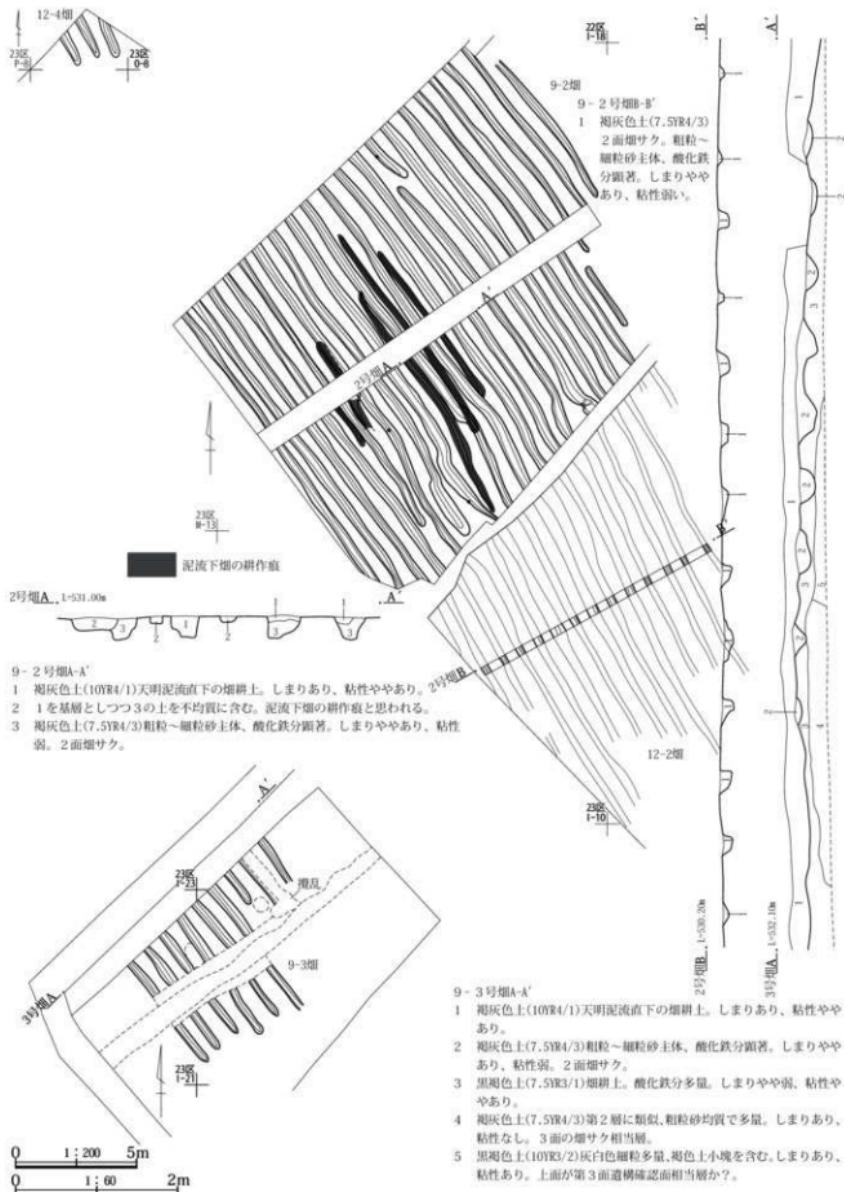
(3) 9·12-2号烟(第8-28图、PL.85)

位置 23区G～M-9～16グリッド、調査区中部西半に位置する。

歯のピッチ 北部0.89m、南部0.87m



1 黒褐色土(10YR3/2)酸化鉄分をまばらに含み、にぶい黄橙色小礫を少量、10~20cmの大亜角礫を大量に含む。しまり、粘性ともあり。



第8-28図 2面畝2

第3節 検出された遺構と遺物

歴の走行方位(度) 北部N - 40 - W、南部N - 26 - W

付属施設 なし。

遺物 遺構外の遺物であり図化には至らないが、灰釉陶器碗(2点33g)や須恵器の破片(1点39g)が出土している。

所見 1面畑耕作土の直下に位置し、上位畑の耕作に伴う耕作痕も検出されており、本遺構の年代は近世に比定される。既報2の下位土石流で覆われた畑③の南に位置し、間に未調査区画を挟むが、一連の区画と推察される。

(4) 12 - 4号畑(第8 - 28図、PL.85)

位置 23区O - 8グリッド、調査区南部北端に位置する。

歴のピッチ 計測不能

歴の走行方位(度) 計測不能

付属施設 なし。

遺物 なし。

所見 本遺構は調査区中部の2面に相当する遺構確認面からの検出であることから、近世遺構とした。

5 その他

復旧坑1条、ヤックラ1基が確認されている。ヤックラは23号道の西に位置し、道との間に2m程度の空間が存在するため、道とは別にここに記載する。ヤックラの西に畑が存在することが期待されるが、確認されていない。復旧坑は調査時に1.5面とされた遺構であり、調査時点において既に2面遺構よりも新しい遺構として取り扱われていたが、検出面が2面耕作土の面となるためここに記載した。

(1) 9 - 1号復旧坑(第8 - 29図、PL.85)

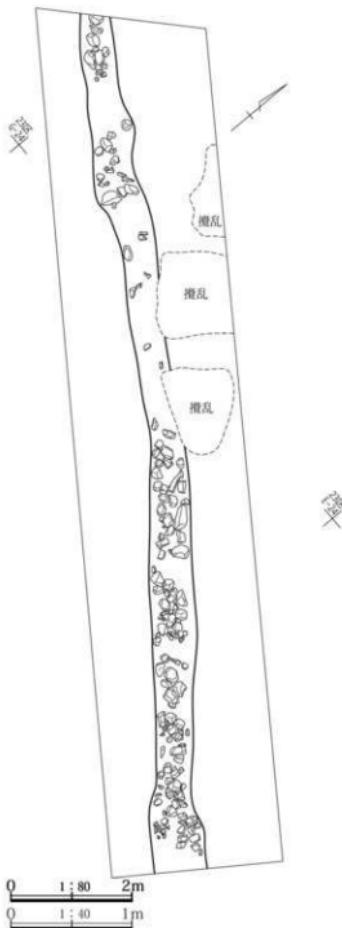
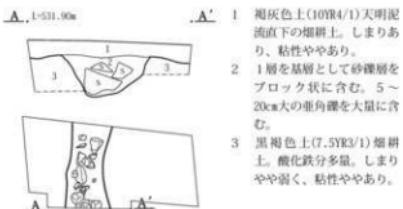
位置 23区D～G - 22～25グリッド、調査区中部東半に位置する。

形状 1面耕作土直下から直線状の溝が検出された。

規模 $(16.63) \times 0.50 \sim 0.91 \times 0.11 \sim 0.31\text{m}$ 。底面の北端標高531.28m、南端標高530.36m、標高差0.92mを測る。

主軸方位 N - 55 - W

埋没土 天明泥流直下の畑耕土を基層とし、砂礫をブロック状に含み、5～20cm大の亜角礫を大量に含む褐色土。



第8 - 29図 9 - 1号復旧坑

第8章 西宮遺跡(3)

遺物 図化には至らなかったが、近世の陶器が出土している。

所見 本遺構の年代は、近世でも天明年間に近い時期に比定される。ヤックラ同様に、耕作に支障となる礫を集積させていることから復旧坑に区分されたと思われる。湧水対策に苦慮したという調査状況を鑑みれば、本遺構の機能は暗渠排水にあると推測される。

備考 調査時の名称は、1号復旧溝。

(2) 11-4号ヤックラ(第8-26、43図)

位置 33区E～G-6～8グリッド、調査区北部西端に位置する。

形状 調査区西辺沿いから、帶状に検出された。

規模 $(10.59) \times (1.28) \times 0.48\text{m}$

主軸方位 N-46-W

埋没土 5～20cm大の礫を主に含む褐色土。

遺物 瀬戸・美濃焼陶器碗(25)が出土している。

所見 本遺構の年代は、出土遺物から近世に比定される。

第4項 3面の遺構

1 3面の概要

調査時点において、調査地点により2-1'面、2-2面、3面などと呼称されていた、2面の耕作面よりも下位から検出された遺構確認面を一括して3面とした。掘立柱建物1棟、水田2区画、畠1区画、溝4条、土坑22基、ピット58基が確認された。なお、3面の掘立柱建物は2面で検出された礎石建物の直下に位置している。

2 11-2号掘立柱建物(第8-30図、PL.86、87)

位置 33区C～F-9～11グリッド、調査区北部西半に位置する。

形状等 ピット23基が確認された。

規模 梁行10.42m、梁間5.02m。桁行柱間平均2.01m、梁行柱間平均1.70mを測る。

桁行方位(度) N-25-E

本体構造 3間×5間の東西棟礎石建物が確認された。

埋没土 褐灰色土を主とし、鉄分凝集を形成したブロックや地山黄褐色土のブロックが含まれる。

重複 367P、368P、380P、381P、389Pなどは補修

や改修により生じた柱穴の可能性がある。

遺物 図化には至らなかったが、P3とP4から近世の陶器碗などの破片が出土している。また、調査時にP3から炭化した柱材が確認されている。

所見 本遺構の年代は、出土遺物から近世に比定される。本遺構の南辺側の梁間は他の梁間よりも間隔がやや狭いため、2間×5間建物の南辺を1間拡張(廂・下屋)したものと推測される。拡張部分の梁間は平均1.36m、本体(身舎・上屋)部分の梁間は平均1.87mを測る。なお本体部分の桁行柱間平均は2.06mを測る。

3 田畠

水田2区画、畠1区画が検出されている。水田は調査区北部西端、既報2で報告されている水田区画の北に隣接する地点から検出された。畠は調査区中部西端からの検出であり、2面12-2号畠の直下に位置する。

水田と11-2号掘立柱建物(以下建物)は111号溝を挟む、近接した位置から検出された。この新旧関係は調査時点から精査されてきたが、結論は得られず、水田は2-2面、建物は2-1'面遺構として扱われてきた。建物の遺構確認面を水田耕作土層下面相当とみなし、建物が先行すると仮定することもできるが、水田域の東限を含め確たる資料は得られていない。

(1) 11-1号水田(第8-31図、PL.87)

位置 33区E～G-6～8グリッド、調査区北部西端に位置する。

形状等 長方形を呈する。

規模 $5.75 \times 4.11 \times 0.09\text{m}、22.20\text{m}^2$ を測る。

長軸方向(度) N-38-E

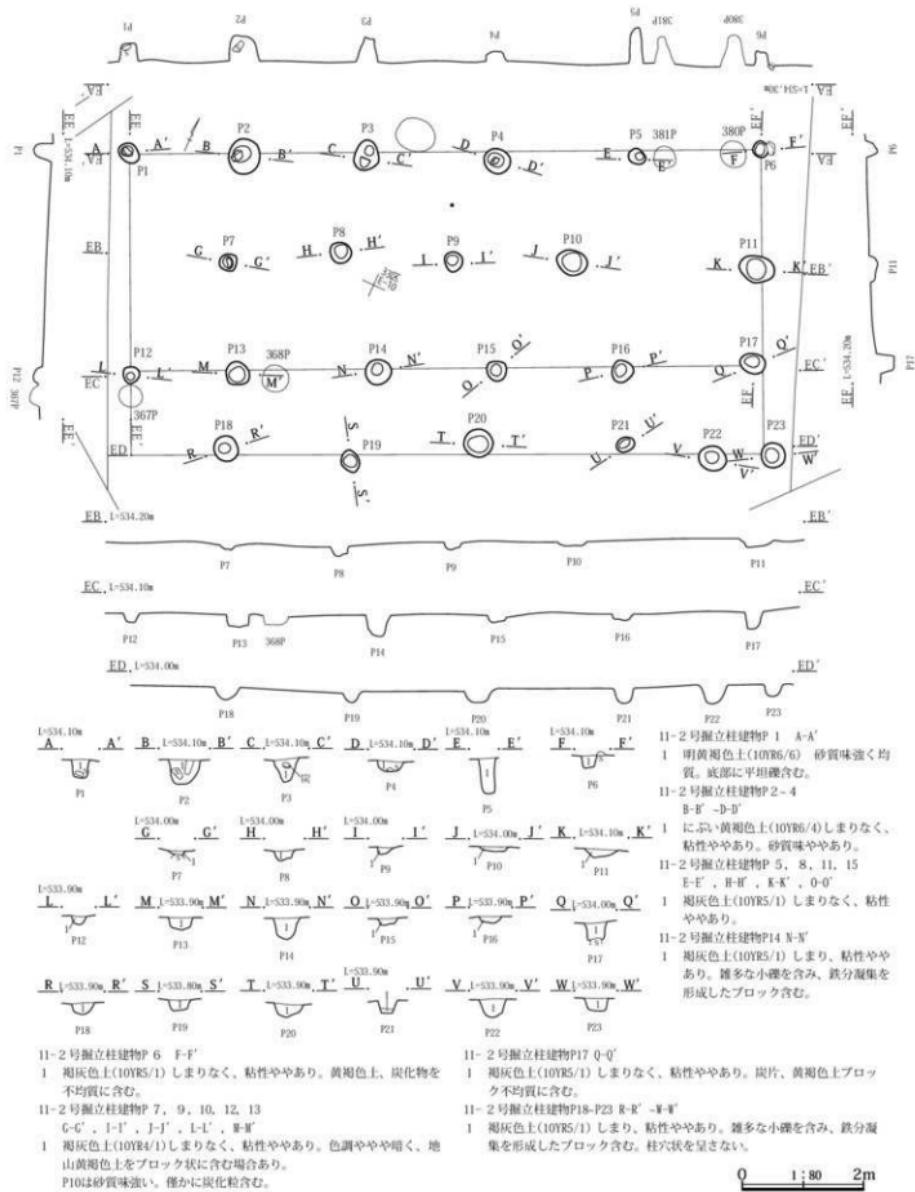
遺物 なし。

所見 本遺構の年代は、既報2に準拠し、中近世に比定される。下段の水田への水口は確認されているが、取水のための水口は確認されていない。なお、取水先は111号溝と推測される。

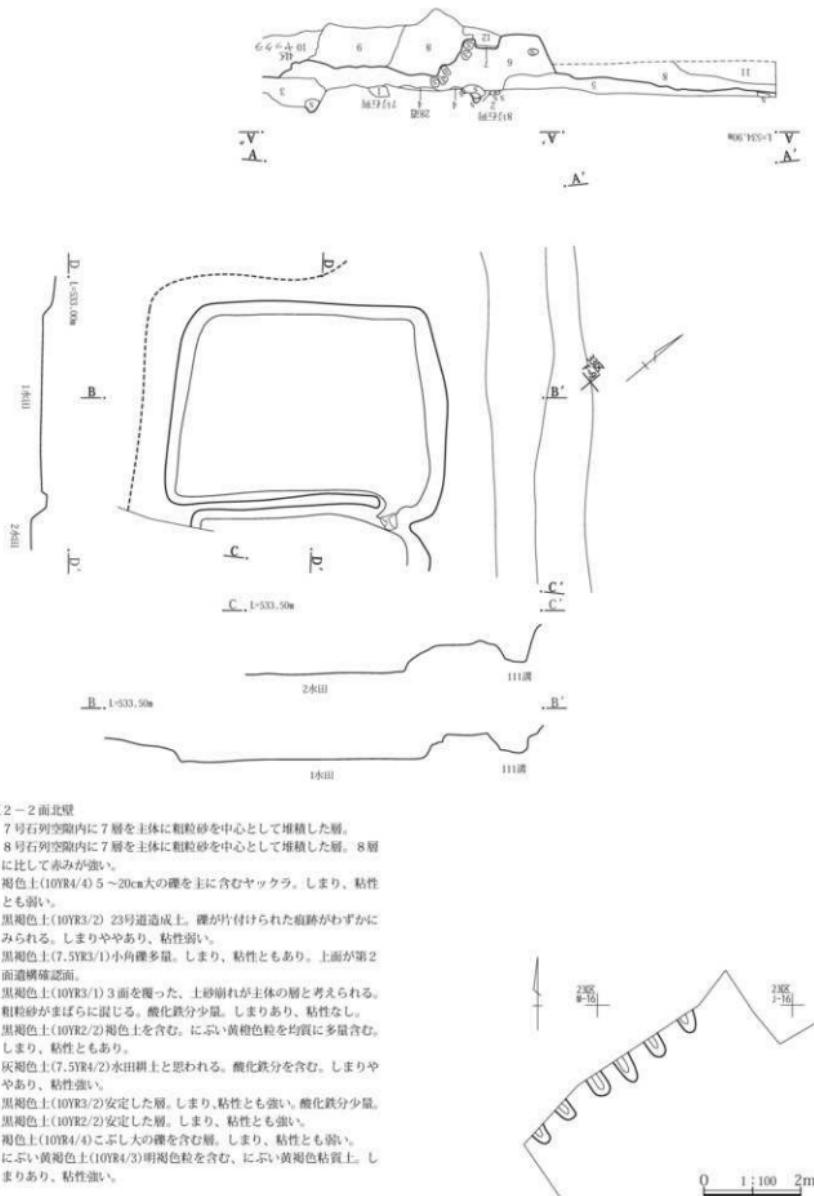
(2) 11-2号水田(第8-31図、PL.87)

位置 33区E～F-6～7グリッド、調査区北部西端に位置する。

形状等 北辺が確認された。



第8-30図 11-2号掘立柱建物



第8-31図 3面水田、畠

規模 $(4.83) \times (1.22) \times 0.43\text{m}$

長軸方向(度) N - 42 - E

遺物 なし。

所見 本遺構の年代は、既報2に準拠し、中近世に比定される。11 - 1号水田より0.2m低い位置に設けられており、同程度の区画をなすと推測されるが、既報2の水田区画との位置関係からは、短軸がやや短くなる可能性も想定される。

(3) 9 - 4号畑(第8 - 31図、PL.88)

位置 23区L～M - 15グリッド、調査区中部西端に位置する。

畝のピッチ 0.76m

畝の走向(度) N - 37 - W

付属施設 なし。

埋没土 磯を含む粗砂利層。

遺物 なし。

所見 2面畑の下位に位置し、102号溝と同時期の遺構と目される。本遺構の年代は、既報2に準拠し、近世に比定される。

4 溝

調査区北部から1条、調査区中部から2条、調査区南部から1条の溝が確認されている。

(1) 102号溝(第8 - 32図、PL.88)

位置 23区J～L - 14～18グリッド、調査区中部西半に位置する。

形状等 二股に分岐した溝が確認された。土砂崩れなどに伴い生じた自然流路と考えられている。

規模 東側 $(16.85) \times 0.73 \sim 3.31\text{m}$ 、深さ $0.09 \sim 0.11\text{m}$ 、底面北端標高530.5m、南端標高530.1m、標高差0.4mを測る。西側 $(12.93) \times 0.62 \sim 3.31\text{m}$ 、深さ $0.04 \sim 0.06\text{m}$ 、底面北端標高530.5m、南端標高530.3m、標高差0.2mを測る。既報分を合わせ、 $(26.73) \times 0.73 \sim 3.31\text{m}$ を測る。

走行方位(度) 東側N - 22 - W、西側N - 4 - E。既報分を合わせ、N - 19 - W、N - 5 - W。

埋没土 磯を含む粗砂利層。

重複 なし。

遺物 なし。

所見 本遺構は既報2の102号溝の南に連なり、一連の遺構であることから、既報2に準拠し、帰属年代は近世に比定される。

(2) 111号溝(第8 - 32図、PL.87)

位置 33区E～F - 8～9グリッド、調査区北部西半に位置する。

形状等 溝断面は逆台形を呈し、水路として整備されたと推測される。また第8 - 30図から、水田以北の地点では、護岸が設けられていた可能性もある。

規模 $(6.81) \times 0.85 \sim 1.39\text{m}$ 、深さ $0.25 \sim 0.40\text{m}$ 。底面北端標高532.85m、南端標高532.44m、標高差0.41mを測る。既報分を合わせ、 $(46.70) \times 0.50 \sim 2.57\text{m}$ を測る。

走行方位(度) N - 52 - W。既報分を合わせ、N - 64 - W。

埋没土 酸化鉄分少量、粗粒砂がまばらに混じる黒褐色土。

重複 なし。

遺物 なし。

所見 本遺構の年代を特定する資料は得られていない。水田への給水を意図し整備された溝と推測される。既報2の111号溝に連なり、一連の遺構であることから、既報2に準拠し、帰属年代は中近世に比定される。

(3) 117号溝(第8 - 32図、PL.88)

位置 14区I - 21～22グリッド、調査区南部北辺に位置する。

形状等 既報2の117号溝の南端が確認された。

規模 $(1.02) \times 0.39 \sim 0.61\text{m}$ 、深さ 0.17m 、端部の標高差不明。既報分を合わせ、 $5.67 \times 0.39 \sim 0.75\text{m}$ を測る。

走行方位(度) N - 33 - W。既報分を合わせ、N - 36 - W。

埋没土 不明。

重複 なし。

遺物 なし。

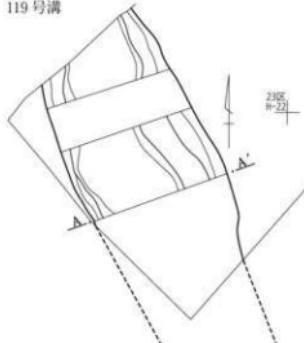
所見 本遺構の年代を特定する資料は得られていない。既報2に散見される帯状の土坑と思われるが、遺構名は從前とした。

(4) 119号溝(第8 - 32図、PL.88)

位置 23区E～J - 13～23グリッド、調査区中部に位置する。

形状等 土砂崩れなどに伴い生じた自然流路と考えられ

119号溝



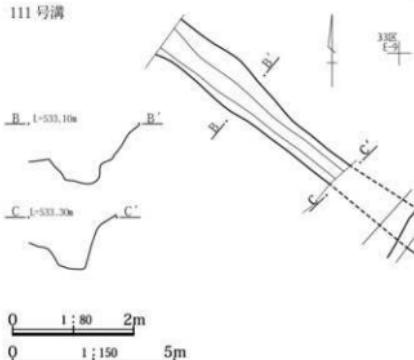
119号溝 A-A'

1 褐灰色土(7.5YR4/3)粗粒～細粒砂土体、酸化鉄分顕著、グライ化した青黒色土層を部分的に含む。しまりややあり、粘性弱い。3面烟サク相当層。上砂崩れに伴う自然流路と思われる。

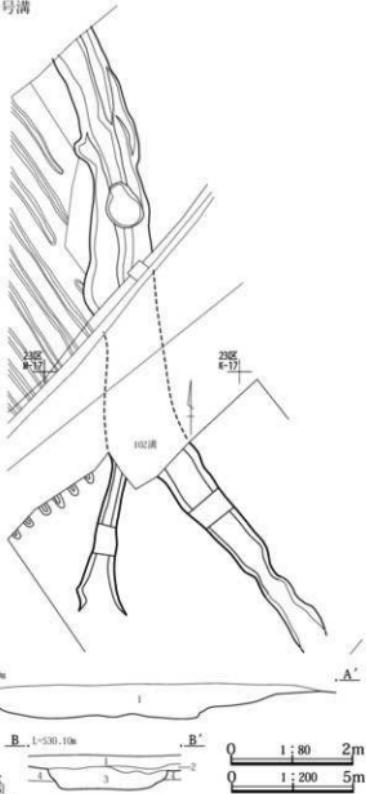
119号溝 B-B'

- 1 褐灰色土(10YR4/1)天明泥流直下の烟耕土上。しまりあり、粘性ややあり。
- 2 黒褐色土(7.5YR3/1)烟耕土。酸化鉄分多量。しまりやや弱く、粘性ややあり。
- 3 褐灰色土(7.5YR4/3)第2層に類似。粗粒砂均質で多量。しまりあり、粘性なし。3面烟サク相当層。
- 4 黑褐色土(10YR3/2)灰白色細粒多量、褐土小塊を含む。しまり、粘性ともあり。

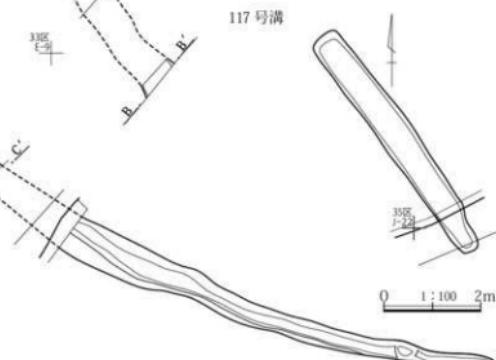
111号溝



102号溝



117号溝



第8-32図 3面溝

ている。

走行方位(度) $(40.78) \times 1.32 \sim 5.99\text{m}$ 、深さ $0.13 \sim 0.62\text{m}$ 。北端標高 590.93m 、南端標高 529.39m 、標高差 61.51m を測る。

規模 N - 31 - W

埋没土 粗粒～細粒砂主体の褐灰色土。3面畳サク相当層。

重複 319P、320Pの下位に位置する。

遺物 なし。

所見 本遺構の年代を特定する資料は得られていないが、埋没土から中世に比定される。南北に離れた2地点からの検出であるが、埋没土を共通することから同時期・同一の遺構とされている。検出されている南端は、分岐した支流の一つと推測される。319P、320Pに先行する。

5 土坑

調査区南部から22基の土坑が検出されている。このうちの1基、308号土坑は1面下位 0.4m 、3面上位 0.3m からの検出であり、2面遺構とすべきではあるが、遺構直上の覆土に関する資料が得られなかつたためここに含めた。

(1) 300号土坑(第8 - 33図、PL.89)

位置 14区L～M - 16グリッド、調査区南部に位置する。

形状等 不整形を呈する。

規模 $1.34 \times 0.72 \times 0.27\text{m}$

主軸方位(度) N - 78 - W

埋没土 黄褐色粒若干含む黒褐色土。

重複 301号土坑

遺物 なし。

所見 本遺構の年代を特定する資料は得られていない。

301号土坑より新しい。

(2) 301号土坑(第8 - 33図、PL.89)

位置 14区L～M - 16グリッド、調査区南部に位置する。

形状等 不整形を呈する。

規模 $1.08 \times (0.84) \times 0.22\text{m}$

主軸方位(度) N - 86 - W

埋没土 色調明るく $3 \sim 10\text{cm}$ 大の角礫を少量含む黒褐色

土。

重複 300号土坑

遺物 なし。

所見 本遺構の年代を特定する資料は得られていない。300号土坑に先行する。

(3) 302号土坑(第8 - 33図、PL.89)

位置 14区L - 20グリッド、調査区南部に位置する。

形状等 側丸方形を呈する。

規模 $1.75 \times 1.57 \times 0.36\text{m}$

主軸方位(度) N - 82 - W

埋没土 黄褐色土ブロックが不均質に混じる黒褐色土。

重複 なし。

遺物 なし。

所見 本遺構の年代を特定する資料は得られていない。

(4) 303号土坑(第8 - 33図、PL.89)

位置 14区K - L - 20グリッド、調査区南部に位置する。

形状等 側丸方形を呈する。

規模 $2.17 \times 1.88 \times 1.20\text{m}$

主軸方位(度) N - 5 - W

埋没土 黄褐色ブロックを少量含む黒褐色土。

重複 なし。

遺物 なし。

所見 本遺構の年代を特定する資料は得られていない。陥穴とされる。

(5) 304号土坑(第8 - 33図、PL.89)

位置 14区J - 21グリッド、調査区南部に位置する。

形状等 側円形を呈する。

規模 $1.20 \times 0.63 \times 0.23\text{m}$

主軸方位(度) N - 65 - E

埋没土 10cm 大の角礫を大量に含む黒褐色土。

重複 なし。

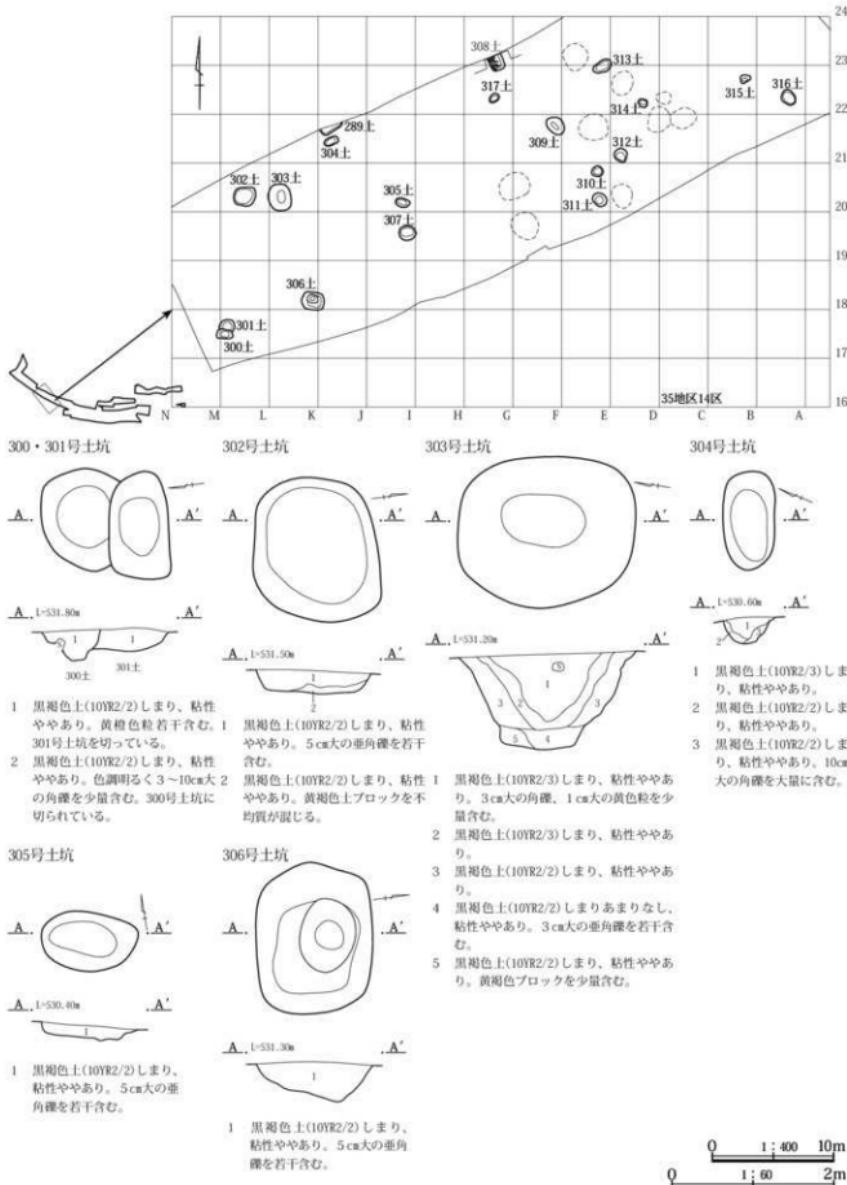
遺物 なし。

所見 本遺構の年代を特定する資料は得られていない。

(6) 305号土坑(第8 - 33図、PL.89)

位置 14区I - 20グリッド、調査区南部に位置する。

形状等 側円形を呈する。



第8-33図 土坑1

規模 $1.17 \times 0.74 \times 0.21\text{m}$

主軸方位(度) N - 74 - W

埋没土 5 cm大の亜角礫を若干含む黒褐色土。

重複 なし。

遺物 なし。

所見 本遺構の年代を特定する資料は得られていない。

(7) 306号土坑(第8 - 33図、PL.89)

位置 14区J～K - 16～17グリッド、調査区南部に位置する。

形状等 隅丸方形を呈する。

規模 $1.87 \times 1.46 \times 0.45\text{m}$

主軸方位(度) N - 82 - W

埋没土 5 cm大の亜角礫を若干含む黒褐色土。

重複 なし。

遺物 なし。

所見 本遺構の年代を特定する資料は得られていない。

(8) 307号土坑(第8 - 34図、PL.89)

位置 14区H～I - 19グリッド、調査区南部に位置する。

形状等 長円形を呈する。

規模 $1.39 \times 1.18 \times 0.26\text{m}$

主軸方位(度) N - 86 - E

埋没土 5 cm大の亜角礫を若干含む黒褐色土。

重複 なし。

遺物 なし。

所見 本遺構の年代を特定する資料は得られていない。

(9) 308号土坑(第8 - 34図、PL.89, 90)

位置 14区G - 22～23グリッド、調査区南部に位置する。

形状等 長方形と思われる。壁際沿いの石組みが二辺に残存していた。

規模 $(0.63) \times 1.32 \times 0.23\text{m}$

主軸方位(度) N - 23 - W

埋没土 鉄分凝集を境に下面は赤みを帯びる黒褐色土。

重複 なし。

遺物 埋葬された人骨に伴う遺物は検出されていない。

所見 本遺構の年代を特定する資料は得られていない。

右半身を下にした北頭位横臥屈葬で埋葬された土坑墓と推測される。

(10) 309号土坑(第8 - 34, 43図、PL.90, 98)

位置 14区E～F - 21グリッド、調査区南部に位置する。

形状等 偏円形を呈する。

規模 $1.67 \times 1.25 \times 0.83\text{m}$

主軸方位(度) N - 48 - W

埋没土 黒褐色土。上層に鉄分凝集がみられる。

重複 なし。

遺物 繩文時代後期掘之内 I 式(26)が出土している。

所見 本遺構の年代は、出土遺物から縩文時代以降に比定される。

(11) 310号土坑(第8 - 34図、PL.90)

位置 14区E - 20グリッド、調査区南部に位置する。

形状等 偏円形を呈する。

規模 $0.96 \times 0.87 \times 0.13\text{m}$

主軸方位(度) N - 84 - E

埋没土 黒褐色土。

重複 なし。

遺物 なし。

所見 本遺構の年代を特定する資料は得られていない。

(12) 311号土坑(第8 - 34図、PL.90)

位置 14区E - 20グリッド、調査区南部に位置する。

形状等 長円形を呈する。

規模 $1.22 \times 1.00 \times 0.53\text{m}$

主軸方位(度) N - 48 - W

埋没土 黄色輕石・黃色粒を均一に含み、5 cm大の角礫を少量含む黒褐色土。

重複 なし。

遺物 なし。

所見 本遺構の年代を特定する資料は得られていない。

(13) 312号土坑(第8 - 34図、PL.90)

位置 14区D - 21グリッド、調査区南部に位置する。

形状等 偏円形を呈する。

規模 $1.17 \times 1.07 \times 0.51\text{m}$

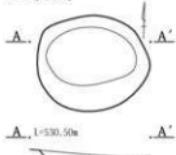
主軸方位(度) N - 20 - W

埋没土 黒褐色土。

重複 なし。

遺物 なし。

307号土坑



1 黒褐色土(10YR2/2)しまり、粘性ややあり。5cm大の亜角礫を若干含む。

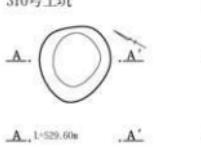
309号土坑



1 黑褐色土(10YR2/3)しまりややあり、粘性あまりなし。鉄分凝集を境に一部暗褐色土を含む。

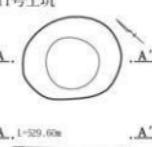
2 黑褐色土(10YR2/2)しまり、粘性ややあり。

310号土坑



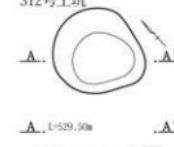
1 黑褐色土(10YR2/2)しまり、粘性ややあり。

311号土坑



1 黑褐色土(10YR2/3)しまりややあり、粘性あまりなし。黄色軽石・黃色粒を均一に含む。5cm大の角礫を少量含む。

312号土坑

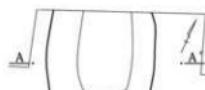
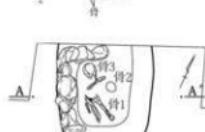


1 黑褐色土(10YR2/2)しまり、粘性ややあり。

308号土坑



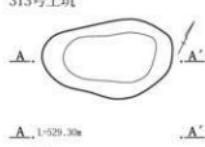
1 黑褐色土(10YR2/2)しまり、粘性ややあり。鉄分凝集を境に下層は赤みを帯びている。



1 黑褐色土(10YR2/2)しまりあまりなし、粘性ややあり。鉄分凝集を境に下層は赤みを帯びている。

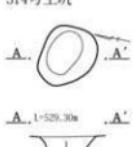
2 黑褐色土(10YR2/3)地山層。しまりあり、粘性ややあり。

313号土坑



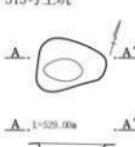
1 黑褐色土(10YR2/2)しまり、粘性ややあり。黄褐色粒若干含む。

314号土坑



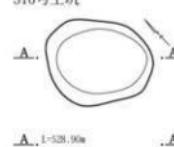
1 黑褐色土(10YR2/2)しまり、粘性ややあり。

315号土坑



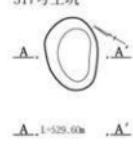
1 黑褐色土(10YR2/2)しまり、粘性ややあり。鉄分凝集を境に一部暗褐色土を含む。

316号土坑

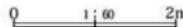


1 黑褐色土(10YR2/2)しまり、粘性ややあり。鉄分凝集を境に一部暗褐色土を含む。

317号土坑



1 黑褐色土(10YR2/2)しまり、粘性ややあり。



第8-34図 土坑2

所見 本遺構の年代を特定する資料は得られていない。

(14) 313号土坑(第8-34図、PL.91)

位置 14区E-22~23グリッド、調査区南部に位置する。

形状等 偏円形を呈する。

規模 $1.61 \times 0.97 \times 0.19\text{m}$

主軸方位(度) N-63-E

埋没土 黄褐色土若干含む黒褐色土。

重複 なし。

遺物 なし。

所見 本遺構の年代を特定する資料は得られていない。

(15) 314号土坑(第8-34図、PL.91)

位置 14区D-22グリッド、調査区南部に位置する。

形状等 不整形を呈する。

規模 $0.80 \times 0.66 \times 0.24\text{m}$

主軸方位(度) N-47-W

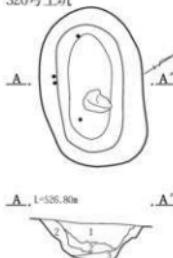
埋没土 黒褐色土。

重複 なし。

遺物 なし。

所見 本遺構の年代を特定する資料は得られていない。

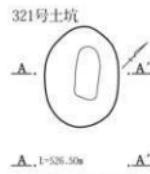
320号土坑



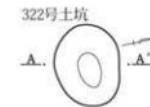
1 暗緑灰色土(10GY3/1)しまりなく、粘性あり。砂質のある粗粒土ブロック含む。

2 オリーブ黒色土(10G3/1)しまりなく、粘性あり。地山黄褐色土ブロック僅かに含む。
2' 2層に比して、黄褐色土ブロックさらに少ない。

3 オリーブ黒色土(10GY2/2)しまりなく、粘性あり。黄褐色軽石粒(1~2cm大)を僅かに含む。



1 暗緑灰色土(10GY3/1)しまりあり、粘性強い。



1 暗青灰色土(10BG3/1)しまりあり、粘性弱い。明青灰色土を大量に含む。

(16) 315号土坑(第8-34図、PL.91)

位置 14区B-22グリッド、調査区南部に位置する。

形状等 圓丸三角形を呈する。

規模 $0.84 \times 0.65 \times 0.29\text{m}$

主軸方位(度) N-80-E

埋没土 鉄分凝集を境に一部暗褐色土を含む黒褐色土。

重複 なし。

遺物 なし。

所見 本遺構の年代を特定する資料は得られていない。

(17) 316号土坑(第8-34図、PL.91)

位置 14区A-22グリッド、調査区南部に位置する。

形状等 偏円形を呈する。

規模 $1.28 \times 1.07 \times 0.20\text{m}$

主軸方位(度) N-53-W

埋没土 鉄分凝集を境に一部暗褐色土を含む黒褐色土。

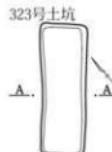
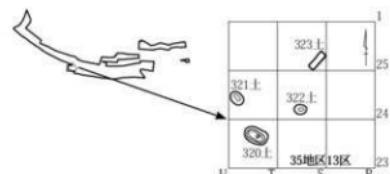
重複 なし。

遺物 なし。

所見 本遺構の年代を特定する資料は得られていない。

(18) 317号土坑(第8-34図、PL.91)

位置 14区G-22グリッド、調査区南部に位置する。



1 黄褐色土(10YR4/1)しまりあり、黄色粒を少量含む。黄褐色土ブロックをまばらに含む。

2 暗褐色土(10GY3/3)しまり、粘性弱い。

0 1:400 10m
0 1:60 2m

第8-35図 土坑3

形状等 偏円形を呈する。

規模 $0.90 \times 0.62 \times 0.21\text{m}$

主軸方位(度) N - 50 - E

埋没土 黒褐色土。

重複 なし。

遺物 なし。

所見 本遺構の年代を特定する資料は得られていない。

(19) 320号土坑(第8 - 35図、PL.91)

位置 13区T - 23~24グリッド、調査区南部に位置する。

形状等 長円形を呈する。

規模 $1.96 \times 1.27 \times 0.49\text{m}$

主軸方位(度) N - 61 - W

埋没土 黄褐色輕石粒(1~2cm大)を僅かに含むオリーク黒色土。

重複 なし。

遺物 図化には至らなかったが、土師器(4点36g)、繩文時代後期前葉の土器(1点39g)が出土している。

所見 本遺構の年代は、出土遺物から古代に比定され、陥穴とされる。

(20) 321号土坑(第8 - 35図、PL.92)

位置 13区T - 24グリッド、調査区南部に位置する。

形状等 長円形を呈する。

規模 $1.24 \times 0.91 \times 0.34\text{m}$

主軸方位(度) N - 39 - W

埋没土 暗緑灰色土。

重複 なし。

遺物 なし。

所見 本遺構の年代を特定する資料は得られていない。

(21) 322号土坑(第8 - 35図、PL.92)

位置 13区S - 24グリッド、調査区南部に位置する。

形状等 偏円形を呈する。

規模 $1.01 \times 0.80 \times 0.41\text{m}$

主軸方位(度) N - 86 - W

埋没土 明青灰色粒を大量に含む暗青灰色土。

重複 なし。

遺物 なし。

所見 本遺構の年代を特定する資料は得られていない。

(22) 323号土坑(第8 - 35図、PL.92)

位置 13区S - 25グリッド、調査区南部に位置する。

形状等 長方形を呈する。

規模 $1.63 \times 0.60 \times 0.33\text{m}$

主軸方位(度) N - 42 - E

埋没土 暗褐色土。上層は黄色粒と黄褐色土ブロックを含む。

重複 なし。

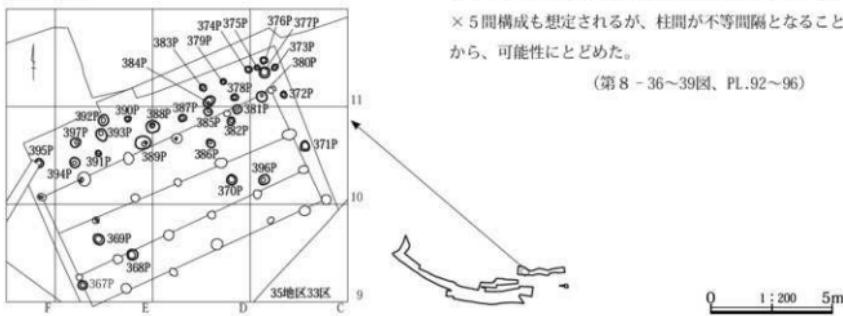
遺物 なし。

所見 本遺構の年代を特定する資料は得られていない。陥穴とされる。

6 ピット

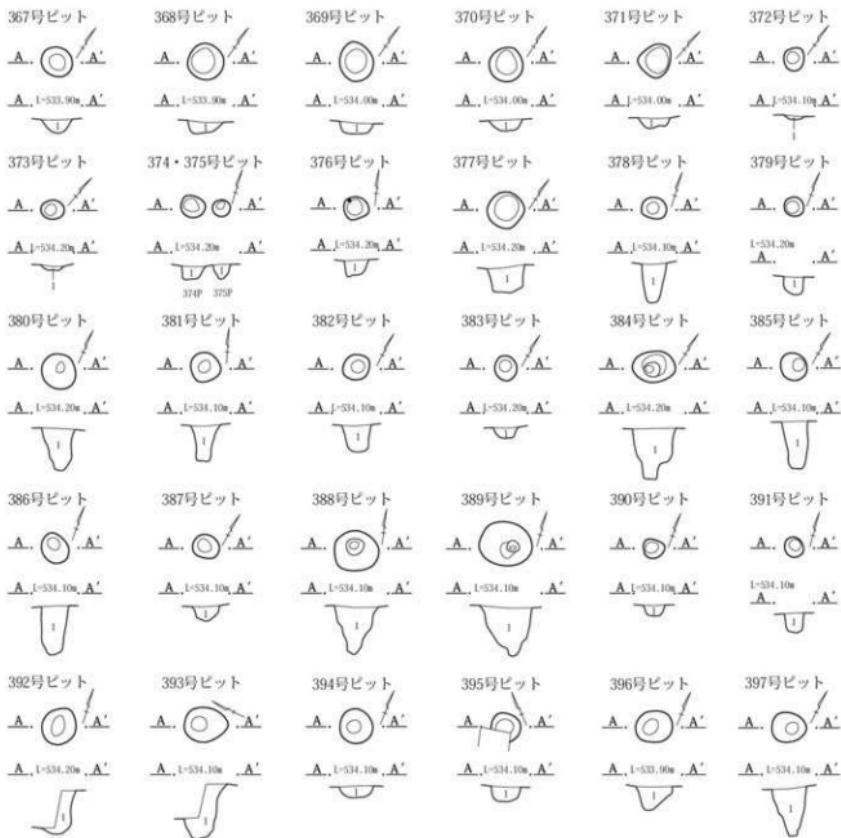
調査区北部から31基、調査区中部から32基、調査区南部から10基のピットが検出された。調査区北部のピットは11-2号掘立柱建物北側に密であり、3間×5間とした11-2号掘立柱建物の北辺にも拡張部を持たせた4間×5間構成も想定されるが、柱間が不等間隔となることから、可能性にとどめた。

(第8 - 36~39図、PL.92~96)



第8-36図 ピット1

第3節 検出された遺構と遺物



367～369, 374～380, 383～385, 388, 390, 394, 395号ピット

1 暗灰色土(10YR4/1)しまりなく、粘性ややあり。色調やや暗く、地山黄褐色土をブロック状に含む場合あり。砂質味あり。僅かに炭化粒含む。

370, 382, 389号ピット

1 暗灰色土(10YR5/1)しまりなく、粘性ややあり。

371, 386号ピット

1 暗灰色土(10YR5/1)しまり、粘性ややあり。諸多な小礫を含み、鉄分凝集を形成したブロック含む。

372号ピット

1 明黄褐色土(10YR6/6)砂質味強く均質。

373, 387, 391～393, 397号ピット

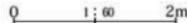
1 暗灰色土(10YR4/1)しまりなく、粘性ややあり。色調やや暗く、地山黄褐色土をブロック状に含む場合あり。

381号ピット

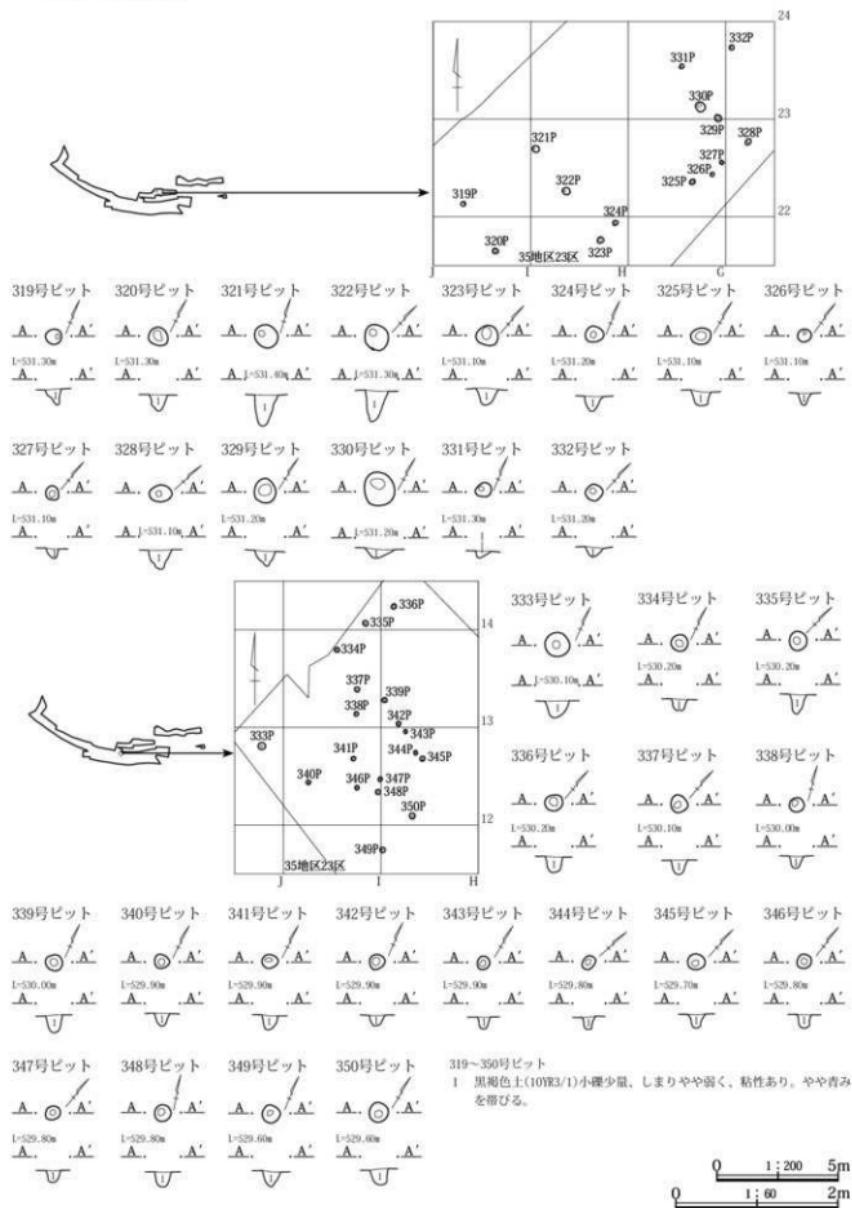
1 暗灰色土(10YR4/1)しまりなく、粘性ややあり。色調やや暗く、地山黄褐色土をブロック状に含む場合あり。炭化粒を多く含み、一部焼土ブロック?を若干含む。

396号ピット

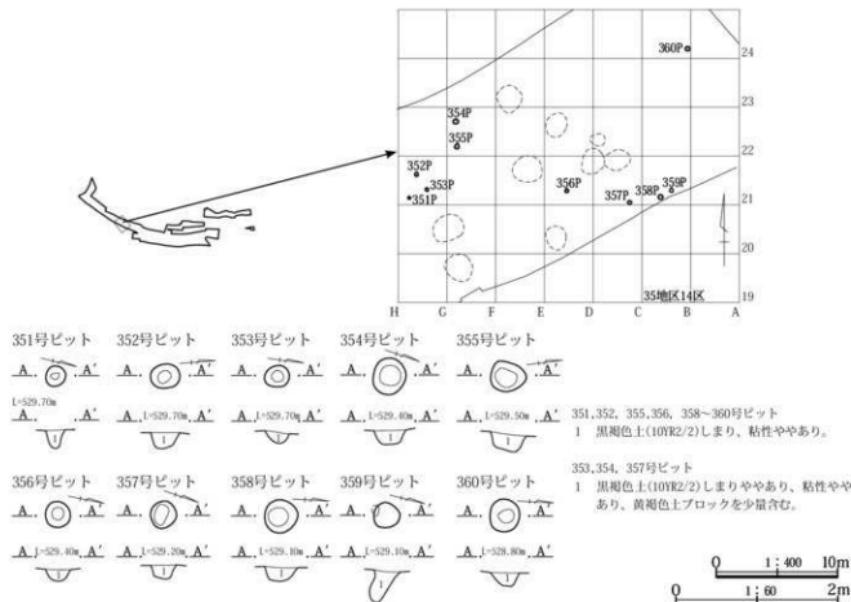
1 暗灰色土(10YR5/1)しまりなく、粘性ややあり。黄褐色土、炭化物を含み、不均質。



第8-37図 ピット2



第8-38図 ピット3



第8-39図 ピット4

第8-4表 ピット計測表

遺構名	出土位置	平面形状	規模			主軸方位 (度)	備考
			長(m)	短(m)	深(m)		
319号ピット	23IK-12グリッド	長円形	0.20	0.18	0.21	N-32-E	
320号ピット	23IK-21グリッド	長円形	0.25	0.23	0.21	N-67-W	
321号ピット	23IK-22グリッド	長円形	0.31	0.26	0.39	N-60-W	
322号ピット	23IK-22グリッド	長円形	0.32	0.28	0.38	N-44-W	
323号ピット	23IK-21グリッド	長円形	0.28	0.26	0.20	N-47-E	
324号ピット	23IK-21グリッド	長円形	0.22	0.19	0.20	N-47-E	
325号ピット	23IK-22グリッド	長円形	0.26	0.23	0.19	N-45-E	
326号ピット	23IK-22グリッド	長円形	0.17	0.16	0.16	N-20-E	
327号ピット	23IK-22グリッド	長円形	0.28	0.15	0.13	N-44-W	
328号ピット	23IK-22グリッド	長円形	0.28	0.21	0.22	N-42-E	
329号ピット	23IK-23グリッド	長円形	0.29	0.26	0.17	N-34-W	
330号ピット	23IK-23グリッド	長円形	0.42	0.38	0.17	N-36-W	
331号ピット	23IK-23グリッド	長円形	0.20	0.17	0.09	N-40-E	
332号ピット	23IK-23グリッド	長円形	0.20	0.17	0.14	N-5-W	
333号ピット	23IK-12グリッド	円形	0.30	0.30	0.21	N-0	
334号ピット	23IK-12グリッド	円形	0.20	0.20	0.14	N-0	
335号ピット	23IK-14グリッド	長円形	0.24	0.22	0.21	N-42-W	
336号ピット	23IK-14グリッド	長円形	0.24	0.19	0.19	N-36-E	
337号ピット	23IK-12グリッド	長円形	0.22	0.19	0.19	N-56-W	
338号ピット	23IK-12グリッド	円形	0.18	0.18	0.16	N-0	
339号ピット	23IK-13グリッド	長円形	0.20	0.18	0.25	N-42-W	
340号ピット	23IK-12グリッド	長円形	0.18	0.16	0.16	N-74-E	
341号ピット	23IK-12グリッド	長円形	0.18	0.16	0.18	N-48-E	
342号ピット	23IK-13グリッド	長円形	0.20	0.18	0.17	N-4-W	
343号ピット	23IK-12グリッド	長円形	0.17	0.16	0.16	N-15-W	
344号ピット	23IK-12グリッド	長円形	0.18	0.15	0.18	N-16-W	
345号ピット	23IK-12グリッド	長円形	0.20	0.18	0.19	N-44-E	
346号ピット	23IK-12グリッド	円形	0.18	0.18	0.18	N-0	
347号ピット	23IK-12グリッド	長円形	0.19	0.17	0.18	N-31-E	

ピット計測表

遺構名	出土位置	平面形状	規模			主軸方位 (度)	備考
			長(m)	短(m)	深(m)		
348号ピット	Z3K-1-12グリッド	円形	0.21	0.21	0.19	N-0	
349号ピット	Z3K-11グリッド	円形	0.22	0.22	0.19	N-0	
350号ピット	Z3K-12グリッド	円形	0.25	0.25	0.20	N-0	
351号ピット	14K-6-21グリッド	長円形	0.26	0.24	0.22	N-60-#	
352号ピット	14K-6-21グリッド	長円形	0.35	0.30	0.20	N-3-#	
353号ピット	14K-6-21グリッド	長円形	0.31	0.27	0.15	N-25-#	
354号ピット	14K-6-22グリッド	長円形	0.45	0.40	0.18	N-85-E	
355号ピット	14K-6-22グリッド	長円形	0.24	0.36	0.24	N-15-E	
356号ピット	14K-6-21グリッド	円形	0.31	0.31	0.15	N-0	
357号ピット	14K-6-21グリッド	長円形	0.35	0.32	0.17	N-72-#	
358号ピット	14K-6-20グリッド	長円形	0.40	0.38	0.17	N-45-E	
359号ピット	14K-6-21グリッド	長円形	0.30	0.29	0.40	N-28-#	
360号ピット	14K-6-24グリッド	長円形	0.40	0.37	0.16	N-75-#	
367号ピット	33K-6-9グリッド	長円形	0.39	0.35	0.19	N-73-#	
368号ピット	33K-6-9グリッド	円形	0.44	0.44	0.16	N-0	
369号ピット	33K-6-9グリッド	長円形	0.49	0.42	0.16	N-54-#	
370号ピット	33K-6-10グリッド	円形	0.42	0.42	0.16	N-0	
371号ピット	33K-6-10グリッド	長円形	0.42	0.38	0.12	N-5-#	
372号ピット	33K-6-11グリッド	長円形	0.28	0.25	0.05	N-37-#	
373号ピット	33K-6-11グリッド	長円形	0.28	0.24	0.07	N-44-E	
374号ピット	33K-6-11グリッド	長円形	0.30	0.30	0.16	N-59-E	
375号ピット	33K-6-11グリッド	円形	0.21	0.21	0.18	N-0	
376号ピット	33K-6-11グリッド	長円形	0.32	0.30	0.22	N-21-E	近世陶器植鉢片出土
377号ピット	33K-6-11グリッド	長円形	0.44	0.40	0.36	N-3-#	
378号ピット	33K-6-11グリッド	長円形	0.30	0.26	0.49	N-75-E	
379号ピット	33K-6-11グリッド	円形	0.23	0.23	0.25	N-0	
380号ピット	33K-6-11グリッド	円形	0.43	0.43	0.53	N-0	
381号ピット	33K-6-10グリッド	長円形	0.36	0.34	0.48	N-33E	
382号ピット	33K-6-10グリッド	長円形	0.34	0.30	0.35	N-22-E	
383号ピット	33K-6-11グリッド	長円形	0.38	0.28	0.16	N-36-#	
384号ピット	33K-6-11グリッド	長円形	0.43	0.38	0.61	N-53-E	
385号ピット	33K-6-10グリッド	長円形	0.34	0.32	0.59	N-52-#	
386号ピット	33K-6-10グリッド	長円形	0.40	0.32	0.60	N-51-#	
387号ピット	33K-6-10グリッド	長円形	0.35	0.30	0.21	N-85-E	
388号ピット	33K-6-10グリッド	長円形	0.55	0.50	0.60	N-80-E	
389号ピット	33K-6-10グリッド	長円形	0.64	0.59	0.64	N-82-E	
390号ピット	33K-6-10グリッド	長円形	0.25	0.23	0.14	N-69-E	
391号ピット	33K-6-10グリッド	長円形	0.26	0.22	0.24	N-47-#	
392号ピット	33K-6-10グリッド	長円形	0.47	0.42	0.57	N-14KE	
393号ピット	33K-6-10グリッド	長円形	0.54	0.44	0.69	N-27-#	
394号ピット	33K-6-10グリッド	長円形	0.42	0.38	0.14	N-38-#	
395号ピット	33K-6-10グリッド	長円形	0.36	(0.32)	0.20	N-40-#	
396号ピット	33K-6-10グリッド	長円形	0.46	0.39	0.32	N-49-E	
397号ピット	33K-6-10グリッド	長円形	0.43	0.36	0.61	N-64-E	

第5項 出土遺物

1面から検出された遺物の多くは調査区北部の4号屋敷から出土した資料である。中でも鉄製品が豊富に残されており、鉄鍋類の出土が多いが、ヤカンの蓋とみられる銅製品や茶釜、工具状の鉄製品なども出土している。また日常の生活用品としては煙管のほか、柄鏡も検出されている。なお金属製品の残り具合に比べ、陶器や磁器などの検出が少ないように感じられる。

確認された遺構面が狭いこともあり、2面からの検出された遺物はいたって少ない。図化に至らなかった土師器や灰釉陶器、中世在地系土器、近世国産施釉陶器など数点づつの出土である。

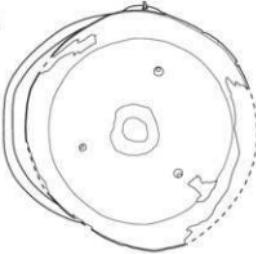
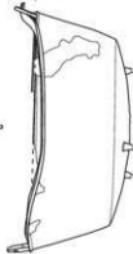
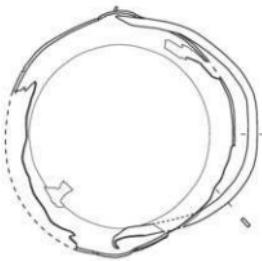
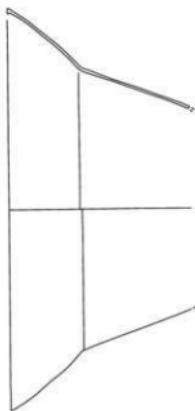
2面同様に、確認された遺構面が少ないとおり、3面から検出された遺物はさらに少ない。繩文土器4点、中世在地系土器1点、近世国産施釉陶器8点を数えるのみである。

(第8-40~43図、PL.97, 98)

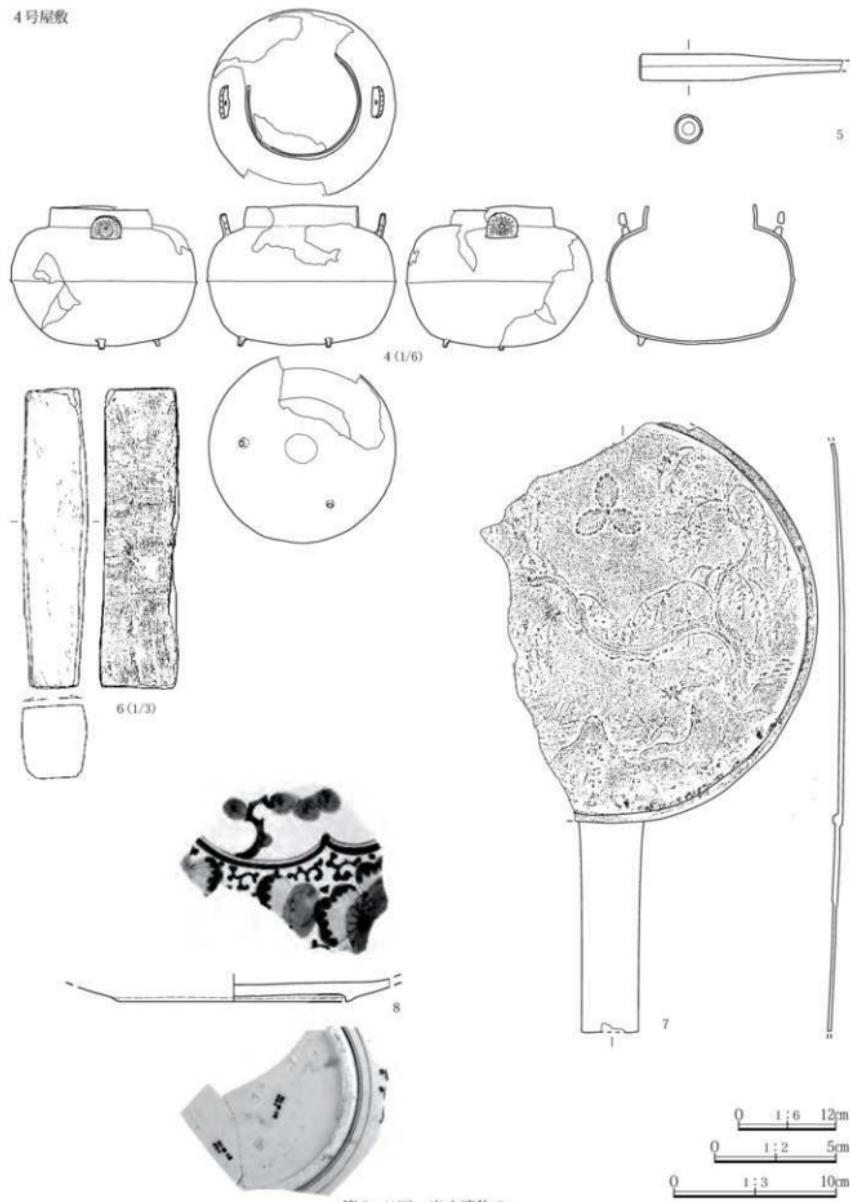
第8-40図 出土遺物1

4号房敷

3
0 1:8 20cm



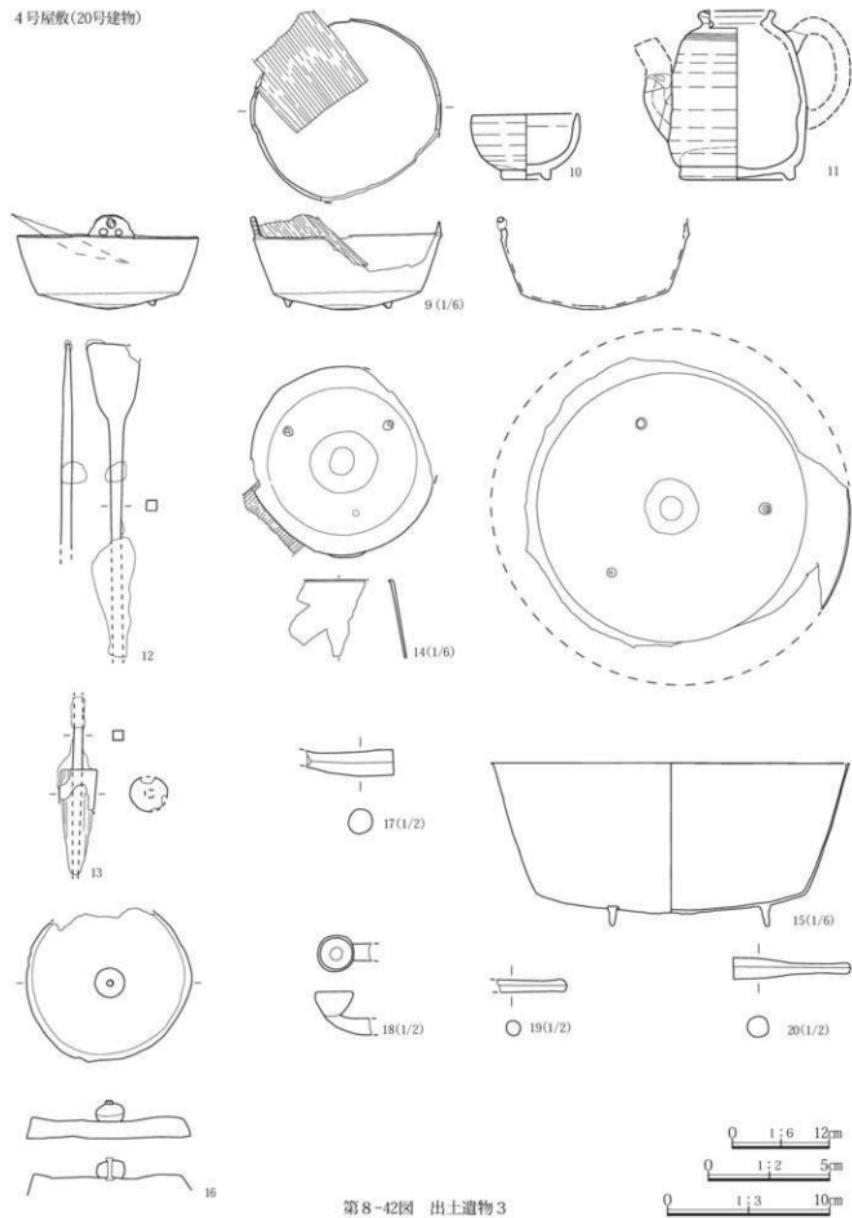
4号屋敷



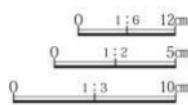
第8-41図 出土遺物2

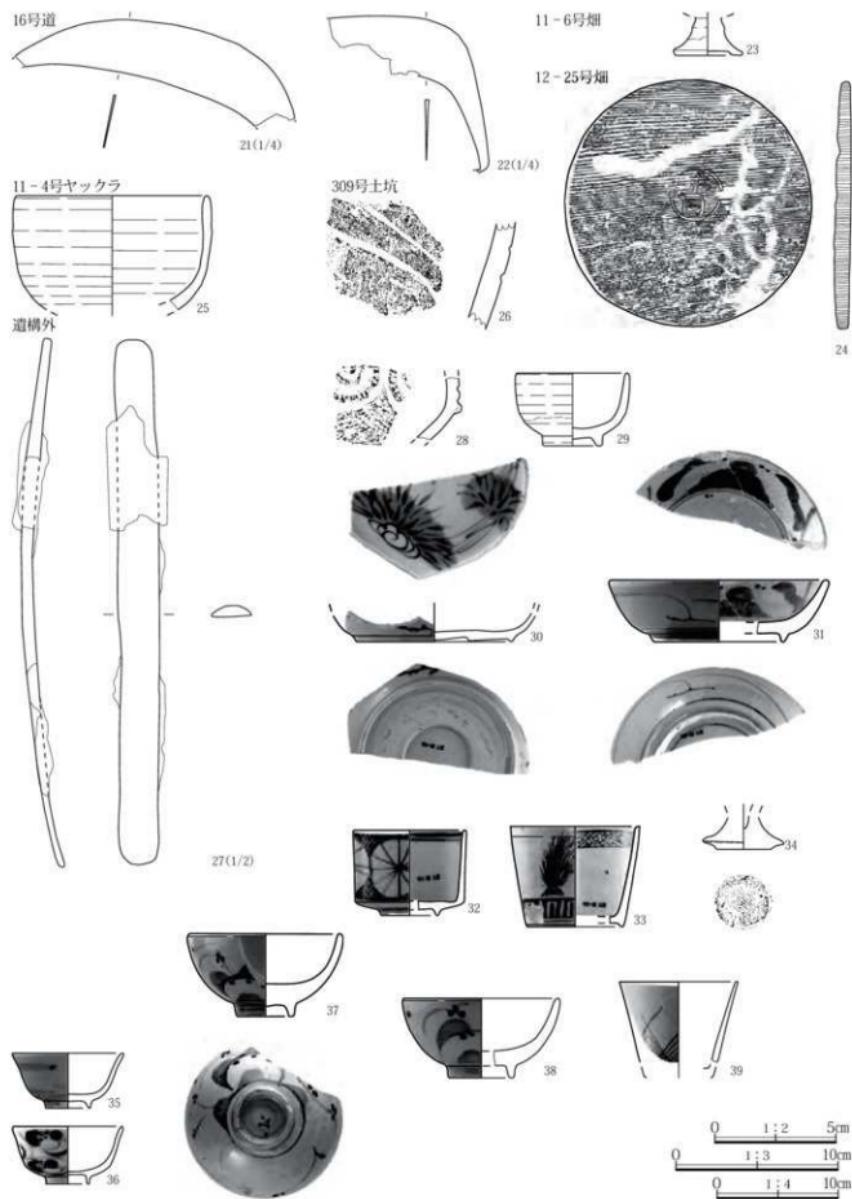
第3節 検出された遺構と遺物

4号層敷(20号建物)



第8-42図 出土遺物3





第8-43図 出土遺物4

第8-5表 遺物観察表

種類 PL No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値		胎土・焼成・色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第8-40回 PL.97	1	鉄製品 鉄鏡	4号屋敷16号石組 泥流内 2/3	径 底 (56.2) (44.0)	高 重 (13.7) 2760.1		底部から体部の一部が残存する。足が見られないことから大型の鍋になるか。	
第8-40回 PL.97	2	鉄製品 鉄鏡	4号屋敷16号石組 泥流内 2/3	径 底 40.4 30.5	高 重 19.4 3815.4		吊り手が残存している。吊り手にねじは見られない。底部に煤が付着している。	
第8-40回 PL.97	3	鉄製品 鉄鏡	4号屋敷 泥流内 1/3	径 底 (66.0) —	高 重 30.0 2933.1		大型でかまどに掛ける鍋。口縁まで15cmほどの高さで大きく口が開く。	
第8-40回 PL.97	4	鉄製品 茶釜	4号屋敷 泥流内 2/3	径 底 14.5 18.0	高 重 17.3 2030.8		耳が菊を模したような形状をしている。耳の穴はつけとなっている。	
第8-41回 PL.97	5	銅製品 煙管(吸口)	4号屋敷 ほぼ完形	長 径 8.4 1.1	重 — 13.8		口付がやや欠けた。羅字が内部に残存するが、土砂が詰まる。つなぎ目はやや不明瞭。	
第8-41回 PL.97	6	砥石	4号屋敷 泥流内 完形	長 幅 18.3 4.0	厚 重 4.8 616.0//	変質ディサイト	平断面とも長方形。若干縦灰色を帯びる石材。幅狭の面を主に使用面としている。右側面が幅広であるが、成形の際の腰状痕が明瞭に残り、あまり使用されていない。中央部がやや欠けた。	
第8-41回 PL.97	7	鉄製品 柄鏡	4号屋敷 泥流内 2/3	長 幅 (24.9) (13.8)	厚 重 2.5 179.0		三つ折の紋に柳の図案。藤原の跡が見られる。	
第8-41回 PL.97	8	肥前磁器 染付皿	4号屋敷 高台部	口 底 (14.1)	器高 —	夾雜物なし//灰白	体部外側に唐草文。体部下位に團扇、高台邊に二重團扇。高台内に幼少のハリ支え痕。内面は花と草花、松唐を描く。	18世紀前半 7寸皿か
第8-42回 PL.97	9	鉄製品 鉄鏡	4号屋敷20号建物 2/3	径 底 23.3 18.0	高 重 11.5 2943.3		やや小ぶりの鏡。口縁がある目立たない形状をしている。内部に板が残存するが、鏡とは関係はないと思われる。	
第8-42回 PL.97	10	瀬戸・美濃陶器 小碗	4号屋敷20号建物 2号土壇 ほぼ完形	口 底 6.5 2.9	器高 — 4.0	夾雜物微量//灰白	内面から体部外側下位まで灰釉、買入が入る。体部外側下位から高台は無釉。口縁端部が数か所欠損。	18世紀
第8-42回 PL.97	11	瀬戸・美濃陶器 水注	4号屋敷20号建物 把手と注ぎ口の先端が欠損	口 底 (4.1) 7.1	器高 — 10.4	夾雜物微量//灰白	口縁端部は把手をなし外側に開いて立ち上がる。体部上位に螺旋状捺印がある。取っ手と注ぎ口は取り付け、外側面に褐色鉢輪。体部下位から高台は無釉。高台は削り出されている。	18世紀
第8-42回 PL.97	12	鉄製品 不明	4号屋敷20号建物 3号圓わら裏 2/3	長 幅 (19.0) (3.5)	厚 重 0.6 79.0		持ち手があり、逆台形の先端がつぶ。逆台形の大きさは長辺(3.5)cm、短辺(2.0)cm、高さ5.1cmとなる。	
第8-42回 PL.97	13	鉄製品 キリか	4号屋敷20号建物 泥流内 一部	長 幅 (10.3) 2.0	厚 重 2.3 21.7		木質が残存する棒状の金属製品。金属性の断面は四角形。	
第8-42回 PL.97	14	鉄製品 鋼(破片)	4号屋敷20号建物 1号カマド 一部	長 幅 (9.4) (7.3)	厚 重 0.4 64.7		口縁部が残る崩の破片。	
第8-42回 PL.97	15	鉄製品 鉄鏡	4号屋敷20号建物 1/3	径 底 (44.2) 33.2	高 重 20.0 3942.7		底部に煤が残存している。口縁が一部のみ残存する。	
第8-42回 PL.97	16	銅製品 蓋	4号屋敷20号建物 泥流内 ほぼ完形	径 高 10.0 23.0	厚 重 0.1 41.9		やかんの蓋の可能性がある。つまみの径は1.6cm。	
第8-42回 PL.97	17	銅製品 煙管(吸口)	4号屋敷20号建物 泥流内 2/3	長 径 (3.6) 1.0	重 — 3.5		小口からやや瘤くなり、欠けている。口付けまで残存していないため瓶首の可能性も残る。	
第8-42回 PL.97	18	銅製品 煙管(雁首)	4号屋敷20号建物 泥流内 2/3	長 径 (2.4) 1.9	高 重 (1.8) 3.2		火皿から瓶部が一部残存する。つなぎ目は不明瞭だが、側面にあるか。	
第8-42回 PL.97	19	銅製品 煙管(吸口)	4号屋敷20号建物 泥流内 1/2	長 径 (3.0) 0.6	重 — 1.5		口付から太さが変わらずに途中まで残存。つなぎ目はやや不明瞭。	
第8-42回 PL.97	20	銅製品 煙管(吸口)	4号屋敷20号建物 泥流内 完形	長 径 4.8 0.9	重 — 4.1		つなぎ目が明瞭。吸口内に小石や砂が入り込む。表面は劣化し荒れています。	
第8-43回 PL.98	21	鉄製品 鍔	16号道 1/3	長 幅 (25.0) 4.7	厚 重 0.2 15.3		残存部はほとんど無いが、跡の残りの状態から形状が想定できる。刃が非常に薄い。	
第8-43回 PL.98	22	鉄製品 鍔	16号道 1/2	長 幅 (17.6) 4.7	厚 重 0.3 46.8		刃の一部が欠損する。柄部分はほぼ残存していると思われる。	
第8-43回 PL.98	23	肥前磁器 白磁仏壇	11-6号烟 脚台部	口 底 4.1	器高 —	夾雜物微量//灰白	脚部に透明釉。台部から高台部は無釉。高台は浅く削り出している。	江戸時代
第8-43回 PL.98	24	木製品 底板	11-25号烟 1/3	径 底 15.3	厚 重 1.0 173.1		円形の板で、柄杓などの底板になるか。底面に「丸に青」と見られる文字の焼き印が押されている。	
第8-43回 PL.98	25	瀬戸・美濃陶器 碗	11-4号ヤッカラ 口縁部から体部破 片	口 底 (11.8)	器高 —	夾雜物微量//灰白	外側面に灰釉。	江戸時代

遺物觀察表

番号 PL-No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値		胎土 / 焼成 / 色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第8-43図 PL.98	26	埴土文器 深鉢	309号土坑 埋設上 胸部破片			粗砂、細織 / 明赤 褐 / 良好	2条沈線を斜位に施す。	脛之内口式
第8-43図 PL.98	27	鉄製品 不明	11区泥漬内 一部	長 幅 (21.5) 2.0	厚 重 0.6 67.2		両端が欠損しており、断面は半円形。鍛造 特有の劣化が見られる。	
第8-43図 PL.98	28	埴土文器 深鉢	3面一橋 胸部破片			粗砂、白色粉 / に ぶい植 / ふつう	軽く内屈する。屈曲部上位に側みを付した 縫隙を円弧状に左右2箇配し、内部に沈線を同 心円状で施す。屈曲部下にはR.Lを施す。	勝坂式
第8-43図 PL.98	29	瀬戸・美濃陶器 小碗	11区泥漬内 3/5	口 底 (6.8) 3.5	器高 1	4.5 灰白	内部から体部外側下位に灰釉、貫入がある。 体部外側下位から高台は無釉。	18世紀
第8-43図 PL.98	30	肥前磁器 染付皿	11区泥漬内 体部から高台部 底	口 底 (13.3) 9.6	器高 1	夾雜物なし // 白	体部外側に唐草文か、底部は蛇の目高台。 底部内面に唐木竹を描く。	18世紀後半
第8-43図 PL.98	31	肥前磁器 染付皿	11区泥漬内 1/5	口 底 (8.0)	器高 1	3.8 夾雜物なし // 白	体部外側にかなり刷られた唐草文、体部下位 と高台段、高台に圓線。高台内に圓線。体 部内面に半毛を描き、見込みに二重圓線。	18世紀後半
第8-43図 PL.98	32	肥前磁器 染付筒碗	11区泥漬内 1/4	口 底 (7.0) (3.6)	器高 1	5.2 夾雜物なし // 白	体部外側に菊花に似た丸文を描き、隙間を 斜線交叉文が埋める。体部外側下位と高台 に圓線。口縁端部内面直下に二重圓線、見 込みに圓線。	18世紀後半
第8-43図 PL.98	33	肥前磁器 染付猪口	11区泥漬内 口縁部から体部破 片	口 底 (8.0) (5.9)	器高 1	6.2 夾雜物なし // 白	体部外側に稻毛を描く、下位に通弁と二重 圓線。口縁部直下内面は四方擗文、見込みに 圓線。	18世紀後半
第8-43図 PL.98	34	瀬戸・美濃陶器 仏花瓶	11区泥漬内 台部	口 底 (3.3)	器高 1	夾雜物微量 // 灰 白	台部外側は灰釉、貫入がある。底部は無釉 で回転糸切側に無調整。	江戸時代
第8-43図 PL.98	35	肥前磁器 染付小杯	11区泥漬内 1/2	口 底 (6.0) 2.8	器高 1	3.4 夾雜物なし // 白	口縁端部は端反る。体部外側に山水文か。 19世紀前半	
第8-43図 PL.98	36	瀬戸・美濃磁器 染付小杯	11区泥漬内 1/2	口 底 (6.7) 2.6	器高 1	3.5 夾雜物なし // 白	体部内外面に渦巻きの様な不明文様を描く。 19世紀	
第8-43図 PL.98	37	肥前磁器 染付碗	11区泥漬内 4/5	口 底 (9.3) 3.5	器高 1	5.1 夾雜物なし // 灰 白	体部外側に雪輪梅樹文。体部外側下位と高 台段、高台内に不明文。	19世紀前半
第8-43図 PL.98	38	肥前磁器 染付碗	11区泥漬内 1/5	口 底 (9.6) (3.9)	器高 1	4.9 夾雜物なし // 灰 白	体部外側に雪輪梅樹文。体部外側下位に圓 線。高台に二重圓線。内面は無文か。 19世紀前半	
第8-43図 PL.98	39	肥前磁器 染付猪口	11区泥漬内 口縁部から体部破 片	口 (7.3)	器高 1	夾雜物なし // 灰 白	体部外側下半に交叉草文。内面は無文か。 19世紀前半	

第9章 西久保IV遺跡(2)

第1節 調査に至る経緯と経過

第1項 調査に至る経緯

西久保IV遺跡は群馬県吾妻郡長野原町大字横壁字西久保に所在する。平成21年11月27日文化財保護課の試掘調査により、天明泥流下における烟跡や道路跡が確認された。同年12月3日国土交通省と県文化財保護課との調整により、12月上旬から遺跡地内の東側にかかるJR本線部分と橋脚部分を発掘調査することが決まり、12月に発掘調査を実施した。遺跡西側に予定されていたJR本線部分及び変電所部分を対象とする試掘調査が、平成22年9月17日に県文化財保護課により実施され、天明泥流下における烟跡や道路跡が確認された。平成23年4月1日に国土交通省関東地方整備局と発掘調査受委託契約を締結、平成23年5～6月に発掘調査が実施された。これらの発掘調査の成果は『榆木I遺跡・上原IV遺跡(2)・西久保IV遺跡』(公益財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団、2012)として刊行されている。

平成26年12月には、工事用仮設建物建設予定地を対象

に、長野原町教育委員会による試掘調査が行われ、現地表下0.85～1.10mに天明遺構面が残存することが確認されている。仮設建物建設のための造成という事から、遺構面までの深さを提示し、遺構面を傷つけずに工事を進めることで、本調査は不要と判断された。

遺跡西北部での長野原町による試掘調査の結果、天明遺構面が確認されたことを受け、令和元年7月5日に行われた国土交通省との調整により、令和元年7月16日～9月30日にかけて、遺跡西北部での発掘調査が行われた。本章はこの調査成果について記載する。

第2項 調査の経過

調査区周辺環境整備を含め、令和元年7月16日より調査区東部の発掘調査に着手し、7月19日には調査区西部の表土掘削を開始した。天明泥流下から浅間A軽石が検出されるが、天明泥流により押し流された礫によってつけられたと思われる攻撃痕が一面に残されていた。

8月に入り調査区北部の調査を進め、東から西へ緩斜面が広がっており、一部テラスのような平坦地があることを確認した。調査区西部同様に天明泥流による攻撃痕



第9-1図 遺跡位置図

が各所に残っていた。

9月は調査区南部の発掘調査を進めた。他の調査区と同様に1面は天明泥流による攻撃痕が調査区全体に広がっていたが、調査区南側で烟の一部を検出した。またこの烟と関係すると思われる道も2本確認できた。9月11日より2面の調査に着手し、ピット、土坑、溝、掘立柱建物を検出した。9月24日には調査区の片づけを終了し、9月30日に全ての発掘調査作業を完了した。

第2節 遺跡の立地と基本土層

第1項 遺跡の立地

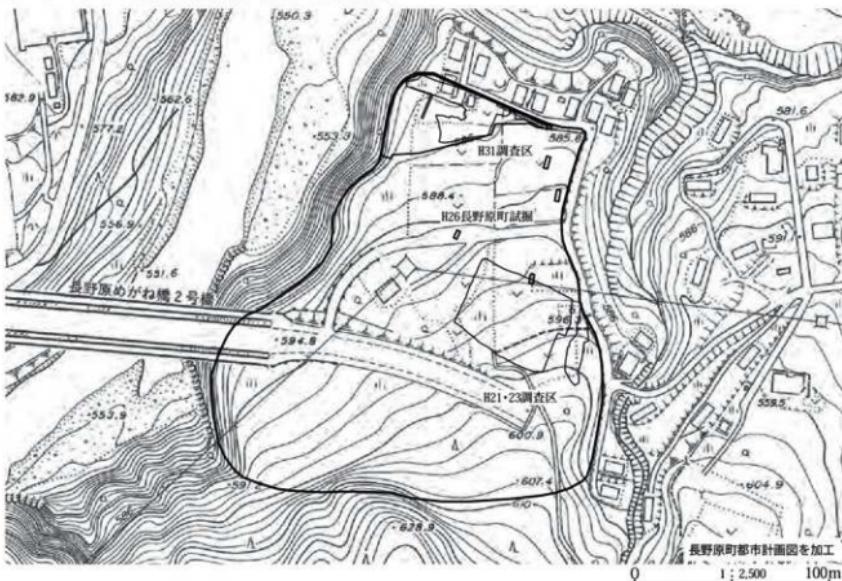
本遺跡は群馬県吾妻郡長野原町大字横壁字西久保に所在し、吾妻川右岸の中位段丘面に占地している。遺跡周辺は南流する白砂川と合流した吾妻川が大きく北に蛇行した後、その流れを再び東に戻す地点であり、北へ突出した舌状台地となっている。遺跡周辺の地形は、南から北へと下る緩斜面地形を基本としつつ、吾妻川の段丘崖が迫る遺跡の西側は西方へも緩やかに傾斜する地形となっている。また遺跡東側は、南に位置する山地斜面によ

り流れ出した小倉沢により刻まれ、独立した台地的印象を与える地形となっている。なお調査区内の標高は591～600mである。

第2項 基本土層

八ッ場地区で発掘調査された多くの遺跡同様に、本遺跡もまた調査地点ごとに堆積状況の差異が大きいことが確認されている。平成26年の長野原町教育委員会による試掘調査では、天明泥流直下の耕作土層の下からローム類似の黄褐色粘質土が検出され、その下位からは地山と想定される黄褐色砂礫層が確認されている。町の調査地点より南の地区を調査対象とした平成23年の発掘調査では、天明泥流直下の耕作土層の下から褐色から黒褐色の層とローム層が確認されている。天明の耕作土層の下から粘質の土壤の検出されていない本調査区の堆積状況も加味し、平成23年度の堆積状況を基本土層としたい。

なお、平成23年の発掘調査ではローム層と泥流直下耕作土層の間に位置する層の上位から土師器や平安時代の遺構、下位から縄文時代の遺構や遺物が検出されている。



第9-2図 調査区位置図

第3節 検出された遺構と遺物

第3節 検出された遺構と遺物

第1項 調査の概要

本遺跡は吾妻川右岸の中位段丘面に形成された台地状の地形に占地し、今回の調査区はこの台地先端に近い、西北部の段丘崖に接近した地点であり、調査区の西側は川に侵食され調査に着手できない状況となっていた。

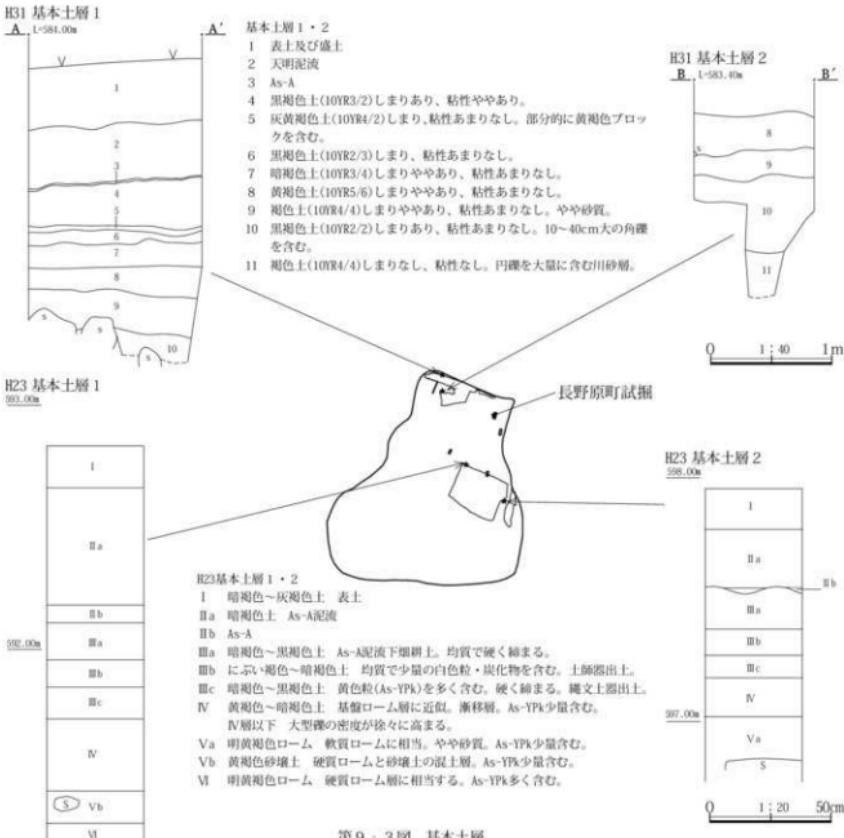
天明泥流直下から検出された1面は、泥流に抉られ一面に北東方向に走る泥流傷が歴々と、その中から道2条

と畑1区画が検出された。また、天明の耕作土層の下位に位置する2面からは、掘立柱建物1棟、溝5条、土坑19基、ピット15基が検出された。

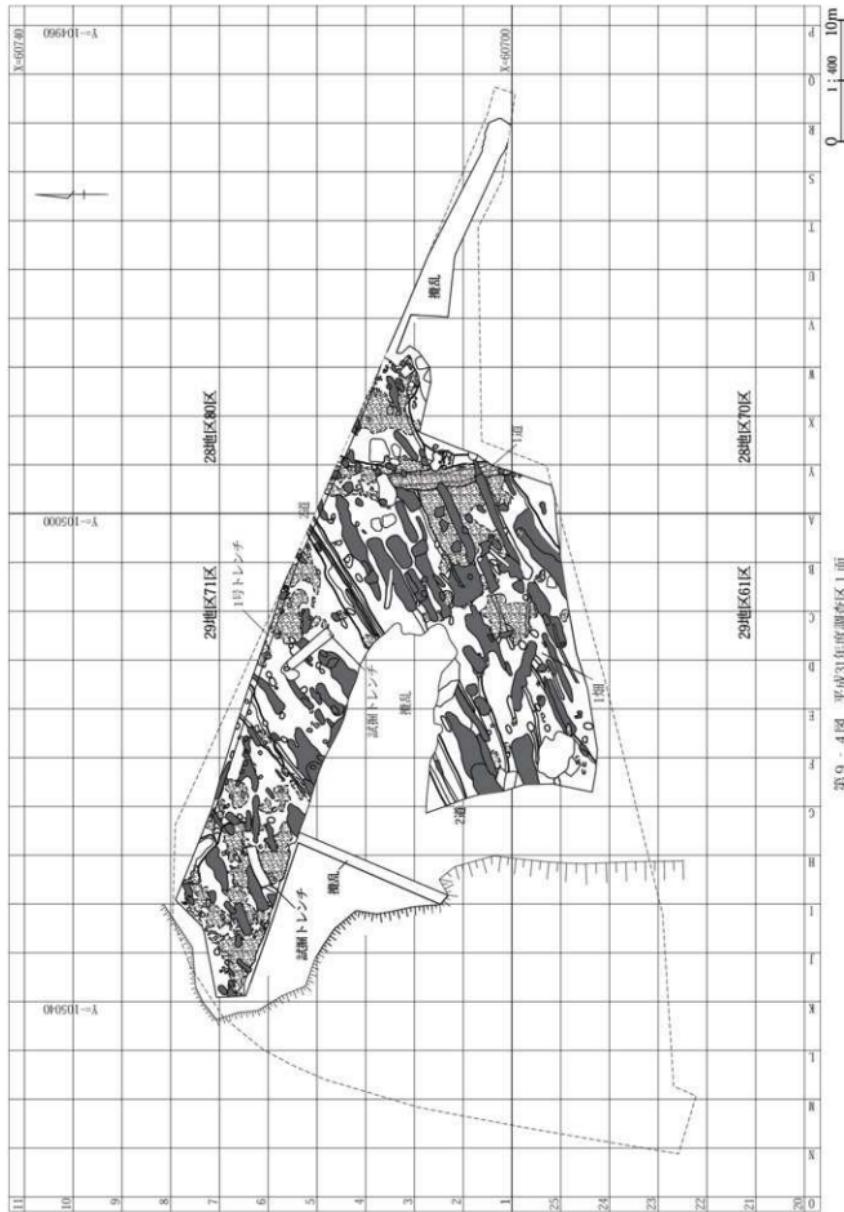
第2項 1面の遺構

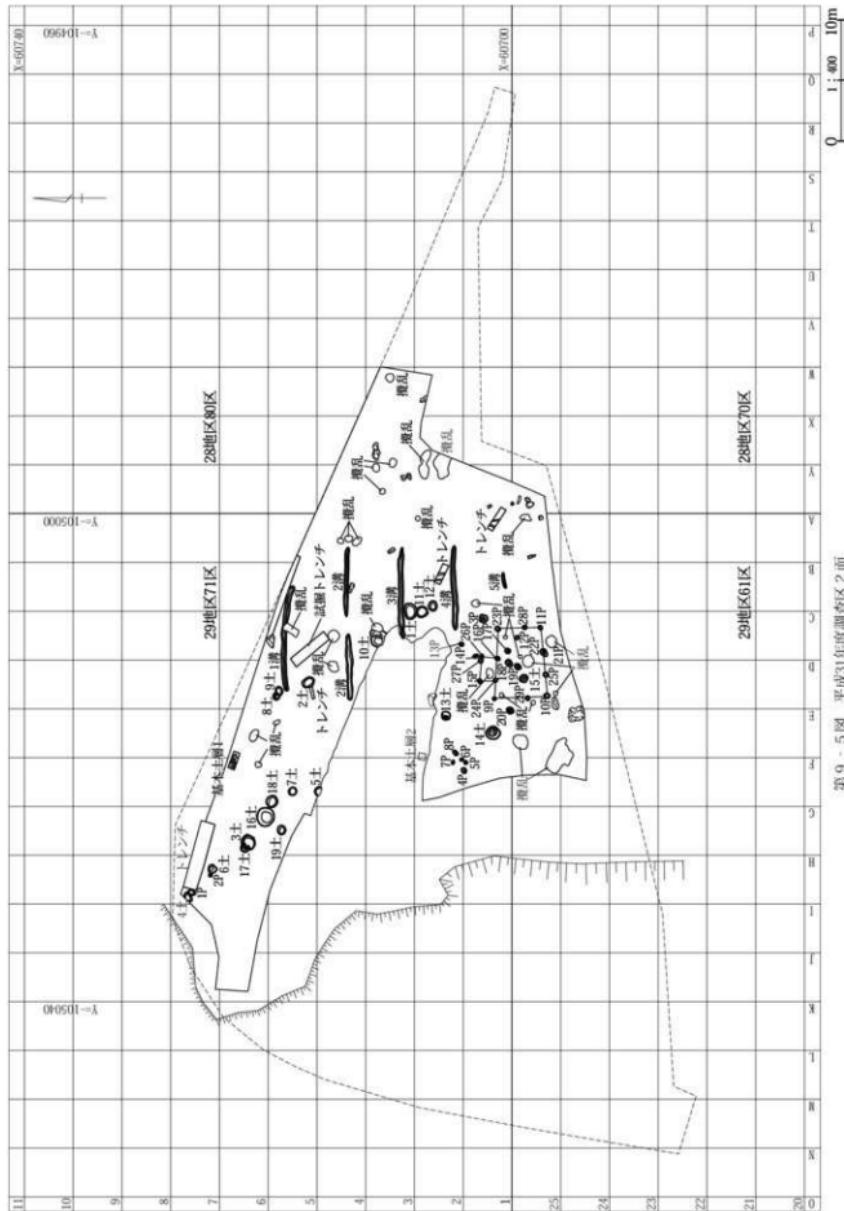
1 1面の概要

検出された遺構はいずれも調査区の中央付近に位置する。2条の道のうち1条は台地の斜面を横切るように東北東から南南西に延び、1条は傾斜に沿って北微西から南微東に延びる。2条の道は調査区外の台地北端付近で



第9・3図 基本土層





第9・5図 平成31年度調査区2面

交差すると推測される。唯一検出された畠は道2条に囲まれた、調査区南辺付近に存在し、調査区内では最も標高の高い地点の一つである。As-Aに覆われた数条のサクが確認されたことどまり、これより低い地点に存在していた畠は天明泥流により擾乱され、検出不能となったものと推測される。

2 道

調査区からは台地の傾斜に伴い東南から北西にかけて4段のテラスが確認されている。1号道は最上段のテラスから中段のテラスにかけて段差をつなぐように続くことが確認された。2号道は下段テラスの山側に位置し、東西に伸びることが確認されている。

(1) 1号道(第9-6図、PL.99)

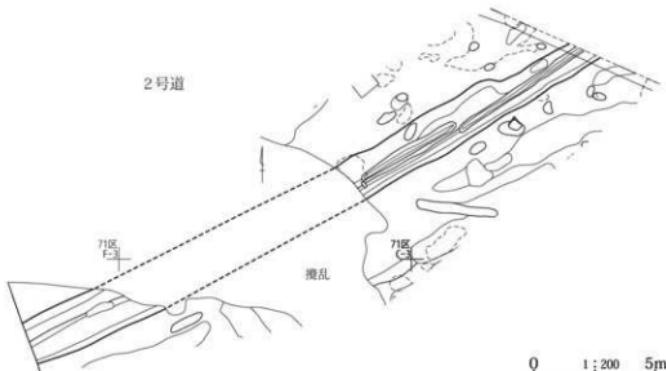
位置 70・80区X～Y-70区1～80区3グリッド、調査区中央東寄りに位置する。

形状等 直線状に延びる、踏みしめられ周辺より一段低くなった路面が確認された。

1号道



2号道



第9-6図 道

規模 (10.10)×1.17×1.82m

走行方位(度) N-10-W

所見 農道・村道と呼ぶべき道であり、遺跡の位置する台地を南北につなぐと推測される。

(2) 2号道(第9-6図、PL.99)

位置 71区A～C-3～5グリッド、調査区中央付近に位置する。

形状等 直線状に延びる、踏みしめられ周辺より一段低くなった路面が、擾乱区画を間に挟むが、台地北西部を横切るように確認された。道の東端側は道幅が狭まっている。

規模 (25.92)×1.15～2.04m

走行方位(度) N-62-E

所見 台地の北辺と西辺を結ぶ、農道・村道と推測される。

3 畠

調査区南辺の、上から2段目のテラスから数条のサクと思われる溝が検出され、1号畠とされた。この下のテラスからもサクと思われる溝が検出されているが、列として確認されていないため畠としての認定は見合せられた。台地の端からやや奥まった、調査区の一画からの検出ではあるが、往時は台地一面に畠が存在していたと推察される。

(1) 1号烟(第9-7図、PL.99)

位置 61区C～D-24～25グリッド、調査区南辺に位置する。

歴のピッチ 計測不能

歴の走行方位(度) N-68-E

所見 下のテラスから確認されたサクと思われる溝も、1号烟と同様な走向であり、各テラスとも等高線に平行する方向に歴が作られていたと推察される。

第3項 2面の遺構

1 2面の概要

検出された遺構は調査区の西半に集中し、掘立柱建物1棟、溝5条、土坑19基、ピット15基が確認された。土坑は調査区の北側に多く分布し、南側からの検出は19基中の3基にとどまる。これとは逆にピットは調査区南辺寄りに多く、北側からの検出は15基中の2基にとどまる。溝は調査区の中央付近から、互いの間隔を等しくし、南北に平行した5条が検出されている。なお図化には至らなかったが、2面とした遺構確認面からは中世常滑陶器の破片が検出されており、中近世以前の遺構面である。

2 掘立柱建物

西久保IV遺跡では、平成23年度調査区から2間×3間の掘立柱建物が2棟検出されている。これらの建物は今回検出された建物と異なり、2棟とも南北棟の造りで、

桁行もそれぞれ4.9mと3.4mと、今回検出された建物よりも小振りであった。また平成23年度は掘立柱建物2棟の他に、柱穴列が3条報告されているが、いずれも南北列であり、これらも含め今回検出された遺構と傾向を異にしている。

(1) 1号掘立柱建物(第9-8、9図、PL.100)

位置 61区B～D-61区25～71区1グリッド、調査区南部に位置する。

形状等 凸字状に位置するピット14基が確認された。凸字の基部は西が広く東が狭い台形をなす。凸部の上辺も南に傾く。

規模 凸部を含み、東西5.73m、南北5.43m、桁行柱間平均1.91m、梁行柱間平均1.73mを測る。

桁行方位 N-88-E

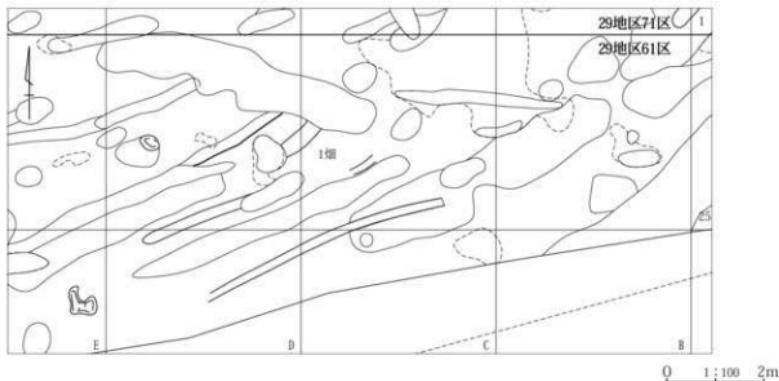
本体構造 2間×3間の東西棟建物の北辺中央1間を1間張り出す、部分的な3間×3間構造の掘立柱建物。本体部分(身舎・上屋)の桁行5.78m、梁行3.5～4.32m、桁行柱間平均は1.89m、梁行柱間平均は1.96mを測る。

埋没土 ピット埋没土の上層は褐色粒、炭化粒、焼土粒をわずか含む黒褐色。複層のピットの下層からは、黄褐色系統の埋没土が検出されている。

重複 なし。

遺物 なし。

所見 本遺構の年代は、時期を特定する資料に乏しく不明である。先行するP4に重なる位置に存在するP3は、



第9-7図 1号烟

第9章 西久保IV遺跡(2)

第9-1表 1号掘立柱建物ビット計測表1

ビット	P1	P2	P3	P4	P5	P6	P7	P8	P9	P10
位置	61[K-D-25]	61[K-D-25]	61[K-C-25]	61[K-C-25]	61[K-C-25]	61[K-D-25]	61[K-C-25]	71[K-D-1]	71[K-D-1]	71[K-C-B-1]
規模(m)										
長	0.47	0.43	0.45	0.51	0.33	0.37	0.38	0.28	0.34	0.42
短	0.40	0.37	0.40	0.47	0.30	0.33	0.33	0.27	0.31	0.31
深	0.21	0.19	0.35	0.33	0.27	0.33	0.30	0.44	0.25	0.30
平面形状	偏円形	偏円形	不整形	不整形	長円形	偏円形	橢丸菱形	略円形	長円形	偏円形
主軸方位(度)	N-10-E	N-30-E	N-52-E	N-83-W-E	N-27-E	N-67-W	N-7-E	N-8-E	N-36-W	N-38-E
目名	10号ビット	25号ビット	21号ビット	22号ビット	11号ビット	29号ビット	28号ビット	9号ビット	24号ビット	16号ビット

第9-2表 1号掘立柱建物ビット計測表2

ビット	P11	P12	P13	P14
位置	71[K-C-1]	71[K-D-1]	71[K-C-B-1]	71[K-C-1]
規模(m)				
長	0.42	0.38	0.42	0.31
短	0.38	0.30	0.36	0.27
深	0.27	0.22	0.13	0.23
平面形状	長円形	不整形	偏円形	偏円形
主軸方位(度)	N-31-E	N-36-E	N-76-E	N-72-W
目名	23号ビット	15号ビット	27号ビット	26号ビット

P4に存在した柱を撤去する際に設けられた可能性も高い。調査所見によれば、中世の北入り掘立柱建物が想定されている。

3 溝

調査区の中央辺、緩やかな斜面に生じた尾根状の場所から、南北に平行する5条の溝が検出されている。東西に延びる溝は、それぞれ4~5mの間隔で位置しており、北北西に下る緩斜面に存在することから、隣り合う溝との比高は最南端の溝を除き0.3m程度と共通する。排水路としての機能は想定しがたく、一定規格に従ったテラスの造成を意図したと推察される。

(1) 1号溝(第9-10図、PL.100)

位置 71区B~D-5グリッド、調査区中央辺に位置する。

形状等 弧状を呈する。

規模 8.60×0.29~0.40×0.03~0.09m。東端底部標高582.71m、西端底部標高582.56m、標高差0.15mを測る。

走行方位(度) N-86-W

埋没土 白色粒・褐色粒・炭化粒含む、鉄分付着のある黒色土。

重複 なし。

遺物 なし。

所見 本遺構の年代は、時期を特定する資料に乏しく不明である。

(2) 2号溝(第9-10図、PL.100)

位置 71区A~D-4グリッド、調査区中央辺に位置する。

形状等 東西に1.5m離れた2条の直線状の溝からなる。

規模 東側の溝、5.38×0.23~0.46×0.02~0.09m、

第9-3表 1号掘立柱建物柱間計測表

柱間	柱間		柱間		柱間	
	柱間	柱間	柱間	柱間	柱間	柱間
梁行柱間	2.05	2.05	1.28	1.29		
梁行柱間	1.51	1.51	1.80	1.80	2.43	2.43
梁行柱間	2.73	2.73	5.43	5.43	2.22	2.22
梁行柱間	1.59	1.59			1.28	1.28
梁間	1.73	1.73	1.95	1.95	1.91	1.91
本体梁間	4.32	4.32	4.13	4.13	3.87	3.87

東端底部標高583.06m、西端底部標高582.83m、標高差0.23mを測る。西側の溝、5.63×0.13~0.34×0.03~0.07m、西端底部標高583.03m、東端底部標高582.89m、標高差0.14mを測る。

走行方位(度) 東西ともに、N-88-W。

埋没土 白色粒・褐色粒・炭化粒含む、鉄分付着のある黒色土。

重複 なし。

遺物 なし。

所見 本遺構の年代は、時期を特定する資料に乏しく不明である。

(3) 3号溝(第9-10図、PL.100)

位置 71区A~C-3グリッド、調査区中央辺に位置する。

形状等 直線状を呈する。

規模 7.49×0.18~0.46×0.05~0.14m、西端底部標高

583.28m、東端底部標高583.25m、標高差0.03mを測る。

走行方位(度) N - 89 - W

埋没土 白色粒・褐色粒・炭化粒・焼土粒含む、鐵分付着のある黒色土。

重複 なし。

遺物 図化には至らなかったが、弥生時代中期の土器片が出土している。

所見 本遺構の年代は、時期を特定する資料に乏しく不明である。

(4) 4号溝(第9-10図、PL.100)

位置 71区A～C - 2 グリッド、調査区中央辺に位置する。

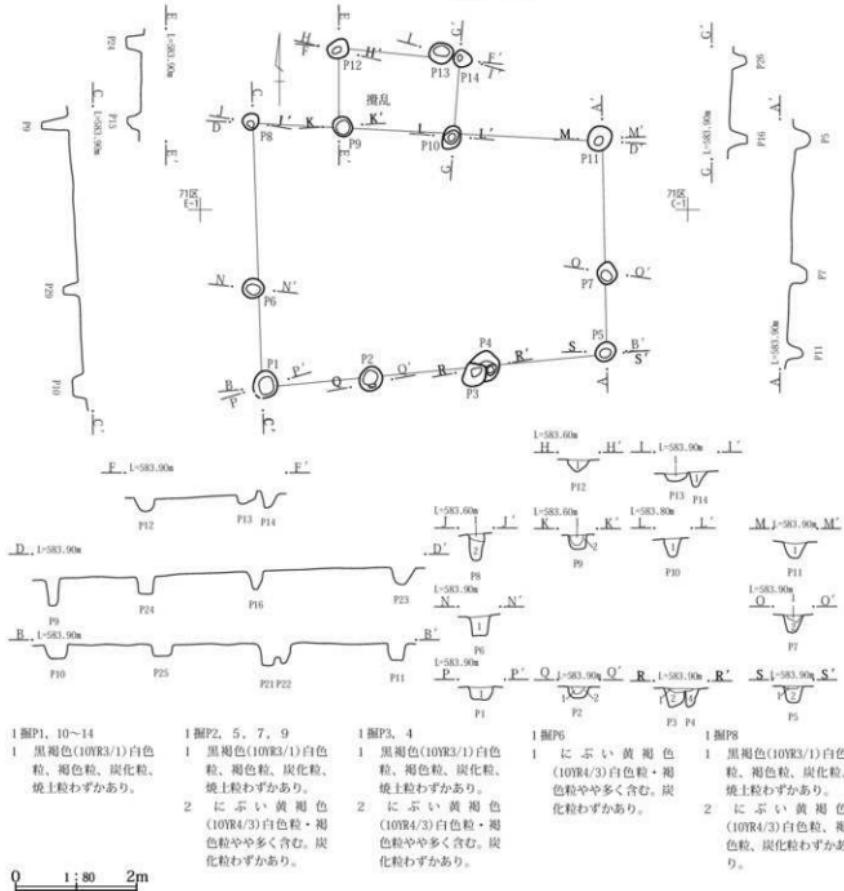
形状等 直線状を呈する。

規模 $6.86 \times 0.22 \sim 0.42 \times 0.00 \sim 0.10$ m、東端底部標高583.68m、西端底部標高583.57m、標高差0.11mを測る。

走行方位(度) N - 89 - W

埋没土 白色粒・褐色粒・炭化粒含む、鉄分付着のある黒色土。

重複 なし。



第9・8図 1号掘立柱建物

遺物 なし。

所見 本遺構の年代は、時期を特定する資料に乏しく不明である。

(5) 5号溝(第9~10図、PL.100)

位置 71区B-1グリッド、調査区中央辺に位置する。

形状等 直線状を呈する。

規模 1.27×0.14~0.20×0.04m、標高差計測不能。

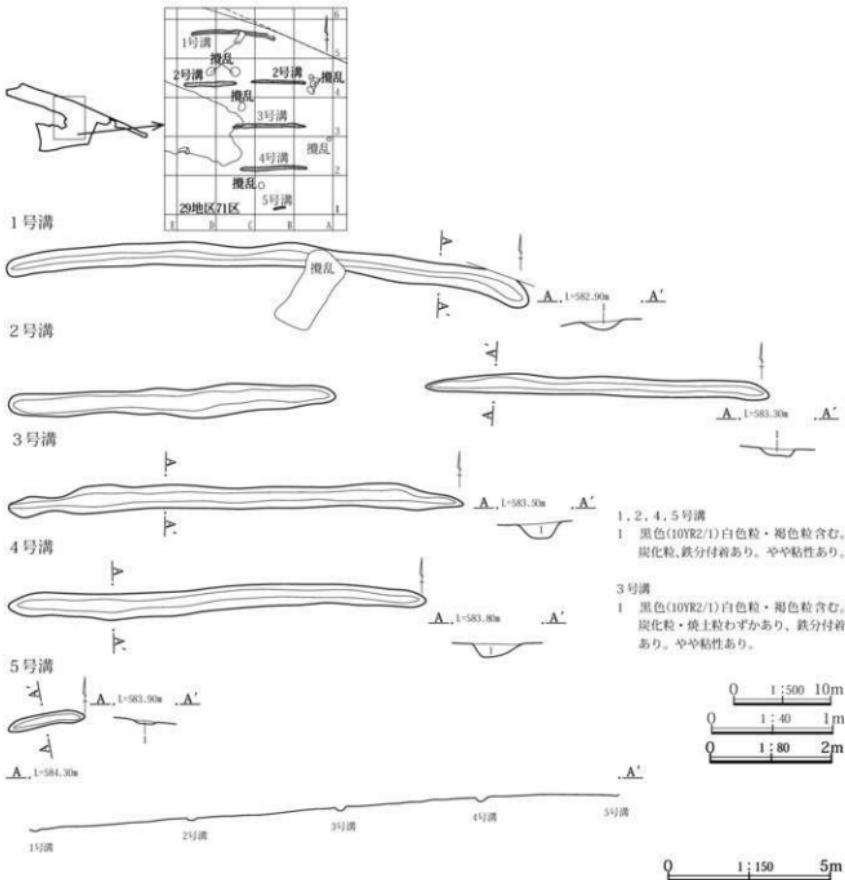
走行方位(度) N-79-E

埋没土 白色粒・褐色粒・炭化粒含む、鉄分付着のある黒色土。

重複 なし。

遺物 なし。

所見 本遺構の年代は、時期を特定する資料に乏しく不明である。



第9-9図 溝

4 土坑

調査区中央付近から19基の土坑が検出されている。土坑は調査区の北部から中部にかけて多く分布し、調査区南部からは3基の検出にとどまる。

(1) 1号土坑(第9~11, 16図、PL.101, 106)

位置 71区B~C-2~3グリッド、調査区中央辺に位置する。

形状等 不整形の底部が検出された。

規模 $1.32 \times 0.99 \times 0.10\text{m}$

主軸方位(度) N-78-E

埋没土 白色粒・褐色粒・炭化粒・焼土粒を含み、鉄分付着のある黒色土。

重複 なし。

遺物 底面から弥生時代中期初頭前後の土器(1~5, 7)、埋没土から縄文時代晚期後葉~弥生時代中期初頭の土器(6)が出土している。

所見 本遺構の年代は、出土遺物から弥生時代中期に比定される。

(2) 2号土坑(第9~11, 16図、PL.101, 106)

位置 71区D-5グリッド、調査区中央辺に位置する。

形状等 圓丸長方形を呈した底部が検出された。

規模 $1.04 \times 0.80 \times 0.10\text{m}$

主軸方位(度) N-30-W

埋没土 白色粒・褐色粒・炭化粒・焼土粒を含み、鉄分付着のある黒色土。

重複 なし。

遺物 底面から弥生時代中期初頭前後の土器(8~10, 12~14, 17, 18, 20, 22)、埋没土から同時代の土器(11, 15, 16, 19)が出土している。

所見 本遺構の年代は、出土遺物から弥生時代中期に比定される。

(3) 3号土坑(第9~11, 15図、PL.101, 105)

位置 71区G-6グリッド、調査区北西部に位置する。

形状等 不整形を呈する。

規模 $1.16 \times 1.01 \times 0.81\text{m}$

主軸方位(度) N-47-E

埋没土 白色粒・褐色粒・炭化粒・径1~2cmの礫を含み、

ロームブロック少量を含む黒褐色土。

重複 17号土坑。

遺物 埋没土中層および下層から縄文時代中期初頭五領ヶ台式土器(1~3)が出土している。

所見 本遺構の年代は、出土遺物から縄文時代に比定される。17号土坑に先行する。

(4) 4号土坑(第9~11図、PL.101)

位置 71区H-7グリッド、調査区北西端に位置する。

形状等 不整形を呈する。

規模 $0.84 \times (0.50) \times 0.15\text{m}$

主軸方位(度) N-53-E

埋没土 白色粒・褐色粒・炭化粒・炭化物を含む灰褐色土。

重複 1号ビット

遺物 なし。

所見 本遺構の年代は、時期を特定する資料に乏しく不明。1号ビットより新しい。

(5) 5号土坑(第9~11図、PL.101)

位置 71区F-4~5グリッド、調査区北西部に位置する。

形状等 遺構南半が調査区外に及び不明。

規模 $0.82 \times (0.52) \times 0.13\text{m}$

主軸方位(度) N-71-W

埋没土 白色粒・褐色粒・炭化粒・焼土粒を含む灰褐色土。

重複 なし。

遺物 なし。

所見 本遺構の年代は、時期を特定する資料に乏しく不明。

(6) 6号土坑(第9~11図、PL.102)

位置 71区H-7グリッド、調査区北西部に位置する。

形状等 不整形を呈する。

規模 $0.70 \times 0.64 \times 0.18\text{m}$

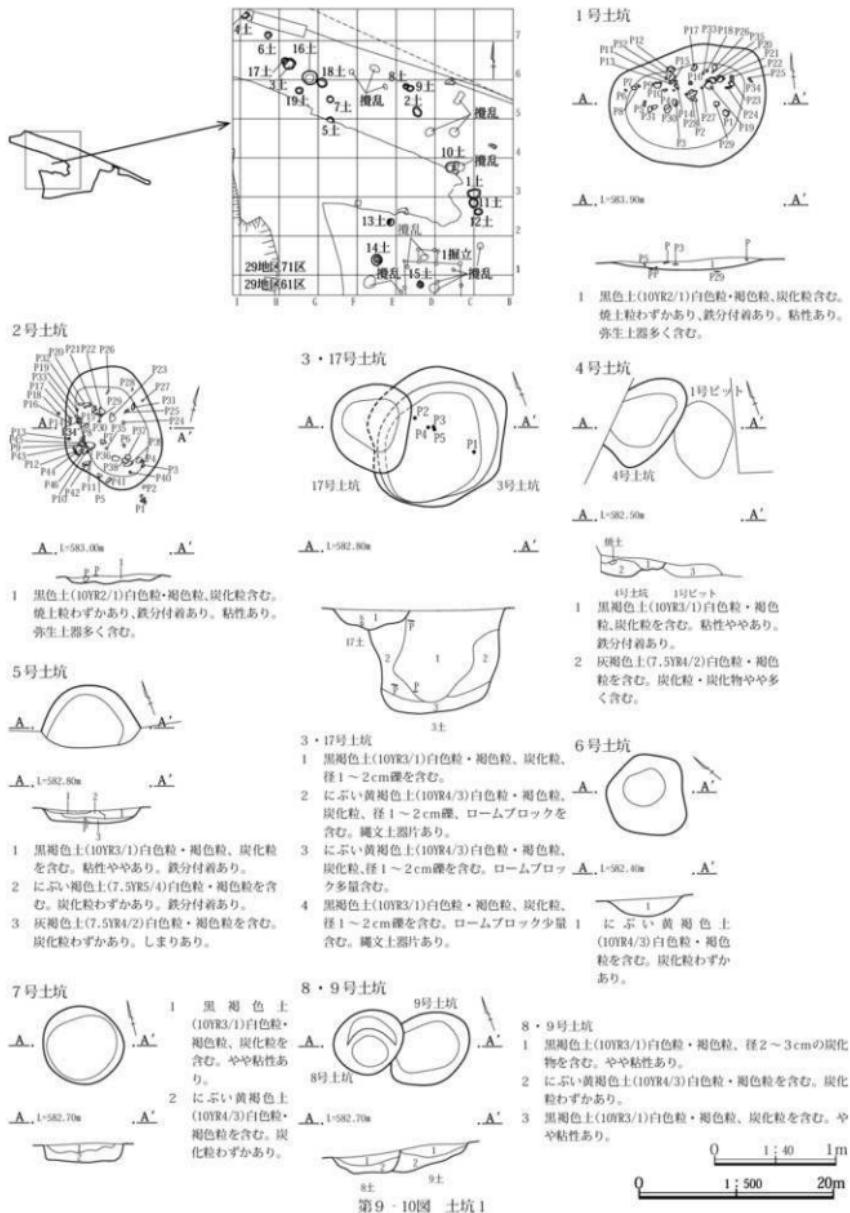
主軸方位(度) N-28-E

埋没土 白色粒・褐色粒・炭化粒を含むにぶい黄褐色土。

重複 なし。

遺物 なし。

所見 本遺構の年代は、時期を特定する資料に乏しく不明。



(7) 7号土坑(第9~11図、PL.102)

位置 71区F~5グリッド、調査区西北部に位置する。

形状等 円形を呈する。

規模 $0.68 \times 0.62 \times 0.16\text{m}$

主軸方位(度) N~45~W

埋没土 白色粒・褐色粒、炭化粒を含むにぶい黄褐色土。

重複 なし。

遺物 なし。

所見 本遺構の年代は、時期を特定する資料に乏しく不明。

(8) 8号土坑(第9~11図、PL.102)

位置 71区D~5グリッド、調査区北部に位置する。

形状等 円形を呈する。

規模 $0.60 \times 0.54 \times 0.12\text{m}$

主軸方位(度) N~83~W

埋没土 白色粒・褐色粒、炭化粒を含むにぶい黄褐色土。

重複 9号土坑。

遺物 なし。

所見 本遺構の年代は、時期を特定する資料に乏しく不明。9号土坑より新しい。

(9) 9号土坑(第9~11図、PL.102)

位置 71区D~5グリッド、調査区北部に位置する。

形状等 偏円形を呈する。

規模 $0.75 \times 0.58 \times 0.17\text{m}$

主軸方位(度) N~73~E

埋没土 白色粒・褐色粒、炭化粒を含むにぶい黄褐色土。

重複 8号土坑。

遺物 なし。

所見 本遺構の年代は、時期を特定する資料に乏しく不明。8号土坑に先行する。

(10) 10号土坑(第9~12、16図、PL.102、106)

位置 71区C~3グリッド、調査区中央辺に位置する。

形状等 遺構南端が調査区外に及び不明。

規模 $(1.48) \times 1.47 \times 0.26\text{m}$

主軸方位(度) N~42~E

埋没土 白色粒・褐色粒、炭化粒を含むにぶい黄褐色土。

中上層からは焼土粒も検出されており、上層下面から焼

土と灰屑が確認されている。

重複 なし。

遺物 埋没土から弥生時代中期初頭前後の土器(23)が出土している。

所見 本遺構の年代は、出土遺物から弥生時代以降に比定される。

備考 本遺構は焼土遺構と呼ぶべきと思われるが、呼称は調査時のものを踏襲した。

(11) 11号土坑(第9~12図、PL.102)

位置 71区B~C~2グリッド、調査区中央辺に位置する。

形状等 略円形を呈する。

規模 $0.95 \times 0.91 \times 0.10\text{m}$

主軸方位(度) N~46~W

埋没土 白色粒・褐色粒、炭化粒含み、鉄分付着ある黒色土。

重複 なし。

遺物 なし。

所見 本遺構の年代は、時期を特定する資料に乏しく不明。

(12) 12号土坑(第9~12図、PL.103)

位置 71区B~C~2グリッド、調査区中央辺に位置する。

形状等 偏円形を呈する。

規模 $0.81 \times 0.68 \times 0.12\text{m}$

主軸方位(度) N~75~E

埋没土 白色粒・褐色粒、炭化粒含み、鉄分付着ある黒色土。

重複 なし。

遺物 なし。

所見 本遺構の年代は、時期を特定する資料に乏しく不明。

(13) 13号土坑(第9~12図、PL.103)

位置 71区E~2グリッド、調査区南部に位置する。

形状等 圓丸方形を呈する。

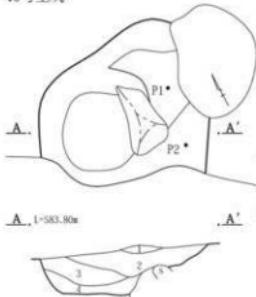
規模 $0.67 \times 0.66 \times 0.68\text{m}$

主軸方位(度) N~6~E

埋没土 白色粒・褐色粒、炭化粒を含むにぶい黄褐色土。

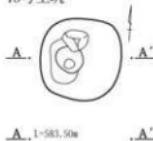
重複 なし。

10号土坑



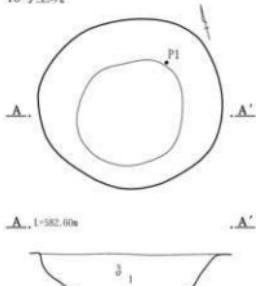
- 1 黒褐色土(10YR3/1)白色粒・褐色粒・炭化粒・焼土粒を含む。鉄分付着あり。下面焼上・灰層あり。
- 2 黒褐色土(10YR3/1)白色粒・褐色粒・炭化粒・焼土粒を含む。鉄分付着あり。弾生土器あり。
- 3 にぶい黄褐色土(10YR4/3)白色粒・褐色粒・焼土粒ブロックを含む。
- 4 にぶい黄褐色土(10YR4/3)白色粒・褐色粒を含む。炭化粒わずかあり。

13号土坑



- 1 黒褐色土(10YR3/1)白色粒・褐色粒・炭化粒・焼土粒を含む。鉄分付着あり。土器片あり。
- 2 にぶい黄褐色土(10YR4/3)白色粒・褐色粒を含む。炭化粒わずかあり。

16号土坑

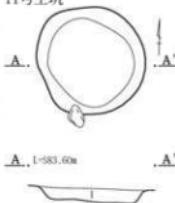


- 1 にぶい黄褐色土(10YR4/3)白色粒・褐色粒・炭化粒・ローム粒・ロームブロックを含む。

- 1 黒褐色土(10YR3/1)白色粒・褐色粒・炭化粒・焼土粒を含む。鉄分付着あり。下面焼上・灰層あり。
- 2 黒褐色土(10YR3/1)白色粒・褐色粒・炭化粒・焼土粒を含む。鉄分付着あり。弾生土器あり。
- 3 にぶい黄褐色土(10YR4/3)白色粒・褐色粒・焼土粒ブロックを含む。
- 4 にぶい黄褐色土(10YR4/3)白色粒・褐色粒を含む。炭化粒わずかあり。

- 1 黒褐色土(10YR3/1)白色粒・褐色粒・炭化粒・焼土粒を含む。鉄分付着あり。弾生土器あり。
- 2 にぶい黄褐色土(10YR4/3)白色粒・褐色粒を含む。炭化粒わずかあり。

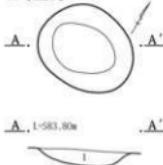
11号土坑



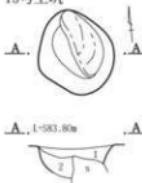
11, 12号土坑

- 1 黒褐色土(10YR2/1)白色粒・褐色粒・炭化粒含む。鉄分付着あり。粘性あり。細粒。

12号土坑



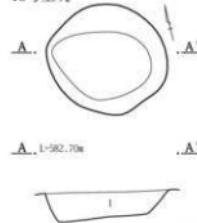
15号土坑



14, 15号土坑

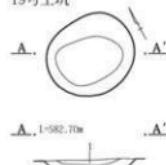
- 1 黒褐色土(10YR3/1)白色粒・褐色粒・炭化粒・焼土粒を含む。鉄分付着あり。
- 2 にぶい黄褐色土(10YR4/3)白色粒・褐色粒を含む。炭化粒わずかあり。

18号土坑



- 1 にぶい黄褐色土(10YR4/3)白色粒・褐色粒・炭化粒・径1~2cmの縛・ロームブロックを含む。繩文土器片あり。

19号土坑



- 1 灰黄褐色土(10YR5/2)シルト質。柏川火山灰か?
- 2 暗褐色土(10YR3/4)白色粒・褐色粒を含む。ローム少量を含む。

第9・11図 土坑2

0 1:40 1m

遺物 図化には至らなかったが、縄文時代中期初頭五領ヶ台式の土器片が出土している。

所見 本遺構の年代は、出土遺物から縄文時代以降に比定される。

(14) 14号土坑(第9-12図、PL.103)

位置 71区E-1グリッド、調査区南部に位置する。

形状等 偏円形を呈する。

規模 $1.17 \times 1.06 \times 0.69\text{m}$

主軸方位(度) N-2-E

埋没土 白色粒・褐色粒・炭化粒を含むにぶい黄褐色土。

重複 なし。

遺物 図化には至らなかったが、縄文時代中期初頭五領ヶ台式の土器片が出土している。

所見 本遺構の年代は、出土遺物から縄文時代以降に比定される。

(15) 15号土坑(第9-12図、PL.103)

位置 61区D-25グリッド、調査区南部に位置する。

形状等 偏円形を呈する。

規模 $0.71 \times 0.63 \times 0.29\text{m}$

主軸方位(度) N-16-W

埋没土 白色粒・褐色粒・炭化粒を含むにぶい黄褐色土。

重複 なし。

遺物 なし。

所見 本遺構の年代は、時期を特定する資料に乏しく不明。

(16) 16号土坑(第9-12、15図、PL.103)

位置 71区G-5~6グリッド、調査区北部に位置する。

形状等 略円形を呈する。

規模 $1.42 \times 1.42 \times 0.49\text{m}$

主軸方位(度) N-65-W

埋没土 白色粒・褐色粒・炭化粒・ローム粒・ロームブロックを含むにぶい黄褐色土。

重複 なし。

遺物 埋没土から縄文時代中期初頭五領ヶ台式土器(4)が出土している。

所見 本遺構の年代は、出土遺物から縄文時代以降に比定される。

(17) 17号土坑(第9-11図、PL.103)

位置 71区G-6グリッド、調査区北部に位置する。

形状等 不整形を呈する。

規模 $0.74 \times 0.64 \times 0.17\text{m}$

主軸方位(度) N-11-E

埋没土 白色粒・褐色粒・炭化粒・径1~2cm礫を含む黒褐色土。

重複 3号土坑

遺物 図化には至らなかったが、磨石が出土している。

所見 本遺構の年代は、時期を特定する資料に乏しく不明。3号土坑より新しい。

(18) 18号土坑(第9-12図、PL.103)

位置 71区F-G-5~6グリッド、調査区北部に位置する。

形状等 偏円形を呈する。

規模 $1.03 \times 0.89 \times 0.30\text{m}$

主軸方位(度) N-65-W

埋没土 白色粒・褐色粒・炭化粒・径1~2cmの礫・ロームブロックを含むにぶい黄褐色土。

重複 なし。

遺物 図化には至らなかったが、磨石が出土している。

所見 本遺構の年代は、時期を特定する資料に乏しく不明。

(19) 19号土坑(第9-12図、PL.104)

位置 71区G-6グリッド、調査区北部に位置する。

形状等 略円形を呈する。

規模 $0.73 \times 0.65 \times 0.28\text{m}$

主軸方位(度) N-88-W

埋没土 白色粒・褐色粒・ローム粒を含む暗褐色土。

重複 なし。

遺物 なし。

所見 本遺構の年代は、時期を特定する資料に乏しく不明。

5 ピット

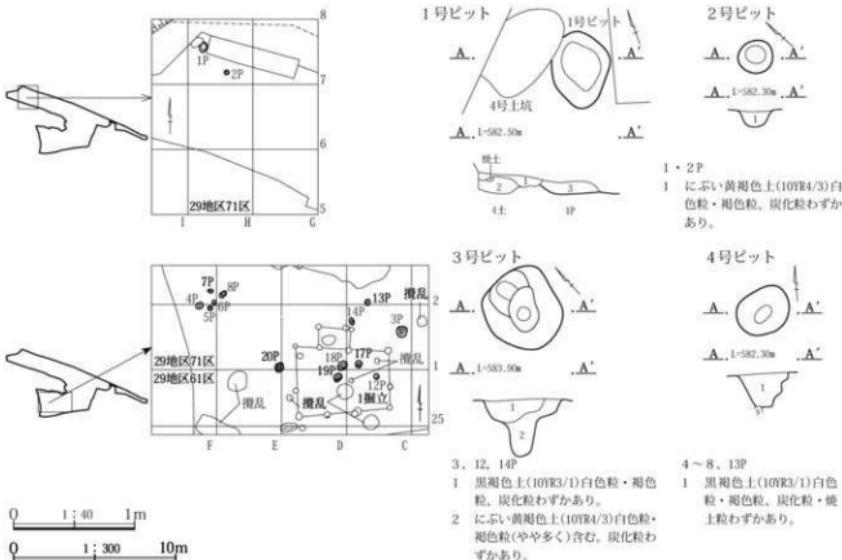
ピットは1号掘立柱建物周辺の、調査区南部にあらかたが分布している。南部以外では調査区西北部から2基が検出されたのみである。他遺構と重複するものは4号

土坑と重なる1号ピットのみであり、1号ピットが先行する。なお遺物を伴うピットは確認されていない。

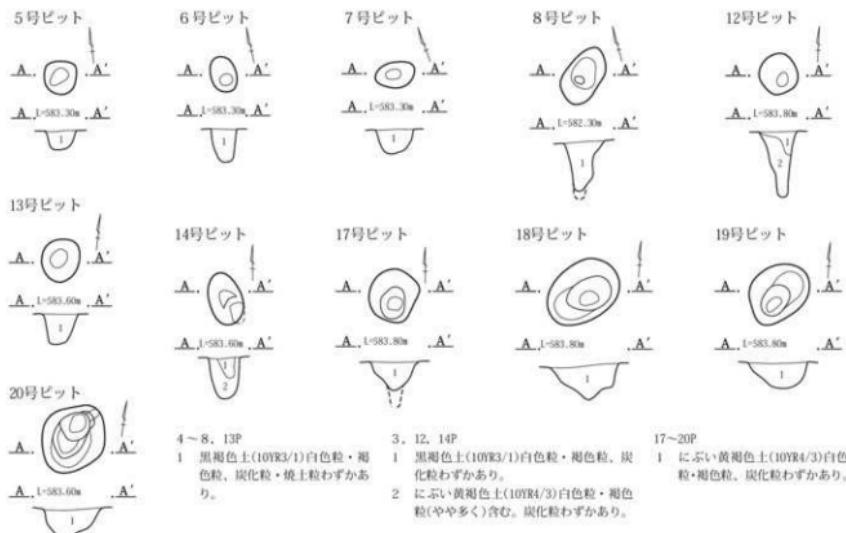
(第9-13, 14図、PL.104, 105)

第9-4表 ピット計測表

検出番	遺構名称	位置	平面形状	規模			主軸方位 (度)
				長(m)	短(m)	深(m)	
2	1号ピット	71[KC-7グリッド	不整形	0.62	0.48	0.13	N-19-E
2	2号ピット	71[KB-7グリッド	略円形	0.29	0.27	0.14	N-75-W
2	3号ピット	71[KC-1グリッド	不整形	0.70	0.60	0.49	N-18-E
2	4号ピット	71[KF-1-2グリッド	偏円形	0.46	0.37	0.26	N-66-E
2	5号ピット	71[KF-1グリッド	椭丸方形	0.28	0.26	0.16	N-12-E
2	6号ピット	71[KF-1-2グリッド	長円形	0.31	0.21	0.27	N-13-W
2	7号ピット	71[KF-2グリッド	長円形	0.33	0.21	0.21	N-85-W
2	8号ピット	71[KF-2グリッド	長円形	0.51	0.29	0.49	N-40-E
2	12号ピット	61[KC-25グリッド	椭丸方形	0.33	0.31	0.54	N-33-W
2	13号ピット	71[KC-1-2グリッド	偏円形	0.36	0.31	0.25	N-3-E
2	14号ピット	71[KC-1グリッド	長円形	0.43	0.27	0.41	N16-W
2	17号ピット	71[KC-1グリッド	不整形	0.44	0.42	0.39	N-8-W
2	18号ピット	61・71[KC-B-61[KC25-71[K1グリッド	偏円形	0.64	0.47	0.29	N-49-E
2	19号ピット	61[KD-25グリッド	偏円形	0.56	0.43	0.31	N-37-E
2	20号ピット	61・71[KD-B-61[KC25-71[K1グリッド	椭丸菱形	0.61	0.52	0.57	N-24-E



第9-12図 ピット1



第9-13図 ピット2

第4項 出土遺物

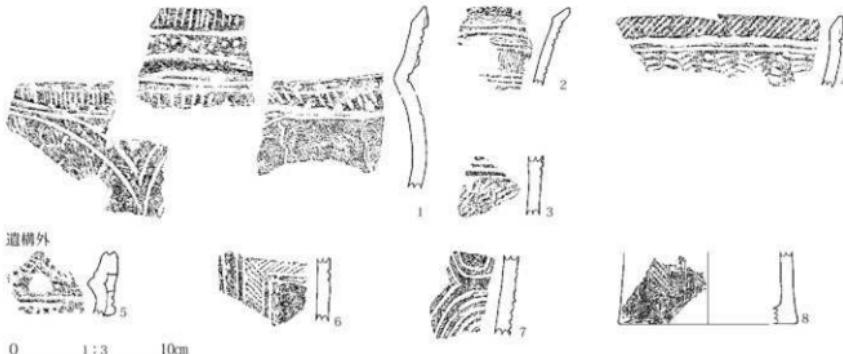
天明泥流下の1面から検出された遺物は、掲載には至らなかった中世常滑陶器5片にとどまるが、2面からは縄文土器と弥生土器の資料が検出されている。

3号土坑、16号土坑から縄文時代中期初頭五領ヶ台式土器の資料が得られた。また遺構に伴わない資料として

縄文時代前期末葉の土器片と縄文時代中期初頭五領ヶ台式の土器片が得られている。

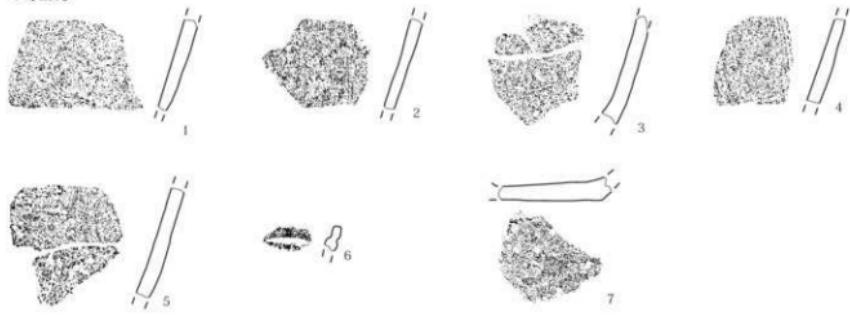
1号土坑、2号土坑、10号土坑から弥生時代中期初頭前後の土器が検出された。また1号土坑の埋没土出土資料と、遺構に伴わない資料として縄文時代晚期後葉から弥生時代中期初頭にかけての土器が得られている。なお2面遺構外遺物として中世常滑陶器2片が出土している。

3号土坑

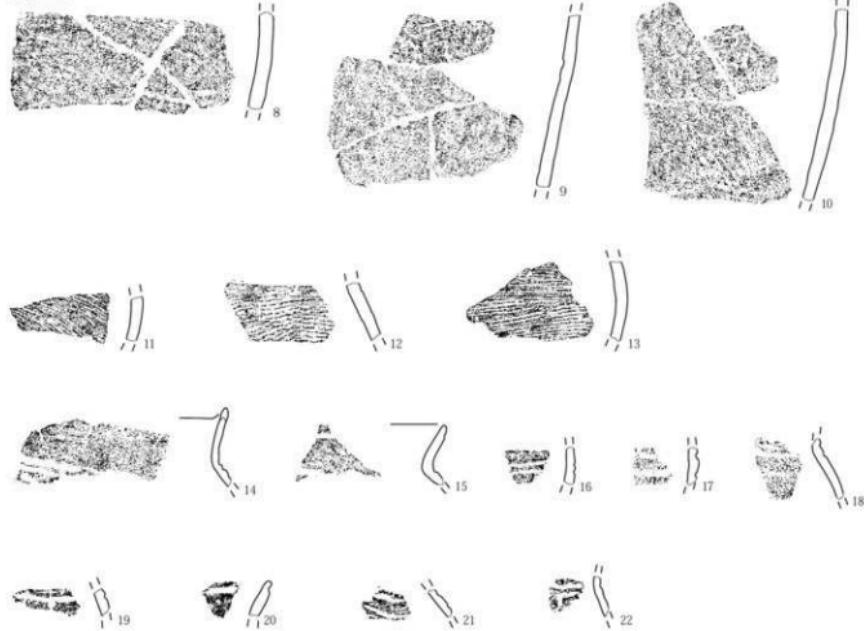


第9-14図 出土遺物1

1号土坑



2号土坑



10号土坑



遺構外



第9・15図 出土遺物2

0 1:3 10cm

第9-5表 出土遺物觀察表

種別 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値	胎土/燒成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第9-14回 PL.105	1	縄文土器 深鉢	3号土坑 底面14~20cm 口縁部破片		粗砂、輝石/赤褐色/良好	口縁部が膨らみ、口縁部が短く外屈する。口縁下を肥厚させ、肥厚部に縦位沈線を備え。口縁部文様帶は横位沈線、沈線を施し、竹管外側による刺突を充填施文する。側面部文様帶は屈曲部下に縱位沈線を施した低平な隆帶をめぐらし、結合LRを縦位施文。その上から弧状の沈線を施す。隆帶上下端に交互三角刺突を施す。	五頭ヶ台式
第9-14回 PL.105	2	縄文土器 深鉢	3号土坑 一括 口縁部破片		粗砂、白色粒/にぶい赤褐色/良好	地文に社を施し、横位集合沈線をめぐらす。	五頭ヶ台式
第9-14回 PL.105	3	縄文土器 深鉢	3号土坑 一括 胸部破片		粗砂、石英、金雲母/にぶい赤褐色/良好	横位集合沈線をめぐらして区画、以下、LR、交互刺突を施す。	五頭ヶ台式
第9-14回 PL.105	4	縄文土器 深鉢	16号土坑 底面21cm 口縁部破片		粗砂、磁磚/赤褐色/良好	口縁下を肥厚させ、肥厚部にLRを充填施文。以下、横位沈線をめぐらし、竹管外皮先端による集合刺突を施す。	五頭ヶ台式
第9-14回 PL.105	5	縄文土器 深鉢	2面一括 口縁部破片		粗砂、白色粒/にぶい緑/良好	小突起を付す波状口縁。三角形状に隆帶を貼り付けて口縁部を肥厚させ、波状面下に三角形状の窓を作出。口唇外縁、屈曲部に半截竹管内皮による沈線、瓜形刺突を施す。	縄文前中期葉
第9-14回 PL.105	6	縄文土器 深鉢	2面一括 胸部破片		粗砂/明赤褐色/良好	半截竹管内皮に付する平行沈線を縦位、逆S字状に施し、LRを充填施文する。一部、列点を沿わせる。	五頭ヶ台式
第9-14回 PL.105	7	縄文土器 深鉢	2面一括 胸部破片		粗砂、輝石、金雲母/赤褐色/良好	沈線により上下に連続する同心円状モチーフを描く。	五頭ヶ台式
第9-14回 PL.105	8	縄文土器 深鉢	2面一括 底部破片		粗砂、金雲母/赤褐色/良好	推定底径11.0cm、縦位LR、縦位集合沈線を施す。	五頭ヶ台式
第9-15回 PL.106	1	弥生土器 深鉢か盤 体部片	1号土坑 底面~5cm 体部片		外面に縦位の細かく浅い条痕。内面はナデカ付ミガキ。/磁磚～細砂含む/にぶい黄褐色 10YR7/4	器面荒れる。	
第9-15回 PL.106	2	弥生土器 深鉢か盤	1号土坑 底面 体部片		外面に縦位の細かく浅い条痕。内面は荒れて不明。/磁磚～細砂含む/にぶい黄褐色 10YR7/4		9-15回1と同一個体と思われる。
第9-15回 PL.106	3	弥生土器 深鉢か盤	1号土坑 底面~3~8cm 体部下片		外面に縦位の細かく浅い条痕。内面はケズリ後ナデカ。/磁磚～細砂含む/にぶい白 7.5YR7/4		9-15回1・2と同一個体と思われる。
第9-15回 PL.106	4	弥生土器 深鉢か盤	1号土坑 底面 体部片		外面に縦位の細かく浅い条痕。内面は荒れて不明。/磁磚～細砂含む/にぶい黄褐色 10YR7/4		9-15回1~3と同一個体と思われる。弥生中期初期前後。
第9-15回 PL.106	5	弥生土器 深鉢か盤	1号土坑 底面 体部片		外面に縦位の細かく浅い条痕。内面は荒れて不明。/磁磚～細砂含む/にぶい黄褐色 10YR7/4		9-15回1~4と同一個体と思われる。弥生中期初期前後。
第9-15回 PL.106	6	(縄文土器) 鉢	1号土坑 理段下 口縁片		口縁に小さな突起。外面に横位浅観、内面に浅く横位沈線をめぐらす。無文部はミガキ。/粗/細砂含む/粗 7.5YR6/6		縄文晚期後葉～弥生中期初期頭。
第9-15回 PL.106	7	弥生土器 深鉢か盤	1号土坑 底面 底部片	底 7.0	内外面ともミガキ。/磁磚～細砂含む/粗 7.5YR6/6	縫辺に被熱赤変。	弥生中期初期頭前後。
第9-15回 PL.106	8	弥生土器 深鉢か盤	2号土坑 底面 体部片		器面荒れ、一次整形のケズリ痕残す。/磁磚～細砂含む/粗 7.5YR7/6		弥生中期初期頭前後。
第9-15回 PL.106	9	弥生土器 深鉢か盤	2号土坑 底面 体部片		外面にミガキらしき痕跡残すが、不明瞭。一次整形のケズリ痕残す。/磁磚～細砂含む/にぶい黄褐色 10YR7/4		9-15回8と同一個体と思われる。弥生中期初期前後。
第9-15回 PL.106	10	弥生土器 深鉢か盤	2号土坑 底面 体部片		内面にミガキらしき痕跡残すが、不明瞭。一次整形のケズリ痕残す。/磁磚～細砂含む/粗 7.5YR6/6		9-15回8と同一個体と思われる。弥生中期初期頭前後。

遺物觀察表

種類 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値	断上・焼成・色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第9-15B PL.106	11	弥生土器 蓋か覆	2号土坑 理没上 体部片		外面に縦かく斜条痕、内面はケズ リ後一部ミガキ。/縫隙多い/浅黄 橙 10YR8/3		弥生中期初頭 前後。
第9-15B PL.106	12	弥生土器 蓋	2号土坑 底面 体部片		外面に縫文(L)。内面にミガキ。/ 粗砂主体/浅黄橙 10YR8/3		弥生中期初頭 前後。
第9-15B PL.106	13	弥生土器 費	2号土坑 底面 体部片		外面に縫文(L)。内面にミガキ。/ 粗砂主体/浅黄橙 10YR8/3		9-16回12と同 一側体と思わ れる。弥生中 期初頭前後。
第9-15B PL.106	14	弥生土器 (蓋)	2号土坑 底面 口部片		口唇部に小さな山形突起。頭部に1 条の横位散痕をめぐらし、肩部に 「」字文あるいは三角連繁文状の沈 縫文を描く。/縫隙多い/淡黄 橙 2,5YR8/3		沈縫文現か るが16回16・ 17・22に類似。 弥生中期初頭 前後。
第9-15B PL.106	15	弥生土器 蓋か広口短頭 直	2号土坑 底面+6cm 口部片		口縁上端外側に横位沈縫をめぐら し、頭部は段状。/縫隙多い/浅黄 橙 10YR8/4		弥生中期初頭 前後。
第9-15B PL.106	16	弥生土器 (蓋)	2号土坑 底面+7cm 体部片		上位に横位沈縫。下位に縦長い瘤 円状の沈縫文をめぐらす。/縫隙多 い/浅黄橙 7,5YR8/4		弥生中期初頭 前後。
第9-15B PL.106	17	弥生土器 (蓋)	2号土坑 底面 体部片		波状か「」字文状の沈縫をめぐらす。 /縫隙多い/浅黄橙 7,5YR8/4		弥生中期初頭 前後。
第9-15B PL.106	18	弥生土器 (蓋)	2号土坑 底面 体部片		端部の上がった瘤状文ふうの沈縫 文をめぐらす。/縫隙多い/浅黄橙 10YR8/4		弥生中期初頭 前後。
第9-15B PL.106	19	弥生土器 (蓋)	2号土坑 底面+7cm 体部片		やや太い沈縫で端部の上がる横線 をめぐらす。網目文風の構成か。/ 粗砂～縫隙含む/浅黄橙 10YR8/4		弥生中期初頭 前後。
第9-15B PL.106	20	弥生土器 蓋か広口短頭 直	2号土坑 底面 口縁片		口唇下外面に横位沈縫をめぐらす。 /粗砂～縫隙含む/浅黄橙 10YR8/4		弥生中期初頭 前後。
第9-15B PL.106	21	弥生土器 (蓋)	2号土坑 理没上 体部片		上位に横位。下位に弧線状の沈縫 をめぐらす。三角連繁文や網状文 ふうの文様構成か。/粗砂～縫隙含 む/浅黄橙 10YR8/4		弥生中期初頭 前後。
第9-15B PL.106	22	弥生土器 (蓋)	2号土坑 底面 体部上位片		頸部に横位沈縫をめぐらし、下位 に横位縫線と斜位を下沈縫を描く。/ 粗砂～縫隙含む/浅黄橙 10YR8/4		9-16回16・17 に類似する。 弥生中期初頭 前後。
第9-15B PL.106	23	弥生土器 深鉢	10号土坑 底面+10cm 口縁片		口唇に斜刻み。内面は丁寧なナデ。 /白色散物(長石、岩片)の縫隙目立 つ/にぶい黄橙 10YR6/3		弥生中期初頭 前後。
第9-15B PL.106	24	(弥生土器) 深鉢	2面一括 口縁片		小さな波状口縁で端部は外彎する 面取り。口縁外側を肥厚させ、横 位の細かい条痕を施す。外面無文 部にミガキ。/粗砂～縫隙含む/にぶ い黄橙 10YR7/4		縫文晚期後葉 ～弥生中期初 頭。
第9-15B PL.106	25	(弥生土器) 深鉢	2面一括 体部片		沈縫による弧文。下位は横位地沈 縫で施し、弱かい横位条痕を施す。 /縫隙～粗砂多い/にぶい黄橙 7,5YR8/4		縫文晚期後葉 ～弥生中期初 頭。

第9-6表 未掲載遺物

遺構番号	遺構種	土器片数	時代・時期等
1	土坑	43	弥生中期初頭前後
2	土坑	46	弥生中期初頭前後
10	土坑	8	弥生中期初頭前後
3	溝	1	弥生中期初頭前後
	遺構外一括	6	弥生中期初頭前後
	1面	5	中世常滑陶器
	2面	2	中世常滑陶器

第10章 上原Ⅱ遺跡(2)

1 調査に至る経緯と経過

上原Ⅱ遺跡(以下、本遺跡)に対する発掘調査は、平成16年度に実施された押手沢砂防ダム工事用進入路工事に伴う発掘調査を嚆矢とする。発掘調査は、その開始に先立ち国土交通省、当事業団による立ち会いを行い、調査範囲の確認、日程等の確認を行い、平成16年7月26日から同28日にかけて実施された。本章はこの調査結果を記載する。

なお、平成18年度には町営土地改良事業に伴う試掘調査が行われた。この調査は平成16年度の調査対象地の南に広がる地域を調査範囲とするものである。長野原町教育委員会による平成19年3月1日から同20日にかけて実施された試掘調査の結果、縄文時代の土坑や包含層が検出され、本調査が実施されることとなった。本調査は平成23年5月20日から同9月28日にかけて、長野原町教育委員会により実施され、縄文時代の堅穴建物2棟、土坑44基、焼土遺構5基、平安時代の陥穴3基、近世の土坑墓2基などが検出された。その成果は「長野原町教育委員会2015『林地区遺跡群』長野原町埋蔵文化財調査報告

30」として公刊されている。

2 遺跡の概要

本遺跡は、群馬県北部の吾妻郡長野原町大字林字上原に所在する。長野原町林地区は長野原町の北東部にあり、町を横切り東流する吾妻川の左岸に位置する。本遺跡は吾妻川の最上位段丘面の後背をなす山地斜面が、南の渓谷に向かい扇状に開けた、扇の付け根近くに位置する集落遺跡である。遺跡は山地斜面から流れ下る押手沢左岸に位置し、標高はおよそ693mである。

押手沢対岸、本遺跡のやや上流寄りに位置する上原Ⅲ遺跡からは、鍛冶工房を含む平安時代の集落が確認されている。また本遺跡の南、下位の段丘面に占地する林花畠遺跡、上原Ⅰ遺跡、上原Ⅳ遺跡、林中原Ⅰ・Ⅱ遺跡などからは、縄文時代を中心とした遺構密度の濃い集落遺跡が確認されている。

3 調査の経過と成果

平成16年7月26日より発掘調査に着手し、調査区全体



第10-1図 遺跡位置図

第10章 上原Ⅱ遺跡(2)

を複う形でのグリッド設定を行った。本遺跡は37地区14~15区に帰属する。なお、表土除去作業は掘削機械を使用して行い、表土除去後の各作業は発掘作業員による手作業で行った。

本調査区は遺跡北端のごく一部であり、また山際でもあることから遺構が薄いことが想定されていた。調査に際しては東西方向に2つのトレンチを設定し、遺構の確認を行った。

その結果、遺構、遺物とともに検出されなかった。平成16年7月28日、発掘調査を行ったトレンチを埋め戻し、調査を終了した。なおトレンチのセクション面から、旧地形は東側に向かい緩やかに下ることが確認された。



上原Ⅱ遺跡調査前状況



1, 2号トレンチ埋め戻し後の状況



第10-2図 調査区の設定



第10-3図 上原Ⅱ遺跡調査範囲